
2022年度 前期

2.0単位

Communication studies (色彩コミュニケーション入門)

仁科 恭徳

< 授業の方法 >

オンライン授業(学生によるプレゼン、課題提出など、オンデマンド型が中心)

特別警報(すべての特別警報)または暴風警報発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目の取扱いについて 授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

仁科恭徳 <ynishina@gc.kobegakuin.ac.jp>

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも「2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」と「3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的とし、様々な日常場面で目にする色彩の謎を紐解く。特に、服装や企業イメージ、商品など、色彩が人々に多大な心理的効果をもたらすことを事例研究と共に学ぶ。

< 到達目標 >

- ・ノン・バーバル・コミュニケーションとは何かを学ぶ。
- ・色彩心理学の基礎を学ぶ。
- ・様々な事例から、実践的な色彩コミュニケーションのストラテジーを学ぶ。
- ・最新の研究論文から、最新の色彩効果に関して学ぶ。

< 授業のキーワード >

ノン・バーバル・コミュニケーション、色彩心理学

< 授業の進め方 >

講義、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションなど

< 履修するにあたって >

既習事項の復習を繰り返し定着をはかること。十分に準備をして小テスト・確認テストを受けること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

レポートを課すことがある。この場合、教員が示す提出締切期限を必ず守ること。提出課題に対するフィードバックは、授業内外で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度(30%)、小テスト・確認テスト・レポー

トなど(70%)。

< テキスト >

色彩心理のすべてがわかる本(ナツメ社)

< 授業計画 >

第1回 Introduction

授業の概要説明(ねらい、評価方法など)、ウォームアップアクティビティなど

第2回 Color and Communication 1

色彩学と色彩心理(テキスト) / ノン・バーバル・コミュニケーション、ニュートン、ライト・トーンス値、五感など(スライド講義)

第3回 Color and Communication 2

心理学と色彩心理、フロイトとユングの役割(テキスト) / カラー・イメージ、色の歴史、人の色彩嗜好に関して(スライド講義)

第4回 Color and Communication 3

色とは何か、色を感じるメカニズム(テキスト) / 進出色、後退色、色と社会など(スライド講義)

第5回 Color and Communication 4

知っておきたい色の基礎知識、色が見え方に与える影響(テキスト) / 色とマーケティング、国旗の色に関して(スライド講義)

第6回 Review 1

復習1、レポート1提出、確認テスト1など

第7回 Color and Communication 5

色が呼び起こす感覚・感情、色彩と心理テスト(テキスト) / 初頭効果、確証バイアス、メラビアン法則、ユニフォーム効果、ハロー効果など(スライド講義)

第8回 Color and Communication 6

描画の中の色、色彩と芸術療法(テキスト) / 色・匂い・空間がもたらす心理的効果、自己確認・客観視、座席位置、イエスのメンタルセットなど(スライド講義)

第9回 Color and Communication 7

各色のイメージ1(テキスト) / 流行色、ウィンザー効果、ドア・イン・ザ・フェイス、ゼイガルニク効果、認知的不協和、ギャップ効果、パーソナルスペースなど(スライド講義)

第10回 Color and Communication 8

各色のイメージ2(テキスト) / 色と性格、ファッションの心理、身体像境界、しぐさの心理など(スライド講義)

第11回 Review 2

復習2、レポート2提出、確認テスト2など

第12回 Color and Communication 9 + Latest Journal Article 1

色の好みに影響を与えるもの、ファッションの色が与える印象(テキスト) / The evolution of color in design from 1950s to today(論文輪読・プレゼン)

第13回 Color and Communication 10 + Latest Journal Article 2

選挙に学ぶ色彩戦略、企業のイメージ戦略（テキスト） / The relationship between consumer color preferences and product-color choices（論文輪読・プレゼン）

第14回 Color and Communication 11 + Latest Journal Article 3

環境の色が人に与える影響、色による快適な環境づくり、青い証明の効果を再検証（テキスト） / Turn a color with emotion: a linguistic construction of color in English（論文輪読・プレゼン）

第15回 Review 3

復習3、レポート3提出、確認テスト3など

2022年度 後期

2.0単位

Communication studies（音声学入門）

中西 のりこ

< 授業の方法 >

資料配布の場所は： {GCsquare, <http://gcsquare.kobegakuin.ac.jp/>}

< 授業の目的 >

英語音声学の基礎を身につけると同時に、音響分析の基礎知識を習得することを目的とする。この科目はディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」と関連している。

< 到達目標 >

受講生は英語音声学の基本的概念を説明できるようになる。

受講生は英語音声の音響分析をすることができるようになる。

< 授業のキーワード >

英語音声学・英語発音・音響分析

< 授業の進め方 >

すべての授業回において、授業内と授業外の提出課題があります。

第14、15回目の最終発表は、第1回～第10回の授業で提出した自分自身の課題の内容が元になります。やむを得ず欠席した授業回の課題については各自の責任で挽回してください。

< 履修するにあたって >

非常に多くの課題が課されます。

初回授業時で全体の授業方針についての説明をしますので必ず出席してください。

配布資料や提出課題についての指示はすべてGCsquare上

で行います。

各自のPCで以下のサイトにアクセスできることが必須です。

* {GCsquare, <http://gcsquare.kobegakuin.ac.jp/>}

* {Phoneme Counter, <https://noriko-nakanishi.com/phoneme/>}

* {Speech Saver, <https://noriko-nakanishi.com/speech/>}

* {Praat, <https://www.fon.hum.uva.nl/praat/>}

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外に必要な学修時間の目安は週1時間です。

< 提出課題など >

授業内外での提出課題はすべてGCsquare上の指示に従うこと。（メール添付での提出は受理しません。）

提出課題に対するフィードバックはすべてGCsquare上で行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業内での活動 30%、提出課題 40%、最終発表 20%、Versantテスト 10%

< テキスト >

・中西のりこ. (2022). 『カタカナ語からはじめる英語の発音』 ひつじ書房.

ISBN: 978-4894769915

・北原真冬, 田嶋圭一 他 (2017). 『音声学を学ぶ人のためのPraat入門』 ひつじ書房.

ISBN: 978-4894768710

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

科目の概要・課題提出の方法について理解する。Praatを用いてできることの概要を把握する。

第2回 p. 13-37

辞書の発音表記

IPA と 英和辞書・英英辞書で用いられている発音記号の違いを理解し、各母音・子音のスペクトログラムがどのように見えるか把握する。

第3回 p. 38-40, 49-65

母音

母音の発音記号と母音四角形上の位置とF1, F2値との関係を理解する。

第4回 p. 41-43, 66-75

二重母音

二重母音・R音性母音の発音記号と母音四角形上の位置とF1, F2値との関係を理解する。

第5回 p. 44-45, 76-89

障害音

閉鎖音・摩擦音の発音記号と子音表での位置関係と、それぞれの子音がスペクトログラム上どのように表れるかを理解する。

第6回 p. 44-45, 90-105

共鳴音

鼻音・側音・半母音の発音記号と子音表での位置関係と、それぞれの子音がスペクトログラム上どのように表れるかを理解する。

第7回 p. 46-48, 102-105

子音クラスター

子音クラスターをなす音素配列について理解し、それぞれの分節音がスペクトログラム上どのように表れるかを理解する。

第8回 p. 106-112

連続音声

連結・脱落・同化がどのような環境で起こるのか理解し、それぞれの現象がスペクトログラム上どのように表れるかを理解する。

第9回 p. 113-118

語強勢・文強勢

語強勢の置き方・内容語/機能語の概念を理解し、強勢が置かれる音節の pitch, intensity, duration がどのように表れるかを理解する。

第10回 p. 119-124

イントネーション

ピッチとイントネーションの概念を把握し、ピッチ変化がPraat上でどのように表れるかを理解する。

第11回 p. 125-135

発表準備1

特定の音素もしくは分節音に注目し、Praatを用いて分析する。

第12回 p. 136-145

発表準備2

特定の連続音声に注目し、Praatを用いて分析する。

第13回 p. 146-155

発表準備3

プロソディのうち特定の現象に注目し、Praatを用いて分析する。

第14回 発表1

受講生の発表動画を観てフィードバック活動を行う。

第15回 発表2

受講生の発表動画を観てフィードバック活動を行う。

2022年度 前期

2.0単位

Global business (エアライン・サービス論)

為村 啓二

< 授業の方法 >

パワーポイントを使った講義形式で授業を進める。
毎回の授業の終わりに、理解度を把握するために小レポートを課す。

特別警報(すべての特別警報)または暴風警報発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目の取扱いについて 授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

< 授業の目的 >

本講義科目は、ディプロマポリシーの中でも「3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的としている。

航空業界の業務全般を学ぶ事により、その役割を理解しそれぞれの業務の重要性を学習する。

なお、この授業の担当者は、外資系航空会社で営業、マーケティング業務を30年以上経験している、実務経験のある教員であるので、より実践的な観点からエアラインサービスの現状について解説出来る。

< 到達目標 >

1) エアラインが行っている様々なサービスを学ぶ事ができるようにする。

2) 航空業界の現状について最新の情報を得て、業界を理解する事が出来る。

3) 航空業界が抱えている問題、課題を理解する事が出来る。

4) これからの航空産業の役割を理解する事が出来る。

< 授業のキーワード >

航空産業 グランドハンドリング 客室乗務員 マーケティング

< 授業の進め方 >

インタラクティブな講義形式の授業を行います。その為には授業内容に関する質問に答えたり、関連する事柄についての質問等を積極的に行い、授業に参加することが求められます。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で学習した内容を必ず1時間ほど復習して下さい。また、課題を出した際には必ず予習として事前学習が必要となります。

< 成績評価方法・基準 >

授業への積極的参加や取り組み、提出課題などを総合して評価します。

授業への参加、課題、感想など60% レポート 40%

< テキスト >

特にありません

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業履修にあたっての説明

第2回 航空業界の概要

航空産業の特徴と枠組みを解説する。

第3回 航空輸送とその発展の歴史

航空産業がこれまでいかに公共サービスを提供してきた

かを歴史的に検証する。

第4回 日本の航空輸送の歴史 1

日本の民間航空輸送の歴史は戦前北東アジアを中心に始まった。その後大戦を経て徐々に世界へと広がっていった。その間GHQの目論みや日本政府がとった航空行政を振り返る。

第5回 日本の航空輸送の歴史 2

戦後徐々に発展してきた航空産業も1985年に航空憲法の廃止と共に大きく舵を切ることになる。規制緩和により航空輸送事業も新しい時代を迎え、自由化と競争が日本の航空産業を大きく発展させてゆく。

第6回 空港の機能 1

航空機の離着陸を始め、空港は様々な機能を有している。旅客の乗降やセキュリティ、CIQなど港に関わる様々な施設がある。また、航空機の飛行に必要な設備についても幅広く学ぶ。

第7回 航空機の設備と機能

航空機は単に旅客を目的地に運ぶ輸送機としての役割以外に様々な設備を有している。これらの設備の内容とその目的を学ぶ。

第8回 グランドハンドリング 1

空港での旅客、貨物に関わる一般的な業務を行うグランドハンドリング業務について解説する。この回では主に旅客に関わる、搭乗手続きなどの業務を中心に旅客関連に携わっている業務全般について解説する。

第9回 グランドハンドリング 2

一般的には旅客が直接見ることができない様々な業務について解説する。貨物、整備、ケータリング、給油など運航に携わっている重要な業務について解説する。

第10回 客室乗務員

客室乗務員の仕事は単に機内での顧客に対するサービスにとどまらず、様々な役割を持っている。この授業では客室乗務員の仕事全般について詳しく解説する。

第11回 パイロット

航空機の安全運航に携わる重要な職種であるパイロットについて学習する。パイロットの職務、適正、免許制度や勤務内容についても解説する。

第12回 営業・予約・マーケティングの仕事

航空会社の運営に重要な地上勤務について学習する。航空券の販売、予約サービス、広告、宣伝など多岐にわたる航空会社の実態について詳しく解説する。

第13回 航空安全対策 1

航空機、地上、パイロット、CAなどそれぞれの組織が連携して安全な運行が可能となっている。その実態をそれぞれの役割と共に解説する。

第14回 航空管制業務・航空関連用語

航空管制の仕事について詳しく学習すると共に、航空

業界で使用する専門用語について詳しく解説する。

第15回 総括

これまで学んできたことを総合的に解説し、航空サービス全般についての総括を行うと共に最終レポートの作成を行う。

2022年度 後期

2.0単位

Global business (観光学入門)

森下 美和

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

本講義科目は、ディプロマポリシーの中でも「3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的としている。

観光学は学際的学問とされているが、本講義では、社会学・言語学・心理学の観点も交えて観光学の基礎を学ぶ。授業の担当者は、通訳案内士の実務経験を持つため、より実践的な観点から観光について解説できる。関連分野の研究者や観光関連業界からゲストスピーカーを招くこともある。

<到達目標>

講義内容および自身のリサーチやプレゼンテーションを通して、さまざまな角度から観光学について理解を深めることができる。

<授業のキーワード>

ツーリズム 観光開発 言語景観

<授業の進め方>

講義形式の授業ですが、リサーチやプレゼンテーションを通して実践的に学びます。

<授業時間外に必要な学修>

授業で学習した内容を、毎回必ず1時間ほど復習して下さい。また、プレゼンテーションに関する準備やリサーチの時間も必要です。

<成績評価方法・基準>

授業への積極的参加や取り組み、提出課題などを総合して評価します。

授業への参加、課題、感想など：60%、プレゼンテーション：40%

<テキスト>

授業の中で適宜紹介します。

<参考図書>

デービッド・アトキンソン「世界一訪りたい日本のつくりかた」(東洋経済新報社) ほか

<授業計画>

第1回 イントロダクション

授業の進め方、プレゼンテーション大会などについて説明する。

第2回 インバウンドとアウトバウンド

インバウンドとアウトバウンドについて、さまざまな例を挙げて説明する。

第3回 地域活性化プロジェクト

主に日本国内で実施されている地域活性化プロジェクトについて紹介する。

第4回 兵庫県・神戸市の取り組み

地域活性化プロジェクトの中でも、兵庫県・神戸市の取り組みについて詳しく説明する。

第5回 日本の言語景観

街頭、公共施設、店舗などに見られる言語表記や音声について学ぶ。

第6回 海外の言語景観

街頭、公共施設、店舗などに見られる言語表記や音声について学ぶ。

第7回 中間プレゼンテーション大会

これまでに学んだことについてグループ内でプレゼンテーションを行う。

第8回 ニューツーリズムの振興

テーマ性を持った新しい観光について、例を挙げながら詳しく説明する。

第9回 観光開発

主に日本における観光開発事業について、例を挙げながら詳しく説明する。

第10回 観光情報

さまざまなガイドマップ・アプリなどについて紹介する。

第11回 ホスピタリティ

観光には欠かせないホスピタリティの考え方について解説する。

第12回 観光業界の仕事1

添乗員・通訳案内士について解説する。

第13回 観光業界の仕事2

ホテル・旅行業界について解説する。

第14回 期末プレゼンテーション大会

これまでに学んだことについてグループ内でプレゼンテーションを行う。

第15回 講評・まとめ

授業のまとめを行う。

2022年度 後期

2.0単位

Global business (航空産業論)

為村 啓二

< 授業の方法 >

パワーポイントを使った講義形式で授業を進める。
毎回の授業の終わりに、理解度を把握するために小レポートを課す。

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて 授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

< 授業の目的 >

本講義科目は、ディプロマポリシーの中でも「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的としている。

航空産業の歴史を学習しその特性を学び、航空産業が果たした役割をりかし、これからの航空業界が抱える課題・問題点を検証する。

なお、この授業の担当者は、外資系航空会社で営業、マーケティング業務を30年以上経験している、実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から航空業界の現状について解説出来る。

< 到達目標 >

1) 航空業界の歴史を学び航空業界が果たした役割をりかする事が出来る。

2) 航空業界を支える機関や取り巻く企業を学習し、業界全体を理解出来るようになる。

3) 航空業界の経営と戦略を理解する事が出来るようになる。

4) 新しい時代の航空産業が抱える問題・課題を理解出来るようになる。

< 授業の進め方 >

インタラクティブな講義形式の授業を行います。その為には予習・復習は勿論の事、自身の考えをまとめ発表する事が必要とされます。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で学習した内容を必ず1時間ほど復習して下さい。また、課題を出した際には必ず予習として事前学習が必要となります。

< 成績評価方法・基準 >

授業への積極的参加や取り組み、提出課題などを総合して評価します。

授業への参加、課題、感想など60% レポート 40%

< テキスト >

適宜授業内で案内します

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方、採点方法などを説明します。

第2回 航空輸送の歴史

航空輸送の歴史を航空機の発展と世界情勢の変化を関連付けて解説をする。

第3回 航空関連機関

IATAやICAOなど航空関連の世界機関の目的、役割を学習する。

第4回 航空輸送の推移

航空業界がこれまでどのように発展を遂げたかについて数字を基に検証する

第5回 規制緩和と航空政策

国際航空規制緩和はアメリカで始まり、その波はヨーロッパそして世界に広がりを見せた。

第6回 航空会社の戦略と経営 1

航空会社が経営戦略を立てるために航空輸送業の持つ特性を分析することが重要である。

その特性を生かした様々な戦略を詳しく解説する。一回目はCS、ブランド戦略を中心に学習する。

第7回 航空会社の戦略と経営 2

航空会社の収益に直結する重要なレベニュー・マネジメントについて検証する。その中核にあるプライシング、ディストリビューション・ポリシーなどを学習する。

第8回 ネットワーク戦略

メガキャリアは世界中のハブ空港を拠点に、縦横無尽の国際ネットワークを構築している。効率的な運行を可能とするメガキャリアのネットワーク戦略を考察する。

第9回 FFP戦略

航空会社が顧客の囲い込み戦略として登場したFFPは航空会社内に留まらず、他業種を巻き込んでデータベースマーケティングの一環として発展している。FFPの戦略を中心とした航空会社のマーケティングを検証する。

第10回 CRS戦略

航空会社の一予約システムとしてスタートしたコンピューター予約システムは、その後旅行代理店と世界中の航空会社とを結ぶツールとして大きく発展してきた。予約システムの発展の歴史を検証し、現在のグローバル予約システムとなったその背景を学習する。

第11回 エアラインマーケティング

インターネットの普及でこれまで行っていたマスでの広報、広告活動は変化している。また、FFPなどの広がりにより個々の顧客に対する個別のアプローチも可能となった。新しい時代のマーケティングを検証する。

第12回 グローバルアライアンス

オープンスカイ協定が進む中、航空会社間の関係も時代の変化とともに変革する。他国の航空会社との間で商業的協力がアライアンス関係へと発展し、世界中のほとんどのメガキャリアは世界三大アライアンスに属するようになり、新たな航空会社の戦略となる。

第13回 FSCとLCC

フルサービスを提供するFSCと近年低料金を実現するLCCとが存在する。それぞれの航空会社の運営形態の違いやその特徴を詳しく解説する。

第14回 航空輸送産業の課題

戦後目覚ましい発展を遂げてきた航空産業は幾度かの危機を乗り越え今日の規模まで成長した。しかしながら、

環境問題、パイロット問題、空港問題、感染症問題と様々な問題を抱えている。これらの問題の本質を検証するとともに、対応策を学習する。

第15回 総括

これまで学んだ航空産業界全体を総合的に総括する。また、これまでに触れてこなかった点や様々な疑問について解説する。

2022年度 後期

2.0単位

Global business (Introduction to the European Union)

荒島 千鶴

< 授業の方法 >

lecture

< 授業の目的 >

この科目は、ディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的としている。

< 到達目標 >

Students can explain the mechanism of the EU.

Students can explain the history of the EU.

Students can explain the policies of the EU.

< 授業のキーワード >

EU

< 授業の進め方 >

Students may be asked questions during classes.

Students may be asked to discuss in a small group.

< 履修するにあたって >

Read the relevant pages of the textbook before you attend each class.

Visit regularly the website of the Delegation of the European Union to Japan {https://eeas.europa.eu/delegations/japan_ja} and that of the European Union {https://european-union.europa.eu/index_en} .

< 授業時間外に必要な学修 >

Read the relevant pages of the textbook before (1 hour) and after (1 hour) you attend each class.

< 提出課題など >

Answers to the quizzes and comments by the teacher will be delivered in the next class.

< 成績評価方法・基準 >

quizzes (15X5%) 75%, active participation in class 25%

< テキスト >

John Pinder & Simon Usherwood, "THE EUROPEAN UNION A Very Short Introduction", Oxford University Pre

ss, 2013.

< 授業計画 >

第1回 Purposes of the EU

What the EU is for

第2回 History of the EU 1

How the EU is made 1

第3回 History of the EU 2

How the EU is made 2

第4回 The mechanism of the EU 1

How the EU is governed 1

第5回 The mechanism of the EU 2

How the EU is governed 2

第6回 The policies of the EU 1

Single market, single currency

第7回 The policies of the EU 2

Agriculture, regions, budget: conflicts over who gets what

第8回 The policies of the EU 3

Social policy, environmental policy

第9回 The policies of the EU 4

'An area of freedom, security, and justice'

第10回 Citizens of the EU

A great civilian power...and more, or less?

第11回 The EU in Europe

The EU and the rest of Europe

第12回 The EU in the world 1

The EU in the world 1

第13回 The EU in the world 2

The EU in the world 2

第14回 The future of the EU

Much accomplished...but what next?

第15回

Reflection

2022年度 前期

2.0単位

Human studies (思考と感情の処世術)

Krieg, Alexander William

< 授業の方法 >

講義、演習、実技

< 授業の目的 >

自分の思考や感情と向き合い、理解するとはどういうことか。心理学の理論をどのように応用したら、人生に生かせるだろうか。本講義では、応用臨床心理学の分野におけるこのような根本的な質問を取り上げ、我々のこころの機能と行動、それらと環境との関わり、そして情動の性質などについて学ぶ。経験主体がベースの分野であるため、アクティビティやマインドフルネスのエクササイズを数多く取り入れ、日常生活の中で経験する様々な

情動・思考パターンとの向き合い方を体得する。心理的柔軟性および自身にとって大切な価値へのコミットメントを促しつつ、家庭や学校や社会において発揮できるスキルを培う。

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができる ことを目的としている。

< 到達目標 >

1. 自身の思考や感情、行動を意識して観察することができる
2. 思考や言動の機能に気づき、有用性を見極めることができる
3. 認知的なバイアスと言語との関連について具体的な例を挙げることができる
4. 自らの行動の原因と結果について理解し、言語化できる
5. 文化ナラティブの恣意性とその発達について理解している

6. 数理的論法とマインドフルネスの方策を用いて自身の認知バイアスを認識し、適切に対処することができる

< 授業のキーワード >

心理学、言語と認知の関係、心との付き合い方、マインドフルネス・スキル

< 授業の進め方 >

授業中課題、講義、マインドフルネスのアクティビティ、リーディング、リフレクション・エッセイ、ワークシート、ディスカッション

< 履修するにあたって >

本コースへの参加方法は、GCsquare上に記載します

< 授業時間外に必要な学修 >

授業前のリーディング、授業後のリフレクションやエッセイ作成に最低1時間を必要とする。

< 提出課題など >

テキストからのワークシート、リフレクション・エッセイ。フィードバックは授業内で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

質問書(2点x15回 = 30%)、ワークシート(2.5点x24回 = 60%)

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

教室内で指示する

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

講義：コース概要・課題の説明

授業中課題：ACTのマトリックス

第2回 言語の進化

講義：言語が必要になった理由は？
授業中課題：ニード・アクティビティ
第3回 関係フレーム理論
講義：関係フレーム理論（初回）
授業中課題：社会的ソートタスク；ランダム3語アクティビティ；視点変化の質問
第4回 文脈としての自己理解
講義：「私」ってどんな人？
授業中課題：20の声明テスト；チーズボードのたとえ
第5回 言語の強みと弱み
講義：言語は思考にどのように影響するか
授業中課題：ランダム3語アクティビティ；思考逃避アクティビティ
第6回 人がよく使う回避のし方
講義：回避のストラテジー
授業中課題：痛みとの付き合い方のアクティビティ；綱引き
第7回 マインドフルネスの初回
講義：マインドフルネスのやり方
授業中課題 マインドフルネスのアクティビティ
第8回 認知的な脱フュージョンPt. 1
講義：品種とネガティブの反芻の関係
授業中課題：反芻の品種ワークシート
第9回 認知的な脱フュージョンPt. 2
講義：認知的な脱フュージョンの方法
授業中課題：アイスキューブ・アクティビティ
第10回 受容と意志
講義：受け入れるために必要なこと
授業中課題：Finger trapのアクティビティ
第11回 価値観
講義：価値観とは？
授業中課題：価値観カードソート
第12回 目標に向かっての行動
講義：SMARTゴールの作成のために
授業中課題：意志とアクションのワークシート
第13回 ACTのまとめ
講義：ACTに関する質問
授業中課題：バスのたとえ話、DAVAカード
第14回 ナラティブに名をつける
講義：自己のストーリーを作成する
授業中課題：ワークブックの作成
第15回 リフレクション
講義：コースのまとめと感想
授業中課題：コースの感想；MPFIデータのディスカッション

2022年度 後期

2.0単位

Human studies (Experimental Psychology)

大竹 翔子

< 授業の方法 >

講義、演習、実技

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用ができる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる ことを目的としている。

人間の心理について実験する時、どのような疑問から始まり、それがどういう風の実験の計画やデータ収集につながり、どのような結論に至るのだろうか。本講義では、実験心理学の基礎となる理論と方法について英語で学ぶ。学びを深めるために講義、クラス内ディスカッション、そしてミニ実験などをクラス内で行う。

授業後半には学生が自分のミニ実験を計画し、お互いを対象として実験を行う。これを通じて学生たちは英語コミュニケーション、計画性など家庭や学校や社会において発揮できるスキルを培う。

< 到達目標 >

1. Students will be able to learn about the core concepts behind experimental psychology, and use them as a way of thinking about the world.
2. Students will learn about the process that builds up to an actual psychology experiment
3. Students will gain an understanding of various types of experiments, as well as ethical issues in psychological research.
4. Students will gain the communicative and organizational skills in English that are needed in order to complete their own research project.

< 授業のキーワード >

心理、実験、英語、アクティブラーニング

< 授業の進め方 >

For the first half of the semester, information will be given in lecture style, where students will be asked to take notes and write short reports using designated worksheets. In the second half, students will propose and design their own research project, which will be conducted with other members of the course.

< 履修するにあたって >

この授業は海外留学をすでに済ませた3回生と4回生が対象となるため、すべて英語で進める。また、クラス内活動がとて重要な授業であるため、ほぼ全ての授業に出席してアクティブに参加したくない学生は履修しないこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

Students will need to study for at least one hour per week outside of class. This work includes any kind of background research and work necessary for their individual research projects.

< 提出課題など >

Students will be required to turn in their notes and other short reports in every class. For each part of their individual projects, they will be given feedback each week, and be required to create their experiment based on this feedback.

< 成績評価方法・基準 >

Evaluation: In-class-notes/report (50%), Final project (40%), Participation (10%)

< テキスト >

なし。必要資料はGCsquare上で配布する。

< 授業計画 >

第1回 Introduction

Introduction to psychological experiments, and course aims

第2回 Hypothesis

What is a "hypothesis"? How can you test it?

第3回 Designing

How do you design an experiment?

第4回 Research ethics

What should you NOT do in an experiment? Lessons from the past

第5回 Data

How can you measure your data?

第6回 Types of research

What are some types of experiments?

第7回 Interpreting results

What do the numbers tell you?

第8回 Discussing results

So, what was the point of that experiment?

第9回 Limitations of results

Why is an experiment never perfect? How can you make it better in the future?

第10回 Student project (week 1)

Proposing student research projects

第11回 Student project (week 2)

Designing student research projects

第12回 Student project (week 3)

Conducting student research projects

第13回 Student project (week 4)

Interpreting results of student research projects
第14回 Student project (week 5)

Draft of report of student research projects

第15回 Student project (week 6)

Hand in final report of student research projects

2022年度 後期

2.0単位

Human studies (I and You)

Krieg, Alexander William

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

重要：このコースはすべて大学レベルの英語で行われます。このクラスを受講生はTOEIC700点を取得することを推奨します。

"Who am I?", "How do I know what I want?", "Why can't I make up my mind?", "How do I learn more about myself?" There are countless questions that we, as human beings, ask ourselves about ourselves. Likewise, there are a myriad of ways that we seek to understand those around us. In Human Studies III: "I and You" we will explore different ways of understanding ourselves in relation to others through the lens of psychology. We will cover important theorists such as Freud, Jung, Buber, Klein, Winnicott as well as review more modern investigations into "self-hood" such as Relational Frame Theory (RFT). This lecture series is interactive, and students will be answering questions, participating in discussions, and completing in-class assignments in addition to their weekly homework. It is my hope that students end the semester with a better understanding of the various ways to understand who they are as well as an appreciation for how they uniquely relate to others.

Additionally, this course is designed to be an immersive cultural experience, as it centers around Western psychology and philosophy and taught 100% in college-level English. This is an analogous experience to taking classes in a U.S. college or university.

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができることを目的としている。

< 到達目標 >

1. Students will be able to articulate several psychological theories related to the Self
2. Students will be able to identify how they view themselves
3. Students will be able to articulate how they relate to other people
4. Students will be able to articulate how they want others to treat them
5. Students will be able to apply their new knowledge of self and other relations to applied settings

< 授業のキーワード >

Psychology, Human Relationships, Relationship Patterns, Interpersonal Communication

< 授業の進め方 >

Lectures, In-class assignments, Activities, Discussions, Readings, Reflection Essays, Term Paper

< 授業時間外に必要な学修 >

Approximately 1-3 hours per week should be sufficient to complete homework assignments.

< 提出課題など >

Before Class Readings, In-Class Activities, After-Class Reflection Essays, Term Paper

< 成績評価方法・基準 >

To Be Determined

< テキスト >

None

< 参考図書 >

教室内で指示する

< 授業計画 >

第1回 Introduction

Lecture: Class Introduction and Syllabus Review

第2回 I-It / I-You Relationships

Lecture: A Tale of Two Books

第3回 Self-As-Concept

Lecture: Me and My Many Roles

第4回 Self-as-Context & Self-as-Process

Lecture: What am I holding right now?

第5回 Internal Conflicts (Part 1)

Lecture: Poles and Roles

第6回 Internal Conflicts (Part 2)

Lecture: Forbidden Wishes and Defense Mechanisms

第7回 Jungian Archetypes

Lecture: Navigating the "Many You's"

第8回 Buber's "I and You"

Lecture: Back to You

第9回 Social Positioning

Lecture: I Above You / I Below You

第10回 Evolution of Social Emotions

Lecture: Everything is Social!

第11回 Interpersonal Psychoanalysis (Part 1)

Lecture: Discovering Relationship Patterns

第12回 Interpersonal Psychoanalysis (Part 2)

Lecture: Mastering Relationship Patterns

第13回 Self-Construal

Lecture: Interpersonal Closeness, Threat, and Anxiety

第14回 Transcendental Experiences

Lecture: Beyond You

第15回 Conclusion

Lecture: Course Summary and Final Evaluation

2022年度 前期

2.0単位

インターンシップA

栗原 由加

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この授業は、学部共通科目の現地研修関連科目に属し、ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ようになるための授業です。

また、この科目は学外での実習を主とする、実践的教育から構成される授業科目です。卒業後のキャリアデザインのため、企業で職場体験を行います。日本の企業風土や企業文化を体験的に理解し、日本企業における自らの役割や機能について把握することが目的です。

なお、この授業の担当者は一般財団法人での業務管理の実務経験がある教員であり、人材育成に関する実践的な観点からインターンシップのコーディネートとサポートを行います。

< 到達目標 >

日本企業で職場体験を行い、以下のことについて理解を深めることで、卒業後の進路について主体的に考えられるようになります。

1. 日本の企業文化（職場のマナーや仕事の進め方）
2. 業界、業種、職種について
3. グローバル人材として求められる役割、技能

< 授業のキーワード >

企業インターンシップ

< 授業の進め方 >

実習先は、受講生によって異なります。

インターンシップ先の指導者の指示に従って、就業体験を行います。

< 履修するにあたって >

実習中の服装については、実習先の指示に従ってください。

< 授業時間外に必要な学修 >

・インターンシップ先での実習内容について、報告書を書いてください。

・学んだことは復習し、翌日以降の実習に活かしてください。

< 提出課題など >

実習中の報告、実習終了後のインターンシップレポート。報告書のフィードバックは、個別に行います。

< 成績評価方法・基準 >

実習先からの評価50%、実習中の報告・実習レポート・制作物50%

< 授業計画 >

第1日目 実習

実習先の指導者の指示に従います。

第2日目 実習

実習先の指導者の指示に従います。

第3日目 実習

実習先の指導者の指示に従います。

第4日目 実習

実習先の指導者の指示に従います。

第5日目 実習

実習先の指導者の指示に従います。

第6日目 実習

実習先の指導者の指示に従います。

第7日目 実習

実習先の指導者の指示に従います。

第8日目 実習

実習先の指導者の指示に従います。

2022年度 後期

2.0単位

グローバル化と言語

中西 のりこ、大濱 慶子、栗原 由加

< 授業の方法 >

対面授業の場合

中西（第1回? 5回）

基本的に講義形式の授業ですが、頻繁に受講者の意見を求めたり発表を課したりします。最初5回分（中西担当）はすべてGCsquare上で課題提出を求めするため、中国語コースおよび日本語コースの学生はGCsquareに登録しておくこと。

最初の履修登録に間に合わなかったためGCsquareで「グローバル化と言語」にアクセスできない人は、nakanisi@gc.kobegakuin.ac.jp（中西）へご連絡ください。

オンライン授業の場合

中西（第1回? 5回）

オンデマンド授業および資料配布の場所は：<http://gc-square.kobegakuin.ac.jp/>

大濱（第6回～第10回）

オンデマンド授業

dotCampusでコメントと課題を提出してもらいます。

栗原（第11回～第15回）

遠隔授業（オンデマンド授業）

dotCampusで課題を提出してください。

< 授業の目的 >

グローバル化が抱える諸問題を、言語を通して考察できるようにすることを目的とします。この科目は、グローバル・コミュニケーション学部のディプロマポリシーのうち、「3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」に深く関わっており、グローバル化ならびにグローバリズムに関わる言語以外のさまざまな現象も学ぶことができます。そして、それらの知識をもとに、グローバル化と言語の問題を深く掘り下げて考えることができるようにします。

< 到達目標 >

グローバル化が進む中で、さまざまなものが国の境界を越えて行き来し、そのためある面では世界は急速に均質化しつつあるといえます。言語も、英語といういわゆるグローバルスタンダードさえマスターすれば万能であるかのように議論されることがありますが、本当にそうでしょうか。この授業では、グローバリズムが抱える諸問題を、主に言語を通して考察できるようにします。具体的には、以下のことを到達目標とします。

1) 英語が世界共通語のように使われるようになった歴史的背景を学ぶことができるようにする。

2) ヨーロッパのかつての共通語であるラテン語のポジションと今日のEUの複言語主義について学ぶことができるようにする。

3) globalとtransnationalの違い、ICTとグローバル化、グローバル化と地域のアイデンティティ、グローバル化する社会での共通語としての英語と私たちの生活などについて十分な理解ができるようにする。

4) もう1つのグローバル言語である中国語について、その地域がもつ文化とともに詳しく学ぶことができるようにする。

5) 言語や文化の越境、融合と摩擦、中国のナショナリティ、エスニシティ、地域性、ジェンダー、ルーツ探しについて学び、同時にグローバル時代を生きるリテラシーを身に付ける。

6) 「グローバリズム」あるいは「グローバリゼーション」という事柄を理解するための方策として、グローバ

ル言語とは言えない日本語を通して考えられるようにする。

7) 日本語でものを考えることがグローバリズム、グローバルイゼーションにかかわる諸相の理解にどのような影響を及ぼすのか、について考え、日本語で考える自己を相対化する視点を身に付ける。

< 授業の進め方 >

受講者との対話を行いつつ、オムニバスの講義形式で授業を進めます。なお、授業中には理解度チェックのため頻繁にレポートやミニレポートを課します。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習・復習とも1時間程度を行ってください。

< 提出課題など >

授業中に作成するミニレポート、課題を含め、頻繁にレポートなどの提出を求めます。課題のフィードバックはそれぞれの研究室にて行います。

< 成績評価方法・基準 >

中西：複数回課したレポートに基づいて評価します。100点満点中34点分。

大濱：授業後のコメント及び課題提出で評価します。100点満点中33点分。

栗原：毎回の提出課題を評価します。100点満点中33点分。

以上の評価データを合計し、100点満点の評価点をもとに最終の成績評価を行います。

< テキスト >

授業中に適宜指示します。

< 授業計画 >

第1回 英語が世界共通語のように使われるようになった歴史的背景 (中西)

かつてイギリスの強大な力により、多くの国々において植民地支配が行なわれました。当然ながらこれら植民地で用いられたのが英語でした。しかし、英語が世界共通語と言われるようになってきたのにはさらに別の背景もあります。世界共通語と言われるようになってきた理由は一体何なのかについて考察します。

第2回 ヨーロッパのかつての共通語であるラテン語のポジションと今日のEUの複言語主義 (中西)

ヨーロッパでは、かつてラテン語という今では死語となった言語が共通語として使用されてきました。ラテン語が共通語としての地位を獲得するに至った経緯、そして共通語としての地位から転落してしまっただけ理由は何でしょうか。そしてその後しばらくヨーロッパでは共通語と呼ばれる言語が現れなかったのはなぜでしょうか。さらに現在のEUではできれば第二外国語までしっかり学習すべきという複言語主義が提唱されています。共通の経済的・政治的基盤を築くべく統合を目指したEUにおいて、なぜ共通言語の模索をせず、複言語主義政策がとられたのかについて考察します。

第3回 globalとtransnationalの違い、ICTとグローバ

ル化 (中西)

国境を越えた経済活動が盛んになり、international、つまり国際的ということばが頻繁に使われた時代がありました。さらにその後、国境すら意識しなくなるということで、ドラッカーはtransnationalということばを好んで使用しました。しかし今日ではさらにこれを越えて、globalということばがバズワードとして好んで使われるようになってきています。経済活動の推移を考えICTの影響も考慮に入れることにより、これら3つのことばの意味するところを考えます。

第4回 グローバル化と地域のアイデンティティ (中西)

グローバル化の背景としては、ICTの急速な発達も考えなければなりません。インターネット、とりわけWebの世界では英語での情報発信が格段に多いため、より一層世界中で「英語化」が進むのではないかと思われましたが、逆にインターネットのおかげでナショナリズムに火がつくという現象も頻発しています。グローバル化とナショナリズム、地域中心主義の関係はどのようになっているのかを考察します。

第5回 グローバル化する社会での共通語としての英語と私たちの生活 (中西)

グローバルな時代、未来予想が困難な時代にあって、共通語という意味では英語が一人勝ちの状況にあります。今後この状況は変わらないのでしょうか。私たちの日常生活、そして今後のキャリアを考える上で、いわゆる共通語としての英語とどのように付き合うべきかを再考します。

第6回 グローバル言語と中国語 (大濱)

中国語の母語話者数は世界一多く、ノン・ネイティブも含めた使用者数では英語に次いで世界二位です。華僑華人コミュニティが世界中に存在し、中国語は英語とは違った意味でのグローバル言語であり、近年のめざましい経済発展や情報産業の発展はそれに拍車をかけています。世界言語と中国語、またグローバル化の波の中で消えゆく言語などについて考えたいと思います。

第7回 中国のナショナリティ、エスニシティとグローバルイゼーション (大濱)

多民族国家中国には漢民族のほかに55の少数民族が公認されており、実に130種類の言語が存在するといわれています。普通話(標準語)の普及、民族統治としての漢語・民族語二言語併用教育政策のほか、「君子は和して同ぜず、小人は同じて和せず」(論語)という中国人の伝統的メンタリティーを掘り下げながら、言語とナショナリティ、エスニシティの関係、中国の内なる多元的世界観、多言語教育の課題などについて探究します。

第8回 中国のグローバリゼーション、ローカライゼーション、翻訳と世界とのつながり (大濱)

グローバル化は言語にどのような影響を与えているのか。

あふれる中国語の新語造語の洪水からこの問題を読み解きたいと思います。英語、日本語と融合し、中国語の新語がどのようにして生成しているのか、さらにグローバル化とローカライゼーション、多言語翻訳の関係とその発展について英中日の翻訳を比較することによってその再創造の世界を探りたいと思います。

第9回 日中の若者の民間交流と創作活動（大濱）

近年若者の間で民間交流活動が活発化しています。両国のクリエイターによる合作アニメ映画も制作され、同時上映されて話題を呼びました。これらの作品を視聴し、合作によって表現された言語や文化、知の交流について皆さんに評論してもらいます。

第10回 複眼的なレンズを通した自己の再発見と、グローバル化を生きるリテラシー（大濱）

外国語の習得と活用は自己を不断に複合化、成長させ、無限の可能性の扉を開いてくれます。中国語を習得することによってどのような世界にアクセスでき、どのような可能性が開かれるのでしょうか？それは英語の習得とどのように異なるのでしょうか？一方で、中国や欧米ではAI(人工知能)の開発が進み、AIが通訳翻訳をする時代が到来するとも言われています。複眼的なレンズを通した自己の再発見と21世紀のフロンティアを生きるリテラシーについて幅広く考えたいと思います。

第11回 多文化共生における言語

ことばによるコミュニケーションの難しさについて理解を深めます。

第12回 多文化共生における言語

「やさしい日本語」とはどのような日本語かを理解します。

第13回 多文化共生における言語

「やさしい日本語」の作り方のルールを理解します。

第14回 多文化共生における言語

「やさしい日本語」使って日本語を書くための練習をします。

第15回 多文化共生における言語

「やさしい日本語」を使った話し方を理解します。

2022年度 後期

2.0単位

グローバル化と国際ビジネス

為村 啓二

< 授業の方法 >

パワーポイントを使った講義形式で授業を進める。毎回の授業の終わりに、理解度を把握するために小レポートを課す。

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて 授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご

自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

< 授業の目的 >

言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることを目的とする。

国際ビジネスの主体である多国籍企業とグローバル化の関係について歴史的視点から理解することが授業の目的である。

なお、この授業の担当者は、外資系航空会社で営業、マーケティング業務を30年以上経験している、実務経験のある教員であるので、より実践的な観点からグローバル化や国際ビジネスの現状を解説する事が出来る。

< 到達目標 >

国際ビジネスの主体である多国籍企業の特徴や特性を理解出来るようになる。

グローバル化が進む中何故多国籍企業が成立したかを理解出来るようになる。

新たな時代にどのような企業・人材が必要とされているかを理解出来るようになる。

国際ビジネスについて理解を深める事により、多国籍企業で働く事の役割、意義、目的を理解出来るようになる。

< 授業のキーワード >

国際ビジネス 多国籍企業 グローバル戦略 マーケティング イノベーション

< 授業の進め方 >

現在の国際ビジネスを学ぶ為にハーバードビジネススクールで用いられている様々な論文、教材を通じて学ぶ。従って基礎的な経済、社会知識ならびにこれらに対する旺盛な好奇心と学習意欲が求められる。また、多くの問題について授業中にディスカッション、意見交換を行うので積極的参加が出来る者が望ましい。

< 履修するにあたって >

- 1) 国際問題に絶えず関心を示す事が出来る事。
- 2) 世界で起こっている事象の背景、原因を追求する事が出来る事。
- 3) 問題点を見つけ出しその解決策を提示出来る事。

< 授業時間外に必要な学修 >

この授業では参加型の授業を行い、予習、復習が必須である。自ら学習する姿勢がある者が望ましい。

< 提出課題など >

必要があれば授業中に指示する。

< 成績評価方法・基準 >

授業への積極的参加や取り組み、提出課題などを総合して評価します。

授業での参加、毎回出席カードへの感想など60% レポート試験 40%

定期試験は行いませんが、最終授業日にレポート試験を実施する。

<テキスト>

必要な資料は随時配布する

<参考図書>

Harvard Business Review 月間

国際ビジネス入門 江夏健一・太田正孝・藤井健 著

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の進め方について解説する。

グローバル化とは何かについて種々の定義や解釈を理解する。

第2回 国際ビジネスとは

多国籍企業が果たす役割について

多国籍企業の定義と役割

第3回 多国籍企業の歴史の変遷

国際ビジネスの中で多国籍企業が誕生した背景を探る。

第4回 国際ビジネスの諸理論

多国籍企業が存在する理由を解説する。なぜ企業は国際ビジネスへと事業を拡大するのか。

第5回 多国籍企業のCSRと企業倫理

国際ビジネスを行う上で企業が持つ社会的責任について考察する。

第6回 グローバル市場参入の戦略

組織がグローバル市場参入の際、どのような過程でその意思決定がなされるかを考察する。

第7回 グローバル・マーケティング戦略

市場・産業のグローバル化の中、多国籍企業が行っているグローバル・マーケティングについて解説する。

第8回 グローバル・イノベーション戦略

時代の流れが早まるなか企業のイノベーションは必要不可欠となっている。その必要性和イノベーション戦略について考察する。

第9回 グローバル製品戦略

グローバル市場の中で企業はどのような製品開発を行っていく必要があるのだろうか。その成功例から製品開発に必要な諸要素を考察する。

第10回 グローバル・アライアンス戦略

競争優位性構築を目的にアライアンスのネットワークを構築する企業は多い。その必要性和戦略の効果について解説する。

第11回 グローバル組織戦略

企業がグローバル化すると目的遂行のためのリスクと複雑性が増し、組織も外部環境の多様化に対応するために複雑化する。このような経営環境のなか多国籍企業に適した組織について検証する。

第12回 国際人的資源管理戦略

多国籍企業では企業活動が本国、受け入れ国、第三国へと広がり人的資源の雇用、管理など多様化する。このような環境下でどのような管理が必要かを検証する。

第13回 異文化マネジメント戦略

企業の異文化問題はグローバル化とともに益々複雑化している。文化的多様化した組織をどのようにマネジメントするかを考察する。

第14回 国際ビジネスの環境変化とニューパラダイム
世界中の企業が国際化し、多国籍企業としてグローバルビジネスを展開している。国際マーケットの環境が変わってゆくなかこの変化に沿った変革が必要である。

第15回 総括

これまで学んだ事に関してレポートを作成する。

2022年度 前期

2.0単位

グローバルイズムと国際協力

為村 啓二

<授業の方法>

パワーポイントを使った講義形式で授業を進める。

毎回の授業の終わりに、理解度を把握するために小レポートを課す。

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて 授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

<授業の目的>

本講義科目は、ディプロマポリシーの中でも「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的としている。グローバルイズムが進む現代社会における諸問題を取り上げ、国際協力を通じて人道的、道徳的支援を提供する事の必要性和地球規模の問題への取り組みを学ぶ事が出来る。

なお、この授業の担当者は、外資系航空会社で営業、マーケティング業務を30年以上経験している、実務経験のある教員であるので、より実践的な観点からグローバルイズムや発展途上国の現状について解説出来る。

<到達目標>

1) グローバル化した社会の新たな諸問題を学ぶ事ができるようにする。

2) 国際社会が如何に形成され、どのように統治されてきたかを学ぶ事により現在のグローバル化の理解を深める事ができるようにする。

3) 地球規模の諸問題が何であるか、またそれが我々にどのように関わっているかを理解できるようにする。

4) 国際協力とは何かをその仕組み、主体者は誰なのか、またその対象となる諸問題を通じて理想的な国際社会とはどのようなものかを考えられるようにする。

<授業のキーワード>

政府開発援助、NGO、貧困問題、地球温暖化、食糧危機
<授業の進め方>

インタラクティブな講義形式の授業を行います。その為には予習・復習は勿論の事、自身の考えをまとめ発表する事が必要とされます。

<履修するにあたって>

世界で起こっている地球問題（環境、食料、人口など）に関するニュースなどに関心を持つ事。

<授業時間外に必要な学修>

授業で学習した内容を必ず1時間ほど復習して下さい。また、課題を出した際には必ず予習として事前学習が必要となります。

<成績評価方法・基準>

授業への積極的参加や取り組み、提出課題などを総合して評価します。

授業への参加、課題、感想など60% レポート 40%

<テキスト>

授業中に適宜指示します。講義はパワーポイントを使用。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

イントロダクション、講義内容、講義方法、目標設定。

第2回 グローバリズムの歴史とその背景

「グローバリズム」が国際社会の中で如何に成長し、我々の生活にどの様に影響してきたかを時代背景と共に紐解いてゆく。

第3回 グローバリズムの現状と将来の姿

グローバル化が進んだ今日、国際関係、開発、経済、公共政策など多方面にその影響が出ている。地球規模の問題としてその現状を分析し解説する。また近い将来起こりうる諸問題についても考察を加える。

第4回 国際社会を形成する単位とは

国際社会を形成する国家、民族、宗教、主義などの基本的要素の理解を深める事により、グローバル社会の多様性を理解する。

第5回 国際協力とは何か

一般に言われる国際協力の活動は幅広く多様化している。国際協力の必要性を平和、人権、経済開発、地球環境など多方面から考える。

第6回 政府による開発援助

先進国政府が直接または間接的に途上国に対して経済協力を行っているが、日本独自の国際協力を分析してその課題を明らかにする。また他国が行っている政府開発援助を参考に今後の日本の援助のあり方を考察する。

第7回 NGOによる民間協力和多国籍企業の役割

NGOの活動は医療、食料など多くの分野で活動を行い目覚ましい成果をあげてきている。国際協力の有力な担い手としてのNGO活動の成果とこれからの展望を考えてゆく。また、多国籍企業がこれまでに果たした役割もその規模やスピードは目覚ましいものがあり、企業活動が国際協力に及ぼす影響は大きい。政府には出来ない援助、協力

を企業は行っているが、その条件、限界について検証する。

第8回 途上国開発のプロセス

世界の東西問題は未だ未解決であるが、その緊張は緩和されつつある。しかしながら南北問題は未だ多くの問題を抱えている。先進国が途上国援助を行う際に何を目的にどのように進めるべきなのかを検証してゆく。

第9回 国際文化協力和教育分野への国際協力

異文化理解が多くの紛争、衝突を避ける方法の一つである。互いの国の違った文化を理解し合い、尊重することで相互理解が生まれ、協力活動を受け入れることが出来る。また、教育活動により識字率を上げ、途上国側が援助の目的を正しく理解することも重要である。教育改善の効果について考察を加える。

第10回 人権問題、環境問題、難民問題への取り組み

世界中での人権、環境、難民等の現状を学ぶと共にそれらの諸問題にどの様に取り組んでいるかを学ぶ。また、これら国内問題を含む諸問題について分析し課題を明らかにしてゆく。

第11回 地球環境問題と貧困問題への取り組み

現在地球規模で進行している環境の問題は人類の最大の問題でもある。人間の生存基盤を揺るがしかねない環境の問題の深刻さとその複雑な構造を理解する。また、貧困削減の為の経済成長は新たな環境問題を生むという面も持ち合わせていることへの考察を加える。

第12回 食糧安全保障と教育・保健・医療分野の対応

健康的な生活を営む為には食料安全保障は基本的な問題である。また、同時に教育を受ける権利、健康的な生活に必要な保健、医療など途上国だけの問題ではなくなっている。国境を超え交通網の発達で国家間移動が安易になった今日、世界規模で捉えなければならない課題でもある。

第13回 国際協力が生み出す問題

国際協力がその国の環境、政治に大きく影響を及ぼし新たな問題を生み出している事象がある。国際協力を行う際にその協力、援助が与えるプラス面、マイナス面を十分に認識して行う必要がある。過去の事象からその裏に隠れた諸問題を分析する。

第14回 グローバル・ガバナンス

1990年代以降急激に変化した国際情勢の中、グローバルな課題に国際社会が動き出した。国際開発援助が進む中その主体をなすものは誰なのか。環境、国際テロ、食料、難民などの諸問題を解決するにはもはや一国の力では到底対応出来ない。国際秩序、国際規範が成立し維持させる為には何が必要かを検証する。

第15回 日本の国際協力 今後の課題

経済大国日本がこれから国際社会で如何に貢献できるのか。政府のみならず企業、団体、個人などあらゆるレベルでの積極的参加が求められる。国際協力を取り巻く環境が変化する中でいかに日本が協力体制を構築できるの

か、また国際機関、団体の中でどのような役割を演じる必要があるのかを理解する。

2022年度 後期

2.0単位

グローバル・コミュニケーション入門

東 淳一、香月 裕介、眞島 淳

< 授業の方法 >

講義、演習、実習 対面授業

オンライン授業になった場合の指示および資料配布場所
: {GCsquare,http://gcsquare.kobegakuin.ac.jp/}

< 授業の目的 >

この授業科目は以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる。
3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる。

この授業科目は「学部共通科目群」に属し、「異文化コミュニケーション論」や「グローバル化と言語」といった科目の基礎科目として位置づけられる。国境を越えた人・モノ・情報の移動が盛んになっているグローバルな現代において、異なる言語や文化を持つ人間同士のコミュニケーションについての知識を修得し、その重要性を理解できることを目的とする。

< 到達目標 >

以下について興味を持ち、適切な方法を用いて意見を述べるができる。

- ・コミュニケーションの多様性と普遍性
- ・企業とコミュニケーション
- ・社会と言語の多様性
- ・他者への好奇心と他者感覚の定義とその重要性
- ・異文化理解と異文化コミュニケーション
- ・多文化共生における言語の位置づけ

< 授業のキーワード >

異文化理解、多文化共生、グローバル・コミュニケーション

< 授業の進め方 >

東、香月、眞島の3人の教員がオムニバス形式で講義をする。また、ゲストスピーカーによる講演を行うこともある。

< 履修するにあたって >

初回の授業の前に、{GCsquare,http://gcsquare.kobegakuin.ac.jp/}に登録済みであること。

< GCsquare 利用準備について >

授業で GCsquare を使用するためには、事前に初回ログインを終えておく必要があります。

下記の手順にしたがって、初回ログインを行ってください。

い。

1. 学内ネットワークを利用する

学外で GCsquare にログインする場合には、2の手順へ進んでください。

学内でインターネットに接続するために、事前に大学から配布されている統合認証用ユーザ名とパスワードを使って、認証を行ってください。

ウェブブラウザを起動してください。

ユーザ名とパスワードを入力してください。

「ログイン」ボタンをクリックまたはタップしてください。

神戸学院大学のサイトが確認できれば、認証完了です。

2. GCsquare の初回ログイン

ウェブブラウザの URL 入力欄に「http://gcsquare.kobegakuin.ac.jp/」と入力してください。

ログイン画面で、統合認証用ユーザ名とパスワードを入力して、「ログイン」ボタンをクリックまたはタップしてください。

ログインできると、プロフィールの編集画面が出てくるので、以下の通り入力してください。(全て入力必須の項目です。)

(1) 学籍番号：Bで始まる学籍番号

(2) 名前：姓名(漢字)

(3) メールアドレス 大学のメールアドレスが表示されていますので、変更しないで下さい。

画面の一番下にある「プロフィールを更新する」ボタンをクリックまたはタップしてください。

「プロフィールを更新する」ボタンをクリックまたはタップすると、自分のダッシュボードページに移動します。

以上で、GCsquare のユーザ登録は完了です。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外に必要な学修時間の目安は週1時間である。

< 提出課題など >

各回担当教員の指示に従い、提出すること。

< 成績評価方法・基準 >

平常点(60%)、レポート(もしくは試験)(40%)

平常点には授業中の貢献度(態度・質疑・発表を含める)などが含まれる。

< テキスト >

中西のりこ・仁科恭徳編著(2018) 「グローバル・コミュニケーション学入門」 三省堂。(ISBN: 978-4-385-36416-2、2,300円プラス税)

< 参考図書 >

授業中に適宜指示する。

< 授業計画 >

第1回 グローバル・コミュニケーションとは何か
現在、あるいは過去からも含めグローバル・コミュニケーションといえるものが存在してきました。音楽を聴いて、あるいは絵画やダンスを見て感動するなどから考えると、芸術活動は一種のグローバル・コミュニケーションであるといえてよいでしょう。よりよい社会の構築をめざしてこれから私たちが実践すべき新しいグローバル・コミュニケーションは、このようなすでに存在するグローバル・コミュニケーションの実態を分析することから始めないといけません。また、受講生の対多数をしめる日本人にとって、再度日本語と日本文化を深く掘り下げて学び、そこを出発点としてグローバル・コミュニケーションを考えねばならないでしょう。そして、一番実践可能なものとしては、異なる言語、異なる文化をもつ人々とどのように対峙するか、どのようにコミュニケーションを行うのかという視点からの行動があります。これらすべてがこの授業で扱われることとなりますが、その概観を解説します。(東)

第2回 見た目、そして色彩

一般的に人の印象は見た目が大きく左右することが知られている。この「見た目」というのは一体何なのだろう。ビジュアルな情報といえば、文化によってその意味するところが異なる場合もあるものの、色彩もある程度グローバルにあるメッセージを私たちに発信してくれる。人の視覚的なイメージ、そして色彩について検討を加えてみます。(東)

第3回 絵文字のもつ力

NSなどで馴染みの絵文字。これはもともとはテキストを入力するときの個々の文字(キャラクター)によって作られました(^_^)。しかし、スマートフォンが登場すると、現在のようなグラフィック型の絵文字が登場します。現在の絵文字はコミュニケーションにおいてどのような働きをするのでしょうか。また、他国でも絵文字は使用されているのでしょうか。絵文字を少し言語学的に掘り下げて考えるとともに、視覚情報が教育やビジネスでどのように使われてきたのかについても調べてみます。(東)

第4回 メディアとグローバル・コミュニケーション
グローバル化は、実はメディアの変遷が大きく関わっています。特にインターネット関連のさまざまな技術が今のグローバル化を押し進めてきたといえていいでしょう。インターネットのさまざまな規格、Webの作りの変遷、インタラクティブなWebページの実現、Content Management Systemの変遷、SNSの出現、オープンソースと新インターネット時代の著作権、GAFAの出現などについて考えます。(東)

第5回 ビジネスにおけるグローバル・コミュニケーションの語彙

ビジネスをする上でさまざまな交渉ごとのベースとなる考え方があれば、特にグローバルにビジネス展開する企

業にとっては有益といえます。このベースとなる考え方として西洋社会中心に浸透しているのがマーケティングの考え方です。グローバル社会でビジネスを行うにあたっては、単にビジネスシーンで使われる英語会話などを学ぶだけでは不十分であり、ビジネスの基盤となる理論あるいはルールといえるマーケティングで用いられる語彙や概念を知っておく必要があります。マーケティングの考え方のうち、製品のライフサイクルと絡めてマーケティング・コミュニケーション、価格設定、新製品開発のあり方などを考えます。なお、第1回から第5回までの内容についての確認のための試験を実施します。(東)

第6回 日本の近現代史と日本語教育

近現代の日本がどのような目的で日本語教育を行ってきたかを学び、「私たちはなぜ外国語を学ぶのか」について改めて考えます。(香月)

第7回 日本国内の日本語学習者

日本国内にいる多様な日本語学習者とその背景について学び、そのような人々との共生のあり方について考えます。(香月)

第8回 日本語の特徴と様々な日本語

日本語の特徴と多様性について学び、言語を相対化して捉える視点を身につけます。(香月)

第9回 海外の日本語教育と日本語教材

海外の日本語教育の現状について学びます。また、日本語を学ぶための教材にはどのようなものがあるかを知り、それらを通して、外国語環境で外国語を学ぶことの意味と難しさを考えます。(香月)

第10回 やさしい日本語

「やさしい日本語」という考え方と意義を学びます。また、「やさしい日本語」の実践を通して、「異文化コミュニケーション=外国語」という固定観念を取り払います。(香月)

第11回 隣語を学ぶ意義

中国語や韓国語は、日本にとって隣国のことば(隣語)です。隣語を含め複数の外国語を学習することの意味について考えます。(眞島)

第12回 中国語教材における文化

現在日本で使用されている中国語教材に提示されている文化知識を例に、外国語学習の意味について再考します。(眞島)

第13回 中国語教材における文化

現在日本で使用されている中国語教材を例に、中国語と日本語のことばの使い方について比較対照を行い、外国語学習の意味について再考します。(眞島)

第14回 カルチャーマップ

ビジネスの場における実例を挙げ、コミュニケーションスタイルの違いが及ぼす影響について考えます。(眞島)

第15回 サービスにおける「おもてなし」

日本で提供されているサービス、おもてなしを例に、様

々な価値観について考えてみます。(真島)

2022年度 前期

2.0単位

ジェネリック・スキルトレーニング

前田 博美

< 授業の方法 >

対面授業(ペアワーク・グループワークを行います。)

Teamsを利用して、課題を提出していただきます。

担当教員 連絡先: maeda-h@gc.kobegakuin.ac.jp

< 授業の目的 >

自身のキャリア形成を1から学び業界研究や就職の流れなどを習得する。また、自分を知ることを中心として、自己PRにつながる学びをし、今後のキャリアプランを明確にする。また、プレゼンテーションスキルの向上を目指す。

なお、この授業の担当者は、人事部での実務経験のある教員であるので、より実践的な観点からキャリアプランや就職活動に対しての解説、指導するものとする。

< 到達目標 >

社会人になるということを理解し自己分析ができる。また、社会人としての基礎力を身につけ、アウトプットできる。

< 授業の進め方 >

自己分析を中心のワークに、コミュニケーションに慣れ、人前でプレゼンテーションが出来るよう個人ワークとグループワークを取り入れる。

コロナによる自粛期間中は、オンデマンドによる個人ワークとなります。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に、テキストの指定箇所を予習してから授業に臨むこと。

各回に対して、予習・復習をそれぞれ最低30分を目安とする。

< 成績評価方法・基準 >

理解度を指定文字数のA4レポート2回の提出をもって成績評価する。評価基準については、レポート課題提示の折に明示する。

< テキスト >

キャンパスライフデザインBook noa出版

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

・授業の目的と概要の説明

第2回 キャリアと自分

(自己分析)

・アイスブレイク

・自己紹介/他己紹介

・キャリアへの意識を高める

第3回 キャリアと自分

(自己分析)

・今までの自分を振り返る。

・自分の強みを知る。

・自己PR文を書く。

第4回 キャリアと自分

(自己分析)

・自分が憧れる人のイメージを描く。

・自分の価値観を理解する。

・なりたい自分のイメージを描く。

第5回 キャリアと社会

(社会理解)

・社会の構造、関連性について理解する。

・興味のある業界を見つける。

第6回 キャリアと社会

(社会で求められるスキル)

・ジェネリックスキルについて

・5年後、10年後の職業を想像する

・社会で求められる人材とは

第7回 「ミスマッチ」の回避

(業種、就職率や離職率、会社の実態等を知る)

・就職率・離職率について業界・業種別の実態を知り、

就職ミスマッチの回避を図る

第8回 ビジネスマナー

・就職活動シーンにおけるビジネスマナーを学ぶ(挨拶のマナー、会社訪問時のマナー、メールのマナー、電話のマナーなど)

第9回 プレゼンテーション・コミュニケーション能力

・大学生活を具体的にイメージする

・目標設定と計画立ての重要性を理解する

第10回 プレゼンテーション・コミュニケーション能力

・目標と計画の立て方を理解する

・自分らしい生き方を明確化し、「なりたい自分の姿」のために必要な、

大まかなステップを認識する

・行動計画表(ガントチャート)を作成する

・目標達成に向けた具体的な行動に落とし込む

第11回 プレゼンテーション・コミュニケーション能力

・これまで学んだ内容を踏まえ、メインテーマについてグループでプレゼンテーションをする

・プレゼンテーションの準備について学ぶ

第12回 プレゼンテーション・コミュニケーション能力

・前週からの続き

グループでまとめ上げていく

・それぞれの組織の中での役割の果たし方を学ぶ

第13回 プレゼンテーション・コミュニケーション能力

- ・グループプレゼンテーション発表

第14回 プレゼンテーション・コミュニケーション能力

- ・グループプレゼンテーションの評価の振り返り
- ・自分に足りていない能力とは？
- ・グループでの役割責任とは？

第15回 総括 半期の振り返り

2022年度 後期

2.0単位

ジェネリック・スキルトレーニング

前田 博美

< 授業の方法 >

対面授業

担当教員のメールアドレスは、 maeda@gc.kobegakui
n.ac.jp です。

< 授業の目的 >

ジェネリックスキルトレーニング を踏まえ、さらに、
自己分析と他己分析から自己PRが書けるところまでワ
ークを進める。キャリアへの意識を高め、自主性と主体
性を高める。

なお、この授業の担当者は、人事部での実務経験のある
教員であるので、より実践的な観点からキャリアプラン
や就職活動に対しての解説、指導するものとする。

< 到達目標 >

3年時に備え、一般的な就職活動の流れを知り、自分の
就職活動の計画を立てることができる。

< 授業の進め方 >

前半は、自己分析から自己PRが書けるようにワークを行
い、後半、他己分析やグループワークを通じて現状に即
した情報と手法を知ることによって就活への不安を無くす。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に、資料の指定箇所を予習してから授業に臨むこと。
各回に対して予習・復習それぞれ最低30分を目安とする

< 成績評価方法・基準 >

毎回の講義内容の講義への感想により理解度を測り、2
回のレポートの提出をもって成績評価する。

< テキスト >

毎回、Teamsに資料を配付します。

また、課題も同じようにTeamsで配布します。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

- ・授業の目的と概要の説明

第2回 キャリア計画

・就職活動の計画だけではなく自分の人生の目標と計画
の重要性を知る。

第3回 自分を振り返る・自己PR

- ・エントリーシートの書き方のポイント
- ・自己PRの書き方を学ぶ。

第4回 自分を振り返る・自己PR

- ・自己PRの見直し、完成させる。
- ・人事がチェックするポイントを知る。

第5回 自分を振り返る・自己PR

- ・ESの自己添削
- ・ESの他己添削

第6回 一般就職試験とは

- ・SPIとは
- ・SPIの重要性
- ・SPI確認テスト

第7回 一般就職試験とは

- ・頻出問題の解説
- ・SPIの学習方法について

第8回 コミュニケーション能力

- ・コミュニケーションとは
- ・他己紹介
- ・図形伝達ゲーム

第9回 コミュニケーション能力

- ・傾聴力トレーニング
- ・オウム返し
- ・地図作成ゲーム

第10回 グループワークとは

- ・グループワークの流れと必要性を知る。
- ・グループワークの役割と色々なグループワークを知る。

第11回 グループディスカッションとは

- ・ゲーム式のグループディスカッションを実践する。
- ・ディベート型のグループディスカッションを実践する。

第12回 グループワーク実践

・様々なグループワークを実際に行い、面接官も体験し
てみる。

第13回 本当の就活

- ・近年の就活事情について知り、手法を実践する。

第14回 本当の就活

・近年の就活事情から知りえた手法を用いて、グルー
プワークを行う。

第15回 総括

- ・15回の学びの振り返り。

2022年度 前期

2.0単位

ジェネリック・スキルトレーニング

前田 博美

< 授業の方法 >

対面授業

担当教員 前田のアドレスは、 maeda-h@gc.kobegakuin.ac.jp です。

< 授業の目的 >

座学では主にインプットを中心とし、 現代問題 社会人の活躍 業種を指導します。またグループ学習ではアウトプットを中心とし、 考える力 発言力 質問力を養います。

なお、この授業の担当者は、企業での実務経験のある教員であるので、より実践的な観点からキャリアプランや就職活動に対しての解説、指導するものとする。

< 到達目標 >

社会人基礎力の習得と人に自分のことを伝える力が養えたか、最終目標として人前での発表ができる。

< 授業の進め方 >

講義で社会人としての基礎力を学んだあと、コミュニケーション力と積極性を身に着けるため、グループワークを中心としたディスカッションを行う。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に、テキストの指定箇所を予習してから授業に臨むこと。

各回に対して、予習・復習をそれぞれ最低30分を目安とする。

< 成績評価方法・基準 >

毎回の講義内容の設定質問に対する回答とレポート提出 2回によって判断する。レポートの評価基準については講義の中で発表する。

< テキスト >

「なりたい自分」を目指すシューカツワークBook no a出版

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

・授業の流れ、目的、ルール、成績評価方法を他者に説明する

・今までの学生生活を振り返り、その当時頑張って取り組んだことをレポートにまとめる

第2回 就職活動ってどんなことをするの？

・自分の「働く目的」、「将来実現したいこと」、「なりたい自分像」を文章にする

・就職活動の流れを他者に説明する

・就職活動のスケジュールを作成

第3回 情報収集のテクニックを学ぶ！（世の中にあふ

れている情報って？）

・世の中のことを知るにはどういう方法があるかグループでディスカッションする（ブレイクアウトセッションに慣れる）

・また、そこからどういう情報が取れるのかも考える
・情報を取り入れることのメリットと情報を知らないいいことのデメリットもディスカッションする

・以下の内容を2分で発表する

グループで話した情報の取り方ベスト3

その情報を取るメリット、情報を取らなかった時のデメリット

・他のグループの発表を聴いて気付いた点、疑問に思った点を1人の発表につき1点以上挙げる

第4回 情報収集のテクニックを学ぶ！（世の中にあふれている情報って？）②

・新聞を読むことのメリットを3つ以上他者に説明する

・以下の内容を2分で発表する

自分が選んだ記事の要約

その記事を選んだ理由、その記事を読んで疑問に感じること

・他の人の発表を聴いて気付いた点、疑問に思った点を1人の発表につき1点以上挙げる

第5回 グループディスカッションに挑戦しよう

・グループディスカッションとはどのようなものか、自分なりに説明する

・グループディスカッションで、グループのメンバーで協力して問題解決に向けて話し合う

・自分磨きプロジェクトを振り返り、アクションプランを修正

第6回 先輩の話を知ろう！（社会人の話）

・社会人の話の中で、印象的だったことを3つ以上挙げる

・社会人の話の中で、自分でも真似できる点を1つ以上挙げる

・自分で作成した就職活動のスケジュールを修正

第7回 活躍している会社を知ろう！

・ある企業とその取引先企業や顧客との関係を調べ、他者に説明する

・BtoB、BtoCという用語について、他者に説明する

第8回 職種を知ろう！

・さまざまな業界における職種を調査し、以下の内容を他者に説明する

（職種については、それぞれの方向性も考えて絞り込む）

仕事内容

働く思想（何にやりがいや魅力を感じているか）

サービスの流れ

どのように調査したか、他者に説明する

第9回 職種を知ろう！

・自分のチームが調査した業界の職種について以下の内

容を他者に説明する

仕事内容

働く思想（何にやりがいや魅力を感じているか）

サービスの流れ

・他者から説明された内容を理解して、自分のチームのメンバーに説明する

・自分磨きプロジェクトを振り返り、アクションプランを修正

第10回 業界研究をやってみよう！

・業界研究グループワーク時のチーム内で役割分担を決める

・発表する業界についての知識を情報収集し、自分の言葉で他者に説明する

・社会に対してどのように役立っているのか、他の企業に対してどのように役立っているのか、どの企業をピックアップして調査するのか、その企業をピックアップした理由

第11回 業界研究をやってみよう！

・業界マップが作成できている

・リハーサルが実施

・リハーサルで、改善すべき点を3点以上挙げる

第12回 業界研究をやってみよう！

・業界研究グループワーク時のチーム内で役割分担を決める

・発表する業界についての知識を情報収集し、自分の言葉で他者に説明する

・社会に対してどのように役立っているのか、他の企業に対してどのように役立っているのか、どの企業をピックアップして調査するのか、その企業をピックアップした理由

第13回 グループワークで完成させよう

・自分たちの業界地図を作ろう！

・役割分担して、パワーポイントスライドを作り上げよう

第14回 グループワークで完成させた業界地図を発表しよう！

・自分たちで作成した業界地図を知らない人にもわかるように発表してみよう

・発表後、評価と反省

第15回 総括

授業の振り返り

2022年度 後期

2.0単位

ジェネリック・スキルトレーニング

前田 博美

< 授業の方法 >

対面授業です。

担当教員のメールアドレスは、maeda-h@gc.kobegaku.n.ac.jp です。

< 授業の目的 >

SDGsについてグループで学びながら社会に必要な前に進む力（自主性）と 話す力②聴く力 尋ねる力のコミュニケーション力を養い、SDGsの視点で世界の国々について学び、グループワークを通じて主体性を身につける。なお、この授業の担当者は、企業での実務経験のある教員であるので、より実践的な観点からキャリアプランや就職活動に対しての解説、指導するものとする。

< 到達目標 >

SDGsを知り、考えることにより、自主性と主体性をもつことができる。

< 授業の進め方 >

講義で社会人としての基礎力を学んだあと、コミュニケーション力と積極性を身につけるため、グループワークを中心としたディスカッションを行う。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前に、テキストの指定箇所を予習してから授業に臨むこと。

各回に対して最低30分を目安とする。

< 成績評価方法・基準 >

毎回の講義内容の設定質問に対する回答とレポート提出2回によって判断する。レポートの評価基準については講義の中で発表する。

< テキスト >

『SDGs探求ワークブック』 noa出版

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

・授業の目的と概要の説明

第2回 キャリア計画

・キャリアとは

・就職活動のスケジュールを知る。

・一般的な就職活動の流れを知り、自分の就職活動の計画を立てる。

第3回 キャリアと社会

(社会で求められるスキル)

・社会の構造、関連性について理解する。

・社会・企業が求める人物像のイメージを描く。

・社会が求める人になるための、自分なりの指針を作る。

第4回 コミュニケーション能力

・コミュニケーションとは・他己紹介・図形伝達ゲーム

第5回 コミュニケーション能力

・傾聴力トレーニング・オウム返し・地図作成ゲーム

第6回 前に進む力（自主性）

・自主性を養うワーク

第7回 前に進む力（主体性）

・主体性を養うワーク

第8回 グループディスカッション

・グループディスカッションの役割と流れを知る。

- ・PREP法やブレインストーミング等の手法を学ぶ。
- ・1つのテーマでグループディスカッション～成果物作成、発表までを行う。

第9回 SDGsってなんだ？

- ・世界193カ国が合意した2030年までに達成すべき目標『SDGs』の誕生と背景について学ぶ。

第10回 自国以外のSDGs 課題について知って考えてみよう

- ・世界では、どのようなことが起こっていて、自分たちはどのように考えるのか、調べて意見交換し、お互いの考えを突き合わせてみる。

第11回 グループワーク

(SDGs探求ワーク)

- ・2030年までの開発アジェンダである「持続可能な開発目標」のテーマからいくつかをグループで話し合う。
- ・なぜそれらを選んだのかを発表する。

第12回 グループワーク

(SDGs探求ワーク)

- ・第11講で話し合ったテーマについて、グループで調べてまとめる。

第13回 グループワーク

(SDGs探求ワーク)

- ・第12講で作成した資料を基に、発表できるところまで、もう一度掘り下げる。
- ・自分たちで発表から質疑まで運営できるようにグループ内で役割分担する。

第14回 グループワーク

(SDGs探求ワーク)

- ・第13講で作成した成果物を発表し、質疑応答までを自分たちで運営する。

第15回 総括

- ・15回の学びの振り返り

2022年度 前期

2.0単位

シネマイングリッシュ (A)

仁科 恭徳

< 授業の方法 >

オンライン授業（演習形式と講義形式のハイブリッド予定しているが、状況に応じて変更あり）

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて 授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

仁科恭徳 <ynishina@gc.kobegakuin.ac.jp>

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」と「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的とし、様々な日常場面で頻出する語彙力や表現力を身に付け、実用英文法についても学習する。また、実際のスピーキング速度に対応可能なリスニング力を身につけることで、実践的な英語力を養う。

< 到達目標 >

- ・海外生活で必要となる日常的な語彙・表現・文法事項について習得すること。
- ・実践的なリスニング力を養うこと。
- ・実践的なスピーキング力を養うこと。
- ・効果的かつ効率的な英日翻訳方略を学ぶこと。

< 授業のキーワード >

語彙 表現 実用英文法

< 授業の進め方 >

Pair work, Group work, Lecture

< 履修するにあたって >

既習事項の復習を繰り返し定着をはかること。十分に準備をして小テスト・復習テストを受けること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

レポートを課すことがある。この場合、教員が示す提出締切期限を必ず守ること。提出課題に対するフィードバックは、授業内外で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度(単なる参加ではない)[30%]、小テスト・復習テスト・レポートなど[70%]。

< テキスト >

Communication in English with The Devil Wears Prada (松柏社)

< 授業計画 >

第1回 Introduction

授業の概要説明（ねらい、評価方法など）、ウォームアップアクティビティなど

第2回 Unit1

Grammar in Focus: 過去完了形 / Language in Focus:

別れ際の挨拶

第3回 Unit2

Grammar in Focus: 助動詞1 / Language in Focus: 依頼する

第4回 Unit3

Grammar in Focus: 関係代名詞1 / Language in Focus:

反論する

第5回 Unit4

Grammar in Focus: 現在進行形 / Language in Focus: 困惑を示す

第6回 Unit5

Grammar in Focus: 助動詞2 / Language in Focus: 聞き返す

第7回 Unit6

Grammar in Focus: 分詞 / Language in Focus: 希望を伝える

第8回 Review1

前半の復習と中間テスト、発表など

第9回 Unit7

Grammar in Focus: 仮定法 / Language in Focus: 驚きを示す

第10回 Unit8

Grammar in Focus: 現在完了形 / Language in Focus: 確認する

第11回 Unit9

Grammar in Focus: 動名詞 / Language in Focus: 提案する

第12回 Unit10

Grammar in Focus: 受動態 / Language in Focus: 意思・予定を述べる

第13回 Unit11

Grammar in Focus: 関係代名詞2 / Language in Focus: 賞賛する

第14回 Unit12

Grammar in Focus: 使役動詞 / Language in Focus: 丁寧に依頼する

第15回 Review2

後半の復習と期末テスト、発表など

2022年度 前期

2.0単位

シネマイングリッシュ (B)

荒島 千鶴

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも「1. 実践的で高度な外国語の運用ができる」と「3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」「4. 教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的とし、様々な日常場面で頻出する語彙力や表現力を身に付け、実用英文法についても学習する。また、実際のスピーキング速度に対応可能なリスニング力を身につけることで、実践的な英語力を養う。

< 到達目標 >

・海外生活で必要となる日常的な語彙・表現・文法事項について習得すること。

・実践的なリスニング力を養うこと。

・実践的なスピーキング力を養うこと。

・効果的かつ効率的な英日翻訳方略を学ぶこと。

< 授業のキーワード >

語彙 表現 実用英文法

< 授業の進め方 >

Pair work, Group work, Lecture

< 履修するにあたって >

既習事項の復習を繰り返し定着をはかること。十分に準備をして小テスト・復習テストを受けること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストの準備に最低1時間、既習事項の

復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

レポートを課すことがある。この場合、教員が示す提出締切期限を必ず守ること。提出課題に対するフィードバックは、授業内外で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

授業への貢献度[30%]、小テスト・復習テスト・レポートなど[70%]。

< テキスト >

Communication in English with The Devil Wears Prada (松柏社)

< 授業計画 >

第1回 Introduction

授業の概要説明(ねらい、評価方法など)、ウォームアップアクティビティなど

第2回 Unit1

Grammar in Focus: 過去完了形 / Language in Focus: 別れ際の挨拶

第3回 Unit2

Grammar in Focus: 助動詞1 / Language in Focus: 依頼する

第4回 Unit3

Grammar in Focus: 関係代名詞1 / Language in Focus: 反論する

第5回 Unit4

Grammar in Focus: 現在進行形 / Language in Focus: 困惑を示す

第6回 Unit5

Grammar in Focus: 助動詞2 / Language in Focus: 聞き返す

第7回 Unit6

Grammar in Focus: 分詞 / Language in Focus: 希望を伝える

第8回 Review1

前半の復習と中間テスト、発表など

第9回 Unit7

Grammar in Focus: 仮定法 / Language in Focus: 驚きを示す

第10回 Unit8

Grammar in Focus: 現在完了形 / Language in Focus: 確認する

第11回 Unit9

Grammar in Focus: 動名詞 / Language in Focus: 提案する

第12回 Unit10

Grammar in Focus: 受動態 / Language in Focus: 意思・予定を述べる

第13回 Unit11

Grammar in Focus: 関係代名詞2 / Language in Focus: 賞賛する

第14回 Unit12

Grammar in Focus: 使役動詞 / Language in Focus: 丁寧に依頼する

第15回 Review2

後半の復習と期末テスト、発表など

2022年度 後期

2.0単位

ビジネス英語 (世界とビジネスA)

シャーロー トーマス

< 授業の方法 >

Weekly practice based on reading and listening lessons

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができる ことを目的としている In this course, the ability to understand and use basic conversational English will be developed. An understanding of differences in business practices in various countries will be developed. The special vocabulary common to Business English will be studied.

< 到達目標 >

To be able to

(1) understand and use common English business vocabulary

(2) identify differences between Japanese and foreign business cultures

(3) act appropriately and effectively in selected foreign business environments

To give students

1) a knowledge of foreign economies that will assist them in finding jobs at Japanese offices of major or foreign companies

< 授業のキーワード >

business, culture

< 授業の進め方 >

Lessons are structured around the different cultural and business environments students will encounter in selected countries. Discussion of how business practices differ in these countries and Japan will be guided by the instructor.

< 履修するにあたって >

Attendance and active participation in each class is mandatory. Students are expected to use only English in the classroom. Online classes can be found at <https://classroom.google.com/c/NDUOMTlxMzYOMDEw?cjc=nhccl74>

< 授業時間外に必要な学修 >

Students will be responsible for all online homework assignments. Each student will also be responsible for one oral report regarding one of the countries studied. Students should expect to spend approximately 60 minutes each week to complete this work.

< 提出課題など >

Online assignments must be submitted by the due date on the course website. Any questions regarding homework should be directed to Professor Schalow at ijinkanmail@gmail.com

< 成績評価方法・基準 >

Class discussion is extremely important, and grades will reflect the degree to which each student has helped to make the class more interesting and useful. 60% of the total grade will be based on weekly homework assignments and 40% on the oral report.

< テキスト >

イラストだから覚えられる 会話で必ず使う英単語1100
ISBN 484437477X

< 授業計画 >

第1回 Week 01- Introduction

Communication and Business in North Korea
Assignment of Individual Country Reports

第2回 Week 02 - South Korea

Communication and Business in South Korea

第3回 Week 03 - Myanmar

Communication and Business in Myanmar

第4回 Week 04 - Cambodia

Communication and Business in Cambodia

第5回 Week 05 - China
Communication and Business in China
第6回 Week 06 - Macao
Communication and Business in Macao
第7回 Week 07 - Thailand
Communication and Business in Thailand
第8回 Week 08 - Vietnam
Communication and Business in Vietnam
第9回 Week 09 - Philippines
Communication and Business in the Philippines
第10回 Week 10 - Singapore
Communication and Business in Singapore
第11回 Week 11- India
Communication and Business in India
第12回 Week 12- Taiwan
Communication and Business in Taiwan
第13回 Week 13- Hong Kong
Communication and Business in Hong Kong
第14回 Week 14 - Malaysia
Communication and Business in Malaysia
第15回 Week 15- Indonesia
Communication and Business in Indonesia

2022年度 後期

2.0単位

ビジネス英語 (世界とビジネスB)

シャーロー トーマス

< 授業の方法 >

Weekly practice based on reading and listening lessons

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができることを目的としている In this course, the ability to understand and use basic conversational English will be developed. An understanding of differences in business practices in various countries will be developed. The special vocabulary common to Business English will be studied.

< 到達目標 >

To be able to

- (1) understand and use common English business vocabulary
- (2) identify differences between Japanese and foreign business cultures
- (3) act appropriately and effectively in selected

foreign business environments

To give students

- 1) a knowledge of foreign economies that will assist them in finding jobs at Japanese offices of major foreign companies

< 授業のキーワード >

business, culture

< 授業の進め方 >

Lessons are structured around the different cultural and business environments students will encounter in selected countries. Discussion of how business practices differ in these countries and Japan will be guided by the instructor.

< 履修するにあたって >

Attendance and active participation in each class is mandatory. Students are expected to use only English in the classroom. Online classes can be found at <https://classroom.google.com/c/NDUOMTlxMzY0MjAy?cjc=uq4flw4>

< 授業時間外に必要な学修 >

Students will be responsible for all online homework assignments. Each student will also be responsible for one oral report regarding one of the countries studied. Students should expect to spend approximately 60 minutes each week to complete this work.

< 提出課題など >

Online assignments must be submitted by the due date on the course website. Any questions regarding homework should be directed to Professor Schalow at tijinkanmail@gmail.com

< 成績評価方法・基準 >

Class discussion is extremely important, and grades will reflect the degree to which each student has helped to make the class more interesting and useful. 60% of the total grade will be based on weekly homework assignments and 40% on the oral report.

< テキスト >

イラストだから覚えられる 会話で必ず使う英単語1100
ISBN 484437477X

< 授業計画 >

- 第1回 Week 01- Introduction
Communication and Business in Italy
Assignment of individual country reports
- 第2回 Week 02 - Holland
Communication and Business in Holland
- 第3回 Week 03 - Denmark
Communication and Business in Denmark
- 第4回 Week 04 - Russia

Communication and Business in Russia
 第5回 Week 05 - Estonia
 Communication and Business in Estonia
 第6回 Week 06 - Finland
 Communication and Business in Finland
 第7回 Week 07 - France
 Communication and Business in France
 第8回 Week 08 - Germany
 Communication and Business in Germany
 第9回 Week 09 - Greece
 Communication and Business in Greece
 第10回 Week 10 - Portugal
 Communication and Business in Portugal
 第11回 Week 11- Iceland
 Communication and Business in Iceland
 第12回 Week 12- Sweden
 Communication and Business in Sweden
 第13回 Week 13- Latvia
 Communication and Business in Latvia
 第14回 Week 14 - Spain
 Communication and Business in Spain
 第15回 Week 15 - England
 Communication and Business in England

 2022年度 前期

2.0単位

ビジネス英語 (A)

シャーロー トーマス

 < 授業の方法 >

Weekly video lessons with quiz and discussion

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができることを目的としている。In this course, the ability to understand and use basic conversational English will be improved. The special vocabulary common to Business English will be mastered.

< 到達目標 >

To be able to

- (1) understand and use common English business vocabulary
- (2) identify differences between Japanese and foreign business cultures
- (3) act appropriately and effectively in selected foreign business environments

To give students

- 1) a knowledge of foreign economies that will assist them in finding jobs at Japanese offices of major or foreign companies

< 授業のキーワード >

business, culture

< 授業の進め方 >

Lessons are structured around the textbook and weekly online videos.

< 履修するにあたって >

Attendance and active participation in each class is mandatory. Students are expected to use only English in the classroom. Students must purchase and use the textbooks. Online classes can be

found at <https://classroom.google.com/c/NDUwMzAxMjQ3NjU4?cjc=1h6kaqa>

< 授業時間外に必要な学修 >

Students will be responsible for all online homework assignments in addition to work in class. Students should expect to spend approximately one hour each week outside of class to complete the homework and practice and review the vocabulary.

< 提出課題など >

Online assignments must be submitted by the due date on the course website. Questions regarding homework should be directed to Professor Schalow at jjinkanmail@gmail.com

< 成績評価方法・基準 >

80% of the grade will be based on weekly quizzes, and 20% on attendance and class discussion.

< テキスト >

イラスト記憶法で脳に刷り込む英単語1880 ISBN 4860639693

< 授業計画 >

第1回 Week 01- Introduction

Introduction to the course and the story of Hanzawa Naoki

第2回 Week 02

Story and Vocabulary of Hanzawa Naoki -01

第3回 Week 03

Story and Vocabulary of Hanzawa Naoki -02

第4回 Week 04

Story and Vocabulary of Hanzawa Naoki -03

第5回 Week 05

Story and Vocabulary of Hanzawa Naoki -04

第6回 Week 06

Story and Vocabulary of Hanzawa Naoki -05

第7回 Week 07

Story and Vocabulary of Hanzawa Naoki -06

第8回 Week 08

Story and Vocabulary of Hanzawa Naoki -07
 第9回 Week 09
 Story and Vocabulary of Hanzawa Naoki -08
 第10回 Week 10
 Story and Vocabulary of Hanzawa Naoki -09
 第11回 Week 11
 Story and Vocabulary of Hanzawa Naoki -10
 第12回 Week 12
 Story and Vocabulary of Hanzawa Naoki -11
 第13回 Week 13
 Story and Vocabulary of Hanzawa Naoki -12
 第14回 Week 14
 Story and Vocabulary of Hanzawa Naoki -13
 第15回 Week 15
 Conclusions and Final Assessment

 2022年度 前期

2.0単位

ビジネス英語 (B)
 シャーロー トーマス

 < 授業の方法 >

Weekly video lessons with quizzes and discussion

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができることを目的としている。In this course, the ability to understand and use basic conversational English will be improved. The special vocabulary

common to Business English will be mastered.

< 到達目標 >

To be able to

(1) understand and use common English business vocabulary

(2) identify differences between Japanese and foreign business cultures

(3) act appropriately and effectively in selected foreign business environments

To give students

1) a knowledge of foreign economies that will assist them in finding jobs at Japanese offices of major foreign companies

< 授業のキーワード >

business, culture

< 授業の進め方 >

Lessons are structured around the textbook and weekly

online videos. Discussion of business communication will be guided by the instructor.

< 履修するにあたって >

Attendance and active participation in each class is mandatory. Students are expected to use only English in the classroom. Students must purchase and use the textbooks. Online classes can be found at <https://classroom.google.com/c/NDUwMjU5NzQxMTIy?cjc=vjhnnzt>

< 授業時間外に必要な学修 >

Students will be responsible for all online homework assignments in addition to work in class. Students should expect to spend approximately one hour each week outside of class to complete the homework and practice and review the vocabulary.

< 提出課題など >

Online assignments must be submitted by the due date on the course website. Any questions regarding homework should be directed to Professor Schalow at ijinkanmail@gmail.com

< 成績評価方法・基準 >

80% of the grade will be based on weekly quizzes, and 20% on attendance and class discussion.

< テキスト >

イラスト記憶法で脳に刷り込む英単語1880 ISBN 4860639693

< 授業計画 >

第1回 Week 01- Introduction

Introduction to the course and the story of Shitamachi Rocket

第2回 Week 02

Story and Vocabulary of Shitamachi Rocket -01

第3回 Week 03

Story and Vocabulary of Shitamachi Rocket -02

第4回 Week 04

Story and Vocabulary of Shitamachi Rocket -03

第5回 Week 05

Story and Vocabulary of Shitamachi Rocket -04

第6回 Week 06

Story and Vocabulary of Shitamachi Rocket -05

第7回 Week 07

Story and Vocabulary of Shitamachi Rocket -06

第8回 Week 08

Story and Vocabulary of Shitamachi Rocket -07

第9回 Week 09

Story and Vocabulary of Shitamachi Rocket -08

第10回 Week 10

Story and Vocabulary of Shitamachi Rocket -09

第11回 Week 11

Story and Vocabulary of Shitamachi Rocket -10

第12回 Week 12

Story and Vocabulary of Shitamachi Rocket -11

第13回 Week 13

Story and Vocabulary of Shitamachi Rocket -12

第14回 Week 14

Story and Vocabulary of Shitamachi Rocket -13

第15回 Week 15

Conclusions and Final Assessment

2022年度 後期

2.0単位

ビジネス中国語

張 麗静

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

この科目は、GC学部のDPに示す、「実践的で高度な外国語の運用ができる」ことを目指す。

この科目は中国語コース実践中国語（選択）科目に位置付けられる。授業は三回生を対象とする授業であり、受講生が卒業後に速やかにビジネス現場に慣れるための事前準備でもある。授業では、ビジネス現場に必要な中国語の語学力を身に付けることを重点とする。中国の新聞やインターネット上の中国経済・ビジネスに関する情報、特に日本との関連性がある情報を通じて、時代の変化に伴う中国の経済情報を把握する。その上、ビジネス現場で実用的な文章（例えば、広告宣伝、セールス、契約、オーダー、請求）を講読し、例文をまね、関連書類の作成ができるようになることを目指す。

< 到達目標 >

- 1) インターネットや新聞を通じて、中国の最新ビジネス情報を把握することができる。（知識）
- 2) 中日貿易における関係知識を身に付けることができる。（知識）
- 3) 貿易現場で役に立つ中国語能力を習得することができる。（技能）

< 授業のキーワード >

中国のビジネス情報、会話、作文

< 授業の進め方 >

- 1) 毎回の授業の最初に、インターネットや新聞を通じて、中国の最新ビジネス情報を確認する。
- 2) ビジネス現場で実用的な文章を講読し、例文をまね、関連書類の作成を練習する。
- 3) ビジネス現場を模擬し、実践のようなことを体験する。

< 履修するにあたって >

- 1) 関連文章を読みながら、語学力の向上精神を常に持つこと。
- 2) 授業に辞書を携帯すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修 授業計画の各回で指示された内容を繰り返し練習すること。

事前学習として、授業の対象となる教科書の箇所を読み込んでおくこと。（1時間程度）

事後学習として、授業内容を再確認した上で関連文章を読むこと。また、日本のマスコミに報道された中日に関するビジネス情報に留意すること。（1時間程度）

< 提出課題など >

授業中に作文したものを提出する。提出されたものは次の授業でコメント、解説を行う。

< 成績評価方法・基準 >

文献講読 50%、ビジネス文書作成 40%、模擬場面の演習 10%

< テキスト >

①張黎 主編『商務漢語拓展』，（中国）北京大学出版社，2018年8月第1版

* 授業中に販売します。教科書代3000円を第1回目の授業時に用意してください。

藤本恒、張黎、胡士雲著『日中対照ビジネス文書大全』（抜粋），東方書店，1995年11月（授業中に配布する）

< 参考図書 >

藤本恒、戸毛敏美、胡士雲著『中日日中貿易用語辞典』，東方書店，2006年12月

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業計画と進め方についての説明、中国語能力の確認テストを行う（オンライン授業の場合、実施しない）。

第2回 ビジネス文献講読（1）

第一課 您有没有兴趣合作（课文1）

- ・日中経済・貿易関係の現状
- ・広告宣伝の文例を講読する

第3回 ビジネス文献講読（2）

第一課 您有没有兴趣合作（课文2）

- ・照会の文例を講読する

第4回 ビジネス文献講読（3）

ビジネス文書作成 ①

第一課 您有没有兴趣合作（课文3）

- ・広告宣伝文の作成を練習する①

第5回 ビジネス文献講読（4）

第二課 新品有非常好的卖点（课文1/课文2）

- ・オーダーの文例を講読する

第6回 ビジネス文献講読（5）

第二課 新品有非常好的卖点（课文3）

- ・交渉の文例を講読する

第7回 ビジネス文献講読（6）

ビジネス文書作成 ②

第三課 你们公司非常有实力（课文1/课文2）

- ・交渉文の作成を練習する②

- 第8回 ビジネス文献講読(7)
 第三課 你们公司非常有实力(课文3)
 ・依頼の文例を講読する
- 第9回 ビジネス文献講読(8)
 第四課 我们可以给你打个九折(课文1/课文2)
 ・招待の文例を講読する
- 第10回 ビジネス文献講読(9)
 ビジネス文書作成 ③
 第四課 我们可以给你打个九折(课文3)
 ・依頼文の作成を練習する③
- 第11回 ビジネス文献講読(10)
 第五課 我想做捆绑销售(课文1/课文2)
 ・お祝いの文例を講読する
- 第12回 ビジネス文献講読(11)
 第五課 我想做捆绑销售(课文3)
 ・感謝・陳謝の文例を講読する
- 第13回 ビジネス文献講読(12)
 ビジネス文書作成 ④
 第六課 这些 让 利的 费用 谁 来 承担 呢(课文1)
 感謝文の作成を練習する④
 商务交际活动模拟演习 グループ分け
- 第14回 ビジネス文献講読(13)
 ビジネス実践の模擬演習①
 第六課 这些 让 利的 费用 谁 来 承担 呢(课文2/课文3)
 商务交际活动模拟演习①
- 第15回 ビジネス実践の模擬演習②
 商务交际活动模拟演习②

 2022年度 前期
 2.0単位
 ビジネス中国語
 張 麗静

< 授業の方法 >
 講義

< 授業の目的 >

この科目は、GC学部のDPに示す、「実践的で高度な外国語の運用ができる」ことを目指す。

この科目は中国語コース実践中国語(選択)科目に位置付けられ、ビジネス中国語の継続授業である。授業は四回生を対象とする授業であり、受講生が卒業後に速やかにビジネス現場に慣れるための事前準備でもある。授業では、ビジネス現場で必要な中国語の語学力を身に付けることを重点とする。中国の新聞やインターネット上の中国経済・ビジネスに関する情報、特に日本との関連性がある情報を通じて、時代の変化に伴う中国の経済情報を把握する。その上、関連書類の作成を練習する。

< 到達目標 >

- 1) インターネットや新聞を通じて、中国の最新ビジネス情報を把握することができる。(知識)
- 2) 中日貿易における関係知識を身に付けることができる。(知識)
- 3) 貿易現場で役に立つ中国語能力を習得することができる。(技能)

< 授業のキーワード >

中国のビジネス情報、会話、作文

< 授業の進め方 >

- 1) 毎回の授業の最初に、インターネットや新聞を通じて、中国の最新ビジネス情報を確認する。
- 2) ビジネス現場で実用的な文章を講読し、例文をまね、関連書類の作成を練習する。
- 3) ビジネス現場を模擬し、実践のようなことを体験する。

< 履修するにあたって >

- 1) 関連文章を読みながら、語学力の向上精神を常に持つこと。

- 2) 授業に辞書を携帯すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修授業計画の各回で指示された内容を繰り返し練習すること。

事前学習として、授業の対象となる教科書の箇所を読み込んでおくこと。(1時間程度)

事後学習として、授業内容を再確認した上で関連文章を読むこと。また、日本のマスコミに報道された中日に関するビジネス情報に留意すること。(1時間程度)

< 提出課題など >

授業中に作文したものを提出する。提出されたものは次の授業でコメント、解説を行う。

< 成績評価方法・基準 >

文献講読 60%、ビジネス文書作成 40%

< テキスト >

①張黎 主編『商務漢語拓展』,(中国)北京大学出版社,2018年8月第1版

* 授業中に販売します。教科書代3000円を第1回目の授業時に用意してください。

< 参考図書 >

藤本恒、張黎、胡士雲著 『日中対照ビジネス文書大全』(抜粋),東方書店,1995年11月

藤本恒、戸毛敏美、胡士雲著 『中日日中貿易用語辞典』、東方書店、2006年12月

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

ビジネス文献講読(1)

授業計画の説明

第六課 这些让利的费用谁来承担 呢(课文1)

第2回 ビジネス文献講読(2)

第六課 这些让利的费用谁来承担 呢(课文2/课文3)

中国語のビジネスに関する新聞記事を講読(1)

第3回 ビジネス文献講読(3)
 第七課 公司決定撤回这批货(课文1/课文2)
 中国語のビジネスに関する新聞記事を講読(2)
 第4回 ビジネス文献講読(4)
 ビジネス文書作成①
 第七課 公司決定撤回这批货(课文3)
 ビジネス文書の作成を練習する①
 第5回 ビジネス文献講読(5)
 第八課 只要条件合适就行(课文1/课文2)
 中国語のビジネスに関する新聞記事を講読(3)
 第6回 ビジネス文献講読(6)
 第八課 只要条件合适就行(课文3)
 中国語のビジネスに関する新聞記事を講読(4)
 第7回 ビジネス文献講読(7)
 第九課 怎么搞的(课文1/课文2)
 中国語のビジネスに関する新聞記事を講読(5)
 第8回 ビジネス文献講読(8)
 ビジネス文書作成②
 第九課 怎么搞的(课文3)
 ビジネス文書の作成を練習する②
 第9回 ビジネス文献講読(9)
 第十課 我们的产品为什么被禁售(课文1/课文2)
 中国語のビジネスに関する新聞記事を講読(6)
 第10回 ビジネス文献講読(10)
 第十課 我们的产品为什么被禁售(课文3)
 中国語のビジネスに関する新聞記事を講読(7)
 第11回 ビジネス文献講読(11)
 第十一課 应该重新调整机构和分工(课文1)
 中国語のビジネスに関する新聞記事を講読(8)
 第12回 ビジネス文献講読(12)
 ビジネス文書作成③
 第十二課 这是个有挑战性的职位(课文1)
 ビジネス文書の作成を練習する③
 第13回 ビジネス文献講読(13)
 第十三課 你们要改进生产标准(课文1)
 中国語のビジネスに関する新聞記事を講読(9)
 第14回 ビジネス文献講読(14)
 第十四課 这次活动采取整合营销策略(课文1)
 中国語のビジネスに関する新聞記事を講読(10)
 第15回 ビジネス文献講読(15)
 ビジネス文書作成④
 第十五課 咱们最近的财务状况如何(课文1)
 ビジネス文書の作成を練習する④

 2022年度 後期

2.0単位

ビジネス日本語 【2020～】

栗原 由加

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この授業は、学部共通科目の現地研修関連科目に属し、ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ようになるための授業です。この授業では、文書作成方法を中心に、職場で必要とされる技能を伸ばすことを目的とします。

なお、この授業の担当者は、一般財団法人での業務管理の実務経験がある教員です。実践的な観点から、職場で必要とされる技能のトレーニングを行います。

< 到達目標 >

- ・インターンシップ応募や就職活動で必要とされる基本的な文書作成技術を身に付ける。

- ・日本企業や社会についての知識を深める。

< 授業のキーワード >

インターンシップ、就職、文書作成

< 授業の進め方 >

受講生の主体的な活動を重視する演習形式です。ディスカッションや実践練習をしながら授業を進めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で練習したことを、授業外でも積極的に活用してください。

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

< 成績評価方法・基準 >

課題の取り組み50%、提出課題50%

< テキスト >

プリントを配布します。

< 授業計画 >

第1回 履歴書の書き方(基本)

住所と学歴の書き方を学びます。

第2回 履歴書の書き方(基本)

「自己PR」の書き方を学びます。

第3回 履歴書の書き方(基本)

自分の「自己PR」を書きます。

第4回 履歴書の書き方(基本)

「学生時代に力を入れたこと」の書き方を学びます。

第5回 履歴書の書き方(基本)

自分の「学生時代に力を入れたこと」を書きます。

第6回 履歴書の書き方(基本)

「演習、研究課題」「趣味、特技」の書き方を学びます。

第7回 履歴書の書き方(基本)

自分の「演習、研究課題」「趣味、特技」を書きます。

第8回 履歴書の書き方(基本)

履歴書を手書きする時のポイントを学びます。

第9回 履歴書の書き方(基本)

自分の履歴書を手書きで清書します。

第10回 ビジネス会話（基本）

ビジネススタイルで話す時のポイントを学びます。

第11回 ビジネス会話（基本）

自分の「自己PR」を話す練習をします。

第12回 ビジネス会話（基本）

自分の「学生時代に力を入れたことを」を話す練習をします。

第13回 ビジネス会話（基本）

自分の「演習、研究課題」を話す練習をします。

第14回 ビジネス会話（基本）

自分の「趣味、特技」を話す練習をします。

第15回 ふりかえり

これまでの授業の内容をふりかえり、ビジネスで必要とされる基本的な技能について復習します。

2022年度 前期

2.0単位

ビジネス日本語

吉川 夏渚子

< 授業の方法 >

対面授業

教員の連絡先は、次のとおりです。

（吉川） kanako330@gc.kobegakuin.ac.jp

< 授業の目的 >

この授業は、日本語コース科目実践日本語に属し、ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」ようになるための授業です。日本企業で活躍するために必要なビジネスマナーやコミュニケーション、異文化理解などを習得します。また、社会人として必要な時事ニュースに関心を持ち、自分の意見も交えて相手に分かりやすく伝える技術も身につけることも目指します。

< 到達目標 >

1) 日本の職場で働くための基本的なマナーや考え方を理解できる。

2) 練習・演習で身に付けた高度な知識、日本語能力を日常的にも生かすことができる。

3) BJT試験の要領を身に付け、決められた時間内に確実に解答できる。

< 授業のキーワード >

ビジネス日本語力アップ

< 授業の進め方 >

・テキスト（プリント）を使って練習問題と解説を繰り返します。

< 履修するにあたって >

学生のレベルや人数により、計画は変更する可能性があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

< 成績評価方法・基準 >

授業への取り組み20%、課題提出20%、小テスト60%。

3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

< 参考図書 >

授業中に紹介します。

< 授業計画 >

第1回 授業ガイダンス

授業の進め方及び就職活動を意識した自己紹介を行う。

第2回 接客の基本項目

ビジネスマナーとしての身だしなみや挨拶の仕方を身につけます。

第3回 コミュニケーション

話し方と聞き方の基本的なマナー、接客の言葉づかいを身につけます。

第4回 敬語

敬語の基本（用法、種類、使い方）を理解し、練習問題に取り組みます。

第5回 敬語

間違いやすい敬語、クッション言葉、助詞の使い方を学びます。

第6回 社会人としての心構え

職場のルールとマナー、企業内のコミュニケーションの取り方を学びます。

第7回 ビジネスマナー

来客対応、席次、電話対応などの基本を学び、練習問題に取り組みます。

第8回 異文化適応能力

異文化コミュニケーションに関する基本的な知識を身につけます。

第9回 企業内でのコミュニケーションの取り方

企業内で必要なコミュニケーションの取り方を学びます。

第10回 企業内でのコミュニケーションの取り方

企業内で必要なコミュニケーションの取り方を学びます。

第11回 企業内でのコミュニケーションの取り方

企業内で必要なコミュニケーションの取り方を学びます。

第12回 電話応対

電話応対のマナーや表現などを学びます。

第13回 来客応対

来客対応のマナーや表現などを学びます。

第14回 仕事に役立つ雑談

仕事に役立つ雑談がどのようなものかを学び、練習をします。

第15回 復習、総まとめ

これまでの総復習を行います。

2022年度 後期

2.0単位

ビジネス日本語

吉川 夏渚子

< 授業の方法 >

演習

教員の連絡先は、次のとおりです。

(吉川) kanako330@gc.kobegakuin.ac.jp

< 授業の目的 >

この授業は、? 本語コース科? に属し、実践? 本語のひとつに位置づけられます。この授業では、ビジネスで必要とされる会話?、ビジネスマナーの能? を総合的に伸ばすことを? 的とします。

< 到達目標 >

・就職活動の際に必要とされる基本的な会話技術を? に付ける。

・ビジネスにおいて、話し? 葉としてよく使われる敬語表現を? に付ける。

・ビジネスで必要とされる、基本的なマナーを? に付ける。

・? 本企業や社会についての知識を深める。

< 授業のキーワード >

就職活動、会話

< 授業の進め方 >

受講生の主体的な活動を重視する演習形式です。ディスカッションや実践練習をしながら授業を進めます。

< 履修するにあたって >

学生のレベルや人数により、計画は変更する可能性があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で練習したことを、就職活動でも積極的に活用してください。

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度? ってください。

< 提出課題など >

面接練習の時に、準備原稿の提出を求めます。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の取り組み (授業中のマナー、積極性、主体性等) 30%、課題提出20%、小テスト(発表含む) 50%

3分の1以上の欠席は、評価の対象外とします。遅刻3回

で欠席1回とみなします。

< テキスト >

プリントを配布します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

就職活動に必要なビジネス? 本語の説明をします。また、?? 紹介の練習を

します。

第2回 電話対応

電話の受け? を学びます。

第3回 電話対応

電話のかけ? を学びます。

第4回 電話対応

電話で、予約変更を依頼する? 法を学びます。

第5回 ? 接のマナー

? 接のマナーの概要を学びます。

第6回 ? 接のマナー

? 接のマナーの実践練習をします。

第7回 ? 接での話し?

? 接での話し? 葉の特徴を学びます。

第8回 ? 接での話し?

? 分の? 所について話す? 法を学びます。

第9回 ? 接での話し?

? 学生生活で? 番? を? れたことについて話す? 法を学びます。

第10回 ? 接での話し?

志望動機について話す? 法を学びます。

第11回 ? 接での話し?

? 接の実践練習をします。

第12回 面接まとめ

面接の総復習及び小テストを行います。

第13回 グループディスカッション

グループディスカッションとはどのような? 接? 式かを学びます。

第14回 グループディスカッション

グループディスカッションで面接の練習を行います。

第15回 総まとめ

面接及び学習した内容の総まとめを行います。

2022年度 後期

2.0単位

ビジネス日本語

栗原 由加

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この授業は、実践日本語科目に属し、ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用がで

きる」「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ようになるための授業です。ビジネスで必要とされる文書作成能力を総合的に伸ばすことを目的とします。

なお、この授業の担当者は、一般財団法人での業務管理の実務経験がある教員です。企業の採用活動、学生の就職活動に関する知識と経験をもとに、ビジネススタイルの文書作成のための実践的なトレーニングを行います。

<到達目標>

- ・就職活動の際に必要なとされる基本的な文書作成技術を身に付ける。
- ・ビジネスにおいて、書き言葉としてよく使われる敬語表現を身に付ける。
- ・ビジネスで必要とされる、基本的なマナーを身に付ける。
- ・日本企業や社会についての知識を深める。

<授業のキーワード>

就職活動、エントリーシート、面接

<授業の進め方>

受講生の主体的な活動を重視する演習形式です。ディスカッションや実践練習をしながら授業を進めます。

<授業時間外に必要な学修>

授業で練習したことを、就職活動でも積極的に活用してください。

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

<提出課題など>

毎回、授業テーマに沿った作文の宿題を課します。

<成績評価方法・基準>

授業中の取り組み40%、提出課題50%、授業でのマナー10%

3分の1以上の欠席は、評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

<テキスト>

プリントを配布します。

<授業計画>

第1回 メールの書き方

メールの基本的なレイアウトと書き方を学びます。

第2回 エントリーシート

長所について書く方法を学びます。

第3回 エントリーシート

長所について詳しく書く方法を学びます。

第4回 エントリーシート

短所について書く方法を学びます。

第5回 エントリーシート

短所について詳しく書く方法を学びます。

第6回 エントリーシート

大学生活で一番力を入れたことについて書く方法を学びます。

第7回 エントリーシート

大学生活で一番力を入れたことについて詳しく書く方法を学びます。

第8回 エントリーシート

志望動機について書く方法を学びます。

第9回 エントリーシート

志望動機について詳しく書く方法を学びます。

第10回 エントリーシート

大学での研究内容について書く方法を学びます。

第11回 エントリーシート

大学での研究内容について、詳しく書く方法を学びます。

第12回 面接練習

自分の長所について話す練習をします。

第13回 面接練習

大学時代に一番力を入れたことについて話す練習をします。

第14回 面接練習

志望動機について話す練習をします。

第15回 面接練習

グループで話す練習をします。

2022年度 前期

2.0単位

ビジネス日本語基礎

栗原 由加

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この授業は、日本語コース科目実践日本語に属し、ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ようになるための授業です。日本語の敬語が正しく使えるようになることを目的とします。

なお、この授業の担当者は、一般財団法人での業務管理の実務経験がある教員です。職場での言葉遣いという実践的な観点から、敬語のトレーニングを行います。

<到達目標>

- ・日本語の敬語について、全体的な知識を身に付けることができる。
- ・日本語の敬語が正しく使えるようになる。

<授業のキーワード>

敬語

<授業の進め方>

受講生の主体的な参加を重視する講義形式です。ディスカッションや実践練習をしながら授業を進めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で練習したことを、普段の生活でも積極的に活用してください。

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

< 提出課題など >

「練習」でテストを行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の取り組み50%、テスト50%

3分の1以上の欠席は、評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

< テキスト >

プリントを配布します。

< 授業計画 >

第1回 尊敬語

「れる・られる」表現の使い方を学びます。

第2回 尊敬語

「お・ご~になる」表現の使い方を学びます。

第3回 尊敬語

尊敬語の特別な形の使い方を学びます。

第4回 謙譲語

「お・ご~する」表現の使い方を学びます。

第5回 謙譲語

謙譲語の特別な形の使い方を学びます。

第6回 謙譲語

謙譲語の使い方の注意点について学びます。

第7回 練習

動詞の形の変化に重点を置いて、尊敬語と謙譲語の使い方を練習します。

第8回 練習

表現に重点を置いて、尊敬語と謙譲語の使い方の実践練習をします。

第9回 丁寧語

動詞の丁寧語、「させていただきます」の使い方を学びます。

第10回 丁寧語

丁寧語と謙譲語の使い分けを学びます。

第11回 丁寧語

「ございます」の使い方を学びます。

第12回 丁寧語

名詞の丁寧表現の使い方を学びます。

第13回 練習

敬語の全体像について確認し、敬語を使った表現の実践練習をします。

第14回 授受表現

敬語と関連させて、授受表現の使い方を学びます。

第15回 練習

これまでの学習内容を振り返ります。

2022年度 後期

2.0単位

ホスピタリティ英語 (A)

中嶋 アンディ 史人

< 授業の方法 >

講義、演習、実習(対面授業 及び リアルタイム/オンデマンド授業併用)

中嶋 アンディ 史人<andynakajima@gc.kobegakuin.ac.jp>

特別警報(すべての特別警報)または暴風警報発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目の取扱いについて 授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合は、ご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としており、特に、旅行業務で使用される英語に関する運用能力を身に着けることに主眼を置いている。また、文化の違いや礼儀をふまえた言語使用、言語・非言語コミュニケーション能力の向上にも力を入れる。

< 到達目標 >

This course will help you express English as a Service Industry Professional in a professional manner. Activities focus on real-world situations. You will learn specialized vocabulary and expressions, and develop skills in verbal communication, non-verbal communication, and intercultural communication.

< 授業のキーワード >

airline industries, hospitality business, hotel management, tour guide, theme parks

< 授業の進め方 >

Pair work, Group work, Lecture

< 履修するにあたって >

この授業では、ホスピタリティーに特化した英語を学びますので、ホスピタリティー業界に興味がある学習者が対象となります。また、毎週最低2時間は自宅学習に時間を使うことができる学習者のみ履修が可能です。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

<成績評価方法・基準>

Assignments, in-class activities, and quizzes 70 %
+ participation 30%

<テキスト>

『Hospitality Communication』 仁科恭徳 中西のりこ編

Published by 三修社 ISBN978 - 4 - 384 - 33477 - 7 C1
082 1700円 + 税

<授業計画>

第1回 Introduction & Unit 1
航空系—接客コミュニケーション
第2回 Unit 1
航空系—接客コミュニケーション
第3回 Unit 2
航空系—機内サービス
第4回 Unit 3
航空系—LCCとFSC
第5回 Unit 4
航空系—面接重視の航空会社
第6回 Review
Review: Unit 1-4
第7回 Unit 5
テーマパーク系—チケット販売
第8回 Unit 6
テーマパーク系—アトラクション
第9回 Unit 7
テーマパーク系—トラブル発生
第10回 Unit 8
テーマパーク系—業界の先輩メッセージ
第11回 Review
Review: Unit 5-8
第12回 Unit 9
ホテル系—ホテル業務内容
第13回 Unit 10
ホテル系—飲料部門 (F&B)
第14回 Unit 11
ホテル系—トラブル発生
第15回 Unit 12
ホテル業界就職活動

2022年度 後期

2.0単位

ホスピタリティ英語 (B)

担当者未定 (GC)

<授業の方法>

講義、演習、実習 (対面授業 及び リアルタイム / オンライン授業併用)

特別警報 (すべての特別警報) または暴風警報発令の場合 (大雨、洪水警報等は対象外) の本科目の取扱いについて 授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合は、ご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

<授業の目的>

この授業ではディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としており、特に、旅行業務で使用される英語に関する運用能力を身に着けることに主眼を置いている。また、文化の違いや礼儀をふまえた言語使用、言語・非言語コミュニケーション能力の向上にも力を入れる。

<到達目標>

This course will help you express English as a Service Industry Professional in a professional manner. Activities focus on real-world situations. You will learn specialized vocabulary and expressions, and develop skills in verbal communication, non-verbal communication, and intercultural communication.

<授業のキーワード>

airline industries, hospitality business, hotel management, tour guide, theme parks

<授業の進め方>

Pair work, Group work, Lecture

<履修するにあたって>

この授業では、ホスピタリティに特化した英語を学びますので、ホスピタリティ業界に興味がある学習者が対象となります。また、毎週最低2時間は自宅学習に時間を使うことができる学習者のみ履修が可能です。

<授業時間外に必要な学修>

毎回、予習、小テストの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

<成績評価方法・基準>

Assignments, in-class activities, and quizzes 70 %
+ participation 30%

<テキスト>

『Hospitality Communication』 仁科恭徳/中西のりこ編

Published by 三修社 ISBN978 - 4 - 384 - 33477 - 7 C1
082 1700円 + 税

<授業計画>

第1回 Introduction & Unit 1

航空系－接客コミュニケーション
第2回 Unit 1
航空系－接客コミュニケーション
第3回 Unit 2
航空系－機内サービス
第4回 Unit 3
航空系－LCCとFSC
第5回 Unit 4
航空系－面接重視の航空会社
第6回 Review
Review: Unit 1-4
第7回 Unit 5
テーマパーク系－チケット販売
第8回 Unit 6
テーマパーク系－アトラクション
第9回 Unit 7
テーマパーク系－トラブル発生
第10回 Unit 8
テーマパーク系－業界の先輩メッセージ
第11回 Review
Review: Unit 5-8
第12回 Unit 9
ホテル系－ホテル業務内容
第13回 Unit 10
ホテル系－飲料部門（F&B）
第14回 Unit 11
ホテル系－トラブル発生
第15回 Unit 12
ホテル業界就職活動

2022年度 後期

2.0単位

ホスピタリティ英語（C）

担当者未定（GC）

< 授業の方法 >

講義、演習、実習（対面授業 及び リアルタイム/オンデマンド授業併用）

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて 授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合は、ご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、

「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としており、特に、旅行業務で使用される英語に關しての運用能力を身に着けることに主眼を置いている。また、文化の違いや礼儀をふまえた言語使用、言語・非言語コミュニケーション能力の向上にも力を入れる。

< 到達目標 >

This course will help you express English as a Service Industry Professional in a professional manner. Activities focus on real-world situations. You will learn specialized vocabulary and expressions, and develop skills in verbal communication, non-verbal communication, and intercultural communication.

< 授業のキーワード >

airline industries, hospitality business, hotel management, tour guide, theme parks

< 授業の進め方 >

Pair work, Group work, Lecture

< 履修するにあたって >

この授業では、ホスピタリティに特化した英語を学びますので、ホスピタリティ業界に興味がある学習者が対象となります。また、毎週最低2時間は自宅学習に時間を使うことができる学習者のみ履修が可能です。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 成績評価方法・基準 >

Assignments, in-class activities, and quizzes 70 %
+ participation 30%

< テキスト >

『Hospitality Communication』 仁科恭徳/中西のりこ 編

Published by 三修社 ISBN978 - 4 - 384 - 33477 - 7 C1
082 1700円 + 税

< 授業計画 >

第1回 Introduction & Unit 1
航空系－接客コミュニケーション
第2回 Unit 1
航空系－接客コミュニケーション
第3回 Unit 2
航空系－機内サービス
第4回 Unit 3
航空系－LCCとFSC
第5回 Unit 4
航空系－面接重視の航空会社
第6回 Review
Review: Unit 1-4
第7回 Unit 5
テーマパーク系－チケット販売

第8回 Unit 6
 テーマパーク系ーアトラクション
 第9回 Unit 7
 テーマパーク系ートラブル発生
 第10回 Unit 8
 テーマパーク系ー業界の先輩メッセージ
 第11回 Review
 Review: Unit 5-8
 第12回 Unit 9
 ホテル系ーホテル業務内容
 第13回 Unit 10
 ホテル系ー飲料部門 (F&B)
 第14回 Unit 11
 ホテル系ートラブル発生
 第15回 Unit 12
 ホテル業界就職活動

 2022年度 前期

2.0単位

メディア・コミュニケーション

東 淳一

 < 授業の方法 >

Lecture style. If online style is required, learning materials and instructions for learning will be stored at : {GCsquare,http://gcsquare.kobegakuin.ac.jp/}

< 授業の目的 >

Students are expected to learn the historical change of communication media. Following the historical background, students will learn about the evolution of the media and the major characteristics of each media. The impact of these media on people's lives and society is also an important aspect to be learned. Although it has only a short history span, we will also learn about the impact of the Internet in detail. In a sense, media exists for communication and communication is impossible without using media. In addition to communication by language, music performance, dance, gesture, facial expression, advertisement in the business world are also considered forms of communication, and the relationship between these activities and the media should be also examined.

This course has a close link to the diploma policies of the faculty such as "students can cooperate with others and can cultivate the communication skill to collaborate with others" as well as "students can learn a wide range of knowledge and concept

s that form the fundamentals of the language in the community, namely, the features of culture, history, politics and economy."

< 到達目標 >

Students will be able to understand and explain how media and our communication style changed in the course of the time since the time when our ancestors had very little ability to manufacture and use the tools. There is also a chance to learn the pros and cons of today's advanced media, how media will further evolve in the future and affect our communication style.

< 授業の進め方 >

This class is managed in face-to-face style. Please access the Learning Management System "{GCsquare,http://gcsquare.kobegakuin.ac.jp/}" frequently. You can find necessary learning materials and assignments there.

< 履修するにあたって >

This course will be managed all in (easy) English.

< 授業時間外に必要な学修 >

At least 1 hour of self-study outside the class will be required each week for this course, including assignments.

< 提出課題など >

Students will be requested to submit reports and mini-essays. These are to be submitted through our LMS, GCsquare. Feedback for the class will be done online too.

< 成績評価方法・基準 >

Reports and mini-essays (40%), online quizzes and tests (40%), presentation during the class (20%)

< テキスト >

To be announced during the class.

< 参考図書 >

To be announced during the class.

< 授業計画 >

- 1 Introduction: What is media?
 General introduction to the course. Role of the media in communication will be discussed.
- 2 Air as one form of media (1)
 Process of speech production and speech perception
- 3 Air as one form of media (2)
 Prosodic features (intonation, pause, rhythm, etc.) and para-linguistic features of language
- 4 Primitive communication media
 Non-verbal communication in broader sense
- 5 Technology and media
 Impact of movable type on society
- 6 Features of traditional media

Analogue media, problems of sequential access, age of radio and television and one-to-many communication (broadcasting)

7 Traditional media and economic activities

Marketing communication with traditional media

8 Traditional media and education

Education with one-to-many communication media, depending on (paper) books, blackboard and notebook, etc.

9 Traditional media and art, politics, etc.

Use of traditional media in political, religious and artistic activities

10 Digital media and economic activities

E-commerce, SCM and digital contents business

11 Search engines and our life

How search engines affect our life with reference to the business model of search engine companies

12 Idea of open source

Impact of "open source" on our life and economic activities

13 Impact of social media

Wisdom of crowds and our life -- is the number of the stars shown in Amazon pages really reliable?

14 Rapid change and development of media business
Business model of music/movie sales on the internet, online retail shops and new financial services

15 Future of ICT and our lifestyle of the future
AI and our life, singularity problem, etc. Final examination offered during the class.

2022年度 前期

2.0単位

異文化コミュニケーション論

東 淳一、胡 士雲、シャーロー トーマス

< 授業の方法 >

講義形式。オンライン授業となる可能性があります。
オンライン授業になった場合の指示および資料配布場所：
{GCsquare, <http://gcsquare.kobegakuin.ac.jp/>}

< 授業の目的 >

この科目は、さまざまな意味でグローバルにつながった今日の社会において、受講者が異文化とは何かを理解し、異文化に属する人々との共同活動ができ、そしてそのための歩み寄りができるようにすることを目的としています。このことを実現するため、人と文化の関係を理解し、地域さらには地理的な概念とは別のコミュニティと文化の関係などを学術的にとらえることができるようにし、具体例を通じてこれら内容を理解できるようにする必要があります。この科目は、グローバル・コミュニケーション学部のディプロマ・ポリシーにある「他者と協調、協

働できるコミュニケーション力を持つことができる」という項目と強い関係にあり、単に知識を吸収するだけではなく、受講者のコミュニケーション能力の変容に直結することが期待されています。

< 到達目標 >

- 1) 文化とは何かについて、具体的に説明できる。
- 2) 文化とコミュニケーション、メディアについての関連性を説明できる。
- 3) 異文化について、具体的に説明できる。
- 4) 異文化交流、文化間の衝突について説明できる。
- 5) 日本、中国、欧米の文化についてその差異と文化交流のあり方について説明し自分の意見を述べることができる。
- 6) グローバル化する世界において異文化コミュニケーションのあり方について説明し自分の意見を述べるができる。

< 授業のキーワード >

文化、下位文化、コミュニケーション、メディア、地域と文化、コミュニティと文化、ノンバーバルコミュニケーション、言語、国家、政治

< 授業の進め方 >

第1回? 5回（東担当）の資料配布場所、課題提出場所：
{GCsquare, <http://gcsquare.kobegakuin.ac.jp/>}

第11回～15回（胡担当）は、授業後に「受講カード」を記入することで、詳細は授業中に説明する。

< 履修するにあたって >

オンライン授業実施の場合、各回の授業計画には変更があり得ます。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業中の学習を確実にするため、授業外の学習として講義1回につき約60分が必要です。

< 提出課題など >

ミニレポート、レポート各担当教員がそれぞれ指示します。これら課題等に対するフィードバックはメールあるいはGCsquare等で行います。

< 成績評価方法・基準 >

成績評価は、各担当教員が指示する課題の評価点を各担当者の最終評価を同じ重み付けで合計して100点満点に換算することで行われます。

< テキスト >

各担当教員が適宜指示します。

< 参考図書 >

各担当教員が適宜指示します。

< 授業計画 >

第1回 文化とは何か（東淳一）

文化とはどういうものなのでしょうか？人間社会は文化をどのように構築してきたのでしょうか？文化の共有、文化の継承、文化の衝突など、人類にとっての文化の意味を考えます。

第2回 文化とコミュニケーション（東淳一）

文化が成立するにはコミュニケーションが成立しなければなりません。コミュニケーションの本質とはどのようなものでしょう。地域やコミュニティによってコミュニケーションはどのように異なるのでしょうか。また、それが文化形成にどのように機能するのでしょうか。広く文化とコミュニケーションについて議論を深めます。

第3回 メディアと文化（東淳一）

文化が成立するにはコミュニケーションが必要です。しかし、コミュニケーションが成立するには何らかのメディアが必要です。メディアは文化、コミュニケーションとどのような関わりをもつのかを考えます。

第4回 異文化について考える（東淳一）

異文化とはどのようなものでしょう。単に違う民族間の異なる文化のことでしょうか。もっと身近に異文化はないのでしょうか。身近な異文化から、より規模の大きい異文化までいろいろなレベルの異文化を考え、その異文化間でのコミュニケーションがどの程度困難であるのか、あるいは平易であるのかを考察します。

第5回 21世紀の異文化交流（東淳一）

グローバル化にともない、ますます文化の衝突も生じやすくなっています。そのような衝突が国家間の政治的衝突にならないようにするため、私たちができる異文化交流にはどのようなものがあるのでしょうか。また、異文化に対する寛容さを身につけるにはどのようにすればいいのでしょうか。これらを考えることで、最初のサイクルの終わりとなります。

第6回 コミュニケーションと英語（シャーロー）

英語はグローバルな言語ですが、さまざまなところでさまざまな英語が使われている。この講義では、世界中で話されている英語の種類を調べます。 <https://classroom.google.com/c/NDQwNTU1NDU5MDkw?cjc=12f2ug4>

第7回 コミュニケーションと宗教（シャーロー）

なぜ、どのように、英語を話している 国々の宗教が重要であるか。問題を避けるために私たちは何を必要かがありますかを考えます。 <https://classroom.google.com/c/NDQwNTU1NDU5MDkw?cjc=12f2ug4>

第8回 暴力、テロ、そしてパラノイアとコミュニケーション（シャーロー）

海外、特にアメリカは危険な場所ですか？日本国外を旅行する際に、安全のために私たちは何を必要かがあるのでしょうか。 <https://classroom.google.com/c/NDQwNTU1NDU5MDkw?cjc=12f2ug4>

第9回 コミュニケーションと人種的偏見（シャーロー）

海外、特にアメリカでどのような人種差別が一般的であり、どのように日常生活に影響を及ぼすだろうか。人種差別をどのように認識し、どのように扱うべきかを学びます。 <https://classroom.google.com/c/NDQwNTU1NDU5MDkw?cjc=12f2ug4>

第10回 教育とコミュニケーション（シャーロー）

海外、特にアメリカの教育制度は日本とどう違うのでしょうか。留学に備えて海外の大学の教育について知っておくべきことは何でしょうか。 <https://classroom.google.com/c/NDQwNTU1NDU5MDkw?cjc=12f2ug4>

第11回 中日文化の異同について（胡士雲）

中国と日本との間には、文化面の共通点が多いですが、相違点も少なくありません。講義では、中日文化の異同点を紹介し、学生が中国文化への理解してもらうことを図ります。

第12回 中国語と中国文化について（胡士雲）

言語と文化は非常に密接な関係がある。人は言語を用いて意思を疎通し、その他の文化を記録し伝達できる。言い換えると、ある民族の文化は、言語の面に反映されている。それでは、使用人口が多く資料が豊富である中国語は、悠久の中華文明と多彩な伝統文化とどのような関係があるだろう。本講義は中国語から見た中国文化を紹介する。

第13回 中日の漢字について（胡士雲）

中国語も日本語もともに漢字を使用しています。中日漢字の共通点が多いですが、相違点も少なくではありません。講義では、中日漢字の異同点について説明します。

第14回 中国人の家庭観について（胡士雲）

家庭は社会の基礎であり、家庭の安定と社会の安定とは密接な関係があります。講義では、現代中国人の家庭状況や家族間の関係・家庭に関する考えなどを紹介します。

第15回 中国の飲食文化（胡士雲）

自然環境と生産物が異なることにより、違う地域に生活している人々の飲食習慣や方式などが異なります。また、飲食は各地域の文化も含んでいます。中国は国土が広く人口が多い国であり、多民族国家でもあります。そのため、中国の飲食文化は豊富多彩であり、地域や民族により異なります。講義では、中国における飲食文化を紹介する。

2022年度 後期

2.0単位

英語とコミュニケーション

東 淳一

<授業の方法>

講義と実習（対面授業）。オンライン授業になった場合の指示および資料配布場所： {GCsquare, <http://gcsquare.kobegakuin.ac.jp/>}

<授業の目的>

この授業は英語のさまざまな音声現象や文法が実際のコミュニケーションの場面でどのようになるのかを学びます。具体的には、受講者が

・実際の会話の場面で遭遇する音声のルールを理解でき、実際に運用できる、

- ・会話での音声のルールと伝統的な文法との関連および乖離を理解できる、
- ・伝統文法でのいくつかのルールについて、そのルールの成立の理屈を理解できる、
- ・英語の発話でのイントネーションやポーズ、テンポといった韻律的特徴の実態を理解できる、
- ・ジェスチャーなどのパラ言語要素が文法構造とどのように対応をなしているのかを理解できる、

等を目的とします。この科目は上の内容を理解するだけでなく、実際に受講者が自分で英語らしいコミュニケーションができるようになることも目的としており、学部のディプロマポリシーの「実践的で高度な外国語の運用ができる」という項目に対応しています。

<到達目標>

以下が到達目標である。

- ・上記の授業の目的欄のそれぞれの項目を理解し練習した上で、受講者自らが英語らしい自然なコミュニケーションができる。
- ・受講者が自然で英語らしい、いわば英語としてふさわしい韻律で英語の発話ができる。

<授業のキーワード>

音声文法、伝統文法、韻律的特徴、イントネーション、ストレス、ポーズ、リズム、音調単位、音調核、音声の崩れ、強形、弱形、フィラー、フォーカス、パラ言語、ジェスチャー、語用論、言語行為

<授業の進め方>

まず各会のテーマに関して解説をします。その後受講者はその説明を理解するだけでなく、実際に英語の発話として学んだルールを実現できなければなりません。この部分については演習的な授業となります。さらに教科書に示された朗読原稿を毎回練習し、練習後にGCsquareを通じて朗読音声をアップロードします。教科書の朗読部分については授業中にその都度告知します。

<履修するにあたって>

単に授業を聞くというだけではなく、聞いた内容を自分で英語の発話として具現できるように練習を行う姿勢が重要です。また、{GCsquare, <http://gcsquare.kobegakuin.ac.jp/>}を併用しながら授業をすすめます。

<授業時間外に必要な学修>

この科目について、宿題など授業時間外で必要となる学修の時間は一回の授業につきおおよそ60分です。小レポートやスピーチの録音などはGCsquareを使って行う予定です。

<提出課題など>

レポートおよび小レポート、スピーチの録音などの提出があります。提出は原則としてGCsquareを利用し、オンラインで行う予定です。フィードバックについてはGCsquareまたは研究室にて行います。

<成績評価方法・基準>

オンライン活動含む授業中の活動40%、スピーチ録音30%、授業内での最終試験30%により成績評価を行います。

<テキスト>

青谷優子（2017）：英語は朗読でうまくなる!、アルク、1650円（ISBN-10：4757430280、ISBN-13：978-4757430280）

<参考図書>

授業中に適宜指示します。

<授業計画>

1 導入

授業で学ぶさまざまな目新しい用語、概念について解説し、この科目全体の学習内容を展望します。

2 英語らしさを決めるものは何か

日本人の英語の特徴について観察し、さらにこの授業で使うイントネーション表記について学びます。

3 イントネーションの表記について

カジュアルな話し言葉独特の文法、音声の形について学び、英語のフォーマルなスピーチの理想的な音声特徴について観察します。また、イントネーション表記について、特に音調核の位置について学びます。

4 イントネーションの表記（続き）

イソップ童話、The Ant and the Grasshopperの朗読にあたり、イントネーションをどのようにすべきかを考えて表記します。また、その後実際に物語を朗読して録音します。

5 Drone Arsenal Fights Climate Change

イソップ童話、The Ant and the Grasshopperに続き、教科書のDrone Arsenal Fights Climate Changeのニュース朗読練習を行います。

6 World Population

テキストのWorld Populationの朗読練習を行います。

7 In Pursuit of a World Without Nuclear Weapons (1)

テキストのIn Pursuit of a World Without Nuclear Weapons (1)の朗読練習を行います。

8 In Pursuit of a World Without Nuclear Weapons (2)

テキストのIn Pursuit of a World Without Nuclear Weapons (2) の朗読練習を行います。

9 From a Railway Carriage

テキストのFrom a Railway Carriageの練習を行います。

10 Daffodils

テキストのDaffodilsの朗読練習を行います。

11 Mujina (1)

テキストのMujina (1)の朗読練習を行います。

12 Mujina (2)

テキストのMujina (2)の朗読練習を行います。

13 A Glass of Milk

テキストのA Glass of Milkの朗読練習を行います。

14 Pumpkin Treasure (1)

テキストのPumpkin Treasure (1)の朗読練習を行います。

15 Pumpkin Treasure (2)

Pumpkin Treasure (2)の学習後に、最終テストを実施します。

2022年度 後期

2.0単位

英語プレゼンテーション (A)

表谷 純子

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業では、ディプロマポリシーの中でも、「1. 実践的で高度な外国語の運用ができる」と「4. (英語コース)教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的とし、特にPowerPoint等を使用した効果的なアカデミック・プレゼンテーションを英語で行う為に必要な力を身に付けることを主眼に置いている。プレゼンテーションで使用される英語表現を習得し、アカデミック・プレゼンテーションの構成について学び、発表内容の計画、発表原稿とスライドの作成の後、発表の実技練習を行う。

< 到達目標 >

- ・PowerPoint等を使用して効果的なプレゼンテーションを英語で行う
- ・プレゼンテーションで使用される英語表現を習得する。
- ・英語プレゼンテーションの構成を理解し、論理的なプレゼンテーションを行うことができる。
- ・発表内容に関するデータを収集し要点を効果的にまとめることができる。
- ・発表の実技練習を通して非言語的コミュニケーション方略・言語コミュニケーション方略を使いこなせるようになる。

< 授業のキーワード >

英語プレゼンテーション PowerPoint 言語・非言語的コミュニケーション

< 授業の進め方 >

GCスクエアを利用して課題の提示、課題の提出、評価、フィードバックを行います。

< 履修するにあたって >

課題の提出、作成等の期限は厳守のこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、プレゼンテーション発表の準備に最低1時間、自己のプレゼンテーションの振り返り・Peer Evaluationなどに最低1時間を必要とする。

< 提出課題など >

プレゼンテーション発表に加え、発表内容のスライドや

スクリプト、評価表などの提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。
< 成績評価方法・基準 >

Presentations 50% + assignments (preparation & reflection of presentation) 50%

< テキスト >

「Winning Presentations」 Akira Morita 他 SEIBIDO 2018年 2500円+税

ISBN 978-4-7919-3424-9

< 授業計画 >

第1回 Introduction

イントロダクション、授業概要と教材の解説、進め方
Self introductions

Unit 1 Presentation Structure

第2回 Unit 2&3

Unit 2 Presentation Skills/Unit 3 Preparing for your presentation

第3回 Unit 4&9

Unit 4 How to arrange a presentation setting/ Unit 9 Section on evaluation

第4回 Unit 5

Unit 5 Type 1: Listing

第5回 Unit 6

Listing presentation with evaluation by instructor and class

Unit 6 Type 2 : Classification

第6回 Unit 7

Classification presentation with evaluation by instructor and class

Unit 7 Type 3: Process

第7回 Unit 8

Process presentation

Unit 8 Type 4: Investigation

第8回 Unit 8

Preparing investigation presentation

第9回 Unit 10

Investigation presentation with evaluation by instructor and class

Unit 10 Type 5: Persuasion

第10回 Unit 11

Persuasion presentation with evaluation by instructor and class

Unit 11 Type 6 : Problems and Solution

第11回 Unit 12

Problem-Solution presentation with evaluation by instructor and class

Unit 12 Type 7: Cause and Effect

第12回 Unit 13

Cause and Effect presentation with evaluation by instructor and class

Unit 13 type 8 : Comparison and Contrast

第13回 Unit 14

Comparison and Contrast presentation with evaluation by instructor and class

Unit 14 Giving Your Proposal Presentation

第14回 Presentation

Working on Your Proposal Presentation

第15回 Presentation

Presenting Your Proposal Presentation, Evaluation & Feedback

2022年度 後期

2.0単位

英語プレゼンテーション (B)

担当者未定 (GC)

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業では、ディプロマポリシーの中でも、「1. 実践的で高度な外国語の運用ができる」と「4. (英語コース) 教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的とし、特にPowerPoint等を使用した効果的なアカデミック・プレゼンテーションを英語で行う為に必要な力を身に付けることを主眼に置いている。プレゼンテーションで使用される英語表現を習得し、アカデミック・プレゼンテーションの構成について学び、発表内容の計画、発表原稿とスライドの作成の後、発表の実技練習を行う。

< 到達目標 >

- ・PowerPoint等を使用して効果的なプレゼンテーションを英語で行う
- ・プレゼンテーションで使用される英語表現を習得する。
- ・英語プレゼンテーションの構成を理解し、論理的なプレゼンテーションを行うことができる。
- ・発表内容に関するデータを収集し要点を効果的にまとめることができる。
- ・発表の実技練習を通して非言語的コミュニケーション方略・言語コミュニケーション方略を使いこなせるようになる。

< 授業のキーワード >

英語プレゼンテーション PowerPoint 言語・非言語的コミュニケーション

< 授業の進め方 >

GCスクエアを利用して課題の提示、課題の提出、評価、フィードバックを行います。

< 履修するにあたって >

課題の提出、作成等の期限は厳守のこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、プレゼンテーション発表の準備に最低1時間、自己のプレゼンテーションの振り返り・Peer Evaluationなどに最低1時間を必要とする。

< 提出課題など >

プレゼンテーション発表に加え、発表内容のスライドやスクリプト、評価表などの提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

Presentations 50% + assignments (preparation & reflection of presentation) 50%

< テキスト >

「Winning Presentations」 Akira Morita 他 SEIBIDO 2018年 2500円 + 税

ISBN 978-4-7919-3424-9

< 授業計画 >

第1回 Introduction

イントロダクション、授業概要と教材の解説、進め方
Self introductions

Unit 1 Presentation Structure

第2回 Unit 2&3

Unit 2 Presentation Skills/Unit 3 Preparing for your presentation

第3回 Unit 4&9

Unit 4 How to arrange a presentation setting/ Unit 9 Section on evaluation

第4回 Unit 5

Unit 5 Type 1: Listing

第5回 Unit 6

Listing presentation with evaluation by instructor and class

Unit 6 Type 2 : Classification

第6回 Unit 7

Classification presentation with evaluation by instructor and class

Unit 7 Type 3: Process

第7回 Unit 8

Process presentation

Unit 8 Type 4: Investigation

第8回 Unit 8

Preparing investigation presentation

第9回 Unit 10

Investigation presentation with evaluation by instructor and class

Unit 10 Type 5: Persuasion

第10回 Unit 11

Persuasion presentation with evaluation by instructor

tor and class

Unit 11 Type 6 : Problems and Solution

第11回 Unit 12

Problem-Solution presentation with evaluation by instructor and class

Unit 12 Type 7: Cause and Effect

第12回 Unit 13

Cause and Effect presentation with evaluation by instructor and class

Unit 13 type 8 : Comparison and Contrast

第13回 Unit 14

Comparison and Contrast presentation with evaluation by instructor and class

Unit 14 Giving Your Proposal Presentation

第14回 Presentation

Working on Your Proposal Presentation

第15回 Presentation

Presenting Your Proposal Presentation, Evaluation & Feedback

2022年度 後期

2.0単位

英語プレゼンテーション (C)

表谷 純子

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業では、ディプロマポリシーの中でも、「1. 実践的で高度な外国語の運用ができる」と「4. (英語コース) 教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的とし、特にPowerPoint等を使用した効果的なアカデミック・プレゼンテーションを英語で行う為に必要な力を身に付けることを主眼に置いている。プレゼンテーションで使用される英語表現を習得し、アカデミック・プレゼンテーションの構成について学び、発表内容の計画、発表原稿とスライドの作成の後、発表の実技練習を行う。

< 到達目標 >

- ・PowerPoint等を使用して効果的なプレゼンテーションを英語で行う
- ・プレゼンテーションで使用される英語表現を習得する。
- ・英語プレゼンテーションの構成を理解し、論理的なプレゼンテーションを行うことができる。
- ・発表内容に関するデータを収集し要点を効果的にまとめることができる。
- ・発表の実技練習を通して非言語的コミュニケーション方略・言語コミュニケーション方略を使いこなせるようになる。

< 授業のキーワード >

英語プレゼンテーション PowerPoint 言語・非言語的コミュニケーション

< 授業の進め方 >

GCスクエアを利用して課題の提示、課題の提出、評価、フィードバックを行います。

< 履修するにあたって >

課題の提出、作成等の期限は厳守のこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、プレゼンテーション発表の準備に最低1時間、自己のプレゼンテーションの振り返り・Peer Evaluationなどに最低1時間を必要とする。

< 提出課題など >

プレゼンテーション発表に加え、発表内容のスライドやスクリプト、評価表などの提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

Presentations 50% + assignments (preparation & reflection of presentation) 50%

< テキスト >

「Winning Presentations」 Akira Morita 他 SEIBIDO 2018年 2500円 + 税

ISBN 978-4-7919-3424-9

< 授業計画 >

第1回 Introduction

イントロダクション、授業概要と教材の解説、進め方

Self introductions

Unit 1 Presentation Structure

第2回 Unit 2&3

Unit 2 Presentation Skills/Unit 3 Preparing for your presentation

第3回 Unit 4&9

Unit 4 How to arrange a presentation setting/ Unit 9 Section on evaluation

第4回 Unit 5

Unit 5 Type 1: Listing

第5回 Unit 6

Listing presentation with evaluation by instructor and class

Unit 6 Type 2 : Classification

第6回 Unit 7

Classification presentation with evaluation by instructor and class

Unit 7 Type 3: Process

第7回 Unit 8

Process presentation

Unit 8 Type 4: Investigation

第8回 Unit 8

Preparing investigation presentation
 第9回 Unit 10
 Investigation presentation with evaluation by instructor and class
 Unit 10 Type 5: Persuasion
 第10回 Unit 11
 Persuasion presentation with evaluation by instructor and class
 Unit 11 Type 6 : Problems and Solution
 第11回 Unit 12
 Problem-Solution presentation with evaluation by instructor and class
 Unit 12 Type 7: Cause and Effect
 第12回 Unit 13
 Cause and Effect presentation with evaluation by instructor and class
 Unit 13 type 8 : Comparison and Contrast
 第13回 Unit 14
 Comparison and Contrast presentation with evaluation by instructor and class
 Unit 14 Giving Your Proposal Presentation
 第14回 Presentation
 Working on Your Proposal Presentation
 第15回 Presentation
 Presenting Your Proposal Presentation, Evaluation & Feedback

 2022年度 後期

2.0単位

英語プレゼンテーション (D)

担当者未定 (GC)

 < 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業では、ディプロマポリシーの中でも、「1. 実践的で高度な外国語の運用ができる」と「4. (英語コース) 教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的とし、特にPowerPoint等を使用した効果的なアカデミック・プレゼンテーションを英語で行う為に必要な力を身に付けることを主眼に置いている。プレゼンテーションで使用される英語表現を習得し、アカデミック・プレゼンテーションの構成について学び、発表内容の計画、発表原稿とスライドの作成の後、発表の実技練習を行う。

< 到達目標 >

- ・PowerPoint等を使用して効果的なプレゼンテーションを英語で行う
- ・プレゼンテーションで使用される英語表現を習得する。

- ・英語プレゼンテーションの構成を理解し、論理的なプレゼンテーションを行うことができる。

- ・発表内容に関するデータを収集し要点を効果的にまとめることができる。

- ・発表の実技練習を通して非言語的コミュニケーション方略・言語コミュニケーション方略を使いこなせるようにする。

< 授業のキーワード >

英語プレゼンテーション PowerPoint 言語・非言語的コミュニケーション

< 授業の進め方 >

GCスクエアを利用して課題の提示、課題の提出、評価、フィードバックを行います。

< 履修するにあたって >

課題の提出、作成等の期限は厳守のこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、プレゼンテーション発表の準備に最低1時間、自己のプレゼンテーションの振り返り・Peer Evaluationなどに最低1時間を必要とする。

< 提出課題など >

プレゼンテーション発表に加え、発表内容のスライドやスクリプト、評価表などの提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

Presentations 50% + assignments (preparation & reflection of presentation) 50%

< テキスト >

「Winning Presentations」 Akira Morita 他 SEIBI DO 2018年 2500円 + 税

ISBN 978-4-7919-3424-9

< 授業計画 >

第1回 Introduction

イントロダクション、授業概要と教材の解説、進め方
 Self introductions

Unit 1 Presentation Structure

第2回 Unit 2&3

Unit 2 Presentation Skills/Unit 3 Preparing for your presentation

第3回 Unit 4&9

Unit 4 How to arrange a presentation setting/ Unit 9 Section on evaluation

第4回 Unit 5

Unit 5 Type 1: Listing

第5回 Unit 6

Listing presentation with evaluation by instructor and class

Unit 6 Type 2 : Classification

第6回 Unit 7

Classification presentation with evaluation by instructor and class

Unit 7 Type 3: Process

第7回 Unit 8

Process presentation

Unit 8 Type 4: Investigation

第8回 Unit 8

Preparing investigation presentation

第9回 Unit 10

Investigation presentation with evaluation by instructor and class

Unit 10 Type 5: Persuasion

第10回 Unit 11

Persuasion presentation with evaluation by instructor and class

Unit 11 Type 6 : Problems and Solution

第11回 Unit 12

Problem-Solution presentation with evaluation by instructor and class

Unit 12 Type 7: Cause and Effect

第12回 Unit 13

Cause and Effect presentation with evaluation by instructor and class

Unit 13 type 8 : Comparison and Contrast

第13回 Unit 14

Comparison and Contrast presentation with evaluation by instructor and class

Unit 14 Giving Your Proposal Presentation

第14回 Presentation

Working on Your Proposal Presentation

第15回 Presentation

Presenting Your Proposal Presentation, Evaluation & Feedback

2022年度 前期

2.0単位

英語プレゼンテーション

Nicholas Musty

< 授業の方法 >

Active learningのコンセプトで行う授業です。発信することを学び、実践してもらいます。

Google Driveを利用してファイル(ワード、エクセルやPowerPointなど)の提出をします。このGoogle Driveの使用にはgmail住所が必要です。あらかじめ取得してください。

< 授業の目的 >

この授業では、ディプロマポリシーの中でも、「1. 実

践的で高度な外国語の運用ができる」と「4. (英語コース)教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的とし、特にPowerPoint等を使用した効果的なアカデミック・プレゼンテーションを英語で行う為に必要な力を身に付けることを主眼に置いている。プレゼンテーションで使用される英語表現を習得し、アカデミック・プレゼンテーションの構成について学び、発表内容の計画、発表原稿とスライドの作成の後、発表の実技練習を行う。

< 到達目標 >

- ・PowerPoint等を使用して効果的なプレゼンテーションを英語で行う
- ・プレゼンテーションで使用される英語表現を習得する。
- ・英語プレゼンテーションの構成を理解し、論理的なプレゼンテーションを行うことができる。
- ・発表内容に関するデータを収集し要点を効果的にまとめることができる。
- ・発表の実技練習を通して非言語的コミュニケーション方略・言語コミュニケーション方略を使いこなせるようにする。

< 授業のキーワード >

英語プレゼンテーション PowerPoint 言語・非言語的コミュニケーション

< 授業の進め方 >

Pair work, Group work, Lecture

< 履修するにあたって >

課題の提出、作成等の期限は厳守のこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、プレゼンテーション発表の準備に最低1時間、自己のプレゼンテーションの振り返りなどに最低1時間を必要とする。

< 提出課題など >

プレゼンテーション発表に加え、発表内容のスライドやスクリプト、評価表などの提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

Presentations 40% + assignments (preparation & reflection of presentation) 40% + participation 10% + final exam essay 10%

遅刻二回は欠席一回とみなす。

< 授業計画 >

第1回 Introduction

Q&A: Bring in your questions and problems. Questions can be sent to my email before class.

Lecture: Self-introductions for an academic or professional situation; what information to include (e.g., affiliation, major, personal interests) and not include (e.g., age).

Activity: Use Google Drive Spreadsheet to prepare your self-introduction. After revising your draft,

prepare a clean version in Word and upload this to the Self-Introductions Folder in the Day 1 folder in Google Drive.

Activity: Decide on a topic that you would like to delve into for a listing or classification type of presentation. Note this on the Google Drive Spreadsheet for today.

Lecture: Learn how to use APA guidelines to list reference citations.

Homework: Practice giving your self-introduction so that you can present it on Day 2 without looking at your notes.

Find information on your chosen topic from at least three different sources and bring in a reference list prepared according to APA guidelines.

第2回 Doing research and citing sources

Q&A: Bring in your questions and problems.

Activity: Present your self-introduction without looking at notes. Other students will be evaluating your presentation and uploading it to the Google Drive folder for today.

Activity: Present your reference list (prepared according to APA style) for your listing or classification presentation. Upload this to the Google Drive folder.

Lecture: Check what is needed for a good listing or classification presentation.

Activity: Start preparing your presentation using Google Slides.

Homework: Practice your emulative presentation for delivery to the class next time.

Prepare your listing/classification presentation with PowerPoint slides.

第3回 Learning from professionals

Q&A: Bring in your questions and problems.

Activity: Discuss your listing/classification presentation and get feedback. Be prepared to revise your presentation based on the feedback.

Activity: Choose a presentation from TED Talks (or another website that interests you) to emulate. Choose about a 2-minute segment that interests you; observe it carefully and try to emulate the presenter's voice, delivery, stance, etc.

Practice this in a breakout room.

Activity: In Google Drive, add to the spreadsheet to help make a list of things to emulate.

Homework: Practice your emulative presentation for delivery to the class next time.

Prepare your listing/classification presentation with PowerPoint slides.

第4回 Checking your presentation

Q&A: Bring in your questions and problems.

Activity: Present your emulative presentation to the class with evaluation and feedback via Google Drive; use what you learned to polish your own presentation

Activity: Present your listing/classification in the breakout room.

Revise your presentation based on the feedback (e.g. more information, more clarification, addition of examples).

Check your slides for spelling, grammatical and technical errors.

Discuss slide design (not too many words).

Check your references (Are they listed properly according to APA style?).

Homework: Practice your listing/classification presentation with attention to voice, delivery, stance, etc."

Prepare the script for your presentation and upload it to Google Drive.

第5回 Presenting your listing/classification presentation

Q&A: Bring in your questions and problems.

Activity: Check the evaluations for your emulative presentation and list in the Google Drive spreadsheet what you plan to improve for your next presentation.

Activity: Present your listing/classification presentation with class evaluation and feedback via Google Drive.

Lecture: Listen to what is needed for a good process presentation.

Activity: Start planning a process presentation in which you tell the class how to do something. Give your ideas in the Google Drive spreadsheet. Be sure that your topic is different from the other students in the class (first come, first served).

Homework: Prepare your process presentation; be sure to include references or source citation.

第6回 Practicing your process presentation

Q&A: Bring in your questions and problems.

Activity: Check the evaluations for your emulative presentation and list in the Google Drive spreadsheet what you plan to improve for your next presentation.

Activity: Practice your process presentation in the breakout room and get feedback

Pay attention to the amount of detail given and the explicitness of the explanation.

Activity: Start thinking about the next comparison/contrast presentation; discuss possibilities with class members in a breakout room.

Homework: Revise your process presentation and prepare to deliver it in the next class.

第7回 Presenting your process presentation

Q&A: Bring in your questions and problems.

Activity: Present your process presentation with evaluation and feedback. Evaluate other presentations and upload your evaluations to Google Drive.

Activity: Prepare an outline or draft of a comparison/contrast presentation and discuss this in a breakout room.

Homework: Prepare your comparison/contrast presentation with PowerPoint slides.

第8回 Preparing your comparison/contrast presentation

Q&A: Bring in your questions and problems.

Activity: Check the evaluations for your process presentation and list in the Google Drive spreadsheet what you plan to improve for your next presentation.

Lecture: Listen to what is needed for a good comparison/contrast presentation.

Activity: Discuss your comparison/contrast presentation in a breakout room and make suitable revisions.

Activity: Start thinking about your final proposal presentation (5 min) and essay which should give a strong argument to do something or to think about an issue or problem; present at least three possible topics and discuss in a breakout room.

Homework: Prepare to present your comparison/contrast presentation.

Continue thinking about your final proposal presentation and find references for it.

第9回 Presenting your comparison/contrast presentation

tation

Q&A: Bring in your questions and problems.

Activity: Present your comparison/contrast presentation to the class with evaluation and feedback via Google Drive; use what you learned to polish your own presentation. Evaluate other presentations and upload your evaluations to Google Drive.

Activity: Prepare questions for presenter related to the presentation; everyone in class should ask at least one question during the presentations

Activity: Discuss the progress of your final proposal presentation; describe the references you have found and your plans.

Homework: Write up your comparison/contrast presentation as an essay. Include your responses to the questions and feedback from the class.

Continue working on your final proposal presentation.

第10回 Planning your problem/solution or cause/effect presentation

Q&A: Bring in your questions and problems.

Activity: Check the evaluations for your comparison/contrast presentation and list in the Google Drive spreadsheet what you plan to improve for your next presentation.

Lecture: Listen to what is needed for a good problem/solution or cause/effect presentation.

Activity: Plan your problem/solution or cause/effect presentation with discussion in a breakout room. Be prepared to revise our presentation based on the discussion.

Activity: Discuss your final proposal presentation; what techniques will you use in it, for example, classification, comparison/contrast, problem/solution.

Homework: Revise and practice your problem/solution or cause/effect presentation

Continue thinking about your final proposal presentation.

第11回 Presenting your problem/solution or cause/effect presentation

Q&A: Bring in your questions and problems.

Activity: Present your problem/solution or cause/effect presentation to the class with evaluation and feedback via Google Drive; use what you learned

to polish your own presentation. Evaluate other presentations and upload your evaluations to Google Drive.

Activity: Prepare questions for the presenters related to their presentations; everyone in class should ask at least one question during the presentations.

Activity: Discuss the progress of your final proposal presentation in a breakout room.

Homework: Write up your problem/solution or cause/effect presentation as an essay and include the questions and feedback from the class.

Prepare your final proposal presentation with PowerPoint slides.

第12回 Planning your final proposal presentation

Q&A: Bring in your questions and problems.

Activity: Check the evaluations for your problem/solution or cause/effect presentation and list in the Google Drive spreadsheet what you plan to improve for your next presentation.

Activity: Discuss your plans for the final proposal presentation. Get feedback about your presentation and the slides.

Homework: Prepare and practice your final proposal presentation

第13回 Presenting your final proposal presentation

Q&A: Bring in your questions and problems.

Activity: Present your final proposal presentation and respond to questions and feedback from the class.

Final exam: Write up your final proposal presentation as an essay (according to APA guidelines); take into consideration the questions and feedback from the class and use proper reference citations. Turn in the essay by the deadline that will be announced in class.

第14回 Final exam essay consultation

Final exam essay consultation

第15回 Reflection

Reflection

2022年度 前期

2.0単位

英語会話 (A)

大竹 翔子、タム ショウ イン

<授業の方法>

講義、演習

<授業の目的>

この授業ではディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。留学時に必要となる英語でのコミュニケーション力を向上させる。さまざまなジャンルのトピックについて自らの考え方を発信したり議論できるようにし、同時に相手が発信する内容に従って会話をさらに発展させたり、効果的に発表できることも含めて練習を行う。リスニング(Input活動)については、次に発話することの準備として、アクティブに音声を聞き取ることができるような方略を身につける。

<到達目標>

- ・さまざまなトピックについて自分の考えを英語で表現できるようになる。
- ・さまざまなトピックについて英語で聞いた内容を理解でき、概略を再現できるようになる。
- ・自らの意見を述べるため、自分の議論に必要な部分をしっかり把握して聞くことができるようになる。
- ・対話の相手にとって聞き取りやすい英語で発話できるようになる。
- ・英語で話すべき内容の骨格となる構成をしっかりと把握して口頭表現ができるようになる。
- ・相手が言った内容をパラフレーズして繰り返し、さらに自分の意見を加えることができるようになる。

<授業のキーワード>

アクティブリスニング プレゼンテーション 対話
内容構成 語彙 発音

<授業の進め方>

週2回の授業の内、週1回は日常会話・スピーチ・プレゼンテーションの基礎を学ぶ input中心の授業とする。週1回はinput活動で得た知識を元にプレゼンテーションなどを行うoutput中心の授業とする。

<履修するにあたって>

課題については必ずGCSquareを確認すること。

<授業時間外に必要な学修>

毎回、予習、小テストやプレゼンの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

プレゼン原稿、評価表の提出、リスニング課題等の提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。提出物は GCsquare上で、もしくは教員の指示に従って提出すること。

< 成績評価方法・基準 >

Presentation-related activities => 50%

Text-related activities=> 30%

Versant + AE +WE player => 20%

< テキスト >

なし。必要資料はGCsquare上で配布する。

< 授業計画 >

第1回 Orientation 1

GCsquare, Academic Express, Speech saver/Shadowing /WE player tasks

第2回 Unit 1 Presentation (Day 1)

Brainstorming your first presentation

第3回 Orientation 2

Dialogue/Monologue homework, doing research

第4回 Unit 1 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第5回 Unit 1 Dialogue

Unit 1 dialogue and related input activities

第6回 Unit 1 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第7回 Unit 1 Monologue

Unit 1 monologue and related input activities

第8回 Unit 2 Dialogue

Unit 2 dialogue and related input activities

第9回 Unit 2 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第10回 Unit 2 Monologue

Unit 2 monologue and related input activities

第11回 Unit 2 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第12回 Unit 3 Dialogue

Unit 3 dialogue and related input activities

第13回 Unit 2 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第14回 Unit 3 Monologue

Unit 3 monologue and related input activities

第15回 Unit 3 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第16回 Unit 4 Dialogue

Unit 4 dialogue and related input activities

第17回 Unit 3 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第18回 Unit 4 Monologue

Unit 4 monologue and related input activities

第19回 Unit 3 Presentation (Day 3)

Presentation + peer feedback

第20回 Unit 5 Dialogue

Unit 5 dialogue and related input activities

第21回 Unit 4 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第22回 Unit 5 Monologue

Unit 5 monologue and related input activities

第23回 Unit 4 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第24回 Unit 6 Dialogue

Unit 6 dialogue and related input activities

第25回 Unit 4 Presentation (Day 3)

Presentation + peer feedback

第26回 Unit 6 Monologue

Unit 6 monologue and related input activities

第27回 Unit 5 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第28回 Discussion/Reflection

Reflections on your past presentations/discussions

第29回 Unit 5 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第30回 Unit 5 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

2022年度 前期

2.0単位

英語会話 (B)

中西 のりこ、タム ショウ イン

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。留学時に必要となる英語でのコミュニケーション力を向上させる。さまざまなジャンルのトピックについて自らの考え方を発信したり議論できるようにし、同時に相手が発信する内容に従って会話をさらに発展させたり、効果的に発表できることも含めて練習を行う。リスニング(Input活動)については、次に発話することの準備として、アクティブに音声を聞き取ることができるような方略を身につける。

< 到達目標 >

・さまざまなトピックについて自分の考えを英語で表現できるようになる。

・さまざまなトピックについて英語で聞いた内容を理解でき、概略を再現できるようになる。

・自らの意見を述べるため、自分の議論に必要な部分をしっかり把握して聞くことができるようになる。

・対話の相手にとって聞き取りやすい英語で発話できるようになる。

・英語で話すべき内容の骨格となる構成をしっかりと把握して口頭表現ができるようになる。

・相手が言った内容をパラフレーズして繰り返し、さらに自分の意見を加えることができるようになる。

< 授業のキーワード >

アクティブリスニング プレゼンテーション 対話
内容構成 語彙 発音

< 授業の進め方 >

週2回の授業の内、週1回は日常会話・スピーチ・プレゼンテーションの基礎を学ぶ input中心の授業とする。週1回はinput活動で得た知識を元にプレゼンテーションなどを行うoutput中心の授業とする。

< 履修するにあたって >

課題については必ずGCsquareを確認すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストやプレゼンの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

プレゼン原稿、評価表の提出、リスニング課題等の提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。提出物は GCsquare上で、もしくは教員の指示に従って提出すること。

< 成績評価方法・基準 >

Presentation-related activities => 50%

Text-related activities=> 30%

Versant + AE +WE player => 20%

< テキスト >

なし。必要資料はGCsquare上で配布する。

< 授業計画 >

第1回 Orientation 1

GCsquare, Academic Express, Speech saver/Shadowing /WE player tasks

第2回 Unit 1 Presentation (Day 1)

Brainstorming your first presentation

第3回 Orientation 2

Dialogue/Monologue homework, doing research

第4回 Unit 1 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第5回 Unit 1 Dialogue

Unit 1 dialogue and related input activities

第6回 Unit 1 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第7回 Unit 1 Monologue

Unit 1 monologue and related input activities

第8回 Unit 2 Dialogue

Unit 2 dialogue and related input activities

第9回 Unit 2 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第10回 Unit 2 Monologue

Unit 2 monologue and related input activities

第11回 Unit 2 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第12回 Unit 3 Dialogue

Unit 3 dialogue and related input activities

第13回 Unit 2 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第14回 Unit 3 Monologue

Unit 3 monologue and related input activities

第15回 Unit 3 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第16回 Unit 4 Dialogue

Unit 4 dialogue and related input activities

第17回 Unit 3 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第18回 Unit 4 Monologue

Unit 4 monologue and related input activities

第19回 Unit 3 Presentation (Day 3)

Presentation + peer feedback

第20回 Unit 5 Dialogue

Unit 5 dialogue and related input activities

第21回 Unit 4 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第22回 Unit 5 Monologue

Unit 5 monologue and related input activities

第23回 Unit 4 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第24回 Unit 6 Dialogue

Unit 6 dialogue and related input activities

第25回 Unit 4 Presentation (Day 3)

Presentation + peer feedback

第26回 Unit 6 Monologue

Unit 6 monologue and related input activities

第27回 Unit 5 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第28回 Discussion/Reflection

Reflections on your past presentations/discussions

第29回 Unit 5 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第30回 Unit 5 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

2022年度 前期

2.0単位

英語会話 (C)

大竹 翔子、Nicholas Musty

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。留学時に必要となる英語でのコミュニケーション力を向上させる。さまざまなジャンルのトピックについて自らの考え方を発信したり議論できるようにし、同時に相手が発信する内容に従って会話をさらに発展させたり、効果的に発表できることも含めて練習を行う。リスニング(Input活動)については、次に発話することの準備として、アクティブに音声を聞き取ることができるような方略を身につける。

< 到達目標 >

- ・さまざまなトピックについて自分の考えを英語で表現できるようになる。
- ・さまざまなトピックについて英語で聞いた内容を理解でき、概略を再現できるようになる。
- ・自らの意見を述べるため、自分の議論に必要な部分をしっかり把握して聞くことができるようになる。
- ・対話の相手にとって聞き取りやすい英語で発話できるようになる。
- ・英語で話すべき内容の骨格となる構成をしっかりと把握して口頭表現ができるようになる。
- ・相手が言った内容をパラフレーズして繰り返し、さらに自分の意見を加えることができるようになる。

< 授業のキーワード >

アクティブリスニング プレゼンテーション 対話
内容構成 語彙 発音

< 授業の進め方 >

週2回の授業の内、週1回は日常会話・スピーチ・プレゼンテーションの基礎を学ぶ input中心の授業とする。週1回はinput活動で得た知識を元にプレゼンテーションなどを行うoutput中心の授業とする。

< 履修するにあたって >

課題については必ずGCSquareを確認すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストやプレゼンの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

プレゼン原稿、評価表の提出、リスニング課題等の提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。提出物は GCSquare上で、もしくは教員の指示に従って提出すること。

< 成績評価方法・基準 >

Presentation-related activities => 50%

Text-related activities=> 30%

Versant + AE +WE player => 20%

< テキスト >

なし。必要資料はGCSquare上で配布する。

< 授業計画 >

第1回 Orientation 1

GCSquare, Academic Express, Speech saver/Shadowing /WE player tasks

第2回 Unit 1 Presentation (Day 1)

Brainstorming your first presentation

第3回 Orientation 2

Dialogue/Monologue homework, doing research

第4回 Unit 1 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第5回 Unit 1 Dialogue

Unit 1 dialogue and related input activities

第6回 Unit 1 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第7回 Unit 1 Monologue

Unit 1 monologue and related input activities

第8回 Unit 2 Dialogue

Unit 2 dialogue and related input activities

第9回 Unit 2 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第10回 Unit 2 Monologue

Unit 2 monologue and related input activities

第11回 Unit 2 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第12回 Unit 3 Dialogue

Unit 3 dialogue and related input activities

第13回 Unit 2 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第14回 Unit 3 Monologue

Unit 3 monologue and related input activities

第15回 Unit 3 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第16回 Unit 4 Dialogue

Unit 4 dialogue and related input activities

第17回 Unit 3 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第18回 Unit 4 Monologue

Unit 4 monologue and related input activities

第19回 Unit 3 Presentation (Day 3)

Presentation + peer feedback
 第20回 Unit 5 Dialogue
 Unit 5 dialogue and related input activities
 第21回 Unit 4 Presentation (Day 1)
 Brainstorming your presentation
 第22回 Unit 5 Monologue
 Unit 5 monologue and related input activities
 第23回 Unit 4 Presentation (Day 2)
 Draft revising and group practice
 第24回 Unit 6 Dialogue
 Unit 6 dialogue and related input activities
 第25回 Unit 4 Presentation (Day 3)
 Presentation + peer feedback
 第26回 Unit 6 Monologue
 Unit 6 monologue and related input activities
 第27回 Unit 5 Presentation (Day 1)
 Brainstorming your presentation
 第28回 Discussion/Reflection
 Reflections on your past presentations/discussions
 第29回 Unit 5 Presentation (Day 2)
 Draft revising and group practice
 第30回 Unit 5 Presentation (Day 3)
 Presentation + Peer feedback

 2022年度 前期

2.0単位

英語会話 (D)

中西 のりこ、タム ショウ イン

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。留学時に必要となる英語でのコミュニケーション力を向上させる。さまざまなジャンルのトピックについて自らの考え方を発信したり議論できるようにし、同時に相手が発信する内容に従って会話をさらに発展させたり、効果的に発表できることも含めて練習を行う。リスニング(Input活動)については、次に発話することの準備として、アクティブに音声を聞き取ることができるような方略を身につける。

< 到達目標 >

・さまざまなトピックについて自分の考えを英語で表現できるようになる。

・さまざまなトピックについて英語で聞いた内容を理解でき、概略を再現できるようになる。

・自らの意見を述べるため、自分の議論に必要な部分をしっかり把握して聞くことができるようになる。

・対話の相手にとって聞き取りやすい英語で発話できるようになる。

・英語で話すべき内容の骨格となる構成をしっかりと把握して口頭表現ができるようになる。

・相手が言った内容をパラフレーズして繰り返し、さらに自分の意見を加えることができるようになる。

< 授業のキーワード >

アクティブリスニング プレゼンテーション 対話
 内容構成 語彙 発音

< 授業の進め方 >

週2回の授業の内、週1回は日常会話・スピーチ・プレゼンテーションの基礎を学ぶ input中心の授業とする。週1回はinput活動で得た知識を元にプレゼンテーションなどを行うoutput中心の授業とする。

< 履修するにあたって >

課題については必ずGCsquareを確認すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストやプレゼンの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

プレゼン原稿、評価表の提出、リスニング課題等の提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。提出物は GCsquare上で、もしくは教員の指示に従って提出すること。

< 成績評価方法・基準 >

Presentation-related activities => 50%

Text-related activities=> 30%

Versant + AE +WE player => 20%

< テキスト >

なし。必要資料はGCsquare上で配布する。

< 授業計画 >

第1回 Orientation 1

GCsquare, Academic Express, Speech saver/Shadowing /WE player tasks

第2回 Unit 1 Presentation (Day 1)

Brainstorming your first presentation

第3回 Orientation 2

Dialogue/Monologue homework, doing research

第4回 Unit 1 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第5回 Unit 1 Dialogue

Unit 1 dialogue and related input activities

第6回 Unit 1 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第7回 Unit 1 Monologue

Unit 1 monologue and related input activities

第8回 Unit 2 Dialogue
Unit 2 dialogue and related input activities
第9回 Unit 2 Presentation (Day 1)
Brainstorming your presentation
第10回 Unit 2 Monologue
Unit 2 monologue and related input activities
第11回 Unit 2 Presentation (Day 2)
Draft revising and group practice
第12回 Unit 3 Dialogue
Unit 3 dialogue and related input activities
第13回 Unit 2 Presentation (Day 3)
Presentation + Peer feedback
第14回 Unit 3 Monologue
Unit 3 monologue and related input activities
第15回 Unit 3 Presentation (Day 1)
Brainstorming your presentation
第16回 Unit 4 Dialogue
Unit 4 dialogue and related input activities
第17回 Unit 3 Presentation (Day 2)
Draft revising and group practice
第18回 Unit 4 Monologue
Unit 4 monologue and related input activities
第19回 Unit 3 Presentation (Day 3)
Presentation + peer feedback
第20回 Unit 5 Dialogue
Unit 5 dialogue and related input activities
第21回 Unit 4 Presentation (Day 1)
Brainstorming your presentation
第22回 Unit 5 Monologue
Unit 5 monologue and related input activities
第23回 Unit 4 Presentation (Day 2)
Draft revising and group practice
第24回 Unit 6 Dialogue
Unit 6 dialogue and related input activities
第25回 Unit 4 Presentation (Day 3)
Presentation + peer feedback
第26回 Unit 6 Monologue
Unit 6 monologue and related input activities
第27回 Unit 5 Presentation (Day 1)
Brainstorming your presentation
第28回 Discussion/Reflection
Reflections on your past presentations/discussions
第29回 Unit 5 Presentation (Day 2)
Draft revising and group practice
第30回 Unit 5 Presentation (Day 3)
Presentation + Peer feedback

2022年度 前期

2.0単位

英語会話 (E)

大竹 翔子、タム ショウ イン

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。留学時に必要となる英語でのコミュニケーション力を向上させる。さまざまなジャンルのトピックについて自らの考え方を発信したり議論できるようにし、同時に相手が発信する内容に従って会話をさらに発展させたり、効果的に発表できることも含めて練習を行う。リスニング(Input活動)については、次に発話することの準備として、アクティブに音声を聞き取ることができるような方略を身につける。

< 到達目標 >

- ・さまざまなトピックについて自分の考えを英語で表現できるようになる。
- ・さまざまなトピックについて英語で聞いた内容を理解でき、概略を再現できるようになる。
- ・自らの意見を述べるため、自分の議論に必要な部分をしっかり把握して聞くことができるようになる。
- ・対話の相手にとって聞き取りやすい英語で発話できるようになる。
- ・英語で話すべき内容の骨格となる構成をしっかりと把握して口頭表現ができるようになる。
- ・相手が言った内容をパラフレーズして繰り返し、さらに自分の意見を加えることができるようになる。

< 授業のキーワード >

アクティブリスニング プレゼンテーション 対話
内容構成 語彙 発音

< 授業の進め方 >

週2回の授業の内、週1回は日常会話・スピーチ・プレゼンテーションの基礎を学ぶ input中心の授業とする。週1回はinput活動で得た知識を元にプレゼンテーションなどを行うoutput中心の授業とする。

< 履修するにあたって >

課題については必ずGCSquareを確認すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストやプレゼンの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

プレゼン原稿、評価表の提出、リスニング課題等の提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。提出物は GCsquare上で、もしくは教員の指示に従って提出すること。

< 成績評価方法・基準 >

Presentation-related activities => 50%

Text-related activities=> 30%

Versant + AE +WE player => 20%

< テキスト >

なし。必要資料はGCsquare上で配布する。

< 授業計画 >

第1回 Orientation 1

GCsquare, Academic Express, Speech saver/Shadowing /WE player tasks

第2回 Unit 1 Presentation (Day 1)

Brainstorming your first presentation

第3回 Orientation 2

Dialogue/Monologue homework, doing research

第4回 Unit 1 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第5回 Unit 1 Dialogue

Unit 1 dialogue and related input activities

第6回 Unit 1 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第7回 Unit 1 Monologue

Unit 1 monologue and related input activities

第8回 Unit 2 Dialogue

Unit 2 dialogue and related input activities

第9回 Unit 2 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第10回 Unit 2 Monologue

Unit 2 monologue and related input activities

第11回 Unit 2 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第12回 Unit 3 Dialogue

Unit 3 dialogue and related input activities

第13回 Unit 2 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第14回 Unit 3 Monologue

Unit 3 monologue and related input activities

第15回 Unit 3 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第16回 Unit 4 Dialogue

Unit 4 dialogue and related input activities

第17回 Unit 3 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第18回 Unit 4 Monologue

Unit 4 monologue and related input activities

第19回 Unit 3 Presentation (Day 3)

Presentation + peer feedback

第20回 Unit 5 Dialogue

Unit 5 dialogue and related input activities

第21回 Unit 4 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第22回 Unit 5 Monologue

Unit 5 monologue and related input activities

第23回 Unit 4 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第24回 Unit 6 Dialogue

Unit 6 dialogue and related input activities

第25回 Unit 4 Presentation (Day 3)

Presentation + peer feedback

第26回 Unit 6 Monologue

Unit 6 monologue and related input activities

第27回 Unit 5 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第28回 Discussion/Reflection

Reflections on your past presentations/discussions

第29回 Unit 5 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第30回 Unit 5 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

2022年度 後期

2.0単位

英語会話 (A)

大竹 翔子、タム ショウ イン

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。留学時に必要となる英語でのコミュニケーション力を向上させる。さまざまなジャンルのトピックについて自らの考え方を発信したり議論できるようにし、同時に相手が発信する内容に従って会話をさらに発展させたり、効果的に発表できることも含めて練習を行う。リスニング(Input活動)については、次に発話することの準備として、アクティブに音声を聞き取ることができるような方略を身につける。

< 到達目標 >

・さまざまなトピックについて自分の考えを英語で表現できるようになる。

・さまざまなトピックについて英語で聞いた内容を理解でき、概略を再現できるようになる。

・自らの意見を述べるため、自分の議論に必要な部分をしっかり把握して聞くことができるようになる。

・対話の相手にとって聞き取りやすい英語で発話できるようになる。

・英語で話すべき内容の骨格となる構成をしっかりと把握して口頭表現ができるようになる。

・相手が言った内容をパラフレーズして繰り返し、さらに自分の意見を加えることができるようになる。

< 授業のキーワード >

アクティブリスニング プレゼンテーション 対話
内容構成 語彙 発音

< 授業の進め方 >

週2回の授業の内、週1回は日常会話・スピーチ・プレゼンテーションの基礎を学ぶ input中心の授業とする。週1回はinput活動で得た知識を元にプレゼンテーションなどを行うoutput中心の授業とする。

< 履修するにあたって >

課題については必ずGCsquareを確認すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストやプレゼンの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

プレゼン原稿、評価表の提出、リスニング課題等の提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。提出物は GCsquare上で、もしくは教員の指示に従って提出すること。

< 成績評価方法・基準 >

Presentation-related activities => 50%

Text-related activities=> 30%

Versant + AE +WE player => 20%

< テキスト >

なし。必要資料はGCsquare上で配布する。

< 授業計画 >

第1回 Orientation 1

GCsquare, Academic Express, Speech saver/Shadowing /WE player tasks

第2回 Unit 7 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第3回 Orientation 2

Dialogue/Monologue homework, partner presentation tips

第4回 Unit 7 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第5回 Unit 7 Dialogue

Unit 7 dialogue and related input activities

第6回 Unit 7 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第7回 Unit 7 Monologue

Unit 7 monologue and related input activities

第8回 Unit 8 Dialogue

Unit 8 dialogue and related input activities

第9回 Unit 8 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第10回 Unit 8 Monologue

Unit 8 monologue and related input activities

第11回 Unit 8 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第12回 Unit 9 Dialogue

Unit 9 dialogue and related input activities

第13回 Unit 8 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第14回 Unit 9 Monologue

Unit 9 monologue and related input activities

第15回 Unit 9 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第16回 Unit 10 Dialogue

Unit 10 dialogue and related input activities

第17回 Unit 9 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第18回 Unit 10 Monologue

Unit 10 monologue and related input activities

第19回 Unit 9 Presentation (Day 3)

Presentation + peer feedback

第20回 Unit 11 Dialogue

Unit 11 dialogue and related input activities

第21回 Unit 10 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第22回 Unit 11 Monologue

Unit 11 monologue and related input activities

第23回 Unit 10 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第24回 Unit 12 Dialogue

Unit 12 dialogue and related input activities

第25回 Unit 10 Presentation (Day 3)

Presentation + peer feedback

第26回 Unit 12 Monologue

Unit 12 monologue and related input activities

第27回 Unit 11 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第28回 Discussion/Reflection

Reflections on your past presentations/discussions

第29回 Unit 11 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第30回 Unit 11 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

2022年度 後期

2.0単位

英語会話 (B)

中西 のりこ、タム ショウ イン

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。留学時に必要となる英語でのコミュニケーション力を向上させる。さまざまなジャンルのトピックについて自らの考え方を発信したり議論できるようにし、同時に相手が発信する内容に従って会話をさらに発展させたり、効果的に発表できることも含めて練習を行う。リスニング(Input活動)については、次に発話することの準備として、アクティブに音声を聞き取ることができるような方略を身につける。

< 到達目標 >

- ・さまざまなトピックについて自分の考えを英語で表現できるようになる。
- ・さまざまなトピックについて英語で聞いた内容を理解でき、概略を再現できるようになる。
- ・自らの意見を述べるため、自分の議論に必要な部分をしっかり把握して聞くことができるようになる。
- ・対話の相手にとって聞き取りやすい英語で発話できるようになる。
- ・英語で話すべき内容の骨格となる構成をしっかりと把握して口頭表現ができるようになる。
- ・相手が言った内容をパラフレーズして繰り返し、さらに自分の意見を加えることができるようになる。

< 授業のキーワード >

アクティブリスニング プレゼンテーション 対話
内容構成 語彙 発音

< 授業の進め方 >

週2回の授業の内、週1回は日常会話・スピーチ・プレゼンテーションの基礎を学ぶ input中心の授業とする。週1回はinput活動で得た知識を元にプレゼンテーションなどを行うoutput中心の授業とする。

< 履修するにあたって >

課題については必ずGCSquareを確認すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストやプレゼンの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

プレゼン原稿、評価表の提出、リスニング課題等の提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。提出物は GCSquare上で、もしくは教員の指示に従って提出すること。

< 成績評価方法・基準 >

Presentation-related activities => 50%

Text-related activities=> 30%

Versant + AE +WE player => 20%

< テキスト >

なし。必要資料はGCSquare上で配布する。

< 授業計画 >

第1回 Orientation 1

GCSquare, Academic Express, Speech saver/Shadowing /WE player tasks

第2回 Unit 7 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第3回 Orientation 2

Dialogue/Monologue homework, partner presentation tips

第4回 Unit 7 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第5回 Unit 7 Dialogue

Unit 7 dialogue and related input activities

第6回 Unit 7 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第7回 Unit 7 Monologue

Unit 7 monologue and related input activities

第8回 Unit 8 Dialogue

Unit 8 dialogue and related input activities

第9回 Unit 8 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第10回 Unit 8 Monologue

Unit 8 monologue and related input activities

第11回 Unit 8 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第12回 Unit 9 Dialogue

Unit 9 dialogue and related input activities

第13回 Unit 8 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第14回 Unit 9 Monologue

Unit 9 monologue and related input activities

第15回 Unit 9 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第16回 Unit 10 Dialogue

Unit 10 dialogue and related input activities

第17回 Unit 9 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第18回 Unit 10 Monologue

Unit 10 monologue and related input activities

第19回 Unit 9 Presentation (Day 3)
 Presentation + peer feedback
 第20回 Unit 11 Dialogue
 Unit 11 dialogue and related input activities
 第21回 Unit 10 Presentation (Day 1)
 Brainstorming your presentation
 第22回 Unit 11 Monologue
 Unit 11 monologue and related input activities
 第23回 Unit 10 Presentation (Day 2)
 Draft revising and group practice
 第24回 Unit 12 Dialogue
 Unit 12 dialogue and related input activities
 第25回 Unit 10 Presentation (Day 3)
 Presentation + peer feedback
 第26回 Unit 12 Monologue
 Unit 12 monologue and related input activities
 第27回 Unit 11 Presentation (Day 1)
 Brainstorming your presentation
 第28回 Discussion/Reflection
 Reflections on your past presentations/discussions
 第29回 Unit 11 Presentation (Day 2)
 Draft revising and group practice
 第30回 Unit 11 Presentation (Day 3)
 Presentation + Peer feedback

 2022年度 後期

2.0単位

英語会話 (C)

大竹 翔子、Nicholas Musty

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。留学時に必要となる英語でのコミュニケーション力を向上させる。さまざまなジャンルのトピックについて自らの考え方を発信したり議論できるようにし、同時に相手が発信する内容に従って会話をさらに発展させたり、効果的に発表できることも含めて練習を行う。リスニング(Input活動)については、次に発話することの準備として、アクティブに音声を聞き取ることができるような方略を身につける。

< 到達目標 >

・さまざまなトピックについて自分の考えを英語で表現

できるようになる。

・さまざまなトピックについて英語で聞いた内容を理解でき、概略を再現できるようになる。

・自らの意見を述べるため、自分の議論に必要な部分をしっかり把握して聞くことができるようになる。

・対話の相手にとって聞き取りやすい英語で発話できるようになる。

・英語で話すべき内容の骨格となる構成をしっかりと把握して口頭表現ができるようになる。

・相手が言った内容をパラフレーズして繰り返し、さらに自分の意見を加えることができるようになる。

< 授業のキーワード >

アクティブリスニング プレゼンテーション 対話
 内容構成 語彙 発音

< 授業の進め方 >

週2回の授業の内、週1回は日常会話・スピーチ・プレゼンテーションの基礎を学ぶ input中心の授業とする。週1回はinput活動で得た知識を元にプレゼンテーションなどを行うoutput中心の授業とする。

< 履修するにあたって >

課題については必ずGCsquareを確認すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストやプレゼンの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

プレゼン原稿、評価表の提出、リスニング課題等の提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。提出物は GCsquare上で、もしくは教員の指示に従って提出すること。

< 成績評価方法・基準 >

Presentation-related activities => 50%

Text-related activities=> 30%

Versant + AE +WE player => 20%

< テキスト >

なし。必要資料はGCsquare上で配布する。

< 授業計画 >

第1回 Orientation 1

GCsquare, Academic Express, Speech saver/Shadowing /WE player tasks

第2回 Unit 7 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第3回 Orientation 2

Dialogue/Monologue homework, partner presentation tips

第4回 Unit 7 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第5回 Unit 7 Dialogue

Unit 7 dialogue and related input activities

第6回 Unit 7 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第7回 Unit 7 Monologue
Unit 7 monologue and related input activities
第8回 Unit 8 Dialogue
Unit 8 dialogue and related input activities
第9回 Unit 8 Presentation (Day 1)
Brainstorming your presentation
第10回 Unit 8 Monologue
Unit 8 monologue and related input activities
第11回 Unit 8 Presentation (Day 2)
Draft revising and group practice
第12回 Unit 9 Dialogue
Unit 9 dialogue and related input activities
第13回 Unit 8 Presentation (Day 3)
Presentation + Peer feedback
第14回 Unit 9 Monologue
Unit 9 monologue and related input activities
第15回 Unit 9 Presentation (Day 1)
Brainstorming your presentation
第16回 Unit 10 Dialogue
Unit 10 dialogue and related input activities
第17回 Unit 9 Presentation (Day 2)
Draft revising and group practice
第18回 Unit 10 Monologue
Unit 10 monologue and related input activities
第19回 Unit 9 Presentation (Day 3)
Presentation + peer feedback
第20回 Unit 11 Dialogue
Unit 11 dialogue and related input activities
第21回 Unit 10 Presentation (Day 1)
Brainstorming your presentation
第22回 Unit 11 Monologue
Unit 11 monologue and related input activities
第23回 Unit 10 Presentation (Day 2)
Draft revising and group practice
第24回 Unit 12 Dialogue
Unit 12 dialogue and related input activities
第25回 Unit 10 Presentation (Day 3)
Presentation + peer feedback
第26回 Unit 12 Monologue
Unit 12 monologue and related input activities
第27回 Unit 11 Presentation (Day 1)
Brainstorming your presentation
第28回 Discussion/Reflection
Reflections on your past presentations/discussions
第29回 Unit 11 Presentation (Day 2)
Draft revising and group practice
第30回 Unit 11 Presentation (Day 3)
Presentation + Peer feedback

2022年度 後期

2.0単位

英語会話 (D)

中西 のりこ、タム ショウ イン

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。留学時に必要となる英語でのコミュニケーション力を向上させる。さまざまなジャンルのトピックについて自らの考え方を発信したり議論できるようにし、同時に相手が発信する内容に従って会話をさらに発展させたり、効果的に発表できることも含めて練習を行う。リスニング(Input活動)については、次に発話することの準備として、アクティブに音声を聞き取ることができるような方略を身につける。

< 到達目標 >

- ・さまざまなトピックについて自分の考えを英語で表現できるようになる。
- ・さまざまなトピックについて英語で聞いた内容を理解でき、概略を再現できるようになる。
- ・自らの意見を述べるため、自分の議論に必要な部分をしっかり把握して聞くことができるようになる。
- ・対話の相手にとって聞き取りやすい英語で発話できるようになる。
- ・英語で話すべき内容の骨格となる構成をしっかり把握して口頭表現ができるようになる。
- ・相手が言った内容をパラフレーズして繰り返し、さらに自分の意見を加えることができるようになる。

< 授業のキーワード >

アクティブリスニング プレゼンテーション 対話
内容構成 語彙 発音

< 授業の進め方 >

週2回の授業の内、週1回は日常会話・スピーチ・プレゼンテーションの基礎を学ぶ input中心の授業とする。週1回はinput活動で得た知識を元にプレゼンテーションなどを行うoutput中心の授業とする。

< 履修するにあたって >

課題については必ずGCSquareを確認すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストやプレゼンの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

プレゼン原稿、評価表の提出、リスニング課題等の提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。提出物は GCsquare上で、もしくは教員の指示に従って提出すること。

< 成績評価方法・基準 >

Presentation-related activities => 50%

Text-related activities=> 30%

Versant + AE +WE player => 20%

< テキスト >

なし。必要資料はGCsquare上で配布する。

< 授業計画 >

第1回 Orientation 1

GCsquare, Academic Express, Speech saver/Shadowing /WE player tasks

第2回 Unit 7 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第3回 Orientation 2

Dialogue/Monologue homework, partner presentation tips

第4回 Unit 7 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第5回 Unit 7 Dialogue

Unit 7 dialogue and related input activities

第6回 Unit 7 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第7回 Unit 7 Monologue

Unit 7 monologue and related input activities

第8回 Unit 8 Dialogue

Unit 8 dialogue and related input activities

第9回 Unit 8 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第10回 Unit 8 Monologue

Unit 8 monologue and related input activities

第11回 Unit 8 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第12回 Unit 9 Dialogue

Unit 9 dialogue and related input activities

第13回 Unit 8 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第14回 Unit 9 Monologue

Unit 9 monologue and related input activities

第15回 Unit 9 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第16回 Unit 10 Dialogue

Unit 10 dialogue and related input activities

第17回 Unit 9 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第18回 Unit 10 Monologue

Unit 10 monologue and related input activities

第19回 Unit 9 Presentation (Day 3)

Presentation + peer feedback

第20回 Unit 11 Dialogue

Unit 11 dialogue and related input activities

第21回 Unit 10 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第22回 Unit 11 Monologue

Unit 11 monologue and related input activities

第23回 Unit 10 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第24回 Unit 12 Dialogue

Unit 12 dialogue and related input activities

第25回 Unit 10 Presentation (Day 3)

Presentation + peer feedback

第26回 Unit 12 Monologue

Unit 12 monologue and related input activities

第27回 Unit 11 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第28回 Discussion/Reflection

Reflections on your past presentations/discussions

第29回 Unit 11 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第30回 Unit 11 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

2022年度 後期

2.0単位

英語会話 (E)

大竹 翔子、タム ショウ イン

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。留学時に必要となる英語でのコミュニケーション力を向上させる。さまざまなジャンルのトピックについて自らの考え方を発信したり議論できるようにし、同時に相手が発信する内容に従って会話をさらに発展させたり、効果的に発表できることも含めて練習を行う。リスニング(Input活動)については、次に発話することの準備として、アクティブに音声を聞き取ることができるような方略を身につける。

< 到達目標 >

・さまざまなトピックについて自分の考えを英語で表現

できるようになる。

・さまざまなトピックについて英語で聞いた内容を理解でき、概略を再現できるようになる。

・自らの意見を述べるため、自分の議論に必要な部分をしっかり把握して聞くことができるようになる。

・対話の相手にとって聞き取りやすい英語で発話できるようになる。

・英語で話すべき内容の骨格となる構成をしっかりと把握して口頭表現ができるようになる。

・相手が言った内容をパラフレーズして繰り返し、さらに自分の意見を加えることができるようになる。

< 授業のキーワード >

アクティブリスニング プレゼンテーション 対話
内容構成 語彙 発音

< 授業の進め方 >

週2回の授業の内、週1回は日常会話・スピーチ・プレゼンテーションの基礎を学ぶ input中心の授業とする。週1回はinput活動で得た知識を元にプレゼンテーションなどを行うoutput中心の授業とする。

< 履修するにあたって >

課題については必ずGCsquareを確認すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストやプレゼンの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

プレゼン原稿、評価表の提出、リスニング課題等の提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。提出物は GCsquare上で、もしくは教員の指示に従って提出すること。

< 成績評価方法・基準 >

Presentation-related activities => 50%

Text-related activities=> 30%

Versant + AE +WE player => 20%

< テキスト >

なし。必要資料はGCsquare上で配布する。

< 授業計画 >

第1回 Orientation 1

GCsquare, Academic Express, Speech saver/Shadowing /WE player tasks

第2回 Unit 7 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第3回 Orientation 2

Dialogue/Monologue homework, partner presentation tips

第4回 Unit 7 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第5回 Unit 7 Dialogue

Unit 7 dialogue and related input activities

第6回 Unit 7 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第7回 Unit 7 Monologue

Unit 7 monologue and related input activities

第8回 Unit 8 Dialogue

Unit 8 dialogue and related input activities

第9回 Unit 8 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第10回 Unit 8 Monologue

Unit 8 monologue and related input activities

第11回 Unit 8 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第12回 Unit 9 Dialogue

Unit 9 dialogue and related input activities

第13回 Unit 8 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第14回 Unit 9 Monologue

Unit 9 monologue and related input activities

第15回 Unit 9 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第16回 Unit 10 Dialogue

Unit 10 dialogue and related input activities

第17回 Unit 9 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第18回 Unit 10 Monologue

Unit 10 monologue and related input activities

第19回 Unit 9 Presentation (Day 3)

Presentation + peer feedback

第20回 Unit 11 Dialogue

Unit 11 dialogue and related input activities

第21回 Unit 10 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第22回 Unit 11 Monologue

Unit 11 monologue and related input activities

第23回 Unit 10 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第24回 Unit 12 Dialogue

Unit 12 dialogue and related input activities

第25回 Unit 10 Presentation (Day 3)

Presentation + peer feedback

第26回 Unit 12 Monologue

Unit 12 monologue and related input activities

第27回 Unit 11 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第28回 Discussion/Reflection

Reflections on your past presentations/discussions

第29回 Unit 11 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第30回 Unit 11 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

2022年度 前期

2.0単位

英語会話 (A)

大竹 翔子、海老原 由貴

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。留学時に必要となる英語でのコミュニケーション力を向上させる。さまざまなジャンルのトピックについて自らの考え方を発信したり議論できるようにし、同時に相手が発信する内容に従って会話をさらに発展させたり、効果的に発表できることも含めて練習を行う。リスニング(Input活動)については、次に発話することの準備として、アクティブに音声を聞き取ることができるような方略を身につける。

< 到達目標 >

- ・さまざまなトピックについて自分の考えを英語で表現できるようになる。
- ・さまざまなトピックについて英語で聞いた内容を理解でき、概略を再現できるようになる。
- ・自らの意見を述べるため、自分の議論に必要な部分をしっかり把握して聞くことができるようになる。
- ・対話の相手にとって聞き取りやすい英語で発話できるようになる。
- ・英語で話すべき内容の骨格となる構成をしっかりと把握して口頭表現ができるようになる。
- ・相手が言った内容をパラフレーズして繰り返し、さらに自分の意見を加えることができるようになる。

< 授業のキーワード >

アクティブリスニング プレゼンテーション 対話
内容構成 語彙 発音

< 授業の進め方 >

週2回の授業の内、週1回は日常会話・スピーチ・プレゼンテーションの基礎を学ぶ input中心の授業とする。週1回はinput活動で得た知識を元にプレゼンテーションなどを行うoutput中心の授業とする。

< 履修するにあたって >

課題については必ずGCSquareを確認すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストやプレゼンの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

プレゼン原稿、評価表の提出、リスニング課題等の提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。提出物は GCSquare上で、もしくは教員の指示に従って提出すること。

< 成績評価方法・基準 >

Presentation-related activities => 50%

Text-related activities=> 30%

Versant + AE +WE player => 20%

< テキスト >

なし。必要資料はGCSquare上で配布する。

< 授業計画 >

第1回 Orientation 1

GCSquare, Academic Express, Speech saver/Shadowing /WE player tasks

第2回 Unit 1 Presentation (Day 1)

Brainstorming your first presentation

第3回 Orientation 2

Dialogue/Monologue homework, doing research

第4回 Unit 1 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第5回 Unit 1 Dialogue

Unit 1 dialogue and related input activities

第6回 Unit 1 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第7回 Unit 1 Monologue

Unit 1 monologue and related input activities

第8回 Unit 2 Dialogue

Unit 2 dialogue and related input activities

第9回 Unit 2 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第10回 Unit 2 Monologue

Unit 2 monologue and related input activities

第11回 Unit 2 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第12回 Unit 3 Dialogue

Unit 3 dialogue and related input activities

第13回 Unit 2 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第14回 Unit 3 Monologue

Unit 3 monologue and related input activities

第15回 Unit 3 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第16回 Unit 4 Dialogue

Unit 4 dialogue and related input activities

第17回 Unit 3 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第18回 Unit 4 Monologue

Unit 4 monologue and related input activities

第19回 Unit 3 Presentation (Day 3)

Presentation + peer feedback
 第20回 Unit 5 Dialogue
 Unit 5 dialogue and related input activities
 第21回 Unit 4 Presentation (Day 1)
 Brainstorming your presentation
 第22回 Unit 5 Monologue
 Unit 5 monologue and related input activities
 第23回 Unit 4 Presentation (Day 2)
 Draft revising and group practice
 第24回 Unit 6 Dialogue
 Unit 6 dialogue and related input activities
 第25回 Unit 4 Presentation (Day 3)
 Presentation + peer feedback
 第26回 Unit 6 Monologue
 Unit 6 monologue and related input activities
 第27回 Unit 5 Presentation (Day 1)
 Brainstorming your presentation
 第28回 Discussion/Reflection
 Reflections on your past presentations/discussions
 第29回 Unit 5 Presentation (Day 2)
 Draft revising and group practice
 第30回 Unit 5 Presentation (Day 3)
 Presentation + Peer feedback

 2022年度 前期

2.0単位

英語会話 (B)

多田 さおり、タム ショウ イン

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。留学時に必要となる英語でのコミュニケーション力を向上させる。さまざまなジャンルのトピックについて自らの考え方を発信したり議論できるようにし、同時に相手が発信する内容に従って会話をさらに発展させたり、効果的に発表できることも含めて練習を行う。リスニング(Input活動)については、次に発話することの準備として、アクティブに音声を聞き取ることができるような方略を身につける。

< 到達目標 >

・さまざまなトピックについて自分の考えを英語で表現できるようになる。

・さまざまなトピックについて英語で聞いた内容を理解でき、概略を再現できるようになる。

・自らの意見を述べるため、自分の議論に必要な部分をしっかり把握して聞くことができるようになる。

・対話の相手にとって聞き取りやすい英語で発話できるようになる。

・英語で話すべき内容の骨格となる構成をしっかりと把握して口頭表現ができるようになる。

・相手が言った内容をパラフレーズして繰り返し、さらに自分の意見を加えることができるようになる。

< 授業のキーワード >

アクティブリスニング プレゼンテーション 対話
 内容構成 語彙 発音

< 授業の進め方 >

週2回の授業の内、週1回は日常会話・スピーチ・プレゼンテーションの基礎を学ぶ input中心の授業とする。週1回はinput活動で得た知識を元にプレゼンテーションなどを行うoutput中心の授業とする。

< 履修するにあたって >

課題については必ずGCsquareを確認すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストやプレゼンの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

プレゼン原稿、評価表の提出、リスニング課題等の提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。提出物は GCsquare上で、もしくは教員の指示に従って提出すること。

< 成績評価方法・基準 >

Presentation-related activities => 50%

Text-related activities=> 30%

Versant + AE +WE player => 20%

< テキスト >

なし。必要資料はGCsquare上で配布する。

< 授業計画 >

第1回 Orientation 1

GCsquare, Academic Express, Speech saver/Shadowing /WE player tasks

第2回 Unit 1 Presentation (Day 1)

Brainstorming your first presentation

第3回 Orientation 2

Dialogue/Monologue homework, doing research

第4回 Unit 1 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第5回 Unit 1 Dialogue

Unit 1 dialogue and related input activities

第6回 Unit 1 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第7回 Unit 1 Monologue

Unit 1 monologue and related input activities

第8回 Unit 2 Dialogue
Unit 2 dialogue and related input activities
第9回 Unit 2 Presentation (Day 1)
Brainstorming your presentation
第10回 Unit 2 Monologue
Unit 2 monologue and related input activities
第11回 Unit 2 Presentation (Day 2)
Draft revising and group practice
第12回 Unit 3 Dialogue
Unit 3 dialogue and related input activities
第13回 Unit 2 Presentation (Day 3)
Presentation + Peer feedback
第14回 Unit 3 Monologue
Unit 3 monologue and related input activities
第15回 Unit 3 Presentation (Day 1)
Brainstorming your presentation
第16回 Unit 4 Dialogue
Unit 4 dialogue and related input activities
第17回 Unit 3 Presentation (Day 2)
Draft revising and group practice
第18回 Unit 4 Monologue
Unit 4 monologue and related input activities
第19回 Unit 3 Presentation (Day 3)
Presentation + peer feedback
第20回 Unit 5 Dialogue
Unit 5 dialogue and related input activities
第21回 Unit 4 Presentation (Day 1)
Brainstorming your presentation
第22回 Unit 5 Monologue
Unit 5 monologue and related input activities
第23回 Unit 4 Presentation (Day 2)
Draft revising and group practice
第24回 Unit 6 Dialogue
Unit 6 dialogue and related input activities
第25回 Unit 4 Presentation (Day 3)
Presentation + peer feedback
第26回 Unit 6 Monologue
Unit 6 monologue and related input activities
第27回 Unit 5 Presentation (Day 1)
Brainstorming your presentation
第28回 Discussion/Reflection
Reflections on your past presentations/discussions
第29回 Unit 5 Presentation (Day 2)
Draft revising and group practice
第30回 Unit 5 Presentation (Day 3)
Presentation + Peer feedback

2022年度 前期

2.0単位

英語会話 (C)

大竹 翔子、海老原 由貴

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの「1. 実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4. 教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。留学時に必要となる英語でのコミュニケーション力を向上させる。さまざまなジャンルのトピックについて自らの考え方を発信したり議論できるようにし、同時に相手が発信する内容に従って会話をさらに発展させたり、効果的に発表できることも含めて練習を行う。リスニング(Input活動)については、次に発話することの準備として、アクティブに音声を聞き取ることができるような方略を身につける。

< 到達目標 >

- ・さまざまなトピックについて自分の考えを英語で表現できるようになる。
- ・さまざまなトピックについて英語で聞いた内容を理解でき、概略を再現できるようになる。
- ・自らの意見を述べるため、自分の議論に必要な部分をしっかり把握して聞くことができるようになる。
- ・対話の相手にとって聞き取りやすい英語で発話できるようになる。
- ・英語で話すべき内容の骨格となる構成をしっかりと把握して口頭表現ができるようになる。
- ・相手が言った内容をパラフレーズして繰り返し、さらに自分の意見を加えることができるようになる。

< 授業のキーワード >

アクティブリスニング プレゼンテーション 対話
内容構成 語彙 発音

< 授業の進め方 >

週2回の授業の内、週1回は日常会話・スピーチ・プレゼンテーションの基礎を学ぶ input中心の授業とする。週1回はinput活動で得た知識を元にプレゼンテーションなどを行うoutput中心の授業とする。

< 履修するにあたって >

課題については必ずGCSquareを確認すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストやプレゼンの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

プレゼン原稿、評価表の提出、リスニング課題等の提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。提出物は GCsquare上で、もしくは教員の指示に従って提出すること。

< 成績評価方法・基準 >

Presentation-related activities => 50%

Text-related activities=> 30%

Versant + AE +WE player => 20%

< テキスト >

なし。必要資料はGCsquare上で配布する。

< 授業計画 >

第1回 Orientation 1

GCsquare, Academic Express, Speech saver/Shadowing /WE player tasks

第2回 Unit 1 Presentation (Day 1)

Brainstorming your first presentation

第3回 Orientation 2

Dialogue/Monologue homework, doing research

第4回 Unit 1 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第5回 Unit 1 Dialogue

Unit 1 dialogue and related input activities

第6回 Unit 1 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第7回 Unit 1 Monologue

Unit 1 monologue and related input activities

第8回 Unit 2 Dialogue

Unit 2 dialogue and related input activities

第9回 Unit 2 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第10回 Unit 2 Monologue

Unit 2 monologue and related input activities

第11回 Unit 2 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第12回 Unit 3 Dialogue

Unit 3 dialogue and related input activities

第13回 Unit 2 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第14回 Unit 3 Monologue

Unit 3 monologue and related input activities

第15回 Unit 3 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第16回 Unit 4 Dialogue

Unit 4 dialogue and related input activities

第17回 Unit 3 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第18回 Unit 4 Monologue

Unit 4 monologue and related input activities

第19回 Unit 3 Presentation (Day 3)

Presentation + peer feedback

第20回 Unit 5 Dialogue

Unit 5 dialogue and related input activities

第21回 Unit 4 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第22回 Unit 5 Monologue

Unit 5 monologue and related input activities

第23回 Unit 4 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第24回 Unit 6 Dialogue

Unit 6 dialogue and related input activities

第25回 Unit 4 Presentation (Day 3)

Presentation + peer feedback

第26回 Unit 6 Monologue

Unit 6 monologue and related input activities

第27回 Unit 5 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第28回 Discussion/Reflection

Reflections on your past presentations/discussions

第29回 Unit 5 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第30回 Unit 5 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

2022年度 前期

2.0単位

英語会話 (D)

多田 さおり、タム ショウ イン

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。留学時に必要となる英語でのコミュニケーション力を向上させる。さまざまなジャンルのトピックについて自らの考え方を発信したり議論できるようにし、同時に相手が発信する内容に従って会話をさらに発展させたり、効果的に発表できることも含めて練習を行う。リスニング(Input活動)については、次に発話することの準備として、アクティブに音声を聞き取ることができるような方略を身につける。

< 到達目標 >

・さまざまなトピックについて自分の考えを英語で表現できるようになる。

・さまざまなトピックについて英語で聞いた内容を理解でき、概略を再現できるようになる。

・自らの意見を述べるため、自分の議論に必要な部分をしっかり把握して聞くことができるようになる。

・対話の相手にとって聞き取りやすい英語で発話できるようになる。

・英語で話すべき内容の骨格となる構成をしっかりと把握して口頭表現ができるようになる。

・相手が言った内容をパラフレーズして繰り返し、さらに自分の意見を加えることができるようになる。

< 授業のキーワード >

アクティブリスニング プレゼンテーション 対話
内容構成 語彙 発音

< 授業の進め方 >

週2回の授業の内、週1回は日常会話・スピーチ・プレゼンテーションの基礎を学ぶ input中心の授業とする。週1回はinput活動で得た知識を元にプレゼンテーションなどを行うoutput中心の授業とする。

< 履修するにあたって >

課題については必ずGCsquareを確認すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストやプレゼンの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

プレゼン原稿、評価表の提出、リスニング課題等の提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。提出物は GCsquare上で、もしくは教員の指示に従って提出すること。

< 成績評価方法・基準 >

Presentation-related activities => 50%

Text-related activities=> 30%

Versant + AE +WE player => 20%

< テキスト >

なし。必要資料はGCsquare上で配布する。

< 授業計画 >

第1回 Orientation 1

GCsquare, Academic Express, Speech saver/Shadowing /WE player tasks

第2回 Unit 1 Presentation (Day 1)

Brainstorming your first presentation

第3回 Orientation 2

Dialogue/Monologue homework, doing research

第4回 Unit 1 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第5回 Unit 1 Dialogue

Unit 1 dialogue and related input activities

第6回 Unit 1 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第7回 Unit 1 Monologue

Unit 1 monologue and related input activities

第8回 Unit 2 Dialogue

Unit 2 dialogue and related input activities

第9回 Unit 2 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第10回 Unit 2 Monologue

Unit 2 monologue and related input activities

第11回 Unit 2 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第12回 Unit 3 Dialogue

Unit 3 dialogue and related input activities

第13回 Unit 2 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第14回 Unit 3 Monologue

Unit 3 monologue and related input activities

第15回 Unit 3 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第16回 Unit 4 Dialogue

Unit 4 dialogue and related input activities

第17回 Unit 3 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第18回 Unit 4 Monologue

Unit 4 monologue and related input activities

第19回 Unit 3 Presentation (Day 3)

Presentation + peer feedback

第20回 Unit 5 Dialogue

Unit 5 dialogue and related input activities

第21回 Unit 4 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第22回 Unit 5 Monologue

Unit 5 monologue and related input activities

第23回 Unit 4 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第24回 Unit 6 Dialogue

Unit 6 dialogue and related input activities

第25回 Unit 4 Presentation (Day 3)

Presentation + peer feedback

第26回 Unit 6 Monologue

Unit 6 monologue and related input activities

第27回 Unit 5 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第28回 Discussion/Reflection

Reflections on your past presentations/discussions

第29回 Unit 5 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第30回 Unit 5 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

2022年度 前期

2.0単位

英語会話 (E)

大竹 翔子、海老原 由貴

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。留学時に必要となる英語でのコミュニケーション力を向上させる。さまざまなジャンルのトピックについて自らの考え方を発信したり議論できるようにし、同時に相手が発信する内容に従って会話をさらに発展させたり、効果的に発表できることも含めて練習を行う。リスニング(Input活動)については、次に発話することの準備として、アクティブに音声を聞き取ることができるような方略を身につける。

< 到達目標 >

- ・さまざまなトピックについて自分の考えを英語で表現できるようになる。
- ・さまざまなトピックについて英語で聞いた内容を理解でき、概略を再現できるようになる。
- ・自らの意見を述べるため、自分の議論に必要な部分をしっかり把握して聞くことができるようになる。
- ・対話の相手にとって聞き取りやすい英語で発話できるようになる。
- ・英語で話すべき内容の骨格となる構成をしっかりと把握して口頭表現ができるようになる。
- ・相手が言った内容をパラフレーズして繰り返し、さらに自分の意見を加えることができるようになる。

< 授業のキーワード >

アクティブリスニング プレゼンテーション 対話
内容構成 語彙 発音

< 授業の進め方 >

週2回の授業の内、週1回は日常会話・スピーチ・プレゼンテーションの基礎を学ぶ input中心の授業とする。週1回はinput活動で得た知識を元にプレゼンテーションなどを行うoutput中心の授業とする。

< 履修するにあたって >

課題については必ずGCSquareを確認すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストやプレゼンの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

プレゼン原稿、評価表の提出、リスニング課題等の提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。提出物は GCSquare上で、もしくは教員の指示に従って提出すること。

< 成績評価方法・基準 >

Presentation-related activities => 50%

Text-related activities=> 30%

Versant + AE +WE player => 20%

< テキスト >

なし。必要資料はGCSquare上で配布する。

< 授業計画 >

第1回 Orientation 1

GCSquare, Academic Express, Speech saver/Shadowing /WE player tasks

第2回 Unit 1 Presentation (Day 1)

Brainstorming your first presentation

第3回 Orientation 2

Dialogue/Monologue homework, doing research

第4回 Unit 1 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第5回 Unit 1 Dialogue

Unit 1 dialogue and related input activities

第6回 Unit 1 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第7回 Unit 1 Monologue

Unit 1 monologue and related input activities

第8回 Unit 2 Dialogue

Unit 2 dialogue and related input activities

第9回 Unit 2 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第10回 Unit 2 Monologue

Unit 2 monologue and related input activities

第11回 Unit 2 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第12回 Unit 3 Dialogue

Unit 3 dialogue and related input activities

第13回 Unit 2 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第14回 Unit 3 Monologue

Unit 3 monologue and related input activities

第15回 Unit 3 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第16回 Unit 4 Dialogue

Unit 4 dialogue and related input activities

第17回 Unit 3 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第18回 Unit 4 Monologue

Unit 4 monologue and related input activities

第19回 Unit 3 Presentation (Day 3)

Presentation + peer feedback
 第20回 Unit 5 Dialogue
 Unit 5 dialogue and related input activities
 第21回 Unit 4 Presentation (Day 1)
 Brainstorming your presentation
 第22回 Unit 5 Monologue
 Unit 5 monologue and related input activities
 第23回 Unit 4 Presentation (Day 2)
 Draft revising and group practice
 第24回 Unit 6 Dialogue
 Unit 6 dialogue and related input activities
 第25回 Unit 4 Presentation (Day 3)
 Presentation + peer feedback
 第26回 Unit 6 Monologue
 Unit 6 monologue and related input activities
 第27回 Unit 5 Presentation (Day 1)
 Brainstorming your presentation
 第28回 Discussion/Reflection
 Reflections on your past presentations/discussions
 第29回 Unit 5 Presentation (Day 2)
 Draft revising and group practice
 第30回 Unit 5 Presentation (Day 3)
 Presentation + Peer feedback

 2022年度 後期

2.0単位

英語会話 (A)

大竹 翔子、海老原 由貴

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。留学時に必要となる英語でのコミュニケーション力を向上させる。さまざまなジャンルのトピックについて自らの考え方を発信したり議論できるようにし、同時に相手が発信する内容に従って会話をさらに発展させたり、効果的に発表できることも含めて練習を行う。リスニング(Input活動)については、次に発話することの準備として、アクティブに音声を聞き取ることができるような方略を身につける。

< 到達目標 >

・さまざまなトピックについて自分の考えを英語で表現できるようになる。

・さまざまなトピックについて英語で聞いた内容を理解でき、概略を再現できるようになる。

・自らの意見を述べるため、自分の議論に必要な部分をしっかり把握して聞くことができるようになる。

・対話の相手にとって聞き取りやすい英語で発話できるようになる。

・英語で話すべき内容の骨格となる構成をしっかりと把握して口頭表現ができるようになる。

・相手が言った内容をパラフレーズして繰り返し、さらに自分の意見を加えることができるようになる。

< 授業のキーワード >

アクティブリスニング プレゼンテーション 対話
 内容構成 語彙 発音

< 授業の進め方 >

週2回の授業の内、週1回は日常会話・スピーチ・プレゼンテーションの基礎を学ぶ input中心の授業とする。週1回はinput活動で得た知識を元にプレゼンテーションなどを行うoutput中心の授業とする。

< 履修するにあたって >

課題については必ずGCsquareを確認すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストやプレゼンの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

プレゼン原稿、評価表の提出、リスニング課題等の提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。提出物は GCsquare上で、もしくは教員の指示に従って提出すること。

< 成績評価方法・基準 >

Presentation-related activities => 50%

Text-related activities=> 30%

Versant + AE +WE player => 20%

< テキスト >

なし。必要資料はGCsquare上で配布する。

< 授業計画 >

第1回 Orientation 1

GCsquare, Academic Express, Speech saver/Shadowing /WE player tasks

第2回 Unit 7 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第3回 Orientation 2

Dialogue/Monologue homework, partner presentation tips

第4回 Unit 7 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第5回 Unit 7 Dialogue

Unit 7 dialogue and related input activities

第6回 Unit 7 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第7回 Unit 7 Monologue

Unit 7 monologue and related input activities
 第8回 Unit 8 Dialogue
 Unit 8 dialogue and related input activities
 第9回 Unit 8 Presentation (Day 1)
 Brainstorming your presentation
 第10回 Unit 8 Monologue
 Unit 8 monologue and related input activities
 第11回 Unit 8 Presentation (Day 2)
 Draft revising and group practice
 第12回 Unit 9 Dialogue
 Unit 9 dialogue and related input activities
 第13回 Unit 8 Presentation (Day 3)
 Presentation + Peer feedback
 第14回 Unit 9 Monologue
 Unit 9 monologue and related input activities
 第15回 Unit 9 Presentation (Day 1)
 Brainstorming your presentation
 第16回 Unit 10 Dialogue
 Unit 10 dialogue and related input activities
 第17回 Unit 9 Presentation (Day 2)
 Draft revising and group practice
 第18回 Unit 10 Monologue
 Unit 10 monologue and related input activities
 第19回 Unit 9 Presentation (Day 3)
 Presentation + peer feedback
 第20回 Unit 11 Dialogue
 Unit 11 dialogue and related input activities
 第21回 Unit 10 Presentation (Day 1)
 Brainstorming your presentation
 第22回 Unit 11 Monologue
 Unit 11 monologue and related input activities
 第23回 Unit 10 Presentation (Day 2)
 Draft revising and group practice
 第24回 Unit 12 Dialogue
 Unit 12 dialogue and related input activities
 第25回 Unit 10 Presentation (Day 3)
 Presentation + peer feedback
 第26回 Unit 12 Monologue
 Unit 12 monologue and related input activities
 第27回 Unit 11 Presentation (Day 1)
 Brainstorming your presentation
 第28回 Discussion/Reflection
 Reflections on your past presentations/discussions
 第29回 Unit 11 Presentation (Day 2)
 Draft revising and group practice
 第30回 Unit 11 Presentation (Day 3)
 Presentation + Peer feedback

 2022年度 後期

2.0単位

英語会話 (B)

タム ショウ イン、多田 さおり

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。留学時に必要となる英語でのコミュニケーション力を向上させる。さまざまなジャンルのトピックについて自らの考え方を発信したり議論できるようにし、同時に相手が発信する内容に従って会話をさらに発展させたり、効果的に発表できることも含めて練習を行う。リスニング(Input活動)については、次に発話することの準備として、アクティブに音声を聞き取ることができるような方略を身につける。

< 到達目標 >

- ・さまざまなトピックについて自分の考えを英語で表現できるようになる。
- ・さまざまなトピックについて英語で聞いた内容を理解でき、概略を再現できるようになる。
- ・自らの意見を述べるため、自分の議論に必要な部分をしっかり把握して聞くことができるようになる。
- ・対話の相手にとって聞き取りやすい英語で発話できるようになる。
- ・英語で話すべき内容の骨格となる構成をしっかりと把握して口頭表現ができるようになる。
- ・相手が言った内容をパラフレーズして繰り返し、さらに自分の意見を加えることができるようになる。

< 授業のキーワード >

アクティブリスニング プレゼンテーション 対話
 内容構成 語彙 発音

< 授業の進め方 >

週2回の授業の内、週1回は日常会話・スピーチ・プレゼンテーションの基礎を学ぶ input中心の授業とする。週1回はinput活動で得た知識を元にプレゼンテーションなどを行うoutput中心の授業とする。

< 履修するにあたって >

課題については必ずGCSquareを確認すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストやプレゼンの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

プレゼン原稿、評価表の提出、リスニング課題等の提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。提出物は GCsquare上で、もしくは教員の指示に従って提出すること。

< 成績評価方法・基準 >

Presentation-related activities => 50%

Text-related activities=> 30%

Versant + AE +WE player => 20%

< テキスト >

なし。必要資料はGCsquare上で配布する。

< 授業計画 >

第1回 Orientation 1

GCsquare, Academic Express, Speech saver/Shadowing /WE player tasks

第2回 Unit 7 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第3回 Orientation 2

Dialogue/Monologue homework, partner presentation tips

第4回 Unit 7 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第5回 Unit 7 Dialogue

Unit 7 dialogue and related input activities

第6回 Unit 7 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第7回 Unit 7 Monologue

Unit 7 monologue and related input activities

第8回 Unit 8 Dialogue

Unit 8 dialogue and related input activities

第9回 Unit 8 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第10回 Unit 8 Monologue

Unit 8 monologue and related input activities

第11回 Unit 8 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第12回 Unit 9 Dialogue

Unit 9 dialogue and related input activities

第13回 Unit 8 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第14回 Unit 9 Monologue

Unit 9 monologue and related input activities

第15回 Unit 9 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第16回 Unit 10 Dialogue

Unit 10 dialogue and related input activities

第17回 Unit 9 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第18回 Unit 10 Monologue

Unit 10 monologue and related input activities

第19回 Unit 9 Presentation (Day 3)

Presentation + peer feedback

第20回 Unit 11 Dialogue

Unit 11 dialogue and related input activities

第21回 Unit 10 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第22回 Unit 11 Monologue

Unit 11 monologue and related input activities

第23回 Unit 10 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第24回 Unit 12 Dialogue

Unit 12 dialogue and related input activities

第25回 Unit 10 Presentation (Day 3)

Presentation + peer feedback

第26回 Unit 12 Monologue

Unit 12 monologue and related input activities

第27回 Unit 11 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第28回 Discussion/Reflection

Reflections on your past presentations/discussions

第29回 Unit 11 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第30回 Unit 11 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

2022年度 後期

2.0単位

英語会話 (C)

大竹 翔子、海老原 由貴

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。留学時に必要となる英語でのコミュニケーション力を向上させる。さまざまなジャンルのトピックについて自らの考え方を発信したり議論できるようにし、同時に相手が発信する内容に従って会話をさらに発展させたり、効果的に発表できることも含めて練習を行う。リスニング(Input活動)については、次に発話することの準備として、アクティブに音声を聞き取ることができるような方略を身につける。

< 到達目標 >

・さまざまなトピックについて自分の考えを英語で表現

できるようになる。

・さまざまなトピックについて英語で聞いた内容を理解でき、概略を再現できるようになる。

・自らの意見を述べるため、自分の議論に必要な部分をしっかり把握して聞くことができるようになる。

・対話の相手にとって聞き取りやすい英語で発話できるようになる。

・英語で話すべき内容の骨格となる構成をしっかりと把握して口頭表現ができるようになる。

・相手が言った内容をパラフレーズして繰り返し、さらに自分の意見を加えることができるようになる。

< 授業のキーワード >

アクティブリスニング プレゼンテーション 対話
内容構成 語彙 発音

< 授業の進め方 >

週2回の授業の内、週1回は日常会話・スピーチ・プレゼンテーションの基礎を学ぶ input中心の授業とする。週1回はinput活動で得た知識を元にプレゼンテーションなどを行うoutput中心の授業とする。

< 履修するにあたって >

課題については必ずGCsquareを確認すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストやプレゼンの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

プレゼン原稿、評価表の提出、リスニング課題等の提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。提出物は GCsquare上で、もしくは教員の指示に従って提出すること。

< 成績評価方法・基準 >

Presentation-related activities => 50%

Text-related activities=> 30%

Versant + AE +WE player => 20%

< テキスト >

なし。必要資料はGCsquare上で配布する。

< 授業計画 >

第1回 Orientation 1

GCsquare, Academic Express, Speech saver/Shadowing /WE player tasks

第2回 Unit 7 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第3回 Orientation 2

Dialogue/Monologue homework, partner presentation tips

第4回 Unit 7 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第5回 Unit 7 Dialogue

Unit 7 dialogue and related input activities

第6回 Unit 7 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第7回 Unit 7 Monologue

Unit 7 monologue and related input activities

第8回 Unit 8 Dialogue

Unit 8 dialogue and related input activities

第9回 Unit 8 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第10回 Unit 8 Monologue

Unit 8 monologue and related input activities

第11回 Unit 8 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第12回 Unit 9 Dialogue

Unit 9 dialogue and related input activities

第13回 Unit 8 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第14回 Unit 9 Monologue

Unit 9 monologue and related input activities

第15回 Unit 9 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第16回 Unit 10 Dialogue

Unit 10 dialogue and related input activities

第17回 Unit 9 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第18回 Unit 10 Monologue

Unit 10 monologue and related input activities

第19回 Unit 9 Presentation (Day 3)

Presentation + peer feedback

第20回 Unit 11 Dialogue

Unit 11 dialogue and related input activities

第21回 Unit 10 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第22回 Unit 11 Monologue

Unit 11 monologue and related input activities

第23回 Unit 10 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第24回 Unit 12 Dialogue

Unit 12 dialogue and related input activities

第25回 Unit 10 Presentation (Day 3)

Presentation + peer feedback

第26回 Unit 12 Monologue

Unit 12 monologue and related input activities

第27回 Unit 11 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第28回 Discussion/Reflection

Reflections on your past presentations/discussions

第29回 Unit 11 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第30回 Unit 11 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

2022年度 後期

2.0単位

英語会話 (D)

タム ショウ イン、多田 さおり

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。留学時に必要となる英語でのコミュニケーション力を向上させる。さまざまなジャンルのトピックについて自らの考え方を発信したり議論できるようにし、同時に相手が発信する内容に従って会話をさらに発展させたり、効果的に発表できることも含めて練習を行う。リスニング(Input活動)については、次に発話することの準備として、アクティブに音声を聞き取ることができるような方略を身につける。

< 到達目標 >

- ・さまざまなトピックについて自分の考えを英語で表現できるようになる。
- ・さまざまなトピックについて英語で聞いた内容を理解でき、概略を再現できるようになる。
- ・自らの意見を述べるため、自分の議論に必要な部分をしっかり把握して聞くことができるようになる。
- ・対話の相手にとって聞き取りやすい英語で発話できるようになる。
- ・英語で話すべき内容の骨格となる構成をしっかりと把握して口頭表現ができるようになる。
- ・相手が言った内容をパラフレーズして繰り返し、さらに自分の意見を加えることができるようになる。

< 授業のキーワード >

アクティブリスニング プレゼンテーション 対話
内容構成 語彙 発音

< 授業の進め方 >

週2回の授業の内、週1回は日常会話・スピーチ・プレゼンテーションの基礎を学ぶ input中心の授業とする。週1回はinput活動で得た知識を元にプレゼンテーションなどを行うoutput中心の授業とする。

< 履修するにあたって >

課題については必ずGCSquareを確認すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストやプレゼンの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

プレゼン原稿、評価表の提出、リスニング課題等の提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。提出物は GCSquare上で、もしくは教員の指示に従って提出すること。

< 成績評価方法・基準 >

Presentation-related activities => 50%

Text-related activities=> 30%

Versant + AE +WE player => 20%

< テキスト >

なし。必要資料はGCSquare上で配布する。

< 授業計画 >

第1回 Orientation 1

GCSquare, Academic Express, Speech saver/Shadowing /WE player tasks

第2回 Unit 7 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第3回 Orientation 2

Dialogue/Monologue homework, partner presentation tips

第4回 Unit 7 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第5回 Unit 7 Dialogue

Unit 7 dialogue and related input activities

第6回 Unit 7 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第7回 Unit 7 Monologue

Unit 7 monologue and related input activities

第8回 Unit 8 Dialogue

Unit 8 dialogue and related input activities

第9回 Unit 8 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第10回 Unit 8 Monologue

Unit 8 monologue and related input activities

第11回 Unit 8 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第12回 Unit 9 Dialogue

Unit 9 dialogue and related input activities

第13回 Unit 8 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第14回 Unit 9 Monologue

Unit 9 monologue and related input activities

第15回 Unit 9 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第16回 Unit 10 Dialogue

Unit 10 dialogue and related input activities

第17回 Unit 9 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第18回 Unit 10 Monologue

Unit 10 monologue and related input activities

第19回 Unit 9 Presentation (Day 3)
 Presentation + peer feedback
 第20回 Unit 11 Dialogue
 Unit 11 dialogue and related input activities
 第21回 Unit 10 Presentation (Day 1)
 Brainstorming your presentation
 第22回 Unit 11 Monologue
 Unit 11 monologue and related input activities
 第23回 Unit 10 Presentation (Day 2)
 Draft revising and group practice
 第24回 Unit 12 Dialogue
 Unit 12 dialogue and related input activities
 第25回 Unit 10 Presentation (Day 3)
 Presentation + peer feedback
 第26回 Unit 12 Monologue
 Unit 12 monologue and related input activities
 第27回 Unit 11 Presentation (Day 1)
 Brainstorming your presentation
 第28回 Discussion/Reflection
 Reflections on your past presentations/discussions
 第29回 Unit 11 Presentation (Day 2)
 Draft revising and group practice
 第30回 Unit 11 Presentation (Day 3)
 Presentation + Peer feedback

 2022年度 後期

2.0単位

英語会話 (E)

大竹 翔子、海老原 由貴

 < 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。留学時に必要となる英語でのコミュニケーション力を向上させる。さまざまなジャンルのトピックについて自らの考え方を発信したり議論できるようにし、同時に相手が発信する内容に従って会話をさらに発展させたり、効果的に発表できることも含めて練習を行う。リスニング(Input活動)については、次に発話することの準備として、アクティブに音声を聞き取ることができるような方略を身につける。

< 到達目標 >

・さまざまなトピックについて自分の考えを英語で表現

できるようになる。

・さまざまなトピックについて英語で聞いた内容を理解でき、概略を再現できるようになる。

・自らの意見を述べるため、自分の議論に必要な部分をしっかり把握して聞くことができるようになる。

・対話の相手にとって聞き取りやすい英語で発話できるようになる。

・英語で話すべき内容の骨格となる構成をしっかりと把握して口頭表現ができるようになる。

・相手が言った内容をパラフレーズして繰り返し、さらに自分の意見を加えることができるようになる。

< 授業のキーワード >

アクティブリスニング プレゼンテーション 対話
 内容構成 語彙 発音

< 授業の進め方 >

週2回の授業の内、週1回は日常会話・スピーチ・プレゼンテーションの基礎を学ぶ input中心の授業とする。週1回はinput活動で得た知識を元にプレゼンテーションなどを行うoutput中心の授業とする。

< 履修するにあたって >

課題については必ずGCsquareを確認すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストやプレゼンの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

プレゼン原稿、評価表の提出、リスニング課題等の提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。提出物は GCsquare上で、もしくは教員の指示に従って提出すること。

< 成績評価方法・基準 >

Presentation-related activities => 50%

Text-related activities=> 30%

Versant + AE +WE player => 20%

< テキスト >

なし。必要資料はGCsquare上で配布する。

< 授業計画 >

第1回 Orientation 1

GCsquare, Academic Express, Speech saver/Shadowing /WE player tasks

第2回 Unit 7 Presentation (Day 1)

Brainstorming your presentation

第3回 Orientation 2

Dialogue/Monologue homework, partner presentation tips

第4回 Unit 7 Presentation (Day 2)

Draft revising and group practice

第5回 Unit 7 Dialogue

Unit 7 dialogue and related input activities

第6回 Unit 7 Presentation (Day 3)

Presentation + Peer feedback

第7回 Unit 7 Monologue
Unit 7 monologue and related input activities
第8回 Unit 8 Dialogue
Unit 8 dialogue and related input activities
第9回 Unit 8 Presentation (Day 1)
Brainstorming your presentation
第10回 Unit 8 Monologue
Unit 8 monologue and related input activities
第11回 Unit 8 Presentation (Day 2)
Draft revising and group practice
第12回 Unit 9 Dialogue
Unit 9 dialogue and related input activities
第13回 Unit 8 Presentation (Day 3)
Presentation + Peer feedback
第14回 Unit 9 Monologue
Unit 9 monologue and related input activities
第15回 Unit 9 Presentation (Day 1)
Brainstorming your presentation
第16回 Unit 10 Dialogue
Unit 10 dialogue and related input activities
第17回 Unit 9 Presentation (Day 2)
Draft revising and group practice
第18回 Unit 10 Monologue
Unit 10 monologue and related input activities
第19回 Unit 9 Presentation (Day 3)
Presentation + peer feedback
第20回 Unit 11 Dialogue
Unit 11 dialogue and related input activities
第21回 Unit 10 Presentation (Day 1)
Brainstorming your presentation
第22回 Unit 11 Monologue
Unit 11 monologue and related input activities
第23回 Unit 10 Presentation (Day 2)
Draft revising and group practice
第24回 Unit 12 Dialogue
Unit 12 dialogue and related input activities
第25回 Unit 10 Presentation (Day 3)
Presentation + peer feedback
第26回 Unit 12 Monologue
Unit 12 monologue and related input activities
第27回 Unit 11 Presentation (Day 1)
Brainstorming your presentation
第28回 Discussion/Reflection
Reflections on your past presentations/discussions
第29回 Unit 11 Presentation (Day 2)
Draft revising and group practice
第30回 Unit 11 Presentation (Day 3)
Presentation + Peer feedback

2022年度 前期

2.0単位

英語学

仁科 恭徳

< 授業の方法 >

オンライン授業（講義、演習）*GCスクエアでのやりとりも行う。Zoom等で説明を行うこともありますので、必ずGCスクエアの英語学1のページを確認して下さい。

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて 授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

仁科恭徳 <ynishina@gc.kobegakuin.ac.jp>

< 授業の目的 >

この授業では、ディプロマポリシーの中でも、特に「3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」と「4.（英語コース）教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」の双方に主眼をおいている。特に、「ことば」とは何かについて、科学的アプローチで得られた知見や、そこに到達するために用いられた手段・方法について概観する。日本語と比較しつつ英語を主たる対象として、標準的な分析の方法について学ぶ。言語の一般的特質や、動物と人間言語の違いについて基礎的理解を図った後、「音のしくみ（音声学・音韻論）」「語のしくみ（形態論）」「文のしくみ（統語論）」「語や文の意味（意味論）」「語用論」について理解を深める。重要項目について正確に把握するだけでなく、身の回りの言語現象に、理解した分析方法を適用して考察を行う。

< 到達目標 >

- ・言語の起源に関する諸説に関して説明することができる。
- ・動物言語と人間語の違いに関して説明することができる。
- ・語形成・形態論の基本概念に関して説明することができる。
- ・与えられた文に対して適切に樹形図を書くことができる。
- ・与えられた文に対して適切に意味役割を付与して分析できる。

< 授業の進め方 >

講義、プレゼンテーション、グループワーク

< 履修するにあたって >

教職科目であることから、厳しい授業となる。真面目に

取り組む学生のみ、履修して頂きたい。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、テキストで扱われる内容の予習とプレゼンテーション準備で最低1時間、講義内容の復習においても最低1時間以上が必要である。

< 提出課題など >

学習内容を確認する試験やレポートを課す予定である。また、そのフィードバックに関しては、授業内や研究室等で随時実施する。

< 成績評価方法・基準 >

基本的には毎回の小テストと必要に応じて最後の期末試験で成績評価（100%）を行います。

以下は参考までに例年の授業評価方法です。

(授業態度や言動が良好という前提において)

毎回のプレゼンテーションと授業への貢献(質問、ディスカッションなど) 60%

復習テスト 40%

*ただし、将来教壇に立つ教員養成のための授業でもあるので、授業態度などその資質に合わない言動をとる者は単位取得不可とする。

< テキスト >

George Yule. The study of language (the 7th Edition) [Cambridge University Press]

その他(適時、英語の文献を指示する)

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

ガイダンス、英語学I概要

第2回 言語の起源

The origins of language (言語の起源)について学ぶ。

第3回 動物言語と人間語 1

Animals and human language1: Properties of human language (動物言語と人間語 1 : 人間語の性質)について学ぶ。

第4回 動物言語と人間語 2

Animals and human language2: Chimpanzees and language (動物言語と人間語 2 : チンパンジーと言語)について学ぶ。

第5回 言語の音 1

The sounds of language1: Place of articulation and consonant sounds (言語の音 1 : 調音の位置と子音)について学ぶ。

第6回 言語の音 2

The sounds of language2: Manner of articulation and vowels (言語の音 2 : 調音の様態と母音)について学ぶ。

第7回 言語の音声パターン

The sound patterns of language (言語の音声パターン)について学ぶ。

第8回 語形成

Word formation (語形成)について学ぶ。

第9回 形態論

Morphology (形態論)について学ぶ。

第10回 文法

Grammar (文法)について学ぶ。

第11回 統語論 1

Syntax1: Overview (統語論 1 : 概観)について学ぶ。

第12回 統語論 2

Syntax2: Tree diagrams (統語論 2 : 樹形図)について学ぶ。

第13回 意味論 1

Semantics1: Semantic roles (意味論 1 : 意味役割)について学ぶ。

第14回 意味論 2

Semantics2: Lexical relations (意味論 2 : 語彙関係)について学ぶ。

第15回 コンクルージョン

英語学Iまとめ、復習テスト

2022年度 後期

2.0単位

英語学

深田 将揮

< 授業の方法 >

講義 演習

< 授業の目的 >

この授業科目は以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

1. 実践的で高度な外国語の運用ができる
2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる
3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる

英語言語学における必要不可欠な知識を英語で読み進め、英語言語学における知識を深くつけることを主たる目標とする。最終的に講義を通して、英語という言語を英語で考え、英語でアウトプットできる素地形成も目指す。

< 到達目標 >

- (1) 英語言語学における知識の理解を深め、自分の意見を英語で論理的に説明できる。
- (2) 確かな英語力をつけ、専門書を英語で読破できる。

< 授業のキーワード >

英語学

< 授業の進め方 >

この講義では、各セクションの担当を決めてそのセクションを責任を持って講読をしてもらいます。(講読担当

者は、パワーポイント作成し、GC Square上に授業までにアップロード（共通ファイル名：各チャプターの番号とタイトル、例）Chapter 1 Why Study English Linguistics）担当以外は、内容の予習と章末問題の回答。内容の補足説明（解説）と章末問題の答え合わせは、深田担当。

<履修するにあたって>

予習を重視します。

毎回のプレゼンテーションを重視します。

毎回、必ず予習をしてください。事前講読を作成して予習内容をまとめてください。（事前講読の作成については、初回授業時に説明）

<授業時間外に必要な学修>

各チャプターの事前講読及び章末問題に90分が必要。

また、各チャプターの担当者は、プレゼンテーション資料作成に90分必要。

<提出課題など>

各チャプターの事前講読及び章末問題、プレゼンテーション資料（パワーポイントファイル）

<成績評価方法・基準>

復習テスト(60%)、事前講読(20%)、プレゼンテーション(20%)

<テキスト>

First Steps in English Linguistics, Taro Kageyama, Brent de Chene, Junko Hibiya（くろしお出版）ISBN: 978-4-874-24277-3

<参考図書>

長谷川瑞穂 編著 『はじめての英語学 改訂版』（研究社）978-4-327-40165-8

稲木昭子 他 『新しいごエイゴ英語学』（松柏社）

978-4-775-40004-3

<授業計画>

第1回 Introduction

英語学とは

第2回 Chapter 1 Why Study English Linguistics

英語言語学を学ぶ理由とは

第3回 Chapter 2 How English Has Changed over the Centuries

英語の変遷とは

第4回 Chapter 3 How Words Are Made: Morphology

ことばはどのように作られるか：形態論

第5回 Chapter 4 How Words Mean: Semantics 1

ことばの意味とは：意味論 1

第6回 Chapter 5 How English Phrases Are Formed: Syntax 1

英語の句はどのように組み立てられるか：統語論 1（統語論とは）

第7回 Chapter 6 How English Sentences Are Formed: Syntax 2

英語の句はどのように組み立てられるか：統語論 2（統

語構造とは）

第8回 Chapter 7 How Sentences Mean: Semantics 2

文の意味とは：意味論 2

第9回 Chapter 8 How to Communicate with Other People: Pragmatics

コミュニケーションの方法とは：語用論

第10回 Chapter 9 The Sounds of English: Phonetics and Phonology

英語の音声とは：音声学と音韻論

第11回 Chapter 10 Regional Varieties of English: Sociolinguistics 1

英語の地域特性とは：社会言語学 1

第12回 Chapter 11 English in Society: Sociolinguistics 2

社会における英語とは：社会言語学 2

第13回 Chapter 12 How English Is Acquired: Psycholinguistics

どのように英語は習得されるか：心理言語学

第14回 Chapter 13 How English as a Second/Foreign Language Is Acquired: Applied Linguistics

第二言語習得とは：応用言語学

第15回 Review

まとめ

2022年度 後期

2.0単位

英語学

深田 将揮

<授業の方法>

講義 演習

<授業の目的>

この授業科目は以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

1. 実践的で高度な外国語の運用ができる
2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる
3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる

英語学における基本的知識を持って、応用言語学に関する知識を深くつけることを主たる目標とする。

<到達目標>

(1) 英語学を基礎に、応用言語学の知識の理解を深め、自分の意見を持って説明できる。

(2) 応用言語学における理論的知識を自分の言葉で表現できる。

(3) 確かな英語力をつけ、専門書を英語で読破できる。

<授業のキーワード>

<授業の進め方>

1. 本文プリントを元に講読し、レポート提出
各自、各チャプターをGC Square上にある本文プリント
をもとに講読し、パソコンでまとめる。その上でまとめた
ファイルをGC Squareのレポート機能を用いて提出。

2. 授業で確認

各チャプター担当のプレゼンテーション後、担当教員から
の説明、解説を聞き、事前購読で不明だった部分につ
いて学修する。

3. 質問およびディスカッション

授業内でディスカッションの場を設けますので、テーマ
についてディスカッションを行う。

<履修するにあたって>

予習を重視します。

毎回のプレゼンテーションを重視します。

毎回、必ず予習をしてください。事前講読を作成して予
習内容をまとめてください。(事前講読の作成について
は、初回授業時に説明)

<授業時間外に必要な学修>

各チャプターの事前講読に90分が必要。また、各チャ
プターの担当者は、プレゼンテーション資料作成に90
分必要。

<提出課題など>

各チャプターの事前講読、プレゼンテーション資料(パ
ワーポイントファイル)

<成績評価方法・基準>

復習テスト(60%)、事前講読(20%)、プレゼンテーション
(20%)

<テキスト>

An Introduction to Foreign Language Learning and Teaching. 3rd Edition Keith Johnson. Routledge, ISBN: 978-0815380177

<参考図書>

講義内で紹介する。

<授業計画>

第1回 Chapter 1 Five Learners and five methods

外国語を学ぶ理由

第2回 Chapter 2 What is there to learn?

外国語における学び

第3回 Chapter 3 Some views of language and language learning

外国語学習の理論

第4回 Chapter 4 Learners and their errors

学習者とその間違い

第5回 Chapter 5 Input, interaction and output

外国語学習におけるインプット、インタラクションとア

ウトプット

第6回 Chapter 6 Some learning processes

外国語学習の過程

第7回 Chapter 7 Individual language learners: some differences

外国語学習方略

第8回 Chapter 8 Good language learners and what they do

外国語学習成功者から学ぶ

第9回 Chapter 9 Language teaching: a brisk walk through recent times

外国語指導法の歴史

第10回 Chapter 10 Contexts

指導内容

第11回 Chapter 11 Plans and programmes

指導の計画

第12回 Chapter 12 Ways and means

外国語指導法

第13回 Chapter 13 Skills

技能

第14回 Chapter 14 Tests

テスト

第15回 Review

まとめ

2022年度 前期

2.0単位

英語専攻演習

荒島 千鶴

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

この授業科目は、グローバル・コミュニケーション学部
の以下のディプロマポリシーと深く関係する。

1. 実践的で高度な外国語の運用ができる
2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる

<到達目標>

- 1) TOEIC 600点以上の得点を取得できる。
- 2) 総合的な英語力の向上を目指し、自ら学習計画を立てることができる。

<授業の進め方>

各自、各自が予習してきたテキストを(問題を解いてくる、単語の意味を調べてくる等)中心に、答え合わせと解説を行う。時間に余裕があれば、類似問題の演習も行う。

<履修するにあたって>

予習をしていない者は授業に参加できない。必ず予習を

して授業に臨むこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習・復習(1時間～1時間半程度)

< 提出課題など >

次週のテキストの問題を解いてくる。

< 成績評価方法・基準 >

授業内での貢献度25%、課題15×5%(75%)

< テキスト >

SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST: INTERMEDIATE

(番場直之/小山克明 著、金星堂、2021年、ISBN:978-4-7647-4090-7 C1082)

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

Unit 1: Travel

授業の進め方や内容の説明

Travelに必要な語句・表現を学ぶ

名詞について学ぶ

第2回 Unit 1: Travel

Travelに必要な語句・表現を学ぶ

名詞について学ぶ

第3回 Unit 2: Dining Out

レストランや食事・料理に関する表現・語句を覚える

形容詞について学ぶ

第4回 Unit 2: Dining Out

レストランや食事・料理に関する表現・語句を覚える

形容詞について学ぶ

第5回 Unit 3: Media

Mediaに関する語句・表現を学ぶ

副詞について学ぶ

第6回 Unit 3: Media

メディアに関する語句・表現を学ぶ

副詞について学ぶ

第7回 Unit 4: Entertainment

エンターテインメントに関する語句・表現を学ぶ

時制について学ぶ

第8回 Unit 4: Entertainment

エンターテインメントに関する語句・表現を学ぶ

時制について学ぶ

第9回 Unit 5: Purchasing

買い物に関する語句・表現を学ぶ

主語と動詞の一致(3単現のs)について学ぶ

第10回 Unit 5: Purchasing

買い物に関する語句・表現を学ぶ

主語と動詞の一致(3単現のs)について学ぶ

第11回 Unit 6: Clients

顧客との取引に関する語句・表現を学ぶ

能動態、受動態について学ぶ

第12回 Unit 6: Clients

顧客との取引に関する語句・表現を学ぶ

能動態、受動態について学ぶ

第13回 Unit 7: Recruiting

求人・採用に関する語句・表現を学ぶ

動名詞、不定詞について学ぶ

第14回 Unit 7: Recruiting

求人・採用に関する語句・表現を学ぶ

動名詞、不定詞について学ぶ

第15回 まとめ

まとめ&期末テスト

2022年度 後期

2.0単位

英語専攻演習

中嶋 アンディ 史人

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この科目は、神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学部のディプロマポリシーである「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことに遵守した科目である。通訳及び翻訳の技能を生かしながら、英語で日本を発信し、日本と海外を繋ぐサービス・ラーニングを視野に入れた学習を行うものである。

< 到達目標 >

・通訳ガイドとしてのキャリアにつながる英語力、企画力、コミュニケーション力を発揮することができるようになる。

・観光学の素養を元に、海外で仕事に従事する際に日本を発信できる知識を身に付けられる。

・国内外の様々な人と接することにより多文化理解を育めるようになる。

< 授業のキーワード >

Service Learning, Tourism, Translation, ICT

< 授業の進め方 >

Pair work, Group work, Lecture, Interpretation and Translation

< 履修するにあたって >

国内外の様々な背景を持つ方々とのコミュニケーションが必須となるため、一般常識、マナー、多文化共生への理解、仕える姿勢を持つこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

1回の授業につき、約3時間の準備が必要となる。通常授業以外にフィールドワークが入ることもある。

< 提出課題など >

毎回、GCsquareに課題を提出すること。

<成績評価方法・基準>

- ・ 出席と積極的な授業への参加態度：25%
- ・ 「自分のまち（英語版）」の内容とプレゼンテーション：25%
- ・ 毎回の課題の提出：50%

<テキスト>

教室内で指示する。

<参考図書>

- ・ 『観光亡国論』 アレックス・カー・ 清野由美（著）（中公新書ラクレ）
- ・ 『観光立国の正体』 藻谷 浩介・ 山田 桂一郎（著）（新潮新書）

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

- ・ 今学期の授業内容について（翻訳サービス、アテンドプロジェクトなど）
- ・ 観光レポートと新聞記事の中の観光学
- ・ 観光の資格試験について

第2回 『新・観光立国論』

<宿題> 著書のまとめと感想と質問と異議の報告とディスカッション

第3回 『新・観光立国論』

<宿題> 著書のまとめと感想と質問と異議の報告とディスカッション

第4回 『新・観光立国論』

<宿題> 著書のまとめと感想と質問と異議の報告とディスカッション

第5回 「地域の観光? 自分のまち（英語版）」作成
「地域の観光? 自分のまち（英語版）」の作成のためのグループワーク

第6回 『観光亡国』

<宿題> 著書のまとめと感想と質問と異議の報告とディスカッション

第7回 『観光亡国』

<宿題> 著書のまとめと感想と質問と異議の報告とディスカッション

第8回 『観光亡国』

<宿題> 著書のまとめと感想と質問と異議の報告とディスカッション

第9回 「地域の観光? 自分のまち（英語版）」作成
「地域の観光? 自分のまち（英語版）」の作成のためのグループワーク

第10回 『観光立国の正体』

<宿題> 著書のまとめと感想と質問と異議の報告とディスカッション

第11回 『観光立国の正体』

<宿題> 著書のまとめと感想と質問と異議の報告とディスカッション

第12回 『観光立国の正体』

<宿題> 著書のまとめと感想と質問と異議の報告とデ

ィスカッション

第13回 「地域の観光? 自分のまち（英語版）」プレゼン1

訪日外国人旅行者のふるさと観光誘致の一環として観光プランを英語で提案する。

第14回 「地域の観光? 自分のまち（英語版）」プレゼン2

訪日外国人旅行者のふるさと観光誘致の一環として観光プランを英語で提案する。

第15回 「地域の観光? 自分のまち（英語版）」プレゼン3とまとめ

訪日外国人旅行者のふるさと観光誘致の一環として観光プランを英語で提案する。

2022年度 後期

2.0単位

英語専攻演習

東 淳一

<授業の方法>

演習（対面授業）。オンライン授業になった場合の指示および資料配布場所：{GCsquare, <http://gcsquare.kobegakuin.ac.jp/>}

<授業の目的>

この英語専攻演習では、これまでの専攻演習の経験を踏まえ、共同でのプロジェクトを体験しつつ、受講生各自の関心に従ったプロジェクト活動、研究活動の土台を築くことができるようにします。授業ではプロジェクトの進捗状況と進め方について発表および相互評価をし合い、卒業までにどのような研究プロジェクトを継続して実行することが可能か、もしくは、どのようなプロジェクトを今後立ち上げることが可能かなどが理解できるようにしていきます。この科目では、グローバル・コミュニケーション学部のディプロマポリシーのうち、「1. 実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」に関わる作業が多くなりますが、特に翻訳プロジェクトなどについては、「3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けること」にも関わってきます。

<到達目標>

- ・ 翻訳作業などにおいて、英語のみならず、英語以外のコンテンツの背景知識を把握することができる。
- ・ 企画・立案、研究実施において、グループで研究プロジェクトを推進できるコミュニケーション能力と発表のためのメディア操作能力を育成することができる。
- ・ 各種作業を通じてチームワークを体験し、組織として最大限のアウトプットを産出するため何が必要なのかを身をもって体験できる。

<授業の進め方>

アクティブラーニングベースのスタイルになります。授業時間外ではGCsquare上でのディスカッションベースなども併用します。

<履修するにあたって>

GCsquareの高度な操作に慣れておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

授業でのまとめ、プレゼンができるように、授業外で十分にプロジェクトごとの作業をしておく必要があります。この授業1回に対して必要な授業外での学修時間はほぼ90分です。

<提出課題など>

対面授業での活動に加えて毎回の授業での議論、および作業はGCsquareも併用します。提出課題等についてのフィードバックはGCsquareおよびメールにて行います。

<成績評価方法・基準>

毎回の授業への貢献度(授業外でのプロジェクトのための準備作業含む)(30%)、授業での発表内容(30%)、提出物(20%)、グループ、ユニットでの協力度(20%)で評価します。

<テキスト>

授業中に指示します。

<参考図書>

授業中に指示します。

<授業計画>

第1回 専攻演習 IIへの導入

授業の進め方についてのイントロダクションを行い、それぞれのプロジェクトの概要と進め方をみんなでディスカッションします。その過程で各プロジェクトの実行計画を作り上げていきます。

第2回 スタートアップ(1)

個人ベースまたはグループでの研究テーマの策定と予備研究の実施(1)

第3回 スタートアップ(2)

個人ベースまたはグループでの研究テーマの策定と予備研究の実施(2)

第4回 スタートアップ(3)

個人ベースまたはグループでの研究テーマの策定と予備研究の実施(3)

第5回 スタートアップ(4)

個人ベースまたはグループでの研究テーマの策定と予備研究の実施(4)

第6回 コアプロジェクト推進(1)

個人ベースまたはグループでの研究の実施と成果の提出(1)

第7回 コアプロジェクト推進(2)

個人ベースまたはグループでの研究の実施と成果の提出(2)

第8回 コアプロジェクト推進(3)

個人ベースまたはグループでの研究の実施と成果の提出(3)

第9回 コアプロジェクト推進(4)

全プロジェクトの進捗状況のチェック、ここまでの作業のふりかえりおよび今後の作業計画の点検と修正など

第10回 コアプロジェクト推進(5)

個人ベースまたはグループでの研究の実施と成果の提出(4)

第11回 コアプロジェクト推進(6)

個人ベースまたはグループでの研究の実施と成果の提出(5)

第12回 コアプロジェクト推進(7)

個人ベースまたはグループでの研究の実施と成果の提出(6)

第13回 コアプロジェクト推進(8)

個人ベースまたはグループでの研究の実施と成果の提出(7)

第14回 コアプロジェクト推進(9)

個人ベースまたはグループでの研究の実施と成果の提出(8)

第15回 学期末のふりかえり

この学期中に学んだことを発表し、専攻演習IVで研究すべきことを展望する。

2022年度 後期

2.0単位

英語専攻演習

Krieg, Alexander William

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

In this course, students will learn about human relationships through participation in a process group. A process group is a discussion-based learning format, where group members are encouraged to express their thoughts and feelings regarding the interpersonal situation in real-time under the guidance of a trained professional. Given that this is a unique skill that most students are less familiar with, the group will start off with structured activities and role-plays, but progressively become more student-led as the semester continues.

この授業ではディプロマポリシーの中でも(1)実践的で高度な外国語の適用できる(2)言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる(3)教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができることを目的としている。

<到達目標>

1. Students will have increased ability in emotional intelligence

2. Students will have increased ability in interpersonal communication
 3. Students will have increased ability in presentation skills
 4. Students will have increased ability in giving helpful feedback
 5. Students will have increased ability to express themselves courageously
- < 授業のキーワード >

Psychology, Interpersonal Psychology, Process Group, Human Relationships, Emotion

< 授業の進め方 >

プロジェクトの完了、クラスへの参加、レポート

< 履修するにあたって >

この授業には、参加するための個別の申請プロセスが必要です。英語能力必須

< 授業時間外に必要な学修 >

プロジェクトを作成に最低2時間を必要とする。

< 提出課題など >

プロジェクトのリポート、ワークシート/エッセイ。フィードバックは授業内で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

ワークシート(1点x10回=10%)、レポート(15点x6回=90%)

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

教室内で指示する

< 授業計画 >

第1回 Introduction

Course Explanation and Overview

第2回 Awareness (Pt. 1)

External Awareness: Five Senses

第3回 Awareness (Pt. 2)

Internal Awareness: Sensations and Emotions

第4回 Awareness (Pt. 3)

Interpersonal Awareness: Distance and Dominance

第5回 Parts of Self (Pt. 1)

Family Systems Therapy: My Many Voices

第6回 Parts of Self (Pt. 2)

Jungian Psychoanalysis: My Many Archetypes

第7回 Parts of Self (Pt. 3)

Gestalt Therapy: I Because of You

第8回 Expressing Emotion (Pt. 1)

Asking Powerful Questions

第9回 Expressing Emotion (Pt. 2)

Giving Feedback

第10回 Expressing Emotion (Pt. 3)

Sharing Thoughts and Feelings

第11回 Process in Practice (Pt. 1)

Distinguishing Process from Content

第12回 Process in Practice (Pt. 2)

Role Plays and Character Construction

第13回 Process in Practice (Pt. 3)

Unscripted Process

第14回 Report Writing

Data Analysis and Report Writing Tutorial

第15回 Conclusion

Summary and Final Evaluation

2022年度 後期

2.0単位

英語専攻演習

荒島 千鶴

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この授業科目は、グローバル・コミュニケーション学部の以下のディプロマポリシーと深く関係する。

1. 実践的で高度な外国語の運用ができる
2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる
3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる

このゼミでは、ゼミ生が英語模擬国連に参加することを念頭においた授業を行う。

担当教員は国際法が専門なので、英語模擬国連で扱われるテーマの内容やテーマ理解に必要な知識を日本語および英語で理解することに重点を置く。

事前準備として、外務省や各国政府のウェブサイト等を参考に担当国の事情を調べる。また、国連などの国際機構のウェブサイト等を参考に、模擬国連会議でとりあげる国際問題を解決するための、担当国の政策を考える。その際には必要に応じて、国際法、国際機構および国連の持続可能な開発目標（SDGs）についての知識を得られるように、教員が講義をしたり、参考文献を示したりする。

模擬国連会議では、担当国の国益を主張しながらも、国際社会一般の共通利益を実現するような政策を他国大使との話し合いの中で作りあげ、それを決議にまとめる。学内あるいは他大学のクラスと、合同演習を行うこともある。

教員は、2年間の在フィンランド日本国大使館における専門調査員（国際会議にオブザーバー国である日本政府代表として出席経験あり）としての勤務と1か月の国連人権小委員会でのインターンの実務経験のある教員であり、かつ、2016年より模擬国連会議全米大会日本代表団

派遣事業顧問である。本演習においては、それらの実務経験により得た経験を活かす。

<到達目標>

国連や国際法の基礎知識について説明をすることができる。

SDGsについて説明することができる。

担当国について説明することができる。

国際問題を解決するための政策について考えることができる。

目指すキャリアにつながるような英語力を身につける。

学内・学外の様々な人と接することで、コミュニケーション能力を高める。

日本模擬国連により公表されている「模擬国連への参加で育成される能力」（問題分析能力・多角的視点・協調性・相互理解・Public Speaking・語学力）の強化が図れる。

卒業プロジェクトの基礎作りを行う。

関心のある国際時事問題についての自分の意見を英語で言える。

グループワークにおいて自分の強みを活かせる。

<授業のキーワード>

国際連合、国際法、SDGs、国際機構法、模擬国連会議、人権

<授業の進め方>

受講生がある国の大使の役割を担い、担当国、SDGsや国際問題について調べ、英語模擬国連会議における担当国の政策を考える。

国連および国際法の基礎知識、模擬国連に関する語彙や手続について学修する。

担当国の大使として、互いに政策について議論する。

元外務省職員による講演会も予定している。

卒業までにどのような研究プロジェクトを立ち上げることが可能か、もしくは、どのような研究論文を執筆することが可能かを探る。

<履修するにあたって>

国際連合広報センター (<https://www.unic.or.jp/>)、国際連合 (<https://www.un.org/>)、外務省「国連とは」 (https://www.mofa.go.jp/mofaj/fp/unp_a/page22_01254.html)、外務省「SDGsとは？」 (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>)、外務省「国・地域」 (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html>) のウェブサイトを見て、国連や他の国・地域について知っておく。

国際時事問題に関心をもち、新聞の国際面を読むこと。自分や自国人、自国政府の立場だけでなく、他人や外国人、外国政府の立場についても理解するように努めること。

根拠に基づいた自分の意見をもつこと。

積極的にディスカッションに参加すること。

<授業時間外に必要な学修>

履修生ひとりひとりが異なった研究に取り組むことになりまますので、自律的学習者としての自覚を持ち、自分の研究に責任を持って取り組んでください（1.5時間）。

<提出課題など>

毎回、指示します。

課題提出に必要な資料はGCsquareにアップロードします。

<成績評価方法・基準>

授業内での活動 50%、提出課題 50%

<参考図書>

必要に応じて授業中に提示します。

<授業計画>

第1回 orientation

introduction - schedule, expectations

MUN theme: Background Guide

research and share

Where are delegate countries? Point them in the map

Qs about UN - research and share

UN Body, Meeting and Committee Research Template

第2回 Research on the theme of MUN

Start researching meeting theme and committee sub-topics

UN Body, Meeting and Committee Research Template

第3回 Country Background Research

Country Background Research Template

UN Body, Meeting & Committee Research Template

第4回 Preparation for a position paper

How to make a JUEMUN policy

Operative and preambular phrases of the resolutions

Policy-making JUEMUN Template

第5回 Preparation for a position paper

Policy-making JUEMUN Template

第6回 Preparation for a position paper

Policy-making JUEMUN Template

第7回 Preparation for a position paper

submit a position paper

第8回 Preparation for a position paper

Discuss and rewrite a position paper

第9回 JUEMUN procedures

MUN procedures

Formal plenary practice: Flags, placards, gavel etc.

Friendly, Unfriendly amendmens.

Voting

第10回 Policy recommendations

Prepare a minimum of 2 preambular and operative clauses on your policies.

第11回 Reflection

Read and make amendments to the operative clauses in the 3 draft resolutions submitted by other committees.

Reflection

第12回 Preparation for policy speeches

How to make a JUEMUN speech

Writing a policy speech following the speech-making format

Checking each other's policy speeches

Make policy speeches in front of everybody

第13回 MUN procedures

MUN procedures

Formal plenary practice: Flags, placards, gavel etc.

Friendly, Unfriendly amendments.

Voting

第14回 Practice sessions

Practice Informal Session and Formal Session

Practice Roll call, Vote on draft resolutions, Chair adjourns the meeting

第15回 Reflection

Reflection on course

2022年度 後期

2.0単位

英語専攻演習

森下 美和

< 授業の方法 >

演習・実習

< 授業の目的 >

この授業科目は以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

1. 実践的で高度な外国語の運用ができる
2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる
3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる

異文化コミュニケーションの様々な側面について、理論言語学と心理言語学の方法論を応用して、理論的・実践的に学ぶゼミです。

異文化コミュニケーションの実際を経験するために、以

下のプロジェクトから興味のあるものを自由に選んで参加してください。複数のプロジェクトに参加することも、自分で新たにプロジェクトを立ち上げることも可能です。また、活動は個人でもチーム単位でも構いません。

< プロジェクト例 >

- ・インバウンド観光客の動向・満足度調査
- ・インバウンド観光客向けツアーの運営協力・オリジナルツアーの企画提案

- ・神戸観光ガイドマップ（多言語バージョン）の作成
- ・インフォメーションセンター等でのボランティア通訳
- ・神戸在住外国人との交流やインタビュー
- ・神戸市が主催する各種イベントへの参加
- ・神戸地区中小企業の海外発信支援

- ・言語景観調査

< 到達目標 >

- ・目指すキャリアにつながるような英語力を身に付ける。
- ・ホスピタリティについての理解を深める。
- ・学内・学外のさまざまな人と接することで、コミュニケーション能力を高める。
- ・個人またはグループによるプロジェクトを、企画・運営する。
- ・卒業プロジェクトの基礎作りを行う。

< 授業のキーワード >

通訳・翻訳と異文化コミュニケーション、産官学連携、地域貢献

< 授業の進め方 >

各自興味のあるテーマについて調査し、パワーポイントを使って発表する。発表者以外の受講生は、積極的に質問やコメントをする。

< 履修するにあたって >

学外の人との共同作業が多いので、一般的なマナーが守られること。

< 授業時間外に必要な学修 >

無理のない範囲で、1時間程度予習・復習をすること。また、通常授業以外に、主に土日に、フィールドワークや研究会への参加を要請することがある。

< 提出課題など >

発表で使用したパワーポイントのデータを提出する。また、学期末には、発表内容をレポートにまとめて提出する。提出課題については、授業時に解説・講評を行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度：20%

発表内容：20%

発表資料：20%

発表に対する質問・コメント：20%

最終レポート：20%

< テキスト >

使用しない。

< 授業計画 >

第1回 Orientation

授業の進め方、グループ分けなど。

第2回 発表準備

次回からの発表に向けて、各自、資料収集やパワーポイントの準備などを行う。

第3回 第1グループの発表 (1)

第1グループの受講生が、プロジェクトの進捗状況について発表する。発表者以外の受講生は、積極的に質問やコメントをする。

第4回 第2グループの発表 (1)

第2グループの受講生が、プロジェクトの進捗状況について発表する。発表者以外の受講生は、積極的に質問やコメントをする。

第5回 第3グループの発表 (1)

第3グループの受講生が、プロジェクトの進捗状況について発表する。発表者以外の受講生は、積極的に質問やコメントをする。

第6回 第4グループの発表 (1)

第4グループの受講生が、プロジェクトの進捗状況について発表する。発表者以外の受講生は、積極的に質問やコメントをする。

第7回 第5グループの発表 (1)

第5グループの受講生が、プロジェクトの進捗状況について発表する。発表者以外の受講生は、積極的に質問やコメントをする。

第8回 ふりかえり (1)

前半の発表をふりかえり、後半のプロジェクトの進め方を検討する。

第9回 第1グループの発表 (2)

第1グループの受講生が、プロジェクトの進捗状況について発表する。発表者以外の受講生は、積極的に質問やコメントをする。

第10回 第2グループの発表 (2)

第2グループの受講生が、プロジェクトの進捗状況について発表する。発表者以外の受講生は、積極的に質問やコメントをする。

第11回 第3グループの発表 (2)

第3グループの受講生が、プロジェクトの進捗状況について発表する。発表者以外の受講生は、積極的に質問やコメントをする。

第12回 第4グループの発表 (2)

第4グループの受講生が、プロジェクトの進捗状況について発表する。発表者以外の受講生は、積極的に質問やコメントをする。

第13回 第5グループの発表 (2)

第5グループの受講生が、プロジェクトの進捗状況について発表する。発表者以外の受講生は、積極的に質問やコメントをする。

第14回 ふりかえり (2)

後半の発表をふりかえり、次年度にどのような調査を進

めるか検討する。

第15回 Wrap up

最終レポートに関する説明など。

2022年度 後期

2.0単位

英語専攻演習

表谷 純子

< 授業の方法 >

演習・講義

詳細はGCSquare の情報を確認のこと。

< 授業の目的 >

この科目は専門教育科目に位置づけられ、受講生各自の関心にしたがった研究活動を進めるための履修必修科目であり、ディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。自分が関心をもった研究分野に関連する先行プロジェクトや先行研究を調べ、以後のプロジェクトや論文執筆の計画をより具体的なものにすることを目的とする。

< 到達目標 >

- ・ビジネス英語に頻出する表現を身に付ける。
- ・様々な文化の特徴、共通点、違いについての認識を深める。
- ・研究調査について基本的な手法について説明することができる。
- ・様々な視点から分析、考察する素地を養う
- ・ホスピタリティビジネスに関する知識を深め、企業が求める人材像について認識する。

< 授業のキーワード >

ホスピタリティ グローバル・コミュニケーション 異文化理解 プレゼンテーション ビジネス英語

< 授業の進め方 >

課題について予め準備を進め、ペアワーク、グループワーク、個人発表等を行う。

課題についての詳細はGCSquare を参照のこと。

< 履修するにあたって >

課題やテストに対して十分な準備をしてのぞむこと。時間厳守。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、英語課題の準備やプロジェクト・研究課題の遂行に最低1時間、既習事項の復習や振り返り等に最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

研究調査課題、評価表等の提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。

<成績評価方法・基準>

英語課題 45%

研究発表 20%

課題、提出物、ミニプレゼン等 35%

<テキスト>

ビジネス英語基本の『き』 デイビッド・セイン著 南雲堂 980円+税 ISBN978-4-523-26542-9 C0082

<授業計画>

第1回 イントロダクション

科目の概要について理解する。

フレーズ集：Day 1

第2回 接遇とは

接遇の基本について

フレーズ集：Day 2

第3回 社会人力とは

各自、社会人力に関するプレゼンを2分ずつ行う

フレーズ集：Day 3

第4回 研究テーマについて

テーマの選び方とブレインストーミング・自己分析

フレーズ集：Day 4

第5回 情報収集について

データの種類と取り扱いの注意、First, Second, Third hand information について

フレーズ集：Day 5

第6回 リサーチメソッドについて

質的研究と量的研究について

フレーズ集：Day 7

第7回 リサーチメソッドについて

企業研究プレゼンを行う

フレーズ集：Day 8

第8回 研究計画 (1)

各自のテーマ・研究手法に沿ってプロジェクト計画を作成。

フレーズ集：Day 9

第9回 研究計画 (2)

各自のプロジェクトテーマ・研究手法を含んだプロジェクト計画を発表。

フレーズ集：Day 11

第10回 研究発表準備(1)

計画に沿ってプロジェクトの準備を行う。

フレーズ集：Day 12

第11回 研究発表準備(2)

プロジェクトの途中経過発表を実施する。

フレーズ集：Day 13

第12回 研究発表準備(3)

プロジェクトの遂行、修正を行う。

フレーズ集：Day 14

第13回 研究発表(1)

プロジェクトの発表及び質疑応答を行う

フレーズ集：Day 16

第14回 研究発表(2)

プロジェクトの発表及び質疑応答を行う。

フレーズ集：Day 17

第15回 振返り

プロジェクト・研究活動の振返り 今後の活動について

フレーズ集：Review

2022年度 後期

2.0単位

英語専攻演習

深田 将揮

<授業の方法>

演習

実践報告プレゼンテーションを主体とし、頻繁に受講者の意見を求めたり発表を課したりします。

<授業の目的>

この科目は以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる

3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる

専門教育科目に位置づけられ、受講生各自の関心にしたがった研究活動を進めるための履修必修科目である。これまでに受講生が取り組んできた研究内容についての知識をより深めつつ、論点をアカデミック・プレゼンテーションや学术论文の形式に落とし込む。

<到達目標>

・これまでに取り組んできた研究内容について論理的に説明することができる。

・上記の内容をプロジェクト報告書もしくは研究論文作成に発展させることができる。

<授業のキーワード>

英語教育学・コミュニケーション・プレゼンテーション

<授業の進め方>

担当教員からのアドバイスだけではなく、受講生が自分の研究内容について自発的に議論ことにより、各自が研究テーマをより深く掘り下げる。受講生自身が、自分が選んだ研究テーマについてのスペシャリストであるという意識を持ち、自発的に研究プロジェクト、もしくは研究論文執筆を進める。

<履修するにあたって>

「言われたことをする」のではなく、自分自身の興味に合わせてプロジェクト計画を立てて、その計画について筋道を立てて説明してください。

<授業時間外に必要な学修>

研究計画の立案および改善・報告書フォーマット作成・発表準備に最低1時間、授業後のリフレクションや課題解決に最低1時間必要とする。

< 提出課題など >

研究計画案、卒業研究報告書フォーマット。フィードバックは授業内で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

研究計画案(70%)、研究計画フォーマット(20%)、プロジェクト貢献(10%)

< テキスト >

授業内で随時紹介する。

< 参考図書 >

授業内で随時紹介する。

< 授業計画 >

第1回 研究の内容検討

自分自身のこれまでの経験を元に、興味をもった研究テーマについてブレインストーミングを行う。

第2回 研究計画の立案 1

第1回授業で検討した研究テーマを絞るために先行研究を調べる。

第3回 研究計画の立案 2

第2回授業で検討した先行研究を元に、仮説を立てる。

第4回 研究計画の立案 3

第3回授業で立てた仮説を検証するための方法について検討する。

第5回 計画書作成 1

研究計画書案を作成する。

第6回 研究計画発表

研究計画について発表し、問題点を確認する。

第7回 研究計画の改善 1

第6回授業で明らかとなった問題の解決策についてブレインストーミングを行う。

第8回 研究計画の改善 2

第7回授業で検討した解決策を絞るために先行研究をさらに調べる。

第9回 研究計画の改善 3

第8回授業で検討した先行研究を元に、仮説を立て直す。

第10回 研究計画の改善 4

第9回授業で立てた仮説を検証するための方法について再検討する。

第11回 計画書案作成 2

第11回授業までに検討した内容を元に研究計画書案を作成する。

第12回 研究計画発表 2

研究計画について再度発表し、問題点が改善されたかを再確認する。

第13回 研究報告書フォーマットの作成 1

報告書の導入部分を先行研究と関連付けて説明する。

第14回 研究報告書フォーマットの作成 2

研究の仮説を先行研究と関連付けて説明し、研究の方法を確定させる。

第15回 振り返り

前期の活動を振り返り、後期の活動に向けての課題を整理する。

2022年度 後期

2.0単位

英語専攻演習

シャーロー トーマス

< 授業の方法 >

Discussion and presentation format

特別警報または暴風警報発令の場合の取扱い

授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができる ことを目的としている。

In this seminar we will study world cultures and societies through an exploration of the world's airlines and airports. We will begin by looking at the culture of one particular airline, using the Pan Am television series to better understand what it is like to work at an airline company. Afterward, we will look at various airline companies around the world and some of the major airports in European, Asian, and North American countries. In this class I will be assisted by a former Singapore Airlines stewardess, who will share her inside knowledge of the airline industry and the airports of the world.

< 到達目標 >

Students will enhance their abilities to translate English into Japanese with a better understanding of the original ideas. They will also increase their knowledge of foreign culture, build their vocabularies, and practice using more complex English sentence patterns.

< 授業のキーワード >

culture, travel, airport, airline, drama, grammar, translation, vocabulary

< 授業の進め方 >

Each week a new episode of the Pan Am series will

be examined and discussed. Following this, there will be a presentation about one of the major airlines or airports of the world. Students will be expected to discuss and speak with each other about the ideas presented.

<履修するにあたって>

Students are expected to actively participate in every class. All discussions will be held in English. Quizzes will be given online.

<授業時間外に必要な学修>

Students will be asked to continue their study of English outside of the classroom, with materials decided after a consultation between student and teacher. Students should expect to spend approximately 60 minutes each week to complete this work.

<提出課題など>

Students will be given weekly homework that must be prepared on time. All students will be expected to prepare a presentation about an airline or airport in one of the countries we are studying. 提出物のフィードバックに関しては、授業外で実施する。

<成績評価方法・基準>

Weekly discussion, quizzes and presentation homework (60%), presentation (40%)

<テキスト>

No textbook will be required. Teacher will supply students with all study material necessary for the class.

<授業計画>

第1回 Week 01 Introduction

Introduction to class materials, video content, and requirements

第2回 Week 02 Culture of American airlines

Pan Am week 2. Introduction to major airlines in America.

第3回 Week 03 Culture of American airports

Pan Am week 3. Introduction to major airports in America.

第4回 Week 04 Culture of French airports

Pan Am week 4. Introduction to major airports in France.

第5回 Week 05 Culture of French airlines

Pan Am week 5. Introduction to major airlines in France.

第6回 Week 06 Culture of airports in the Netherlands

Pan Am week 6. Introduction to major airports in the Netherlands.

第7回 Week 07 Culture of airlines in the Netherlands

Pan Am week 7. Introduction to major airlines in the Netherlands.

第8回 Week 08 Culture of airports in Germany

Pan Am week 8. Introduction to major airports in Germany.

第9回 Week 09 Culture of German airlines

Pan Am week 9. Introduction to major airlines in Germany.

第10回 Week 10 Culture of Italian airlines and airports

Pan Am week 10. Introduction to major airports and airlines in Italy.

第11回 Week 11 Culture of British airlines

Pan Am week 11. Introduction to major airlines in England.

第12回 Week 12 Culture of British airports

Pan Am week 12. Introduction to major airports in England.

第13回 Week 13 Culture of Canadian airlines

Pan Am week 13. Introduction to major airlines in Canada.

Week 14 Culture of Canadian airports

Pan Am week 14. Introduction to major airports in Canada.

Week 15 Culture of Swiss airlines and airports

Pan Am week 15. Introduction to major airports and airlines in Switzerland.

2022年度 後期

2.0単位

英語専攻演習

荒島 千鶴

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

この授業科目は、グローバル・コミュニケーション学部の以下のディプロマポリシーと深く関係する。

1. 実践的で高度な外国語の運用ができる
2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる

<到達目標>

- 1) TOEIC 600点以上の得点を取得できる。
- 2) 総合的な英語力の向上を目指し、自ら学習計画を立てることができる。

<授業の進め方>

各自、各自が予習してきたテキストを（問題を解いてくる、単語の意味を調べてくる等）中心に、答え合わせと解説を行う。時間に余裕があれば、類似問題の演習も行う。

<履修するにあたって>

予習をしていない者は授業に参加できない。必ず予習をして授業に臨むこと。

<授業時間外に必要な学修>

予習・復習(1時間～1時間半程度)

<提出課題など>

次週に学修するテキストの問題を解いてくる。

<成績評価方法・基準>

授業内での貢献度25%、課題15×5%(75%)

<テキスト>

SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST: INTERMEDIATE
(番場直之/小山克明 著、金星堂、ISBN:978-4-7647-4090-7 C1082)

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

Unit 8: Personnel

授業の進め方や内容の説明

人事に関する語句・表現を学ぶ

現在分詞、過去分詞について学ぶ

第2回 Unit 9: Advertising

広告・宣伝に関する語句・表現を学ぶ

代名詞について学ぶ

第3回 Unit 9: Advertising

広告・宣伝に関する語句・表現を学ぶ

代名詞について学ぶ

第4回 Unit 10: Meetings

会議に関する語句・表現を学ぶ

比較について学ぶ

第5回 Unit 10: Meetings

会議に関する語句・表現を学ぶ

比較について学ぶ

第6回 Unit 11: Finance

予算・費用に関する語句・表現を学ぶ

前置詞について学ぶ

第7回 Unit 11: Finance

予算・費用に関する語句・表現を学ぶ

前置詞について学ぶ

第8回 Unit 12: Offices

オフィスに関する語句・表現を学ぶ

接続詞について学ぶ

第9回 Unit 12: Offices

オフィスに関する語句・表現を学ぶ

接続詞について学ぶ

第10回 Unit 13: Daily Life

日常生活に関する語句・表現を学ぶ

前置詞と接続詞の違いについて学ぶ

第11回 Unit 13: Daily Life

日常生活に関する語句・表現を学ぶ

前置詞と接続詞の違いについて学ぶ

第12回 Unit 14: Sales & Marketing

営業・販売促進に関する語句・表現を学ぶ

関係代名詞について学ぶ

第13回 Unit 14: Sales & Marketing

営業・販売促進に関する語句・表現を学ぶ

関係代名詞について学ぶ

第14回 Unit 15: Events

イベント(セミナー・講習会)に関する語句・表現を学ぶ

語彙の結びつきについて学ぶ

第15回 まとめ

まとめ&期末テスト

2022年度 後期

2.0単位

英語専攻演習

荒島 千鶴

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

この授業科目は、グローバル・コミュニケーション学部
の以下のディプロマポリシーと深く関係する。

1. 実践的で高度な外国語の運用ができる
2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる

<到達目標>

- 1) TOEIC 600点以上の得点を取得できる。
- 2) 総合的な英語力の向上を目指し、自ら学習計画を立てることができる。

<授業の進め方>

各自、各自が予習してきたテキストを（問題を解いてくる、単語の意味を調べてくる等）中心に、答え合わせと解説を行う。時間に余裕があれば、類似問題の演習も行う。

<履修するにあたって>

予習をしていない者は授業に参加できない。必ず予習をして授業に臨むこと。

<授業時間外に必要な学修>

予習・復習(1時間～1時間半程度)

<提出課題など>

毎回次週に学修するSceneの問題を解いてくる。授業内で教員がコメントし、フィードバックを行う。

<成績評価方法・基準>

授業内での貢献度25%、課題15×5%(75%)

<テキスト>

Matthew Wilson and Tomoyuki Tsuruoka, "QUICK EXERCISES FOR THE TOEIC L&R TEST 600 LISTENING", SHOHAKUSYA, 2019, ISBN978-4-88198-750-6

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

Scene 1,2

授業の進め方や内容の説明

Travel, Human Resources

第2回 Scene3,4

Education, Office Life

第3回 Scene5,6

Celebrations, Job Interviews

第4回 Scene7,8

Food, At Work

第5回 Scene9,10

Daily Life, Recreation

第6回 Scene11,12

Travel, Business

第7回 Scene13,14

Sightseeing, On the Job

第8回 Scene15,16

Restaurants, Shopping

第9回 Scene17,18

Business World, Restaurants

第10回 Scene19,20

Office Life, Recreation

第11回 Scene21,22

Travel, Office Environment

第12回 Scene23,24

Hotels, On the Job

第13回 Scene25,26

Money, Office Meetings

第14回 Scene27,28

Shopping, Business World

第15回 Scene29,30

まとめ

Sports, Recreation

まとめ

2022年度 前期

2.0単位

英語専攻演習

中嶋 アンディ 史人

< 授業の方法 >

講義、演習、実習（対面授業 及び リアルタイム/オンデマンド授業併用）

< 授業の目的 >

この科目は、神戸学院大学グローバル・コミュニケーション

学部ディプロマポリシーである「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことに遵守した科目である。通訳及び翻訳の技能を生かしながら、英語で日本を発信し、日本と海外を繋ぐサービス・ラーニングを視野に入れた学習を行うものである。

< 到達目標 >

・リベラルアーツから観た観光学の素養を元に日本を発信できる知識を身に付け、地域創生に貢献できるようになる。

・通訳ガイドとしてのキャリアにつながる英語力、企画力、コミュニケーション力を発揮することができるようになる。

・国内外の様々な人と接することにより多文化理解を育めるようになる。

・社会人基礎力を身に付け、卒業後の進路や生き方に付加価値をもたらせるようになる。

< 授業のキーワード >

Service Learning, Tourism, Translation, ICT

< 授業の進め方 >

Pair work, Group work, Lecture, Interpretation and Translation

< 履修するにあたって >

一般常識、マナー、仕える姿勢、多文化共生への理解を持つこと。また、学んでいることが自分と社会にとってどのような付加価値をもたらすかを常に考えること。

< 授業時間外に必要な学修 >

1回の授業につき3時間程度の準備が必要となる。通常授業以外にフィールドワークが入ることもある。

< 提出課題など >

毎回、GCsquareに宿題を提出すること。

< 成績評価方法・基準 >

・出席と積極的な授業への参加態度：30%

・毎回の課題の提出：70%

< テキスト >

授業内で指示します。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

・今学期の授業内容について

・社会人基礎力と世界観の構築について

・国内旅行業務取扱責任者試験、及び全国通訳案内士試験について

第2回 課題図書

< 宿題 > 著書のまとめと感想と質問と異議の報告とディスカッション 1

第3回 課題図書

<宿題> 著書のまとめと感想と質問と異議の報告とディスカッション 2

第4回 課題図書

<宿題> 著書のまとめと感想と質問と異議の報告とディスカッション 3

第5回 課題図書

<宿題> 著書のまとめと感想と質問と異議の報告とディスカッション 4

第6回 課題図書

<宿題> 著書のまとめと感想と質問と異議の報告とディスカッション 5

第7回 課題図書

<宿題> 著書のまとめと感想と質問と異議の報告とディスカッション 6

第8回 フィールド・トリップ

フィールド・トリップ

第9回 フィールド・トリップ

フィールド・トリップの反省とまとめ

第10回 プロジェクト計画立案 1

個人・グループごとに計画立案 1

第11回 プロジェクト計画立案 2

個人・グループごとに計画立案 2

第12回 プロジェクト計画立案 3

個人・グループごとに計画立案 3

第13回 プロジェクト発表 1

成果発表とフィードバック 1

第14回 プロジェクト発表 2

成果発表とフィードバック 2

第15回 まとめ

授業の振り返り

2022年度 前期

2.0単位

英語専攻演習

シャーロー トーマス

<授業の方法>

Discussion and presentation format

<授業の目的>

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができる ことを目的としている。

In this class we will develop and improve a website for job searches, and in the process learn how a

nd where to better look for jobs. We will write and revise resumes that will appeal to employers. We will learn interview techniques and practice interviews skills.

<到達目標>

The goals of this class are to:

- 1) develop useful strategies for finding a job
- 2) identify companies that provide appropriate job opportunities
- 3) prepare for job interviews
- 4) find a job!

<授業のキーワード>

communication, interview, job skills

<授業の進め方>

Much of the class will involve individual consultations between the instructor and the student.

<履修するにあたって>

Students are expected to energetically plan for and execute their job search goals.

<授業時間外に必要な学修>

Much of our job search work will be conducted outside of the class. Students should be prepared to spend as much as 10 hours per week outside of class in job hunting activities.

<提出課題など>

Weekly job progress reports will be required. These must be submitted on time.

<成績評価方法・基準>

Grades will be based entirely on student efforts and achievements toward finding a job.

<テキスト>

No special textbook is required.

<授業計画>

第1回 Week 01- Introduction to Job Search

Introduction to the job search

第2回 Week 02 - Writing Job Resume

Developing an interesting and powerful job resume

第3回 Week 03 - Establishing Goals

Identifying individual student job goals

第4回 Week 04 - Discussing Companies

Identifying appropriate companies to consider in our job search

第5回 Week 05 - Interview Strategies

Devising job interview strategies

第6回 Week 06 - Job Interview Practice

The first job interview

第7回 Week 07 - Job Interview Practice

Practice job interview session

第8回 Week 08 - Feedback

Peer and instructor feedback on our first job inte

rview session

第9回 Week 09 - Job Interview Practice

A second job interview session

第10回 Week 10 - Feedback

Peer and instructor feedback on our second job interview session

第11回 Week 11- Revising Resume

Revising the job resume with individual companies in mind

第12回 Week 12- Report on Job Interviews

Report on scheduled job interviews

第13回 Week 13- Feedback

Feedback on actual job interviews

第14回 Week 14 - Job Interview Practice

A final job interview session

第15回 Week 15 - Report on scheduled job interviews

Report on scheduled job interviews

2022年度 前期

2.0単位

英語専攻演習

深田 将揮

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この英語専攻演習では、これまでの専攻演習の経験を踏まえ、共同でのプロジェクトを体験しつつ、受講生各自の関心に従ったプロジェクト活動、研究活動の土台を築くことができますようにします。授業ではプロジェクトの進捗状況と進め方について発表および相互評価をし合い、卒業までどのような研究プロジェクトを継続して実行することが可能か、もしくは、どのようなプロジェクトを今後立ち上げることが可能かなどが理解できるようにしていきます。この科目では、グローバル・コミュニケーション学部のディプロマポリシーのうち、「1. 実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」に関わります。

< 到達目標 >

(1) 各自の設定したテーマに対して、先行研究を元にしてリサーチができる。

(2) リサーチを元にして自分の考えを伝えることができる。

< 授業の進め方 >

毎回、テーマを元にしてリサーチを行い、プレゼンテーションを行います。

< 履修するにあたって >

「言われたことをする」のではなく、自分自身の興味に合わせてプロジェクト計画を立てて、その計画について

筋道を立てて説明してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業でのまとめ、プレゼンができるように、授業外で十分にプロジェクトごとの作業をしておく必要があります。この授業1回に対して必要な授業外での学修時間はほぼ90分です。

< 提出課題など >

プロジェクトに関連した提出物は大変多い。また、毎回の授業で進捗状況の発表のため、スライド等を作成する必要があります。提出課題等についてのフィードバックはオンラインで適宜行います。

< 成績評価方法・基準 >

日常のGCsquare上のスモールステップのオンライン課題および、学生間のディスカッションの質(50%)、各授業回でのまとまった課題の質(50%)で評価します。

< テキスト >

授業中に指示します。

< 参考図書 >

授業中に指示します。

< 授業計画 >

第1回 専攻演習 への導入

授業の進め方についてのイントロダクションを行い、それぞれのプロジェクトの概要と進め方をみんなでディスカッションします。その過程で各プロジェクトの実行計画を作り上げていきます。

第2回 スタートアップ(1)

担当プロジェクトの推進と経過発表(1)

第3回 スタートアップ(2)

担当プロジェクトの推進と経過発表(2)

第4回 スタートアップ(3)

担当プロジェクトの推進と経過発表(3)

第5回 スタートアップ(4)

担当プロジェクトの推進と経過発表(4)

第6回 コアプロジェクト推進(1)

担当プロジェクトのまとめと経過発表(1)

第7回 コアプロジェクト推進(2)

担当プロジェクトのまとめと経過発表(2)

第8回 コアプロジェクト推進(3)

担当プロジェクトのまとめと経過発表(3)

第9回 コアプロジェクト推進(4)

全プロジェクトの進捗状況のチェック、ここまでの作業のふりかえりおよび今後の作業計画の点検と修正、ならびに意見交換

第10回 コアプロジェクト推進(5)

担当プロジェクトのまとめと経過発表(4)

第11回 コアプロジェクト推進(6)

担当プロジェクトのまとめと経過発表(5)

第12回 コアプロジェクト推進(7)

担当プロジェクトの成果発表準備のための作業、成果物解説文書作成作業と経過発表(1)

第13回 コアプロジェクト推進(8)

担当プロジェクトの成果発表準備のための作業、成果物解説文書作成作業と経過発表(2)

第14回 コアプロジェクト推進(9)

担当プロジェクトの成果発表準備のための作業、成果物解説文書作成作業と経過発表(3)

第15回 学期末のふりかえり

最終成果物の相互評価および成果物解説文書の完成

2022年度 前期

2.0単位

英語専攻演習

中西 のりこ

< 授業の方法 >

対面授業の場合

グループ活動・実践報告プレゼンテーションを主体とし、頻繁に受講者の意見を求めたり発表を課したりします。

オンライン授業の場合

オンデマンド授業および資料配布の場所は：<http://gc-square.kobegakuin.ac.jp/>

< 授業の目的 >

この科目は以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる

3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる

専門教育科目に位置づけられ、受講生各自の関心にしたがった研究活動を進めるための履修必修科目である。これまでに受講生が取り組んできた研究内容についての知識をより深めつつ、論点をアカデミック・プレゼンテーションや学術論文の形式に落とし込む。

< 到達目標 >

・これまでに取り組んできた研究内容について論理的に説明することができる。

・上記の内容をプロジェクト報告書もしくは研究論文作成に発展させることができる。

< 授業のキーワード >

英語音声学・コミュニケーション

< 授業の進め方 >

担当教員からのアドバイスだけでなく、受講生同士が互いの研究内容について意見や質問を交わすことにより、各自が研究テーマをより深く掘り下げる。受講生自身が自分が選んだ研究テーマについてのスペシャリストであるという意識を持ち、自発的に研究プロジェクト、もしくは研究論文執筆を進める。

< 履修するにあたって >

「言われたことをする」のではなく、自分自身の興味に合わせてプロジェクト計画を立てて、その計画について筋道を立てて説明してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

研究計画の立案および改善・報告書フォーマット作成・発表準備に最低1時間、授業後のリフレクションや課題解決に最低1時間必要とする。

< 提出課題など >

研究計画案、卒業研究報告書フォーマット。フィードバックは授業内で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

研究計画案(70%)、卒業研究報告書フォーマット(20%)、プロジェクト貢献(10%)

< テキスト >

今井由美子・上田洋子・大塚朝美. (2019). 『英語音声表記トレーニング・ワークブック』 英宝社. ISBN: 978-4-269-63016-1

北原真冬, 田嶋圭一 他 (2017). 『音声学を学ぶ人のためのPraat入門』 ひつじ書房. ISBN: 978-4894768710
American Psychological Association. (2019). Publication Manual of the American Psychological Association: The Official Guide to Apa Style (7th ed.). American Psychological Association. ISBN: 978-1433832161

< 授業計画 >

第1回 研究の内容検討

自分自身のこれまでの経験を元に、興味をもった研究テーマについてブレインストーミングを行う。

第2回 研究計画の立案 1

第1回授業で検討した研究テーマを絞るために先行研究を調べる。

第3回 研究計画の立案 2

第2回授業で検討した先行研究を元に、仮説を立てる。

第4回 研究計画の立案 3

第3回授業で立てた仮説を検証するための方法について検討する。

第5回 計画書作成 1

研究計画書案を作成する。

第6回 研究計画発表

研究計画について発表し、問題点を確認する。

第7回 研究計画の改善 1

第6回授業で明らかとなった問題の解決策についてブレインストーミングを行う。

第8回 研究計画の改善 2

第7回授業で検討した解決策を絞るために先行研究をさらに調べる。

第9回 研究計画の改善 3

第8回授業で検討した先行研究を元に、仮説を立て直す。

第10回 研究計画の改善 4

第9回授業で立てた仮説を検証するための方法について再検討する。

第11回 計画書案作成 2

第11回授業までに検討した内容を元に研究計画書案を作成する。

第12回 研究計画発表 2

研究計画について再度発表し、問題点が改善されたかを再確認する。

第13回 研究報告書フォーマットの作成 1

報告書の導入部分を先行研究と関連付けて説明する。

第14回 研究報告書フォーマットの作成 2

研究の仮説を先行研究と関連付けて説明し、研究の方法を確定させる。

第15回 振り返り

前期の活動を振り返り、後期の卒業プロジェクトに向けての課題を整理する。

2022年度 前期

2.0単位

英語専攻演習

仁科 恭徳

< 授業の方法 >

対面授業（講義、演習、実習、実技）*GCスクエアでのやりとりも行う。Zoom等で説明を行うこともありますので、必ずGCスクエアのページを確認して下さい。

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて 授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

仁科恭徳 <ynishina@gc.kobegakuin.ac.jp>

< 授業の目的 >

この授業では、ディプロマポリシーの中でも、「1. 実践的で高度な外国語の運用ができる」および「2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」に主眼を置いている。全15回の授業を通して、学部紹介ビデオ・CMや英語によるドラマ・映画を制作する。特に、色彩学や行動心理学の基本的な知見も参考にしながら、製作を進める。出演者、企画、プロットの作成、動画編集など、製作活動の全てをゼミ生が担当する。

< 到達目標 >

- ・効果的な非言語コミュニケーションを学ぶ。
- ・発話状況を勘案した発話の訓練ができる。
- ・字幕翻訳を学べる。
- ・動画編集技術を獲得することができる。
- ・色彩学・行動心理学の基礎を学ぶことができる。

< 授業の進め方 >

グループワーク、レポート、発表会、学外イベントなどの活動

< 授業時間外に必要な学修 >

イベントの企画、プロット作成、翻訳、編集作業、演技の練習などが最低1時間、ジャーナルや進捗状況、作品の見直し、相互評価なども最低1時間必要とする。

< 提出課題など >

映像作品に加え、毎回の進捗ジャーナル、翻訳の成果物、映像作品、その作品に関するレポートなどを提出する必要がある、これらのフィードバックは授業内外で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

作品完成までのエフォート 40%

作品の評価 20%

ジャーナルなどの提出物 20%

イベントの企画と運営 20%

< テキスト >

『グローバルコミュニケーション学入門』（2018年、三省堂）

< 授業計画 >

第1回 インTRODククション

ガイダンス、英語専攻演習IVの概要

第2回 作品の選定

卒業研究として、どのような作品を制作するか(例えば、学部紹介ビデオ、CM、神戸市活性化ビデオ、英語ドラマなど)を話し合う。

第3回 イベントの企画

選定した作品の完成時の公開方法や、公開イベントに関する企画を練り、企画書を作成する。

第4回 配役とプロット作成1

発話状況を勘案した翻訳理論を学ぶ。

第5回 配役とプロット作成2

グループ分け、作品の選出

第6回 翻訳作業1

表現したい、もしくはレポートしたい内容を粗く翻訳する。

第7回 翻訳作業2

ジェンダーを勘案し、英文をチェック・修正する。

第8回 翻訳作業3

全英文を辞書・グーグル検索を活用して添削する。

第9回 翻訳作業4

完成した翻訳をピア・レビューチェックする。

第10回 撮影1

作品の前半部分を撮影する。

第11回 撮影2

作品の前半部分を撮影する。

第12回 撮影3

作品の前半部分を撮影する。

第13回 撮影4

作品の前半部分を撮影する。

第14回 撮影5

作品の前半部分を撮影する。

第15回 中間報告会

製作した作品の前半部分に関して、中間報告を行う。また、卒業プロジェクトIIの計画を入念に立てる。

2022年度 前期

2.0単位

英語専攻演習

表谷 純子

< 授業の方法 >

演習、講義、実習

< 授業の目的 >

この科目は専門教育科目に位置づけられ、受講生各自の関心にしがった研究活動を進めるための履修必修科目であり、ディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。自分が関心をもった研究分野に関連する先行プロジェクトや先行研究を調べ、以後のプロジェクトや論文執筆の計画をより具体的なものにすることを目的とする。

< 到達目標 >

- ・ビジネス英語に頻出する表現を身に付ける。
- ・様々な文化の特徴、共通点、違いについての認識し異文化へ対応する力を身に付ける。
- ・研究調査について基本的な手法を用い研究を推し進めることができる。
- ・様々な視点から分析、考察する素地を養う
- ・ホスピタリティビジネスに関する知識を深め、企業が求める人材像について認識する。

< 授業のキーワード >

プロジェクト ビジネス英語 ホスピタリティ 異文化理解

< 授業の進め方 >

Pair work, Group work, Lecture

< 履修するにあたって >

課題やテストに対して十分な準備をしておくこと。時間厳守。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、小テストの準備や研究課題の遂行に最低1時間、既習事項の復習や振り返り等に最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

研究調査課題、評価表等の提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

ジャーナル 20%

研究発表 30%

課題、提出物、ミニプレゼン等 50%

< テキスト >

授業内で配布されるレジメ等

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

科目の概要について理解する。

第2回 Hospitality とは

接遇の基本について

第3回 Global Communication

Global Communicationの障害となる要因とは

第4回 研究テーマについて

テーマの選び方とブレインストーミング

第5回 情報収集について

データの種類と取り扱いの注意、First, Second, Third hand information について

第6回 リサーチメソッドについて

量的研究について

第7回 リサーチメソッドについて

質的研究について

第8回 研究計画 (1)

各自の研究テーマ・研究手法に沿って研究計画を作成。

第9回 研究計画 (2)

各自の研究テーマ・研究手法を含んだ研究計画を発表。

第10回 研究発表準備(1)

研究計画に沿って研究準備を行う。

第11回 研究発表準備(2)

研究計画に沿って研究準備を行う。

第12回 研究発表準備(3)

小グループで、研究発表のリハーサルを行う。

第13回 研究発表(1)

研究発表及び質疑応答を行う

第14回 研究発表(2)

研究発表及び質疑応答を行う

第15回 振返り
研究活動の振返り 今後の研究活動について

2022年度 前期

2.0単位

英語専攻演習

東 淳一

< 授業の方法 >

対面の演習形式授業

オンライン授業になった場合の指示および資料配布場所
: {GCsquare,http://gcsquare.kobegakuin.ac.jp/}

< 授業の目的 >

この英語専攻演習では、これまでの専攻演習の経験を踏まえ、共同でのプロジェクトを体験しつつ、受講生各自の関心に従ったプロジェクト活動、研究活動の土台を築くことができますようにします。授業ではプロジェクトの進捗状況と進め方について発表および相互評価をし合い、卒業までにどのような研究プロジェクトを継続して実行することが可能か、もしくは、どのようなプロジェクトを今後立ち上げることが可能かなどが理解できるようにしていきます。この科目では、グローバル・コミュニケーション学部のディプロマポリシーのうち、「1. 実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」に関わる作業が多くなりますが、特に翻訳プロジェクトなどについては、「3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けること」にも関わってきます。なお、具体的なプロジェクトは、3年次に体験したセメスター留学の体験をビデオにまとめることとなります。なお、ビデオ作成にあたり、使用する言語は英語とします。

< 到達目標 >

- ・ 英語による動画作品制作を企画できる。
- ・ 静止画像のクリップを利用し、それらをビデオ作品中に挿入、アフレコで英語の説明を追加することができる。
- ・ ビデオ撮影のノウハウを実践を通じて学ぶことができる。
- ・ 動画作成ソフトを駆使して自ら撮影した動画クリップ、静止画像を使い動画作品を作成できる。

< 授業の進め方 >

対面授業。ただし、{GCsquare,http://gcsquare.kobegakuin.ac.jp/}をフルに活用します。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業でのまとめ、プレゼンができるように、授業外で十分にプロジェクトごとの作業をしておく必要があります。この授業1回に対して必要な授業外での学修時間はほぼ90分です。

< 提出課題など >

プロジェクトに関連した提出物は大変多い。また、毎回の授業で進捗状況の発表のため、スライド等を作成する必要があります。提出課題等についてのフィードバックはオンラインで適宜行います。

< 成績評価方法・基準 >

日常のGCsquare上のスモールステップのオンライン課題および、学生間のディスカッションの質(50%)、各授業回でのまとまった課題の質(50%)で評価します。

< テキスト >

授業中に指示します。

< 参考図書 >

授業中に指示します。

< 授業計画 >

第1回 専攻演習 への導入

授業の進め方についてのイントロダクションを行い、それぞれのプロジェクトの概要と進め方をみんなでディスカッションします。その過程で各プロジェクトの実行計画を作り上げていきます。

第2回 スタートアップ(1)

担当プロジェクトの推進と経過発表(1)

第3回 スタートアップ(2)

担当プロジェクトの推進と経過発表(2)

第4回 スタートアップ(3)

担当プロジェクトの推進と経過発表(3)

第5回 スタートアップ(4)

担当プロジェクトの推進と経過発表(4)

第6回 コアプロジェクト推進(1)

担当プロジェクトのまとめと経過発表(1)

第7回 コアプロジェクト推進(2)

担当プロジェクトのまとめと経過発表(2)

第8回 コアプロジェクト推進(3)

担当プロジェクトのまとめと経過発表(3)

第9回 コアプロジェクト推進(4)

全プロジェクトの進捗状況のチェック、ここまでの作業のふりかえりおよび今後の作業計画の点検と修正、ならびに意見交換

第10回 コアプロジェクト推進(5)

担当プロジェクトのまとめと経過発表(4)

第11回 コアプロジェクト推進(6)

担当プロジェクトのまとめと経過発表(5)

第12回 コアプロジェクト推進(7)

担当プロジェクトの成果発表準備のための作業、成果物解説文書作成作業と経過発表(1)

第13回 コアプロジェクト推進(8)

担当プロジェクトの成果発表準備のための作業、成果物解説文書作成作業と経過発表(2)

第14回 コアプロジェクト推進(9)

担当プロジェクトの成果発表準備のための作業、成果物解説文書作成作業と経過発表(3)

第15回 学期末のふりかえり

最終成果物の相互評価および成果物解説文書の完成

2022年度 前期

2.0単位

英語専攻演習

Krieg, Alexander William

< 授業の方法 >

講義、演習、実技

< 授業の目的 >

In this course, students will identify an area in their life that they would like to improve and develop an intervention plan to change it. After collecting data every week during the class, they will learn how to analyze their data and see if their intervention was successful. Students will write a scientific report on the process in order to consolidate what they discovered throughout the semester.

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができる ことを目的としている。

< 到達目標 >

1. Students will have increased ability in project management skills
2. Students will have increased ability in psychological flexibility
3. Students will have increased ability in presentation skills
4. Students will have increased ability in team communication
5. Students will have increased ability to express themselves through art

< 授業のキーワード >

Psychology, Behavioral Psychology, Behavioral Interventions, Acceptance Commitment Therapy

< 授業の進め方 >

プロジェクトの完了、クラスへの参加、レポート

< 履修するにあたって >

この授業には、参加するための個別の申請プロセスが必要です。 英語能力必須

< 授業時間外に必要な学修 >

プロジェクトを作成に最低2時間を必要とする。

< 提出課題など >

プロジェクトのリポート、ワークシート/エッセイ。フィードバックは授業内で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

ワークシート(1点x10回 = 10%)、レポート(15点x6回 = 90%)

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

教室内で指示する

< 授業計画 >

第1回 Introduction

講義: Course explanation and overview

第2回 Finding an Area of Concern

講義: Valued Domains Lecture

授業中課題: Value Bullseye Worksheet

第3回 Finding an Area of Concern

授業中課題: Values Card Sort Activity

ACT Matrix Worksheet (Part 1)

Goal Setting Worksheet

第4回 Finding an Area of Concern

授業中課題: Baseline Problem Area Worksheet

Data Tracking Worksheet

第5回 Brainstorming Possible Interventions

講義: Analyzing Functional Relationships

授業中課題: A-B-C Analysis Worksheet

Possible Intervention Worksheet

第6回 Brainstorming Possible Interventions

授業中課題: Intervention Plan Worksheet

第7回 Dealing with Resistance

講義: Identifying Thoughts and Feelings

授業中課題: Thoughts and Feelings Worksheet

第8回 Dealing with Resistance

授業中課題: ACT Matrix Worksheet (Part 2)

第9回 Dealing with Resistance

講義: Mastering Difficult Thoughts

授業中課題: Thought Reflection Worksheet

第10回 Dealing with Resistance

講義: Three Relational Frames

授業中課題: Three Frames Worksheet

第11回 Analyzing and Reporting Data

講義: Introduction to Linear Analysis

授業中課題: Linear Analysis Worksheet

第12回 Analyzing and Reporting Data

講義: Dealing with Non-linear Trends

授業中課題: Non-linear Analysis Worksheet

第13回 Analyzing and Reporting Data

講義: Identifying Process Through Network Analysis

授業中課題: Network Analysis Worksheet

All Behavioral Data DUE

第14回 Analyzing and Reporting Data
授業中課題：Visual Analysis Checklist
Start Report Draft

第15回 Analyzing and Reporting Data
授業中課題：Finish Report Draft
Course Evaluation DUE

2022年度 前期

2.0単位
英語専攻演習
荒島 千鶴

< 授業の方法 >
講義、演習、実習

< 授業の目的 >
これまでの演習での英語模擬国連活動における学びの集大成としての活動を行う。

この科目は、ディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的としている。

< 到達目標 >
・国際問題の解決のための政策について、資料に基づき理論的に自己の考えを述べることができる。
・他国の立場にたつて国際問題の解決のための政策を考えることができる。
・リサーチのために、目的に応じて国連等の国際機構の文書や条約を的確に引用できる。
・英語模擬国連活動についてその内容や意義や準備の方法について説明できる。

< 授業のキーワード >
英語模擬国連、国連、国際法、国際政治

< 授業の進め方 >
グループ活動・リサーチ・プレゼンテーション

< 履修するにあたって >
国際問題に関心をもち、自発的に活動に取り組むこと。

< 授業時間外に必要な学修 >
ゼミ活動に関するリサーチや発表準備に最低1時間半、授業後のふりかえりや課題解決に最低30分必要とする。

< 提出課題など >
適宜授業内で指示をし、授業内で教員のコメントによりフィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >
毎週のプレゼンテーション(70%)、課題(20%)、演習内の貢献(10%)

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション
ゼミ活動計画の立案・グループ決定
第2回 ゼミ活動計画の立案 1
グループごとに計画の立案
第3回 ゼミ活動計画の立案 2
グループごとに計画の立案
第4回 ゼミ活動計画の立案 3
グループごとに計画の立案
第5回 計画書作成
グループごとに計画を立案
第6回 ゼミ活動計画発表
グループごとに計画発表・問題点の確認
第7回 実践
課題点の改善・ゼミ活動の実践 1
第8回 実践
課題点の改善・ゼミ活動の実践 2
第9回 実践
課題点の改善・ゼミ活動の実践 3
第10回 実践
課題点の改善・ゼミ活動の実践 4
第11回 実践
課題点の改善・ゼミ活動の実践 5
第12回 実践
課題点の改善・ゼミ活動の実践 6
第13回 実践
課題点の改善・ゼミ活動の実践 7
第14回 実践
課題点の改善・ゼミ活動の実践 8
第15回 振り返り
グループごとに活動振り返り、全体での活動振り返り

2022年度 前期

2.0単位
英語読解 (A)
原 良子、多田 さおり

< 授業の方法 >
講義 演習
GC Square上での指示に従ってください(GC Squareをよくチェックするようにしてください)

< 授業の目的 >
この授業ではディプロマポリシーの中でも「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」と「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。英語読解力を向上させる為に、基本的な英文法、英語構文、語彙、慣用表現を学習し、読解方略を効果的に使用して様々なトピック、ジャンルの英文の精読と多読を行う。

<到達目標>

- ・To learn efficient reading skills.
- ・To build up English vocabulary and expressions as well as knowledge of English grammar.
- ・To improve reading speed in English.

<授業のキーワード>

英語読解方略 英文法 語彙習得

<授業の進め方>

週2回の授業の内、週1回はGCsquareから配信されるリーディング教材を使う授業とする。火曜授業は『able English Grammar 24Lessons』（第一学習社）を用いた授業を行う。木曜授業は『CoreNonfiction Reading 1 (Compass Publishing)』を用いた授業を行う。課題や小テストについては授業中及びGC Squareを通じて指示を出すので、GC Squareからのお知らせもこまめにチェックすること。

<履修するにあたって>

Students must do preparation for each class. They must take in-class quizzes and submit assignment.

<授業時間外に必要な学修>

毎回、予習、復習に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

<提出課題など>

授業内での指示に従うこと。

<成績評価方法・基準>

火曜日授業50% + 木曜日授業50%
= 計100%

火曜クラスAble 50% :

授業内小テスト・課題25%, 中間・期末テスト(10%×2)
20% TOEIC IP テスト 5%

木曜クラス

授業内小テスト・課題30%, 中間・期末テスト(10%×2)
20%

<テキスト>

火曜日: 『able English Grammar 24Lessons』（第一学習社）594円(税込) ISBN978-4-8040-1590-3

木曜日: 『Core Nonfiction Reading 1』（Compass Publishing）3300円(税込) ISBN9781613527405

<授業計画>

第1回 火曜 第1回 オリエンテーション

オリエンテーション Able p. 12 文の種類

第2回 木曜 第1回 オリエンテーション

オリエンテーション 1,Living Longer,The Science of Longevity

第3回 火曜 第2回 TOEIC

TOEICテストについて (サンプル問題受験)

第4回 木曜 第2回 語彙・読解方略

1,Living Longer,The Science of Longevity + Reading Skills Appendix Unit 1

第5回 火曜 第3回 TOEIC

TOEIC IP(予定)

実施の有無については、教員から指示があります。実施の場合は表現クラス合同で学生証が必要です。配信メールで教室を確認し 収入印紙等、事前準備をお願いします

第6回 木曜 第3回 語彙・速読

1,Living Longer, The Science of Longevity + Unit 1 Speed Reading

第7回 火曜 第4回 文法

Able p. 14 文型

第8回 木曜 第4回 語彙・読解方略

2,Exploring Caves + Reading Skills Appendix Unit 2

第9回 火曜 第5回 文法

Able p. 16 & 18 文型 & 時制

第10回 木曜 第5回 語彙・速読

2,Exploring Caves + Unit 2 Speed Reading

第11回 火曜 第6回 文法

Able p. 20 & 22 時制

第12回 木曜 第6回 語彙・読解方略

3,Why Superheroes are so Appealing + Reading Skills Appendix Unit 3

第13回 火曜 第7回 文法

Able p. 24 & 26 完了形

第14回 木曜 第7回 語彙・速読

3,Why Superheroes are so Appealing +Unit 3 Speed Reading

第15回 火曜 第8回 文法Review 1

【中間テスト】Able p. 14~26の復習

第16回 木曜 第8回 Review 1

【中間テスト】Unit 1~3 の復習

第17回 火曜 第9回 文法

Able p. 28 & 30助動詞

第18回 木曜 第9回 語彙・読解方略

4,The Power of Familiarity + Reading Skills Append

ix Unit 4

第19回 火曜 第10回 文法

Able p. 32 助動詞

第20回 木曜 第10回 語彙・速読

4,The Power of Familiarity +Unit 4 Speed Reading

第21回 火曜 第11回 文法

Able p. 34 & 36受動態

第22回 木曜 第11回 語彙・読解方略

5,How do colors affect our emotions? +Reading Skills Appendix Unit 5

第23回 火曜 第12回 文法

Able p. 38 & 40 不定詞

第24回 木曜 第12回 語彙・速読

5,How do colors affect our emotions? Unit 5 Speed Reading

第25回 火曜 第13回 Review 2

Able p. 14-40の復習 + TOEIC形式の文法問題QUIZ

第26回 木曜 第13回 語彙・読解方略

6,Talent Donation+ Reading Skills Appendix Unit 6

第27回 火曜 第14回 Review 3

【期末テスト】 p. 14-40の復習 振返り Feedback

第28回 木曜 第14回 語彙・速読

6,Talent Donation + Unit 6 Speed Reading

第29回 火曜 第15回 TOEIC

TOEIC IP (予定)

実施の有無については、教員から指示があります。実施の場合は表現クラス合同で学生証が必要です。配信メールで教室を確認し 収入印紙等、事前準備をお願いします

第30回 木曜 第14回 期末テスト

Unit 1~ 6 期末テスト 振返り Feedback

2022年度 前期

2.0単位

英語読解 (B)

表谷 純子、海老原 由貴

< 授業の方法 >

講義 演習

GC Square上での指示に従ってください (GC Squareをよくチェックするようにしてください)

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも「1.実践的で

高度な外国語の運用ができる」と「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。英語読解力を向上させる為に、基本的な英文法、英語構文、語彙、慣用表現を学習し、読解方略を効果的に使用して様々なトピック、ジャンルの英文の精読と多読を行う。

< 到達目標 >

- ・To learn efficient reading skills.
- ・To build up English vocabulary and expressions as well as knowledge of English grammar.
- ・To improve reading speed in English.

< 授業のキーワード >

英語読解方略 英文法 語彙習得

< 授業の進め方 >

週2回の授業の内、週1回はGC Squareから配信されるリーディング教材を使う授業とする。火曜授業は『able English Grammar 24Lessons』(第一学習社)を用いた授業を行う。木曜授業は『Core Nonfiction Reading 1 (Compass Publishing)』を用いた授業を行う。課題や小テストについては授業中及びGC Squareを通じて指示を出すので、GC Squareからのお知らせもこまめにチェックすること。

< 履修するにあたって >

Students must do preparation for each class. They must take in-class quizzes and submit assignment.

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、復習に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

授業内での指示に従うこと。

< 成績評価方法・基準 >

火曜日授業50% + 木曜日授業50%
= 計100%

火曜クラスAble 50% :

授業内小テスト・課題25%, 中間・期末テスト (10% x 2) 20% TOEIC IP テスト 5%

木曜クラス

授業内小テスト・課題30%, 中間・期末テスト (10% x 2) 20%

< テキスト >

火曜日: 『able English Grammar 24Lessons』(第一学習社) 594円 (税込) ISBN978-4-8040-1590-3

木曜日: 『Core Nonfiction Reading 1』(Compass Publishing) 3300円 (税込) ISBN9781613527405

< 授業計画 >

第1回 火曜 第1回 オリエンテーション
オリエンテーション Able p. 12 文の種類
第2回 木曜 第1回 オリエンテーション
オリエンテーション 1,Living Longer,The Science of
Longevity
第3回 火曜 第2回 TOEIC
TOEICテストについて (サンプル問題受験)

第4回 木曜 第2回 語彙・読解方略
1,Living Longer,The Science of Longevity+Reading
Skills Appendix Unit 1
第5回 火曜 第3回 TOEIC

TOEIC IP(予定)
実施の有無については、教員から指示があります。実施
の場合は表現クラス合同で学生証が必要です。配信メー
ルで教室を確認し 収入印紙等、事前準備をお願いします

第6回 木曜 第3回 語彙・速読
1,Living Longer, The Science of Longevity + Unit 1
Speed Reading
第7回 火曜 第4回 文法

Able p. 14 文型

第8回 木曜 第4回 語彙・読解方略
2,Exploring Caves + Reading Skills Appendix Unit 2

第9回 火曜 第5回 文法

Able p. 16 & 18 文型 & 時制

第10回 木曜 第5回 語彙・速読

2,Exploring Caves + Unit 2 Speed Reading

第11回 火曜 第6回 文法

Able p. 20 & 22 時制

第12回 木曜 第6回 語彙・読解方略
3,Why Superheroes are so Appealing + Reading Skill
s Appendix Unit 3

第13回 火曜 第7回 文法

Able p. 24 & 26 完了形

第14回 木曜 第7回 語彙・速読

3,Why Superheroes are so Appealing +Unit 3 Speed R
eading

第15回 火曜 第8回 文法Review 1

【中間テスト】Able p. 14~26の復習

第16回 木曜 第8回 Review 1

【中間テスト】Unit 1~3 の復習

第17回 火曜 第9回 文法

Able p. 28 & 30助動詞

第18回 木曜 第9回 語彙・読解方略

4,The Power of Familiarity + Reading Skills Append
ix Unit 4

第19回 火曜 第10回 文法

Able p. 32 助動詞

第20回 木曜 第10回 語彙・速読

4,The Power of Familiarity +Unit 4 Speed Reading

第21回 火曜 第11回 文法

Able p. 34 & 36受動態

第22回 木曜 第11回 語彙・読解方略

5,How do colors affect our emotions?+Reading Skill
s Appendix Unit 5

第23回 火曜 第12回 文法

Able p. 38 & 40 不定詞

第24回 木曜 第12回 語彙・速読

5,How do colors affect our emotions? Unit 5 Speed
Reading

第25回 火曜 第13回 Review 2

Able p. 14~40の復習 + TOEIC形式の文法問題QUIZ

第26回 木曜 第13回 語彙・読解方略

6,Talent Donation+ Reading Skills Appendix Unit 6

第27回 火曜 第14回 Review 3

【期末テスト】 p. 14~40の復習 振返り Feedback

第28回 木曜 第14回 語彙・速読

6,Talent Donation + Unit 6 Speed Reading

第29回 火曜 第15回 TOEIC

TOEIC IP(予定)

実施の有無については、教員から指示があります。実施
の場合は表現クラス合同で学生証が必要です。配信メー
ルで教室を確認し 収入印紙等、事前準備をお願いします

第30回 木曜 第14回 期末テスト

Unit 1~ 6 期末テスト 振返り Feedback

2022年度 前期

2.0単位

英語読解 (C)

原 良子、多田 さおり

< 授業の方法 >

講義 演習

GC Square上での指示に従ってください(GC Squareをよく
チェックするようにしてください)

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも「1.実践的で
高度な外国語の運用ができる」と「3.言語の基礎にある
多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広
い知識や教養を身に付けることができる」「4.教育現場
で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法
を習得することができる」ことを目的としている。英語
読解力を向上させる為に、基本的な英文法、英語構文、
語彙、慣用表現を学習し、読解方略を効果的に使用して
様々なトピック、ジャンルの英文の精読と多読を行う。

< 到達目標 >

- ・To learn efficient reading skills.
- ・To build up English vocabulary and expressions as well as knowledge of English grammar.
- ・To improve reading speed in English.

< 授業のキーワード >

英語読解方略 英文法 語彙習得

< 授業の進め方 >

週2回の授業の内、週1回はGCsquareから配信されるリー
ディング教材を使う授業とする。火曜授業は『able Eng
lish Grammar 24Lessons』(第一学習社)を用いた授業
を行う。木曜授業は『CoreNonfiction Reading 1 (Compa
ss Publishing)』を用いた授業を行う。課題や小テスト
については授業中及びGC Squareを通じて指示を出すの
で、GC Squareからのお知らせもこまめにチェックする
こと。

< 履修するにあたって >

Students must do preparation for each class. They
must take in-class quizzes and submit assignment.

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、復習に最低1時間、既習事項の復習などに
最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

授業内での指示に従うこと。

< 成績評価方法・基準 >

火曜日授業50% + 木曜日授業50%
= 計100%

火曜クラスAble 50% :

授業内小テスト・課題25%, 中間・期末テスト(10%×2
)20% TOEIC IP テスト 5%

木曜クラス

授業内小テスト・課題30%, 中間・期末テスト(10%×2
)20%

< テキスト >

火曜日: 『able English Grammar 24Lessons』(第一学
習社)594円(税込) ISBN978-4-8040-1590-3

木曜日: 『Core Nonfiction Reading 1』(Compass Publ
ishing)3300円(税込) ISBN9781613527405

< 授業計画 >

第1回 火曜 第1回 オリエンテーション

オリエンテーション Able p. 12 文の種類

第2回 木曜 第1回 オリエンテーション

オリエンテーション 1,Living Longer,The Science of
Longevity

第3回 火曜 第2回 TOEIC

TOEICテストについて (サンプル問題受験)

第4回 木曜 第2回 語彙・読解方略

1,Living Longer,The Science of Longevity+Reading
Skills Appendix Unit 1

第5回 火曜 第3回 TOEIC

TOEIC IP(予定)

実施の有無については、教員から指示があります。実施
の場合は表現クラス合同で学生証が必要です。配信メー
ルで教室を確認し 収入印紙等、事前準備をお願いしま
す

第6回 木曜 第3回 語彙・速読

1,Living Longer, The Science of Longevity + Unit 1
Speed Reading

第7回 火曜 第4回 文法

Able p. 14 文型

第8回 木曜 第4回 語彙・読解方略

2,Exploring Caves + Reading Skills Appendix Unit 2

第9回 火曜 第5回 文法

Able p. 16 & 18 文型 & 時制

第10回 木曜 第5回 語彙・速読

2,Exploring Caves + Unit 2 Speed Reading

第11回 火曜 第6回 文法

Able p. 20 & 22 時制

第12回 木曜 第6回 語彙・読解方略

3,Why Superheroes are so Appealing + Reading Skills Appendix Unit 3

第13回 火曜 第7回 文法

Able p. 24 & 26 完了形

第14回 木曜 第7回 語彙・速読

3,Why Superheroes are so Appealing +Unit 3 Speed Reading

第15回 火曜 第8回 文法Review 1

【中間テスト】Able p. 14~26の復習

第16回 木曜 第8回 Review 1

【中間テスト】Unit 1~3 の復習

第17回 火曜 第9回 文法

Able p. 28 & 30助動詞

第18回 木曜 第9回 語彙・読解方略

4,The Power of Familiarity + Reading Skills Appendix Unit 4

第19回 火曜 第10回 文法

Able p. 32 助動詞

第20回 木曜 第10回 語彙・速読

4,The Power of Familiarity +Unit 4 Speed Reading

第21回 火曜 第11回 文法

Able p. 34 & 36受動態

第22回 木曜 第11回 語彙・読解方略

5,How do colors affect our emotions? +Reading Skills Appendix Unit 5

第23回 火曜 第12回 文法

Able p. 38 & 40 不定詞

第24回 木曜 第12回 語彙・速読

5,How do colors affect our emotions? Unit 5 Speed Reading

第25回 火曜 第13回 Review 2

Able p. 14~40の復習 + TOEIC形式の文法問題QUIZ

第26回 木曜 第13回 語彙・読解方略

6,Talent Donation+ Reading Skills Appendix Unit 6

第27回 火曜 第14回 Review 3

【期末テスト】 p. 14~40の復習 振返り Feedback

第28回 木曜 第14回 語彙・速読

6,Talent Donation + Unit 6 Speed Reading

第29回 火曜 第15回 TOEIC

TOEIC IP(予定)

実施の有無については、教員から指示があります。実施

の場合は表現クラス合同で学生証が必要です。配信メールで教室を確認し 収入印紙等、事前準備をお願いします

第30回 木曜 第14回 期末テスト

Unit 1~6 期末テスト 振返り Feedback

2022年度 前期

2.0単位

英語読解 (D)

表谷 純子、海老原 由貴

<授業の方法>

講義 演習

GC Square上での指示に従ってください(GC Squareをよくチェックするようにしてください)

<授業の目的>

この授業ではディプロマポリシーの中でも「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」と「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。英語読解力を向上させる為に、基本的な英文法、英語構文、語彙、慣用表現を学習し、読解方略を効果的に使用して様々なトピック、ジャンルの英文の精読と多読を行う。

<到達目標>

- ・To learn efficient reading skills.
- ・To build up English vocabulary and expressions as well as knowledge of English grammar.
- ・To improve reading speed in English.

<授業のキーワード>

英語読解方略 英文法 語彙習得

<授業の進め方>

週2回の授業の内、週1回はGCsquareから配信されるリーディング教材を使う授業とする。火曜授業は『able English Grammar 24Lessons』(第一学習社)を用いた授業を行う。木曜授業は『CoreNonfiction Reading 1 (Compass Publishing)』を用いた授業を行う。課題や小テストについては授業中及びGC Squareを通じて指示を出すので、GC Squareからのお知らせもこまめにチェックすること。

<履修するにあたって>

Students must do preparation for each class. They must take in-class quizzes and submit assignment.

<授業時間外に必要な学修>

毎回、予習、復習に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

<提出課題など>

授業内での指示に従うこと。

<成績評価方法・基準>

火曜日授業50% + 木曜日授業50%

= 計100%

火曜クラスAble 50% :

授業内小テスト・課題25%, 中間・期末テスト(10%×2)
20% TOEIC IP テスト 5%

木曜クラス

授業内小テスト・課題30%, 中間・期末テスト(10%×2)
20%

<テキスト>

火曜日: 『able English Grammar 24Lessons』(第一学
習社) 594円(税込) ISBN978-4-8040-1590-3

木曜日: 『Core Nonfiction Reading 1』(Compass Publ
ishing) 3300円(税込) ISBN9781613527405

<授業計画>

第1回 火曜 第1回 オリエンテーション
オリエンテーション Able p. 12 文の種類
第2回 木曜 第1回 オリエンテーション
オリエンテーション 1,Living Longer,The Science of
Longevity

第3回 火曜 第2回 TOEIC
TOEICテストについて (サンプル問題受験)

第4回 木曜 第2回 語彙・読解方略
1,Living Longer,The Science of Longevity+Reading
Skills Appendix Unit 1

第5回 火曜 第3回 TOEIC

TOEIC IP(予定)

実施の有無については、教員から指示があります。実施
の場合は表現クラス合同で学生証が必要です。配信メー
ルで教室を確認し 収入印紙等、事前準備をお願いします

第6回 木曜 第3回 語彙・速読
1,Living Longer, The Science of Longevity + Unit 1
Speed Reading

第7回 火曜 第4回 文法

Able p. 14 文型

第8回 木曜 第4回 語彙・読解方略

2,Exploring Caves + Reading Skills Appendix Unit 2

第9回 火曜 第5回 文法

Able p. 16 & 18 文型 & 時制

第10回 木曜 第5回 語彙・速読

2,Exploring Caves + Unit 2 Speed Reading

第11回 火曜 第6回 文法

Able p. 20 & 22 時制

第12回 木曜 第6回 語彙・読解方略

3,Why Superheroes are so Appealing + Reading Skill
s Appendix Unit 3

第13回 火曜 第7回 文法

Able p. 24 & 26 完了形

第14回 木曜 第7回 語彙・速読

3,Why Superheroes are so Appealing +Unit 3 Speed R
eading

第15回 火曜 第8回 文法Review 1

【中間テスト】Able p. 14~26の復習

第16回 木曜 第8回 Review 1

【中間テスト】Unit 1~3 の復習

第17回 火曜 第9回 文法

Able p. 28 & 30助動詞

第18回 木曜 第9回 語彙・読解方略

4,The Power of Familiarity + Reading Skills Append
ix Unit 4

第19回 火曜 第10回 文法

Able p. 32 助動詞

第20回 木曜 第10回 語彙・速読

4,The Power of Familiarity +Unit 4 Speed Reading

第21回 火曜 第11回 文法

Able p. 34 & 36受動態

第22回 木曜 第11回 語彙・読解方略

5,How do colors affect our emotions?+Reading Skill
s Appendix Unit 5

第23回 火曜 第12回 文法

Able p. 38 & 40 不定詞

第24回 木曜 第12回 語彙・速読

5,How do colors affect our emotions? Unit 5 Speed
Reading

第25回 火曜 第13回 Review 2

Able p. 14~40の復習 + TOEIC形式の文法問題QUIZ

第26回 木曜 第13回 語彙・読解方略

6,Talent Donation+ Reading Skills Appendix Unit 6

第27回 火曜 第14回 Review 3

【期末テスト】 p. 14-40の復習 振返り Feedback

第28回 木曜 第14回 語彙・速読

6, Talent Donation + Unit 6 Speed Reading

第29回 火曜 第15回 TOEIC

TOEIC IP (予定)

実施の有無については、教員から指示があります。実施の場合は表現クラス合同で学生証が必要です。配信メールで教室を確認し 収入印紙等、事前準備をお願いします

第30回 木曜 第14回 期末テスト

Unit 1~6 期末テスト 振返り Feedback

2022年度 前期

2.0単位

英語読解 (E)

林 剛司、Nicholas Musty

< 授業の方法 >

講義 演習

GC Square上での指示に従ってください (GC Squareをよくチェックするようにしてください)

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも「1. 実践的で高度な外国語の運用ができる」と「3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」「4. 教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。英語読解力を向上させる為に、基本的な英文法、英語構文、語彙、慣用表現を学習し、読解方略を効果的に使用して様々なトピック、ジャンルの英文の精読と多読を行う。

< 到達目標 >

- ・To learn efficient reading skills.
- ・To build up English vocabulary and expressions as well as knowledge of English grammar.
- ・To improve reading speed in English.

< 授業のキーワード >

英語読解方略 英文法 語彙習得

< 授業の進め方 >

週2回の授業の内、週1回はGC Squareから配信されるリーディング教材を使う授業とする。火曜授業は『able English Grammar 24Lessons』(第一学習社)を用いた授業を行う。木曜授業は『Core Nonfiction Reading 1 (Compass Publishing)』を用いた授業を行う。課題や小テストについては授業中及びGC Squareを通じて指示を出すので、GC Squareからのお知らせもこまめにチェックすること。

< 履修するにあたって >

Students must do preparation for each class. They must take in-class quizzes and submit assignment.

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、復習に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

授業内での指示に従うこと。

< 成績評価方法・基準 >

火曜日授業50% + 木曜日授業50%
= 計100%

火曜クラスAble 50% :

授業内小テスト・課題25%, 中間・期末テスト (10% × 2)
) 20% TOEIC IP テスト 5%

木曜クラス

授業内小テスト・課題30%, 中間・期末テスト (10% × 2)
) 20%

< テキスト >

火曜日: 『able English Grammar 24Lessons』(第一学習社) 594円(税込) ISBN978-4-8040-1590-3

木曜日: 『Core Nonfiction Reading 1』(Compass Publishing) 3300円(税込) ISBN9781613527405

< 授業計画 >

第1回 火曜 第1回 オリエンテーション

オリエンテーション Able p. 12 文の種類

第2回 木曜 第1回 オリエンテーション

オリエンテーション 1, Living Longer, The Science of Longevity

第3回 火曜 第2回 TOEIC

TOEICテストについて (サンプル問題受験)

第4回 木曜 第2回 語彙・読解方略

1, Living Longer, The Science of Longevity + Reading Skills Appendix Unit 1

第5回 火曜 第3回 TOEIC

TOEIC IP (予定)

実施の有無については、教員から指示があります。実施の場合は表現クラス合同で学生証が必要です。配信メールで教室を確認し 収入印紙等、事前準備をお願いします

第6回 木曜 第3回 語彙・速読

1, Living Longer, The Science of Longevity + Unit 1 Speed Reading

第7回 火曜 第4回 文法

Able p. 14 文型

第8回 木曜 第4回 語彙・読解方略

2, Exploring Caves + Reading Skills Appendix Unit 2

第9回 火曜 第5回 文法

Able p. 16 & 18 文型 & 時制

第10回 木曜 第5回 語彙・速読

2, Exploring Caves + Unit 2 Speed Reading

第11回 火曜 第6回 文法

Able p. 20 & 22 時制

第12回 木曜 第6回 語彙・読解方略

3, Why Superheroes are so Appealing + Reading Skills Appendix Unit 3

第13回 火曜 第7回 文法

Able p. 24 & 26 完了形

第14回 木曜 第7回 語彙・速読

3, Why Superheroes are so Appealing + Unit 3 Speed Reading

第15回 火曜 第8回 文法 Review 1

【中間テスト】Able p. 14~26の復習

第16回 木曜 第8回 Review 1

【中間テスト】Unit 1~3 の復習

第17回 火曜 第9回 文法

Able p. 28 & 30 助動詞

第18回 木曜 第9回 語彙・読解方略

4, The Power of Familiarity + Reading Skills Appendix Unit 4

第19回 火曜 第10回 文法

Able p. 32 助動詞

第20回 木曜 第10回 語彙・速読

4, The Power of Familiarity + Unit 4 Speed Reading

第21回 火曜 第11回 文法

Able p. 34 & 36 受動態

第22回 木曜 第11回 語彙・読解方略

5, How do colors affect our emotions? + Reading Skills Appendix Unit 5

第23回 火曜 第12回 文法

Able p. 38 & 40 不定詞

第24回 木曜 第12回 語彙・速読

5, How do colors affect our emotions? Unit 5 Speed

Reading

第25回 火曜 第13回 Review 2

Able p. 14~40の復習 + TOEIC形式の文法問題QUIZ

第26回 木曜 第13回 語彙・読解方略

6, Talent Donation + Reading Skills Appendix Unit 6

第27回 火曜 第14回 Review 3

【期末テスト】 p. 14~40の復習 振返り Feedback

第28回 木曜 第14回 語彙・速読

6, Talent Donation + Unit 6 Speed Reading

第29回 火曜 第15回 TOEIC

TOEIC IP (予定)

実施の有無については、教員から指示があります。実施の場合は表現クラス合同で学生証が必要です。配信メールで教室を確認し 収入印紙等、事前準備をお願いします

第30回 木曜 第14回 期末テスト

Unit 1~6 期末テスト 振返り Feedback

2022年度 後期

2.0単位

英語読解 (A)

原 良子、多田 さおり

<授業の方法>

講義 演習

GC Square上での指示に従ってください(GC Squareをよくチェックするようにしてください)

<授業の目的>

この授業ではディプロマポリシーの中でも「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」と「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。英語読解力を向上させる為に、基本的な英文法、英語構文、語彙、慣用表現を学習し、読解方略を効果的に使用して様々なトピック、ジャンルの英文の精読と多読を行う。

<到達目標>

- ・To learn efficient reading skills.
- ・To build up English vocabulary and expressions as well as knowledge of English grammar.
- ・To improve reading speed in English.

<授業のキーワード>

英語読解方略 英文法 語彙習得

<授業の進め方>

週2回の授業の内、週1回はGCsquareから配信されるリーディング教材を使う授業とする。火曜授業は『able English Grammar 24Lessons』（第一学習社）を用いた授業を行う。木曜授業は『CoreNonfiction Reading 1 (Compass Publishing)』を用いた授業を行う。課題や小テストについては授業中及びGC Squareを通じて指示を出すので、GC Squareからのお知らせもこまめにチェックすること。

<履修するにあたって>

Students must do preparation for each class. They must take in-class quizzes and submit assignment.

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、復習に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

授業内での指示に従うこと。

< 成績評価方法・基準 >

火曜日授業50% + 木曜日授業50%

= 計100%

火曜クラスAble 50% :

授業内小テスト・課題25%, 中間・期末テスト(10%×2) 20% TOEIC IP テスト 5%

木曜クラス

授業内小テスト・課題30%, 中間・期末テスト(10%×2) 20%

< テキスト >

火曜日: 『able English Grammar 24Lessons』（第一学習社）594円(税込) ISBN978-4-8040-1590-3

木曜日: 『Core Nonfiction Reading 1』（Compass Publishing) 3300円(税込) ISBN9781613527405

< 授業計画 >

第1回 火曜 第1回 オリエンテーション

オリエンテーション Able L14動名詞

第2回 木曜 第1回 オリエンテーション

オリエンテーション 7,Successful People

第3回 火曜 第2回 文法

Able L15動名詞

第4回 木曜 第2回 語彙・読解方略

7,Successful People+ Reading Skills Appendix Unit 7

第5回 火曜 第3回 文法

Able L16 分詞

第6回 木曜 第3回 語彙・速読

7,Successful People + Unit 7 Speed Reading

第7回 火曜 第4回 文法

Able L17分詞

第8回 木曜 第4回 語彙・読解方略

8,Humane Zoos + Reading Skills Appendix Unit 8

第9回 火曜 第5回 文法

Able Further Study分詞 L18比較

第10回 木曜 第5回 語彙・速読

8,Humane Zoos + Unit 8 Speed Reading

第11回 火曜 第6回 文法

Able L19比較

第12回 木曜 第6回 語彙・読解方略

9,Liar,Liar + Reading Skills Appendix Unit 9

第13回 火曜 第7回 文法

Able Further Study比較

第14回 木曜 第7回 語彙・速読

9,Liar,Liar +Unit 9 Speed Reading

第15回 火曜 第8回 文法Review 1

【中間テスト】Able Unit 14~ Further Study 比較
まの復習

第16回 木曜 第8回 Review 1

【中間テスト】

第17回 火曜 第9回 文法

Able L20関係詞 L21関係詞

第18回 木曜 第9回 語彙・読解方略

10,How far food travels + Reading Skills Appendix
Unit 10

第19回 火曜 第10回 文法

Able L22関係詞 Further Study関係詞

第20回 木曜 第10回 語彙・速読

10,How far food travels +Unit 10 Speed Reading

第21回 火曜 第11回 文法

Able L23仮定法 L24仮定法

第22回 木曜 第11回 語彙・読解方略

11,Taking 10,000 Steps+ Reading Skills Appendix U
nit 11

第23回 火曜 第12回 文法

Able p. 80 C群前置詞 + p. 82接続詞(A・B・C)

第24回 木曜 第12回 語彙・速読

11,Taking 10,000 Steps + Unit 11 Speed Reading

第25回 火曜 第13回 Review 2

Able L14~復習 + TOEIC形式の文法問題QUIZ

第26回 木曜 第13回 語彙・読解方略

12, Mind Tricks + Reading Skills Appendix Unit 12

第27回 火曜 第14回 Review 3

【期末テスト】 L14~の復習 振り返り Feedback

第28回 木曜 第14回 語彙・速読

12, Mind Tricks + Unit 12 Speed Reading

第29回 火曜 第15回 TOEIC

TOEIC IP (予定)

実施の有無については、教員から指示があります。実施の場合は表現クラス合同で学生証が必要です。配信メールで教室を確認し 収入印紙等、事前準備をお願いいたします

第30回 木曜 第14回 期末テスト

Unit 7~12 期末テスト 振り返り Feedback

2022年度 後期

2.0単位

英語読解 (B)

表谷 純子、海老原 由貴

< 授業の方法 >

講義 演習

GC Square上での指示に従ってください (GC Squareをよくチェックするようにしてください)

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも「1. 実践的で高度な外国語の運用ができる」と「3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」「4. 教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。英語読解力を向上させる為に、基本的な英文法、英語構文、語彙、慣用表現を学習し、読解方略を効果的に使用して様々なトピック、ジャンルの英文の精読と多読を行う。

< 到達目標 >

- ・To learn efficient reading skills.
- ・To build up English vocabulary and expressions as well as knowledge of English grammar.
- ・To improve reading speed in English.

< 授業のキーワード >

英語読解方略 英文法 語彙習得

< 授業の進め方 >

週2回の授業の内、週1回はGC Squareから配信されるリーディング教材を使う授業とする。火曜授業は『able Eng

lish Grammar 24Lessons』(第一学習社)を用いた授業を行う。木曜授業は『Core Nonfiction Reading 1 (Compass Publishing)』を用いた授業を行う。課題や小テストについては授業中及びGC Squareを通じて指示を出すので、GC Squareからのお知らせもこまめにチェックすること。

< 履修するにあたって >

Students must do preparation for each class. They must take in-class quizzes and submit assignment.

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、復習に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

授業内での指示に従うこと。

< 成績評価方法・基準 >

火曜日授業50% + 木曜日授業50%
= 計100%

火曜クラスAble 50% :

授業内小テスト・課題25%, 中間・期末テスト(10%×2)
)20% TOEIC IP テスト 5%

木曜クラス

授業内小テスト・課題30%, 中間・期末テスト(10%×2)
)20%

< テキスト >

火曜日: 『able English Grammar 24Lessons』(第一学習社) 594円(税込) ISBN978-4-8040-1590-3

木曜日: 『Core Nonfiction Reading 1』(Compass Publishing) 3300円(税込) ISBN9781613527405

< 授業計画 >

第1回 火曜 第1回 オリエンテーション

オリエンテーション Able L14動名詞

第2回 木曜 第1回 オリエンテーション

オリエンテーション 7, Successful People

第3回 火曜 第2回 文法

Able L15動名詞

第4回 木曜 第2回 語彙・読解方略

7, Successful People + Reading Skills Appendix Unit 7

第5回 火曜 第3回 文法

Able L16 分詞

第6回 木曜 第3回 語彙・速読

7, Successful People + Unit 7 Speed Reading

第7回 火曜 第4回 文法

Able L17分詞

第8回 木曜 第4回 語彙・読解方略

8, Humane Zoos + Reading Skills Appendix Unit 8

第9回 火曜 第5回 文法

Able Further Study分詞 L18比較

第10回 木曜 第5回 語彙・速読

8, Humane Zoos + Unit 8 Speed Reading

第11回 火曜 第6回 文法

Able L19比較

第12回 木曜 第6回 語彙・読解方略

9, Liar, Liar + Reading Skills Appendix Unit 9

第13回 火曜 第7回 文法

Able Further Study比較

第14回 木曜 第7回 語彙・速読

9, Liar, Liar + Unit 9 Speed Reading

第15回 火曜 第8回 文法Review 1

【中間テスト】Able Unit 14~ Further Study 比較
まの復習

第16回 木曜 第8回 Review 1

【中間テスト】

第17回 火曜 第9回 文法

Able L20関係詞 L21関係詞

第18回 木曜 第9回 語彙・読解方略

10, How far food travels + Reading Skills Appendix
Unit 10

第19回 火曜 第10回 文法

Able L22関係詞 Further Study関係詞

第20回 木曜 第10回 語彙・速読

10, How far food travels + Unit 10 Speed Reading

第21回 火曜 第11回 文法

Able L23仮定法 L24仮定法

第22回 木曜 第11回 語彙・読解方略

11, Taking 10,000 Steps + Reading Skills Appendix U
nit 11

第23回 火曜 第12回 文法

Able p. 80 C群前置詞 + p. 82接続詞 (A・B・C)

第24回 木曜 第12回 語彙・速読

11, Taking 10,000 Steps + Unit 11 Speed Reading

第25回 火曜 第13回 Review 2

Able L14~復習 + TOEIC形式の文法問題QUIZ

第26回 木曜 第13回 語彙・読解方略

12, Mind Tricks + Reading Skills Appendix Unit 12

第27回 火曜 第14回 Review 3

【期末テスト】L14~の復習 振返り Feedback

第28回 木曜 第14回 語彙・速読

12, Mind Tricks + Unit 12 Speed Reading

第29回 火曜 第15回 TOEIC

TOEIC IP (予定)

実施の有無については、教員から指示があります。実施
の場合は表現クラス合同で学生証が必要です。配信メー
ルで教室を確認し 収入印紙等、事前準備をお願いしま
す

第30回 木曜 第14回 期末テスト

Unit 7~12 期末テスト 振返り Feedback

2022年度 後期

2.0単位

英語読解 (C)

原 良子、多田 さおり

<授業の方法>

講義 演習

GC Square上での指示に従ってください (GC Squareをよ
くチェックするようにしてください)

<授業の目的>

この授業ではディプロマポリシーの中でも「1.実践的で
高度な外国語の運用ができる」と「3.言語の基礎にある
多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広
い知識や教養を身に付けることができる」「4.教育現場
で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法
を習得することができる」ことを目的としている。英語
読解力を向上させる為に、基本的な英文法、英語構文、
語彙、慣用表現を学習し、読解方略を効果的に使用して
様々なトピック、ジャンルの英文の精読と多読を行う。

<到達目標>

・To learn efficient reading skills.

・To build up English vocabulary and expressions as
well as knowledge of English grammar.

・To improve reading speed in English.

<授業のキーワード>

英語読解方略 英文法 語彙習得

<授業の進め方>

週2回の授業の内、週1回はGCsquareから配信されるリー
ディング教材を使う授業とする。火曜授業は『able Eng
lish Grammar 24Lessons』(第一学習社)を用いた授業
を行う。木曜授業は『CoreNonfiction Reading 1 (Compa

ss Publishing』を用いた授業を行う。課題や小テストについては授業中及びGC Squareを通じて指示を出すので、GC Squareからのお知らせもこまめにチェックすること。

<履修するにあたって>

Students must do preparation for each class. They must take in-class quizzes and submit assignment.

<授業時間外に必要な学修>

毎回、予習、復習に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

<提出課題など>

授業内での指示に従うこと。

<成績評価方法・基準>

火曜日授業50% + 木曜日授業50%

= 計100%

火曜クラスAble 50% :

授業内小テスト・課題25%, 中間・期末テスト(10%×2)
20% TOEIC IP テスト 5%

木曜クラス

授業内小テスト・課題30%, 中間・期末テスト(10%×2)
20%

<テキスト>

火曜日: 『able English Grammar 24Lessons』(第一学習社) 594円(税込) ISBN978-4-8040-1590-3

木曜日: 『Core Nonfiction Reading 1』(Compass Publishing) 3300円(税込) ISBN9781613527405

<授業計画>

第1回 火曜 第1回 オリエンテーション

オリエンテーション Able L14動名詞

第2回 木曜 第1回 オリエンテーション

オリエンテーション 7,Successful People

第3回 火曜 第2回 文法

Able L15動名詞

第4回 木曜 第2回 語彙・読解方略

7,Successful People+ Reading Skills Appendix Unit 7

第5回 火曜 第3回 文法

Able L16 分詞

第6回 木曜 第3回 語彙・速読

7,Successful People + Unit 7 Speed Reading

第7回 火曜 第4回 文法

Able L17分詞

第8回 木曜 第4回 語彙・読解方略

8,Humane Zoos + Reading Skills Appendix Unit 8

第9回 火曜 第5回 文法

Able Further Study分詞 L18比較

第10回 木曜 第5回 語彙・速読

8,Humane Zoos + Unit 8 Speed Reading

第11回 火曜 第6回 文法

Able L19比較

第12回 木曜 第6回 語彙・読解方略

9,Liar,Liar + Reading Skills Appendix Unit 9

第13回 火曜 第7回 文法

Able Further Study比較

第14回 木曜 第7回 語彙・速読

9,Liar,Liar +Unit 9 Speed Reading

第15回 火曜 第8回 文法Review 1

【中間テスト】Able Unit 14~ Further Study 比較
まの復習

第16回 木曜 第8回 Review 1

【中間テスト】

第17回 火曜 第9回 文法

Able L20関係詞 L21関係詞

第18回 木曜 第9回 語彙・読解方略

10,How far food travels + Reading Skills Appendix
Unit 10

第19回 火曜 第10回 文法

Able L22関係詞 Further Study関係詞

第20回 木曜 第10回 語彙・速読

10,How far food travels +Unit 10 Speed Reading

第21回 火曜 第11回 文法

Able L23仮定法 L24仮定法

第22回 木曜 第11回 語彙・読解方略

11,Taking 10,000 Steps+ Reading Skills Appendix U
nit 11

第23回 火曜 第12回 文法

Able p. 80 C群前置詞 + p. 82接続詞(A・B・C)

第24回 木曜 第12回 語彙・速読

11,Taking 10,000 Steps + Unit 11 Speed Reading

第25回 火曜 第13回 Review 2

Able L14~復習 + TOEIC形式の文法問題QUIZ

第26回 木曜 第13回 語彙・読解方略

12, Mind Tricks + Reading Skills Appendix Unit 12
第27回 火曜 第14回 Review 3
【期末テスト】 L14~の復習 振り返り Feedback

第28回 木曜 第14回 語彙・速読
12, Mind Tricks + Unit 12 Speed Reading
第29回 火曜 第15回 TOEIC

TOEIC IP (予定)
実施の有無については、教員から指示があります。実施
の場合は表現クラス合同で学生証が必要です。配信メー
ルで教室を確認し 収入印紙等、事前準備をお願いしま
す

第30回 木曜 第14回 期末テスト

Unit 7~12 期末テスト 振り返り Feedback

2022年度 後期

2.0単位

英語読解 (D)

表谷 純子、海老原 由貴

< 授業の方法 >

講義 演習

GC Square上での指示に従ってください (GC Squareをよ
くチェックするようにしてください)

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも「1. 実践的で
高度な外国語の運用ができる」と「3. 言語の基礎にある
多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広
い知識や教養を身に付けることができる」「4. 教育現場
で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法
を習得することができる」ことを目的としている。英語
読解力を向上させる為に、基本的な英文法、英語構文、
語彙、慣用表現を学習し、読解方略を効果的に使用して
様々なトピック、ジャンルの英文の精読と多読を行う。

< 到達目標 >

- ・To learn efficient reading skills.
- ・To build up English vocabulary and expressions as well as knowledge of English grammar.
- ・To improve reading speed in English.

< 授業のキーワード >

英語読解方略 英文法 語彙習得

< 授業の進め方 >

週2回の授業の内、週1回はGC Squareから配信されるリー
ディング教材を使う授業とする。火曜授業は『able Eng
lish Grammar 24Lessons』(第一学習社)を用いた授業
を行う。木曜授業は『Core Nonfiction Reading 1 (Compa
ss Publishing)』を用いた授業を行う。課題や小テスト
については授業中及びGC Squareを通じて指示を出すの

で、GC Squareからのお知らせもこまめにチェックする
こと。

< 履修するにあたって >

Students must do preparation for each class. They
must take in-class quizzes and submit assignment.

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、復習に最低1時間、既習事項の復習などに
最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

授業内での指示に従うこと。

< 成績評価方法・基準 >

火曜日授業50% + 木曜日授業50%

= 計100%

火曜クラスAble 50% :

授業内小テスト・課題25%, 中間・期末テスト (10% × 2
) 20% TOEIC IP テスト 5%

木曜クラス

授業内小テスト・課題30%, 中間・期末テスト (10% × 2
) 20%

< テキスト >

火曜日: 『able English Grammar 24Lessons』(第一学
習社) 594円(税込) ISBN978-4-8040-1590-3

木曜日: 『Core Nonfiction Reading 1』(Compass Publ
ishing) 3300円(税込) ISBN9781613527405

< 授業計画 >

第1回 火曜 第1回 オリエンテーション
オリエンテーション Able L14動名詞

第2回 木曜 第1回 オリエンテーション
オリエンテーション 7, Successful People

第3回 火曜 第2回 文法

Able L15動名詞

第4回 木曜 第2回 語彙・読解方略

7, Successful People + Reading Skills Appendix Unit
7

第5回 火曜 第3回 文法

Able L16 分詞

第6回 木曜 第3回 語彙・速読

7, Successful People + Unit 7 Speed Reading

第7回 火曜 第4回 文法

Able L17分詞

第8回 木曜 第4回 語彙・読解方略

8, Humane Zoos + Reading Skills Appendix Unit 8

Able Further Study分詞 L18比較

第10回 木曜 第5回 語彙・速読

8, Humane Zoos + Unit 8 Speed Reading

第11回 火曜 第6回 文法

Able L19比較

第12回 木曜 第6回 語彙・読解方略

9, Liar, Liar + Reading Skills Appendix Unit 9

第13回 火曜 第7回 文法

Able Further Study比較

第14回 木曜 第7回 語彙・速読

9, Liar, Liar + Unit 9 Speed Reading

第15回 火曜 第8回 文法Review 1

【中間テスト】 Able Unit 14~ Further Study 比較
まの復習

第16回 木曜 第8回 Review 1

【中間テスト】

第17回 火曜 第9回 文法

Able L20関係詞 L21関係詞

第18回 木曜 第9回 語彙・読解方略

10, How far food travels + Reading Skills Appendix
Unit 10

第19回 火曜 第10回 文法

Able L22関係詞 Further Study関係詞

第20回 木曜 第10回 語彙・速読

10, How far food travels + Unit 10 Speed Reading

第21回 火曜 第11回 文法

Able L23仮定法 L24仮定法

第22回 木曜 第11回 語彙・読解方略

11, Taking 10,000 Steps + Reading Skills Appendix U
nit 11

第23回 火曜 第12回 文法

Able p. 80 C群前置詞 + p. 82接続詞 (A・B・C)

第24回 木曜 第12回 語彙・速読

11, Taking 10,000 Steps + Unit 11 Speed Reading

第25回 火曜 第13回 Review 2

Able L14~復習 + TOEIC形式の文法問題QUIZ

第26回 木曜 第13回 語彙・読解方略

12, Mind Tricks + Reading Skills Appendix Unit 12

第27回 火曜 第14回 Review 3

第28回 木曜 第14回 語彙・速読

12, Mind Tricks + Unit 12 Speed Reading

第29回 火曜 第15回 TOEIC

TOEIC IP (予定)

実施の有無については、教員から指示があります。実施
の場合は表現クラス合同で学生証が必要です。配信メー
ルで教室を確認し 収入印紙等、事前準備をお願いしま
す

第30回 木曜 第14回 期末テスト

Unit 7~12 期末テスト 振返り Feedback

2022年度 後期

2.0単位

英語読解 (E)

林 剛司、Nicholas Musty

<授業の方法>

講義 演習

GC Square上での指示に従ってください (GC Squareをよ
くチェックするようにしてください)

<授業の目的>

この授業ではディプロマポリシーの中でも「1.実践的で
高度な外国語の運用ができる」と「3.言語の基礎にある
多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広
い知識や教養を身に付けることができる」「4.教育現場
で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法
を習得することができる」ことを目的としている。英語
読解力を向上させる為に、基本的な英文法、英語構文、
語彙、慣用表現を学習し、読解方略を効果的に使用して
様々なトピック、ジャンルの英文の精読と多読を行う。

<到達目標>

- ・To learn efficient reading skills.
- ・To build up English vocabulary and expressions as well as knowledge of English grammar.
- ・To improve reading speed in English.

<授業のキーワード>

英語読解方略 英文法 語彙習得

<授業の進め方>

週2回の授業の内、週1回はGCsquareから配信されるリー
ディング教材を使う授業とする。火曜授業は『able Eng
lish Grammar 24Lessons』(第一学習社)を用いた授業
を行う。木曜授業は『CoreNonfiction Reading 1 (Compa
ss Publishing)』を用いた授業を行う。課題や小テスト
については授業中及びGC Squareを通じて指示を出すの
で、GC Squareからのお知らせもこまめにチェックする
こと。

<履修するにあたって>

Students must do preparation for each class. They must take in-class quizzes and submit assignment.

<授業時間外に必要な学修>

毎回、予習、復習に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

<提出課題など>

授業内での指示に従うこと。

<成績評価方法・基準>

火曜日授業50% + 木曜日授業50%

= 計100%

火曜クラスAble 50% :

授業内小テスト・課題25%, 中間・期末テスト(10%×2)
20% TOEIC IP テスト 5%

木曜クラス

授業内小テスト・課題30%, 中間・期末テスト(10%×2)
20%

<テキスト>

火曜日: 『able English Grammar 24Lessons』(第一学習社) 594円(税込) ISBN978-4-8040-1590-3

木曜日: 『Core Nonfiction Reading 1』(Compass Publishing) 3300円(税込) ISBN9781613527405

<授業計画>

第1回 火曜 第1回 オリエンテーション

オリエンテーション Able L14動名詞

第2回 木曜 第1回 オリエンテーション

オリエンテーション 7, Successful People

第3回 火曜 第2回 文法

Able L15動名詞

第4回 木曜 第2回 語彙・読解方略

7, Successful People + Reading Skills Appendix Unit 7

第5回 火曜 第3回 文法

Able L16 分詞

第6回 木曜 第3回 語彙・速読

7, Successful People + Unit 7 Speed Reading

第7回 火曜 第4回 文法

Able L17分詞

第8回 木曜 第4回 語彙・読解方略

8, Humane Zoos + Reading Skills Appendix Unit 8

第9回 火曜 第5回 文法

Able Further Study分詞 L18比較

第10回 木曜 第5回 語彙・速読

8, Humane Zoos + Unit 8 Speed Reading

第11回 火曜 第6回 文法

Able L19比較

第12回 木曜 第6回 語彙・読解方略

9, Liar, Liar + Reading Skills Appendix Unit 9

第13回 火曜 第7回 文法

Able Further Study比較

第14回 木曜 第7回 語彙・速読

9, Liar, Liar + Unit 9 Speed Reading

第15回 火曜 第8回 文法 Review 1

【中間テスト】Able Unit 14~ Further Study 比較
まの復習

第16回 木曜 第8回 Review 1

【中間テスト】

第17回 火曜 第9回 文法

Able L20関係詞 L21関係詞

第18回 木曜 第9回 語彙・読解方略

10, How far food travels + Reading Skills Appendix
Unit 10

第19回 火曜 第10回 文法

Able L22関係詞 Further Study関係詞

第20回 木曜 第10回 語彙・速読

10, How far food travels + Unit 10 Speed Reading

第21回 火曜 第11回 文法

Able L23仮定法 L24仮定法

第22回 木曜 第11回 語彙・読解方略

11, Taking 10,000 Steps + Reading Skills Appendix
Unit 11

第23回 火曜 第12回 文法

Able p. 80 C群前置詞 + p. 82接続詞(A・B・C)

第24回 木曜 第12回 語彙・速読

11, Taking 10,000 Steps + Unit 11 Speed Reading

第25回 火曜 第13回 Review 2

Able L14~復習 + TOEIC形式の文法問題QUIZ

第26回 木曜 第13回 語彙・読解方略

12, Mind Tricks + Reading Skills Appendix Unit 12

第27回 火曜 第14回 Review 3

【期末テスト】L14~の復習 振り返り Feedback

第28回 木曜 第14回 語彙・速読
12, Mind Tricks + Unit 12 Speed Reading

第29回 火曜 第15回 TOEIC
TOEIC IP (予定)

実施の有無については、教員から指示があります。実施の場合は表現クラス合同で学生証が必要です。配信メールで教室を確認し 収入印紙等、事前準備をお願いします

第30回 木曜 第14回 期末テスト

Unit 7~12 期末テスト 振返り Feedback

2022年度 前期

2.0単位

英語読解 (A)

海老原 由貴、ECC

< 授業の方法 >

講義 演習

火曜日授業：対面式授業

木曜日授業：対面式授業

GC Squareをよくチェックするようにしてください。

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」と「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。英語読解力を向上させる為に、基本的な英文法、英語構文、語彙、慣用表現を学習し、読解方略を効果的に使用して様々なトピック、ジャンルの英文の精読と多読を行う。

< 到達目標 >

Students will be able:

- ・To learn efficient reading skills.
- ・To build up English vocabulary and expressions as well as knowledge of English grammar.
- ・To improve reading speed in English.

< 授業の進め方 >

pair work, group work, lecture

< 履修するにあたって >

Students must do preparation for each class. They must take in-class quizzes and submit assignment.

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

授業内での指示にしたがうこと。

< 成績評価方法・基準 >

60% In-class

30% Homework

10% TOEIC IP Test

< テキスト >

火曜日授業：Stephanie Alexander et al., CORE Nonfiction Reading 3 (Compass Publishing, 2015). ISBN:9781613527429

木曜日授業：Stephanie Alexander et al., CORE Nonfiction Reading 2 (Compass Publishing, 2015). ISBN:9781613527412

< 授業計画 >

第1回 Orientation

Orientation

第2回 Orientation

Orientation

第3回 Reading

Unit 1 Main Reading (Strange Love)

第4回 Reading

Unit 1 Main Reading (Green Building: Why Should You Care?)

第5回 Linked Skills Activity

Unit 1 (Strange Love) Discussion and writing

第6回 Linked Skills Activity

Unit 1 (Green Building: Why Should You Care?) Discussion and writing

第7回 Reading

Unit 2 Main Reading (Viral Marketing)

第8回 Reading

Unit 2 Main Reading (Powering the Ring of Fire)

第9回 Linked Skills Activity

Unit 2 (Viral Marketing) Discussion and writing

第10回 Linked Skills Activity

Unit 2 (Powering the Ring of Fire) Discussion and writing

第11回 Reading

Unit 3 Main Reading (How to Succeed in an Interview)

第12回 Reading

Unit 3 Main Reading (Why Use Technology in Class?)

第13回 Linked Skills Activity

Unit 3 (How to Succeed in an Interview) Discussion and writing

第14回 Linked Skills Activity

Unit 3 (Why Use Technology in Class?) Discussion and writing

第15回 Reading

Unit 4 Main Reading (Making Buildings Earthquake-p

roof in Japan)
 第16回 Reading
 Unit 4 Main Reading (Treating Phobias)
 第17回 Linked Skills Activity
 Unit 4 (Making Buildings Earthquake-proof in Japan) Discussion and writing
 第18回 Linked Skills Activity
 Unit 4 (Treating Phobias) Discussion and writing
 第19回 Reading
 Unit 5 Main Reading (The Bodies in the Bog)
 第20回 Reading
 Unit 5 Main Reading (Work Less, Play More)
 第21回 Linked Skills Activity
 Unit 5 (The Bodies in the Bog) Discussion and writing
 第22回 Linked Skills Activity
 Unit 5 (Work Less, Play More) Discussion and writing
 第23回 Reading
 Unit 6 Main Reading (Singapore:A Multicultural Success Story)
 第24回 Reading
 Unit 6 Main Reading (Life on the International Space Station)
 第25回 Linked Skills Activity
 Unit 6 (Singapore:A Multicultural Success Story) Discussion and writing
 第26回 Linked Skills Activity
 Unit 6 (Life on the International Space Station) Discussion and writing
 第27回 Reflection
 Unit1-6 Vocabulary, Grammar
 第28回 Reflection
 Unit1-6 Vocabulary, Grammar

Reading Skill

 2022年度 前期

2.0単位

英語読解 (B)

原 良子、多田 さおり

 < 授業の方法 >

講義 演習

火曜日授業：対面式授業

木曜日授業：対面式授業

GC Squareをよくチェックするようにしてください。

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」と「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。英語読解力を向上させる為に、基本的な英文法、英語構文、語彙、慣用表現を学習し、読解方略を効果的に使用して様々なトピック、ジャンルの英文の精読と多読を行う。

< 到達目標 >

Students will be able:

- ・To learn efficient reading skills.
- ・To build up English vocabulary and expressions as well as knowledge of English grammar.
- ・To improve reading speed in English.

< 授業の進め方 >

pair work, group work, lecture

< 履修するにあたって >

Students must do preparation for each class. They must take in-class quizzes and submit assignment.

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

授業内での指示にしたがうこと。

< 成績評価方法・基準 >

60% In-class

30% Homework

10% TOEIC IP Test

< テキスト >

火曜日授業：Stephanie Alexander et al., CORE Nonfiction Reading 3 (Compass Publishing, 2015). ISBN:9781613527429

木曜日授業：Stephanie Alexander et al., CORE Nonfiction Reading 2 (Compass Publishing, 2015). ISBN:9781613527412

< 授業計画 >

第1回 Orientation

Orientation

第2回 Orientation

Orientation

第3回 Reading

Unit 1 Main Reading (Strange Love)

第4回 Reading

Unit 1 Main Reading (Green Building: Why Should Yo

u Care?)

第5回 Linked Skills Activity

Unit 1 (Strange Love) Discussion and writing

第6回 Linked Skills Activity

Unit 1 (Green Building: Why Should You Care?) Discussion and writing

第7回 Reading

Unit 2 Main Reading (Viral Marketing)

第8回 Reading

Unit 2 Main Reading (Powering the Ring of Fire)

第9回 Linked Skills Activity

Unit 2 (Viral Marketing) Discussion and writing

第10回 Linked Skills Activity

Unit 2 (Powering the Ring of Fire) Discussion and writing

第11回 Reading

Unit 3 Main Reading (How to Succeed in an Interview)

第12回 Reading

Unit 3 Main Reading (Why Use Technology in Class?)

第13回 Linked Skills Activity

Unit 3 (How to Succeed in an Interview) Discussion and writing

第14回 Linked Skills Activity

Unit 3 (Why Use Technology in Class?) Discussion and writing

第15回 Reading

Unit 4 Main Reading (Making Buildings Earthquake-proof in Japan)

第16回 Reading

Unit 4 Main Reading (Treating Phobias)

第17回 Linked Skills Activity

Unit 4 (Making Buildings Earthquake-proof in Japan) Discussion and writing

第18回 Linked Skills Activity

Unit 4 (Treating Phobias) Discussion and writing

第19回 Reading

Unit 5 Main Reading (The Bodies in the Bog)

第20回 Reading

Unit 5 Main Reading (Work Less, Play More)

第21回 Linked Skills Activity

Unit 5 (The Bodies in the Bog) Discussion and writing

第22回 Linked Skills Activity

Unit 5 (Work Less, Play More) Discussion and writing

第23回 Reading

Unit 6 Main Reading (Singapore:A Multicultural Success Story)

第24回 Reading

Unit 6 Main Reading (Life on the International Space Station)

第25回 Linked Skills Activity

Unit 6 (Singapore:A Multicultural Success Story) Discussion and writing

第26回 Linked Skills Activity

Unit 6 (Life on the International Space Station) Discussion and writing

第27回 Reflection

Unit1-6 Vocabulary, Grammar

第28回 Reflection

Unit1-6 Vocabulary, Grammar

第29回 Reflection

Reading Skill

第30回 Reflection

Reading Skill

2022年度 前期

2.0単位

英語読解 (C)

深田 将揮、E C C

< 授業の方法 >

講義 演習

火曜日授業：対面式授業

木曜日授業：対面式授業

GC Squareをよくチェックするようにしてください。

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」と「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。英語読解力を向上させる為に、基本的な英文法、英語構文、語彙、慣用表現を学習し、読解方略を効果的に使用して様々なトピック、ジャンルの英文の精読と多読を行う。

< 到達目標 >

Students will be able:

- ・To learn efficient reading skills.
- ・To build up English vocabulary and expressions as well as knowledge of English grammar.
- ・To improve reading speed in English.

< 授業の進め方 >

pair work, group work, lecture

< 履修するにあたって >

Students must do preparation for each class. They must take in-class quizzes and submit assignment.

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

授業内での指示にしたがうこと。

< 成績評価方法・基準 >

60% In-class

30% Homework

10% TOEIC IP Test

< テキスト >

火曜日授業：Stephanie Alexander et al., CORE Nonfiction Reading 3 (Compass Publishing,

2015). ISBN:9781613527429

木曜日授業：Stephanie Alexander et al., CORE Nonfiction Reading 2 (Compass Publishing,

2015). ISBN:9781613527412

< 授業計画 >

第1回 Orientation

Orientation

第2回 Orientation

Orientation

第3回 Reading

Unit 1 Main Reading (Strange Love)

第4回 Reading

Unit 1 Main Reading (Green Building: Why Should You Care?)

第5回 Linked Skills Activity

Unit 1 (Strange Love) Discussion and writing

第6回 Linked Skills Activity

Unit 1 (Green Building: Why Should You Care?) Discussion and writing

第7回 Reading

Unit 2 Main Reading (Viral Marketing)

第8回 Reading

Unit 2 Main Reading (Powering the Ring of Fire)

第9回 Linked Skills Activity

Unit 2 (Viral Marketing) Discussion and writing

第10回 Linked Skills Activity

Unit 2 (Powering the Ring of Fire) Discussion and writing

第11回 Reading

Unit 3 Main Reading (How to Succeed in an Interview)

第12回 Reading

Unit 3 Main Reading (Why Use Technology in Class?)

第13回 Linked Skills Activity

Unit 3 (How to Succeed in an Interview) Discussion

and writing

第14回 Linked Skills Activity

Unit 3 (Why Use Technology in Class?) Discussion and writing

第15回 Reading

Unit 4 Main Reading (Making Buildings Earthquake-proof in Japan)

第16回 Reading

Unit 4 Main Reading (Treating Phobias)

第17回 Linked Skills Activity

Unit 4 (Making Buildings Earthquake-proof in Japan) Discussion and writing

第18回 Linked Skills Activity

Unit 4 (Treating Phobias) Discussion and writing

第19回 Reading

Unit 5 Main Reading (The Bodies in the Bog)

第20回 Reading

Unit 5 Main Reading (Work Less, Play More)

第21回 Linked Skills Activity

Unit 5 (The Bodies in the Bog) Discussion and writing

第22回 Linked Skills Activity

Unit 5 (Work Less, Play More) Discussion and writing

第23回 Reading

Unit 6 Main Reading (Singapore: A Multicultural Success Story)

第24回 Reading

Unit 6 Main Reading (Life on the International Space Station)

第25回 Linked Skills Activity

Unit 6 (Singapore: A Multicultural Success Story) Discussion and writing

第26回 Linked Skills Activity

Unit 6 (Life on the International Space Station) Discussion and writing

第27回 Reflection

Unit 1-6 Vocabulary, Grammar

第28回 Reflection

Unit 1-6 Vocabulary, Grammar

第29回 Reflection

Reading Skill

第30回 Reflection

Reading Skill

 2022年度 前期
 2.0単位
 英語読解 (D)
 多田 さおり、ECC

< 授業の方法 >

講義 演習

火曜日授業：対面式授業

木曜日授業：対面式授業

GC Squareをよくチェックするようにしてください。

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」と「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。英語読解力を向上させる為に、基本的な英文法、英語構文、語彙、慣用表現を学習し、読解方略を効果的に使用して様々なトピック、ジャンルの英文の精読と多読を行う。

< 到達目標 >

Students will be able:

- ・To learn efficient reading skills.
- ・To build up English vocabulary and expressions as well as knowledge of English grammar.
- ・To improve reading speed in English.

< 授業の進め方 >

pair work, group work, lecture

< 履修するにあたって >

Students must do preparation for each class. They must take in-class quizzes and submit assignment.

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

授業内での指示にしたがうこと。

< 成績評価方法・基準 >

60% In-class

30% Homework

10% TOEIC IP Test

< テキスト >

火曜日授業：Stephanie Alexander et al., CORE Nonfiction Reading 3 (Compass Publishing, 2015). ISBN:9781613527429

木曜日授業：Stephanie Alexander et al., CORE Nonfiction Reading 2 (Compass Publishing,

< 授業計画 >

第1回 Orientation

Orientation

第2回 Orientation

Orientation

第3回 Reading

Unit 1 Main Reading (Strange Love)

第4回 Reading

Unit 1 Main Reading (Green Building: Why Should You Care?)

第5回 Linked Skills Activity

Unit 1 (Strange Love) Discussion and writing

第6回 Linked Skills Activity

Unit 1 (Green Building: Why Should You Care?) Discussion and writing

第7回 Reading

Unit 2 Main Reading (Viral Marketing)

第8回 Reading

Unit 2 Main Reading (Powering the Ring of Fire)

第9回 Linked Skills Activity

Unit 2 (Viral Marketing) Discussion and writing

第10回 Linked Skills Activity

Unit 2 (Powering the Ring of Fire) Discussion and writing

第11回 Reading

Unit 3 Main Reading (How to Succeed in an Interview)

第12回 Reading

Unit 3 Main Reading (Why Use Technology in Class?)

第13回 Linked Skills Activity

Unit 3 (How to Succeed in an Interview) Discussion and writing

第14回 Linked Skills Activity

Unit 3 (Why Use Technology in Class?) Discussion and writing

第15回 Reading

Unit 4 Main Reading (Making Buildings Earthquake-proof in Japan)

第16回 Reading

Unit 4 Main Reading (Treating Phobias)

第17回 Linked Skills Activity

Unit 4 (Making Buildings Earthquake-proof in Japan) Discussion and writing

第18回 Linked Skills Activity

Unit 4 (Treating Phobias) Discussion and writing

第19回 Reading

Unit 5 Main Reading (The Bodies in the Bog)

第20回 Reading

Unit 5 Main Reading (Work Less, Play More)

第21回 Linked Skills Activity
Unit 5 (The Bodies in the Bog) Discussion and writing

第22回 Linked Skills Activity
Unit 5 (Work Less, Play More) Discussion and writing

第23回 Reading
Unit 6 Main Reading (Singapore:A Multicultural Success Story)

第24回 Reading
Unit 6 Main Reading (Life on the International Space Station)

第25回 Linked Skills Activity
Unit 6 (Singapore:A Multicultural Success Story) Discussion and writing

第26回 Linked Skills Activity
Unit 6 (Life on the International Space Station) Discussion and writing

第27回 Reflection
Unit1-6 Vocabulary, Grammar

第28回 Reflection
Unit1-6 Vocabulary, Grammar

第29回 Reflection
Reading Skill

第30回 Reflection
Reading Skill

Reading Skill

2022年度 前期

2.0単位

英語読解 (E)

原 良子、ECC

< 授業の方法 >

講義 演習

火曜日授業：対面式授業

木曜日授業：対面式授業

GC Squareをよくチェックするようにしてください。

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」と「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。英語読解力を向上させる為に、基本的な英文法、英語構文、語彙、慣用表現を学習し、読解方略を効果的に使用して様々なトピック、ジャンルの英文の精読と多読を行う。

< 到達目標 >

Students will be able:

- ・To learn efficient reading skills.
- ・To build up English vocabulary and expressions as well as knowledge of English grammar.
- ・To improve reading speed in English.

< 授業の進め方 >

pair work, group work, lecture

< 履修するにあたって >

Students must do preparation for each class. They must take in-class quizzes and submit assignment.

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

授業内での指示にしたがうこと。

< 成績評価方法・基準 >

60% In-class

30% Homework

10% TOEIC IP Test

< テキスト >

火曜日授業：Stephanie Alexander et al., CORE Nonfiction Reading 3 (Compass Publishing, 2015). ISBN:9781613527429

木曜日授業：Stephanie Alexander et al., CORE Nonfiction Reading 2 (Compass Publishing, 2015). ISBN:9781613527412

< 授業計画 >

第1回 Orientation

Orientation

第2回 Orientation

Orientation

第3回 Reading

Unit 1 Main Reading (Strange Love)

第4回 Reading

Unit 1 Main Reading (Green Building: Why Should You Care?)

第5回 Linked Skills Activity

Unit 1 (Strange Love) Discussion and writing

第6回 Linked Skills Activity

Unit 1 (Green Building: Why Should You Care?) Discussion and writing

第7回 Reading

Unit 2 Main Reading (Viral Marketing)

第8回 Reading

Unit 2 Main Reading (Powering the Ring of Fire)

第9回 Linked Skills Activity

Unit 2 (Viral Marketing) Discussion and writing

第10回 Linked Skills Activity
Unit 2 (Powering the Ring of Fire) Discussion and writing
第11回 Reading
Unit 3 Main Reading (How to Succeed in an Interview)
第12回 Reading
Unit 3 Main Reading (Why Use Technology in Class?)
第13回 Linked Skills Activity
Unit 3 (How to Succeed in an Interview) Discussion and writing
第14回 Linked Skills Activity
Unit 3 (Why Use Technology in Class?) Discussion and writing
第15回 Reading
Unit 4 Main Reading (Making Buildings Earthquake-proof in Japan)
第16回 Reading
Unit 4 Main Reading (Treating Phobias)
第17回 Linked Skills Activity
Unit 4 (Making Buildings Earthquake-proof in Japan) Discussion and writing
第18回 Linked Skills Activity
Unit 4 (Treating Phobias) Discussion and writing
第19回 Reading
Unit 5 Main Reading (The Bodies in the Bog)
第20回 Reading
Unit 5 Main Reading (Work Less, Play More)
第21回 Linked Skills Activity
Unit 5 (The Bodies in the Bog) Discussion and writing
第22回 Linked Skills Activity
Unit 5 (Work Less, Play More) Discussion and writing
第23回 Reading
Unit 6 Main Reading (Singapore:A Multicultural Success Story)
第24回 Reading
Unit 6 Main Reading (Life on the International Space Station)
第25回 Linked Skills Activity
Unit 6 (Singapore:A Multicultural Success Story) Discussion and writing
第26回 Linked Skills Activity
Unit 6 (Life on the International Space Station) Discussion and writing
第27回 Reflection
Unit1-6 Vocabulary, Grammar
第28回 Reflection

Unit1-6 Vocabulary, Grammar

第29回 Reflection

Reading Skill

第30回 Reflection

Reading Skill

2022年度 後期

2.0単位

英語読解 (A)

海老原 由貴、E C C

<授業の方法>

講義 演習

火曜日授業：対面式授業

木曜日授業：対面式授業

GC Squareをよくチェックするようにしてください。

<授業の目的>

この授業ではディプロマポリシーの中でも「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」と「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。英語読解力を向上させる為に、基本的な英文法、英語構文、語彙、慣用表現を学習し、読解方略を効果的に使用して様々なトピック、ジャンルの英文の精読と多読を行う。

<到達目標>

Students will be able:

- ・To learn efficient reading skills.
- ・To build up English vocabulary and expressions as well as knowledge of English grammar.
- ・To improve reading speed in English.

<授業の進め方>

pair work, group work, lecture

<履修するにあたって>

Students must do preparation for each class. They must take in-class quizzes and submit assignment.

<授業時間外に必要な学修>

毎回、予習に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

<提出課題など>

授業内での指示にしたがうこと。

<成績評価方法・基準>

60% In-class quizzes

30% Homework

10% TOEIC IP Test

<テキスト>

火曜日授業 : Stephanie Alexander et al., CORE Nonfiction Reading 3 (Compass Publishing, 2015). ISBN:9781613527429

木曜日授業 : Stephanie Alexander et al., CORE Nonfiction Reading 2 (Compass Publishing, 2015). ISBN:9781613527412

価格 : 3300円 (税込)

< 授業計画 >

第1回 Orientation
Orientation
第2回 Orientation
Orientation
第3回 Reading
Unit 7 Main Reading (Not the Best Guest)
第4回 Reading
Unit 7 Main Reading (From Empire Dresses to Hoop Skirts)
第5回 Linked Skills Activity
Unit 7 (Not the Best Guest) Discussion and writing
第6回 Linked Skills Activity
Unit 7 (From Empire Dresses to Hoop Skirts) Discussion and writing
第7回 Reading
Unit 8 Main Reading (Beneath the Surface of the Deep Blue Sea)
第8回 Reading
Unit 8 Main Reading (The Garbage Island)
第9回 Linked Skills Activity
Unit 8 (Beneath the Surface of the Deep Blue Sea) Discussion and writing
第10回 Linked Skills Activity
Unit 8 (The Garbage Island) Discussion and writing
第11回 Reading
Unit 9 Main Reading (Could Computers Ever Think?)
第12回 Reading
Unit 9 Main Reading (Why Do We Need Bees?)
第13回 Linked Skills Activity
Unit 9 (Could Computers Ever Think?) Discussion and writing
第14回 Linked Skills Activity
Unit 9 (Why Do We Need Bees?) Discussion and writing
第15回 Reading
Unit 10 Main Reading (Esperanto)
第16回 Reading
Unit 10 Main Reading (Climbing Everest)
第17回 Linked Skills Activity
Unit 10 (Esperanto) Discussion and writing
第18回 Linked Skills Activity

Unit 10 (Climbing Everest) Discussion and writing
第19回 Reading
Unit 11 Main Reading (The Mysterious Northern Lights)
第20回 Reading
Unit 11 Main Reading (What Will You Do When You Graduate?)
第21回 Linked Skills Activity
Unit 11 (The Mysterious Northern Lights) Discussion and writing
第22回 Linked Skills Activity
Unit 11 (What Will You Do When You Graduate?) Discussion and writing
第23回 Reading
Unit 12 Main Reading (What Brain Injuries Teach Us About Memory)
第24回 Reading
Unit 12 Main Reading (Culture and Personal Space)
第25回 Linked Skills Activity
Unit 12 (What Brain Injuries Teach Us About Memory) Discussion and writing
第26回 Linked Skills Activity
Unit 12 (Culture and Personal Space) Discussion and writing
第27回 Reflection
Unit7-12 Vocabulary, Grammar
第28回 Reflection
Unit7-12 Vocabulary, Grammar
第29回 Reflection
Reading Skill
第30回 Reflection

Reading Skill

2022年度 後期

2.0単位

英語読解 (B)

原 良子、多田 さおり

< 授業の方法 >

講義 演習

火曜日授業 : 対面式授業

木曜日授業 : 対面式授業

GC Squareをよくチェックするようにしてください。

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」と「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」「4.教育現場

で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。英語読解力を向上させる為に、基本的な英文法、英語構文、語彙、慣用表現を学習し、読解方略を効果的に使用して様々なトピック、ジャンルの英文の精読と多読を行う。

<到達目標>

Students will be able:

- ・To learn efficient reading skills.
- ・To build up English vocabulary and expressions as well as knowledge of English grammar.
- ・To improve reading speed in English.

<授業の進め方>

pair work, group work, lecture

<履修するにあたって>

Students must do preparation for each class. They must take in-class quizzes and submit assignment.

<授業時間外に必要な学修>

毎回、予習に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

<提出課題など>

授業内での指示にしたがうこと。

<成績評価方法・基準>

60% In-class quizzes

30% Homework

10% TOEIC IP Test

<テキスト>

火曜日授業: Stephanie Alexander et al., CORE Nonfiction Reading 3 (Compass Publishing, 2015). ISBN:9781613527429

木曜日授業: Stephanie Alexander et al., CORE Nonfiction Reading 2 (Compass Publishing, 2015). ISBN:9781613527412

価格: 3300円 (税込)

<授業計画>

第1回 Orientation

Orientation

第2回 Orientation

Orientation

第3回 Reading

Unit 7 Main Reading (Not the Best Guest)

第4回 Reading

Unit 7 Main Reading (From Empire Dresses to Hoop Skirts)

第5回 Linked Skills Activity

Unit 7 (Not the Best Guest) Discussion and writing

第6回 Linked Skills Activity

Unit 7 (From Empire Dresses to Hoop Skirts) Discu

ssion and writing

第7回 Reading

Unit 8 Main Reading (Beneath the Surface of the Deep Blue Sea)

第8回 Reading

Unit 8 Main Reading (The Garbage Island)

第9回 Linked Skills Activity

Unit 8 (Beneath the Surface of the Deep Blue Sea)

Discussion and writing

第10回 Linked Skills Activity

Unit 8 (The Garbage Island) Discussion and writing

第11回 Reading

Unit 9 Main Reading (Could Computers Ever Think?)

第12回 Reading

Unit 9 Main Reading (Why Do We Need Bees?)

第13回 Linked Skills Activity

Unit 9 (Could Computers Ever Think?) Discussion and writing

第14回 Linked Skills Activity

Unit 9 (Why Do We Need Bees?) Discussion and writing

第15回 Reading

Unit 10 Main Reading (Esperanto)

第16回 Reading

Unit 10 Main Reading (Climbing Everest)

第17回 Linked Skills Activity

Unit 10 (Esperanto) Discussion and writing

第18回 Linked Skills Activity

Unit 10 (Climbing Everest) Discussion and writing

第19回 Reading

Unit 11 Main Reading (The Mysterious Northern Lights)

第20回 Reading

Unit 11 Main Reading (What Will You Do When You Graduate?)

第21回 Linked Skills Activity

Unit 11 (The Mysterious Northern Lights) Discussion and writing

第22回 Linked Skills Activity

Unit 11 (What Will You Do When You Graduate?) Discussion and writing

第23回 Reading

Unit 12 Main Reading (What Brain Injuries Teach Us About Memory)

第24回 Reading

Unit 12 Main Reading (Culture and Personal Space)

第25回 Linked Skills Activity

Unit 12 (What Brain Injuries Teach Us About Memory) Discussion and writing

第26回 Linked Skills Activity

Unit 12 (Culture and Personal Space) Discussion and writing

第27回 Reflection

Unit7-12 Vocabulary, Grammar

第28回 Reflection

Unit7-12 Vocabulary, Grammar

第29回 Reflection

Reading Skill

第30回 Reflection

Reading Skill

2022年度 後期

2.0単位

英語読解 (C)

森下 美和、ECC

< 授業の方法 >

講義 演習

火曜日授業：対面式授業

木曜日授業：対面式授業

GC Squareをよくチェックするようにしてください。

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」と「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。英語読解力を向上させる為に、基本的な英文法、英語構文、語彙、慣用表現を学習し、読解方略を効果的に使用して様々なトピック、ジャンルの英文の精読と多読を行う。

< 到達目標 >

Students will be able:

- ・To learn efficient reading skills.
- ・To build up English vocabulary and expressions as well as knowledge of English grammar.
- ・To improve reading speed in English.

< 授業の進め方 >

pair work, group work, lecture

< 履修するにあたって >

Students must do preparation for each class. They must take in-class quizzes and submit assignment.

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

授業内での指示にしたがうこと。

< 成績評価方法・基準 >

60% In-class quizzes

30% Homework

10% TOEIC IP Test

< テキスト >

火曜日授業：Stephanie Alexander et al., CORE Nonfiction Reading 3 (Compass Publishing, 2015). ISBN:9781613527429

木曜日授業：Stephanie Alexander et al., CORE Nonfiction Reading 2 (Compass Publishing, 2015). ISBN:9781613527412

価格：3300円（税込）

< 授業計画 >

第1回 Orientation

Orientation

第2回 Orientation

Orientation

第3回 Reading

Unit 7 Main Reading (Not the Best Guest)

第4回 Reading

Unit 7 Main Reading (From Empire Dresses to Hoop Skirts)

第5回 Linked Skills Activity

Unit 7 (Not the Best Guest) Discussion and writing

第6回 Linked Skills Activity

Unit 7 (From Empire Dresses to Hoop Skirts) Discussion and writing

第7回 Reading

Unit 8 Main Reading (Beneath the Surface of the Deep Blue Sea)

第8回 Reading

Unit 8 Main Reading (The Garbage Island)

第9回 Linked Skills Activity

Unit 8 (Beneath the Surface of the Deep Blue Sea) Discussion and writing

第10回 Linked Skills Activity

Unit 8 (The Garbage Island) Discussion and writing

第11回 Reading

Unit 9 Main Reading (Could Computers Ever Think?)

第12回 Reading

Unit 9 Main Reading (Why Do We Need Bees?)

第13回 Linked Skills Activity

Unit 9 (Could Computers Ever Think?) Discussion and writing

第14回 Linked Skills Activity

Unit 9 (Why Do We Need Bees?) Discussion and writing

第15回 Reading

Unit 10 Main Reading (Esperanto)
 第16回 Reading
 Unit 10 Main Reading (Climbing Everest)
 第17回 Linked Skills Activity
 Unit 10 (Esperanto) Discussion and writing
 第18回 Linked Skills Activity
 Unit 10 (Climbing Everest) Discussion and writing
 第19回 Reading
 Unit 11 Main Reading (The Mysterious Northern Lights)
 第20回 Reading
 Unit 11 Main Reading (What Will You Do When You Graduate?)
 第21回 Linked Skills Activity
 Unit 11 (The Mysterious Northern Lights) Discussion and writing
 第22回 Linked Skills Activity
 Unit 11 (What Will You Do When You Graduate?) Discussion and writing
 第23回 Reading
 Unit 12 Main Reading (What Brain Injuries Teach Us About Memory)
 第24回 Reading
 Unit 12 Main Reading (Culture and Personal Space)
 第25回 Linked Skills Activity
 Unit 12 (What Brain Injuries Teach Us About Memory) Discussion and writing
 第26回 Linked Skills Activity
 Unit 12 (Culture and Personal Space) Discussion and writing
 第27回 Reflection
 Unit7-12 Vocabulary, Grammar
 第28回 Reflection

Unit7-12 Vocabulary, Grammar
 第29回 Reflection
 Reading Skill
 第30回 Reflection

Reading Skill

 2022年度 後期
 2.0単位
 英語読解 (D)
 多田 さおり、ECC

< 授業の方法 >
 講義 演習
 火曜日授業：対面式授業
 木曜日授業：対面式授業

GC Squareをよくチェックするようにしてください。

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」と「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。英語読解力を向上させる為に、基本的な英文法、英語構文、語彙、慣用表現を学習し、読解方略を効果的に使用して様々なトピック、ジャンルの英文の精読と多読を行う。

< 到達目標 >

Students will be able:

- ・To learn efficient reading skills.
- ・To build up English vocabulary and expressions as well as knowledge of English grammar.
- ・To improve reading speed in English.

< 授業の進め方 >

pair work, group work, lecture

< 履修するにあたって >

Students must do preparation for each class. They must take in-class quizzes and submit assignment.

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

授業内での指示にしたがうこと。

< 成績評価方法・基準 >

60% In-class quizzes

30% Homework

10% TOEIC IP Test

< テキスト >

火曜日授業：Stephanie Alexander et al., CORE Nonfiction Reading 3 (Compass Publishing, 2015). ISBN:9781613527429

木曜日授業：Stephanie Alexander et al., CORE Nonfiction Reading 2 (Compass Publishing, 2015). ISBN:9781613527412

価格：3300円（税込）

< 授業計画 >

第1回 Orientation

Orientation

第2回 Orientation

Orientation

第3回 Reading

Unit 7 Main Reading (Not the Best Guest)

第4回 Reading

Unit 7 Main Reading (From Empire Dresses to Hoop Skirts)
 第5回 Linked Skills Activity
 Unit 7 (Not the Best Guest) Discussion and writing
 第6回 Linked Skills Activity
 Unit 7 (From Empire Dresses to Hoop Skirts) Discussion and writing
 第7回 Reading
 Unit 8 Main Reading (Beneath the Surface of the Deep Blue Sea)
 第8回 Reading
 Unit 8 Main Reading (The Garbage Island)
 第9回 Linked Skills Activity
 Unit 8 (Beneath the Surface of the Deep Blue Sea) Discussion and writing
 第10回 Linked Skills Activity
 Unit 8 (The Garbage Island) Discussion and writing
 第11回 Reading
 Unit 9 Main Reading (Could Computers Ever Think?)
 第12回 Reading
 Unit 9 Main Reading (Why Do We Need Bees?)
 第13回 Linked Skills Activity
 Unit 9 (Could Computers Ever Think?) Discussion and writing
 第14回 Linked Skills Activity
 Unit 9 (Why Do We Need Bees?) Discussion and writing
 第15回 Reading
 Unit 10 Main Reading (Esperanto)
 第16回 Reading
 Unit 10 Main Reading (Climbing Everest)
 第17回 Linked Skills Activity
 Unit 10 (Esperanto) Discussion and writing
 第18回 Linked Skills Activity
 Unit 10 (Climbing Everest) Discussion and writing
 第19回 Reading
 Unit 11 Main Reading (The Mysterious Northern Lights)
 第20回 Reading
 Unit 11 Main Reading (What Will You Do When You Graduate?)
 第21回 Linked Skills Activity
 Unit 11 (The Mysterious Northern Lights) Discussion and writing
 第22回 Linked Skills Activity
 Unit 11 (What Will You Do When You Graduate?) Discussion and writing
 第23回 Reading
 Unit 12 Main Reading (What Brain Injuries Teach Us About Memory)

第24回 Reading
 Unit 12 Main Reading (Culture and Personal Space)
 第25回 Linked Skills Activity
 Unit 12 (What Brain Injuries Teach Us About Memory) Discussion and writing
 第26回 Linked Skills Activity
 Unit 12 (Culture and Personal Space) Discussion and writing
 第27回 Reflection
 Unit7-12 Vocabulary, Grammar
 第28回 Reflection
 Unit7-12 Vocabulary, Grammar
 第29回 Reflection
 Reading Skill
 第30回 Reflection

Reading Skill

 2022年度 後期

2.0単位

英語読解 (E)

原 良子、ECC

 < 授業の方法 >

講義 演習

火曜日授業：対面式授業

木曜日授業：対面式授業

GC Squareをよくチェックするようにしてください。

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」と「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。英語読解力を向上させる為に、基本的な英文法、英語構文、語彙、慣用表現を学習し、読解方略を効果的に使用して様々なトピック、ジャンルの英文の精読と多読を行う。

< 到達目標 >

Students will be able:

- To learn efficient reading skills.
- To build up English vocabulary and expressions as well as knowledge of English grammar.
- To improve reading speed in English.

< 授業の進め方 >

pair work, group work, lecture

< 履修するにあたって >

Students must do preparation for each class. They must take in-class quizzes and submit assignment.

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

授業内での指示にしたがうこと。

< 成績評価方法・基準 >

60% In-class quizzes

30% Homework

10% TOEIC IP Test

< テキスト >

火曜日授業 : Stephanie Alexander et al., CORE Nonfiction Reading 3 (Compass Publishing, 2015). ISBN:9781613527429

木曜日授業 : Stephanie Alexander et al., CORE Nonfiction Reading 2 (Compass Publishing, 2015). ISBN:9781613527412

価格 : 3300円 (税込)

< 授業計画 >

第1回 Orientation

Orientation

第2回 Orientation

Orientation

第3回 Reading

Unit 7 Main Reading (Not the Best Guest)

第4回 Reading

Unit 7 Main Reading (From Empire Dresses to Hoop Skirts)

第5回 Linked Skills Activity

Unit 7 (Not the Best Guest) Discussion and writing

第6回 Linked Skills Activity

Unit 7 (From Empire Dresses to Hoop Skirts) Discussion and writing

第7回 Reading

Unit 8 Main Reading (Beneath the Surface of the Deep Blue Sea)

第8回 Reading

Unit 8 Main Reading (The Garbage Island)

第9回 Linked Skills Activity

Unit 8 (Beneath the Surface of the Deep Blue Sea) Discussion and writing

第10回 Linked Skills Activity

Unit 8 (The Garbage Island) Discussion and writing

第11回 Reading

Unit 9 Main Reading (Could Computers Ever Think?)

第12回 Reading

Unit 9 Main Reading (Why Do We Need Bees?)

第13回 Linked Skills Activity

Unit 9 (Could Computers Ever Think?) Discussion and writing

第14回 Linked Skills Activity

Unit 9 (Why Do We Need Bees?) Discussion and writing

第15回 Reading

Unit 10 Main Reading (Esperanto)

第16回 Reading

Unit 10 Main Reading (Climbing Everest)

第17回 Linked Skills Activity

Unit 10 (Esperanto) Discussion and writing

第18回 Linked Skills Activity

Unit 10 (Climbing Everest) Discussion and writing

第19回 Reading

Unit 11 Main Reading (The Mysterious Northern Lights)

第20回 Reading

Unit 11 Main Reading (What Will You Do When You Graduate?)

第21回 Linked Skills Activity

Unit 11 (The Mysterious Northern Lights) Discussion and writing

第22回 Linked Skills Activity

Unit 11 (What Will You Do When You Graduate?) Discussion and writing

第23回 Reading

Unit 12 Main Reading (What Brain Injuries Teach Us About Memory)

第24回 Reading

Unit 12 Main Reading (Culture and Personal Space)

第25回 Linked Skills Activity

Unit 12 (What Brain Injuries Teach Us About Memory) Discussion and writing

第26回 Linked Skills Activity

Unit 12 (Culture and Personal Space) Discussion and writing

第27回 Reflection

Unit7-12 Vocabulary, Grammar

第28回 Reflection

Unit7-12 Vocabulary, Grammar

第29回 Reflection

Reading Skill

第30回 Reflection

Reading Skill

2022年度 前期

2.0単位

英語表現 (A)

Nicholas Musty, Van Antwerpen, Donald Patrick

< 授業の方法 >

「演習」

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができることを目的としている。 In this course, basic writing skills and understanding of grammar will be improved. Essays will give practice in writing on a variety of themes. Since the class will be conducted in English, the ability to understand basic instructions and guidance given in English will be improved.

< 到達目標 >

To be able to

- (1) produce a 250 word essay
- (2) create a coherent essay
- (3) write about various topics
- (4) use proper word order
- (5) use appropriate vocabulary
- (6) produce a logical essay

< 授業のキーワード >

essay, grammar, writing

< 授業の進め方 >

The class will meet twice each week. Lessons will be aimed at improving writing skills. In addition, students are expected to write six essays. After receiving feedback on the first draft of each essay, students are required to make improvements and submit a second draft.

< 履修するにあたって >

Attendance and active participation in each class is mandatory. Students are expected to use only English in the classroom.

< 授業時間外に必要な学修 >

Students will write one essay each unit. Two drafts should be submitted for each essay, and students will be required to make improvements to their essays before re-submitting. Students will be responsible for all homework assignments in addition to work in class. Students should expect to spend approximately 60 minutes each week to complete this work.

ork.

< 提出課題など >

Online assignments must be submitted by the due date. Any questions should be directed to the course instructor.

< 成績評価方法・基準 >

40% for 6 essays; 40% for forum chats conducted in class; 20% for participation. Essays will be assessed according to essay structure, spelling mistakes, grammar errors, vocabulary, transitional phrases, and passive voice. Forum chats will be assessed according to the number of posts made and words written. Participation will be assessed according to the submission of "Forum chat Set-up and Review" (Friday), and "Writing Assignment Planning", and self-checks (Tuesday).

< テキスト >

Get It Down: You Can Write in English, Neil Cowie, Keiko Sakui, 2008, Cengage Learning, ISBN 978-4-86312-104-1 2000円 (税抜)

< 授業計画 >

第1回 Orientation

Orientation

第2回 Orientation

Orientation

第3回 College life (1)

Unit 1 What is a sentence?

第4回 College life (2)

Assignment 1 Draft 1

"Get It Down" Pages 8-11

第5回 College life (3)

College life forum chat

第6回 TOEIC

TOEIC

第7回 Understanding copyright (1)

Unit 2 APA (1): Making a references page

第8回 Understanding copyright (2)

Assignment writing

第9回 Understanding copyright (3)

Assignment 2 Draft 1

"Get It Down" Pages 14-16

第10回 Understanding copyright (4)

Understanding copyright forum chat

第11回 Understanding copyright (5)

Assignment 2 Draft 2

"Get It Down" Pages 17-20

第12回 My future (1)

Unit 3 APA (2): In-text citations

第13回 My future (2)

Assignment 3 Draft 1
"Get It Down" Pages 21-23
第14回 My future (3)
My future forum chat
第15回 My future (4)
Assignment 3 Draft 2
"Get It Down" Pages 23-26
第16回 Foreign encounters (1)
Unit 4 Descriptive essay
第17回 Foreign encounters (2)
Assignment 4 Draft 1
"Get It Down" Pages 27-30
第18回 Foreign encounters (3)
Foreign encounters forum chat
第19回 Foreign encounters (4)
Assignment 4 Draft 2
"Get It Down" Pages 30-33
第20回 Cyber bullying (1)
Unit 5 Formal vs. Informal Writing
第21回 Cyber bullying (2)
Assignment 5 Draft 1
"Get It Down" Pages 34-36
第22回 Cyber bullying (3)
Cyber bullying forum chat
第23回 Cyber bullying (4)
Assignment 5 Draft 2
"Get It Down" Pages 37-38
第24回 Tourism (1)
Unit 6 Different types of transitions you can use
第25回 Tourism (2)
Assignment 6 Draft 1
"Get It Down" Pages 39-40
第26回 Tourism (3)
Tourism forum chat
第27回 Tourism (4)
Assignment 6 Draft 2
"Get It Down" Pages 41-43
第28回 Reflection
Reflection
第29回 Reflection
Reflection
第30回 Reflection
Reflection

2022年度 前期

2.0単位

英語表現 (B)

Van Antwerpen, Donald Patrick, Petit Marc

< 授業の方法 >

「演習」

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができることを目的としている。 In this course, basic writing skills and understanding of grammar will be improved. Essays will give practice in writing on a variety of themes. Since the class will be conducted in English, the ability to understand basic instructions and guidance given in English will be improved.

< 到達目標 >

To be able to

- (1) produce a 250 word essay
- (2) create a coherent essay
- (3) write about various topics
- (4) use proper word order
- (5) use appropriate vocabulary
- (6) produce a logical essay

< 授業のキーワード >

essay, grammar, writing

< 授業の進め方 >

The class will meet twice each week. Lessons will be aimed at improving writing skills. In addition, students are expected to write six essays. After receiving feedback on the first draft of each essay, students are required to make improvements and submit a second draft.

< 履修するにあたって >

Attendance and active participation in each class is mandatory. Students are expected to use only English in the classroom.

< 授業時間外に必要な学修 >

Students will write one essay each unit. Two drafts should be submitted for each essay, and students will be required to make improvements to their essays before re-submitting. Students will be responsible for all homework assignments in addition to work in class. Students should expect to spend approximately 60 minutes each week to complete this work.

< 提出課題など >

Online assignments must be submitted by the due date. Any questions should be directed to the course instructor.

< 成績評価方法・基準 >

40% for 6 essays; 40% for forum chats conducted in

class; 20% for participation. Essays will be assessed according to essay structure, spelling mistakes, grammar errors, vocabulary, transitional phrases, and passive voice. Forum chats will be assessed according to the number of posts made and words written. Participation will be assessed according to the submission of "Forum chat Set-up and Review" (Friday), and "Writing Assignment Planning", and self-checks (Tuesday).

<テキスト>

Get It Down: You Can Write in English, Neil Cowie, Keiko Sakui, 2008, Cengage Learning, ISBN 978-4-86312-104-1 2000円 (税抜)

<授業計画>

第1回 Orientation

Orientation

第2回 Orientation

Orientation

第3回 College life (1)

Unit 1 What is a sentence?

第4回 College life (2)

Assignment 1 Draft 1

"Get It Down" Pages 8-11

第5回 College life (3)

College life forum chat

第6回 TOEIC

TOEIC

第7回 Understanding copyright (1)

Unit 2 APA (1): Making a references page

第8回 Understanding copyright (2)

Assignment writing

第9回 Understanding copyright (3)

Assignment 2 Draft 1

"Get It Down" Pages 14-16

第10回 Understanding copyright (4)

Understanding copyright forum chat

第11回 Understanding copyright (5)

Assignment 2 Draft 2

"Get It Down" Pages 17-20

第12回 My future (1)

Unit 3 APA (2): In-text citations

第13回 My future (2)

Assignment 3 Draft 1

"Get It Down" Pages 21-23

第14回 My future (3)

My future forum chat

第15回 My future (4)

Assignment 3 Draft 2

"Get It Down" Pages 23-26

第16回 Foreign encounters (1)

Unit 4 Descriptive essay

第17回 Foreign encounters (2)

Assignment 4 Draft 1

"Get It Down" Pages 27-30

第18回 Foreign encounters (3)

Foreign encounters forum chat

第19回 Foreign encounters (4)

Assignment 4 Draft 2

"Get It Down" Pages 30-33

第20回 Cyber bullying (1)

Unit 5 Formal vs. Informal Writing

第21回 Cyber bullying (2)

Assignment 5 Draft 1

"Get It Down" Pages 34-36

第22回 Cyber bullying (3)

Cyber bullying forum chat

第23回 Cyber bullying (4)

Assignment 5 Draft 2

"Get It Down" Pages 37-38

第24回 Tourism (1)

Unit 6 Different types of transitions you can use

第25回 Tourism (2)

Assignment 6 Draft 1

"Get It Down" Pages 39-40

第26回 Tourism (3)

Tourism forum chat

第27回 Tourism (4)

Assignment 6 Draft 2

"Get It Down" Pages 41-43

第28回 Reflection

Reflection

第29回 Reflection

Reflection

第30回 Reflection

Reflection

2022年度 前期

2.0単位

英語表現 (C)

Nicholas Musty, Petit Marc

<授業の方法>

「演習」

<授業の目的>

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得

することができることを目的としている。 In this course, basic writing skills and understanding of grammar will be improved. Essays will give practice in writing on a variety of themes. Since the class will be conducted in English, the ability to understand basic instructions and guidance given in English will be improved.

<到達目標>

To be able to

- (1) produce a 250 word essay
- (2) create a coherent essay
- (3) write about various topics
- (4) use proper word order
- (5) use appropriate vocabulary
- (6) produce a logical essay

<授業のキーワード>

essay, grammar, writing

<授業の進め方>

The class will meet twice each week. Lessons will be aimed at improving writing skills. In addition, students are expected to write six essays. After receiving feedback on the first draft of each essay, students are required to make improvements and submit a second draft.

<履修するにあたって>

Attendance and active participation in each class is mandatory. Students are expected to use only English in the classroom.

<授業時間外に必要な学修>

Students will write one essay each unit. Two drafts should be submitted for each essay, and students will be required to make improvements to their essays before re-submitting. Students will be responsible for all homework assignments in addition to work in class. Students should expect to spend approximately 60 minutes each week to complete this work.

<提出課題など>

Online assignments must be submitted by the due date. Any questions should be directed to the course instructor.

<成績評価方法・基準>

40% for 6 essays; 40% for forum chats conducted in class; 20% for participation. Essays will be assessed according to essay structure, spelling mistakes, grammar errors, vocabulary, transitional phrases, and passive voice. Forum chats will be assessed according to the number of posts made and words written. Participation will be assessed according to the submission of "Forum chat Set-up and Review

" (Friday), and "Writing Assignment Planning", and self-checks (Tuesday).

<テキスト>

Get It Down: You Can Write in English, Neil Cowie, Keiko Sakui, 2008, Cengage Learning, ISBN 978-4-86312-104-1 2000円 (税抜)

<授業計画>

第1回 Orientation

Orientation

第2回 Orientation

Orientation

第3回 College life (1)

Unit 1 What is a sentence?

第4回 College life (2)

Assignment 1 Draft 1

"Get It Down" Pages 8-11

第5回 College life (3)

College life forum chat

第6回 TOEIC

TOEIC

第7回 Understanding copyright (1)

Unit 2 APA (1): Making a references page

第8回 Understanding copyright (2)

Assignment writing

第9回 Understanding copyright (3)

Assignment 2 Draft 1

"Get It Down" Pages 14-16

第10回 Understanding copyright (4)

Understanding copyright forum chat

第11回 Understanding copyright (5)

Assignment 2 Draft 2

"Get It Down" Pages 17-20

第12回 My future (1)

Unit 3 APA (2): In-text citations

第13回 My future (2)

Assignment 3 Draft 1

"Get It Down" Pages 21-23

第14回 My future (3)

My future forum chat

第15回 My future (4)

Assignment 3 Draft 2

"Get It Down" Pages 23-26

第16回 Foreign encounters (1)

Unit 4 Descriptive essay

第17回 Foreign encounters (2)

Assignment 4 Draft 1

"Get It Down" Pages 27-30

第18回 Foreign encounters (3)

Foreign encounters forum chat

第19回 Foreign encounters (4)
 Assignment 4 Draft 2
 "Get It Down" Pages 30-33
 第20回 Cyber bullying (1)
 Unit 5 Formal vs. Informal Writing
 第21回 Cyber bullying (2)
 Assignment 5 Draft 1
 "Get It Down" Pages 34-36
 第22回 Cyber bullying (3)
 Cyber bullying forum chat
 第23回 Cyber bullying (4)
 Assignment 5 Draft 2
 "Get It Down" Pages 37-38
 第24回 Tourism (1)
 Unit 6 Different types of transitions you can use
 第25回 Tourism (2)
 Assignment 6 Draft 1
 "Get It Down" Pages 39-40
 第26回 Tourism (3)
 Tourism forum chat
 第27回 Tourism (4)
 Assignment 6 Draft 2
 "Get It Down" Pages 41-43
 第28回 Reflection
 Reflection
 第29回 Reflection
 Reflection
 第30回 Reflection
 Reflection

 2022年度 前期
 2.0単位
 英語表現 (D)
 中嶋 アンディ 史人、Van Antwerpen, Donald Patrick

 < 授業の方法 >
 「演習」
 < 授業の目的 >
 この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができることを目的としている。 In this course, basic writing skills and understanding of grammar will be improved. Essays will give practice in writing on a variety of themes. Since the class will be conducted in English, the ability to understand basic instructions and guidance given in E

nglish will be improved.
 < 到達目標 >
 To be able to
 (1) produce a 250 word essay
 (2) create a coherent essay
 (3) write about various topics
 (4) use proper word order
 (5) use appropriate vocabulary
 (6) produce a logical essay
 < 授業のキーワード >
 essay, grammar, writing
 < 授業の進め方 >
 The class will meet twice each week. Lessons will be aimed at improving writing skills. In addition, students are expected to write six essays. After receiving feedback on the first draft of each essay, students are required to make improvements and submit a second draft.
 < 履修するにあたって >
 Attendance and active participation in each class is mandatory. Students are expected to use only English in the classroom.
 < 授業時間外に必要な学修 >
 Students will write one essay each unit. Two drafts should be submitted for each essay, and students will be required to make improvements to their essays before re-submitting. Students will be responsible for all homework assignments in addition to work in class. Students should expect to spend approximately 60 minutes each week to complete this work.
 < 提出課題など >
 Online assignments must be submitted by the due date. Any questions should be directed to the course instructor.
 < 成績評価方法・基準 >
 40% for 6 essays; 40% for forum chats conducted in class; 20% for participation. Essays will be assessed according to essay structure, spelling mistakes, grammar errors, vocabulary, transitional phrases, and passive voice. Forum chats will be assessed according to the number of posts made and words written. Participation will be assessed according to the submission of "Forum chat Set-up and Review" (Friday), and "Writing Assignment Planning", and self-checks (Tuesday).
 < テキスト >
 Get It Down: You Can Write in English, Neil Cowie, Keiko Sakui, 2008, Cengage Learning, ISBN 978-4-86312-104-1 2000円 (税抜)

< 授業計画 >

第1回 Orientation
Orientation
第2回 Orientation
Orientation
第3回 College life (1)
Unit 1 What is a sentence?

第4回 College life (2)
Assignment 1 Draft 1
"Get It Down" Pages 8-11
第5回 College life (3)
College life forum chat
第6回 TOEIC
TOEIC
第7回 Understanding copyright (1)
Unit 2 APA (1): Making a references page
第8回 Understanding copyright (2)
Assignment writing
第9回 Understanding copyright (3)
Assignment 2 Draft 1
"Get It Down" Pages 14-16
第10回 Understanding copyright (4)
Understanding copyright forum chat
第11回 Understanding copyright (5)
Assignment 2 Draft 2
"Get It Down" Pages 17-20
第12回 My future (1)
Unit 3 APA (2): In-text citations
第13回 My future (2)
Assignment 3 Draft 1
"Get It Down" Pages 21-23
第14回 My future (3)
My future forum chat
第15回 My future (4)
Assignment 3 Draft 2
"Get It Down" Pages 23-26
第16回 Foreign encounters (1)
Unit 4 Descriptive essay
第17回 Foreign encounters (2)
Assignment 4 Draft 1
"Get It Down" Pages 27-30
第18回 Foreign encounters (3)
Foreign encounters forum chat
第19回 Foreign encounters (4)
Assignment 4 Draft 2
"Get It Down" Pages 30-33
第20回 Cyber bullying (1)
Unit 5 Formal vs. Informal Writing
第21回 Cyber bullying (2)

Assignment 5 Draft 1
"Get It Down" Pages 34-36
第22回 Cyber bullying (3)
Cyber bullying forum chat
第23回 Cyber bullying (4)
Assignment 5 Draft 2
"Get It Down" Pages 37-38
第24回 Tourism (1)
Unit 6 Different types of transitions you can use
第25回 Tourism (2)
Assignment 6 Draft 1
"Get It Down" Pages 39-40
第26回 Tourism (3)
Tourism forum chat
第27回 Tourism (4)
Assignment 6 Draft 2
"Get It Down" Pages 41-43
第28回 Reflection
Reflection
第29回 Reflection
Reflection
第30回 Reflection
Reflection

2022年度 前期

2.0単位

英語表現 (E)

大竹 翔子、Van Antwerpen, Donald Patrick

< 授業の方法 >

「演習」

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができる ことを目的としている。 In this course, basic writing skills and understanding of grammar will be improved. Essays will give practice in writing on a variety of themes. Since the class will be conducted in English, the ability to understand basic instructions and guidance given in English will be improved.

< 到達目標 >

To be able to

- (1) produce a 250 word essay
- (2) create a coherent essay
- (3) write about various topics
- (4) use proper word order

(5) use appropriate vocabulary

(6) produce a logical essay

< 授業のキーワード >

essay, grammar, writing

< 授業の進め方 >

The class will meet twice each week. Lessons will be aimed at improving writing skills. In addition, students are expected to write six essays. After receiving feedback on the first draft of each essay, students are required to make improvements and submit a second draft.

< 履修するにあたって >

Attendance and active participation in each class is mandatory. Students are expected to use only English in the classroom.

< 授業時間外に必要な学修 >

Students will write one essay each unit. Two drafts should be submitted for each essay, and students will be required to make improvements to their essays before re-submitting. Students will be responsible for all homework assignments in addition to work in class. Students should expect to spend approximately 60 minutes each week to complete this work.

< 提出課題など >

Online assignments must be submitted by the due date. Any questions should be directed to the course instructor.

< 成績評価方法・基準 >

40% for 6 essays; 40% for forum chats conducted in class; 20% for participation. Essays will be assessed according to essay structure, spelling mistakes, grammar errors, vocabulary, transitional phrases, and passive voice. Forum chats will be assessed according to the number of posts made and words written. Participation will be assessed according to the submission of "Forum chat Set-up and Review" (Friday), and "Writing Assignment Planning", and self-checks (Tuesday).

< テキスト >

Get It Down: You Can Write in English, Neil Cowie, Keiko Sakui, 2008, Cengage Learning, ISBN 978-4-86312-104-1 2000円 (税抜)

< 授業計画 >

第1回 Orientation

Orientation

第2回 Orientation

Orientation

第3回 College life (1)

Unit 1 What is a sentence?

第4回 College life (2)

Assignment 1 Draft 1

"Get It Down" Pages 8-11

第5回 College life (3)

College life forum chat

第6回 TOEIC

TOEIC

第7回 Understanding copyright (1)

Unit 2 APA (1): Making a references page

第8回 Understanding copyright (2)

Assignment writing

第9回 Understanding copyright (3)

Assignment 2 Draft 1

"Get It Down" Pages 14-16

第10回 Understanding copyright (4)

Understanding copyright forum chat

第11回 Understanding copyright (5)

Assignment 2 Draft 2

"Get It Down" Pages 17-20

第12回 My future (1)

Unit 3 APA (2): In-text citations

第13回 My future (2)

Assignment 3 Draft 1

"Get It Down" Pages 21-23

第14回 My future (3)

My future forum chat

第15回 My future (4)

Assignment 3 Draft 2

"Get It Down" Pages 23-26

第16回 Foreign encounters (1)

Unit 4 Descriptive essay

第17回 Foreign encounters (2)

Assignment 4 Draft 1

"Get It Down" Pages 27-30

第18回 Foreign encounters (3)

Foreign encounters forum chat

第19回 Foreign encounters (4)

Assignment 4 Draft 2

"Get It Down" Pages 30-33

第20回 Cyber bullying (1)

Unit 5 Formal vs. Informal Writing

第21回 Cyber bullying (2)

Assignment 5 Draft 1

"Get It Down" Pages 34-36

第22回 Cyber bullying (3)

Cyber bullying forum chat

第23回 Cyber bullying (4)

Assignment 5 Draft 2

"Get It Down" Pages 37-38

第24回 Tourism (1)

Unit 6 Different types of transitions you can use

第25回 Tourism (2)

Assignment 6 Draft 1

"Get It Down" Pages 39-40

第26回 Tourism (3)

Tourism forum chat

第27回 Tourism (4)

Assignment 6 Draft 2

"Get It Down" Pages 41-43

第28回 Reflection

Reflection

第29回 Reflection

Reflection

第30回 Reflection

Reflection

2022年度 後期

2.0単位

英語表現 (A)

Nicholas Musty, Van Antwerpen, Donald Patrick

< 授業の方法 >

「演習」

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができることを目的としている。 In this course, basic writing skills and understanding of grammar will be improved. Essays will give practice in writing on a variety of themes. Since the class will be conducted in English, the ability to understand basic instructions and guidance given in English will be improved.

< 到達目標 >

To be able to

- (1) produce a 250 word essay
- (2) create a coherent essay
- (3) write about various topics
- (4) use proper word order
- (5) use appropriate vocabulary
- (6) produce a logical essay

< 授業のキーワード >

essay, grammar, writing

< 授業の進め方 >

The class will take place twice each week. Lessons will be aimed at improving writing skills. In add

ition, students are expected to write six essays. After receiving feedback on the first draft of each essay, students are required to make improvements and submit a second draft.

< 履修するにあたって >

Attendance and active participation in each class is mandatory. Students are expected to use only English in class.

< 授業時間外に必要な学修 >

Students will write one essay each unit. Two drafts should be submitted for each essay, and students will be required to make improvements to their essays before re-submitting. Students will be responsible for all homework assignments in addition to work in class. Students should expect to spend approximately 60 minutes each week to complete this work.

< 提出課題など >

Online assignments must be submitted by the due date. Any questions should be directed to the course instructor.

< 成績評価方法・基準 >

40% for 6 essays; 40% for forum chats conducted in class; 20% for participation. Essays will be assessed according to essay structure, spelling mistakes, grammar errors, vocabulary, transitional phrases, and passive voice. Forum chats will be assessed according to the number of posts made and words written. Participation will be assessed according to the submission of "Forum chat Set-up and Review" (Friday), and "Writing Assignment Planning", and self-checks (Tuesday).

< テキスト >

Get It Down: You Can Write in English, Neil Cowie, Keiko Sakui, 2008, Cengage Learning, ISBN 978-4-86312-104-1 2000円 (税抜)

< 授業計画 >

第1回 Orientation

Orientation

第2回 Orientation

Orientation

第3回 Technology (1)

Unit 7 Conjecturing alternatives

"Get It Down" Pages 44-46

第4回 Technology (2)

Unit 7 Persuasive essay

第5回 Technology (3)

Unit 7 Conjecturing alternatives

"Get It Down" Pages 47-50

第6回 Technology (4)
Technology forum chat
第7回 Entertainment (1)
Unit 8 Drawing conclusions
"Get It Down" Pages 51-54
第8回 Entertainment (2)
Unit 8 Spoken vs. Written English
第9回 Entertainment (3)
Unit 8 Drawing conclusions
"Get It Down" Pages 55-57
第10回 Entertainment (4)
Entertainment forum chat
第11回 International affairs (1)
Unit 9 Stating results & Justifying procedures
"Get It Down" Pages 58-60
第12回 International affairs (2)
Unit 9 Narrative essay
第13回 International affairs (3)
Assignment writing
第14回 International affairs (4)
Unit 9 Narrative essay
"Get It Down" Pages 61-63
第15回 International affairs (5)
International affairs forum chat
第16回 Personal finance (1)
Unit 10 What is a good thesis statement?
"Get It Down" Pages 64-66
第17回 Personal finance (2)
Unit 10 Presenting arguments
第18回 Personal finance (3)
Assignment writing
第19回 Personal Finance (4)
Unit 10 What is a good thesis statement?
"Get It Down" Pages 67-70
第20回 Personal Finance (5)
Personal finance forum chat
第21回 Health (1)
Unit 11 Self-reflective writing
"Get It Down" Pages 71-73
第22回 Health (2)
Unit 11 Self-examination
第23回 Health (3)
Unit 11 Self-reflective writing
"Get It Down" Pages 74-78
第24回 Health (4)
Health forum chat
第25回 Diversity (1)
Unit 12 APA (3): In-text citations
"Get It Down" Pages 79-80
第26回 Diversity (2)

Unit 12 Self-correction
第27回 Diversity (3)
Unit 12 When you paraphrase
"Get It Down" Pages 80-83
第28回 Diversity (4)
Diversity forum chat
第29回 Reflection
Reflection
第30回 Reflection
Reflection

2022年度 後期

2.0単位

英語表現 (B)

Van Antwerpen, Donald Patrick, Petit Marc

<授業の方法>

「演習」

<授業の目的>

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができることを目的としている。 In this course, basic writing skills and understanding of grammar will be improved. Essays will give practice in writing on a variety of themes. Since the class will be conducted in English, the ability to understand basic instructions and guidance given in English will be improved.

<到達目標>

To be able to

- (1) produce a 250 word essay
- (2) create a coherent essay
- (3) write about various topics
- (4) use proper word order
- (5) use appropriate vocabulary
- (6) produce a logical essay

<授業のキーワード>

essay, grammar, writing

<授業の進め方>

The class will take place twice each week. Lessons will be aimed at improving writing skills. In addition, students are expected to write six essays. After receiving feedback on the first draft of each essay, students are required to make improvements and submit a second draft.

<履修するにあたって>

Attendance and active participation in each class is mandatory. Students are expected to use only English in class.

< 授業時間外に必要な学修 >

Students will write one essay each unit. Two drafts should be submitted for each essay, and students will be required to make improvements to their essays before re-submitting. Students will be responsible for all homework assignments in addition to work in class. Students should expect to spend approximately 60 minutes each week to complete this work.

< 提出課題など >

Online assignments must be submitted by the due date. Any questions should be directed to the course instructor.

< 成績評価方法・基準 >

40% for 6 essays; 40% for forum chats conducted in class; 20% for participation. Essays will be assessed according to essay structure, spelling mistakes, grammar errors, vocabulary, transitional phrases, and passive voice. Forum chats will be assessed according to the number of posts made and words written. Participation will be assessed according to the submission of "Forum chat Set-up and Review" (Friday), and "Writing Assignment Planning", and self-checks (Tuesday).

< テキスト >

Get It Down: You Can Write in English, Neil Cowie, Keiko Sakui, 2008, Cengage Learning, ISBN 978-4-86312-104-1 2000円 (税抜)

< 授業計画 >

第1回 Orientation
Orientation
第2回 Orientation
Orientation
第3回 Technology (1)
Unit 7 Conjecturing alternatives
"Get It Down" Pages 44-46
第4回 Technology (2)
Unit 7 Persuasive essay
第5回 Technology (3)
Unit 7 Conjecturing alternatives
"Get It Down" Pages 47-50
第6回 Technology (4)
Technology forum chat
第7回 Entertainment (1)
Unit 8 Drawing conclusions
"Get It Down" Pages 51-54

第8回 Entertainment (2)
Unit 8 Spoken vs. Written English
第9回 Entertainment (3)
Unit 8 Drawing conclusions
"Get It Down" Pages 55-57
第10回 Entertainment (4)
Entertainment forum chat
第11回 International affairs (1)
Unit 9 Stating results & Justifying procedures
"Get It Down" Pages 58-60
第12回 International affairs (2)
Unit 9 Narrative essay
第13回 International affairs (3)
Assignment writing
第14回 International affairs (4)
Unit 9 Narrative essay
"Get It Down" Pages 61-63
第15回 International affairs (5)
International affairs forum chat
第16回 Personal finance (1)
Unit 10 What is a good thesis statement?
"Get It Down" Pages 64-66
第17回 Personal finance (2)
Unit 10 Presenting arguments
第18回 Personal finance (3)
Assignment writing
第19回 Personal Finance (4)
Unit 10 What is a good thesis statement?
"Get It Down" Pages 67-70
第20回 Personal Finance (5)
Personal finance forum chat
第21回 Health (1)
Unit 11 Self-reflective writing
"Get It Down" Pages 71-73
第22回 Health (2)
Unit 11 Self-examination
第23回 Health (3)
Unit 11 Self-reflective writing
"Get It Down" Pages 74-78
第24回 Health (4)
Health forum chat
第25回 Diversity (1)
Unit 12 APA (3): In-text citations
"Get It Down" Pages 79-80
第26回 Diversity (2)
Unit 12 Self-correction
第27回 Diversity (3)
Unit 12 When you paraphrase
"Get It Down" Pages 80-83
第28回 Diversity (4)

Diversity forum chat

第29回 Reflection

Reflection

第30回 Reflection

Reflection

2022年度 後期

2.0単位

英語表現 (C)

Nicholas Musty、Petit Marc

< 授業の方法 >

「演習」

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができることを目的としている。 In this course, basic writing skills and understanding of grammar will be improved. Essays will give practice in writing on a variety of themes. Since the class will be conducted in English, the ability to understand basic instructions and guidance given in English will be improved.

< 到達目標 >

To be able to

- (1) produce a 250 word essay
- (2) create a coherent essay
- (3) write about various topics
- (4) use proper word order
- (5) use appropriate vocabulary
- (6) produce a logical essay

< 授業のキーワード >

essay, grammar, writing

< 授業の進め方 >

The class will take place twice each week. Lessons will be aimed at improving writing skills. In addition, students are expected to write six essays. After receiving feedback on the first draft of each essay, students are required to make improvements and submit a second draft.

< 履修するにあたって >

Attendance and active participation in each class is mandatory. Students are expected to use only English in class.

< 授業時間外に必要な学修 >

Students will write one essay each unit. Two draft

s should be submitted for each essay, and students will be required to make improvements to their essays before re-submitting. Students will be responsible for all homework assignments in addition to work in class. Students should expect to spend approximately 60 minutes each week to complete this work.

< 提出課題など >

Online assignments must be submitted by the due date. Any questions should be directed to the course instructor.

< 成績評価方法・基準 >

40% for 6 essays; 40% for forum chats conducted in class; 20% for participation. Essays will be assessed according to essay structure, spelling mistakes, grammar errors, vocabulary, transitional phrases, and passive voice. Forum chats will be assessed according to the number of posts made and words written. Participation will be assessed according to the submission of "Forum chat Set-up and Review" (Friday), and "Writing Assignment Planning", and self-checks (Tuesday).

< テキスト >

Get It Down: You Can Write in English, Neil Cowie, Keiko Sakui, 2008, Cengage Learning, ISBN 978-4-86312-104-1 2000円 (税抜)

< 授業計画 >

第1回 Orientation

Orientation

第2回 Orientation

Orientation

第3回 Technology (1)

Unit 7 Conjecturing alternatives

"Get It Down" Pages 44-46

第4回 Technology (2)

Unit 7 Persuasive essay

第5回 Technology (3)

Unit 7 Conjecturing alternatives

"Get It Down" Pages 47-50

第6回 Technology (4)

Technology forum chat

第7回 Entertainment (1)

Unit 8 Drawing conclusions

"Get It Down" Pages 51-54

第8回 Entertainment (2)

Unit 8 Spoken vs. Written English

第9回 Entertainment (3)

Unit 8 Drawing conclusions

"Get It Down" Pages 55-57

第10回 Entertainment (4)
Entertainment forum chat

第11回 International affairs (1)
Unit 9 Stating results & Justifying procedures
"Get It Down" Pages 58-60

第12回 International affairs (2)
Unit 9 Narrative essay

第13回 International affairs (3)
Assignment writing

第14回 International affairs (4)
Unit 9 Narrative essay
"Get It Down" Pages 61-63

第15回 International affairs (5)
International affairs forum chat

第16回 Personal finance (1)
Unit 10 What is a good thesis statement?
"Get It Down" Pages 64-66

第17回 Personal finance (2)
Unit 10 Presenting arguments

第18回 Personal finance (3)
Assignment writing

第19回 Personal Finance (4)
Unit 10 What is a good thesis statement?
"Get It Down" Pages 67-70

第20回 Personal Finance (5)
Personal finance forum chat

第21回 Health (1)
Unit 11 Self-reflective writing
"Get It Down" Pages 71-73

第22回 Health (2)
Unit 11 Self-examination

第23回 Health (3)
Unit 11 Self-reflective writing
"Get It Down" Pages 74-78

第24回 Health (4)
Health forum chat

第25回 Diversity (1)
Unit 12 APA (3): In-text citations
"Get It Down" Pages 79-80

第26回 Diversity (2)
Unit 12 Self-correction

第27回 Diversity (3)
Unit 12 When you paraphrase
"Get It Down" Pages 80-83

第28回 Diversity (4)
Diversity forum chat

第29回 Reflection
Reflection

第30回 Reflection
Reflection

2022年度 後期

2.0単位

英語表現 (D)

中嶋 アンディ 史人、Van Antwerpen, Donald Patrick

< 授業の方法 >

「演習」

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができることを目的としている。 In this course, basic writing skills and understanding of grammar will be improved. Essays will give practice in writing on a variety of themes. Since the class will be conducted in English, the ability to understand basic instructions and guidance given in English will be improved.

< 到達目標 >

To be able to

- (1) produce a 250 word essay
- (2) create a coherent essay
- (3) write about various topics
- (4) use proper word order
- (5) use appropriate vocabulary
- (6) produce a logical essay

< 授業のキーワード >

essay, grammar, writing

< 授業の進め方 >

The class will take place twice each week. Lessons will be aimed at improving writing skills. In addition, students are expected to write six essays. After receiving feedback on the first draft of each essay, students are required to make improvements and submit a second draft.

< 履修するにあたって >

Attendance and active participation in each class is mandatory. Students are expected to use only English in class.

< 授業時間外に必要な学修 >

Students will write one essay each unit. Two drafts should be submitted for each essay, and students will be required to make improvements to their essays before re-submitting. Students will be responsible for all homework assignments in addition to

work in class. Students should expect to spend approximately 60 minutes each week to complete this work.

< 提出課題など >

Online assignments must be submitted by the due date. Any questions should be directed to the course instructor.

< 成績評価方法・基準 >

40% for 6 essays; 40% for forum chats conducted in class; 20% for participation. Essays will be assessed according to essay structure, spelling mistakes, grammar errors, vocabulary, transitional phrases, and passive voice. Forum chats will be assessed according to the number of posts made and words written. Participation will be assessed according to the submission of "Forum chat Set-up and Review" (Friday), and "Writing Assignment Planning", and self-checks (Tuesday).

< テキスト >

Get It Down: You Can Write in English, Neil Cowie, Keiko Sakui, 2008, Cengage Learning, ISBN 978-4-86312-104-1 2000円 (税抜)

< 授業計画 >

第1回 Orientation
Orientation
第2回 Orientation
Orientation
第3回 Technology (1)
Unit 7 Conjecturing alternatives
"Get It Down" Pages 44-46
第4回 Technology (2)
Unit 7 Persuasive essay
第5回 Technology (3)
Unit 7 Conjecturing alternatives
"Get It Down" Pages 47-50
第6回 Technology (4)
Technology forum chat
第7回 Entertainment (1)
Unit 8 Drawing conclusions
"Get It Down" Pages 51-54
第8回 Entertainment (2)
Unit 8 Spoken vs. Written English
第9回 Entertainment (3)
Unit 8 Drawing conclusions
"Get It Down" Pages 55-57
第10回 Entertainment (4)
Entertainment forum chat
第11回 International affairs (1)
Unit 9 Stating results & Justifying procedures

"Get It Down" Pages 58-60
第12回 International affairs (2)
Unit 9 Narrative essay
第13回 International affairs (3)
Assignment writing
第14回 International affairs (4)
Unit 9 Narrative essay
"Get It Down" Pages 61-63
第15回 International affairs (5)
International affairs forum chat
第16回 Personal finance (1)
Unit 10 What is a good thesis statement?
"Get It Down" Pages 64-66
第17回 Personal finance (2)
Unit 10 Presenting arguments
第18回 Personal finance (3)
Assignment writing
第19回 Personal Finance (4)
Unit 10 What is a good thesis statement?
"Get It Down" Pages 67-70
第20回 Personal Finance (5)
Personal finance forum chat
第21回 Health (1)
Unit 11 Self-reflective writing
"Get It Down" Pages 71-73
第22回 Health (2)
Unit 11 Self-examination
第23回 Health (3)
Unit 11 Self-reflective writing
"Get It Down" Pages 74-78
第24回 Health (4)
Health forum chat
第25回 Diversity (1)
Unit 12 APA (3): In-text citations
"Get It Down" Pages 79-80
第26回 Diversity (2)
Unit 12 Self-correction
第27回 Diversity (3)
Unit 12 When you paraphrase
"Get It Down" Pages 80-83
第28回 Diversity (4)
Diversity forum chat
第29回 Reflection
Reflection
第30回 Reflection
Reflection

2022年度 後期

2.0単位

英語表現 (E)

大竹 翔子、Van Antwerpen, Donald Patrick

< 授業の方法 >

「演習」

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができることを目的としている。 In this course, basic writing skills and understanding of grammar will be improved. Essays will give practice in writing on a variety of themes. Since the class will be conducted in English, the ability to understand basic instructions and guidance given in English will be improved.

< 到達目標 >

To be able to

- (1) produce a 250 word essay
- (2) create a coherent essay
- (3) write about various topics
- (4) use proper word order
- (5) use appropriate vocabulary
- (6) produce a logical essay

< 授業のキーワード >

essay, grammar, writing

< 授業の進め方 >

The class will take place twice each week. Lessons will be aimed at improving writing skills. In addition, students are expected to write six essays. After receiving feedback on the first draft of each essay, students are required to make improvements and submit a second draft.

< 履修するにあたって >

Attendance and active participation in each class is mandatory. Students are expected to use only English in class.

< 授業時間外に必要な学修 >

Students will write one essay each unit. Two drafts should be submitted for each essay, and students will be required to make improvements to their essays before re-submitting. Students will be responsible for all homework assignments in addition to work in class. Students should expect to spend app

roximately 60 minutes each week to complete this work.

< 提出課題など >

Online assignments must be submitted by the due date. Any questions should be directed to the course instructor.

< 成績評価方法・基準 >

40% for 6 essays; 40% for forum chats conducted in class; 20% for participation. Essays will be assessed according to essay structure, spelling mistakes, grammar errors, vocabulary, transitional phrases, and passive voice. Forum chats will be assessed according to the number of posts made and words written. Participation will be assessed according to the submission of "Forum chat Set-up and Review" (Friday), and "Writing Assignment Planning", and self-checks (Tuesday).

< テキスト >

Get It Down: You Can Write in English, Neil Cowie, Keiko Sakui, 2008, Cengage Learning, ISBN 978-4-86312-104-1 2000円 (税抜)

< 授業計画 >

第1回 Orientation

Orientation

第2回 Orientation

Orientation

第3回 Technology (1)

Unit 7 Conjecturing alternatives

"Get It Down" Pages 44-46

第4回 Technology (2)

Unit 7 Persuasive essay

第5回 Technology (3)

Unit 7 Conjecturing alternatives

"Get It Down" Pages 47-50

第6回 Technology (4)

Technology forum chat

第7回 Entertainment (1)

Unit 8 Drawing conclusions

"Get It Down" Pages 51-54

第8回 Entertainment (2)

Unit 8 Spoken vs. Written English

第9回 Entertainment (3)

Unit 8 Drawing conclusions

"Get It Down" Pages 55-57

第10回 Entertainment (4)

Entertainment forum chat

第11回 International affairs (1)

Unit 9 Stating results & Justifying procedures

"Get It Down" Pages 58-60

第12回 International affairs (2)
Unit 9 Narrative essay
第13回 International affairs (3)
Assignment writing
第14回 International affairs (4)
Unit 9 Narrative essay
"Get It Down" Pages 61-63
第15回 International affairs (5)
International affairs forum chat
第16回 Personal finance (1)
Unit 10 What is a good thesis statement?
"Get It Down" Pages 64-66
第17回 Personal finance (2)
Unit 10 Presenting arguments
第18回 Personal finance (3)
Assignment writing
第19回 Personal Finance (4)
Unit 10 What is a good thesis statement?
"Get It Down" Pages 67-70
第20回 Personal Finance (5)
Personal finance forum chat
第21回 Health (1)
Unit 11 Self-reflective writing
"Get It Down" Pages 71-73
第22回 Health (2)
Unit 11 Self-examination
第23回 Health (3)
Unit 11 Self-reflective writing
"Get It Down" Pages 74-78
第24回 Health (4)
Health forum chat
第25回 Diversity (1)
Unit 12 APA (3): In-text citations
"Get It Down" Pages 79-80
第26回 Diversity (2)
Unit 12 Self-correction
第27回 Diversity (3)
Unit 12 When you paraphrase
"Get It Down" Pages 80-83
第28回 Diversity (4)
Diversity forum chat
第29回 Reflection
Reflection
第30回 Reflection
Reflection

2022年度 前期

2.0単位

英語表現 (A)

Krieg, Alexander William, Van Antwerpen, Donald Patrick

<授業の方法>

「演習」

<授業の目的>

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができることを目的としている。 This course provide opportunities to develop writing skills through extensive writing practices and develop strategies to write academic essays.

<到達目標>

To be able to

- (1) produce a 250 word essay
- (2) create a coherent essay
- (3) write about various topics
- (4) use proper word order
- (5) use appropriate vocabulary
- (6) produce a logical essay

<授業のキーワード>

essay, grammar, writing

<授業の進め方>

The class will meet twice each week. Lessons will be aimed at improving writing skills. In addition, students are expected to write six essays. After receiving feedback on the first draft of each essay, students are required to make improvements and submit a second draft.

<履修するにあたって>

Attendance and active participation in each class is mandatory.

<授業時間外に必要な学修>

Students will write one essay each unit. Two drafts should be submitted for each essay, and students will be required to make improvements to their essays before re-submitting. Students will be responsible for all homework assignments in addition to work in class. Students should expect to spend approximately 60 minutes each week to complete this work.

<提出課題など>

Online assignments must be submitted by the due date

te. Any questions should be directed to the course instructor.

< 成績評価方法・基準 >

40% for 6 essays; 40% for forum chats conducted in class; 20% for participation. Essays will be assessed according to essay structure, spelling mistakes, grammar errors, vocabulary, transitional phrases, and passive voice. Forum chats will be assessed according to the number of posts made and words written. Participation will be assessed according to the submission of "Forum chat Set-up and Review" (Friday), and "Writing Assignment Planning", and self-checks (Tuesday).

< テキスト >

Basic Steps to Academic Writing: From Paragraph to Essay, Matthew Taylor, David Kluge, 2011, Cengage Learning, ISBN 978-4-86312-209-3 2850円 (税抜)

< 授業計画 >

第1回 Orientation
Orientation
第2回 Orientation
Orientation
第3回 Academic research (1)
Unit 1 What is a sentence?
第4回 Academic research (2)
Assignment 1 Draft 1
Basic Steps to Academic Writing pages 8-11
第5回 Academic research (3)
Academic research forum chat
第6回 TOEIC
TOEIC
第7回 Social issues in Japan (1)
Unit 2 APA (1): Making a references page
第8回 Social issues in Japan (2)
Assignment writing
第9回 Social issues in Japan (3)
Assignment 2 Draft 1
Basic Steps to Academic Writing pages 14-21
第10回 Social issues in Japan (4)
Social issues in Japan forum chat
第11回 Social issues in Japan (5)
Assignment 2 Draft 2
Basic Steps to Academic Writing pages 21-26
第12回 Law and peace (1)
Unit 3 APA (2): In-text citations
第13回 Law and peace (2)
Assignment 3 Draft 1
Basic Steps to Academic Writing pages 28-32
第14回 Law and peace (3)

Law and peace forum chat
第15回 Law and peace (4)
Assignment 3 Draft 2
Basic Steps to Academic Writing pages 33-37
第16回 Religion (1)
Unit 4 Descriptive essay
第17回 Religion (2)
Assignment 4 Draft 1
Basic Steps to Academic Writing pages 38-42
第18回 Religion (3)
Religion forum chat
第19回 Religion (4)
Assignment 4 Draft 2
Basic Steps to Academic Writing pages 44-49
第20回 Personal safety (1)
Unit 5 Formal vs. Informal Writing
第21回 Personal safety (2)
Assignment 5 Draft 1
Basic Steps to Academic Writing pages 50-55
第22回 Personal safety (3)
Personal safety forum chat
第23回 Personal safety (4)
Assignment 5 Draft 2
Basic Steps to Academic Writing pages 56-61
第24回 Gender (1)
Unit 6 Different types of transitions you can use
第25回 Gender (2)
Assignment 6 Draft 1
Basic Steps to Academic Writing pages 62-68
第26回 Gender (3)
Gender forum chat
第27回 Gender (4)
Assignment 6 Draft 2
Basic Steps to Academic Writing pages 68-73
第28回 Reflection
Reflection
第29回 Reflection
Reflection
第30回 Reflection
Reflection

2022年度 前期
2.0単位
英語表現 (B)
Nicholas Musty, Petit Marc

< 授業の方法 >
「演習」
< 授業の目的 >
この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的

で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができることを目的としている。 This course provide opportunities to develop writing skills through extensive writing practices and develop strategies to write academic essays.

<到達目標>

To be able to

- (1) produce a 250 word essay
- (2) create a coherent essay
- (3) write about various topics
- (4) use proper word order
- (5) use appropriate vocabulary
- (6) produce a logical essay

<授業のキーワード>

essay, grammar, writing

<授業の進め方>

The class will meet twice each week. Lessons will be aimed at improving writing skills. In addition, students are expected to write six essays. After receiving feedback on the first draft of each essay, students are required to make improvements and submit a second draft.

<履修するにあたって>

Attendance and active participation in each class is mandatory.

<授業時間外に必要な学修>

Students will write one essay each unit. Two drafts should be submitted for each essay, and students will be required to make improvements to their essays before re-submitting. Students will be responsible for all homework assignments in addition to work in class. Students should expect to spend approximately 60 minutes each week to complete this work.

<提出課題など>

Online assignments must be submitted by the due date. Any questions should be directed to the course instructor.

<成績評価方法・基準>

40% for 6 essays; 40% for forum chats conducted in class; 20% for participation. Essays will be assessed according to essay structure, spelling mistakes, grammar errors, vocabulary, transitional phrases, and passive voice. Forum chats will be assessed according to the number of posts made and words written. Participation will be assessed according to the submission of "Forum chat Set-up and Review

" (Friday), and "Writing Assignment Planning", and self-checks (Tuesday).

<テキスト>

Basic Steps to Academic Writing: From Paragraph to Essay, Matthew Taylor, David Kluge, 2011, Cengage Learning, ISBN 978-4-86312-209-3 2850円 (税抜)

<授業計画>

第1回 Orientation

Orientation

第2回 Orientation

Orientation

第3回 Academic research (1)

Unit 1 What is a sentence?

第4回 Academic research (2)

Assignment 1 Draft 1

Basic Steps to Academic Writing pages 8-11

第5回 Academic research (3)

Academic research forum chat

第6回 TOEIC

TOEIC

第7回 Social issues in Japan (1)

Unit 2 APA (1): Making a references page

第8回 Social issues in Japan (2)

Assignment writing

第9回 Social issues in Japan (3)

Assignment 2 Draft 1

Basic Steps to Academic Writing pages 14-21

第10回 Social issues in Japan (4)

Social issues in Japan forum chat

第11回 Social issues in Japan (5)

Assignment 2 Draft 2

Basic Steps to Academic Writing pages 21-26

第12回 Law and peace (1)

Unit 3 APA (2): In-text citations

第13回 Law and peace (2)

Assignment 3 Draft 1

Basic Steps to Academic Writing pages 28-32

第14回 Law and peace (3)

Law and peace forum chat

第15回 Law and peace (4)

Assignment 3 Draft 2

Basic Steps to Academic Writing pages 33-37

第16回 Religion (1)

Unit 4 Descriptive essay

第17回 Religion (2)

Assignment 4 Draft 1

Basic Steps to Academic Writing pages 38-42

第18回 Religion (3)

Religion forum chat

第19回 Religion (4)
 Assignment 4 Draft 2
 Basic Steps to Academic Writing pages 44-49
 第20回 Personal safety (1)
 Unit 5 Formal vs. Informal Writing
 第21回 Personal safety (2)
 Assignment 5 Draft 1
 Basic Steps to Academic Writing pages 50-55
 第22回 Personal safety (3)
 Personal safety forum chat
 第23回 Personal safety (4)
 Assignment 5 Draft 2
 Basic Steps to Academic Writing pages 56-61
 第24回 Gender (1)
 Unit 6 Different types of transitions you can use
 第25回 Gender (2)
 Assignment 6 Draft 1
 Basic Steps to Academic Writing pages 62-68
 第26回 Gender (3)
 Gender forum chat
 第27回 Gender (4)
 Assignment 6 Draft 2
 Basic Steps to Academic Writing pages 68-73
 第28回 Reflection
 Reflection
 第29回 Reflection
 Reflection
 第30回 Reflection
 Reflection

 2022年度 前期

2.0単位

英語表現 (C)

荒島 千鶴、原 良子

< 授業の方法 >

「演習」

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができることを目的としている。 This course provide opportunities to develop writing skills through extensive writing practices and develop strategies to write academic essays.

< 到達目標 >

To be able to

(1) produce a 250 word essay

(2) create a coherent essay
 (3) write about various topics
 (4) use proper word order
 (5) use appropriate vocabulary
 (6) produce a logical essay
 < 授業のキーワード >

essay, grammar, writing

< 授業の進め方 >

The class will meet twice each week. Lessons will be aimed at improving writing skills. In addition, students are expected to write six essays. After receiving feedback on the first draft of each essay, students are required to make improvements and submit a second draft.

< 履修するにあたって >

Attendance and active participation in each class is mandatory.

< 授業時間外に必要な学修 >

Students will write one essay each unit. Two drafts should be submitted for each essay, and students will be required to make improvements to their essays before re-submitting. Students will be responsible for all homework assignments in addition to work in class. Students should expect to spend approximately 60 minutes each week to complete this work.

< 提出課題など >

Online assignments must be submitted by the due date. Any questions should be directed to the course instructor.

< 成績評価方法・基準 >

40% for 6 essays; 40% for forum chats conducted in class; 20% for participation. Essays will be assessed according to essay structure, spelling mistakes, grammar errors, vocabulary, transitional phrases, and passive voice. Forum chats will be assessed according to the number of posts made and words written. Participation will be assessed according to the submission of "Forum chat Set-up and Review" (Friday), and "Writing Assignment Planning", and self-checks (Tuesday).

< テキスト >

Basic Steps to Academic Writing: From Paragraph to Essay, Matthew Taylor, David Kluge, 2011, Cengage Learning, ISBN 978-4-86312-209-3 2850円 (税抜)

< 授業計画 >

第1回 Orientation

Orientation

第2回 Orientation

Orientation
第3回 Academic research (1)
Unit 1 What is a sentence?
第4回 Academic research (2)
Assignment 1 Draft 1
Basic Steps to Academic Writing pages 8-11
第5回 Academic research (3)
Academic research forum chat
第6回 TOEIC
TOEIC
第7回 Social issues in Japan (1)
Unit 2 APA (1): Making a references page
第8回 Social issues in Japan (2)
Assignment writing
第9回 Social issues in Japan (3)
Assignment 2 Draft 1
Basic Steps to Academic Writing pages 14-21
第10回 Social issues in Japan (4)
Social issues in Japan forum chat
第11回 Social issues in Japan (5)
Assignment 2 Draft 2
Basic Steps to Academic Writing pages 21-26
第12回 Law and peace (1)
Unit 3 APA (2): In-text citations
第13回 Law and peace (2)
Assignment 3 Draft 1
Basic Steps to Academic Writing pages 28-32
第14回 Law and peace (3)
Law and peace forum chat
第15回 Law and peace (4)
Assignment 3 Draft 2
Basic Steps to Academic Writing pages 33-37
第16回 Religion (1)
Unit 4 Descriptive essay
第17回 Religion (2)
Assignment 4 Draft 1
Basic Steps to Academic Writing pages 38-42
第18回 Religion (3)
Religion forum chat
第19回 Religion (4)
Assignment 4 Draft 2
Basic Steps to Academic Writing pages 44-49
第20回 Personal safety (1)
Unit 5 Formal vs. Informal Writing
第21回 Personal safety (2)
Assignment 5 Draft 1
Basic Steps to Academic Writing pages 50-55
第22回 Personal safety (3)
Personal safety forum chat
第23回 Personal safety (4)

Assignment 5 Draft 2
Basic Steps to Academic Writing pages 56-61
第24回 Gender (1)
Unit 6 Different types of transitions you can use
第25回 Gender (2)
Assignment 6 Draft 1
Basic Steps to Academic Writing pages 62-68
第26回 Gender (3)
Gender forum chat
第27回 Gender (4)
Assignment 6 Draft 2
Basic Steps to Academic Writing pages 68-73
第28回 Reflection
Reflection
第29回 Reflection
Reflection
第30回 Reflection
Reflection

2022年度 前期

2.0単位

英語表現 (D)

Nicholas Musty、原 良子

< 授業の方法 >

「演習」

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができることを目的としている。 This course provide opportunities to develop writing skills through extensive writing practices and develop strategies to write academic essays.

< 到達目標 >

To be able to

- (1) produce a 250 word essay
- (2) create a coherent essay
- (3) write about various topics
- (4) use proper word order
- (5) use appropriate vocabulary
- (6) produce a logical essay

< 授業のキーワード >

essay, grammar, writing

< 授業の進め方 >

The class will meet twice each week. Lessons will be aimed at improving writing skills. In addition, students are expected to write six essays. After

receiving feedback on the first draft of each essay, students are required to make improvements and submit a second draft.

<履修するにあたって>

Attendance and active participation in each class is mandatory.

<授業時間外に必要な学修>

Students will write one essay each unit. Two drafts should be submitted for each essay, and students will be required to make improvements to their essays before re-submitting. Students will be responsible for all homework assignments in addition to work in class. Students should expect to spend approximately 60 minutes each week to complete this work.

<提出課題など>

Online assignments must be submitted by the due date. Any questions should be directed to the course instructor.

<成績評価方法・基準>

40% for 6 essays; 40% for forum chats conducted in class; 20% for participation. Essays will be assessed according to essay structure, spelling mistakes, grammar errors, vocabulary, transitional phrases, and passive voice. Forum chats will be assessed according to the number of posts made and words written. Participation will be assessed according to the submission of "Forum chat Set-up and Review" (Friday), and "Writing Assignment Planning", and self-checks (Tuesday).

<テキスト>

Basic Steps to Academic Writing: From Paragraph to Essay, Matthew Taylor, David Kluge, 2011, Cengage Learning, ISBN 978-4-86312-209-3 2850円 (税抜)

<授業計画>

第1回 Orientation

Orientation

第2回 Orientation

Orientation

第3回 Academic research (1)

Unit 1 What is a sentence?

第4回 Academic research (2)

Assignment 1 Draft 1

Basic Steps to Academic Writing pages 8-11

第5回 Academic research (3)

Academic research forum chat

第6回 TOEIC

TOEIC

第7回 Social issues in Japan (1)

Unit 2 APA (1): Making a references page

第8回 Social issues in Japan (2)

Assignment writing

第9回 Social issues in Japan (3)

Assignment 2 Draft 1

Basic Steps to Academic Writing pages 14-21

第10回 Social issues in Japan (4)

Social issues in Japan forum chat

第11回 Social issues in Japan (5)

Assignment 2 Draft 2

Basic Steps to Academic Writing pages 21-26

第12回 Law and peace (1)

Unit 3 APA (2): In-text citations

第13回 Law and peace (2)

Assignment 3 Draft 1

Basic Steps to Academic Writing pages 28-32

第14回 Law and peace (3)

Law and peace forum chat

第15回 Law and peace (4)

Assignment 3 Draft 2

Basic Steps to Academic Writing pages 33-37

第16回 Religion (1)

Unit 4 Descriptive essay

第17回 Religion (2)

Assignment 4 Draft 1

Basic Steps to Academic Writing pages 38-42

第18回 Religion (3)

Religion forum chat

第19回 Religion (4)

Assignment 4 Draft 2

Basic Steps to Academic Writing pages 44-49

第20回 Personal safety (1)

Unit 5 Formal vs. Informal Writing

第21回 Personal safety (2)

Assignment 5 Draft 1

Basic Steps to Academic Writing pages 50-55

第22回 Personal safety (3)

Personal safety forum chat

第23回 Personal safety (4)

Assignment 5 Draft 2

Basic Steps to Academic Writing pages 56-61

第24回 Gender (1)

Unit 6 Different types of transitions you can use

第25回 Gender (2)

Assignment 6 Draft 1

Basic Steps to Academic Writing pages 62-68

第26回 Gender (3)

Gender forum chat

第27回 Gender (4)

Assignment 6 Draft 2

第28回 Reflection

Reflection

第29回 Reflection

Reflection

第30回 Reflection

Reflection

2022年度 前期

2.0単位

英語表現 (E)

Petit Marc, Van Antwerpen, Donald Patrick

< 授業の方法 >

「演習」

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができることを目的としている。 This course provide opportunities to develop writing skills through extensive writing practices and develops strategies to write academic essays.

< 到達目標 >

To be able to

- (1) produce a 250 word essay
- (2) create a coherent essay
- (3) write about various topics
- (4) use proper word order
- (5) use appropriate vocabulary
- (6) produce a logical essay

< 授業のキーワード >

essay, grammar, writing

< 授業の進め方 >

The class will meet twice each week. Lessons will be aimed at improving writing skills. In addition, students are expected to write six essays. After receiving feedback on the first draft of each essay, students are required to make improvements and submit a second draft.

< 履修するにあたって >

Attendance and active participation in each class is mandatory.

< 授業時間外に必要な学修 >

Students will write one essay each unit. Two drafts should be submitted for each essay, and students will be required to make improvements to their essays before re-submitting. Students will be respon-

sible for all homework assignments in addition to work in class. Students should expect to spend approximately 60 minutes each week to complete this work.

< 提出課題など >

Online assignments must be submitted by the due date. Any questions should be directed to the course instructor.

< 成績評価方法・基準 >

40% for 6 essays; 40% for forum chats conducted in class; 20% for participation. Essays will be assessed according to essay structure, spelling mistakes, grammar errors, vocabulary, transitional phrases, and passive voice. Forum chats will be assessed according to the number of posts made and words written. Participation will be assessed according to the submission of "Forum chat Set-up and Review" (Friday), and "Writing Assignment Planning", and self-checks (Tuesday).

< テキスト >

Basic Steps to Academic Writing: From Paragraph to Essay, Matthew Taylor, David Kluge, 2011, Cengage Learning, ISBN 978-4-86312-209-3 2850円 (税抜)

< 授業計画 >

第1回 Orientation

Orientation

第2回 Orientation

Orientation

第3回 Academic research (1)

Unit 1 What is a sentence?

第4回 Academic research (2)

Assignment 1 Draft 1

Basic Steps to Academic Writing pages 8-11

第5回 Academic research (3)

Academic research forum chat

第6回 TOEIC

TOEIC

第7回 Social issues in Japan (1)

Unit 2 APA (1): Making a references page

第8回 Social issues in Japan (2)

Assignment writing

第9回 Social issues in Japan (3)

Assignment 2 Draft 1

Basic Steps to Academic Writing pages 14-21

第10回 Social issues in Japan (4)

Social issues in Japan forum chat

第11回 Social issues in Japan (5)

Assignment 2 Draft 2

Basic Steps to Academic Writing pages 21-26

第12回 Law and peace (1)
Unit 3 APA (2): In-text citations
第13回 Law and peace (2)
Assignment 3 Draft 1
Basic Steps to Academic Writing pages 28-32
第14回 Law and peace (3)
Law and peace forum chat
第15回 Law and peace (4)
Assignment 3 Draft 2
Basic Steps to Academic Writing pages 33-37
第16回 Religion (1)
Unit 4 Descriptive essay
第17回 Religion (2)
Assignment 4 Draft 1
Basic Steps to Academic Writing pages 38-42
第18回 Religion (3)
Religion forum chat
第19回 Religion (4)
Assignment 4 Draft 2
Basic Steps to Academic Writing pages 44-49
第20回 Personal safety (1)
Unit 5 Formal vs. Informal Writing
第21回 Personal safety (2)
Assignment 5 Draft 1
Basic Steps to Academic Writing pages 50-55
第22回 Personal safety (3)
Personal safety forum chat
第23回 Personal safety (4)
Assignment 5 Draft 2
Basic Steps to Academic Writing pages 56-61
第24回 Gender (1)
Unit 6 Different types of transitions you can use
第25回 Gender (2)
Assignment 6 Draft 1
Basic Steps to Academic Writing pages 62-68
第26回 Gender (3)
Gender forum chat
第27回 Gender (4)
Assignment 6 Draft 2
Basic Steps to Academic Writing pages 68-73
第28回 Reflection
Reflection
第29回 Reflection
Reflection
第30回 Reflection
Reflection

2022年度 後期

2.0単位

英語表現 (A)

Krieg, Alexander William, Van Antwerpen, Donald Patrick

<授業の方法>

「演習」

<授業の目的>

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができることを目的としている。 This course provide opportunities to develop writing skills through extensive writing practices and develop strategies to write academic essays.

<到達目標>

To be able to

- (1) produce a 250 word essay
- (2) create a coherent essay
- (3) write about various topics
- (4) use proper word order
- (5) use appropriate vocabulary
- (6) produce a logical essay

<授業のキーワード>

essay, grammar, writing

<授業の進め方>

The class will take place twice each week. Lessons will be aimed at improving writing skills. In addition, students are expected to write six essays. After receiving feedback on the first draft of each essay, students are required to make improvements and submit a second draft.

<履修するにあたって>

Attendance and active participation in each class is mandatory.

<授業時間外に必要な学修>

Students will write one essay each unit. Two drafts should be submitted for each essay, and students will be required to make improvements to their essays before re-submitting. Students will be responsible for all homework assignments in addition to work in class. Students should expect to spend approximately 60 minutes each week to complete this work.

<提出課題など>

Online assignments must be submitted by the due date. Any questions should be directed to the course instructor.

< 成績評価方法・基準 >

40% for 6 essays; 40% for forum chats conducted in class; 20% for participation. Essays will be assessed according to essay structure, spelling mistakes, grammar errors, vocabulary, transitional phrases, and passive voice. Forum chats will be assessed according to the number of posts made and words written. Participation will be assessed according to the submission of "Forum chat Set-up and Review" (Friday), and "Writing Assignment Planning", and self-checks (Tuesday).

< テキスト >

Basic Steps to Academic Writing: From Paragraph to Essay, Matthew Taylor, David Kluge, 2011, Cengage Learning, ISBN 978-4-86312-209-3 2850円 (税抜)

< 授業計画 >

第1回 Orientation
Orientation
第2回 Orientation
Orientation
第3回 Japanese culture (1)
Unit 7 Conjecturing alternatives
Basic Steps to Academic Writing pages 74-79
第4回 Japanese culture (2)
Unit 7 Persuasive essay
第5回 Japanese culture (3)
Unit 7 Conjecturing alternatives
Basic Steps to Academic Writing pages 80-87
第6回 Japanese culture (4)
Japanese culture forum chat
第7回 Business (1)
Unit 8 Drawing conclusions
Basic Steps to Academic Writing pages 88-93
第8回 Business (2)
Unit 8 Spoken vs. Written English
第9回 Business (3)
Unit 8 Drawing conclusions
Basic Steps to Academic Writing pages 94-99
第10回 Business (4)
Business forum chat
第11回 Career (1)
Unit 9 Stating results & Justifying procedures
Basic Steps to Academic Writing pages 100-105
第12回 Career (2)

Unit 9 Narrative essay
第13回 Career (3)
Assignment writing
第14回 Career (4)
Unit 9 Narrative essay
Basic Steps to Academic Writing Pages 106-111
第15回 Career (5)
Career forum chat
第16回 Ethnicity (1)
Unit 10 What is a good thesis statement?
Basic Steps to Writing pages 112-116
第17回 Ethnicity (2)
Unit 10 Presenting arguments
第18回 Ethnicity (3)
Assignment writing
第19回 Ethnicity (4)
Unit 11 What is a good thesis statement?
Basic Steps to Academic Writing pages 117-121
第20回 Ethnicity (5)
Ethnicity forum chat
第21回 Science and scientists (1)
Unit 11 Self-reflective writing
Basic Steps to Academic Writing pages 122-126
第22回 Science and scientists (2)
Unit 11 Self-examination
第23回 Science and scientists (3)
Unit 12 APA (3): Self-reflective writing
Basic Steps to Academic Writing pages 127-133
第24回 Science and scientists (4)
Science and scientists forum chat
第25回 Styles of writing (1)
Unit 12 APA (3): In-text citations
Basic Steps to Academic Writing pages 134-135
第26回 Styles of writing (2)
Unit 12 Self-correction
第27回 Styles of writing (3)
Unit 12 When you paraphrase
Basic Steps to Writing pages 136-145
第28回 Styles of writing (4)
Styles of writing forum chat
第29回 Reflection
Reflection
第30回 Reflection
Reflection

2022年度 後期

2.0単位

英語表現 (B)

Nicholas Musty, Petit Marc

< 授業の方法 >

「演習」

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができることを目的としている。 This course provide opportunities to develop writing skills through extensive writing practices and develop strategies to write academic essays.

< 到達目標 >

To be able to

- (1) produce a 250 word essay
- (2) create a coherent essay
- (3) write about various topics
- (4) use proper word order
- (5) use appropriate vocabulary
- (6) produce a logical essay

< 授業のキーワード >

essay, grammar, writing

< 授業の進め方 >

The class will take place twice each week. Lessons will be aimed at improving writing skills. In addition, students are expected to write six essays. After receiving feedback on the first draft of each essay, students are required to make improvements and submit a second draft.

< 履修するにあたって >

Attendance and active participation in each class is mandatory.

< 授業時間外に必要な学修 >

Students will write one essay each unit. Two drafts should be submitted for each essay, and students will be required to make improvements to their essays before re-submitting. Students will be responsible for all homework assignments in addition to work in class. Students should expect to spend approximately 60 minutes each week to complete this work.

< 提出課題など >

Online assignments must be submitted by the due da

te. Any questions should be directed to the course instructor.

< 成績評価方法・基準 >

40% for 6 essays; 40% for forum chats conducted in class; 20% for participation. Essays will be assessed according to essay structure, spelling mistakes, grammar errors, vocabulary, transitional phrases, and passive voice. Forum chats will be assessed according to the number of posts made and words written. Participation will be assessed according to the submission of "Forum chat Set-up and Review" (Friday), and "Writing Assignment Planning", and self-checks (Tuesday).

< テキスト >

Basic Steps to Academic Writing: From Paragraph to Essay, Matthew Taylor, David Kluge, 2011, Cengage Learning, ISBN 978-4-86312-209-3 2850円 (税抜)

< 授業計画 >

第1回 Orientation

Orientation

第2回 Orientation

Orientation

第3回 Japanese culture (1)

Unit 7 Conjecturing alternatives

Basic Steps to Academic Writing pages 74-79

第4回 Japanese culture (2)

Unit 7 Persuasive essay

第5回 Japanese culture (3)

Unit 7 Conjecturing alternatives

Basic Steps to Academic Writing pages 80-87

第6回 Japanese culture (4)

Japanese culture forum chat

第7回 Business (1)

Unit 8 Drawing conclusions

Basic Steps to Academic Writing pages 88-93

第8回 Business (2)

Unit 8 Spoken vs. Written English

第9回 Business (3)

Unit 8 Drawing conclusions

Basic Steps to Academic Writing pages 94-99

第10回 Business (4)

Business forum chat

第11回 Career (1)

Unit 9 Stating results & Justifying procedures

Basic Steps to Academic Writing pages 100-105

第12回 Career (2)

Unit 9 Narrative essay

第13回 Career (3)
Assignment writing

第14回 Career (4)
Unit 9 Narrative essay
Basic Steps to Academic Writing Pages 106-111

第15回 Career (5)
Career forum chat

第16回 Ethnicity (1)
Unit 10 What is a good thesis statement?
Basic Steps to Writing pages 112-116

第17回 Ethnicity (2)
Unit 10 Presenting arguments

第18回 Ethnicity (3)
Assignment writing

第19回 Ethnicity (4)
Unit 11 What is a good thesis statement?
Basic Steps to Academic Writing pages 117-121

第20回 Ethnicity (5)
Ethnicity forum chat

第21回 Science and scientists (1)
Unit 11 Self-reflective writing
Basic Steps to Academic Writing pages 122-126

第22回 Science and scientists (2)
Unit 11 Self-examination

第23回 Science and scientists (3)
Unit 12 APA (3): Self-reflective writing
Basic Steps to Academic Writing pages 127-133

第24回 Science and scientists (4)
Science and scientists forum chat

第25回 Styles of writing (1)
Unit 12 APA (3): In-text citations
Basic Steps to Academic Writing pages 134-135

第26回 Styles of writing (2)
Unit 12 Self-correction

第27回 Styles of writing (3)
Unit 12 When you paraphrase
Basic Steps to Writing pages 136-145

第28回 Styles of writing (4)
Styles of writing forum chat

第29回 Reflection
Reflection

第30回 Reflection
Reflection

2022年度 後期

2.0単位

英語表現 (C)

荒島 千鶴、原 良子

< 授業の方法 >

「演習」

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができることを目的としている。 This course provide opportunities to develop writing skills through extensive writing practices and develop strategies to write academic essays.

< 到達目標 >

To be able to
(1) produce a 250 word essay
(2) create a coherent essay
(3) write about various topics
(4) use proper word order
(5) use appropriate vocabulary
(6) produce a logical essay

< 授業のキーワード >

essay, grammar, writing

< 授業の進め方 >

The class will take place twice each week. Lessons will be aimed at improving writing skills. In addition, students are expected to write six essays. After receiving feedback on the first draft of each essay, students are required to make improvements and submit a second draft.

< 履修するにあたって >

Attendance and active participation in each class is mandatory.

< 授業時間外に必要な学修 >

Students will write one essay each unit. Two drafts should be submitted for each essay, and students will be required to make improvements to their essays before re-submitting. Students will be responsible for all homework assignments in addition to work in class. Students should expect to spend approximately 60 minutes each week to complete this work.

< 提出課題など >

Online assignments must be submitted by the due date. Any questions should be directed to the course instructor.

< 成績評価方法・基準 >

40% for 6 essays; 40% for forum chats conducted in class; 20% for participation. Essays will be assessed according to essay structure, spelling mistakes, grammar errors, vocabulary, transitional phrases,

es, and passive voice. Forum chats will be assessed according to the number of posts made and words written. Participation will be assessed according to the submission of "Forum chat Set-up and Review" (Friday), and "Writing Assignment Planning", and self-checks (Tuesday).

<テキスト>

Basic Steps to Academic Writing: From Paragraph to Essay, Matthew Taylor, David Kluge, 2011, Cengage Learning, ISBN 978-4-86312-209-3 2850円 (税抜)

<授業計画>

第1回 Orientation
Orientation
第2回 Orientation
Orientation
第3回 Japanese culture (1)
Unit 7 Conjecturing alternatives
Basic Steps to Academic Writing pages 74-79
第4回 Japanese culture (2)
Unit 7 Persuasive essay
第5回 Japanese culture (3)
Unit 7 Conjecturing alternatives
Basic Steps to Academic Writing pages 80-87
第6回 Japanese culture (4)
Japanese culture forum chat
第7回 Business (1)
Unit 8 Drawing conclusions
Basic Steps to Academic Writing pages 88-93
第8回 Business (2)
Unit 8 Spoken vs. Written English
第9回 Business (3)
Unit 8 Drawing conclusions
Basic Steps to Academic Writing pages 94-99
第10回 Business (4)
Business forum chat
第11回 Career (1)
Unit 9 Stating results & Justifying procedures
Basic Steps to Academic Writing pages 100-105
第12回 Career (2)
Unit 9 Narrative essay
第13回 Career (3)
Assignment writing
第14回 Career (4)
Unit 9 Narrative essay
Basic Steps to Academic Writing Pages 106-111
第15回 Career (5)
Career forum chat

第16回 Ethnicity (1)
Unit 10 What is a good thesis statement?
Basic Steps to Writing pages 112-116
第17回 Ethnicity (2)
Unit 10 Presenting arguments
第18回 Ethnicity (3)
Assignment writing
第19回 Ethnicity (4)
Unit 11 What is a good thesis statement?
Basic Steps to Academic Writing pages 117-121
第20回 Ethnicity (5)
Ethnicity forum chat
第21回 Science and scientists (1)
Unit 11 Self-reflective writing
Basic Steps to Academic Writing pages 122-126
第22回 Science and scientists (2)
Unit 11 Self-examination
第23回 Science and scientists (3)
Unit 12 APA (3): Self-reflective writing
Basic Steps to Academic Writing pages 127-133
第24回 Science and scientists (4)
Science and scientists forum chat
第25回 Styles of writing (1)
Unit 12 APA (3): In-text citations
Basic Steps to Academic Writing pages 134-135
第26回 Styles of writing (2)
Unit 12 Self-correction
第27回 Styles of writing (3)
Unit 12 When you paraphrase
Basic Steps to Writing pages 136-145
第28回 Styles of writing (4)
Styles of writing forum chat
第29回 Reflection
Reflection
第30回 Reflection
Reflection

2022年度 後期

2.0単位

英語表現 (D)

Nicholas Musty、原 良子

<授業の方法>

「演習」

<授業の目的>

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で

効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができることを目的としている。This course provide opportunities to develop writing skills through extensive writing practices and develop strategies to write academic essays.

<到達目標>

To be able to

- (1) produce a 250 word essay
- (2) create a coherent essay
- (3) write about various topics
- (4) use proper word order
- (5) use appropriate vocabulary
- (6) produce a logical essay

<授業のキーワード>

essay, grammar, writing

<授業の進め方>

The class will take place twice each week. Lessons will be aimed at improving writing skills. In addition, students are expected to write six essays. After receiving feedback on the first draft of each essay, students are required to make improvements and submit a second draft.

<履修するにあたって>

Attendance and active participation in each class is mandatory.

<授業時間外に必要な学修>

Students will write one essay each unit. Two drafts should be submitted for each essay, and students will be required to make improvements to their essays before re-submitting. Students will be responsible for all homework assignments in addition to work in class. Students should expect to spend approximately 60 minutes each week to complete this work.

<提出課題など>

Online assignments must be submitted by the due date. Any questions should be directed to the course instructor.

<成績評価方法・基準>

40% for 6 essays; 40% for forum chats conducted in class; 20% for participation. Essays will be assessed according to essay structure, spelling mistakes, grammar errors, vocabulary, transitional phrases, and passive voice. Forum chats will be assessed according to the number of posts made and words written. Participation will be assessed according to the submission of "Forum chat Set-up and Review" (Friday), and "Writing Assignment Planning", and self-checks (Tuesday).

<テキスト>

Basic Steps to Academic Writing: From Paragraph to Essay, Matthew Taylor, David Kluge, 2011, Cengage Learning, ISBN 978-4-86312-209-3 2850円 (税抜)

<授業計画>

第1回 Orientation

Orientation

第2回 Orientation

Orientation

第3回 Japanese culture (1)

Unit 7 Conjecturing alternatives

Basic Steps to Academic Writing pages 74-79

第4回 Japanese culture (2)

Unit 7 Persuasive essay

第5回 Japanese culture (3)

Unit 7 Conjecturing alternatives

Basic Steps to Academic Writing pages 80-87

第6回 Japanese culture (4)

Japanese culture forum chat

第7回 Business (1)

Unit 8 Drawing conclusions

Basic Steps to Academic Writing pages 88-93

第8回 Business (2)

Unit 8 Spoken vs. Written English

第9回 Business (3)

Unit 8 Drawing conclusions

Basic Steps to Academic Writing pages 94-99

第10回 Business (4)

Business forum chat

第11回 Career (1)

Unit 9 Stating results & Justifying procedures

Basic Steps to Academic Writing pages 100-105

第12回 Career (2)

Unit 9 Narrative essay

第13回 Career (3)

Assignment writing

第14回 Career (4)

Unit 9 Narrative essay

Basic Steps to Academic Writing Pages 106-111

第15回 Career (5)

Career forum chat

第16回 Ethnicity (1)

Unit 10 What is a good thesis statement?

Basic Steps to Writing pages 112-116

第17回 Ethnicity (2)

Unit 10 Presenting arguments

第18回 Ethnicity (3)

Assignment writing

第19回 Ethnicity (4)
 Unit 11 What is a good thesis statement?
 Basic Steps to Academic Writing pages 117-121
 第20回 Ethnicity (5)
 Ethnicity forum chat
 第21回 Science and scientists (1)
 Unit 11 Self-reflective writing
 Basic Steps to Academic Writing pages 122-126
 第22回 Science and scientists (2)
 Unit 11 Self-examination
 第23回 Science and scientists (3)
 Unit 12 APA (3): Self-reflective writing
 Basic Steps to Academic Writing pages 127-133
 第24回 Science and scientists (4)
 Science and scientists forum chat
 第25回 Styles of writing (1)
 Unit 12 APA (3): In-text citations
 Basic Steps to Academic Writing pages 134-135
 第26回 Styles of writing (2)
 Unit 12 Self-correction
 第27回 Styles of writing (3)
 Unit 12 When you paraphrase
 Basic Steps to Writing pages 136-145
 第28回 Styles of writing (4)
 Styles of writing forum chat
 第29回 Reflection
 Reflection
 第30回 Reflection
 Reflection

 2022年度 後期

2.0単位

英語表現 (E)

Petit Marc、Van Antwerpen, Donald Patrick

< 授業の方法 >

「演習」

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができることを目的としている。 This course provide opportunities to develop writing skills through extensive writing practices and develops strategies to write academic essays.

< 到達目標 >

To be able to

- (1) produce a 250 word essay
- (2) create a coherent essay
- (3) write about various topics
- (4) use proper word order
- (5) use appropriate vocabulary
- (6) produce a logical essay

< 授業のキーワード >

essay, grammar, writing

< 授業の進め方 >

The class will take place twice each week. Lessons will be aimed at improving writing skills. In addition, students are expected to write six essays. After receiving feedback on the first draft of each essay, students are required to make improvements and submit a second draft.

< 履修するにあたって >

Attendance and active participation in each class is mandatory.

< 授業時間外に必要な学修 >

Students will write one essay each unit. Two drafts should be submitted for each essay, and students will be required to make improvements to their essays before re-submitting. Students will be responsible for all homework assignments in addition to work in class. Students should expect to spend approximately 60 minutes each week to complete this work.

< 提出課題など >

Online assignments must be submitted by the due date. Any questions should be directed to the course instructor.

< 成績評価方法・基準 >

40% for 6 essays; 40% for forum chats conducted in class; 20% for participation. Essays will be assessed according to essay structure, spelling mistakes, grammar errors, vocabulary, transitional phrases, and passive voice. Forum chats will be assessed according to the number of posts made and words written. Participation will be assessed according to the submission of "Forum chat Set-up and Review" (Friday), and "Writing Assignment Planning", and self-checks (Tuesday).

< テキスト >

Basic Steps to Academic Writing: From Paragraph to Essay, Matthew Taylor, David Kluge, 2011, Cengage Learning, ISBN 978-4-86312-209-3 2850円 (税抜)

< 授業計画 >

第1回 Orientation
Orientation
第2回 Orientation
Orientation
第3回 Japanese culture (1)
Unit 7 Conjecturing alternatives
Basic Steps to Academic Writing pages 74-79
第4回 Japanese culture (2)
Unit 7 Persuasive essay
第5回 Japanese culture (3)
Unit 7 Conjecturing alternatives
Basic Steps to Academic Writing pages 80-87
第6回 Japanese culture (4)
Japanese culture forum chat
第7回 Business (1)
Unit 8 Drawing conclusions
Basic Steps to Academic Writing pages 88-93
第8回 Business (2)
Unit 8 Spoken vs. Written English
第9回 Business (3)
Unit 8 Drawing conclusions
Basic Steps to Academic Writing pages 94-99
第10回 Business (4)
Business forum chat
第11回 Career (1)
Unit 9 Stating results & Justifying procedures
Basic Steps to Academic Writing pages 100-105
第12回 Career (2)
Unit 9 Narrative essay
第13回 Career (3)
Assignment writing
第14回 Career (4)
Unit 9 Narrative essay
Basic Steps to Academic Writing Pages 106-111
第15回 Career (5)
Career forum chat
第16回 Ethnicity (1)
Unit 10 What is a good thesis statement?
Basic Steps to Writing pages 112-116
第17回 Ethnicity (2)
Unit 10 Presenting arguments
第18回 Ethnicity (3)
Assignment writing
第19回 Ethnicity (4)
Unit 11 What is a good thesis statement?
Basic Steps to Academic Writing pages 117-121
第20回 Ethnicity (5)
Ethnicity forum chat
第21回 Science and scientists (1)
Unit 11 Self-reflective writing

Basic Steps to Academic Writing pages 122-126
第22回 Science and scientists (2)
Unit 11 Self-examination
第23回 Science and scientists (3)
Unit 12 APA (3): Self-reflective writing
Basic Steps to Academic Writing pages 127-133
第24回 Science and scientists (4)
Science and scientists forum chat
第25回 Styles of writing (1)
Unit 12 APA (3): In-text citations
Basic Steps to Academic Writing pages 134-135
第26回 Styles of writing (2)
Unit 12 Self-correction
第27回 Styles of writing (3)
Unit 12 When you paraphrase
Basic Steps to Writing pages 136-145
第28回 Styles of writing (4)
Styles of writing forum chat
第29回 Reflection
Reflection
第30回 Reflection
Reflection

2022年度 前期

2.0単位
英米文学
林 剛司

<授業の方法>
講義 演習

GCスクエア上の「英米文学 & _2022」というところをクリックすると、授業のテキストや重要な連絡事項を見ることができます。これが見れない場合は、GCスクエア上に登録されていない可能性があり、今後、授業、課題、試験等を受けられない可能性が生じます。

もしGCスクエア上で「英米文学 & _2022」のページを見ることができない人は、できるだけ早く私へメールください。よろしくお願いいたします。

林 (thayashi@gc.kobegakuin.ac.jp)

<授業の目的>

本科目は、ディプロマポリシーの中でも、3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる、4. (英語コース)教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができるを主眼とし、アメリカ・イギリス文学についての基礎的な知識を身に付けるとともに、現代において英米文学を学ぶこ

との意義について考える。

<到達目標>

本科目は以下を目標としています。

1. 英米文学が現在の自分とどのような関わりがあるかを受講生が実感できる。

2. 文学をより身近なものとして捉えられるようになることができる。

3. 英米文学、英米児童文学を読む楽しさを体感することができる。

<授業のキーワード>

アメリカ文学 イギリス文学 児童文学

<授業の進め方>

テキスト(『中学英語から始める洋書の世界』)と、Charles Dickens作Great Expectationsを読んでいきます。Great Expectationsはプリントを用います。

授業前に、テキストとプリントをよく予習してから、授業に参加してください。テキストを早く入手し、今から少しずつ読み進めておいてください。テキストとプリントの本文(英文)は辞書を活用しながら、丁寧に細かく精読してください。

テキストは、特に解説動画がありませんので、各自で読み進めていき、小テスト(またはレポート)を提出していただきます。

プリントは、GC Squareにアップします。そのプリントをよく予習し、講義動画(YouTubeにアップします)を視聴してください。

授業は、皆さんが予習を済ませてあるという前提で進めます。

<履修するにあたって>

教職科目であるので(もちろん教職志望でない学生も受講できるが)、厳しい授業になる(特に英語を「読む」点において)。文学(日本文学でも英米文学でも)に多少なりとも興味があること、そして何よりもテキスト(文学作品)の英文を、辞書や文法書を使いながら丁寧に読んで来ることができる学生のみ履修していただきたい。予習ができない学生、授業態度に問題がある学生は、授業中であっても退室を求めることもある。

<授業時間外に必要な学修>

ほぼ毎回、作品を事前に読む課題があります(英語で)。必ず辞書を使って精読してくること。この予習のために、授業外で最低1時間の学習を必要とします。テストやレポートについては第1回目の授業で説明するので、必ず出席すること。

<提出課題など>

提出物のフィードバックに関しては、メール、またはGC Squareを通して行う。

<成績評価方法・基準>

中間テスト 50%

期末テスト 50%

<テキスト>

林 剛司『中学英語から始める洋書の世界』(青春出版社)

ISBN-13 : 978-4413085038

テキストをなるべく早め入手し、予習を進めて行ってください(辞書を大いに使うことになると思いますので、時間がかかりますから、コツコツと進めてください)。Great Expectationsのテキスト(プリント)は、GC Squareへの学生登録が済み次第、なるべく早めにアップします。

<参考図書>

川崎寿彦『イギリス文学史』(成美堂)

西田 実『アメリカ文学史』(成美堂)

林 剛司『「受験英語」でシャーロック “The Adventure of the Speckled Band”を読む』(デザインエッグ社)

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の進め方、課題、成績評価などについて説明し、質疑応答の時間も取りたいと思っています。

第2回 1. 英米の児童文学

2. Great Expectations

1. テキスト Chapter 01-02 (p.10-16)

2. {DickensのGreat Expectations (retold版)を読む<第1回>, <https://youtu.be/aRdRGT2zyE0>}

この講義動画を視聴してください。

{Great Expectations朗読音声, <https://youtu.be/Roud8HC8R-w>}

テキスト本文の朗読が聞けます。ご自身の学習、音読の際に役に立つと思います。

第3回 1. 英米の児童文学

2. Great Expectations

1. テキスト Chapter 03-04 (p.17-24)

2. {DickensのGreat Expectations<第2回>, <https://youtu.be/NFlueafYPmY>}

第4回 1. 英米の児童文学

1. テキスト Chapter 05-07 (p.25-37)

第5回 1. 英米の児童文学

1. テキスト Chapter 08-10 (p.38-49)

第6回 1. 英米の児童文学

2. Great Expectations

1. テキスト Chapter 11-12 (p.50-57)

2. {DickensのGreat Expectations<第3回>, <https://youtu.be/wpZRneLRT1Q>}

第7回 1. 英米の児童文学

1. テキスト Chapter 13-15 (p.58-70)

第8回 . 中間テスト

1. 英米の児童文学

Great Expectationsはお休み

中間テスト

試験問題は6月1日に、GCスクエアの「英米文学 & _2022」のページ内にある「ニュースフォーラム」上にアップします。そちらをご覧ください。

テスト範囲は、

テキスト Chapter 01-15 (p.10-70)

音読につきましては、動画{英語の音読、どうやればいい? ,<https://youtu.be/1e87odBTFsS>}参照。

中間テストにはGreat Expectationsからの出題は無し。

第9回 1. 英米の児童文学

2. Great Expectations

1. テキスト Chapter 16-17 (p.71-80)

2. {DickensのGreat Expectations < 第4回 > ,<https://youtu.be/2CA99tUxVtg>}

第10回 1. 英米の児童文学

2. Great Expectations

1. テキスト Chapter 18 (p.81-84)

2. {DickensのGreat Expectations< 第4回 > ,<https://youtu.be/2DG5sr1zsn0>}

第11回 1. 英米の児童文学

1. テキスト Chapter 19-20 (p.85-92)

第12回 1. 英米の児童文学

1. テキスト Chapter 21-22 (p.93-99)

第13回 2. Great Expectations

2. {DickensのGreat Expectations< 第5回 > ,<https://youtu.be/tQfQYzLg-bk>}

第14回 2. Great Expectations

2. {DickensのGreat Expectations< 第6回 > ,<https://youtu.be/Sgbr4LjDbqQ>}

第15回 まとめ

総括 / 最終試験について

期末試験の問題用紙については、GCスクエア上にアップします(そして、そこから自動メール送信されます)。これが見れないという場合は至急、担当教員(林)までメールください。

2022年度 後期

2.0単位

英米文学

林 剛司

< 授業の方法 >

下の< 授業計画 >に示してある授業動画を見ながら、テキストをよく読んで学習を進めてください。テキストはウェブサイト「GCスクエア」上にアップしてありますので、購入する必要はありません。最後の期末試験について、あるいは連絡事項があれば随時GCスクエアを通じて連絡します。

従いまして、GCスクエアを見ることが必須となります。GCスクエアのどこを見ればいいのかというと、GCスクエア「英米文学 & _2022」「ニュースフォーラム」です。ほぼ全ての連絡事項、教材は「ニュースフォーラム」にアップしていきます(これは、登録者には同時にメールでも自動送信されているはずです)。

前期(英米文学)を履修した人は自動的にもうGCスクエアに登録されていますが、後期のこの授業から履修を始める人はGCスクエアに登録されていません。そこで、登録する必要がありますので、この授業から初めて履修する方は、なるべく早く担当教員(林)に連絡ください(GCスクエアの登録は学生ではなく、教員のみができるので)。

< 授業の目的 >

本科目は、ディプロマポリシーの中でも、3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる、4. (英語コース)教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができるを主眼とし、英米文学についての基礎的な知識を身に付けるとともに、文学作品が提供してくれるエスニシティやジェンダーの問題について考える。

< 到達目標 >

本科目は以下を目標としています。

1. 英米文学が現在の自分とどのような関わりがあるかを受講生が実感できる。
2. 文学をより身近なものとして捉えられるようになることができる。
3. 英米文学を読む楽しさを体感することができる。

< 授業のキーワード >

Charles Dickens (チャールズ・ディケンズ) 19世紀 ヴィクトリア朝 ロンドン

『大いなる遺産』 Great Expectations

< 授業の進め方 >

前期（英米文学）から読んでいる、DickensのGreat Expectations (retold版)の続きを丁寧に読んでいきます。（「英米文学」を履修していなかった人は、授業動画がありますので、そちらをご覧ください。あるいは翻訳を読んだり、映画を見ていただいてもいいです。また授業の初回でお知らせします。

<履修するにあたって>

文学（日本文学でも英米文学でも）に多少なりとも興味があること、そして何よりもテキスト（文学作品）の英文を、辞書や文法書を使いながら丁寧に読んで来ることができる学生のみ履修していただきたい。

<授業時間外に必要な学修>

テキストの指定された箇所を必ずよく読んでおくこと（予習）。辞書を使って、時間を使い、丁寧にテキストを読み込む努力ができる方でない、受講は厳しいと思います。授業時間外に最低1時間の学習が必要です。

<提出課題など>

提出物のフィードバックに関しては、授業内で行う。

<成績評価方法・基準>

期末試験100%で評価

試験は、筆記と音読を予定している。

中間試験は実施しない。

<テキスト>

林 剛司『中学英語から始める洋書の世界』（青春出版社）

ISBN-13 : 978-4413085038

テキストをなるべく早めに入手し、予習を進めて行ってください（辞書を大いに使うことになると思いますので、時間がかかりますから、コツコツと進めてください）。Great Expectationsのテキスト（プリント）は、GC Squareへの学生登録が済み次第、なるべく早めにアップします。

<参考図書>

・林 剛司『「受験英語」でシャーロック：“The Adventure of the Speckled Band”を読む』デザインエッグ社、2021年、ISBN-13 : 978-4815018429（読んでいただければ、洋書を楽しんで読みながら、中学高校で学んだ英文法も確認でき、洋書読書生活へ入っていく方法がお分かりいただけるとと思います）

テキストのGreat Expectationsは、河出文庫や新潮文庫から良い翻訳が出ていますので、参照ください。

<授業計画>

第1回 Great Expectations

作家について、そして前期（英米文学）で読んだ部分について簡単に説明しましたので、特に英米文学を履修していない人はこちらをご覧ください。

{Great Expectationsを読む<第1回>, <https://youtu.be/aRdRGT2zyE0>}

また、前期（英米文学）を履修していない方は、前期で読んだ部分の授業動画を見ることをお勧めします。上のリンクの動画ページを見ていただくと、前期の授業動画の全てのリンクがページに貼られてあります。

{Great Expectations朗読音声, <https://youtu.be/Roud8HC8R-w>}

テキスト本文の朗読が聞けます。ご自身の学習、音読の際に役に立つと思います。

第2回 1. 英米の児童文学

2. Great Expectations

1. テキスト Chapter 23-24 (p.100-110)

2. Great Expectations {第7章 前半 (p.39-42), <https://youtu.be/EaLQMLzYo4M>}

第3回 1. 英米の児童文学

2. Great Expectations

1. テキスト Chapter 25-26 (p.111-118)

2. {第7章 後半 (p.42-47), https://youtu.be/_SQeu48r5BY}

第4回 1. 英米の児童文学

2. Great Expectations

1. テキスト Chapter 27-28 (p.119-124)

2. {第8章 (p.47-51), <https://youtu.be/5jTGOP80Tnc>}

第5回 1. 英米の児童文学

2. Great Expectations

1. テキスト Chapter 29 (p.125-126)

2. {第9章 前半 (p.51-53), <https://youtu.be/s7cjHQProTo>}

{第9章 後半 (p.53-58), https://youtu.be/MeRqBDj_UkU}

第6回 2. Great Expectations

2. {第10章 前半 (p.58-61), <https://youtu.be/BTJjUfasGdc>}

{第10章 後半 (p.61-66), <https://youtu.be/v5Tp8x8Wykw>}

{英語の音読、どうやればいい? <はじめの一步>, <https://youtu.be/le87odBTFsS>}

試験では、テキストの指定箇所（詳細は後日発表します）を音読していただくこともありますので、こちらの動画を参考にしていただければ、と思います。

第7回 1. 英米の児童文学

2. Great Expectations

1. テキスト Chapter 30-31 (p.127-133)

2. {第11章 前半 (p.66-69), <https://youtu.be/LF-cz2dMq0s>}

第8回 1 . 英米の児童文学

2 . Great Expectations

1 . テキスト Chapter 32-33 (p.134-142)

2 . {第11章 後半(p.69-73),https://youtu.be/XSpxvMC_Us4}

第9回 1 . 英米の児童文学

2 . Great Expectations

1 . テキスト Chapter 34 (p.143-148)

2 . {第12章 (p.74-78) ,<https://youtu.be/Tbss8VGQh5Q> }

第10回 1 . 英米の児童文学

2 . Great Expectations

1 . テキスト Chapter 35 (p.149-155)

2 . {第13章 (p.78-82),<https://youtu.be/P8AmdfRSFjU>}

第11回 1 . 英米の児童文学

1 . テキスト Chapter 36 (p.156-159)

第12回 1 . 英米の児童文学

1 . テキスト Chapter 37 (p.160-163)

第13回 1 . 英米の児童文学

1 . テキスト Chapter 38 (p.164-168)

第14回 1 . 英米の児童文学

2 . Great Expectations

上に授業動画のリンクをまとめて(固めて)貼りしましたので、それらをよくご覧ください。動画の数が多く、時間も長いので、まとめて一気に見ると大変です。各自、自分のペースで構いませんが、少しずつ勉強を進めてください。

第15回 期末試験

まとめ&期末試験

期末試験につきましては、GCスクエアを通じてお知らせすることになりますが、念のためここにも記す予定です。

2022年度 前期

4.0単位

応用英語会話

表谷 純子

< 授業の方法 >

Seminar and lecture

< 授業の目的 >

PURPOSE: The purpose of this subject is to have students learn to acquire advanced skill for English communication as well as learn to acquire the power of communication to work with people who speak a language other than Japanese cooperatively. The two aims correspond to the diploma policy No.1 and No.2 of the Faculty of Global Communication.

< 到達目標 >

GOALS: After taking this class, students

1) will be able to communicate in English fluently with people whose mother tongue is not Japanese,
2) will learn to cooperate with people in the international environment using English effectively, and

3) will learn to cope with various tasks in the international setting by communicating effectively in English.

< 授業の進め方 >

CLASS MANAGEMENT: Style of the learning/teaching in this class will vary according to each subject to be dealt with. However, in most cases, students will experience a so-called "active learning" style, preceded by a tutor's introduction of the subject.

< 履修するにあたって >

FURTHER NOTE: Below is just the sample of the first two weeks of the Cambridge University program. These types of classes will continue normally for 10 weeks. All class activities of these 10 weeks constitute the whole integrated course, but 1/3 (a little more than 90 hours) of the class activities will be regarded as relevant activities for the subject of Advanced English Conversation.

* STUDENTS ARE NOT ALLOWED TO LEAVE THE COUNTRY WHERE CLASSES ARE OFFERED. THIS APPLIES TO ALL PROGRAMS FOR THE ENGLISH COURSE.

* 研修中に研修実施国から離れ外国に行くことは一切許されません。これはすべての研修先において同じです。研修先で授業が実施されない期間に日本から家族の方が来られた場合でも、一緒に研修国以外の国に出かけることは一切許されません。

< 授業時間外に必要な学修 >

At least 60 minute study time will be needed outside the class for each class hour.

< 提出課題など >

Students will be frequently asked to submit reports and challenge presentation. Online activities will be also assigned. Feedback for these activities will be offered at each tutor's office.

< 成績評価方法・基準 >

Report: 40 %
Presentation: 20%
Contribution to the class: 20%
Teamwork: 20%

< テキスト >

To be announced at the beginning of the course.

< 授業計画 >

第1回 Intercultural Studies

Intercultural Studies 1

第2回 Language Skills I

Talking about daily life in our countries.

第3回 Speaking & Pronunciation Skills I

Sounding natural

第4回 Intercultural Studies

Intercultural Studies 2

第5回 Language Skills II

Tense review - past present and future

第6回 Speaking & Pronunciation Skills II

Social English

第7回 Academic Listening Skills

I understand you perfectly: Listening to and decoding spoken English.

第8回 Language Skills III

Vocabulary review - dealing with and learning vocabulary

第9回 Academic Writing / Written Expression I

Thinking about issues and turning spoken ideas into writing

paragraphs, coherence and cohesion

第10回 Intercultural Studies

Intercultural Studies 3

第11回 Language Skills IV

Language review - register, formality and language choice

第12回 Academic Writing / Written Expression II

Thinking about issues and turning spoken ideas into writing: Being a reader-friendly writer

第13回 Cultural Studies I

Things you need to know about the United Kingdom

第14回 Reading and Research I

Preparation for Saturday's praxis about London. Reading - speed reading techniques. Finding out about London

第15回 Presentation Skills I

Language and techniques of presentations.

第16回 Applied Communication Praxis

Applied Communication Praxis: London

第17回 Language Practice I

The dragon's Den project - students work in groups to pitch a Japanese product to the UK market

第18回 Presentation Skills II

Language and techniques of presentations.

第19回 Intercultural Studies

Intercultural Studies 4

第20回 Language Practice II

The dragon's Den project - students work in groups to pitch a Japanese product to the UK market

第21回 Grammar & Language Practice I

The language of everyday - describing processes and how things work, explaining and describing.

第22回 Cultural Studies II

Myths and Legends/The English/Cultural identities

第23回 Language Practice III

The dragon's Den project - students work in groups to pitch a Japanese product to the UK market

第24回 Grammar & Language Practice II

The past. Famous people and events that changed the world. Narrative functions and comparison and contrast of past with present.

第25回 Intercultural Studies

Intercultural Studies 5

第26回 Language Practice IV

The dragon's Den project - students work in groups to pitch a Japanese product to the UK market

第27回 Presentation Skills III

Group Presentations of the Dragon's Den challenge

第28回 Cultural Studies III

Murdock's Cultural Universals: discussion and comparison of cultures and behaviours

第29回 Reading and Research II

Stratford-upon-Avon day. Preparation for Saturday's Communication Praxis for Stratford-upon-Avon. Finding out about Shakespeare's world

第30回 Presentation Skills IV

Short presentation practice in groups - The Shakespeare Mystery.

2022年度 前期

4.0単位

応用英語読解

表谷 純子

< 授業の方法 >

Seminar and lecture

< 授業の目的 >

PURPOSE: The purpose of this subject is to have students learn to acquire advanced skill for English communication as well as learn to acquire the power of communication to work with people who speak a language other than Japanese cooperatively. The two aims correspond to the diploma policy No.1 and No.2 of the Faculty of Global Communication.

< 到達目標 >

GOALS: After taking this class, students

- 1) will be able to communicate in English fluently with people whose mother tongue is not Japanese,
- 2) will learn to cooperate with people in the international environment using English effectively, and
- 3) will learn to cope with various tasks in the international setting by communicating effectively in English.

< 授業の進め方 >

CLASS MANAGEMENT: Style of the learning/teaching in this class will vary according to each subject to be dealt with. However, in most cases, students will experience a so-called "active learning" style, preceded by a tutor's introduction of the subject.

< 履修するにあたって >

FURTHER NOTE: Below is just the sample of the first two weeks of the Cambridge University program. These types of classes will continue for 10 weeks. All class activities of these 10 weeks constitute the whole integrated course, but 1/3 (a little more than 90 hours) of the class activities will be regarded as relevant activities for the subject of Advanced English Reading.

* STUDENTS ARE NOT ALLOWED TO LEAVE THE COUNTRY WHERE CLASSES ARE OFFERED. THIS APPLIES TO ALL PROGRAMS FOR THE ENGLISH COURSE.

* 研修中に研修実施国から離れ外国に行くことは一切許

されません。これはすべての研修先において同じです。研修先で授業が実施されない期間に日本から家族の方が来られた場合でも、一緒に研修国以外の国に出かけることは一切許されません。

< 授業時間外に必要な学修 >

At least 60 minute study time will be needed outside the class for each class hour.

< 提出課題など >

Students will be frequently asked to submit reports and challenge presentation. Online activities will be also assigned. Feedback for these activities will be offered at each tutor's office.

< 成績評価方法・基準 >

Report: 40 %

Presentation: 20%

Contribution to the class: 20%

Teamwork: 20%

< テキスト >

To be announced at the beginning of the course.

< 授業計画 >

第1回 Intercultural Studies

Intercultural Studies 1

第2回 Language Skills I

Talking about daily life in our countries.

第3回 Speaking & Pronunciation Skills I

Sounding natural

第4回 Intercultural Studies

Intercultural Studies 2

第5回 Language Skills II

Sounding natural

Tense review - past present and future

第6回 Speaking & Pronunciation Skills II

Sounding natural

Social English

第7回 Academic Listening Skills

Sounding natural

I understand you perfectly: Listening to and decoding spoken English.

Sounding natural

第8回 Language Skills III

Sounding natural

Vocabulary review - dealing with and learning vocabulary

第9回 Academic Writing / Written Expression I

Sounding natural

Thinking about issues and turning spoken ideas into writing

paragraphs, coherence and cohesion

第10回 Intercultural Studies

Intercultural Studies 3

第11回 Language Skills IV

Language review - register, formality and language choice

第12回 Academic Writing / Written Expression II

Thinking about issues and turning spoken ideas into writing: Being a reader-friendly writer

第13回 Cultural Studies I

Things you need to know about the United Kingdom

第14回 Reading and Research I

Preparation for Saturday's praxis about London. Reading - speed reading techniques. Finding out about London

第15回 Presentation Skills I

Language and techniques of presentations.

第16回 Applied Communication Praxis

Applied Communication Praxis: London

第17回 Language Practice I

The dragon's Den project - students work in groups to pitch a Japanese product to the UK market

第18回 Presentation Skills II

Language and techniques of presentations.

第19回 Intercultural Studies

Intercultural Studies 4

第20回 Language Practice II

The dragon's Den project - students work in groups to pitch a Japanese product to the UK market

第21回 Grammar & Language Practice I

The language of everyday - describing processes and how things work, explaining and describing.

第22回 Cultural Studies II

Myths and Legends/The English/Cultural identities

第23回 Language Practice III

The dragon's Den project - students work in groups to pitch a Japanese product to the UK market

第24回 Grammar & Language Practice II

The past. Famous people and events that changed the world. Narrative functions and comparison and contrast of past with present.

第25回 Intercultural Studies

Intercultural Studies 5

第26回 Language Practice IV

The dragon's Den project - students work in groups to pitch a Japanese product to the UK market

第27回 Presentation Skills III

Group Presentations of the Dragon's Den challenge

第28回 Cultural Studies III

Murdock's Cultural Universals: discussion and comparison of cultures and behaviours

第29回 Reading and Research II

Stratford-upon-Avon day. Preparation for Saturday's Communication Praxis for Stratford-upon-Avon. Finding out about Shakespeare's world

第30回 Presentation Skills IV

Short presentation practice in groups - The Shakespeare Mystery.

2022年度 前期

4.0単位

応用英語表現
表谷 純子

<授業の方法>

Seminar and lecture

<授業の目的>

PURPOSE: The purpose of this subject is to have students learn to acquire advanced skill for English communication as well as learn to acquire the power of communication to work with people who speak a language other than Japanese cooperatively. The two aims correspond to the diploma policy No.1 and No.2 of the Faculty of Global Communication.

<到達目標>

GOALS: After taking this class, students

1) will be able to communicate in English fluently with people whose mother tongue is not Japanese,
2) will learn to cooperate with people in the international environment using English effectively, and

3) will learn to cope with various tasks in the international setting by communicating effectively in English.

<授業の進め方>

CLASS MANAGEMENT: Style of the learning/teaching i

n this class will vary according to each subject to be dealt with. However, in most cases, students will experience a so-called "active learning" style, preceded by a tutor's introduction of the subject.

<履修するにあたって>

FURTHER NOTE: Below is just the sample of the first two weeks of the Cambridge University program. These types of classes will continue for 10 weeks.

All class activities of these 10 weeks constitute the whole integrated course, but 1/3 (a little more than 90 hours) of the class activities will be regarded as relevant activities for the subject of Advanced English Writing.

*STUDENTS ARE NOT ALLOWED TO LEAVE THE COUNTRY WHERE CLASSES ARE OFFERED. THIS APPLIES TO ALL PROGRAMS FOR THE ENGLISH COURSE.

* 研修中に研修実施国から離れ外国に行くことは一切許されません。これはすべての研修先において同じです。研修先で授業が実施されない期間に日本から家族の方が来られた場合でも、一緒に研修国以外の国に出かけることは一切許されません。

< 授業時間外に必要な学修 >

At least 60 minute study time will be needed outside the class for each class hour.

< 提出課題など >

Students will be frequently asked to submit reports and challenge presentation. Online activities will be also assigned. Feedback for these activities will be offered at each tutor's office.

< 成績評価方法・基準 >

Report: 40 %

Presentation: 20%

Contribution to the class: 20%

Teamwork: 20%

< テキスト >

To be announced at the beginning of the course.

< 授業計画 >

第1回 Intercultural Studies

Intercultural Studies 1

第2回 Language Skills I

Talking about daily life in our countries.

第3回 Speaking & Pronunciation Skills I

Sounding natural

第4回 Intercultural Studies

Intercultural Studies 2

第5回 Language Skills II

Tense review - past present and future
第6回 Speaking & Pronunciation Skills II

Social English

第7回 Academic Listening Skills

I understand you perfectly: Listening to and decoding spoken English.

第8回 Language Skills III

Vocabulary review - dealing with and learning vocabulary

第9回 Academic Writing / Written Expression I

Thinking about issues and turning spoken ideas into writing

paragraphs, coherence and cohesion

第10回 Intercultural Studies

Intercultural Studies 3

第11回 Language Skills IV

Language review - register, formality and language choice

第12回 Academic Writing / Written Expression II

Thinking about issues and turning spoken ideas into writing: Being a reader-friendly writer

第13回 Cultural Studies I

Things you need to know about the United Kingdom

第14回 Reading and Research I

Preparation for Saturday's praxis about London. Reading - speed reading techniques. Finding out about London

第15回 Presentation Skills I

Language and techniques of presentations.

第16回 Applied Communication Praxis

Applied Communication Praxis: London

第17回 Language Practice I

The dragon's Den project - students work in groups to pitch a Japanese product to the UK market

第18回 Presentation Skills II

Language and techniques of presentations.

第19回 Intercultural Studies

Intercultural Studies 4

第20回 Language Practice II
The dragon's Den project - students work in groups to pitch a Japanese product to the UK market

第21回 Grammar & Language Practice I
The language of everyday - describing processes and how things work, explaining and describing.

第22回 Cultural Studies II
Myths and Legends/The English/Cultural identities

第23回 Language Practice III
The dragon's Den project - students work in groups to pitch a Japanese product to the UK market

第24回 Grammar & Language Practice II
The past. Famous people and events that changed the world. Narrative functions and comparison and contrast of past with present.

第25回 Intercultural Studies
Intercultural Studies 5

第26回 Language Practice IV
The dragon's Den project - students work in groups to pitch a Japanese product to the UK market

第27回 Presentation Skills III
Group Presentations of the Dragon's Den challenge

第28回 Cultural Studies III
Murdock's Cultural Universals: discussion and comparison of cultures and behaviours

第29回 Reading and Research II
Stratford-upon-Avon day. Preparation for Saturday's Communication Praxis for Stratford-upon-Avon. Finding out about Shakespeare's world

第30回 Presentation Skills IV
Short presentation practice in groups - The Shakespeare Mystery.

2022年度 前期

4.0単位

応用中国語会話

胡 土雲

< 授業の方法 >

実技（遠隔授業）

< 授業の目的 >

この授業では、G C 学部の D P に示す、実践的で高度な

外国語の運用をめざす。

この科目は G C 学部共通科目群現地研修関連科目（必修）に位置付けられる。授業は三年次の学生を対象とし、本学の教育方針に基づき、留学先と共同で編成したカリキュラムにしたがって授業を行う。授業では、基本中国語の「中国語会話」で習得したことを、留学先の各大学において実践的に活用し、現地で集中して中国語会話を伸ばす。

< 到達目標 >

1) 留学先の現地文化を深く理解することができる。（知識）

2) 留学先において、現地の人とのコミュニケーションに支障がない程度の語学力を習得することができる。（技能）

2) H S K 試験 5 級或いはそれに相当する外部検定試験において、60%以上の点数を取ることができる。（技能）

< 授業のキーワード >

留学、海外語学研修、応用中国語会話 派遣先の地域や文化の理解、語学運用力の向上

< 授業の進め方 >

1) 教科書の本文を読み、その場で活用し、練習する。

2) 場面を設定し、実践に即した、応用的な会話を練習する。

< 履修するにあたって >

1) 留学先大学の時間割や出欠管理などが本学と異なることに注意し、留学先大学の指示に従うこと。

2) 学習した内容を日常で活用し、留学先の現地の人々と積極的に中国語でコミュニケーションすること。

3) 詳細な授業内容は留学先の大学により、クラスにより異なるため、関連の説明を十分に留意すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画の各回で指示された内容を繰り返し練習すること。

事前学習として、授業の対象となる教科書の箇所を読み込んでおくこと。（1時間程度）

事後学習として、授業内容を再確認し、場面に応じた会話練習をすること。また、日常生活においても学習した内容を活用すること。（1時間以上）

< 提出課題など >

授業期間中に小テストをする。小テストの内容と回答は次の授業でコメント、解説を行う。

< 成績評価方法・基準 >

留学先大学から送られてきた成績、授業取り組み状況のデータに基づき、中国語コースで総合的に判断し、評価する。本学部教授会において単位を認定する。

< テキスト >

李小榮編著《汉语口语速成》（提高篇・第二版），北京语言大学出版社，2006年9月

< 参考図書 >

授業中に適宜指示する

< 授業計画 >

第1回 応用中国語会話(1)
第一课 让我们认识一下,好吗(1)
第2回 応用中国語会話(2)
第一课 让我们认识一下,好吗(2)
第3回 応用中国語会話(3)
第二课 健康第一(1)
第4回 応用中国語会話(4)
第二课 健康第一(2)
第5回 応用中国語会話(5)
第三课 好东西人人爱吃(1)
第6回 応用中国語会話(6)
第三课 好东西人人爱吃(2)
第7回 応用中国語会話(7)
第四课 这种款式适合我吗(1)
第8回 応用中国語会話(8)
第四课 这种款式适合我吗(2)
第9回 応用中国語会話(9)
第五课 你喜欢逛商店吗(1)
第10回 応用中国語会話(10)
第五课 你喜欢逛商店吗(2)
第11回 応用中国語会話(11)
复习一 我来介绍一下(1)
第12回 応用中国語会話(12)
复习一 我来介绍一下(2)
第13回 応用中国語会話(13)
第六课 生活有时候就是繁琐的(1)
第14回 応用中国語会話(14)
第六课 生活有时候就是繁琐的(2)
第15回 応用中国語会話(15)
第七课 让我们轻松一下(1)
第16回 応用中国語会話(16)
第七课 让我们轻松一下(2)
第17回 応用中国語会話(17)
第八课 计划赶不上变化(1)
第18回 応用中国語会話(18)
第八课 计划赶不上变化(2)
第19回 応用中国語会話(19)
第九课 大手大脚还是精打细算(1)
第20回 応用中国語会話(20)
第九课 大手大脚还是精打细算(2)
第21回 応用中国語会話(21)
第十课 我想咨询一下(1)
第22回 応用中国語会話(22)
第十课 我想咨询一下(2)
第23回 応用中国語会話(23)
复习二 我的新房子(1)
第24回 応用中国語会話(24)
复习二 我的新房子(2)

第25回 応用中国語会話(25)
综合复习(1)
第26回 応用中国語会話(26)
综合复习(2)
第27回 応用中国語会話(27)
综合练习(1): 课外作业(自习)
第28回 応用中国語会話(28)
综合练习(2): 课外作业(自习)
第29回 応用中国語会話(29)
综合练习(3): 课外作业(自习)
第30回 応用中国語会話(30)
综合练习(4): 课外作业(自习)

2022年度 前期

4.0単位

応用中国語読解

胡 士雲

< 授業の方法 >

実技(遠隔授業)

< 授業の目的 >

この授業では、G C 学部のD P に示す、実践的で高度な外国語の運用をめざす。

この科目はG C 学部共通科目群現地研修関連科目(必修)に位置付けられる。授業は三年次の学生を対象とし、本学の教育方針に基づき、留学先と共同で編成したカリキュラムにしたがって授業を行う。授業では、基本中国語の「中国語読解」で習得した内容を留学先で実践的に活用し、現地で集中して読解能力の向上をめざす。

< 到達目標 >

1) 留学先の現地文化を深く理解することができる。(知識)

2) 留学先において、現地の人とのコミュニケーションに支障がない程度の語学力を習得することができる。(技能)

2) H S K 試験5級或いはそれに相当する外部検定試験において、60%以上の点数を取ることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

留学、海外語学研修、応用中国語読解 派遣先の地域や文化の理解、語学運用力の向上

< 授業の進め方 >

1) 教科書の本文を読み、その場で活用し、練習をする。
2) 現地の中国語教育の実践に基づき、応用的な読解に取り組む。

< 履修するにあたって >

1) 留学先大学の時間割や出欠管理などが本学と異なることに注意し、留学先大学の指示に従うこと。

2) 学習した内容を日常で活用し、留学先の現地の人々と積極的に中国語でコミュニケーションすること。

3) 詳細な授業内容は留学先の大学により、クラスにより異なるため、関連の説明を十分に留意すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画の各回で指示された内容を繰り返し練習すること。

事前学習として、授業の対象となる教科書の箇所を読み込んでおくこと。(1時間程度)

事後学習として、授業内容を再確認し、日常生活においても学習した内容を活用すること。(1時間以上)

< 提出課題など >

授業期間中に小テストをする。小テストの内容と回答は次の授業でコメント、解説を行う。

< 成績評価方法・基準 >

留学先大学から送られてきた成績、授業取り組み状況のデータに基づき、中国語コースで総合的に判断し、評価する。本学部教授会において単位を認定する。

< テキスト >

井梦然、刘长征编著《汉语听力速成》(提高篇), 北京语言大学出版社, 2014年8月

< 参考図書 >

授業中に適宜指示する

< 授業計画 >

- 第1回 応用中国語読解(1)
- 第一课 校园生活(1)
- 第2回 応用中国語読解(2)
- 第一课 校园生活(2)
- 第3回 応用中国語読解(3)
- 第一课 校园生活(3)
- 第4回 応用中国語読解(4)
- 第二课 饮食(1)
- 第5回 応用中国語読解(5)
- 第二课 饮食(2)
- 第6回 応用中国語読解(6)
- 第二课 饮食(3)
- 第7回 応用中国語読解(7)
- 第三课 购物(1)
- 第8回 応用中国語読解(8)
- 第三课 购物(2)
- 第9回 応用中国語読解(9)
- 第三课 购物(3)
- 第10回 応用中国語読解(10)
- 第四课 寻求帮助(1)
- 第11回 応用中国語読解(11)
- 第四课 寻求帮助(2)
- 第12回 応用中国語読解(12)
- 第四课 寻求帮助(3)
- 第13回 応用中国語読解(13)
- 第五课 休闲娱乐(1)
- 第14回 応用中国語読解(14)
- 第五课 休闲娱乐(2)

- 第15回 応用中国語読解(15)
- 第五课 休闲娱乐(3)
- 第16回 応用中国語読解(16)
- 第六课 交通状况(1)
- 第17回 応用中国語読解(17)
- 第六课 交通状况(2)
- 第18回 応用中国語読解(18)
- 第六课 交通状况(3)
- 第19回 応用中国語読解(19)
- 第七课 婚姻与家庭(1)
- 第20回 応用中国語読解(20)
- 第七课 婚姻与家庭(2)
- 第21回 応用中国語読解(21)
- 第七课 婚姻与家庭(3)
- 第22回 応用中国語読解(22)
- 第八课 婚姻与家庭(1)
- 第23回 応用中国語読解(23)
- 第八课 婚姻与家庭(2)
- 第24回 応用中国語読解(24)
- 第八课 婚姻与家庭(3)
- 第25回 応用中国語読解(25)
- 第九课 参观旅游(2)
- 第26回 応用中国語読解(26)
- 第九课 参观旅游(2)
- 第27回 応用中国語読解(27)
- 第九课 参观旅游(3)
- 第28回 応用中国語読解(28)
- 第十课 疾病与治疗(1)
- 第29回 応用中国語読解(29)
- 第十课 疾病与治疗(2)
- 第30回 応用中国語読解(30)
- 第十课 疾病与治疗(3)

2022年度 前期

4.0単位

応用中国語表現

胡 士雲

< 授業の方法 >

実技(遠隔授業)

< 授業の目的 >

この授業では、G C 学部のD Pに示す、実践的で高度な外国語の運用を目指す。

この科目はG C 学部共通科目群現地研修関連科目(必修)に位置付けられる。授業は三年次の学生を対象とし、本学の教育方針に基づき、留学先と共同で編成したカリキュラムにしたがって授業をおこなう。授業では、基本中国語の「中国語表現」で習得した内容を、留学先で実践的に活用し、現地で集中して中国語運用能力の向上をめざす。

<到達目標>

1) 留学先の現地文化を深く理解することができる。(知識)

2) 留学先において、現地の人とのコミュニケーションに支障がない程度の語学力を習得することができる。(技能)

2) HSK試験5級或いはそれに相当する外部検定試験において、60%以上の点数を取ることができる。(技能)

<授業のキーワード>

留学、海外語学研修、応用中国語表現 派遣先の地域や文化の理解、語学運用力の向上

<授業の進め方>

1) 教科書の本文を読み、その場で活用し、練習をする。

2) 場面を設定し、応用的な中国語表現を身につける。

<履修するにあたって>

1) 留学先大学の時間割や出欠管理などが本学と異なることに注意し、留学先大学の指示に従うこと。

2) 学習した内容を日常で活用し、留学先の現地の人々と積極的に中国語でコミュニケーションすること。

3) 詳細な授業内容は留学先の大学により、クラスにより異なるため、関連の説明を十分に留意すること。

<授業時間外に必要な学修>

授業計画の各回で指示された内容を繰り返し練習すること。

事前学習として、授業の対象となる教科書の箇所を読み込んでおくこと。(1時間程度)

事後学習として、授業内容を再確認し、場面に応じた中国語表現の練習に取り組むこと。また、日常生活においても学習した内容を活用すること。(1時間以上)

<提出課題など>

授業期間中に小テストをする。小テストの内容と回答は次の授業でコメント、解説を行う。

<成績評価方法・基準>

留学先大学から送られてきた成績、授業取り組み状況のデータに基づき、中国語コースで総合的に判断し、評価する。本学部教授会において単位を認定する。

<テキスト>

郑蕊编著《汉语阅读速成》(基础篇・第二版),北京语言大学出版社,2006年9月

<参考図書>

授業中に適宜指示する

<授業計画>

第1回 応用中国語表現(1)

第一课 细读课文 哪儿的钱最“值钱”(1)

第2回 応用中国語表現(2)

第一课 细读课文 哪儿的钱最“值钱”(2)

第3回 応用中国語表現(3)

第一课 快读课文 京城博物馆

第4回 応用中国語表現(4)

参考所学内容作文

第5回 応用中国語表現(5)

发表作文

第6回 応用中国語表現(6)

第二课 细读课文 一个都不能少(1)

第7回 応用中国語表現(7)

第二课 细读课文 一个都不能少(2)

第8回 応用中国語表現(8)

第二课 快读课文 来自山区的小演员

第9回 応用中国語表現(9)

参考所学内容作文

第10回 応用中国語表現(10)

发表作文

第11回 応用中国語表現(11)

第三课 细读课文 北京青年周末干什么(1)

第12回 応用中国語表現(12)

第三课 细读课文 北京青年周末干什么(2)

第13回 応用中国語表現(13)

第三课 快读课文 我们还缺什么

第14回 応用中国語表現(14)

参考所学内容作文

第15回 応用中国語表現(15)

发表作文

第16回 応用中国語表現(16)

第四课 细读课文 露宿男童找到家(1)

第17回 応用中国語表現(17)

第四课 细读课文 露宿男童找到家(2)

第18回 応用中国語表現(18)

第四课 快读课文 当个小孩不容易

第19回 応用中国語表現(19)

参考所学内容作文

第20回 応用中国語表現(20)

发表作文

第21回 応用中国語表現(21)

第五课 细读课文 今冬可能转冷(1)

第22回 応用中国語表現(22)

第五课 细读课文 今冬可能转冷(2)

第23回 応用中国語表現(23)

第五课 快读课文 风力和风向

第24回 応用中国語表現(24)

参考所学内容作文

第25回 応用中国語表現(25)

中级班 发表作文

高级班 发表作文

第26回 応用中国語表現(26)

第六课 细读课文 我家专用的天气预报(1)

第27回 応用中国語表現(27)

第六课 细读课文 我家专用的天气预报(2)

第28回 応用中国語表現(28)

第六课 快读课文 我是爸爸妈妈的眼睛

第29回 応用中国語表現 (29)

参考所 学内容 作文

第30回 応用中国語表現 (30)

发表作文

2022年度 後期

4.0単位

海外語学研修 研究論文

Nicholas Musty

< 授業の方法 >

Seminar and lecture

< 授業の目的 >

The purpose of this subject is to have students learn to acquire advanced skills for English written communication as well as learn to acquire the power of communication to work with people who speak a language other than Japanese cooperatively. The two aims correspond to the diploma policy No.1 and No.2 of the Faculty of Global Communication.

< 到達目標 >

After taking this class, students

- 1) will understand the processes involved in writing an extended academic essay
- 2) will be able to report on an aspect of their study abroad experience in written form and
- 3) will learn to cooperate with with classmates and instructors using English effectively

< 授業のキーワード >

Academic writing, Research, Study Abroad

< 授業の進め方 >

After a series of lectures on various aspects of the writing process, students will work in an active way to write extended essays related to a chosen aspect of their overseas study experience.

< 履修するにあたって >

Attendance and active participation in each class is mandatory. Students are expected to use only English in the classroom.

< 授業時間外に必要な学修 >

At least 120 minutes study time will be needed outside the class for each class hour.

< 提出課題など >

Students will be frequently asked to prepare aspects of their presentation in order to get ongoing feedback from classmates.

They will need to submit a first draft towards the end of the semester, and a final draft at the end of the semester.

< 成績評価方法・基準 >

Academic essay (includes presentation 10%) : 50 %

Peer feedback: 20%

Weekly mini-tests: 15%

Contribution to the class: 15%

< テキスト >

To be announced at the beginning of the course.

< 授業計画 >

第1回 Orientation

Orientation

第2回 What is required in an academic essay?

Students will learn about various sections of an academic essay.

第3回 Background reading I

Students will consider what kind of literature is appropriate for review in an essay.

第4回 Background reading II

Students will learn how to write up about background literature in an essay.

第5回 APA I

Students will learn how to write an academic essay using the APA format.

第6回 Methodology

Students will learn how to write up the methodology of their research.

第7回 Results

Students will learn how to write up the results of their research.

第8回 Discussion

Students will learn how to write up the discussion of their research.

第9回 Introduction

Students will learn how to write an introduction to their essay.

第10回 Conclusion

Students will learn how to write a conclusion to their essay.

第11回 APA II

Students will learn how to ensure that citations are written in an APA format.

第12回 Academic Essay Review

Students will have the opportunity to review their writing by cooperating with classmates.

第13回 Consultations

Students will be able to consult with an instructor and classmates about the composition of their essay.

第14回 Presentation of essay

Students will present the final drafts of their essays to the class.

第15回 Reflection

Reflection

2022年度 後期

2.0単位

海外語学研修フォローアップ

シャーロー トーマス

< 授業の方法 >

PBL.

Students will create a presentation about a major foreign news story they are interested in

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができる ことを目的としている。

< 到達目標 >

学生が次のような基準のNews Project の達成を目標とする。

- ・ 他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べていること。
- ・ 客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べられていること。

< 授業のキーワード >

news, foreign, project, report

< 授業の進め方 >

個人指導、グループワーク、成果発表が挙げられます。

This class will be devoted to weekly discussions about and plans for individual student projects. Much of the class will involve individual consultations between the instructor and the student.

<https://classroom.google.com/c/NDQ3MjAzODY2MTA1?cjc=bccwsts>

< 履修するにあたって >

Students are expected to energetically plan for and execute project goals.

< 授業時間外に必要な学修 >

Students will be responsible for all online homework assignments. Each student will also be responsible for one oral report regarding one of the countries studied. Students should expect to spend approximately 60 minutes each week to complete this wo

rk.

< 提出課題など >

Online assignments must be submitted by the due date on the course website. Any questions regarding homework should be directed to Professor Schalow at tijinkanmail@gmail.com

< 成績評価方法・基準 >

Class discussion is extremely important, and grades will reflect the degree to which each student has helped to make the class more interesting and useful. 60% of the total grade will be based on weekly homework assignments and 40% on the oral report. 提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。

< テキスト >

WORLD NEWS英単語スピードマスター ISBN 4863922116

< 授業計画 >

- 第1回 Week 01 Vocabulary and culture Introduction. Choice of news topic from a country of interest for oral presentation
- 第2回 Week 02 Vocabulary and culture Week 02 - Vocabulary Acquisition. Project Presentation Preparations.
- 第3回 Week 03 Vocabulary and culture Week 03 - Vocabulary Acquisition. Project Presentation Preparations.
- 第4回 Week 04 Vocabulary and culture Week 04 - Vocabulary Acquisition. Project Presentation Preparations.
- 第5回 Week 05 Vocabulary and culture Week 05 - Vocabulary Acquisition. Project Presentation Preparations.
- 第6回 Week 06 Vocabulary and culture Week 06 - Vocabulary Acquisition. Project Presentation Preparations.
- 第7回 Week 07 Vocabulary and culture Week 07 - Vocabulary Acquisition. Project Presentation Preparations.
- 第8回 Week 08 Vocabulary and culture Week 08 - Vocabulary Acquisition. Project Presentation Preparations.
- 第9回 Week 09 Vocabulary and culture Week 09 - Vocabulary Acquisition. Project Presentation Preparations.
- 第10回 Week 10 Vocabulary and culture Week 10 - Vocabulary Acquisition. Project Presentation Preparations.
- 第11回 Week 11 News Project Presentations Week 11 News Project Presentations
- 第12回 Week 12 News Project Presentations

Week 12 News Project Presentations
第13回 Week 13 News Project Presentations
Week 13 News Project Presentations
第14回 Week 14 News Project Presentations
Week 14 News Project Presentations
第15回 Week 15 News Project Presentations
Week 15 News Project Presentations

2022年度 後期

2.0単位

海外語学研修フォローアップ

胡 士雲

< 授業の方法 >

演習、実技（対面授業および遠隔併用）

< 授業の目的 >

この科目は、G C 学部の D P に示す、実践的で高度な外国語の運用ができることを目指す。

この科目は G C 学部共通科目群現地研修関連科目（必修）に位置付けられる。授業は留学期間中に身に付けた語学力を維持し、さらにその能力を向上させることを最も重要な目的とする。授業では、履修生が留学を通して得た貴重な経験を報告書の作成をし、その報告書をプレゼンテーションなどの形で発表する。また、その発表により、お互いに研修先以外の地域についての知識を得るように目指す。

< 到達目標 >

1) セメスター留学代替授業を受講中に身に付けた語学力をさらに向上することができる。（技能）

2) 他の発表による広範な知識を得ることができる。（知識）

< 授業のキーワード >

語学力向上、報告書作成、プレゼンテーション

< 授業の進め方 >

1) 前期の授業に関する報告書等の作成をする。

2) 報告書等をプレゼンテーションの形で発表し、その発表についての議論をする。

3) 修正した報告書等を再発表をする。

< 履修するにあたって >

1) 中国語で作文を意識を持つこと。

2) ノートパソコンを用意し、授業に携帯すること。

3) 課題の提出を遅れないこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画の各回で指示された内容を常に準備すること。

事前学習として、セメスター留学期間中に得た知識や経験したことをまとめ、報告書の作成準備をすること。

（1時間程度）

事後学習として、授業中に指摘された箇所を確認し、報告書を修正すること。（1時間程度）

< 提出課題など >

電子ファイルで、指定時間内に提出する。提出されたものは次の授業でコメント、解説を行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の作文と発表 100%

< テキスト >

授業中に適宜指示する

< 授業計画 >

第1回 報告書の作成（1）

授業の計画を説明してから、日本語で報告書を作成する（1）

第2回 報告書の作成（2）

日本語で報告書を作成する（2）

第3回 報告書の作成（3）

日本語で報告書を作成する（3）

第4回 報告書の発表（1）

作成した報告書を発表し、発表内容についての討論をする（1）

第5回 報告書の発表（2）

作成した報告書を発表し、発表内容についての討論をする（2）

第6回 報告書の作成（4）

日本語で作成した報告書を修正し、中国語バージョンに書き直す（1）

第7回 報告書の作成（5）

日本語で作成した報告書を中国語バージョンに書き直す（2）

第8回 報告書の発表（3）

中国語バージョンのレポートを発表する（1）

第9回 報告書の発表（4）

中国語バージョンのレポートを発表する（2）

第10回 留学先について（1）

留学先についての紹介文章の作成と発表（1）

第11回 留学先について（2）

留学先についての紹介文章の作成と発表（2）

第12回 留学先について（3）

留学先についての紹介文章の作成と発表（3）

第13回 留学先について（4）

留学先についての紹介文章の作成と発表（4）

第14回 報告会

留学事前指導授業と合流し、主に2回生に報告書を発表する

第15回 最終レポートの作成

就職のために、中国語で履歴書やPR文章の書く練習

2022年度 後期

2.0単位

海外語学研修事前指導（ニューズ・ラウド・ライク）

中西 のりこ

< 授業の方法 >

講義、演習、実習（対面授業およびリアルタイム/オンデマンド授業併用）

< 授業の目的 >

この授業科目は以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

1. 実践的で高度な外国語の運用ができる
2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる
3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる

この授業は、海外研修に際し、現地での学習成果を実りあるものとし、現地の人々と協調・協働できるコミュニケーション力を身に付け、またトラブルから身を守るためのノウハウを理解するために開講される。

< 到達目標 >

- 1) 研修先の環境・概要、現地の言語・文化・社会への理解を深める。
- 2) ホームステイや寮での生活についての心構えや危機管理などについて理解する。
- 3) 渡航の手続き・準備等に関する事項についての情報を得る。

< 授業のキーワード >

海外語学研修、異文化コミュニケーション

< 授業の進め方 >

英語コースの専任教員がローテーションを組んで担当する。授業内容に応じて、英語コースと中国語コースが合同で開講する場合がある。成績評価については、各授業の担当者が成績資料を作成し、それを合計して評価・認定する。

< 履修するにあたって >

派遣される大学、地域によって実際の授業内容が回により異なることがある。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業準備、復習および資料整理のため、各回につき1時間程度の学修が必要である。

< 提出課題など >

主題ごとの課題については担当教員がそのつど説明する。提出課題については、授業時に解説・講評を行う。

< 成績評価方法・基準 >

原則として、授業の準備35%、発表等の参加度35%、各自の留学に必要な提出物30%で評価を行う。課題等に対するフィードバックは担当者の研究室にて行う。

< テキスト >

特に指定なし。それぞれの補助教材については担当教員が指示する。

< 授業計画 >

第1回 海外研修プログラムの全体説明
海外研修プログラムの全体説明。

第2回 国際交流センターレクチャー

国際交流センター担当者等による留学に関するレクチャー。

第3回 協定大学の紹介など

セメスター留学の派遣校について紹介する。日本にオフィスを持つ大学については、担当者にプレゼンしていただくこともある。

第4回 協定大学の紹介など

セメスター留学の派遣校について紹介する。日本にオフィスを持つ大学については、担当者にプレゼンしていただくこともある。

第5回 海外留学保険・危機管理に関する説明

留学中の怪我、病気、トラブルに対応する留学保険の補償内容や、海外でのトラブル事例や危機管理について解説する。健康状態報告書を医務室に提出する。

第6回 講演会

WHO健康開発総合研究センター（WHO神戸センター）テクニカルオフィサー（健康危機管理 医師）茅野龍馬氏の講演会を行う。

第7回 ビザ申請に関して

各国へ入国するために必要な査証（ビザ）取得に関する申請書の解説と記入を行う。出発前にビザ取得が必要な国：アメリカ・オーストラリア・ニュージーランド。入国時にビザ取得のための提示書類が必要な国：イギリス。

第8回 講演会

留学経験者による講演会を行う。

第9回 海外での金銭管理など

外貨、パソコンなどのデジタル機器、その他旅行用品の準備や、海外での金銭管理について説明する。

第10回 ホームステイ・寮の心得など

生活習慣の違いなどをふまえたホームステイ・寮の心得について説明する。

第11回 海外におけるITの取り扱いについて

海外でのパソコン、携帯電話、SNS等の取り扱いに関して説明する。

第12回 ビザ申請に関する最終確認・書類の回収などの予備日

ビザ申請に必要な書類の再確認、保険申込書やその他の必要書類の回収を行う。

第13回 報告会

フォローアップクラスを受講生によるプレゼンテーション大会を行う。

第14回 報告会

フォローアップクラスを受講生によるプレゼンテーション大会を行う。

第15回 まとめ

授業のまとめとともに、ビザ申請のための面接についての説明や日程、書類の最終確認を行う。

2022年度 後期

2.0単位

海外語学研修事前指導（カタ・カガリ）

表谷 純子

< 授業の方法 >

講義、演習、実習

< 授業の目的 >

この授業科目は以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

1. 実践的で高度な外国語の運用ができる
2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる
3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる

この授業は、海外研修に際し、現地での学習成果を実りあるものとし、現地の人々と協調・協働できるコミュニケーション力を身に付け、またトラブルから身を守るためのノウハウを理解するために開講される。

< 到達目標 >

- 1) 研修先の環境・概要、現地の言語・文化・社会への理解を深める。
- 2) ホームステイや寮での生活についての心構えや危機管理などについて理解する。
- 3) 渡航の手続き・準備等に関する事項についての情報を得る。

< 授業のキーワード >

海外語学研修、異文化コミュニケーション

< 授業の進め方 >

英語コースの専任教員がローテーションを組んで担当する。授業内容に応じて、英語コースと中国語コースが合同で開講する場合がある。成績評価については、各授業の担当者が成績資料を作成し、それを合計して評価・認定する。

< 履修するにあたって >

派遣される大学、地域によって実際の授業内容が回により異なることがある。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業準備、復習および資料整理のため、各回につき1時間程度の学修が必要である。

< 提出課題など >

主題ごとの課題については担当教員がそのつど説明する。提出課題については、授業時に解説・講評を行う。

< 成績評価方法・基準 >

原則として、授業の準備35%、発表等の参加度35%、各自の留学に必要な提出物30%で評価を行う。課題等に対するフィードバックは担当者の研究室にて行う。

< テキスト >

特に指定なし。それぞれの補助教材については担当教員が指示する。

< 授業計画 >

第1回 海外研修プログラムの全体説明

海外研修プログラムの全体説明。

第2回 国際交流センターレクチャー

国際交流センター担当者等による留学に関するレクチャー。

第3回 協定大学の紹介など

セメスター留学の派遣校について紹介する。日本にオフィスを持つ大学については、担当者にプレゼンしていただくこともある。

第4回 協定大学の紹介など

セメスター留学の派遣校について紹介する。日本にオフィスを持つ大学については、担当者にプレゼンしていただくこともある。

第5回 海外留学保険・危機管理に関する説明

留学中の怪我、病気、トラブルに対応する留学保険の補償内容や、海外でのトラブル事例や危機管理について解説する。健康状態報告書を医務室に提出する。

第6回 講演会

WHO健康開発総合研究センター（WHO神戸センター）テクニカルオフィサー（健康危機管理 医師）茅野龍馬氏の講演会を行う。

第7回 ビザ申請に関して

各国へ入国するために必要な査証（ビザ）取得に関する申請書の解説と記入を行う。出発前にビザ取得が必要な国：アメリカ・オーストラリア・ニュージーランド。入国時にビザ取得のための提示書類が必要な国：イギリス。

第8回 講演会

留学経験者による講演会を行う。

第9回 海外での金銭管理など

外貨、パソコンなどのデジタル機器、その他旅行用品の準備や、海外での金銭管理について説明する。

第10回 ホームステイ・寮の心得など

生活習慣の違いなどをふまえたホームステイ・寮の心得について説明する。

第11回 海外におけるITの取り扱いについて

海外でのパソコン、携帯電話、SNS等の取り扱いに関して説明する。

第12回 ビザ申請に関する最終確認・書類の回収などの予備日

ビザ申請に必要な書類の再確認、保険申込書やその他の必要書類の回収を行う。

第13回 報告会

フォローアップクラスの受講生によるプレゼンテーション大会を行う。

第14回 報告会

フォローアップクラスの受講生によるプレゼンテーション

ン大会を行う。

第15回 まとめ

授業のまとめとともに、ビザ申請のための面接についての説明や日程、書類の最終確認を行う。

2022年度 後期

2.0単位

海外語学研修事前指導（オーストラリア・グイクトリア）

森下 美和

< 授業の方法 >

講義、演習、実習

< 授業の目的 >

この授業科目は以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

1. 実践的で高度な外国語の運用ができる
2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる
3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる

この授業は、海外研修に際し、現地での学習成果を実りあるものとし、現地の人々と協調・協働できるコミュニケーション力を身に付け、またトラブルから身を守るためのノウハウを理解するために開講される。

< 到達目標 >

- 1) 研修先の環境・概要、現地の言語・文化・社会への理解を深める。
- 2) ホームステイや寮での生活についての心構えや危機管理などについて理解する。
- 3) 渡航の手続き・準備等に関する事項についての情報を得る。

< 授業のキーワード >

海外語学研修、異文化コミュニケーション

< 授業の進め方 >

英語コースの専任教員がローテーションを組んで担当する。授業内容に応じて、英語コースと中国語コースが合同で開講する場合がある。成績評価については、各授業の担当者が成績資料を作成し、それを合計して評価・認定する。

< 履修するにあたって >

派遣される大学、地域によって実際の授業内容が回により異なることがある。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業準備、復習および資料整理のため、各回につき1時間程度の学修が必要である。

< 提出課題など >

主題ごとの課題については担当教員がそのつど説明する。提出課題については、授業時に解説・講評を行う。

< 成績評価方法・基準 >

原則として、授業の準備35%、発表等の参加度35%、各自の留学に必要な提出物30%で評価を行う。課題等に対するフィードバックは担当者の研究室にて行う。

< テキスト >

特に指定なし。それぞれの補助教材については担当教員が指示する。

< 授業計画 >

第1回 海外研修プログラムの全体説明

海外研修プログラムの全体説明。

第2回 国際交流センターレクチャー

国際交流センター担当者等による留学に関するレクチャー。

第3回 協定大学の紹介など

セメスター留学の派遣校について紹介する。日本にオフィスを持つ大学については、担当者にプレゼンしていただくこともある。

第4回 協定大学の紹介など

セメスター留学の派遣校について紹介する。日本にオフィスを持つ大学については、担当者にプレゼンしていただくこともある。

第5回 海外留学保険・危機管理に関する説明

留学中の怪我、病気、トラブルに対応する留学保険の補償内容や、海外でのトラブル事例や危機管理について解説する。健康状態報告書を医務室に提出する。

第6回 講演会

WHO健康開発総合研究センター（WHO神戸センター）テクニカルオフィサー（健康危機管理 医師）茅野龍馬氏の講演会（予定）。

第7回 ビザ申請に関して

各国へ入国するために必要な査証（ビザ）取得に関する申請書の解説と記入を行う。出発前にビザ取得が必要な国：アメリカ・オーストラリア・ニュージーランド。入国時にビザ取得のための提示書類が必要な国：イギリス。

第8回 講演会

留学経験者による講演会を行う。

第9回 海外での金銭管理など

外貨、パソコンなどのデジタル機器、その他旅行用品の準備や、海外での金銭管理について説明する。

第10回 ホームステイ・寮の心得など

生活習慣の違いなどをふまえたホームステイ・寮の心得について説明する。

第11回 海外におけるITの取り扱いについて

海外でのパソコン、携帯電話、SNS等の取り扱いに関して説明する。

第12回 ビザ申請に関する最終確認・書類の回収などの予備日

ビザ申請に必要な書類の再確認、保険申込書やその他の必要書類の回収を行う。

第13回 報告会

フォローアップクラスの受講生によるプレゼンテーション大会を行う。

第14回 報告会

フォローアップクラスの受講生によるプレゼンテーション大会を行う。

第15回 まとめ

授業のまとめとともに、ビザ申請のための面接についての説明や日程、書類の最終確認を行う。

2022年度 後期

2.0単位

海外語学研修事前指導 (ニュージールランド・オークランド)

Krieg, Alexander William

< 授業の方法 >

講義、演習、実習 (対面授業およびリアルタイム/オンデマンド授業併用)

< 授業の目的 >

この授業科目は以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

1. 実践的で高度な外国語の運用ができる
2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる
3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる

この授業は、海外研修に際し、現地での学習成果を実りあるものとし、現地の人々と協調・協働できるコミュニケーション力を身に付け、またトラブルから身を守るためのノウハウを理解するために開講される。

< 到達目標 >

- 1) 研修先の環境・概要、現地の言語・文化・社会への理解を深める。
- 2) ホームステイや寮での生活についての心構えや危機管理などについて理解する。
- 3) 渡航の手続き・準備等に関する事項についての情報を得る。

< 授業のキーワード >

海外語学研修、異文化コミュニケーション

< 授業の進め方 >

英語コースの専任教員がローテーションを組んで担当する。授業内容に応じて、英語コースと中国語コースが合同で開講する場合がある。成績評価については、各授業の担当者が成績資料を作成し、それを合計して評価・認定する。

< 履修するにあたって >

派遣される大学、地域によって実際の授業内容が回により異なることがある。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業準備、復習および資料整理のため、各回につき1時

間程度の学修が必要である。

< 提出課題など >

主題ごとの課題については担当教員がそのつど説明する。提出課題については、授業時に解説・講評を行う。

< 成績評価方法・基準 >

原則として、授業の準備35%、発表等の参加度35%、各自の留学に必要な提出物30%で評価を行う。課題等に対するフィードバックは担当者の研究室にて行う。

< テキスト >

特に指定なし。それぞれの補助教材については担当教員が指示する。

< 授業計画 >

第1回 海外研修プログラムの全体説明

海外研修プログラムの全体説明。

第2回 国際交流センターレクチャー

国際交流センター担当者等による留学に関するレクチャー。

第3回 協定大学の紹介など

セメスター留学の派遣校について紹介する。日本にオフィスを持つ大学については、担当者にプレゼンしていただくこともある。

第4回 協定大学の紹介など

セメスター留学の派遣校について紹介する。日本にオフィスを持つ大学については、担当者にプレゼンしていただくこともある。

第5回 海外留学保険・危機管理に関する説明

留学中の怪我、病気、トラブルに対応する留学保険の補償内容や、海外でのトラブル事例や危機管理について解説する。健康状態報告書を医務室に提出する。

第6回 講演会

WHO健康開発総合研究センター (WHO神戸センター) テクニカルオフィサー (健康危機管理 医師) 茅野龍馬氏の講演会を行う。

第7回 ビザ申請に関して

各国へ入国するために必要な査証 (ビザ) 取得に関する申請書の解説と記入を行う。出発前にビザ取得が必要な国: アメリカ・オーストラリア・ニュージーランド。入国時にビザ取得のための提示書類が必要な国: イギリス。

第8回 講演会

留学経験者による講演会を行う。

第9回 海外での金銭管理など

外貨、パソコンなどのデジタル機器、その他旅行用品の準備や、海外での金銭管理について説明する。

第10回 ホームステイ・寮の心得など

生活習慣の違いなどをふまえたホームステイ・寮の心得について説明する。

第11回 海外におけるITの取り扱いについて

海外でのパソコン、携帯電話、SNS等の取り扱いに関して説明する。

第12回 ビザ申請に関する最終確認・書類の回収などの

予備日

ビザ申請に必要な書類の再確認、保険申込書やその他の必要書類の回収を行う。

第13回 報告会

フォローアップクラスの受講生によるプレゼンテーション大会を行う。

第14回 報告会

フォローアップクラスの受講生によるプレゼンテーション大会を行う。

第15回 まとめ

授業のまとめとともに、ビザ申請のための面接についての説明や日程、書類の最終確認を行う。

2022年度 後期

2.0単位

海外語学研修事前指導 (アメリカ・ホプカレッジ)

中嶋 アンディ 史人

< 授業の方法 >

講義、演習、実習 (対面授業 及び リアルタイム / オンデマンド授業併用)

中嶋アンディ史人 <andynakajima@gc.kobegakuin.ac.jp>

< 授業の目的 >

この授業科目は以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

1. 実践的で高度な外国語の運用ができる
2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる
3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる

この授業は、海外研修に際し、現地での学習成果を実りあるものとし、現地の人々と協調・協働できるコミュニケーション力を身に付け、またトラブルから身を守るためのノウハウを理解するために開講される。

< 到達目標 >

- 1) 研修先の環境・概要、現地の言語・文化・社会への理解を深める。
- 2) ホームステイや寮での生活についての心構えや危機管理などについて理解する。
- 3) 渡航の手続き・準備等に関する事項についての情報を得る。

< 授業のキーワード >

海外語学研修、異文化コミュニケーション

< 授業の進め方 >

英語コースの専任教員がローテーションを組んで担当する。授業内容に応じて、英語コースと中国語コースが合同で開講する場合がある。成績評価については、各授業

の担当者が成績資料を作成し、それを合計して評価・認定する。

< 履修するにあたって >

派遣される大学、地域によって実際の授業内容が回により異なることがある。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業準備、復習および資料整理のため、各回につき1時間程度の学修が必要である。

< 提出課題など >

主題ごとの課題については担当教員がそのつど説明する。授業時に解説・講評を行う。

< 成績評価方法・基準 >

原則として、授業の準備35%、発表等の参加度35%、各自の留学に必要な提出物30%で評価を行う。課題等に対するフィードバックは担当者の研究室にて行う。

< テキスト >

指定なし。それぞれの補助教材については担当教員が指示する。

< 授業計画 >

第1回 海外研修プログラム：全体説明

海外研修プログラムの全体説明

第2回 国際交流センターレクチャー

国際交流センター担当者等による留学に関するレクチャー

第3回 協定大学の紹介など

セメスター留学の派遣校について紹介する。日本にオフィスを持つ大学については、担当者にプレゼンしていただくこともある。

第4回 協定大学の紹介など

セメスター留学の派遣校について紹介する。日本にオフィスを持つ大学については、担当者にプレゼンしていただくこともある。

第5回 保険・危機管理に関する説明

留学中の怪我、病気、トラブルに対応する留学保険の補償内容や、海外でのトラブル事例や危機管理について解説する。健康状態報告書を医務室に提出する。

第6回 講演会

社会連携とのパートナーシップ講演会

第7回 ビザ申請に関して

各国へ入国するために必要な査証(ビザ)取得に関する申請書の解説と記入を行う。

出発前にビザ取得が必要な国：アメリカ・オーストラリア・ニュージーランド

入国時にビザ取得のための提示書類が必要な国：イギリス

第8回 講演会

留学経験者による講演会を行う。

第9回 海外での金銭管理など

旅行用品の準備や海外での金銭管理について説明する。

第10回 寮・ホームステイの心得など

生活習慣の違いなどをふまえたホームステイ・寮の心得について説明する。

第11回 海外におけるITの取り扱い

海外でのパソコン、携帯電話、SNS等の取り扱いに関して説明する。

第12回 ビザ申請に関する最終確認・書類の回収などの予備日

ビザ申請に必要な書類の再確認、保険申込書やその他の必要書類の回収を行う。

第13回 報告会

上級生によるプレゼンテーション

第14回 報告会

上級生によるプレゼンテーション

第15回 まとめ

授業のまとめ。及び、ビザ申請の面接についての説明や日程、書類の最終確認。

2022年度 後期

2.0単位

海外語学研修事前指導（イリス・ケブ・リッ）

東 淳一

< 授業の方法 >

講義、演習、実習（対面授業だけでなく、オンラインのリアルタイム配信 / オンデマンド配信併用の可能性もあります。）

< 授業の目的 >

この授業科目は以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

1. 実践的で高度な外国語の運用ができる
2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる
3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる

この授業は、海外研修に際し、現地での学習成果を実りあるものとし、現地の人々と協調・協働できるコミュニケーション力を身に付け、またトラブルから身を守るためのノウハウを理解するために開講される。

< 到達目標 >

- 1) 研修先の環境・概要、現地の言語・文化・社会への理解を深める。
- 2) ホームステイや寮での生活についての心構えや危機管理などについて理解する。
- 3) 渡航の手続き・準備等に関する事項についての情報を得る。

< 授業のキーワード >

海外語学研修、異文化コミュニケーション

< 授業の進め方 >

英語コースの専任教員がローテーションを組んで担当す

る。授業内容に応じて、英語コースと中国語コースが共同で開講する場合がある。成績評価については、各授業の担当者が成績資料を作成し、それを合計して評価・認定する。

< 履修するにあたって >

派遣される大学、地域によって実際の授業内容が回により異なることがある。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業準備、復習および資料整理のため、各回につき1時間程度の学修が必要である。

< 提出課題など >

主題ごとの課題については担当教員がそのつど説明する。提出課題については、授業時に解説・講評を行う。

< 成績評価方法・基準 >

原則として、授業の準備35%、発表等の参加度35%、各自の留学に必要な提出物30%で評価を行う。課題等に対するフィードバックは担当者の研究室にて行う。

< テキスト >

特に指定なし。それぞれの補助教材については担当教員が指示する。

< 授業計画 >

第1回 海外研修プログラムの全体説明

海外研修プログラムの全体説明。

第2回 国際交流センターレクチャー

国際交流センター担当者等による留学に関するレクチャー。

第3回 協定大学の紹介など

Semester留学の派遣校について紹介する。日本にオフィスを持つ大学については、担当者にプレゼンしていただくこともある。

第4回 協定大学の紹介など

Semester留学の派遣校について紹介する。日本にオフィスを持つ大学については、担当者にプレゼンしていただくこともある。

第5回 海外留学保険・危機管理に関する説明

留学中の怪我、病気、トラブルに対応する留学保険の補償内容や、海外でのトラブル事例や危機管理について解説する。健康状態報告書を医務室に提出する。

第6回 講演会

WHO健康開発総合研究センター（WHO神戸センター）テクニカルオフィサー（健康危機管理 医師）茅野龍馬氏の講演会（予定）。

第7回 ビザ申請に関して

各国へ入国するために必要な査証（ビザ）取得に関する申請書の解説と記入を行う。出発前にビザ取得が必要な国：アメリカ・オーストラリア・ニュージーランド。入国時にビザ取得のための提示書類が必要な国：イギリス。

第8回 講演会

留学経験者による講演会を行う。

第9回 海外での金銭管理など

外貨、パソコンなどのデジタル機器、その他旅行用品の準備や、海外での金銭管理について説明する。

第10回 ホームステイ・寮の心得など

生活習慣の違いなどをふまえたホームステイ・寮の心得について説明する。

第11回 海外におけるITの取り扱いについて

海外でのパソコン、携帯電話、SNS等の取り扱いに関して説明する。

第12回 ビザ申請に関する最終確認・書類の回収などの予備日

ビザ申請に必要な書類の再確認、保険申込書やその他の必要書類の回収を行う。

第13回 報告会

留学先の文化、生活スタイル、イベントなどについての受講生によるプレゼンテーション。

第14回 報告会

留学先の文化、生活スタイル、イベントなどについての受講生によるプレゼンテーション。

第15回 まとめ

授業のまとめとともに、ビザ申請のための面接についての説明や日程、書類の最終確認を行う。

2022年度 後期

2.0単位

海外語学研修事前指導（カナ・ヨーク）

深田 將揮

< 授業の方法 >

講義、演習、実習

< 授業の目的 >

この授業科目は以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

1. 実践的で高度な外国語の運用ができる
2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる
3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる

この授業は、海外研修に際し、現地での学習成果を実りあるものとし、現地の人々と協調・協働できるコミュニケーション力を身に付け、またトラブルから身を守るためのノウハウを理解するために開講される。

< 到達目標 >

- 1) 研修先の環境・概要、現地の言語・文化・社会への理解を深める。
- 2) ホームステイや寮での生活についての心構えや危機管理などについて理解する。
- 3) 渡航の手続き・準備等に関する事項についての情報を得る。

< 授業のキーワード >

海外語学研修、異文化コミュニケーション

< 授業の進め方 >

英語コースの専任教員がローテーションを組んで担当する。授業内容に応じて、英語コースと中国語コースが合同で開講する場合がある。成績評価については、各授業の担当者が成績資料を作成し、それを合計して評価・認定する。

< 履修するにあたって >

派遣される大学、地域によって実際の授業内容が回により異なることがある。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業準備、復習および資料整理のため、各回につき1時間程度の学修が必要である。

< 提出課題など >

主題ごとの課題については担当教員がそのつど説明する。提出課題については、授業時に解説・講評を行う。

< 成績評価方法・基準 >

原則として、授業の準備35%、発表等の参加度35%、各自の留学に必要な提出物30%で評価を行う。課題等に対するフィードバックは担当者の研究室にて行う。

< テキスト >

特に指定なし。それぞれの補助教材については担当教員が指示する。

< 参考図書 >

講義内で随時紹介する。

< 授業計画 >

第1回 海外研修プログラムの全体説明

海外研修プログラムの全体説明。

第2回 国際交流センターレクチャー

国際交流センター担当者等による留学に関するレクチャー。

第3回 協定大学の紹介など

セメスター留学の派遣校について紹介する。日本にオフィスを持つ大学については、担当者にプレゼンしていただくこともある。

第4回 協定大学の紹介など

セメスター留学の派遣校について紹介する。日本にオフィスを持つ大学については、担当者にプレゼンしていただくこともある。

第5回 海外留学保険・危機管理に関する説明

留学中の怪我、病気、トラブルに対応する留学保険の補償内容や、海外でのトラブル事例や危機管理について解説する。健康状態報告書を医務室に提出する。

第6回 講演会

WHO健康開発総合研究センター（WHO神戸センター）テクニカルオフィサー（健康危機管理 医師）茅野龍馬氏の講演会を行う。

第7回 ビザ申請に関して

各国へ入国するために必要な査証（ビザ）取得に関する

申請書の解説と記入を行う。出発前にビザ取得が必要な国：アメリカ・オーストラリア・ニュージーランド。入国時にビザ取得のための提示書類が必要な国：イギリス。

第8回 講演会

留学経験者による講演会を行う。

第9回 海外での金銭管理など

外貨、パソコンなどのデジタル機器、その他旅行用品の準備や、海外での金銭管理について説明する。

第10回 ホームステイ・寮の心得など

生活習慣の違いなどをふまえたホームステイ・寮の心得について説明する。

第11回 海外におけるITの取り扱いについて

海外でのパソコン、携帯電話、SNS等の取り扱いに関して説明する。

第12回 ビザ申請に関する最終確認・書類の回収などの予備日

ビザ申請に必要な書類の再確認、保険申込書やその他の必要書類の回収を行う。

第13回 報告会

フォローアップクラスの受講生によるプレゼンテーション大会を行う。

第14回 報告会

フォローアップクラスの受講生によるプレゼンテーション大会を行う。

第15回 まとめ

授業のまとめとともに、ビザ申請のための面接についての説明や日程、書類の最終確認を行う。

2022年度 後期

2.0単位

海外語学研修事前指導（イギリス・ヨーク）

荒島 千鶴

< 授業の方法 >

講義、演習、実習

< 授業の目的 >

この授業科目は以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

1. 実践的で高度な外国語の運用ができる
2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる
3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる

この授業は、海外研修に際し、現地での学習成果を実りあるものとし、現地の人々と協調・協働できるコミュニケーション力を身に付け、またトラブルから身を守るためのノウハウを理解するために開講される。

< 到達目標 >

- 1) 研修先の環境・概要、現地の言語・文化・社会への

理解を深める。

2) ホームステイや寮での生活についての心構えや危機管理などについて理解する。

3) 渡航の手続き・準備等に関する事項についての情報を得る。

< 授業のキーワード >

海外語学研修、異文化コミュニケーション

< 授業の進め方 >

英語コースの専任教員がローテーションを組んで担当する。授業内容に応じて、英語コースと中国語コースが合同で開講する場合がある。成績評価については、各授業の担当者が成績資料を作成し、それを合計して評価・認定する。

< 履修するにあたって >

派遣される大学、地域によって実際の授業内容が回により異なることがある。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業準備、復習および資料整理のため、各回につき1時間程度の学修が必要である。

< 提出課題など >

主題ごとの課題については担当教員がそのつど説明する。提出課題については、授業時に解説・講評を行う。

< 成績評価方法・基準 >

原則として、授業の準備35%、発表等の参加度35%、各自の留学に必要な提出物30%で評価を行う。課題等に対するフィードバックは担当者の研究室にて行う。

< テキスト >

特に指定なし。それぞれの補助教材については担当教員が指示する。

< 授業計画 >

第1回 海外研修プログラムの全体説明

海外研修プログラムの全体説明。

第2回 国際交流センターレクチャー

国際交流センター担当者等による留学に関するレクチャー。

第3回 協定大学の紹介など

セメスター留学の派遣校について紹介する。日本にオフィスを持つ大学については、担当者にプレゼンしていただくこともある。

第4回 協定大学の紹介など

セメスター留学の派遣校について紹介する。日本にオフィスを持つ大学については、担当者にプレゼンしていただくこともある。

第5回 海外留学保険・危機管理に関する説明

留学中の怪我、病気、トラブルに対応する留学保険の補償内容や、海外でのトラブル事例や危機管理について解説する。健康状態報告書を医務室に提出する。

第6回 講演会

予定

第7回 ビザ申請に関して

各国へ入国するために必要な査証（ビザ）取得に関する申請書の解説と記入を行う。出発前にビザ取得が必要な国：アメリカ・オーストラリア・ニュージーランド。入国時にビザ取得のための提示書類が必要な国：イギリス。

第8回 講演会

留学経験者による講演会を行う。

第9回 海外での金銭管理など

外貨、パソコンなどのデジタル機器、その他旅行用品の準備や、海外での金銭管理について説明する。

第10回 ホームステイ・寮の心得など

生活習慣の違いなどをふまえたホームステイ・寮の心得について説明する。

第11回 海外におけるITの取り扱いについて

海外でのパソコン、携帯電話、SNS等の取り扱いに関して説明する。

第12回 ビザ申請に関する最終確認・書類の回収などの予備日

ビザ申請に必要な書類の再確認、保険申込書やその他の必要書類の回収を行う。

第13回 報告会

フォローアップクラスの受講生によるプレゼンテーション大会を行う。

第14回 報告会

フォローアップクラスの受講生によるプレゼンテーション大会を行う。

第15回 まとめ

授業のまとめとともに、ビザ申請のための面接についての説明や日程、書類の最終確認を行う。

2022年度 後期

2.0単位

海外語学研修事前指導

眞島 淳

< 授業の方法 >

対面授業

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業科目は以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

実践的で高度な外国語の運用ができる。

他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる。

言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる。

この授業は、海外研修に際し、現地での学習成果を実りあるものとし、現地の人々と協調・協働できるコミュニケーション力を身に付け、またトラブルから身を守るためのノウハウを理解するために開講される。

< 到達目標 >

研修先の環境や概要、現地の言語や文化、社会への理解を深める。

寮での生活についての心構えや危機管理などについて理解する。

渡航の手続きや準備などに関する事項についての情報を得る。

研修における自らの目標や計画を立て、語学力を積極性を伸ばし、現地での効率的かつ効果的な学習を目指す。

< 授業のキーワード >

海外語学研修、異文化コミュニケーション、留学先のイメージ付け

< 授業の進め方 >

画像や動画などを利用し、留学先のイメージを捉える。

授業内容に応じて、英語コースとの合同で開講する場合がある。

その時の社会情勢などによって講義の内容を適宜調整する。

< 履修するにあたって >

留学先の情報を常に留意すること。

留学に関する各手続きをする際に、速やかに対応すること。

講義中は、受講ルール・マナーを遵守すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

個人・グループプレゼンテーションの準備作業（1時間程度）

留学に必要な書類の申請・確認作業は時間を要するので、早めに準備を行うこと。

< 提出課題など >

主題ごとの課題については担当教員がそのつど説明する。提出課題については、授業時にフィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >

成績評価の前提として前授業回数の3分の2以上の出席を必要とする。出席が3分の2に達しない場合は単位を認めないので注意すること。

以下の割合で総合的に評価する。

授業ミニッツカード（60%）

申請書類などの提出状況（20%）

書類がきちんと記入されているか、提出期限を守っているかにより減点を行う。

個人・グループプレゼンテーション（20%）

< テキスト >

特に指定なし。

< 参考図書 >

参考図書は、適時授業内で紹介する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業と海外語学研修プログラムの全体説明。また、今後各種申請に必要な証明書、資格について確認を行う。

第2回 留学先の紹介

留学先の3大学について紹介を行う。

第3回 留学都市について

自身が留学する都市、その周辺地域について調べて発表する。

第4回 キャリアセミナー

マイナビ社によるキャリアセミナー。

第5回 留学先の紹介(1)

オンラインセメスター留学について先輩の体験談を聞く。

第6回 留学先の紹介(2)

現地セメスター留学先について先輩の体験談を聞く。派遣留学希望先を仮決定する。

第7回 業界リサーチ

興味のある業界について調べ、セメスター留学経験(語学力)をどのように活かすかについて考え、今後の中国語学習や各種資格取得のための目標を設定する。

第8回 オンライン登録など

留学先の各大学のエントリー登録を行う。また、申請に必要な書類を提出する。

第9回 外部講演会

外部講師により関連講演を行う。

第10回 キャリアレクチャー

キャリアセンターによるキャリアレクチャーを行う。

第11回 個人発表リサーチ

中国について関心のあるトピックを選び調べる。

第12回 個人発表

中国に関するトピックに関する個人発表を行う。

第13回 個人発表

中国に関するトピックに関する個人発表を行う。

第14回 交流会

就職活動を終えた先輩方の体験談を聞く。

第15回 個人発表

中国に関するトピックに関する個人発表を行う。

2022年度 後期

2.0単位

企業インターンシップフォローアップ

栗原 由加、香月 裕介、吉兼 奈津子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この授業は、学部共通科目の現地研修関連科目に属し、ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」「言語の基礎に

ある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ようになるための授業です。3年次前期に実施したインターンシップの内容について、学生各々が報告書としてまとめ、発表します。この授業の目的は、学生が、インターンシップの経験を卒業後のキャリアと結び付けて考えられるようになることです。

なお、この授業の第1回から第5回の担当者は、一般財団法人での業務管理の実務経験がある教員です。実践的な観点から、ビジネススタイルでの文書作成についてのアドバイスとトレーニングを行います。

また、この授業は、第11回から第15回において学外の多様な企業からの講師を招いて行われる、実践的教育から構成される授業科目です。

< 到達目標 >

企業インターンシップを終えて、留学生在が仕事について考えを深め、発表することで、これからの就職活動と将来のキャリアのイメージができる。

< 考えを深めること >

1. 留学生在が日本企業で働くとはどのようなことか
2. インターンシップ受け入れ企業への感謝
3. 社会人として求められることは何か

< 発表すること >

1. インターンシップ実施内容の報告
2. インターンシップを通して学んだこと
3. 今後の課題、将来の希望

< 授業のキーワード >

企業インターンシップ、報告、発表

< 授業の進め方 >

日本語コース教員のオムニバス。演習形式で行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

インターンシップ報告会に向けて、報告資料の作成、パワーポイントの作成、発表原稿の作成を行ってください。毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

< 提出課題など >

最終発表のために準備した報告書、パワーポイントファイルの提出を求めます。

< 成績評価方法・基準 >

授業の取り組み50%、発表資料20%、最終発表30%

< テキスト >

プリントを配布します。

< 授業計画 >

第1回 報告書の作成

学生各々のインターンシップの経験について情報共有し、インターンシップ中に作成した報告資料の確認をします。また、ビジネススタイルの報告書の書き方について学びます。(栗原)

第2回 報告書の作成

インターンシップ中に作成した報告書をもとに、報告会

のための下書き原稿を作成します。(栗原)

第3回 報告書の作成
インターンシップ中に作成した報告書をもとに、報告会のための下書き原稿を作成します。(栗原)

第4回 報告書の作成
インターンシップ中に作成した報告書をもとに、報告会のための下書き原稿を作成します。(栗原)

第5回 報告書の作成
下書き原稿を完成させます。(栗原)

第6回 発表準備
ビジネススタイルのパワーポイントの作り方について学びます。(香月)

第7回 発表準備
学生各々が、自分の報告書をもとに、パワーポイントを作成します。(香月)

第8回 発表準備
制限時間内で発表できるように、発表原稿を作成します。(香月)

第9回 発表練習
インターンシップ報告会の練習をします。(香月)

第10回 発表練習
インターンシップ報告の練習をします。(香月)

第11回 インターンシップ発表会
インターンシップ報告発表会を行います。インターンシップ先企業の指導者をアドバイザーとしてお招きします。(?兼)

第12回 インターンシップ発表会
インターンシップ報告発表会を行います。インターンシップ先企業の指導者をアドバイザーとしてお招きします。(?兼)

第13回 インターンシップ発表会
インターンシップ報告発表会を行います。インターンシップ先企業の指導者をアドバイザーとしてお招きします。(?兼)

第14回 インターンシップ発表会
インターンシップ報告発表会を行います。インターンシップ先企業の指導者をアドバイザーとしてお招きします。(?兼)

第15回 インターンシップ発表会
インターンシップ報告発表会を行います。インターンシップ先企業の指導者をアドバイザーとしてお招きします。(?兼)

2022年度 後期

2.0単位

企業インターンシップ事前指導

栗原 由加、香月 裕介、吉兼 奈津子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この授業は、学部共通科目の現地研修関連科目に属し、ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ようになるための授業です。3年次前期に実施する企業インターンシップを、学生、企業の双方にとって実りあるものとするために、インターンシップの意義を理解し、参加準備を行うことを目的とします。

なお、この授業の第6回から第10回の担当者は、一般財団法人での業務管理の実務経験がある教員です。人材育成に関する観点から、企業が求める人材像についてのアドバイスと実践的なトレーニングを行います。

< 到達目標 >

企業インターンシップに先立ち、以下のことについて理解し、練習することで、インターンシップ参加の心構えと準備ができる。

< 理解すること >

1. インターンシップとは何か
2. 在学時代にインターンシップを経験する意義
3. 企業がインターンシップを実施する理由

< 練習すること >

1. インターンシップに応募するための書類の書き方
2. インターンシップに応募するための面接の受け方
3. 職場のマナー

< 授業のキーワード >

企業インターンシップ、履歴書、面接、マナー

< 授業の進め方 >

日本語コース教員のオムニバス。演習形式で行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

< 提出課題など >

授業の中で理解したこと、考えたことを確認するためのタスクシート、インターンシップ報告会のレポートの提出を求めます。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の取り組み50%、提出課題40%、授業でのマナー10%

< テキスト >

プリントを配布します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

過去のインターンシップ参加報告から、3年次前期に実施されるインターンシップについて、概要と意義を理解します。(香月)

第2回 インターンシップの概要

日本の企業インターンシップについて、経済団体や政府

による指針から知識を深めます。(香月)

第3回 インターンシップの動向

新聞記事から、日本の企業インターンシップの最近の動向について理解します。(香月)

第4回 インターンシップの動向

新聞記事から、留学生のインターンシップ、就職について理解します。(香月)

第5回 インターンシップの動向

これまでに学んだ知識を整理し、留学生は、インターンシップと卒業後の仕事をどのように関連づけて考えればよいかを理解します。(香月)

第6回 インターンシップ成果物の学修

今年度前期に実施した3年次生のインターンシップ成果物の内容を理解します。(栗原)

第7回 インターンシップ成果物の学修

今年度前期に実施した3年次生のインターンシップ成果物から、インターンシップでの学修項目を理解します。(栗原)

第8回 インターンシップ成果物の学修

今年度前期に実施した3年次生のインターンシップ成果物から、インターンシップの評価項目と目標を理解します。(栗原)

第9回 インターンシップ発表会参加準備

インターンシップ発表会での学修内容と質問方法について学びます。(栗原)

第10回 インターンシップ発表会参加準備

インターンシップ発表会での質問方法を練習します。(栗原)

第11回 インターンシップ報告会参加

3年次生のインターンシップ報告会を見学し、インターンシップについて理解を深めます。(吉兼)

第12回 インターンシップ報告会参加

3年次生のインターンシップ報告会を見学し、インターンシップについて理解を深めます。(吉兼)

第13回 インターンシップ報告会参加

3年次生のインターンシップ報告会を見学し、インターンシップについて理解を深めます。(吉兼)

第14回 インターンシップ報告会参加

3年次生のインターンシップ報告会を見学し、インターンシップについて理解を深めます。(吉兼)

第15回 インターンシップ報告会参加

3年次生のインターンシップ報告会を見学し、インターンシップについて理解を深めます。(吉兼)

2022年度 後期

2.0単位

現代中国事情

胡 士雲

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業はG C学部のD Pの中の、言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる、と関連する科目である。

最近の数十年間に、中国社会は大きく変化している。この授業はさまざまな話題を取り上げ、中国の最新様子を紹介し、現代中国について一定の知識を習得することを目指す。

< 到達目標 >

1) 現代中国に関する知識を広げ、さまざまな情報の中から実際の中国社会を理解することができる。(知識、態度・習慣)

2) 中国人とのコミュニケーションをとる際に、できる限り誤解が出ないようにする。(態度・習慣)

3) 異文化の尊重と理解の意識を常に持つことになる。(態度・習慣)

< 授業のキーワード >

現代中国、最新事情、異文化理解

< 授業の進め方 >

1) 一般講義として、理解しやすくするため、パワーポイントを利用して授業を進める。また、動画や写真なども活用する。

2) 客観的に現代中国を紹介し、特に中日文化の相違点を重視する。

3) 最新の中国事情を話題として取り上げ、シラバスを随時に修正する。

< 履修するにあたって >

1) 授業中に、授業内容を理解したかどうかを常に確認すること。

2) インターネットを通して、中国の情報を常に確認すること。

3) 授業内容は授業の直前に知らせることにより、シラバスを常に確認すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画の各回で指示された内容を繰り返し確認すること。

事前学習として、授業の対象となる内容を予習すること。(1時間程度)

事後学習として、授業内容を再確認し、日本のマスコミに報道された中国に関する情報に留意すること。(1時間程度)

< 提出課題など >

毎回の授業終了時に、受講カードを提出する。提出された受講カードは次の授業でコメント、解説を行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業の取り組み状況60%、グループ発表30%、期末レポート10%

< テキスト >

自主教材（毎回授業中にプリントを配布）	0 0
< 授業計画 >	0
第1回 現代中国事情（1）	0 0
授業の直前に知らせる	0
第2回 現代中国事情（2）	0 0
授業の直前に知らせる	0
第3回 現代中国事情（3）	0 0
授業の直前に知らせる	0
第4回 現代中国事情（4）	0 0
授業の直前に知らせる	0
第5回 現代中国事情（5）	0 0
授業の直前に知らせる	0
第6回 現代中国事情（6）	-----
授業の直前に知らせる	2022年度 前期
第7回 現代中国事情（7）	2.0単位
授業の直前に知らせる	国際社会（政治）
第8回 現代中国事情（8）	表谷 純子
授業の直前に知らせる	-----
第9回 現代中国事情（9）	< 授業の方法 >
授業の直前に知らせる	Seminar and lecture
第10回 現代中国事情（10）	< 授業の目的 >
授業の直前に知らせる	PURPOSE: The purpose of this subject is to have st
第11回 現代中国事情（11）	udents acquire the basic concepts of and knowledge
グループ発表	of International Society (Politics) in English sp
第12回 現代中国事情（12）	eaking environment as well as the power of communi
グループ発表	cation to work with people who speak a language ot
第13回 現代中国事情（13）	her than Japanese cooperatively. The aims correspo
グループ発表	nd to the diploma policy No.1, No.2 and No. 3 of t
第14回 現代中国事情（14）	he Faculty of Global Communication.
グループ発表	
第15回 現代中国事情（15）	From the diploma policy of the Faculty of Global C
今学期のまとめ	ommunication.
0 0	
0	In order to acquire the diploma of the course,
0 0	1.students must learn to communicate fluently in
0	the target language students are learning (English
0 0)
0	2. students must learn to communicate with other p
0 0	eople so that students may work with them cooperat
0	ively.
0 0	3. students must learn to acquire sufficient knowl
0	edge of the society, culture, history, politics, e
0 0	conomics, etc. of the region where the target lang
0	uage (English) is spoken.
0 0	< 到達目標 >
0	GOALS: After taking this class, students
0 0	
0	1) will acquire the basic concept and knowledge of
0 0	politics,
0	2) will be able to communicate in English fluently

with people whose mother tongue is not Japanese,
3) will learn to cooperate with people in the international environment using English effectively, and
4) will learn to cope with various tasks in the international setting by communicating effectively in English.

< 授業の進め方 >

CLASS MANAGEMENT: Style of the learning/teaching in this class will vary according to each subject to be dealt with. However, in most cases, students will experience a so-called "active learning" style, preceded by a tutor's introduction of the subject.

< 履修するにあたって >

FURTHER NOTE: Below is just the sample of the first 15 classes of the Cambridge University program. These types of classes will continue for 5 weeks.

*STUDENTS ARE NOT ALLOWED TO LEAVE THE COUNTRY WHERE CLASSES ARE OFFERED. THIS APPLIES TO ALL PROGRAMS FOR THE ENGLISH COURSE.

* 研修中に研修実施国から離れ外国に行くことは一切許されません。これはすべての研修先において同じです。研修先で授業が実施されない期間に日本から家族の方が来られた場合でも、一緒に研修国以外の国に出かけることは一切許されません。

< 授業時間外に必要な学修 >

At least 60 minute study time will be needed outside the class for each class hour.

< 提出課題など >

Students will be frequently asked to submit reports and challenge presentation. Online activities will be also assigned. Feedback for these activities will be offered at each tutor's office.

< 成績評価方法・基準 >

Report: 40 %

Presentation: 20%

Contribution to the class: 20%

Teamwork: 20%

< テキスト >

To be announced at the beginning of the course.

< 授業計画 >

第1回 Core subjects (1)

Core concepts in the Social Sciences
Research skills in the Social Sciences
Presentation skills in the Social Sciences

第2回 Core subjects (2)

Research methods & Professional Skills Foreign Po

licy Analysis methods

Asia in the International System

第3回 The basis of international relations

Some major contemporary issues: Globalization, terrorism and the rise of US/Chinese power. The realist, pluralist and globalist approaches to international relations

第4回 Modern approaches to the understanding of global politics

Foundations of world politics. Reading Foucault in International politics

第5回 International relations of the twentieth century

The role of ideology, the impact of war, the emergence of superpowers, the end of the Cold War and the world after 1990

第6回 International relations of the twenty-first century

Religions, Cultures and Civilisations in International Relations: rethinking Imperialism

第7回 Constraints and opportunities

Freedom of action in international relations, big and small powers, case studies: the USA and Germany

第8回 The economic model

The Political Economy of Development, the Political Economy of Global Finance, the Political Economy of the Environment

第9回 National interest

The role of domestic politics, alliances, friendships and partnerships

Case study: Britain, the USA and the European Union

第10回 Reading national interest

The Global village: the enemy of my enemy is my friend - Assad, SFA and Daesh

第11回 Global power and regional power

Global power

The rise of the 'superpower' The USA and the USSR in international relations, military and economic strength, nuclear weapons,

Regional power

The role and ambitions of regional powers, hegemony and competition, case study: China

第12回 Migration

People on the move, nation, statehood and identity, South Sudan

第13回 War and international relations

The theory and practice of war in international relations

Legitimacy of military action

第14回 War and conflict

Terror, security and the state

Science, technology and war.

第15回 Human Rights

The challenge in international agendas. Sex and violence

2022年度 前期

2.0単位

国際社会 (経済)

表谷 純子

< 授業の方法 >

Seminar and lecture

< 授業の目的 >

PURPOSE: The purpose of this subject is to have students acquire the basic concepts of and knowledge of International Society (Economics) in English speaking environment as well as the power of communication to work with people who speak a language other than Japanese cooperatively. The aims correspond to the diploma policy No.1, No.2 and No. 3 of the Faculty of Global Communication.

From the diploma policy of the Faculty of Global Communication.

In order to acquire the diploma of the course,
1.students must learn to communicate fluently in the target language students are learning (English)

2. students must learn to communicate with other people so that students may work with them cooperatively.

3. students must learn to acquire sufficient knowledge of the society, culture, history, politics, economics, etc. of the region where the target language (English) is spoken.

< 到達目標 >

GOALS: After taking this class, students

1) will acquire the basic concept and knowledge of economics,

2) will be able to communicate in English fluently with people whose mother tongue is not Japanese,

3) will learn to cooperate with people in the international environment using English effectively, a

nd

4) will learn to cope with various tasks in the international setting by communicating effectively in English.

< 授業の進め方 >

CLASS MANAGEMENT: Style of the learning/teaching in this class will vary according to each subject to be dealt with. However, in most cases, students will experience a so-called "active learning" style, preceded by a tutor's introduction of the subject.

< 履修するにあたって >

FURTHER NOTE: Below is just the sample of the first 15 classes of the Cambridge University program. These types of classes will continue for 5 weeks.

* STUDENTS ARE NOT ALLOWED TO LEAVE THE COUNTRY WHERE CLASSES ARE OFFERED. THIS APPLIES TO ALL PROGRAMS FOR THE ENGLISH COURSE.

* 研修中に研修実施国から離れ外国に行くことは一切許されません。これはすべての研修先において同じです。研修先で授業が実施されない期間に日本から家族の方が来られた場合でも、一緒に研修国以外の国に出かけることは一切許されません。

< 授業時間外に必要な学修 >

At least 60 minute study time will be needed outside the class for each class hour.

< 提出課題など >

Students will be frequently asked to submit reports and challenge presentation. Online activities will be also assigned. Feedback for these activities will be offered at each tutor's office.

< 成績評価方法・基準 >

Report: 40 %

Presentation: 20%

Contribution to the class: 20%

Teamwork: 20%

< テキスト >

To be announced at the beginning of the course.

< 授業計画 >

第1回 Core subjects (1)

Core concepts in the Social Sciences Research skills in the Social Sciences Presentation skills in the Social Sciences Quantitative skills in Business & Economics (Mathematics and Statistics)

第2回 Core subjects (2)

Quantitative Methods for International Business

第3回 The Global Business Environment

Globalization: case studies, and opposing views
 第4回 The Global Business Environment(2)
 Debates and controversies in international businesses
 第5回 International Trade and Investment
 International Trade and Investment
 第6回 International Business and Economics
 International Business Theories
 The Globalisation of Innovation
 The Emerging Markets
 European Business
 第7回 Political Economy of Trade

Foreign Direct Investment
 Regional/Global Economic Integrations
 第8回 Chinese Business
 Chinese Business: What is Different?
 第9回 The International Financial System
 International Financial Markets
 第10回 The International Financial System (2)

International Monetary System
 第11回 International Finance
 Economics for Business

第12回 International Finance (2)
 Foreign Market Entry Strategy
 第13回 International Finance (3)
 Managing and Exploiting
 The Economics of China

第14回 Concepts in International Business Management
 International Strategy and Organization

第15回 Concepts in International Business & Management
 Global Perspectives on Enterprise
 Intellectual Capital
 Managing International Operations

 2022年度 前期
 2.0単位
 国際社会 (文化)
 表谷 純子

< 授業の方法 >
 Seminar and lecture

< 授業の目的 >

PURPOSE: The purpose of this subject is to have students acquire the basic concepts of and knowledge of International Society (Culture) in English speaking environment as well as the power of communication to work with people who speak a language other than Japanese cooperatively. The aims correspond to the diploma policy No.1, No.2 and No. 3 of the Faculty of Global Communication.

From the diploma policy of the Faculty of Global Communication.

In order to acquire the diploma of the course,
 1. students must learn to communicate fluently in the target language students are learning (English)
 2. students must learn to communicate with other people so that students may work with them cooperatively.
 3. students must learn to acquire sufficient knowledge of the society, culture, history, politics, economics, etc. of the region where the target language (English) is spoken.

< 到達目標 >

GOALS: After taking this class, students

1) will acquire the basic concept and knowledge of cultural studies,
 2) will be able to communicate in English fluently with people whose mother tongue is not Japanese,
 3) will learn to cooperate with people in the international environment using English effectively, and
 4) will learn to cope with various tasks in the international setting by communicating effectively in English.

< 授業の進め方 >

CLASS MANAGEMENT: Style of the learning/teaching in this class will vary according to each subject to be dealt with. However, in most cases, students will experience a so-called "active learning" style, preceded by a tutor's introduction of the subject.

< 履修するにあたって >

FURTHER NOTE: Below is just the sample of the first 15 classes of the Cambridge University program. These types of classes will continue for 5 weeks.

* STUDENTS ARE NOT ALLOWED TO LEAVE THE COUNTRY WH

ERE CLASSES ARE OFFERED. THIS APPLIES TO ALL PROGRAMS FOR THE ENGLISH COURSE.

* 研修中に研修実施国から離れ外国に行くことは一切許されません。これはすべての研修先において同じです。研修先で授業が実施されない期間に日本から家族の方が来られた場合でも、一緒に研修国以外の国に出かけることは一切許されません。

< 授業時間外に必要な学修 >

At least 60 minute study time will be needed outside the class for each class hour.

< 提出課題など >

Students will be frequently asked to submit reports and challenge presentation. Online activities will be also assigned. Feedback for these activities will be offered at each tutor's office.

< 成績評価方法・基準 >

Report: 40 %

Presentation: 20%

Contribution to the class: 20%

Teamwork: 20%

< テキスト >

To be announced at the beginning of the course.

< 授業計画 >

第1回 Core subjects (1)

What is culture? What is a nation?

Presentation skills in the Social Sciences

第2回 Core subjects (2)

Theories - Barthes, Macluhan, Hall, Gramsci & Butler.

第3回 Politics and Culture

The World Cup, head scarves, and cultural politics

第4回 Global Culture

The signs and signification

第5回 The perfect society

Modern views of society and culture

第6回 The Question of Ideology

The Question of Ideology: Culture and Capital, Culture and the Social Formation

第7回 Culture, Meaning and Knowledge

The Linguistic Turn in Cultural Studies

第8回 Biology, the Body and Culture

The Problem of Reductionism

The Capabilities of Science

Genetic Engineering

Evolutionary Culture

第9回 Economy, Technology and Social Class

Economy, Technology and Social Class with Impacts of Globalization

The State, Politics and New Social Movements

第10回 Postmodernism

Modernism and Culture

Modern and Postmodern Knowledge

第11回 Ethnicity, Race and Nation

Race and Ethnicity

National Identities

第12回 Sex, Subjectivity and Representation

Sex, Gender and Identity

Men and Masculinity, Feminism and Cultural Studies

Gender, Representation and Media Culture

第13回 Television, Texts and Audiences

Television as Text: News and Ideology

Social Media and News Reporting

Television as Text: Soap Opera as Popular Television

第14回 Digital Media Culture

A Digital Revolution, Digital Media and Digital Divides

第15回 Youth, Style and Resistance

Youth Subcultures

Youthful Difference: Class, Gender and Race

Space: A Global Youth Culture?

Global Youth Online

2022年度 後期

2.0単位

資格対策演習 (SPI)

為村 啓二

< 授業の方法 >

教科書の各講の解説、確認問題は予習とし、授業内で練習問題、総合問題を行い、その解答を解説する。

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて 授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

< 授業の目的 >

この科目は、神戸学院大学のDPに示す、文化・社会・自然に関する広く豊かな知識を備え、それを社会に役立てることができる、高い倫理観・責任感を備えた社会人として行動することができる、自立的な学習基盤を備え、生涯学び続けていくことができる、を目的としています。就職試験で必要となる数学の基本的な知識を学び、その学びを将来のビジネスシーンで役立つ論理的思考力に結

びつけ、表現する事を学びます。

<到達目標>

数学の基礎知識を習得し、その知識を日常生活で活用することができる。

SPI3非言語の頻出分野の解き方、タイムマネジメント、テスト戦略の知識を取得することができる。

ビジネスシーンで求められる5つの数学的思考力、「把握力」「分析力」「選択力」「予測力」「表現力」を身につけ、論理的なアプローチで問題解決することができる。

<授業のキーワード>

SPI3 非言語 数学

<授業の進め方>

演習 Lecture

<授業時間外に必要な学修>

予習・復習は各自のペースで行っておくこと。

毎回、予習、小テストの準備に最低1時間、復習などに最低1時間の学修を必要とする。

<提出課題など>

期限の過ぎた課題は、公欠以外受け取りません。

<成績評価方法・基準>

平常点 (小テスト・宿題・授業参加度) 40%

中間テスト 30%

期末テスト 30%

*毎週小テストを行います。公欠以外の欠席の場合、Makeupは行いません。

*中間テスト・期末テストの追試に関しては、試験日より1週間以内の受験を期限とする。評価に関しては、公欠の場合を除き80%の認定です。

遠隔授業では学期末にテストを実施しそれが成績となる。

<テキスト>

SPI3 能力テスト対策 必出問題完全攻略

出版社: 株式会社学研アソシエ (2022)

<授業計画>

第1回 計算中心の問題

Unit 0 計算のルール/方程式・不等式・関数の基礎

*Mandatory attendance at first class

第2回 計算中心の問題

Unit 1 割合と比の計算

第3回 計算中心の問題

Unit 2 食塩水の濃度・二重の場合

第4回 計算中心の問題

Unit 2 食塩水の濃度・二重の場合

第5回 計算中心の問題

Unit 3 損益計算・分割払い

第6回 計算中心の問題

Unit 3 損益計算・分割払い

第7回 計算中心の問題

Unit 4 料金割引・精算問題

第8回 中間テスト

テスト範囲 (Unit 1 - 4)

第9回 計算中心の問題

Unit 5 仕事算・水槽問題

第10回 計算中心の問題

Unit 5 仕事算・水槽問題

第11回 計算中心の問題

Unit 6 表の読み取り問題

第12回 計算中心の問題

Unit 7 速さの計算

第13回 計算中心の問題

Unit 7 速さの計算

第14回 計算中心の問題

Unit 8 旅人算・流水算・通過算

第15回 期末テスト

テスト範囲 (Unit 5 - 8)

2022年度 後期

2.0単位

資格対策演習 (TOEIC・A)

中嶋 アンディ 史人

<授業の方法>

講義、演習

中嶋 アンディ 史人<andynakajima@gc.kobegakuin.ac.jp>

特別警報 (すべての特別警報) または暴風警報発令の場合 (大雨、洪水警報等は対象外) の本科目の取扱いについて 授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合は、ご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

<授業の目的>

この授業ではディプロマポリシーの中でも「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」と「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としており、ビジネスシーンも含めた日常場面で頻出する語彙力を身に付けると同時に基礎文法についても学習し英語での読解力・聴解力を向上させることである。また、スキミング、スキミング、文書構成パターンや背景知識の活用等、より効率的に読み、聴く為の方略を学ぶ。TOEICテスト形式の問題に慣れ、スコアアップを目指す。

<到達目標>

- ・文法事項が理解できるようになる。
- ・TOEICテストに頻出する語彙、表現を習得ができる。

- ・TOEICテスト形式に慣れ、時間内に問題を解くことができるよう読解スピードが上がる。
- ・TOEICテスト形式に慣れ、速いリスニング問題に対応できるよう聴解スピードをあげる。
- ・効率的に読む、聴くなどの方略使用ができるようになる。

< 授業のキーワード >

語彙、文法、読解方略、ビジネス英語、TOEIC

< 授業の進め方 >

Pair work, Group work, Lecture

< 履修するにあたって >

授業の前後にTOEICの問題を数回解くこと。また、毎回、新しく学んだことを記録した「学習ノート」を付けること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

英文読解・聴解課題の提出、構文や語彙に関する課題の提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

授業への積極的参加 30% 課題の提出 70%

< テキスト >

公式TOEIC Listening & Reading 問題集 2 (2017, ETS)
) ¥3,080 (税込) ISBN : 978-4-906033-50-8

< 授業計画 >

第1回 Introduction

第2回 Unit 1

Test 1: リスニング

第3回 Unit 2

Test 1: リスニング

第4回 Unit 3

Test 1: リスニング

第5回 Unit 4

Test 1: リーディング

第6回 Unit 5

Test 1: リーディング

第7回 Unit 6

Test 1: リーディング

第8回 Unit 1-6

Review

第9回 Unit 7

Test 2: リスニング

第10回 Unit 8

Test 2: リスニング

第11回 Unit 9

Test 2: リスニング

第12回 Unit 10

Test 2: リーディング

第13回 Unit 11

Test 2: リーディング

第14回 Unit 12

Test 2: リーディング

第15回 Sum-up and follow-up

Review

2022年度 後期

2.0単位

資格対策演習 (TOEIC・B)

担当者未定 (GC)

< 授業の方法 >

講義、演習

特別警報(すべての特別警報)または暴風警報発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目の取扱いについて 授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合は、ご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」と「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的とこしており、ビジネスシーンも含めた日常場面で頻出する語彙力を身に付けると同時に基礎文法についても学習し英語での読解力・聴解力を向上させることである。また、スキミング、スキヤニング、文書構成パターンや背景知識の活用等、より効率的に読み、聴く為の方略を学ぶ。TOEICテスト形式の問題に慣れ、スコアアップを目指す。

< 到達目標 >

- ・文法事項が理解できるようになる。
- ・TOEICテストに頻出する語彙、表現を習得ができる。
- ・TOEICテスト形式に慣れ、時間内に問題を解くことができるよう読解スピードが上がる。
- ・TOEICテスト形式に慣れ、速いリスニング問題に対応できるよう聴解スピードをあげる。
- ・効率的に読む、聴くなどの方略使用ができるようになる。

< 授業のキーワード >

語彙、文法、読解方略、ビジネス英語、TOEIC

< 授業の進め方 >

Pair work, Group work, Lecture

< 履修するにあたって >

授業の前後にTOEICの問題を数回解くこと。また、毎回、新しく学んだことを記録した「学習ノート」を付けること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

英文読解・聴解課題の提出、構文や語彙に関する課題の提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

授業への積極的参加 30% 課題の提出 70%

< テキスト >

公式TOEIC Listening & Reading 問題集 2 (2017, ETS)
) ¥3,080 (税込) ISBN: 978-4-906033-50-8

< 授業計画 >

第1回 Introduction

第2回 Unit 1

Test 1: リスニング

第3回 Unit 2

Test 1: リスニング

第4回 Unit 3

Test 1: リスニング

第5回 Unit 4

Test 1: リーディング

第6回 Unit 5

Test 1: リーディング

第7回 Unit 6

Test 1: リーディング

第8回 Unit 1-6

Review

第9回 Unit 7

Test 2: リスニング

第10回 Unit 8

Test 2: リスニング

第11回 Unit 9

Test 2: リスニング

第12回 Unit 10

Test 2: リーディング

第13回 Unit 11

Test 2: リーディング

第14回 Unit 12

Test 2: リーディング

第15回 Sum-up and follow-up

Review

2022年度 前期

2.0単位

資格対策演習 (TOEIC・A)

表谷 純子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」と「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としており、ビジネスシーンも含めた日常場面で頻出する語彙力を身に付けると同時に基礎文法についても学習し英語での聴解力と読解力を向上させることである。また、スキミング、スキミング、背景知識の活用、文書構成パターン等、より効率的に読む為の方略を学ぶ。TOEICテスト形式の問題に慣れ、スコアアップを目指す。

< 到達目標 >

- ・基礎文法事項について習得すること。
- ・TOEICテストに頻出する語彙、表現を習得すること。
- ・TOEICテスト形式に慣れ、時間内に問題を解くことができるよう読解スピードを上げること。
- ・効果的かつ効率的に内容把握をする為の聴解方略・読解方略使用ができるようになること。

< 授業のキーワード >

語彙 文法 TOEIC 読解方略 ビジネス英語

< 授業の進め方 >

Pair work, Group work, Lecture

< 履修するにあたって >

既習事項の復習を繰り返し定着をはかること。十分に準備をして小テスト、復習テスト、課題に取り組むこと。課題等はGCSquareに提示されるので、資格対策演習II【TOEIC】_2022

のページを確認すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

英文読解、構文、語彙に関する課題の提出を課すことがある。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

小テスト・復習テスト 70% +課題 30%

< テキスト >

「公式TOEIC? Listening & Reading 問題集 7」発行:

一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会

定価：3000円+税 ISBN-13：978-4906033614

< 授業計画 >

第1回 Introduction

授業の概要説明 (ねらい、評価方法など) Pre-test

第2回 Listening strategies

トップダウンとボトムアップの聴解方略について

第3回 Listening test 1の1

Test 1のリスニング問題に取り組む。出題問題の英単語や英語表現を確認する。

第4回 Listening test 1の2

Test 1のリスニング問題の復習テストを行う。

第5回 文法のReview 1

1年次に既習の文法事項について復習する

第6回 文法のReview 2

1年次に既習の文法事項について復習する

第7回 Reading Strategies

読解方略について学ぶ

第8回 Reading test 1の1

Test 1のリーディング問題に取り組む。出題問題の英単語や英語表現を確認する。

第9回 Reading test 1の2

Test 1のリーディング問題の復習テストを受ける。

第10回 Listening test 2の1

Test 2のリスニング問題に取り組む。出題問題の英単語や英語表現を確認する。

第11回 Listening test 2の2

Test 2のリスニング問題の復習テストを行う。

第12回 Reading test 2の1

Test 1のリーディング問題に取り組む。出題問題の英単語や英語表現を確認する。

第13回 Reading test 2の2

Test 2のリーディング問題の復習テストを行う。

第14回 Listening Test 1&2

Listening test 1と2の復習テストを実施。質疑応答、振り返り、フィードバックを行う。

第15回 Reading test 1 & 2

Reading test 1と2の復習テストを実施。質疑応答、振り返り、フィードバックを行う。

2022年度 前期

2.0単位

資格対策演習 (TOEIC・B)

表谷 純子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」と「3.言語の基礎にある

多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としており、ビジネスシーンも含めた日常場面で頻出する語彙力を身に付けると同時に基礎文法についても学習し英語での聴解力と読解力を向上させることである。また、スキミング、スキミング、背景知識の活用、文書構成パターン等、より効率的に読む為の方略を学ぶ。TOEICテスト形式の問題に慣れ、スコアアップを目指す。

< 到達目標 >

- ・基礎文法事項について習得すること。
- ・TOEICテストに頻出する語彙、表現を習得すること。
- ・TOEICテスト形式に慣れ、時間内に問題を解くことができるよう読解スピードを上げること。
- ・効果的かつ効率的に内容把握をする為の聴解方略・読解方略使用ができるようになること。

< 授業のキーワード >

語彙 文法 TOEIC 読解方略 ビジネス英語

< 授業の進め方 >

Pair work, Group work, Lecture

< 履修するにあたって >

既習事項の復習を繰り返し定着をはかること。十分に準備をして小テスト、復習テスト、課題に取り組むこと。課題等はGCSquareに提示されるので、資格対策演習II【TOEIC】_2022

のページを確認すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

英文読解、構文、語彙に関する課題の提出を課すことがある。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

小テスト・復習テスト 70% +課題 30%

< テキスト >

「公式TOEIC? Listening & Reading 問題集 7」発行：一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
定価：3000円+税 ISBN-13：978-4906033614

< 授業計画 >

第1回 Introduction

授業の概要説明 (ねらい、評価方法など) Pre-test

第2回 Listening strategies

トップダウンとボトムアップの聴解方略について

第3回 Listening test 1の1

Test 1のリスニング問題に取り組む。出題問題の英単語や英語表現を確認する。

第4回 Listening test 1の2

Test 1のリスニング問題の復習テストを行う。

第5回 文法のReview 1

1年次に既習の文法事項について復習する

第6回 文法のReview 2

1年次に既習の文法事項について復習する

第7回 Reading Strategies

読解方略について学ぶ

第8回 Reading test 1の1

Test 1のリーディング問題に取り組む。出題問題の英単語や英語表現を確認する。

第9回 Reading test 1の2

Test 1のリーディング問題の復習テストを受ける。

第10回 Listening test 2の1

Test 2のリスニング問題に取り組む。出題問題の英単語や英語表現を確認する。

第11回 Listening test 2の2

Test 2のリスニング問題の復習テストを行う。

第12回 Reading test 2の1

Test 1のリーディング問題に取り組む。出題問題の英単語や英語表現を確認する。

第13回 Reading test 2の2

Test 2のリーディング問題の復習テストを行う。

第14回 Listening Test 1&2

Listening test 1と2の復習テストを実施。質疑応答、振り返り、フィードバックを行う。

第15回 Reading test 1 & 2

Reading test 1と2の復習テストを実施。質疑応答、振り返り、フィードバックを行う。

2022年度 後期

2.0単位

資格対策演習 (SPI・A)

為村 啓二

< 授業の方法 >

教科書の各講の解説、確認問題は予習とし、授業内で練習問題、総合問題を行い、その解答を解説する。

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて 授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

< 授業の目的 >

この科目は、神戸学院大学のDPに示す、文化・社会・自然に関する広く豊かな知識を備え、それを社会に役立てることができる、高い倫理観・責任感を備えた社会人として行動することができる、自立的な学習基盤を備え、

生涯学び続けていくことができる、を目的としています。就職試験で必要となる数学の基本的な知識を学び、その学びを将来のビジネスシーンで役立つ論理的思考力に結びつけ、表現する事を学びます。

< 到達目標 >

数学の基礎知識を習得し、その知識を日常生活で活用することができる。

SPI3非言語の頻出分野の解き方、タイムマネージメント、テスト戦略の知識を取得することができる。

ビジネスシーンで求められる5つの数学的思考力、「把握力」「分析力」「選択力」「予測力」「表現力」を身につけ、論理的なアプローチで問題解決することができる。

< 授業のキーワード >

SPI 3 非言語 数学

< 授業の進め方 >

Lecture

< 授業時間外に必要な学修 >

テキストのUnit1から8までの方程式問題をしっかりと自己学習しておくこと。

予習、小テストの準備に最低1時間、復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

期限の過ぎた課題提出は、公欠以外受け取りません。

< 成績評価方法・基準 >

平常点 (小テスト・宿題・授業参加度) 20%

中間テスト 40%

期末テスト40%

< テキスト >

SPI3 能力テスト対策 必出問題完全攻略

出版社: 株式会社学研アソシエ (2022)

< 授業計画 >

第1回 Orientation

Orientation、基礎の復習

*Mandatory attendance at first class

第2回 論理的思考能力問題

Uni9 集合(1)

Unit10 集合(2)

第3回 論理的思考能力問題

Unit11 場合の数

第4回 論理的思考能力問題

Unit12 順列組み合わせ

第5回 論理的思考能力問題

Unit13 確率の基礎

第6回 論理的思考能力問題

Unit14 確率の計算(1)

第7回 論理的思考能力問題

Unit15 確率の計算(2)

第8回 中間テスト

テスト範囲 (Unit9-15)
第9回 論理的思考能力問題
Unit16 推論 (1)
Unit17 推論 (2)
第10回 論理的思考能力問題
Unit18 推論 (3)
Unit19 推論 (4)
第11回 論理的思考能力問題
Unit20 推論 (5)
Unit21 チェックボックス
第12回 論理的思考能力問題
Unit 2 2 資料解釈 (1)
第13回 論理的思考能力問題
Unit 2 3 資料解釈 (2)
第14回 論理的思考能力問題
Unit 2 4 資料解釈 (3)
第15回 期末テスト
テスト範囲 (Unit1 6 - 2 4)

2022年度 後期

2.0単位

資格対策演習 (SPI・B)

為村 啓二

< 授業の方法 >

教科書の各講の解説、確認問題は予習とし、授業内で練習問題、総合問題を行い、その解答を解説する。

特別警報 (すべての特別警報) または暴風警報発令の場合 (大雨、洪水警報等は対象外) の本科目の取扱いについて 授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

< 授業の目的 >

この科目は、神戸学院大学のDPIに示す、文化・社会・自然に関する広く豊かな知識を備え、それを社会に役立てることができる、高い倫理観・責任感を備えた社会人として行動することができる、自立的な学習基盤を備え、生涯学び続けていくことができる、を目的としています。就職試験で必要となる数学の基本的な知識を学び、その学びを将来のビジネスシーンで役立つ論理的思考力に結びつけ、表現する事を学びます。

< 到達目標 >

数学の基礎知識を習得し、その知識を日常生活で活用することができる。

SPI3非言語の頻出分野の解き方、タイムマネジメント、テスト戦略の知識を取得することができる。

ビジネスシーンで求められる5つの数学的思考力、「把握力」「分析力」「選択力」「予測力」「表現力」を身

につけ、論理的なアプローチで問題解決することができる。

< 授業のキーワード >

SPI 3 非言語 数学

< 授業の進め方 >

Lecture

< 授業時間外に必要な学修 >

テキストのUnit1から8までの方程式問題をしっかりと自己学習しておくこと。

予習、小テストの準備に最低1時間、復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

期限の過ぎた課題提出は、公欠以外受け取りません。

< 成績評価方法・基準 >

平常点 (小テスト・宿題・授業参加度) 20%

中間テスト 40%

期末テスト 40%

* 毎週小テストを行います。公欠以外の欠席の場合、Makeupは行いません。

* 中間テスト・期末テストの追試に関しては、試験日より1週間以内の受験を期限とする。評価に関しては、公欠の場合を除き80%の認定です。

遠隔授業では学期末のテストにより評価する。

< テキスト >

SPI3 能力テスト対策 必出問題完全攻略

出版社: 株式会社学研アソシエ (2022)

< 授業計画 >

第1回 Orientation

Orientation、基礎の復習

*Mandatory attendance at first class

第2回 論理的思考能力問題

Uni9 集合 (1)

Unit10 集合 (2)

第3回 論理的思考能力問題

Unit11 場合の数

第4回 論理的思考能力問題

Unit12 順列組み合わせ

第5回 論理的思考能力問題

Unit13 確率の基礎

第6回 論理的思考能力問題

Unit14 確率の計算 (1)

第7回 論理的思考能力問題

Unit15 確率の計算 (2)

第8回 中間テスト

テスト範囲 (Unit9-15)

第9回 論理的思考能力問題

Unit16 推論 (1)

Unit17 推論 (2)

第10回 論理的思考能力問題
Unit18 推論(3)
Unit19 推論(4)
第11回 論理的思考能力問題
Unit20 推論(5)
Unit21 チェックボックス
第12回 論理的思考能力問題
Unit 2 2 資料解釈(1)
第13回 論理的思考能力問題
Unit 2 3 資料解釈(2)
第14回 論理的思考能力問題
Unit 2 4 資料解釈(3)
第15回 期末テスト
テスト範囲(Unit 1 6 - 2 4)

2022年度 後期

2.0単位

資格対策演習 (TOEIC・A)

Nicholas Musty

<授業の方法>

「演習」

<授業の目的>

この授業ではディプロマポリシーの中でも「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」と「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的とされており、ビジネスシーンも含めた日常場面で頻出する語彙力を身に付けると同時に基礎文法についても学習し英語での読解力・聴解力を向上させることである。また、スキミング、スキミング、文書構成パターンや背景知識の活用等、より効率的に読み、聴く為の方略を学ぶ。TOEICテスト形式の問題に慣れ、スコアアップを目指す。

<到達目標>

- ・基礎文法事項が習得できるようになる。
- ・TOEICテストに頻出する語彙、表現を習得ができる。
- ・TOEICテスト形式に慣れ、時間内に問題を解くことができるよう読解スピードが上がる。
- ・TOEICテスト形式に慣れ、速いリスニング問題に対応できるよう聴解スピードをあげる。
- ・効果的かつ効率的に読み、聴く為の方略使用ができるようになる。

<授業のキーワード>

語彙 文法 TOEIC 読解方略 ビジネス英語

<授業の進め方>

Pair work, Group work, Lecture

<履修するにあたって>

既習事項の復習を繰り返し定着をはかること。十分に準備をして毎回の小テストを受けること。

<授業時間外に必要な学修>

毎回、予習、小テストの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

<提出課題など>

英文読解・聴解課題の提出、構文や語彙に関する課題の提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。

<成績評価方法・基準>

授業への参加 50%

課題の提出 50%

<テキスト>

公式TOEIC Listening & Reading 問題集 8 (2021, ETS)
) ¥3,080 (税込) ISBN: 978-4-906033-63-8

<授業計画>

第1回 Introduction

授業の概要説明(ねらい、評価方法など) Pre-test

第2回 Unit 1

文法:動詞 Test 1 リスニング: Part 1 リーディング: Part 5

第3回 Unit 2

文法:時制 Test 1 リスニング: Part 2 リーディング: Part 5

第4回 Unit 3

文法:態 Test 1 リスニング: Part 3 リーディング: Part 6

第5回 Unit 4

文法:助動詞 Test 1 リスニング: Part 3 リーディング: Part 6

第6回 Unit 5

文法:仮定法 Test 1 リスニング: Part 4 リーディング: Part 6

第7回 Unit 6

文法:不定詞 Test 1 リスニング: Part 4 リーディング: Part 6

第8回 Unit 1-6

Review of Unit 1-6

第9回 Unit 7

文法:動名詞 Test 2 リスニング: Part 1 リーディング: Part 5

第10回 Unit 8

文法:分詞 Test 2 リスニング: Part 2 リーディング: Part 5

第11回 Unit 9

文法:比較 Test 2 リスニング: Part 3 リーディング: Part 6

第12回 Unit 10

文法:関係詞 Test 2 リスニング: Part 3 リーディング: Part 6

第13回 Unit 11

文法：接続詞 Test 2 リスニング：Part 4 リーディング：Part 6

第14回 Unit 12

文法：前置詞 Test 2 リスニング：Part 4 リーディング：Part 6

第15回 Sum-up and follow-up

Review

2022年度 後期

2.0単位

資格対策演習 (TOEIC・B)

担当者未定 (GC)

< 授業の方法 >
「演習」

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」と「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的とされており、ビジネスシーンも含めた日常場面で頻出する語彙力を身に付けると同時に基礎文法についても学習し英語での読解力・聴解力を向上させることである。また、スキミング、スキャニング、文書構成パターンや背景知識の活用等、より効率的に読み、聴く為の方略を学ぶ。TOEICテスト形式の問題に慣れ、スコアアップを目指す。

< 到達目標 >

- ・基礎文法事項が習得できるようになる。
- ・TOEICテストに頻出する語彙、表現を習得ができる。
- ・TOEICテスト形式に慣れ、時間内に問題を解くことができるよう読解スピードが上がる。
- ・TOEICテスト形式に慣れ、速いリスニング問題に対応できるよう聴解スピードをあげる。
- ・効果的かつ効率的に読み、聴く為の方略使用ができるようになる。

< 授業のキーワード >

語彙 文法 TOEIC 読解方略 ビジネス英語

< 授業の進め方 >

Pair work, Group work, Lecture

< 履修するにあたって >

既習事項の復習を繰り返し定着をはかること。十分に準備をして毎回の小テストを受けること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、予習、小テストの準備に最低1時間、既習事項の復習などに最低1時間の学修を必要とする。

< 提出課題など >

英文読解・聴解課題の提出、構文や語彙に関する課題の提出を課す。また、これら提出物のフィードバックに関しては、授業内外で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加 50%

課題の提出 50%

< テキスト >

公式TOEIC Listening & Reading 問題集 8 (2021, ETS) ¥3,080 (税込) ISBN: 978-4-906033-63-8

< 授業計画 >

第1回 Introduction

授業の概要説明 (ねらい、評価方法など) Pre-test

第2回 Unit 1

文法：動詞 Test 1 リスニング：Part 1 リーディング：Part 5

第3回 Unit 2

文法：時制 Test 1 リスニング：Part 2 リーディング：Part 5

第4回 Unit 3

文法：態 Test 1 リスニング：Part 3 リーディング：Part 6

第5回 Unit 4

文法：助動詞 Test 1 リスニング：Part 3 リーディング：Part 6

第6回 Unit 5

文法：仮定法 Test 1 リスニング：Part 4 リーディング：Part 6

第7回 Unit 6

文法：不定詞 Test 1 リスニング：Part 4 リーディング：Part 6

第8回 Unit 1-6

Review of Unit 1-6

第9回 Unit 7

文法：動名詞 Test 2 リスニング：Part 1 リーディング：Part 5

第10回 Unit 8

文法：分詞 Test 2 リスニング：Part 2 リーディング：Part 5

第11回 Unit 9

文法：比較 Test 2 リスニング：Part 3 リーディング：Part 6

第12回 Unit 10

文法：関係詞 Test 2 リスニング：Part 3 リーディング：Part 6

第13回 Unit 11

文法：接続詞 Test 2 リスニング：Part 4 リーディング：Part 6

第14回 Unit 12

文法：前置詞 Test 2 リスニング：Part 4 リーディング：Part 6

第15回 Sum-up and follow-up

Review

2022年度 前期

2.0単位

資格対策演習 (TOEIC・A)

シャーロー トーマス

< 授業の方法 >

Weekly practice based on reading and listening lessons

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができることを目的としている。In this course students will gain valuable knowledge and skills necessary to raise TOEIC scores. The class will focus on listening and reading skills, with special emphasis on vocabulary items.

< 到達目標 >

To be able to

- (1) understand basic conversational English (listening practice)
- (2) read basic English information (reading practice)

To give students knowledge of the

- 1) grammar and
- 2) vocabulary

necessary to understand basic written and spoken English

< 授業のキーワード >

TOEIC, test, basic English, listening, reading

< 授業の進め方 >

Lessons are structured around the textbook and weekly online TOEIC test practice sessions.

< 履修するにあたって >

Attendance and active participation in each class is mandatory. Students must purchase and use the textbooks. Online classes can be found at <https://classroom.google.com/c/NDUwMzAxMjQ3Njgxcjcjcn7yz4yb>

< 授業時間外に必要な学修 >

Students will be responsible for all online class work and assignments from the textbook. Students should expect to spend approximately 60 minutes each week to complete this work.

< 提出課題など >

Online TOEIC tests and other quizzes must be submitted by the due date on the course website. Any questions regarding homework should be directed to Professor Schalow at ijinkanmail@gmail.com

< 成績評価方法・基準 >

Class grades will be based entirely on weekly class examinations and quizzes. 50% of the grade will be derived from TOEIC test results and 50% from vocabulary and listening quizzes.

< テキスト >

イラストだから覚えられる 日常生活や仕事で使う英単語1200. ISBN 4295402664

< 授業計画 >

第1回 Week 1 - Introduction

Introduction to the website

TOEIC test procedures

Extra English Listening 01

第2回 Week 2 - TOEIC Test 1

TOEIC Test 1 and Extra English Listening 02

第3回 Week 3 - TOEIC Test 2

TOEIC Test 2 and Extra English Listening 03

第4回 Week 4 - TOEIC Test 3

TOEIC Test 3 and Extra English Listening 04

第5回 Week 5 - TOEIC Test 4

TOEIC Test 4 and Extra English Listening 05

第6回 Week 6 - TOEIC Test 5

TOEIC Test 5 and Extra English Listening 06

第7回 Week 7 - TOEIC Test 6

TOEIC Test 6 and Extra English Listening 07

第8回 Week 8 - TOEIC Test 7

TOEIC Test 7 and Extra English Listening 08

第9回 Week 9 - TOEIC Test 8

TOEIC Test 8 and Extra English Listening 09

第10回 Week 10 - TOEIC Test 9

TOEIC Test 9 and Extra English Listening 10

第11回 Week 11 - TOEIC Test 10

TOEIC Test 10 and Extra English Listening 11

第12回 Week 12 - TOEIC Test 11

TOEIC Test 11 and Extra English Listening 12

第13回 Week 13 - TOEIC Test 12

TOEIC Test 12 and Extra English Listening 13

第14回 Week 14 - TOEIC Test 13

TOEIC Test 13 and Extra English Listening 14

第15回 Week 15 - TOEIC Test 14

TOEIC Test 14 and Extra English Listening 15

2022年度 前期

2.0単位

資格対策演習 (TOEIC・B)

シャーロー トーマス

< 授業の方法 >

Weekly practice based on reading and listening lessons

< 授業の目的 >

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができることを目的としている。In this course students will gain valuable knowledge and skills necessary to raise TOEIC scores. The class will focus on listening and reading skills, with special emphasis on vocabulary items.

< 到達目標 >

To be able to

(1) understand basic conversational English (listening practice)

(2) read basic English information (reading practice)

To give students knowledge of the

1) grammar and

2) vocabulary

necessary to understand basic written and spoken English

< 授業のキーワード >

TOEIC, test, basic English, listening, reading

< 授業の進め方 >

Lessons are structured around the textbook and weekly online TOEIC test practice sessions.

< 履修するにあたって >

Attendance and active participation in each class is mandatory. Students must purchase and use the textbooks. Online classes can be found at <https://classroom.google.com/c/NDUOMT1xMDc1Mzcw?cjc=fq5e2rz>

< 授業時間外に必要な学修 >

Students will be responsible for all online class work and assignments from the textbook. Students should expect to spend approximately 60 minutes each week to complete this work.

< 提出課題など >

Online TOEIC tests and other quizzes must be submitted by the due date on the course website. Any qu

estions regarding homework should be directed to Professor Schalow at ijinkanmail@gmail.com

< 成績評価方法・基準 >

Class grades will be based entirely on weekly class examinations and quizzes. 50% of the grade will be derived from TOEIC test results and 50% from vocabulary and listening quizzes.

< テキスト >

イラストでわかる! ネイティブの句動詞 ISBN 4866392444

< 授業計画 >

第1回 Week 1 - Introduction

Introduction to the website

TOEIC test procedures

Extra English Listening 16

第2回 Week 2 - TOEIC Test 1

TOEIC Test 1 and Extra English Listening 17

第3回 Week 3 - TOEIC Test 2

TOEIC Test 2 and Extra English Listening 18

第4回 Week 4 - TOEIC Test 3

TOEIC Test 3 and Extra English Listening 19

第5回 Week 5 - TOEIC Test 4

TOEIC Test 4 and Extra English Listening 20

第6回 Week 6 - TOEIC Test 5

TOEIC Test 5 and Extra English Listening 21

第7回 Week 7 - TOEIC Test 6

TOEIC Test 6 and Extra English Listening 22

第8回 Week 8 - TOEIC Test 7

TOEIC Test 7 and Extra English Listening 23

第9回 Week 9 - TOEIC Test 8

TOEIC Test 8 and Extra English Listening 24

第10回 Week 10 - TOEIC Test 9

TOEIC Test 9 and Extra English Listening 25

第11回 Week 11 - TOEIC Test 10

TOEIC Test 10 and Extra English Listening 26

第12回 Week 12 - TOEIC Test 11

TOEIC Test 11 and Extra English Listening 27

第13回 Week 13 - TOEIC Test 12

TOEIC Test 12 and Extra English Listening 28

第14回 Week 14 - TOEIC Test 13

TOEIC Test 13 and Extra English Listening 29

第15回 Week 15 - TOEIC Test 14

TOEIC Test 14 and Extra English Listening 30

2022年度 前期

2.0単位

卒業プロジェクト

中嶋 アンディ 史人

< 授業の方法 >

講義、演習、実習（対面授業およびリアルタイム/オンデマンド授業併用）

< 授業の目的 >

神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学部の学びの集大成として、4年間で修得した幅広い教養と専門的知識を用いながら、自ら設定した研究課題をチームとの協働作業により、ひとつの制作物として完成させる。また、制作の内容と過程を卒業研究報告書として提出すること。

この科目は単位取得必修科目であり、ディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的としている。

< 到達目標 >

プロジェクト制作物は、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容であること。

報告書では、以下の基準が求められる：

・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べることができる。

・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけをすることができる。

・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約することができる。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力を表すことができる。

< 授業の進め方 >

グループ活動及び実践報告プレゼンテーション

< 授業時間外に必要な学修 >

プロジェクトの実践、発表準備に最低1時間を要する。

また、授業後の反省や課題解決に1時間を要する。

< 提出課題など >

プロジェクト制作物、卒業研究報告書。（フィードバックは授業内で実施する）

< 成績評価方法・基準 >

中間制作物（50%）、プロジェクトへの個人貢献度（30%）、出席（20%）

< 授業計画 >

第1回 プロジェクト内容の検討

プロジェクト内容の検討

第2回 プロジェクト計画の立案 1

グループごとの計画の立案 1

第3回 プロジェクト計画の立案 2

グループごとの計画の立案 2

第4回 プロジェクト計画の立案 3

グループごとの計画の立案 3

第5回 計画書作成・プロジェクト準備

グループごとの計画の立案 4

第6回 プロジェクト計画の発表

グループごとの計画発表

第7回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 1

第8回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 2

第9回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 3

第10回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 4

第11回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 5

第12回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 6

第13回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 7

第14回 中間発表

グループごとの成果発表

第15回 中間発表の反省と課題

グループごとの活動の振り返り・後期に向けての課題の整理

2022年度 前期

2.0単位

卒業プロジェクト

シャーロー トーマス

< 授業の方法 >

Discussion and presentation format

< 授業の目的 >

「卒業研究」とは、GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導のもと、自ら設定した研究課題を4年間で修得した幅広い教養と専門的知識で解明し、制作物あるいは卒業論文として完成させるものです。卒業研究（卒業プロジェクト）では、他者とコミュニケーションをはかりながら協働作業で制作物と卒業研究報告書を完成させます。卒業研究（卒業論文指導）では、個別指導のもと、課題解明への過程をまとめあげ、卒業論文に結実させます。具体的には、学習者がテーマの選択、先行研究の確認、資料の収集、整理、分析や考察、創造などを自発的に行い、指導教官が研究・論文の内容に直接かわるものと、所定の手続きや、決められた書式など、従わなくてはならない決まり、約束事について指導を行います。

この授業ではディプロマポリシーの中でも（1）実践的で高度な外国語の適用できる（2）言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる（3）教養現場で

効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができることを目的としている。

In this class we will develop and improve websites using various themes, and in the process explore ideas for a final project. In this manner we will learn what ideas most appeal to others, and what ideas could be developed into interesting projects.

During the semester we will improve our communication, presentation and writing skills.

<到達目標>

学生が次のような基準の卒業研究の達成を目標とする。

・新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容であること。

・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べていること。

・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べられていること。

・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約されていること。

・制作物や論文の説明を的確にできること。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるものであることが望ましい。

The goals of this class are:

- 1) to imagine interesting project themes
- 2) to outline steps to complete the project
- 3) to implement the project proposal

<授業のキーワード>

communication, presentation, writing

<授業の進め方>

「卒業プロジェクトI・II/卒業論文指導」の指導に基づいて進めていきます。具体的には、個人指導、グループワーク、論文執筆、作品制作、成果発表などが挙げられます。

This class will be devoted to weekly discussions about and plans for individual student projects. Much of the class will involve individual consultations between the instructor and the student.

<履修するにあたって>

Students are expected to energetically plan for and execute project goals.

<授業時間外に必要な学修>

Much of the project work will involve research and writing outside of the class. Students should be prepared to spend as much as 20 hours per week outside of class working on the project.

<提出課題など>

各担当者が適宜指示します。

Regular project proposals and plans will be required. Students must submit these in accordance with

a strict timetable.

<成績評価方法・基準>

卒業研究の評価に関しては、テーマに新奇性(オリジナリティ)があるか、方法に理論的一貫性があるか、内容に科学的根拠があるか、文献資料の明示が十分になされているか、研究課題に関して幅広い教養と専門的知識で解明しているか、などを総合的に判断します。この基準を参考に、制作物、レポート、卒業論文、プレゼンテーションなどを評価します。

Grades will be based entirely on student efforts and achievements toward completing the project.

<テキスト>

No special text is required.

<授業計画>

第1回 Week 01- Explanation of Project Requirements

「卒業研究(卒業プロジェクトI・II)」では成果物、レポート、プレゼンテーション等に基づいて評価を行います。詳しくは「卒業プロジェクトI・II」のシラバスも参照してください。「卒業研究(卒業論文指導)」では卒業論文および口頭試問に基づいて評価を行います。詳しくは「卒業論文指導」のシラバスも参照してください。

Explanation of project requirements

第2回 Week 02 - Developing Interesting Project Ideas

Developing interesting project ideas

第3回 Week 03 - Establishing Project Goals

Establishing project goals

第4回 Week 04 - Discussing Project Implementation

Discussing means to implement the project ideas

第5回 Week 05 - Submitting Initial Project

Submitting an initial project plan

第6回 Week 06 - Revision of Project Plan

Revision of project plan based on peer feedback

第7回 Week 07 - Revision of Project Plan

Revision of project plan based on instructor feedback

第8回 Week 08 - Project Work

Project work

第9回 Week 09 - Project Work

Project work

第10回 Week 10 - Project Work

Project work

第11回 Week 11- Evaluation of Project

Evaluation of project work to date

第12回 Week 12- Continued Project Work

Continued project work

第13回 Week 13- Continued Project Work

Continued project work

第14回 Week 14- Discussing Plans for Second Semester

Discussing plans for project work in the second semester

第15回 Week 15- Discussing Plans for Second Semester

Discussing plans for project work in the second semester

2022年度 前期

2.0単位

卒業プロジェクト

深田 將揮

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導のもと、自ら設定した研究課題を4年間で修得した幅広い教養と専門的知識で解明し、制作品として完成させる。他者とコミュニケーションをはかりながら協働作業で制作品と卒業研究報告書を完成させる。

この科目は単位取得必修科目であり、ディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的としている。

< 到達目標 >

プロジェクト制作品は、新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容であること。

報告書では、以下の基準が求められる。

- ・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べるができる。
- ・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べるができる。
- ・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約することができる。
- ・制作物や論文の説明を的確にできる。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるものであること。

< 授業の進め方 >

グループ活動・実践報告プレゼンテーション

< 授業時間外に必要な学修 >

プロジェクトの実践、発表準備に最低1時間、授業後のリフレクションや課題解決に最低1時間必要とする。

< 提出課題など >

プロジェクト制作品、卒業研究報告書。フィードバックは授業内で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

制作品(70%)、卒業研究報告書(20%)、プロジェクト貢献(10%)

< テキスト >

授業中にプロジェクトグループごとに指定する予定。

< 参考図書 >

授業中にプロジェクトグループごとに指定する予定。

< 授業計画 >

第1回 プロジェクトの内容検討

計画の立案・グループ決定

第2回 プロジェクト計画の立案 1

グループごとに計画の立案

第3回 プロジェクト計画の立案 2

グループごとに計画の立案

第4回 プロジェクト計画の立案 3

グループごとに計画の立案

第5回 計画書作成・プロジェクト準備

計画書作成・プロジェクト準備

第6回 プロジェクト計画発表

グループごとに計画発表・問題点の確認

第7回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 1

第8回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 2

第9回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 3

第10回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 4

第11回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 5

第12回 成果品に対する検討 1

中間発表前の検討

第13回 成果品に対する検討 2

中間発表前の検討

第14回 中間発表

グループごとに成果発表

第15回 振り返り

グループごとに活動振り返り・後期に向けての課題整理

2022年度 前期

2.0単位

卒業プロジェクト

中西 のりこ

< 授業の方法 >

対面授業の場合

グループ活動・実践報告プレゼンテーションを主体とし、頻繁に受講者の意見を求めたり発表を課したりします。

オンライン授業の場合
オンデマンド授業および資料配布の場所は：<http://gc-square.kobegakuin.ac.jp/>

< 授業の目的 >

GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導のもと、自ら設定した研究課題を4年間で修得した幅広い教養と専門的知識で解明し、制作品として完成させる。他者とコミュニケーションをはかりながら協働作業で制作品と卒業研究報告書を完成させる。

この科目は単位取得必修科目であり、ディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的としている。

< 到達目標 >

プロジェクト制作案は、新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容であること。

報告書案では、以下の基準を満たすこと：

- ・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べていること。
- ・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べられていること。
- ・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約されていること。
- ・制作物や論文の説明を的確にできること。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるものであること。

< 授業のキーワード >

英語音声学・コミュニケーション

< 授業の進め方 >

グループ活動・実践報告プレゼンテーション

< 履修するにあたって >

「言われたことをする」のではなく、自分自身の興味に合わせてプロジェクト計画を立てて、その計画について筋道を立てて説明してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

プロジェクト計画の立案および改善・報告書フォーマット作成・発表準備に最低1時間、授業後のリフレクションや課題解決に最低1時間必要とする。

< 提出課題など >

プロジェクト計画案、卒業研究報告書フォーマット。フィールドバックは授業内で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

プロジェクト計画案(70%)、卒業研究報告書フォーマット(20%)、プロジェクト貢献(10%)

< テキスト >

今井由美子・上田洋子・大塚朝美. (2019). 『英語音

声表記トレーニング・ワークブック』 英宝社. ISBN: 978-4-269-63016-1

北原真冬, 田嶋圭一 他 (2017). 『音声学を学ぶ人のためのPraat入門』 ひつじ書房. ISBN: 978-4894768710

American Psychological Association. (2019). Publication Manual of the American Psychological Association: The Official Guide to Apa Style (7th ed.). American Psychological Association. ISBN: 978-14338 32161

< 授業計画 >

第1回 プロジェクトの内容検討

自分自身のこれまでの経験を元に、興味をもった研究テーマについてブレーストーミングを行う。

第2回 プロジェクト計画の立案 1

第1回授業で検討した研究テーマを絞るために先行研究を調べる。

第3回 プロジェクト計画の立案 2

第2回授業で検討した先行研究を元に、仮説を立てる。

第4回 プロジェクト計画の立案 3

第3回授業で立てた仮説を検証するための方法について検討する。

第5回 計画書作成 1

プロジェクトの計画書案を作成する。

第6回 プロジェクト計画発表

プロジェクト計画について発表し、問題点を確認する。

第7回 プロジェクト計画の改善 1

第6回授業で明らかとなった問題の解決策についてブレーストーミングを行う。

第8回 プロジェクト計画の改善 2

第7回授業で検討した解決策を絞るために先行研究をさらに調べる。

第9回 プロジェクト計画の改善 3

第8回授業で検討した先行研究を元に、仮説を立て直す。

第10回 プロジェクト計画の改善 4

第9回授業で立てた仮説を検証するための方法について再検討する。

第11回 計画書案作成 2

第11回授業までに検討した内容を元にプロジェクトの計画書案を作成する。

第12回 プロジェクト計画発表 2

プロジェクト計画について再度発表し、問題点が改善されたかを再確認する。

第13回 卒業研究報告書フォーマットの作成 1

報告書の導入部分を先行研究と関連付けて説明する。

第14回 卒業研究報告書フォーマットの作成 2

研究の仮説を先行研究と関連付けて説明し、研究の方法を確定させる。

第15回 振り返り

前期の活動を振り返り、後期に向けての課題を整理する。

2022年度 前期

2.0単位

卒業プロジェクト

仁科 恭徳

< 授業の方法 >

対面授業（講義、演習、実習、実技）*GCスクエアでのやりとりも行う。Zoom等で説明を行うこともありますので、必ずGCスクエアのページを確認して下さい。

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて 授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

仁科恭徳 <ynishina@gc.kobegakuin.ac.jp>

< 授業の目的 >

この授業では、ディプロマポリシーの中でも、「1. 実践的で高度な外国語の運用ができる」および「2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」に主眼を置いている。全15回の授業を通して、学部紹介ビデオ・CMや英語によるドラマ・映画を制作する。特に、色彩学や行動心理学の基本的な知見も参考にしながら、製作を進める。出演者、企画、プロットの作成、動画編集など、製作活動の全てをゼミ生が担当する。

< 到達目標 >

効果的な非言語コミュニケーションの獲得、発話状況を勘案した発話の訓練、レポート方法、翻訳、動画編集技術の獲得、色彩学・行動心理学の基礎

< 授業の進め方 >

グループワーク、レポート、発表会、学外イベントなどの活動

< 授業時間外に必要な学修 >

イベントの企画、プロット作成、翻訳、編集作業、演技の練習などが最低1時間、ジャーナルや進捗状況、作品の見直し、相互評価なども最低1時間必要とする。

< 提出課題など >

映像作品に加え、毎回の進捗ジャーナル、翻訳の成果物、映像作品、その作品に関するレポートなどを提出する必要があり、これらのフィードバックは授業内外で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

作品完成までのエフォート 40%

作品の評価 20%

ジャーナルなどの提出物 20%

イベントの企画と運営 20%

< テキスト >

『グローバルコミュニケーション学入門』（2018年、三省堂）

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

ガイダンス、卒業プロジェクトIの概要

第2回 作品の選定

卒業研究として、どのような作品を制作するか(例えば、学部紹介ビデオ、CM、神戸市活性化ビデオ、英語ドラマなど)を話し合う。

第3回 イベントの企画

選定した作品の完成時の公開方法や、公開イベントに関する企画を練り、企画書を作成する。

第4回 配役とプロット作成1

発話状況を勘案した翻訳理論を学ぶ。

第5回 配役とプロット作成2

グループ分け、作品の選出

第6回 翻訳作業1

表現したい、もしくはレポートしたい内容を粗く翻訳する。

第7回 翻訳作業2

ジェンダーを勘案し、英文をチェック・修正する。

第8回 翻訳作業3

全英文を辞書・グーグル検索を活用して添削する。

第9回 翻訳作業4

完成した翻訳をピア・レビューチェックする。

第10回 撮影1

作品の前半部分を撮影する。

第11回 撮影2

作品の前半部分を撮影する。

第12回 撮影3

作品の前半部分を撮影する。

第13回 撮影4

作品の前半部分を撮影する。

第14回 撮影5

作品の前半部分を撮影する。

第15回 中間報告会

製作した作品の前半部分に関して、中間報告を行う。また、卒業プロジェクトIIの計画を入念に立てる。

2022年度 前期

2.0単位

卒業プロジェクト

表谷 純子

< 授業の方法 >

講義、演習、実習

< 授業の目的 >

GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導のもと、自ら設定した研究課題を4年間で修得した幅広い

教養と専門的知識で解明し、制作品として完成させる。
他者とコミュニケーションをはかりながら協働作業で制作品と卒業研究報告書を完成させる。
この科目は単位取得必修科目であり、ディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的としている。

<到達目標>

プロジェクト制作品は、新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容であること。

報告書では、以下の基準を満たすこと：

- ・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べていること。
- ・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べられていること。
- ・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約されていること。
- ・制作物や論文の説明を的確にできること。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるものであること。

<授業のキーワード>

プロジェクト

<授業の進め方>

グループ活動・実践報告プレゼンテーション

<履修するにあたって>

授業内及びGCスクエアで出される課題の期限に間に合うよう計画立ててプロジェクトに取り組むこと。

<授業時間外に必要な学修>

プロジェクトの実践、発表準備に最低1時間、授業後のリフレクションや課題解決に最低1時間必要とする。

<提出課題など>

プロジェクト制作品、卒業研究報告書。フィードバックは授業内で実施する。

<成績評価方法・基準>

制作品(70%)、卒業研究報告書(20%)、プロジェクト貢献(10%)

<授業計画>

第1回 プロジェクトの内容検討

計画の立案・グループ決定

第2回 プロジェクト計画の立案 1

グループごとに計画の立案

第3回 プロジェクト計画の立案 2

グループごとに計画の立案

第4回 プロジェクト計画の立案 3

グループごとに計画の立案

第5回 計画書作成・プロジェクト準備

グループごとに計画を立案

第6回 プロジェクト計画発表

グループごとに計画発表・問題点の確認

第7回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 1

第8回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 2

第9回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 3

第10回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 4

第11回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 5

第12回 成果品に対する検討 1

中間発表前の検討

第13回 成果品に対する検討 2

中間発表前の検討

第14回 中間発表

グループごとに成果発表

第15回 振り返り

グループごとに活動振り返り・後期に向けての課題整理

2022年度 前期

2.0単位

卒業プロジェクト

東 淳一

<授業の方法>

対面授業

オンライン授業になった場合の指示および資料配布場所：
{GCsquare,http://gcsquare.kobegakuin.ac.jp/}

<授業の目的>

GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導のもと、自ら設定した研究課題を4年間で修得した幅広い教養と専門的知識で解明し、制作品として完成させる。他者とコミュニケーションをはかりながら協働作業で制作品と卒業研究報告書を完成させる。
この科目は単位取得必修科目であり、ディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的としている。

<到達目標>

プロジェクト制作品は、新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容であること。

報告書では、以下の基準を満たすこと：

- ・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べられている。

・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べられている。
・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約されている。
・制作物や論文の説明を的確にできている。
以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるものであること。

<授業の進め方>

対面授業

<授業時間外に必要な学修>

プロジェクトの実践、発表準備に最低1時間、授業後のリフレクションや課題解決に最低1時間必要とする。

<提出課題など>

プロジェクト制作物、卒業研究報告書。フィードバックはGCsquareおよびメールにて行う。

<成績評価方法・基準>

制作物(70%)、卒業研究報告書(20%)、プロジェクト貢献(10%)

<テキスト>

授業中にプロジェクトグループごとに指定する予定。

<参考図書>

授業中にプロジェクトグループごとに指定する予定。

<授業計画>

第1回 プロジェクトの内容検討

計画の立案・グループ決定

第2回 プロジェクト計画の立案 1

グループごとに計画の立案

第3回 プロジェクト計画の立案 2

グループごとに計画の立案を行ったものを実行可能性の点から吟味する。

第4回 プロジェクト計画の立案 3

グループごとにさまざまな観点から検討を加えた計画案を完成する。

第5回 計画書作成・プロジェクト準備

タイムスケジュール、実施計画内容を明確にした計画書の作成。

第6回 プロジェクト計画発表

グループごとに計画発表・問題点の確認

第7回 実践

プロジェクトの実践 1

第8回 実践

プロジェクトの実践 2

第9回 実践

プロジェクトの実践 3

第10回 実践

プロジェクトの実践 4

第11回 実践

プロジェクトの実践 5

第12回 成果物のあり方に対する検討 1

中間発表前の検討1

第13回 成果物のあり方に対する検討2

中間発表前の検討2

第14回 中間発表

グループごとに成果発表

第15回 前期の振り返り

グループごとに活動振り返り・後期に向けての課題整理

2022年度 前期

2.0単位

卒業プロジェクト

Krieg, Alexander William

<授業の方法>

講義、演習、実技

<授業の目的>

GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導のもと、自ら設定した研究課題を4年間で修得した幅広い教養と専門的知識で解明し、制作物として完成させる。他者とコミュニケーションをはかりながら協働作業で制作物と卒業研究報告書を完成させる。

この科目は単位取得必修科目であり、ディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的としている。

<到達目標>

プロジェクト制作物は、新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容であること。

報告書では、以下の基準を満たすこと：

・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べていること。

・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べられていること。

・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約されていること。

・制作物や論文の説明を的確にできること。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるものであること。

<授業の進め方>

グループ活動・実践報告プレゼンテーション

<授業時間外に必要な学修>

プロジェクトの実践、発表準備に最低1時間、授業後のリフレクションや課題解決に最低1時間必要とする。

<提出課題など>

プロジェクト制作物、卒業研究報告書。フィードバックは授業内で実施する。

<成績評価方法・基準>

制作品(70%)、卒業研究報告書(20%)、プロジェクト貢献(10%)

<授業計画>

第1回 プロジェクトの内容検討

計画の立案・グループ決定

第2回 プロジェクト計画の立案 1

グループごとに計画の立案

第3回 プロジェクト計画の立案 2

グループごとに計画の立案

第4回 プロジェクト計画の立案 3

グループごとに計画の立案

第5回 計画書作成・プロジェクト準備

第6回 プロジェクト計画発表

グループごとに計画発表・問題点の確認

第7回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 1

第8回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 2

第9回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 3

第10回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 4

第11回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 5

第12回 成果品に対する検討 1

中間発表前の検討

第13回 成果品に対する検討 2

中間発表前の検討

第14回 中間発表

グループごとに成果発表

第15回 振り返り

グループごとに活動振り返り・後期に向けての課題整理

2022年度 前期

2.0単位

卒業プロジェクト

荒島 千鶴

<授業の方法>

講義、演習、実習

<授業の目的>

GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導のもと、自ら設定した研究課題を4年間で修得した幅広い教養と専門的知識で解明し、制作品として完成させる。

他者とコミュニケーションをはかりながら協働作業で制作品と卒業研究報告書を完成させる。

この科目は単位取得必修科目であり、ディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.

他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的としている。

<到達目標>

プロジェクト制作品は、新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容であること。

報告書では、以下の基準を満たすこと：

・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べていること。

・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べられていること。

・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約されていること。

・制作物や論文の説明を的確にできること。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるものであること。

<授業のキーワード>

プロジェクト

<授業の進め方>

グループ活動・実践報告プレゼンテーション

<履修するにあたって>

授業内及びGCスクエアで出される課題の期限に間に合うよう計画立ててプロジェクトに取り組むこと。

<授業時間外に必要な学修>

プロジェクトの実践、発表準備に最低1時間、授業後のリフレクションや課題解決に最低1時間必要とする。

<提出課題など>

プロジェクト制作品、卒業研究報告書。フィードバックは授業内で実施する。

<成績評価方法・基準>

制作品(70%)、卒業研究報告書(20%)、プロジェクト貢献(10%)

<授業計画>

第1回 プロジェクトの内容検討

計画の立案・グループ決定

第2回 プロジェクト計画の立案 1

グループごとに計画の立案

第3回 プロジェクト計画の立案 2

グループごとに計画の立案

第4回 プロジェクト計画の立案 3

グループごとに計画の立案

第5回 計画書作成・プロジェクト準備

グループごとに計画を立案

第6回 プロジェクト計画発表

グループごとに計画発表・問題点の確認

第7回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 1

第8回 実践	
課題点の改善・プロジェクトの実践	2
第9回 実践	
課題点の改善・プロジェクトの実践	3
第10回 実践	
課題点の改善・プロジェクトの実践	4
第11回 実践	
課題点の改善・プロジェクトの実践	5
第12回 成果品に対する検討	1
中間発表前の検討	
第13回 成果品に対する検討	2
中間発表前の検討	
第14回 中間発表	
グループごとに成果発表	
第15回 振り返り	
グループごとに活動振り返り・後期に向けての課題整理	

2022年度 前期

2.0単位

卒業プロジェクト

胡 士雲

< 授業の方法 >

演習、実技

< 授業の目的 >

この科目は、GC学部のDPに示す、実践的で高度な外国語の運用ができることを目指す。

この科目は中国語コースの卒業要件になる科目の一つとして、社会言語学と地域への貢献の角度から、フィールドワークを通して、これまで身に付けた中国語の知識や能力を総合的に運用することである。

日本の街には、日本語表記の上、英語や中国語、韓国語も併記された標識が多く見られている。中国語の表記について、正しく表記されたものは殆どですが、適切な表現ではない、または間違った表記も見られる。誤った表記は意思疎通を阻害し、ニュアンスによって期せず誤解も生じることで出てるかもしれない。本授業は神戸市街にある中国語標識の調査をし、その標識における中国語表記の正しさを確認する。それに基づいて、レポートを作成し、神戸市あるいは関係部門に適切でない表記に対して、修正意見を提言する。

上記以外、担当教員と相談した上、履修者は自主テーマでの履修が可能である。

< 到達目標 >

- 1) 調査した地域の中国語の標識を把握する。(知識)
- 2) 入手した調査資料を電子化にし、資料の整理方法を身に付ける。(技能)
- 3) 前年度の調査レポートを熟読し、最終報告書の作成準備を行う。(技能)

< 授業のキーワード >

資料の整理、報告書の作成

< 授業の進め方 >

- 1) 履修者をグループに分け、作業チームを結成する。
- 2) 各チームは調査地域の分担と調査目標を明確にし、現地調査を行う。
- 3) 入手した資料を整理し、前年度のレポートを添削し、最終報告書(初版)の作成を準備する。
- 4) 自主テーマの履修者は計画の通りに進む。

< 履修するにあたって >

- 1) 知的探究心があり、現地調査への支障がない、また調査資料をデータ化する能力がある。
- 2) パソコンの操作ができ、ノートパソコンを持つことが望ましい。
- 3) 分担した作業を遅れないこと。
- 4) 課題の提出を遅れないこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の各回で指示された内容を確実にする。

事前学習として、分担した地域の地理情報を確認すること。(1時間程度)

事後学習として、調査した資料を確認し、内容を理解するように努力すること。(1時間程度)

< 提出課題など >

授業中に適宜指示する

< 成績評価方法・基準 >

現地調査と資料整理、レポートの添削 100%

< テキスト >

授業中に適宜指示する

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業計画を説明し、作業チームを結成をする。また、自主テーマの履修者は履修計画を立てる。

第2回 報告書作成(1)

前年度のレポートを読む(1)

第3回 報告書作成(2)

前年度のレポートを読む(2)

第4回 報告書作成(3)

前年度のレポートを読む(3)

第5回 報告書作成(4)

調査で入手した資料を整理する(1)

第6回 報告書作成(5)

調査で入手した資料を整理する(2)

第7回 報告会(1)

グループごとに中間報告をする(1)

第8回 報告会(2)

グループごとに中間報告をする(2)

第9回 報告書作成(6)

前年度の履修生が作成したレポートを添削し、報告書を作成する(1)

第10回 報告書作成(7)

前年度の履修生が作成したレポートを添削し、報告書を

作成する(2)

第11回 報告書作成(8)

前年度の履修生が作成したレポートを添削し、報告書を作成する(3)

第12回 報告書作成(9)

前年度の履修生が作成したレポートを添削し、報告書を作成する(4)

第13回 報告会(3)

グループごとに中間報告をする(3)

第14回 報告会(4)

グループごとに中間報告をする(4)

第15回 報告会(5)

グループごとに中間報告をする(5)

2022年度 前期

2.0単位

卒業プロジェクト

眞島 淳

< 授業の方法 >

対面授業

講義、演習、実習、実技

< 授業の目的 >

この授業では、「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」そして「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に着けることができる」という学部のDPに掲げられた三点の集大成と位置付けることができる。この授業では、GC学部で身に着けた中国語力、コミュニケーション能力、及び幅広い知識や教養を活かして、大学が位置する兵庫県のポストコロナを見据えたツーリズム振興に寄与することを目標とする。兵庫県の観光動態やツーリズム戦略を概観し、今までにない魅力ある観光情報を中国語圏を対象にして中国語も使用して発信するために、最終的にどのような成果物を作成するのかを考える。そして、現地取材調査プランを作成する。

< 到達目標 >

各種関連資料を収集・整理したうえで、分析を行うことができる。

グループのメンバーと協調して、アクションプランを定めることができる。

グループでアクションプランを実施し、その問題点を明らかにし、改善案を提示することができる。

調査・分析結果を、簡明にプレゼンテーションすることができる。

< 授業のキーワード >

観光、統計分析、調査、アクションプラン、グループワーク、プレゼンテーション

< 授業の進め方 >

毎週授業計画に沿って、個人あるいはグループを対象に課題を課す。その課題をもとにプレゼンテーションを行い、全体で話し合いや意見交換を行う。現状調査、成果物の選定、アクションプラン策定、初期調査の順に、卒業プロジェクトにおける本格的な作業に向けての準備を行っていく。

< 履修するにあたって >

観光の視点から、今までにない兵庫の魅力を発掘し、発信していくことに強い関心がある。

自身の担当作業を確実に遂行するだけでなく、グループやクラス全体で一つの成果物を創り上げる責任感と協調性が求められる。

プロジェクトワークにおける経験を卒業後のキャリアに活かしていきたいという強い意欲がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

次回の授業資料の収集、分析、プレゼンテーションの準備など(最低1時間)

グループでのコミュニケーション・作業など(最低1時間)

現地調査を行う必要があり、その時間は上記の時間に含まれない。

< 提出課題など >

授業計画に従って、レポートとやパワーポイント資料などを提出する必要がある。また、提出課題については授業全体でもしくは個人に適時フィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >

成績評価の前提として前授業回数の3分の2以上の出席を必要とする。出席が3分の2に達さない場合は単位を認めないので注意すること。

以下の割合で総合的に評価する。

現状調査及びそのプレゼンテーション30%

グループアクションプラン及びそのプレゼンテーション20%

現地調査初期発表40%

授業での発表及びミニッツカード10%

< テキスト >

適時プリントを配布する。

< 参考図書 >

授業において適時紹介する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

卒業プロジェクトの概要、卒業プロジェクトとのつながりについて説明する。

第2回 現状調査(1)

国土交通省観光庁の統計情報・白書、兵庫県実施の「観光動態調査」などの資料を概観し、ここ数年の観光動向

について話し合う。

第3回 現状調査(2)

(公社)ひょうご観光本部の「観光地魅力度調査」などの資料を調べ、「ひょうごツーリズム戦略(2020~2022年度)」「ポストコロナを見据えた充実方策」などの取り組みについて話し合う。

第4回 現状調査(3)

既に国内外で出版・発行されている観光マップ・ガイドブックで発信されている情報について話し合う。

第5回 現状調査(4)

各種ウェブサイト、SNSで発信されている情報について話し合う。

第6回 現状調査(5)

第2回~第5回までの現状調査でわかった動態、動向、特徴などを整理する。

第7回 卒業研究成果物の選定(1)

卒業研究の集大成として、どのような成果物を製作するのか、その形式や内容について話し合う。

第8回 卒業研究成果物の選定(2)

卒業研究の成果物を配信する方法、また外部の観光関連各所とコラボレーションできる可能性について話し合う。

第9回 アクションプラン(1)

今後行わなくてはならない作業について話し合い、確認を行う。また、グループ分けを行う。

第10回 アクションプラン(2)

グループでのアクションプランを話し合い、まとめる。

第11回 アクションプラン発表

グループアクションプランを発表し、その内容について話し合う。

第12回 グループワーク(1)

グループ初期調査を行い、その結果をまとめる。また初期調査でぶつかった問題点などを整理する。

第13回 グループワーク(2)

グループ初期調査を行い、その結果をまとめる。また初期調査でぶつかった問題点などを整理する。

第14回 現地調査初期発表

グループで行った初期調査の結果を発表し、その内容について話し合う。また、各グループが調査の過程でぶつかった問題点などを共有し、今後のプロジェクトワークに活かす。

第15回 アクションプラン調整

今後のアクションプランについて見直しを行う。

2022年度 前期

2.0単位

卒業プロジェクト

栗原 由加

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

「卒業プロジェクト」は、専門教育科目のうち、学部共通科目群に属し、その中でも「卒業研究」分野に位置づけられる授業の一つです。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになるための授業です。

この授業では、学生自身が就職活動を行い、計画、実行、報告、評価のサイクルで目標を達成するプロセスを経験します。学生が行った調査や体験の内容については詳細に記録を取り、「卒業プロジェクト」での発表資料作成および発表の準備とします。

なお、この授業の担当者は、一般財団法人での業務管理の実務経験がある教員です。実践的な観点から、社会人としての活動の仕方について、サポートと教育を行います。

<到達目標>

1. 学生が問題意識と明確な目標を持って就職活動を行うことができる。

2. 学生が自分の体験を客観的な報告書にまとめることができる。

3. 問題点・改善点の指摘を踏まえ、報告書の加筆・修正作業を自律的に進めることができる。

<授業のキーワード>

活動、報告

<授業の進め方>

ゼミ形式の授業ですが、適宜、グループ指導や学生一人ひとりを対象にした個別指導が加わります。

<履修するにあたって>

原則として、日本語専攻演習 で調査報告書の作成方法について学んでいることが履修の条件となります。

授業中は、日本語のみ使用してください。

<授業時間外に必要な学修>

毎回、次回の授業で行う作業を明示しますので、次回の授業に備えて1時間程度準備が必要です。また、授業での議論やコメントを踏まえて、授業外での活動を行い、記録を取ることが求められます。

<提出課題など>

毎回、課題を提出します。

課題のフィードバックは、授業中に行います。

<成績評価方法・基準>

授業と活動への取り組み50%、活動記録50%

<テキスト>

必要に応じてプリントを配布します

<授業計画>

第1回 活動計画

活動を計画する方法と記録する方法を学びます。

第2回 活動計画

活動を計画する方法と記録する方法を学びます。

第3回 活動計画

活動を計画する方法と記録する方法を学びます。

第4回 活動の実施

活動状況の報告を行い、問題点を分析します。そして、今後の活動方法と内容を検討します。

第5回 活動の実施

活動状況の報告を行い、問題点を分析します。そして、今後の活動方法と内容を検討します。

第6回 活動の実施

活動状況の報告を行い、問題点を分析します。そして、今後の活動方法と内容を検討します。

第7回 活動の実施

活動状況の報告を行い、問題点を分析します。そして、今後の活動方法と内容を検討します。

第8回 活動の評価

これまでの活動をディスカッションを通してふりかえり、今後の活動について相談、調整します。

第9回 活動の評価

これまでの活動をディスカッションを通してふりかえり、今後の活動について相談、調整します。

第10回 活動の評価

これまでの活動をディスカッションを通してふりかえり、今後の活動について相談、調整します。

第11回 活動の評価

これまでの活動をディスカッションを通してふりかえり、今後の活動について相談、調整します。

第12回 活動内容分析、記録の整理

これまでの活動をふりかえり、改善点の検討と記録の整理を行います。

第13回 活動内容分析、記録の整理

これまでの活動をふりかえり、改善点の検討と記録の整理を行います。

第14回 活動内容分析、記録の整理

これまでの活動をふりかえり、改善点の検討と記録の整理を行います。

第15回 活動内容分析、記録の整理

これまでの活動をふりかえり、改善点の検討と記録の整理を行います。

2022年度 前期

2.0単位

卒業プロジェクト

香月 裕介

< 授業の方法 >

演習（対面授業）

< 授業の目的 >

「卒業プロジェクト」は、専門教育科目のうち、学部共通科目群に属し、その中でも「卒業研究」分野に位置

づけられる授業の一つです。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになることを目的とする授業です。日本語学習者にとって習得が難しい項目について調査・分析を行い、その成果を報告書にまとめます。

この授業では、まず、これまでの日本語学習を振り返り、自分にとって習得が難しい項目を認識することから始まります。その上で、なぜ習得が難しいのか、ほかの学習者の場合はどうかについて調査と分析を行います。さらに、どうすれば習得しやすくなるかについての提案を行います。

最後に、その成果をまとめた報告書を作成し、「卒業プロジェクト」での発表資料作成および発表の準備とします。

< 到達目標 >

1. 自身の日本語学習を振り返り、習得が難しい項目を指摘することができる。
2. 設定したテーマに基づいて、自律的に調査・分析を進めることができる。
3. 調査・分析の結果、提案内容をまとめ、報告書を完成させることができる。

< 授業のキーワード >

日本語学習、調査・分析、報告書

< 授業の進め方 >

ゼミ形式の授業ですが、適宜、グループ指導や学生一人ひとりを対象にした個別指導が加わります。

< 履修するにあたって >

授業中は、日本語のみ使用してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、次回の授業で行う作業を明示しますので、次回の授業に備えて1時間程度準備が必要です。

また、授業での議論やコメントを踏まえて、授業外でも調査・分析や報告書作成のための作業を進めることが求められます。

< 提出課題など >

毎回、課題を提出してもらいます。

課題のフィードバックは、授業中に行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業への取り組み30%、学習の振り返り作業10%、文献調査の作業20%、質問紙調査の作業20%、提案・序論・結論の作成作業20%

< テキスト >

プリントを配布します

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

日本語学習の振り返り

授業概要の説明

自身の日本語学習を振り返る

第2回 個別面談

個別に面談を行い、テーマとして選ぶ項目を決定する

第3回 文献調査

テーマに選んだ項目に関する文献を集める

第4回 文献調査

集めた文献の情報を整理する

第5回 文献調査

整理した情報を報告書にまとめる

第6回 個別面談

個別に面談を行い、「文献調査」の報告内容を検討・修正する

第7回 質問紙調査

質問紙を作成する

第8回 質問紙調査

質問紙調査の結果を分析する

第9回 質問紙調査

分析結果を報告書にまとめる

第10回 個別面談

個別に面談を行い、「質問紙調査」の報告内容を検討・修正する

第11回 提案

調査・分析の結果を踏まえて「提案」を書く

第12回 序論

報告書の「序論」の部分を書く

第13回 結論

報告書の「結論」の部分を書く

第14回 個別面談

個別に面談を行い、「提案」「序論」「結論」の報告内容を検討・修正する

第15回 報告書の完成

報告書を完成させる

2022年度 前期

2.0単位

卒業プロジェクト

吉兼 奈津子

< 授業の方法 >

演習（対面授業）

< 授業の目的 >

「卒業プロジェクト」は、専門教育科目のうち、学部共通科目群に属し、その中でも「卒業研究」分野に位置づけられる授業の一つです。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになるための授業です。

この授業では、学生自身が目標を設定して活動を行い、

計画、実行、報告、評価のサイクルを繰り返しながら、目標を達成するプロセスを経験します。学生が行った調査や体験の内容については詳細に記録を取り、「卒業プロジェクト」での発表資料作成および発表の準備とします。

< 到達目標 >

1. 学生が問題意識と明確な目標を持って自分で活動を行うことができる。

2. 学生が自分の体験を客観的な報告書にまとめることができる。

3. 問題点・改善点の指摘を踏まえ、報告書の加筆・修正作業を自律的に進めることができる。

< 授業のキーワード >

活動、報告

< 授業の進め方 >

ゼミ形式の授業ですが、適宜、グループ指導や学生一人ひとりを対象にした個別指導が加わります。

< 履修するにあたって >

原則として、日本語専攻演習で調査報告書の作成方法について学んでいることが履修の条件となります。

授業中は、日本語のみ使用してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、次回の授業で行う作業を明示しますので、次回の授業に備えて1時間程度準備が必要です。また、授業での議論やコメントを踏まえて、授業外での活動を行い、記録を取ることが求められます。

< 提出課題など >

毎回、課題を提出します。

課題のフィードバックは、授業中に行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業と活動への取り組み50%、活動記録50%

< テキスト >

必要に応じてプリントを配布します

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス、情報共有

授業概要の説明、現在の自分の活動状況を共有します。

第2回 活動計画

今後の活動計画を作成し、クラスで共有します。

第3回 活動、記録方法の確認

報告書に適した記録方法を学びます。

第4回 活動、記録方法の確認

活動状況の進捗報告を行い、活動内容を記録します。

第5回 記録、問題点の整理

現在の活動状況と問題点の報告を行い、正確に記録します。

第6回 記録、問題点の整理

現在の活動状況と問題点の報告を行い、正確に記録します。

第7回 記録、問題点の整理

現在の活動状況と問題点の報告を行い、正確に記録します。

第8回 記録、問題点の整理

現在の活動状況と問題点の報告を行い、正確に記録します。

第9回 記録、活動の改善検討

現在の活動状況を報告します。また、活動の改善提案をした上で、その内容を正確に記録します。

第10回 記録、活動の改善検討

現在の活動状況を報告します。また、活動の改善提案をした上で、その内容を正確に記録します。

第11回 記録、活動の改善検討

現在の活動状況を報告します。また、活動の改善提案をした上で、その内容を正確に記録します。

第12回 記録、活動の改善検討

現在の活動状況を報告します。また、活動の改善提案をした上で、その内容を正確に記録します。

第13回 活動内容分析、記録の整理

これまでの活動をふりかえり、記録内容の確認と整理を行います。

第14回 活動内容分析、記録の整理

これまでの活動をふりかえり、記録内容の確認と整理を行います。

第15回 活動内容分析、記録の整理

これまでの活動をふりかえり、記録内容の確認と整理を行います。

2022年度 後期

2.0単位

卒業プロジェクト

東 淳一

< 授業の方法 >

演習形式（対面授業）。

< 授業の目的 >

GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導のもと、自ら設定した研究課題を4年間で修得した幅広い教養と専門的知識で解明し、制作品として完成させる。他者とコミュニケーションをはかりながら協働作業で制作品と卒業研究報告書を完成させる。

この科目は単位取得必修科目であり、ディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的としている。

< 到達目標 >

プロジェクト制作品は、新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容であること。

報告書では、以下の基準を満たすこと：

- ・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えが述べられている。

- ・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べられている。

- ・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約されている。

- ・制作物や論文の説明を的確にできている。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるものであること。

< 授業の進め方 >

グループ活動・実践報告プレゼンテーション

< 履修するにあたって >

対面授業、オンライン授業にかかわらず、常に、GCsquareを併用して授業をすすめます。URLは、{<https://gcsquare.kobegakuin.ac.jp/course/view.php?id=287>, <https://gcsquare.kobegakuin.ac.jp/course/view.php?id=287>}

< 授業時間外に必要な学修 >

プロジェクトの実践、発表準備に最低1時間、授業後のリフレクションや課題解決に最低1時間必要とする。

< 提出課題など >

プロジェクト制作品、卒業研究報告書。フィードバックは授業内で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

制作品(70%)、卒業研究報告書(20%)、プロジェクト貢献(10%)

< テキスト >

授業中にプロジェクトグループごとに指定する予定。

< 参考図書 >

授業中にプロジェクトグループごとに指定する予定。

< 授業計画 >

第1回 プロジェクトの内容検討1

前期に行ったプロジェクトの課題の整理・後期の活動計画の立案(1) この回はオンラインです。GCsquareを参照してください。

第2回 プロジェクトの内容検討2

前期に行ったプロジェクトの課題の整理・後期の活動計画の立案(2)

第3回 改訂版計画書作成・プロジェクト準備

グループごとに計画を再検討・改訂案を検討

第4回 改訂版プロジェクト計画の立案

グループごとの計画再検討作業にもとづき、改訂案を完成

第5回 プロジェクト計画発表

グループごとに計画発表・問題点の確認

第6回 実践1

プロジェクトの推進

第7回 実践2

課題点の改善・プロジェクトの推進

第8回 実践3

課題点の改善・プロジェクトの推進

第9回 実践4

課題点の改善・プロジェクトの推進

第10回 成果品に対する検討 1

最終発表前の成果物のチェック(1)

第11回 成果品に対する検討 2

最終発表前の成果物のチェック(2)

第12回 成果品に対する検討 3

最終発表前の成果物のチェック(3)

第13回 最終発表

プロジェクト成果物の内容発表と相互評価

第14回 振り返り

グループごとに活動の振り返り

第15回 卒業研究報告書完成

卒業研究報告書完成・口頭発表

2022年度 後期

2.0単位

卒業プロジェクト

シャーロー トーマス

< 授業の方法 >

PBL

< 授業の目的 >

「卒業研究」とは、GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導のもと、自ら設定した研究課題を4年間で修得した幅広い教養と専門的知識で解明し、制作物あるいは卒業論文として完成させるものです。卒業研究(卒業プロジェクト)では、他者とコミュニケーションをはかりながら協働作業で制作物と卒業研究報告書を完成させます。卒業研究(卒業論文指導)では、個別指導のもと、課題解明への過程をまとめあげ、卒業論文に結実させます。具体的には、学習者がテーマの選択、先行研究の確認、資料の収集、整理、分析や考察、創造などを自発的に行い、指導教官が研究・論文の内容に直接かわるものと、所定の手続きや、決められた書式など、従わなくてはならない決まり、約束事について指導を行います。

この授業ではディプロマポリシーの中でも(1)実践的で高度な外国語の適用できる(2)言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる(3)教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができることを目的としている。

In the first semester we explored various project ideas, and in this semester we will finally decide upon one idea and develop it into an interesting and useful graduation project. During the semester

we will continue to improve our communication, presentation and writing skills, in addition to completing our project.

< 到達目標 >

学生が次のような基準の卒業研究の達成を目標とする。

・新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容であること。

・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べていること。

・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べられていること。

・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約されていること。

・制作物や論文の説明を的確にできること。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるものであることが望ましい。

The goals of this class are:

1) to imagine interesting project themes

2) to outline steps to complete the project

3) to implement the project proposal

< 授業のキーワード >

communication, presentation, writing

< 授業の進め方 >

「卒業プロジェクトI・II/卒業論文指導」の指導に基づいて進めていきます。具体的には、個人指導、グループワーク、論文執筆、作品制作、成果発表などが挙げられます。

This class will be devoted to weekly discussions about and plans for individual student projects. Much of the class will involve individual consultations between the instructor and the student.

< 履修するにあたって >

Students are expected to energetically plan for and execute project goals.

< 授業時間外に必要な学修 >

Much of the project work will involve research and writing outside of the class. Students should be prepared to spend as much as 20 hours per week outside of class working on the project.

< 提出課題など >

各担当者が適宜指示します。

Regular project proposals and plans will be required. Students must submit these in accordance with a strict timetable.

< 成績評価方法・基準 >

卒業研究の評価に関しては、テーマに新奇性(オリジナリティ)があるか、方法に理論的一貫性があるか、内容に科学的根拠があるか、文献資料の明示が十分になされているか、研究課題に関して幅広い教養と専門的知識で

解明しているか、などを総合的に判断します。この基準を参考に、制作物、レポート、卒業論文、プレゼンテーションなどを評価します。

Grades will be based entirely on student efforts and achievements toward completing the project.

<テキスト>

No special text is required.

<授業計画>

第1回 Week 01- Report on Project

「卒業研究(卒業プロジェクトI・II)」では成果物、レポート、プレゼンテーション等に基づいて評価を行います。詳しくは「卒業プロジェクトI・II」のシラバスも参照してください。「卒業研究(卒業論文指導)」では卒業論文および口頭試問に基づいて評価を行います。詳しくは「卒業論文指導」のシラバスも参照してください。

Report on project work to date.

第2回 Week 02 - Considerations

Considerations about how to proceed and accomplish project goals.

第3回 Week 03 - Progress Report

Report on project progress.

第4回 Week 04 - Progress Report

Report on project progress.

第5回 Week 05 - Progress Report

Report on project progress.

第6回 Week 06 - Progress Report

Report on project progress.

第7回 Week 07 - Progress Report

Report on project progress.

第8回 Week 08 - Progress Report

Report on project progress.

第9回 Week 09 - Progress Report

Report on project progress.

第10回 Week 10 - First Submission

First project submission

第11回 Week 11- Feedback

Feedback on first project submission

第12回 Week 12- Revisions

Project revisions

第13回 Week 13- Revisions

Project revisions

第14回 Week 14 - Final Submission

Final project submission

第15回 Week 15- Feedback

Feedback on projects

2022年度 後期

2.0単位

卒業プロジェクト

深田 将揮

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導のもと、自ら設定した研究課題を4年間で修得した幅広い教養と専門的知識で解明し、制作品として完成させる。他者とコミュニケーションをはかりながら協働作業で制作品と卒業研究報告書を完成させる。

この科目は単位取得必修科目であり、ディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的としている。

<到達目標>

プロジェクト制作品は、新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容であること。

報告書では、以下の基準が求められる。

- ・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べることができる。

- ・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べることができる。

- ・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約することができる。

- ・制作物や論文の説明を的確にできる。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるものであること。

<授業の進め方>

グループ活動・実践報告プレゼンテーション

<授業時間外に必要な学修>

プロジェクトの実践、発表準備に最低1時間、授業後のリフレクションや課題解決に最低1時間必要とする。

<成績評価方法・基準>

制作品(70%)、卒業研究報告書(20%)、プロジェクト貢献(10%)

<テキスト>

授業中にプロジェクトグループごとに指定する予定。

<参考図書>

授業中にプロジェクトグループごとに指定する予定。

<授業計画>

第1回 プロジェクトの内容検討1

前期に行ったプロジェクトの課題の整理・後期の活動計画の立案

第2回 プロジェクトの内容検討2

前期に行ったプロジェクトの課題の整理・後期の活動計画の立案

第3回 改訂版計画書作成・プロジェクト準備

グループごとに計画を再検討・改訂版を作成

第4回 改訂版プロジェクト計画の立案

グループごとに計画を再検討・改訂版を作成

第5回 プロジェクト計画発表

グループごとに計画発表・問題点の確認

第6回 実践1

課題点の改善・プロジェクトの実践

第7回 実践2

課題点の改善・プロジェクトの実践

第8回 実践3

課題点の改善・プロジェクトの実践

第9回 実践4

課題点の改善・プロジェクトの実践

第10回 成果品に対する検討 1

最終発表前の検討

第11回 成果品に対する検討 2

最終発表前の検討

第12回 成果品に対する検討 3

最終発表前の検討

第13回 最終発表

プロジェクトの内容発表と評価

第14回 振り返り

グループごとに活動振り返り

第15回 卒業研究報告書完成

卒業研究報告書完成・口頭発表

2022年度 後期

2.0単位

卒業プロジェクト

中西 のりこ

< 授業の方法 >

対面授業の場合

グループ活動・実践報告プレゼンテーションを主体とし、頻繁に受講者の意見を求めたり発表を課したりします。

オンライン授業の場合

オンデマンド授業および資料配布の場所は：<http://gsquare.kobegakuin.ac.jp/>

< 授業の目的 >

対面授業の場合

グループ活動・実践報告プレゼンテーションを主体とし、頻繁に受講者の意見を求めたり発表を課したりします。

オンライン授業の場合

オンデマンド授業および資料配布の場所は：<http://gsquare.kobegakuin.ac.jp/>

< 到達目標 >

プロジェクト制作作品は、新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容であること。

報告書では、以下の基準を満たすこと：

・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べていること。

・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べられていること。

・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約されていること。

・制作物や論文の説明を的確にできること。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるものであること。

< 授業のキーワード >

英語音声学、コミュニケーション

< 授業の進め方 >

グループ活動・実践報告プレゼンテーション

< 履修するにあたって >

「言われたことをする」のではなく、自分自身が立てた計画に責任を持って、筋道を立てて説明してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

プロジェクトの実践、発表準備に最低1時間、授業後のリフレクションや課題解決に最低1時間必要とする。

< 提出課題など >

プロジェクト制作作品、卒業研究報告書。フィードバックは授業内で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

制作作品(70%)、卒業研究報告書(20%)、プロジェクト貢献(10%)

< テキスト >

今井由美子・上田洋子・大塚朝美. (2019). 『英語音声表記トレーニング・ワークブック』 英宝社. ISBN: 978-4-269-63016-1

北原真冬, 田嶋圭一 他 (2017). 『音声学を学ぶ人のためのPraat入門』 ひつじ書房. ISBN: 978-4894768710
American Psychological Association. (2019). Publication Manual of the American Psychological Association: The Official Guide to Apa Style (7th ed.). American Psychological Association. ISBN: 978-1433832161

< 授業計画 >

第1回 プロジェクトの内容検討 1

前期の活動および夏休み中の実践内容を振り返り、後期に向けての課題を整理する。

第2回 プロジェクトの内容検討 2

前期に立てた仮説を検証するための方法に沿ってパイロット分析を行う。

第3回 プロジェクトの内容検討 3

第2回授業で行ったパイロット分析結果について報告し、limitationを見つける。

第4回 プロジェクトの内容検討 4

第3回授業で見つかったlimitationについて検討し、改善できる点について見直しをする。

第5回 分析結果の報告案 1

分析結果のうち報告すべき内容について整理し、結果報告書のフォーマットを作成する。

第6回 分析結果の報告案 2

第5回授業で作成したフォーマットを埋めるため分析を続行する。

第7回 分析結果の報告案 3

分析結果を口頭で発表し、学習間フィードバックを行う。

第8回 分析結果の報告案 4

第5回授業で作成したフォーマットに沿って結果を文書で報告する。

第9回 結果の考察案 1

分析結果を先行研究と照らし合わせ、考察で取り上げるべき点を整理する。

第10回 結果の考察案 2

第9回授業で挙げた点について考察する。

第11回 結果の考察案 3

結果の考察を口頭で発表し、学習間フィードバックを行う。

第12回 結果の考察案 4

プロジェクト全体の報告書を作成し、提出する。

第13回 口頭発表1

プロジェクト全体のの内容を口頭で発表し、学習間フィードバックを行う。

第14回 プロジェクト報告書確認

他の学生のプロジェクト報告書を読み、学習間フィードバックを行う。

第15回 口頭発表2

卒業プロジェクト審査のための口頭発表を行う。

2022年度 後期

2.0単位

卒業プロジェクト

荒島 千鶴

< 授業の方法 >

演習・講義

< 授業の目的 >

GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導のもと、自ら設定した研究課題を4年間で修得した幅広い教養と専門的知識で解明し、制作品として完成させる。他者とコミュニケーションをはかりながら協働作業で制

作品と卒業研究報告書を完成させる。

この科目は単位取得必修科目であり、ディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的としている。

< 到達目標 >

プロジェクト制作品は、新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容であること。

報告書では、以下の基準を満たすこと：

- ・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べていること。

- ・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べられていること。

- ・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約されていること。

- ・制作物や論文の説明を的確にできること。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるものであること。

< 授業のキーワード >

プロジェクト立案実行 グローバル・コミュニケーション プレゼンテーション

< 授業の進め方 >

グループ活動・実践報告プレゼンテーション

< 履修するにあたって >

授業内及びGCスクエアで出される課題の期限に間に合うよう計画立ててプロジェクトに取り組むこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

プロジェクトの実践、発表準備に最低1時間、授業後のリフレクションや課題解決に最低1時間必要とする。

< 提出課題など >

プロジェクト制作品、卒業研究報告書。フィードバックは授業内で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

制作品(70%)、卒業研究報告書(20%)、出席・プロジェクト貢献(10%)

< 授業計画 >

第1回 プロジェクトの内容検討1

前期に行ったプロジェクトの課題の整理・後期の活動計画の立案

第2回 プロジェクトの内容検討2

前期に行ったプロジェクトの課題の整理・後期の活動計画の立案

第3回 改訂版計画書作成・プロジェクト準備

グループごとに計画を再検討・改訂版を作成

第4回 改訂版プロジェクト計画の立案

グループごとに計画を再検討・改訂版を作成

第5回 プロジェクト計画発表
グループごとに計画発表・問題点の確認
第6回 実践1
課題点の改善・プロジェクトの実践
第7回 実践2
課題点の改善・プロジェクトの実践
第8回 実践3
課題点の改善・プロジェクトの実践
第9回 実践4
課題点の改善・プロジェクトの実践
第10回 成果品に対する検討 1
最終発表前の検討
第11回 成果品に対する検討 2
最終発表前の検討
第12回 成果品に対する検討 3
最終発表前の検討
第13回 最終発表
プロジェクトの内容発表と評価
第14回 振り返り
グループごとに活動振り返り
第15回 卒業研究報告書完成
卒業研究報告書完成・口頭発表

2022年度 後期
2.0単位
卒業プロジェクト
表谷 純子

< 授業の方法 >
演習・講義

< 授業の目的 >
GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導のもと、自ら設定した研究課題を4年間で修得した幅広い教養と専門的知識で解明し、制作品として完成させる。他者とコミュニケーションをはかりながら協働作業で制作品と卒業研究報告書を完成させる。
この科目は単位取得必修科目であり、ディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的としている。

< 到達目標 >
プロジェクト制作品は、新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容であること。
報告書では、以下の基準を満たすこと：
・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べていること。

・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べられていること。
・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約されていること。
・制作物や論文の説明を的確にできること。
以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるものであること。
< 授業のキーワード >
プロジェクト立案実行 グローバル・コミュニケーション プレゼンテーション
< 授業の進め方 >
グループ活動・実践報告プレゼンテーション
< 履修するにあたって >
授業内及びGCスクエアで出される課題の期限に間に合うよう計画立ててプロジェクトに取り組むこと。
< 授業時間外に必要な学修 >
プロジェクトの実践、発表準備に最低1時間、授業後のリフレクションや課題解決に最低1時間必要とする。
< 提出課題など >
プロジェクト制作品、卒業研究報告書。フィードバックは授業内で実施する。
< 成績評価方法・基準 >

制作品(70%)、卒業研究報告書(20%)、出席・プロジェクト貢献(10%)
< 授業計画 >
第1回 プロジェクトの内容検討1
前期に行ったプロジェクトの課題の整理・後期の活動計画の立案
第2回 プロジェクトの内容検討2
前期に行ったプロジェクトの課題の整理・後期の活動計画の立案
第3回 改訂版計画書作成・プロジェクト準備
グループごとに計画を再検討・改訂版を作成
第4回 改訂版プロジェクト計画の立案
グループごとに計画を再検討・改訂版を作成
第5回 プロジェクト計画発表
グループごとに計画発表・問題点の確認
第6回 実践1
課題点の改善・プロジェクトの実践
第7回 実践2
課題点の改善・プロジェクトの実践
第8回 実践3
課題点の改善・プロジェクトの実践
第9回 実践4
課題点の改善・プロジェクトの実践
第10回 成果品に対する検討 1
最終発表前の検討
第11回 成果品に対する検討 2
最終発表前の検討

第12回 成果品に対する検討 3

最終発表前の検討

第13回 最終発表

プロジェクトの内容発表と評価

第14回 振り返り

グループごとに活動振り返り

第15回 卒業研究報告書完成

卒業研究報告書完成・口頭発表

2022年度 後期

2.0単位

卒業プロジェクト

中嶋 アンディ 史人

< 授業の方法 >

講義、演習、実習（対面授業およびリアルタイム/オン
デマンド授業併用）

< 授業の目的 >

神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学部の学
びの集大成として、4年間で修得した幅広い教養と専門
的知識を用いながら、自ら設定した研究課題をチームと
の協働作業により、ひとつの制作品として完成させる。
また、制作の内容と過程を卒業研究報告書として提出す
ること。

この科目は単位取得必修科目であり、ディプロマポリシ
ーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.
他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つこ
とができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、
歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に
付けることができる」ことを目的としている。

< 到達目標 >

プロジェクト制作品は、独自性のある内容で、深い専門
知識と実践的な技能を用いて得られた内容であること。

報告書では、以下の基準が求められる：

・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自
己の考えを述べることができる。

・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけをす
ることができる。

・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分
に集約することができる。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、
4年間の集大成としての努力を表すことができる。

< 授業の進め方 >

グループ活動及び実践報告プレゼンテーション

< 授業時間外に必要な学修 >

プロジェクトの実践、発表準備に最低1時間、授業後の
リフレクションや課題解決に最低1時間必要とする。

< 提出課題など >

プロジェクト制作品、卒業研究報告書。フィードバック
は授業内で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

制作品(70%)、卒業研究報告書(20%)、出席・プロジェク
ト貢献(10%)

< 授業計画 >

第1回 プロジェクトの内容検討

前期に行ったプロジェクトの課題の整理・後期の活動計
画の立案 1

第2回 プロジェクトの内容検討

前期に行ったプロジェクトの課題の整理・後期の活動計
画の立案 2

第3回 改訂版プロジェクト計画の立案

グループごとに計画を再検討・改訂版を作成 1

第4回 改訂版プロジェクト計画の立案

グループごとに計画を再検討・改訂版を作成 2

第5回 プロジェクト計画発表

グループごとに計画発表・問題点の確認

第6回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 1

第7回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 2

第8回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 3

第9回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 4

第10回 実践

最終発表前の検討

第11回 成果品に対する検討

最終発表前の検討 1

第12回 成果品に対する検討

最終発表前の検討 2

第13回 最終発表

プロジェクトの内容発表と評価

第14回 卒業研究報告書完成

卒業研究報告書完成・口頭発表

第15回 振り返り

活動を振り返って

2022年度 後期

2.0単位

卒業プロジェクト

Krieg, Alexander William

< 授業の方法 >

実験、演習

< 授業の目的 >

GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導の
もと、自ら設定した研究課題を4年間で修得した幅広い
教養と専門的知識で解明し、制作品として完成させる。
他者とコミュニケーションをはかりながら協働作業で制
作品と卒業研究報告書を完成させる。

この科目は単位取得必修科目であり、ディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的としている。

<到達目標>

プロジェクト制作作品は、新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容であること。

報告書では、以下の基準を満たすこと：

- ・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べていること。
- ・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べられていること。
- ・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約されていること。
- ・制作物や論文の説明を的確にできること。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるものであること。

<授業の進め方>

グループ活動・実践報告プレゼンテーション

<授業時間外に必要な学修>

プロジェクトの実践、発表準備に最低1時間、授業後のリフレクションや課題解決に最低1時間必要とする。

<提出課題など>

プロジェクト制作作品、卒業研究報告書。フィードバックは授業内で実施する。

<成績評価方法・基準>

制作作品(70%)、卒業研究報告書(20%)、プロジェクト貢献(10%)

<授業計画>

第1回 プロジェクトの内容検討1

前期に行ったプロジェクトの課題の整理・後期の活動計画の立案

第2回 プロジェクトの内容検討2

前期に行ったプロジェクトの課題の整理・後期の活動計画の立案

第3回 改訂版計画書作成・プロジェクト準備

グループごとに計画を再検討・改訂版を作成

第4回 改訂版プロジェクト計画の立案

グループごとに計画を再検討・改訂版を作成

第5回 プロジェクト計画発表

グループごとに計画発表・問題点の確認

第6回 実践1

課題点の改善・プロジェクトの実践

第7回 実践2

課題点の改善・プロジェクトの実践

第8回 実践3

課題点の改善・プロジェクトの実践

第9回 実践4

課題点の改善・プロジェクトの実践

第10回 成果品に対する検討 1

最終発表前の検討

第11回 成果品に対する検討 2

最終発表前の検討

第12回 成果品に対する検討 3

最終発表前の検討

第13回 最終発表

プロジェクトの内容発表と評価

第14回 振り返り

グループごとに活動振り返り

第15回 卒業研究報告書完成

卒業研究報告書完成・口頭発表

2022年度 後期

2.0単位

卒業プロジェクト

森下 美和

<授業の方法>

演習・実習

<授業の目的>

GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導のもと、自ら設定した研究課題を4年間で修得した幅広い教養と専門的知識で解明し、制作物として完成させる。他者とコミュニケーションをはかりながら協働作業で制作物と卒業研究報告書を完成させる。

この科目は単位取得必修科目であり、ディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的としている。

<到達目標>

プロジェクト制作作品は、新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容であること。

報告書では、以下の基準を満たすこと：

- ・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えが述べられている。
- ・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べられている。
- ・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約されている。
- ・制作物や論文の説明を的確にできている。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるものであること。

< 授業の進め方 >

GCsquare上でのグループ活動・実践報告プレゼンテーション

< 授業時間外に必要な学修 >

プロジェクトの実践、発表準備に最低1時間、授業後のリフレクションや課題解決に最低1時間必要とする。

< 提出課題など >

プロジェクト制作作品、卒業研究報告書。フィードバックはGCsquare上またはメールにて行う。

< 成績評価方法・基準 >

制作作品(70%)、卒業研究報告書(20%)、プロジェクト貢献(10%)

< テキスト >

授業中にプロジェクトグループごとに指定する予定。

< 参考図書 >

授業中にプロジェクトグループごとに指定する予定。

< 授業計画 >

第1回 プロジェクトの内容検討1

これまでに行ったプロジェクトの課題の整理・後期の活動計画の立案(1)

第2回 プロジェクトの内容検討2

これまでに行ったプロジェクトの課題の整理・後期の活動計画の立案(2)

第3回 改訂版計画書作成・プロジェクト準備

グループごとに計画を再検討・改訂案を検討

第4回 改訂版プロジェクト計画の立案

グループごとの計画再検討作業にもとづき、改訂案を完成

第5回 プロジェクト計画発表

グループごとに計画発表・問題点の確認

第6回 実践1

プロジェクトの推進

第7回 実践2

課題点の改善・プロジェクトの推進

第8回 実践3

課題点の改善・プロジェクトの推進

第9回 実践4

課題点の改善・プロジェクトの推進

第10回 成果品に対する検討 1

最終発表前の成果物のチェック(1)

第11回 成果品に対する検討 2

最終発表前の成果物のチェック(2)

第12回 成果品に対する検討 3

最終発表前の成果物のチェック(3)

第13回 最終発表

プロジェクト成果物の内容発表と相互評価

第14回 振り返り

グループごとに活動の振り返り

第15回 卒業研究報告書完成

卒業研究報告書完成・口頭発表

2022年度 後期

2.0単位

卒業プロジェクト

胡 士雲

< 授業の方法 >

演習、実技

< 授業の目的 >

この科目は、G C学部のD Pに示す、実践的で高度な外国語の運用ができることを目指す。

この科目は中国語コースの卒業要件になる科目の一つとして、社会言語学と地域への貢献の角度から、フィールドワークを通して、これまで身に付けた中国語の知識や能力を総合的に運用することである。

この授業は「卒業プロジェクト」の継続授業である。

< 到達目標 >

1) 調査した地域の中国語の標識を把握する。(知識)

2) 入手した調査資料を電子化にし、資料の整理方法を身に付ける。(技能)

3) 最終報告書の作成を行う。(技能)

< 授業のキーワード >

現地調査、資料の整理、報告書の作成

< 授業の進め方 >

1) 履修者をグループに分け、作業チームを結成する。

2) 各チームは調査地域の分担と調査目標を明確にし、現地調査を行う。

3) 入手した資料を整理し、前年度のレポートを添削し、最終報告書(初版)の作成を準備する。

4) 自主テーマの履修者は計画の通りに進む。

< 履修するにあたって >

1) 知的探究心があり、現地調査への支障がない、また調査資料をデータ化する能力がある。

2) パソコンの操作ができ、ノートパソコンを持つことが望ましい。

3) 分担した作業を遅れないこと。

4) 課題の提出を遅れないこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の各回で指示された内容を確実にする。

事前学習として、分担した地域の地理情報を確認し、調査目的を明確にすること。(1時間程度)

事後学習として、調査した資料を確認し、内容を理解するように努力すること。(1時間程度)

< 提出課題など >

授業中に適宜指示する

< 成績評価方法・基準 >

現地調査と資料整理、最終報告書(初版)の作成100%

< テキスト >

授業中に適宜指示する

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

卒業プロジェクト の授業を振り返る

第2回 報告書の作成 (1)

報告書を作成する (1)

第3回 報告書の作成 (2)

報告書を作成する (2)

第4回 発表会 (1)

報告書を発表する (1)

第5回 発表会 (2)

報告書を発表する (2)

第6回 発表会 (3)

報告書を発表する (3)

第7回 報告書の修正 (1)

発表時に出た意見に参考して報告書を修正する (1)

第8回 報告書の修正 (2)

発表時に出た意見に参考して報告書を修正する (2)

第9回 報告書の修正 (3)

発表時に出た意見に参考して報告書を修正する (3)

第10回 発表会 (4)

修正した報告書の再発表をする (1)

第11回 発表会 (5)

修正した報告書の再発表をする (2)

第12回 発表会 (6)

修正した報告書の再発表をする (3)

第13回 報告書提出の準備

報告書を完成する

第14回 意見交換会

報告書に関する意見交換をする

第15回 報告書の提出

報告書を再確認し、教務センターに提出する

2022年度 後期

2.0単位

卒業プロジェクト

眞島 淳

< 授業の方法 >

対面授業

講義、演習、実習、実技

< 授業の目的 >

この授業では、「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」そして「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に着けることができる」という学部のDPに掲げられた三点の集大成と位置付けることができる。この授業では、GC学部で身に着けた中国語力、コミュニケーション能力、及び幅広い知識や教養を活かして、大学が位置する兵庫県のポストコロナを見据えたツーリズム

ム振興に寄与することを目標とする。卒業プロジェクトで策定したアクションプランにもとづき、グループにて現地調査を行い、今までにない魅力ある兵庫県の観光情報を中国語圏を対象にして中国語も使用して発信することのできる最終成果物を作成する。

< 到達目標 >

アクションプランに則り、グループのメンバーと協調して現地調査を行うことができる。

現地調査で収集した資料をもとに、日本語・中国語で最終成果物を製作することができる。

最終成果物に示された兵庫観光の新たな魅力をプレゼンテーションすることができる。

< 授業のキーワード >

観光、現地調査、アクションプラン、グループワーク、プレゼンテーション

< 授業の進め方 >

卒業プロジェクト で策定した計画に沿って、グループで現地調査を行いながら最終成果物の編集を行う。他グループからのフィードバックをもとに補足・修正を行いながら、グループ成果物を完成させ、最後に全体で一つの成果物を完成させる。最後に、プロジェクト で収集した資料なども用いて卒業レポートを完成させる。

< 履修するにあたって >

観光の視点から、今までにない兵庫の魅力を発掘し、発信していくことに強い関心がある。

自身の担当作業を確実に遂行するだけでなく、グループやクラス全体で一つの成果物を創り上げる責任感と協調性が求められる。

プロジェクトワークにおける経験を卒業後のキャリアに活かしていきたいという強い意欲がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

資料の収集、分析、プレゼンテーションの準備など (最低1時間)

グループでのコミュニケーション・作業など (最低1時間)

現地調査を行う必要があり、その時間は上記の時間に含まれない。

< 提出課題など >

授業計画に従って、レポートやパワーポイント資料などを提出する必要がある。また、提出課題については授業全体でもしくは個人に適時フィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >

成績評価の前提として前授業回数の3分の2以上の出席を必要とする。出席が3分の2に達さない場合は単位を認めないので注意すること。

以下の割合で総合的に評価する。

プロジェクト進捗レポート (自己評価含む) 40%

グループ相互評価表20%
中間プレゼンテーション20%
最終プレゼンテーション20%
授業への参加（他グループへのフィードバック・発表）
10%
<テキスト>
適時プリントを配布する。
<参考図書>
授業において適時紹介する。
<授業計画>
第1回 オリエンテーション
卒業プロジェクトの概要、今後の作業の流れについて確認を行う。
第2回 現地調査・編集(1)
現地調査の結果をもとに、最終成果物の編集を行う。アクションプランの確認と調整を行う。
第3回 現地調査・編集(2)
現地調査の結果をもとに、最終成果物の編集を行う。アクションプランの確認と調整を行う。
第4回 現地調査・編集(3)
現地調査の結果をもとに、最終成果物の編集を行う。アクションプランの確認と調整を行う。
第5回 現地調査・編集(4)
現地調査の結果をもとに、最終成果物の編集を行う。アクションプランの確認と調整を行う。
第6回 現地調査・編集(5)
現地調査の結果をもとに、最終成果物の編集を行う。アクションプランの確認と調整を行う。
第7回 中間発表
最終成果物について中間発表を行い、他のグループによるフィードバックを行う。
第8回 補足・修正(1)
他のグループからのフィードバックを参考に、最終成果物に対して補足・修正を行う。
第9回 補足・修正(2)
他のグループからのフィードバックを参考に、最終成果物に対して補足・修正を行う。
第10回 卒業レポート作成(1)
統計や白書などの資料をもとに先行研究をまとめる。また同時にプロジェクト実施の動機、背景についてもまとめる。
第11回 卒業レポート作成(2)
アクションプランに基づき行った現地調査、グループワークの過程についてまとめる。またグループで製作した成果物がこれまで発信されてきた観光情報と異なる点をまとめる。
第12回 卒業レポート作成(3)
今後さらにプロジェクトを継続することで充実させていくべき点（やり残した点）をまとめる。
第13回 最終発表会

グループで最終成果物についてプレゼンテーションを行う。他のグループはフィードバックを行う。

第14回 全体のまとめ

各グループの成果物を全体の成果物として一つにまとめる。

第15回 成果物・卒業レポート提出

グループの最終成果物、卒業レポートを提出する。

2022年度 後期

2.0単位

卒業プロジェクト

栗原 由加

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

「卒業プロジェクト」は、専門教育科目のうち、学部共通科目群に属し、その中でも「卒業研究」分野に位置づけられる授業の一つです。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになることを目的とする授業です。「卒業プロジェクト」での詳細な記録をもとに、活動の内容を整理し、レポートにまとめ、レジュメを作成して発表します。

なお、この授業の担当者は、一般財団法人での業務管理の実務経験がある教員です。実践的な観点から、受講生が自分自身の活動をレポートとしてまとめ、わかりやすく発表できるようになるための技術の習得をサポートします。

<到達目標>

1. 活動報告の結果を発表用のレジュメの形にまとめることができる。
2. 活動報告の結果を発表用のスライドの形にまとめることができる。
3. 活動報告について、口頭発表ができる。

<授業のキーワード>

発表用資料、口頭発表

<授業の進め方>

ゼミ形式の授業ですが、適宜、グループ指導や学生一人ひとりを対象にした個別指導が加わります。

<履修するにあたって>

卒業プロジェクトで、卒業プロジェクトとしての活動行っていることが履修の条件となります。

授業中は、日本語のみ使用してください。

<授業時間外に必要な学修>

毎回、次回の授業で行う作業を明示しますので、次回の授業に備えて1時間程度準備が必要です。また、授業で

の議論やコメントを踏まえて、授業外でも発表用資料の加筆・修正や口頭発表のための準備を進めることが求められます。

< 提出課題など >

毎回、レポートの提出を課します。

課題のフィードバックは、授業中に行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業への取り組み20%、レジュメ20%、発表10%、レポート50%

< テキスト >

プリントを配布します

< 授業計画 >

- 第1回 活動内容のまとめとレポート作成
プロジェクトレポート作成方法の概要を学びます。
- 第2回 活動内容のまとめとレポート作成
スケジュール表の書き方を学びます。
- 第3回 活動内容のまとめとレポート作成
スケジュール表の書き方を学びます。
- 第4回 活動内容のまとめとレポート作成
活動内容のまとめ方を学びます。
- 第5回 活動内容のまとめとレポート作成
活動内容のまとめ方を学びます。
- 第6回 活動内容のまとめとレポート作成
内定先企業に関する情報のまとめ方を学びます。
- 第7回 活動内容のまとめとレポート作成
内定先企業に関する情報のまとめ方を学びます。
- 第8回 活動内容のまとめとレポート作成
プロジェクトレポートの考察の書き方を学びます。
- 第9回 活動内容のまとめとレポート作成
プロジェクトレポートの考察の書き方を学びます。
- 第10回 活動内容のまとめとレポート作成
プロジェクトレポートの「はじめに」と「おわりに」の書き方を学びます。
- 第11回 レジュメ作成
発表用のレジュメを作成します。
- 第12回 レジュメ作成
発表用のレジュメを作成します。
- 第13回 口頭発表リハーサル
発表会のリハーサルを行います。
- 第14回 発表会
プロジェクトの成果を発表します。
- 第15回 発表会
プロジェクトの成果を発表します。

2022年度 後期

2.0単位

卒業プロジェクト

香月 裕介

< 授業の方法 >

演習（対面授業）

< 授業の目的 >

「卒業プロジェクト」は、専門教育科目のうち、学部共通科目群に属し、その中でも「卒業研究」分野に位置づけられる授業の一つです。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになることを目的とする授業です。「卒業プロジェクト」において報告書を作成した学生を対象に、「報告書の内容を資料にまとめ、発表する」ことに主眼を置いた授業です。

具体的には、「卒業プロジェクト」で作成した報告書を発表用のレジュメにまとめ、パワーポイントの発表スライドを作成します。そして、それらの資料を使って口頭での発表を行います。

< 到達目標 >

1. 報告書の内容を発表用のレジュメの形にまとめることができる。
2. 報告書の内容を発表用のスライドの形にまとめることができる。
3. 報告書の内容について、口頭発表ができる。

< 授業のキーワード >

発表用資料、口頭発表

< 授業の進め方 >

ゼミ形式の授業ですが、適宜、グループ指導や学生一人ひとりを対象にした個別指導が加わります。

< 履修するにあたって >

卒業プロジェクトで、報告書の作成を行っていることが履修の条件となります。

授業中は、日本語のみ使用してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、次回の授業で行う作業を明示しますので、次回の授業に備えて1時間程度準備が必要です。また、授業での議論やコメントを踏まえて、授業外でも発表用資料の加筆・修正や口頭発表のための準備を進めることが求められます。

< 提出課題など >

毎回、課題を提出してもらいます。

課題のフィードバックは、授業中に行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業への取り組み30%、レジュメ作成のための準備20%、スライド作成のための準備20%、発表原稿10%、口頭発表のための準備20%

< テキスト >

プリントを配布します

< 授業計画 >

- 第1回 ガイダンス
発表用レジュメ作成

授業概要の説明

発表用のレジュメを作成する

第2回 発表用レジュメ作成

発表用のレジュメを作成する

第3回 個別面談

個別に面談を行い、発表用のレジュメの内容を検討する

第4回 発表用スライド作成

発表用のスライドを作成する

第5回 発表用スライド作成

発表用のスライドを作成する

第6回 個別面談

個別に面談を行い、発表用のスライドの内容を検討する

第7回 発表用原稿作成

発表用の原稿を作成する

第8回 発表用原稿作成

発表用の原稿を作成する

第9回 個別面談

個別に面談を行い、発表用の原稿の内容を検討する

第10回 口頭発表練習

口頭発表の練習を行う

第11回 口頭発表練習

口頭発表の練習を行う

第12回 個別面談

個別に面談を行い、口頭発表の内容を検討する

第13回 口頭発表リハーサル

発表会のリハーサルを行う

第14回 発表会

成果を発表する

第15回 発表会

成果を発表する

2022年度 後期

2.0単位

卒業プロジェクト

吉兼 奈津子

< 授業の方法 >

演習（対面授業）

< 授業の目的 >

「卒業プロジェクト」は、専門教育科目のうち、学部共通科目群に属し、その中でも「卒業研究」分野に位置づけられる授業の一つです。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになることを目的とする授業です。「卒業プロジェクト」での詳細な記録をもとに、活動の内容を整理し、レポートにまとめ、レジュメを作成して発表します。

< 到達目標 >

1. 活動報告の結果を発表用のレジュメの形にまとめることができる。

2. 活動報告の結果を発表用のスライドの形にまとめることができる。

3. 活動報告について、口頭発表ができる。

< 授業のキーワード >

発表用資料、口頭発表

< 授業の進め方 >

ゼミ形式の授業ですが、適宜、グループ指導や学生一人ひとりを対象にした個別指導が加わります。

< 履修するにあたって >

卒業プロジェクトで、調査報告の作成を行っていることが履修の条件となります。

授業中は、日本語のみ使用してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、次回の授業で行う作業を明示しますので、次回の授業に備えて1時間程度準備が必要です。また、授業での議論やコメントを踏まえて、授業外でも発表用資料の加筆・修正や口頭発表のための準備を進めることが求められます。

< 提出課題など >

毎回、課題を提出してもらいます。

課題のフィードバックは、授業中に行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業への取り組み20%、レジュメ20%、発表10%、レポート50%

< テキスト >

プリントを配布します

< 授業計画 >

第1回 活動内容のまとめとレポート作成
プロジェクトレポート作成方法の概要を学びます。

第2回 活動内容のまとめとレポート作成
スケジュール表の書き方を学びます。

第3回 活動内容のまとめとレポート作成
スケジュール表の書き方を学びます。

第4回 活動内容のまとめとレポート作成
活動内容のまとめ方を学びます。

第5回 活動内容のまとめとレポート作成
活動内容のまとめ方を学びます。

第6回 活動内容のまとめとレポート作成
自分の活動に関する情報のまとめ方、考察の書き方を学びます。

第7回 活動内容のまとめとレポート作成
自分の活動に関する情報のまとめ方、考察の書き方を学びます。

第8回 活動内容のまとめとレポート作成
自分の活動に関する情報のまとめ方、考察の書き方を学びます。

第9回 活動内容のまとめとレポート作成

自分の活動に関する情報のまとめ方、考察の書き方を学びます。

第10回 活動内容のまとめとレポート作成

自分の活動に関する情報のまとめ方、考察の書き方を学びます。

第11回 活動内容のまとめとレポート作成

プロジェクトレポートの「はじめに」と「おわりに」の書き方を学びます。

第12回 レジюме作成

発表用のレジюмеを作成します。

第13回 発表会

プロジェクトの成果を発表します。

第14回 発表会

プロジェクトの成果を発表します。

第15回 発表会

プロジェクトの成果を発表します。

2022年度 後期

4.0単位

卒業研究（卒業プロジェクト）

東 淳一

< 授業の方法 >

演習形式（対面授業）。

< 授業の目的 >

「卒業研究」とは、GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導のもと、自ら設定した研究課題を4年間で修得した幅広い教養と専門的知識で解明し、制作物あるいは卒業論文として完成させるものです。卒業研究（卒業プロジェクト）では、他者とコミュニケーションをはかりながら協働作業で制作物と卒業研究報告書を完成させます。

< 到達目標 >

次のような基準の卒業研究の達成を目標とする。

- ・新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容を製作できる。
- ・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べている。
- ・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べられている。
- ・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約されている。
- ・制作物や論文の説明を的確にできている。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるものであること。

< 授業の進め方 >

「卒業プロジェクトI・II/卒業論文指導」の指導に基づいて進めていきます。

< 授業時間外に必要な学修 >

1回の授業につき、最低1時間の学修が必要である。

< 提出課題など >

各担当者が適宜指示します。フィードバックは研究室にて行います。

< 成績評価方法・基準 >

卒業研究の評価に関しては、テーマに新奇性(オリジナリティ)があるか、方法に論理的一貫性があるか、内容に科学的根拠があるか、文献資料の明示が十分になされているか、研究課題に関して幅広い教養と専門的知識で解明しているか、などを総合的に判断します。この基準を参考に、制作物、レポート、プレゼンテーションなどを評価します。

< 授業計画 >

第1回

「卒業研究（卒業プロジェクトI・II）」では成果物、レポート、プレゼンテーション等に基づいて評価を行います。詳しくは「卒業プロジェクトI・II」のシラバスも参照してください。

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

2022年度 後期

4.0単位

卒業研究（卒業プロジェクト）

シャーロー トーマス

< 授業の方法 >

PBL

< 授業の目的 >

「卒業研究」とは、GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導のもと、自ら設定した研究課題を4年間で修得した幅広い教養と専門的知識で解明し、制作物あるいは卒業論文として完成させるものです。卒業研究（卒業プロジェクト）では、他者とコミュニケーションをはかりながら協働作業で制作物と卒業研究報告書を完成させます。卒業研究(卒業論文指導)では、個別指導のもと、課題解明への過程をまとめあげ、卒業論文に結実させます。具体的には、学習者がテーマの選択、先行研

究の確認、資料の収集、整理、分析や考察、創造などを自発的に行い、指導教官が研究・論文の内容に直接かわるものと、所定の手続きや、決められた書式など、従わなくてはならない決まり、約束事について指導を行います。

この授業ではディプロマポリシーの中でも (1) 実践的で高度な外国語の適用できる (2) 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる (3) 教養現場で効果な英語に関する体系的で専門的知識と指導法を習得することができる ことを目的としている。

<到達目標>

学生が次のような基準の卒業研究の達成を目標とする。

- ・新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容であること。
- ・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べていること。
- ・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べられていること。
- ・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約されていること。
- ・制作物や論文の説明を的確にできること。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるものであることが望ましい。

<授業のキーワード>

communication, presentation, writing

<授業の進め方>

「卒業プロジェクトI・II/卒業論文指導」の指導に基づいて進めていきます。具体的には、個人指導、グループワーク、論文執筆、作品制作、成果発表などが挙げられます。

<履修するにあたって>

Students are expected to energetically plan for and execute project goals.

<授業時間外に必要な学修>

Much of the project work will involve research and writing outside of the class. Students should be prepared to spend as much as 20 hours per week outside of class working on the project.

<提出課題など>

各担当者が適宜指示します。

<成績評価方法・基準>

卒業研究の評価に関しては、テーマに新奇性(オリジナリティ)があるか、方法に理論的一貫性があるか、内容に科学的根拠があるか、文献資料の明示が十分になされているか、研究課題に関して幅広い教養と専門的知識で解明しているか、などを総合的に判断します。この基準を参考に、制作物、レポート、卒業論文、プレゼンテーションなどを評価します。

Grades will be based entirely on student efforts and achievements toward completing the project.

<テキスト>

No special text is required.

<授業計画>

第1回 Week 01- Report on Project

「卒業研究(卒業プロジェクトI・II)」では成果物、レポート、プレゼンテーション等に基づいて評価を行います。詳しくは「卒業プロジェクトI・II」のシラバスも参照してください。「卒業研究(卒業論文指導)」では卒業論文および口頭試問に基づいて評価を行います。詳しくは「卒業論文指導」のシラバスも参照してください。

Report on project work to date.

第2回 Week 02 - Considerations

Considerations about how to proceed and accomplish project goals.

第3回 Week 03 - Progress Report

Report on project progress

第4回 Week 04 - Progress Report

Report on project progress

第5回 Week 05 - Progress Report

Report on project progress

第6回 Week 06 - Progress Report

Report on project progress

第7回 Week 07 - Progress Report

Report on project progress

第8回 Week 08 - Progress Report

Project work

第9回 Week 09 - Progress Report

Project work

第10回 Week 10 - First Submission

First project submission

第11回 Week 11- Feedback

Feedback on first project submission

第12回 Week 12- Revisions

Project revisions

第13回 Week 13- Revisions

Project revisions

第14回 Week 14 - Final Submission

Final project submission

第15回 Week 15- Feedback

Feedback on projects

2022年度 後期

4.0単位

卒業研究（卒業プロジェクト）

深田 將揮

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

「卒業研究」とは、GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導のもと、自ら設定した研究課題を4年間で修得した幅広い教養と専門的知識で解明し、制作物あるいは卒業論文として完成させるものです。卒業研究（卒業プロジェクト）では、他者とコミュニケーションをはかりながら協働作業で制作物と卒業研究報告書を完成させます。卒業研究(卒業論文指導)では、個別指導のもと、課題解明への過程をまとめあげ、卒業論文に結実させます。具体的には、学習者がテーマの選択、先行研究の確認、資料の収集、整理、分析や考察、創造などを自発的に行い、指導教官が研究・論文の内容に直接かわるものと、所定の手続きや、決められた書式など、従わなくてはならない決まり、約束事について指導を行います。

< 到達目標 >

学生が次のような基準の卒業研究の達成を目標とする。

- ・新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容であること。
- ・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べていること。
- ・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べられていること。
- ・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約されていること。
- ・制作物や論文の説明を的確にできること。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるものであることが望ましい。

< 授業の進め方 >

「卒業プロジェクトI・II/卒業論文指導」の指導に基づいて進めていきます。具体的には、個人指導、グループワーク、論文執筆、作品制作、成果発表などが挙げられます。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、準備や予習で最低1時間、復習や振り返りにおいても最低1時間以上が必要である。

< 提出課題など >

各担当者が適宜指示します。

< 成績評価方法・基準 >

卒業研究の評価に関しては、テーマに新奇性(オリジナリティ)があるか、方法に理論的一貫性があるか、内容

に科学的根拠があるか、文献資料の明示が十分になされているか、研究課題に関して幅広い教養と専門的知識で解明しているか、などを総合的に判断します。この基準を参考に、毎回の貢献度に加え、制作物、レポート、卒業論文、プレゼンテーションなどを評価します。

< テキスト >

プロジェクトグループごとに指定する予定。

< 参考図書 >

プロジェクトグループごとに指定する予定。

< 授業計画 >

第1回

「卒業研究(卒業プロジェクトI・II)」では成果物、レポート、プレゼンテーション等に基づいて評価を行います。詳しくは「卒業プロジェクトI・II」のシラバスも参照してください。「卒業研究(卒業論文指導)」では卒業論文および口頭試問に基づいて評価を行います。詳しくは「卒業論文指導」のシラバスも参照してください。

2022年度 後期

4.0単位

卒業研究（卒業プロジェクト）

中西 のりこ

< 授業の方法 >

集中講義

対面授業の場合

グループ活動・実践報告プレゼンテーションを主体とし、頻繁に受講者の意見を求めたり発表を課したりします。

オンライン授業の場合

オンデマンド授業および資料配布の場所は：<http://gc-square.kobegakuin.ac.jp/>

< 授業の目的 >

「卒業研究」とは、GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導のもと、自ら設定した研究課題を4年間で修得した幅広い教養と専門的知識で解明し、制作物あるいは卒業論文として完成させるものです。卒業研究（卒業プロジェクト）では、他者とコミュニケーションをはかりながら協働作業で制作物と卒業研究報告書を完成させます。卒業研究(卒業論文指導)では、個別指導のもと、課題解明への過程をまとめあげ、卒業論文に結実させます。具体的には、学習者がテーマの選択、先行研究の確認、資料の収集、整理、分析や考察、創造などを自発的に行い、指導教官が研究・論文の内容に直接かわるものと、所定の手続きや、決められた書式など、従わなくてはならない決まり、約束事について指導を行います。

< 到達目標 >

次のような基準の卒業研究の達成を目標とする。

- ・新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的

な技能を用いて得られた内容を製作できる。
・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べている。
・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べられている。
・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約されている。
・制作物や論文の説明を的確にできている。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるものであること。

< 授業の進め方 >

「卒業プロジェクトI・II/卒業論文指導」の指導に基づいて進めていきます。具体的には、個人指導、グループワーク、論文執筆、作品制作、成果発表などが挙げられます。

< 授業時間外に必要な学修 >

1回の授業につき、最低1時間の学修が必要である。

< 提出課題など >

各担当者が適宜指示します。フィードバックはGCsquare上で行います。

< 成績評価方法・基準 >

卒業研究の評価に関しては、テーマに新奇性(オリジナリティ)があるか、方法に理論的一貫性があるか、内容に科学的根拠があるか、文献資料の明示が十分になされているか、研究課題に関して幅広い教養と専門的知識で解明しているか、などを総合的に判断します。この基準を参考に、制作物、レポート、卒業論文、プレゼンテーションなどを評価します。

< 授業計画 >

第1回

「卒業研究(卒業プロジェクトI・II)」では成果物、レポート、プレゼンテーション等に基づいて評価を行います。詳しくは「卒業プロジェクトI・II」のシラバスも参照してください。「卒業研究(卒業論文指導)」では卒業論文および口頭試問に基づいて評価を行います。詳しくは「卒業論文指導」のシラバスも参照してください。

2022年度 後期

4.0単位

卒業研究(卒業プロジェクト)

荒島 千鶴

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導のもと、自ら設定した研究課題を4年間で修得した幅広い教養と専門的知識で解明し、制作物として完成させる。

他者とコミュニケーションをはかりながら協働作業で制作物と卒業研究報告書を完成させる。

この科目は単位取得必修科目であり、ディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的としている。

< 到達目標 >

プロジェクト制作物は、新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容であること。

報告書では、以下の基準を満たすこと：

- ・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べていること。
- ・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べられていること。
- ・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約されていること。
- ・制作物や論文の説明を的確にできること。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるものであること。

< 授業のキーワード >

プロジェクト

< 授業の進め方 >

グループ活動・実践報告プレゼンテーション

< 履修するにあたって >

授業内で指定された方法でプロジェクトの成果物とプロジェクトレポートを完成させ、期日までに提出すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

プロジェクトの実践、発表準備に最低1時間、授業後のリフレクションや課題解決に最低1時間必要とする。

< 提出課題など >

プロジェクト制作物、卒業研究報告書。フィードバックは授業内で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

制作物(70%)、卒業研究報告書(20%)、プロジェクト貢献(10%)

< 授業計画 >

第1回 プロジェクトの内容検討

計画の立案・グループ決定

第2回 プロジェクト計画の立案 1
グループごとに計画の立案

第3回 プロジェクト計画の立案 2
グループごとに計画の立案

第4回 プロジェクト計画の立案 3
グループごとに計画の立案

第5回 計画書作成・プロジェクト準備

グループごとに計画を立案

第6回 プロジェクト計画発表

グループごとに計画発表・問題点の確認

第7回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 1

第8回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 2

第9回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 3

第10回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 4

第11回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 5

第12回 成果品に対する検討 1

中間発表前の検討

第13回 成果品に対する検討 2

中間発表前の検討

第14回 中間発表

グループごとに成果発表

第15回 振り返り

グループごとに活動振り返り・後期に向けての課題整理

2022年度 後期

4.0単位

卒業研究（卒業プロジェクト）

表谷 純子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導のもと、自ら設定した研究課題を4年間で修得した幅広い教養と専門的知識で解明し、制作品として完成させる。他者とコミュニケーションをはかりながら協働作業で制作品と卒業研究報告書を完成させる。

この科目は単位取得必修科目であり、ディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的としている。

< 到達目標 >

プロジェクト制作品は、新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容であること。

報告書では、以下の基準を満たすこと：

- ・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べていること。
- ・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べられていること。

・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約されていること。

・制作物や論文の説明を的確にできること。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるものであること。

< 授業のキーワード >

プロジェクト

< 授業の進め方 >

グループ活動・実践報告プレゼンテーション

< 履修するにあたって >

授業内で指定された方法でプロジェクトの成果物とプロジェクトレポートを完成させ、期日までに提出すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

プロジェクトの実践、発表準備に最低1時間、授業後のリフレクションや課題解決に最低1時間必要とする。

< 提出課題など >

プロジェクト制作品、卒業研究報告書。フィードバックは授業内で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

制作品(70%)、卒業研究報告書(20%)、プロジェクト貢献(10%)

< 授業計画 >

第1回 プロジェクトの内容検討

計画の立案・グループ決定

第2回 プロジェクト計画の立案 1

グループごとに計画の立案

第3回 プロジェクト計画の立案 2

グループごとに計画の立案

第4回 プロジェクト計画の立案 3

グループごとに計画の立案

第5回 計画書作成・プロジェクト準備

グループごとに計画を立案

第6回 プロジェクト計画発表

グループごとに計画発表・問題点の確認

第7回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 1

第8回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 2

第9回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 3

第10回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 4

第11回 実践

課題点の改善・プロジェクトの実践 5

第12回 成果品に対する検討 1

中間発表前の検討

第13回 成果品に対する検討 2

中間発表前の検討

第14回 中間発表
グループごとに成果発表

第15回 振り返り
グループごとに活動振り返り・後期に向けての課題整理

2022年度 後期

4.0単位

卒業研究（卒業プロジェクト）

中嶋 アンディ 史人

< 授業の方法 >

講義、演習、実習（対面授業 及び リアルタイム / オンライン授業併用）

< 授業の目的 >

「卒業研究」とは、GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導のもと、自ら設定した研究課題を4年間で修得した幅広い教養と専門的知識で解明し、制作物あるいは卒業論文として完成させるものである。卒業研究（卒業プロジェクト）では、他者とコミュニケーションをはかりながら協働作業で制作物と卒業研究報告書を完成させる。卒業研究（卒業論文指導）では、個別指導のもと、課題解明への過程をまとめあげ、卒業論文に結実させる。具体的には、学習者がテーマの選択、先行研究の確認、資料の収集、整理、分析や考察、創造などを自発的に行い、指導教官が研究・論文の内容に直接かわるものと、所定の手続きや決められた書式など、従わなくてはならない決まりや約束事についても指導を行う。

< 到達目標 >

学生が次のような基準の卒業研究の達成を目標とする。

- ・新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容であること。
- ・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べていること。
- ・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べられていること。
- ・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約されていること。
- ・制作物や論文の説明を的確にできること。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるものであることが望ましい。

< 授業の進め方 >

「卒業プロジェクトI・II/卒業論文指導」の指導に基づいて進める。具体的には、個人指導、グループワーク、論文執筆、作品制作、成果発表などが挙げられる。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎週、5時間は学修にあてること。

< 提出課題など >

担当者が適宜指示する。

< 成績評価方法・基準 >

卒業研究の評価に関しては、テーマに新奇性(オリジナリティ)があるか、方法に理論的一貫性があるか、内容に科学的根拠があるか、文献資料の明示が十分になされているか、研究課題に関して幅広い教養と専門的知識で解明しているか、などを総合的に判断する。この基準を参考に、制作物、レポート、卒業論文、プレゼンテーションなどを評価する。（担当教員へのレポートの最終チェックは12月上旬とし、必ず年内に最終レポートを大学に提出すること。）

< 授業計画 >

第1回

「卒業研究（卒業プロジェクトI・II）」では成果物、レポート、プレゼンテーション等に基づいて評価を行う。詳しくは「卒業プロジェクトI・II」のシラバスも参照のこと。「卒業研究（卒業論文指導）」では卒業論文および口頭試問に基づいて評価を行う。詳細は「卒業論文指導」のシラバスも参照すること。

2022年度 後期

4.0単位

卒業研究（卒業プロジェクト）

Krieg, Alexander William

< 授業の方法 >

実験、演習

< 授業の目的 >

「卒業研究」とは、GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導のもと、自ら設定した研究課題を4年間で修得した幅広い教養と専門的知識で解明し、制作物あるいは卒業論文として完成させるものです。卒業研究（卒業プロジェクト）では、他者とコミュニケーションをはかりながら協働作業で制作物と卒業研究報告書を完成させます。卒業研究（卒業論文指導）では、個別指導のもと、課題解明への過程をまとめあげ、卒業論文に結実させます。具体的には、学習者がテーマの選択、先行研究の確認、資料の収集、整理、分析や考察、創造などを自発的に行い、指導教官が研究・論文の内容に直接かわるものと、所定の手続きや、決められた書式など、従わなくてはならない決まり、約束事について指導を行います。

< 到達目標 >

学生が次のような基準の卒業研究の達成を目標とする。

- ・新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容であること。
- ・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べていること。
- ・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べられていること。
- ・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約されていること。

・制作物や論文の説明を的確にできること。
以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるものであることが望ましい。

< 授業の進め方 >

「卒業プロジェクトI・II/卒業論文指導」の指導に基づいて進めていきます。具体的には、個人指導、グループワーク、論文執筆、作品制作、成果発表などが挙げられます。

< 授業時間外に必要な学修 >
作成中

< 提出課題など >

各担当者が適宜指示します。

< 成績評価方法・基準 >

卒業研究の評価に関しては、テーマに新奇性(オリジナリティ)があるか、方法に理論的一貫性があるか、内容に科学的根拠があるか、文献資料の明示が十分になされているか、研究課題に関して幅広い教養と専門的知識で解明しているか、などを総合的に判断します。この基準を参考に、制作物、レポート、卒業論文、プレゼンテーションなどを評価します。

< 授業計画 >

第1回 Topic 1

「卒業研究(卒業プロジェクトI・II)」では成果物、レポート、プレゼンテーション等に基づいて評価を行います。詳しくは「卒業プロジェクトI・II」のシラバスも参照してください。「卒業研究(卒業論文指導)」では卒業論文および口頭試問に基づいて評価を行います。詳しくは「卒業論文指導」のシラバスも参照してください。

第2回 Topic 2

Content 2

第3回 Topic 3

Content 3

第4回 Topic 4

Content 4

第5回 Topic 5

Content 5

第6回 Topic 6

Content 6

第7回 Topic 7

Content 7

第8回 Topic 8

Content 8

第9回 Topic 9

Content 9

第10回 Topic 10

Content 10

第11回 Topic 11

Content 11

第12回 Topic 12

Content 12

第13回 Topic 13

Content 13

第14回 Topic 14

Content 14

第15回 Topic 15

Content 15

2022年度 後期

4.0単位

卒業研究 (卒業プロジェクト)

森下 美和

< 授業の方法 >

講義、演習、実習(対面授業およびリアルタイム授業併用)

< 授業の目的 >

「卒業研究」とは、GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導のもと、自ら設定した研究課題を4年間で修得した幅広い教養と専門的知識で解明し、制作物あるいは卒業論文として完成させるものです。卒業研究(卒業プロジェクト)では、他者とコミュニケーションをはかりながら協働作業で制作物と卒業研究報告書を完成させます。卒業研究(卒業論文指導)では、個別指導のもと、課題解明への過程をまとめあげ、卒業論文に結実させます。具体的には、学習者がテーマの選択、先行研究の確認、資料の収集、整理、分析や考察、創造などを自発的に行い、指導教官が研究・論文の内容に直接かわるものと、所定の手続きや、決められた書式など、従わなくてはならない決まり、約束事について指導を行います。

< 到達目標 >

学生が次のような基準の卒業研究の達成を目標とする。

・新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容であること。

・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べていること。

・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べられていること。

・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約されていること。

・制作物や論文の説明を的確にできること。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるものであることが望ましい。

< 授業のキーワード >

協働作業、課題研究

< 授業の進め方 >

「卒業プロジェクトI・II/卒業論文指導」の指導に基づ

いて進めていきます。具体的には、個人指導、グループワーク、論文執筆、作品制作、成果発表などが挙げられます。

<履修するにあたって>

授業では主にプロジェクトメンバーによる話し合いやプレゼンテーションを行うため、授業外の準備が必須である。

<授業時間外に必要な学修>

プロジェクトの実践、発表準備に最低1時間、授業後のリフレクションや課題解決に最低1時間必要とする。

<提出課題など>

各担当者が適宜指示します。

<成績評価方法・基準>

卒業研究の評価に関しては、テーマに新奇性(オリジナリティ)があるか、方法に理論的一貫性があるか、内容に科学的根拠があるか、文献資料の明示が十分になされているか、研究課題に関して幅広い教養と専門的知識で解明しているか、などを総合的に判断します。この基準を参考に、制作物、レポート、卒業論文、プレゼンテーションなどを評価します。

<授業計画>

第1回

「卒業研究(卒業プロジェクトI・II)」では成果物、レポート、プレゼンテーション等に基づいて評価を行います。詳しくは「卒業プロジェクトI・II」のシラバスも参照してください。「卒業研究(卒業論文指導)」では卒業論文および口頭試問に基づいて評価を行います。詳しくは「卒業論文指導」のシラバスも参照してください。

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

2022年度 後期

4.0単位

卒業研究(卒業論文)

東 淳一

<授業の方法>

演習形式(対面授業)。

<授業の目的>

「卒業研究」とは、GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導のもと、自ら設定した研究課題を4年間で修得した幅広い教養と専門的知識で解明し、制作物あるいは卒業論文として完成させるものです。卒業研究(卒業論文指導)では、個別指導のもと、課題解明への過程をまとめあげ、卒業論文に結実させます。具体的には、学習者がテーマの選択、先行研究の確認、資料の収集、整理、分析や考察、創造などを自発的に行い、指導教官が研究・論文の内容に直接かかわるものと、所定の手続きや、決められた書式など、従わなくてはならない決まり、約束事について指導を行います。

<到達目標>

次のような基準の卒業研究の達成を目標とする。

- ・新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容を製作できる。
- ・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べている。
- ・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べられている。
- ・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約されている。
- ・制作物や論文の説明を的確にできている。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるものであること。

<授業の進め方>

個人指導により進めていきます。論文執筆に加えて口頭での成果発表についても学びます。

<授業時間外に必要な学修>

少なくとも1週間に5時間以上の学修が必要である。

<提出課題など>

各担当者が適宜指示します。フィードバックは研究室で行います。

<成績評価方法・基準>

卒業研究の評価に関しては、テーマに新奇性(オリジナリティ)があるか、方法に論理的一貫性があるか、内容に科学的根拠があるか、文献資料の明示が十分になされているか、研究課題に関して幅広い教養と専門的知識で解明しているか、などを総合的に判断します。この基準を参考に、卒業論文、プレゼンテーションなどを評価します。

<授業計画>

第1回

「卒業研究(卒業論文)」では卒業論文および口頭試問に基づいて評価を行います。詳しくは「卒業論文指導」のシラバスも参照してください。

第2回

第3回

第4回
第5回
第6回
第7回
第8回
第9回
第10回
第11回
第12回
第13回
第14回
第15回

2022年度 後期

4.0単位

卒業研究（卒業論文）

Krieg, Alexander William

< 授業の方法 >

実験、演習

< 授業の目的 >

GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導のもと、自ら設定した研究課題を4年間で修得した幅広い教養と専門的知識で解明し、卒業論文として完成させる。個別指導のもと、課題解明への過程をまとめあげ、卒業論文に結実させる。具体的には、学習者がテーマの選択、先行研究の確認、資料の収集、整理、分析や考察、創造などを自発的に行い、指導教官が研究・論文の内容に直接かかわるものと、所定の手続きや、決められた書式など、従わなくてはならない決まり、約束事について指導を行う。

この科目は、単位取得必修科目であり、ディプロマポリシーの「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的とする。

< 到達目標 >

学生が次のような基準の卒業論文を完成させることを目標とする。

- ・新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容であること。
- ・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べていること。
- ・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べられていること。
- ・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約されていること。
- ・論文の説明を的確にできること。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、

4年間の集大成としての努力がみとめられるもの。

< 授業の進め方 >

卒業論文の完成に向けて推敲を重ねる。

< 履修するにあたって >

本講義は学習者が主体となって研究を進め・論文を執筆する必要があるため授業外の準備や学習に最低2時間程度必要となる。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、論文執筆の文献調査で最低1時間、論説・分析・推敲などにおいても最低1時間以上が必要である。

< 提出課題など >

各担当者が適宜指示する。

< 成績評価方法・基準 >

卒業論文（100%）

評価基準：

- ・テーマに新奇性(オリジナリティ)があるか
- ・議論に理論的一貫性があるか
- ・検証・考察が科学的根拠にもとづいて行われているか
- ・文献資料の明示が十分になされているか
- ・研究課題に関して幅広い教養と専門的知識で解明しているか

< 授業計画 >

第1回 初稿完成（1）

初稿の完成に向けた質疑応答。

第2回 初稿完成（2）

初稿の完成に向けた質疑応答。

第3回 初稿完成（3）

初稿の完成に向けた質疑応答。

第4回 初稿完成（4）

初稿の完成に向けた質疑応答。

第5回 初稿完成（5）

論文の初稿を提出し形式チェックを行う。

第6回 校正作業（1）

指示された箇所や不備な箇所を加筆・訂正する。

第7回 校正作業（2）

指示された箇所や不備な箇所を加筆・訂正する。

第8回 校正作業（3）

指示された箇所や不備な箇所を加筆・訂正する。

第9回 校正作業（4）

指示された箇所や不備な箇所を加筆・訂正する。

第10回 第2稿の完成

論文の第2稿を提出する。

第11回 最終確認（1）

第2稿に対して最終的な加筆・訂正を行う。

第12回 最終確認（2）

第2稿に対して最終的な加筆・訂正を行う。

第13回 最終確認（3）

第2稿に対して最終的な加筆・訂正を行う。

第14回 最終確認（4）

第2稿に対して最終的な加筆・訂正を行う。

第15回 卒論の完成

卒業論文の提出と形式チェックを行う。

2022年度 後期

4.0単位

卒業研究（卒業プロジェクト）

胡 土雲

< 授業の方法 >

演習、実技

< 授業の目的 >

この科目は、GC学部のDPに示す、実践的で高度な外国語の運用ができることを目指す。

この科目は中国語コースの卒業要件になる科目の一つとして、社会言語学と地域への貢献の角度から、フィールドワークを通して、これまで身に付けた中国語の知識や能力を総合的に運用することである。

この授業は卒業要件になる科目である。

< 到達目標 >

- 1) 調査した地域の中国語の標識を把握する。(知識)
- 2) 入手した調査資料を電子化にし、資料の整理方法を身に付ける。(技能)
- 3) 最終報告書の作成を行う。(技能)

< 授業のキーワード >

現地調査、資料の整理、報告書の作成

< 授業の進め方 >

- 1) 履修者をグループに分け、作業チームを結成する。
- 2) 各チームは調査地域の分担と調査目標を明確にし、現地調査を行う。
- 3) 入手した資料を整理し、最終報告書の作成をする。
- 4) 自主テーマの履修者は計画の通りに進む。

< 履修するにあたって >

- 1) 知的探究心があり、現地調査への支障がない、また調査資料をデータ化する能力がある。
- 2) パソコンの操作ができ、ノートパソコンを持つことが望ましい。
- 3) 分担した作業を遅れないこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の各回で指示された内容を確実にする。

事前学習として、分担した地域の地理情報を確認し、調査目的を明確にすること。(1時間程度)

事後学習として、調査した資料を確認し、内容を理解するように努力すること。(1時間程度)

< 提出課題など >

授業中に適宜指示する

< 成績評価方法・基準 >

現地調査と資料整理、最終報告書(初版)の作成100%

< テキスト >

授業中に適宜指示する

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

卒業プロジェクトの授業を振り返る

第2回 報告書の作成(1)

報告書を作成する(1)

第3回 報告書の作成(2)

報告書を作成する(2)

第4回 発表会(1)

報告書を発表する(1)

第5回 発表会(2)

報告書を発表する(2)

第6回 発表会(3)

報告書を発表する(3)

第7回 報告書の修正(1)

発表時に出た意見に参考して報告書を修正する(1)

第8回 報告書の修正(2)

発表時に出た意見に参考して報告書を修正する(2)

第9回 報告書の修正(3)

発表時に出た意見に参考して報告書を修正する(3)

第10回 発表会(4)

修正した報告書の再発表をする(1)

第11回 発表会(5)

修正した報告書の再発表をする(2)

第12回 発表会(6)

修正した報告書の再発表をする(3)

第13回 報告書提出の準備

報告書を完成する

第14回 意見交換会

報告書に関する意見交換をする

第15回 報告書の提出

報告書を再確認し、教務センターに提出する

2022年度 後期

4.0単位

卒業研究（卒業プロジェクト）

眞島 淳

< 授業の方法 >

対面授業

講義、演習、実習、実技

< 授業の目的 >

「卒業研究」とは、GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導のもと、4年間で修得した中国語力、幅広い教養と専門的知識で解明し、制作物あるいは卒業論文として完成させるものである。卒業研究(卒業プロジェクト)では、他者とコミュニケーションをはかりながら協働作業で制作物と卒業研究報告書を完成させる。

< 到達目標 >

アクションプランに則り、グループのメンバーと協調

して現地調査を行うことができる。

現地調査で収集した資料をもとに、日本語・中国語で最終成果物を製作することができる。

最終成果物に示された兵庫観光の新たな魅力をプレゼンテーションすることができる。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるものであることが望ましい。

< 授業のキーワード >

観光、現地調査、アクションプラン、グループワーク、プレゼンテーション

< 授業の進め方 >

「卒業プロジェクトI・II」の指導に基づいて進めていく。具体的には、個人指導、グループワーク、作品制作、成果発表などが挙げられる。

< 履修するにあたって >

観光の視点から、今までにない兵庫の魅力を発掘し、発信していくことに強い関心がある。

自身の担当作業を確実に遂行するだけでなく、グループやクラス全体で一つの成果物を創り上げる責任感と協調性が求められる。

プロジェクトワークにおける経験を卒業後のキャリアに活かしていきたいという強い意欲がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

資料の収集、分析、プレゼンテーションの準備など（最低1時間）

グループでのコミュニケーション・作業など（最低1時間）

現地調査を行う必要があり、その時間は上記の時間に含まれない。

< 提出課題など >

適宜指示する。

< 成績評価方法・基準 >

以下の割合で総合的に評価する。

卒業プロジェクト成果物50%

卒業レポート50%

< テキスト >

適宜指示をする。

< 参考図書 >

適宜紹介する。

< 授業計画 >

第1回

「卒業研究（卒業プロジェクトI・II）」では成果物、レポート、プレゼンテーション等に基づいて評価を行う。詳しくは「卒業プロジェクトI・II」のシラバスも参照すること。

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

2022年度 後期

4.0単位

卒業研究（卒業論文）

大濱 慶子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

「卒業研究」とは、GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導のもと、自ら設定した研究課題を4年間で修得した幅広い教養と専門的知識で解明し、制作物あるいは卒業論文として完成させるものです。卒業研究（卒業プロジェクト）では、他者とコミュニケーションをはかりながら協働作業で制作物と卒業研究報告書を完成させます。卒業研究（卒業論文指導）では、個別指導のもと、課題解明への過程をまとめあげ、卒業論文に結実させます。具体的には、学習者がテーマの選択、先行研究の確認、資料の収集、整理、分析や考察、創造などを自発的に行い、指導教官が研究・論文の内容に直接かわるものと、所定の手続きや、決められた書式など、従わなくてはならない決まり、約束事について指導を行います。

< 到達目標 >

学生が次のような基準の卒業研究の達成を目標とする。

・新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容であること。

・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べていること。

・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べられていること。

・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約されていること。

・論文の説明を的確にできること。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるものであることが望ましい。

< 授業の進め方 >

「卒業論文指導」の指導に基づいて進めていきます。具体的には、個人指導、論文執筆、作品制作、成果発表などが挙げられます。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、文献調査で1時間、分析・論述・推敲で1時間以上が必要である。

< 提出課題など >

各担当者が適宜指示します。

< 成績評価方法・基準 >

卒業研究の評価に関しては、テーマに新奇性(オリジナリティ)があるか、方法に理論的一貫性があるか、内容に科学的根拠があるか、文献資料の明示が十分になされているか、研究課題に関して幅広い教養と専門的知識で解明しているか、などを総合的に判断します。この基準を参考に、制作物、レポート、卒業論文、プレゼンテーションなどを評価します。

< 授業計画 >

第1回

「卒業研究(卒業プロジェクトI・II)」では成果物、レポート、プレゼンテーション等に基づいて評価を行います。詳しくは「卒業プロジェクトI・II」のシラバスも参照してください。「卒業研究(卒業論文指導)」では卒業論文および口頭試問に基づいて評価を行います。詳しくは「卒業論文指導」のシラバスも参照してください。

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

2022年度 後期

4.0単位

卒業研究(卒業プロジェクト)

栗原 由加

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

「卒業研究(卒業プロジェクト)」は、専門教育科目のうち、学部共通科目群に属し、その中でも「卒業研究」

分野に位置づけられる授業の一つです。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになることを目的とする授業です。グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科における4年間の学びの集大成として、これまでの学びを元に、自ら設定した活動テーマについて、成果物を作成するものです。

具体的には、自ら設定した活動テーマについての報告書を作成し、また、その報告内容をまとめた発表レジュメを作成します。そして、その資料を使って口頭での発表を行います。

< 到達目標 >

学生が次のような基準の卒業研究を達成することを目標とする。

1. 日本で就職を目指す留学生にとって、あるいはそうした留学生を受け入れる企業・社会にとって有益な知見であること。

2. 自らの得た知見がレジュメとして適切に要約・構成されていること。

3. 自らの得た知見を、流暢な日本語を用いて分かりやすく伝えられていること。

< 授業のキーワード >

調査報告、発表用資料、口頭発表

< 授業の進め方 >

「卒業プロジェクトI」「卒業プロジェクトII」の指導に基づいて進めていきます。

< 授業時間外に必要な学修 >

レポート作成のために、毎時間の授業内容に対して1時間以上の情報整理と執筆を行ってください。

< 成績評価方法・基準 >

ディプロマ・ポリシーにのっとり、幅広い知識や教養を獲得し、そこから専門的知識を活用した創造性や表現力に富むような内容になっているか、実践的で高度な日本語の運用ができているかという観点から、報告書、発表用資料、口頭発表を総合的に判断します。

2022年度 後期

4.0単位

卒業研究(卒業プロジェクト)

香月 裕介

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

「卒業研究(卒業プロジェクト)」は、専門教育科目のうち、学部共通科目群に属し、その中でも「卒業研究」分野に位置づけられる授業の一つです。ディプロマポリ

シーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになることを目的とする授業です。グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科における4年間の学びの集大成として、これまでの学びを元に、自ら設定したテーマを深めて、成果物を作成するものです。

具体的には、自ら設定したテーマについての調査報告を作成し、また、その調査報告内容をまとめた発表レジュメ・発表スライドを作成します。そして、それらの資料を使って口頭での発表を行います。

<到達目標>

学生が次のような基準の卒業研究を達成することを目標とする。

1. 日本語を学ぶ留学生にとって有益な知見であること。
2. 自らの得た知見がレジュメとして適切に要約・構成されていること。
3. 自らの得た知見が他者に分かりやすく、インパクトのある形でスライドにまとめられていること。
4. 自らの得た知見を、流暢な日本語を用いて分かりやすく伝えられていること。

<授業のキーワード>

調査報告、発表用資料、口頭発表

<授業の進め方>

「卒業プロジェクト」「卒業プロジェクト」の指導に基づいて進めていきます。

<授業時間外に必要な学修>

卒業プロジェクトにおいて、調査報告、発表レジュメ、発表スライドを作成することが必要です。それ以外にも、授業外の時間を活用して、作業を進めることが求められます。

<成績評価方法・基準>

ディプロマ・ポリシーにのっとり、幅広い知識や教養を獲得し、そこから専門的知識を活用した創造性や表現力に富むような内容になっているか、実践的で高度な日本語の運用ができているかという観点から、調査報告、発表用資料、口頭発表を総合的に判断します。

2022年度 後期

4.0単位

卒業研究（卒業プロジェクト）

吉兼 奈津子

<授業の方法>

演習（対面授業）

<授業の目的>

「卒業研究（卒業プロジェクト）」は、専門教育科目のうち、学部共通科目群に属し、その中でも「卒業研究」

分野に位置づけられる授業の一つです。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになることを目的とする授業です。グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科における4年間の学びの集大成として、これまでの学びを元に、自ら設定した活動テーマについて、成果物を作成するものです。

具体的には、自ら設定した活動テーマについての報告書を作成し、また、その報告内容をまとめた発表レジュメを作成します。そして、その資料を使って口頭での発表を行います。

<到達目標>

学生が次のような基準の卒業研究を達成することを目標とする。

1. 日本を学ぶ留学生にとって、有益な知見であること。
2. 自らの得た知見がレジュメとして適切に要約・構成されていること。
3. 自らの得た知見を、流暢な日本語を用いて分かりやすく伝えられていること。

<授業のキーワード>

調査報告、発表用資料、口頭発表

<授業の進め方>

「卒業プロジェクト」「卒業プロジェクト」の指導に基づいて進めていきます。

<授業時間外に必要な学修>

レポート作成のために、毎時間の授業内容に対して1時間以上の情報整理と執筆を行ってください。

<成績評価方法・基準>

ディプロマ・ポリシーにのっとり、幅広い知識や教養を獲得し、そこから専門的知識を活用した創造性や表現力に富むような内容になっているか、実践的で高度な日本語の運用ができているかという観点から、報告書、発表用資料、口頭発表を総合的に判断します。

2022年度 後期

4.0単位

卒業研究（卒業論文）

香月 裕介

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

「卒業研究（卒業論文）」は、専門教育科目のうち、学部共通科目群に属し、その中でも「卒業研究」分野に位置づけられる授業の一つです。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」

「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになることを目的とする授業です。グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科における4年間の学びの集大成として、これまでの学びを元に、自ら設定したテーマを深めて、卒業論文を作成するものです。

<到達目標>

学生が次のような基準の卒業論文を作成することを目標とする。

1. 論文に適した構成および文章によって作成されていること。
2. 十分に先行研究の吟味がなされていること。
3. 調査・分析の手順および記述が妥当なものであること。
4. オリジナリティのある知見・主張が盛り込まれていること。

<授業のキーワード>

卒業論文

<授業の進め方>

「卒業論文指導」の指導に基づいて進めていきます。

<授業時間外に必要な学修>

卒業論文指導の授業において、調査・分析や論文執筆といった作業を進めることが必要です。また、授業外の時間を活用して、作業を進めることが求められます。

<成績評価方法・基準>

ディプロマ・ポリシーにのっとり、幅広い知識や教養を獲得し、そこから専門的知識を活用した創造性や表現力に富むような内容になっているか、実践的で高度な日本語の運用ができているかという観点から、卒業論文を総合的に判断します。

2022年度 後期

2.0単位

卒業論文指導

東 淳一

<授業の方法>

演習形式（対面授業）。感染症流行状況によってはオンライン（ライブ、オンデマンド両方）になる可能性あり。

<授業の目的>

GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導のもと、自ら設定した研究課題を4年間で修得した幅広い教養と専門的知識で解明し、卒業論文として完成させる。個別指導のもと、課題解明への過程をまとめあげ、卒業論文に結実させる。具体的には、学習者がテーマの選択、先行研究の確認、資料の収集、整理、分析や考察、創造などを自発的に行い、指導教官が研究・論文の内容に直

接かかわるものと、所定の手続きや、決められた書式など、従わなくてはならない決まり、約束事について指導を行う。

この科目は、単位取得必修科目であり、ディプロマポリシーの「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ことを目的とする。

<到達目標>

学生が次のような基準の卒業論文を完成させることを目標とする。

- ・新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容を展開できている。
- ・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べられている。
- ・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べられている。
- ・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約させている。
- ・論文の説明を的確にできている。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるもの。

<授業の進め方>

卒業論文の完成に向けて推敲を重ねる。

<履修するにあたって>

本講義は学習者が主体となって研究を進め・論文を執筆する必要があるため授業外の準備や学習に最低2時間程度必要となる。

<授業時間外に必要な学修>

1時間の授業に対して最低2時間の学修が必要である。

<提出課題など>

各担当者が適宜指示する。 フィードバックは研究室にて行う。

<成績評価方法・基準>

作成している卒業論文の内容（100%）

評価基準：

- ・テーマに新奇性(オリジナリティ)があるか
- ・議論に理論的一貫性があるか
- ・検証・考察が科学的根拠にもとづいて行われているか
- ・文献資料の明示が十分になされているか
- ・研究課題に関して幅広い教養と専門的知識で解明しているか

<テキスト>

授業中にプロジェクトグループごとに指定する予定。

<参考図書>

授業中にプロジェクトグループごとに指定する予定。

<授業計画>

第1回 初稿完成（1）

初稿の構想についての質疑応答（１）。

第2回 初稿完成（２）

初稿執筆および内容についての質疑応答（１）。

第3回 初稿完成（３）

初稿執筆および内容についての質疑応答（２）。

第4回 初稿完成（４）

初稿執筆および内容についての質疑応答（３）

第5回 初稿完成（５）

論文の初稿を提出し形式チェックを行う。

第6回 校正作業（１）

指示された箇所や不備な箇所を加筆・訂正する。

第7回 校正作業（２）

指示された箇所や不備な箇所を加筆・訂正し執筆を継続する。

第8回 校正作業（３）

加筆・訂正した箇所の確認および執筆の継続。

第9回 校正作業（４）

指示された箇所や不備な箇所を加筆・訂正し、論文をまとめる。

第10回 第２稿の完成

論文の第２稿を提出する。

第11回 最終確認（１）

本文の字句のチェックと修正。

第12回 最終確認（２）

引用方法、文献リストのチェック。

第13回 最終確認（３）

各章ごとのレイアウトのチェックと修正。

第14回 最終確認（４）

目次の作成、論文全体のレイアウトのチェックと修正。最終的な加筆・訂正を行う。

第15回 卒論の完成

再度形式チェックを行い、卒業論文を完成する。

2022年度 後期

2.0単位

卒業論文指導

Krieg, Alexander William

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

GC学部における学びの集大成として、担当教員の指導のもと、自ら設定した研究課題を4年間で修得した幅広い教養と専門的知識で解明し、卒業論文として完成させる。個別指導のもと、課題解明への過程をまとめあげ、卒業論文に結実させる。具体的には、学習者がテーマの選択、先行研究の確認、資料の収集、整理、分析や考察、創造などを自発的に行い、指導教官が研究・論文の内容に直接かわるものと、所定の手続きや、決められた書式など、従わなくてはならない決まり、約束事について指導

を行う。

この科目は、単位取得必修科目であり、ディプロマポリシーの「2.他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的とする。

< 到達目標 >

学生が次のような基準の卒業論文を完成させることを目標とする。

- ・新奇性、独自性のある内容で、深い専門知識と実践的な技能を用いて得られた内容であること。
- ・他人の意見と自己の考えを明確に分別し、理論的に自己の考えを述べていること。
- ・客観的かつ論理性に述べられ、科学的裏づけに基づいて述べられていること。
- ・資料の引用等は正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約されていること。
- ・論文の説明を的確にできること。

以上の目標に加え、ディプロマポリシーの要件を満たし、4年間の集大成としての努力がみとめられるもの。

< 授業の進め方 >

卒業論文の完成に向けて推敲を重ねる。

< 履修するにあたって >

本講義は学習者が主体となって研究を進め・論文を執筆する必要があるため授業外の準備や学習に最低2時間程度必要となる。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、論文執筆の文献調査で最低1時間、論説・分析・推敲などにおいても最低1時間以上が必要である。

< 提出課題など >

各担当者が適宜指示する。

< 成績評価方法・基準 >

卒業論文（100％）

評価基準：

- ・テーマに新奇性(オリジナリティ)があるか
- ・議論に理論的一貫性があるか
- ・検証・考察が科学的根拠にもとづいて行われているか
- ・文献資料の明示が十分になされているか
- ・研究課題に関して幅広い教養と専門的知識で解明しているか

< 授業計画 >

- 第1回 初稿完成（１）
初稿の完成に向けた質疑応答。
- 第2回 初稿完成（２）
初稿の完成に向けた質疑応答。
- 第3回 初稿完成（３）
初稿の完成に向けた質疑応答。
- 第4回 初稿完成（４）

初稿の完成に向けた質疑応答。

第5回 初稿完成(5)

論文の初稿を提出し形式チェックを行う。

第6回 校正作業(1)

指示された箇所や不備な箇所を加筆・訂正する。

第7回 校正作業(2)

指示された箇所や不備な箇所を加筆・訂正する。

第8回 校正作業(3)

指示された箇所や不備な箇所を加筆・訂正する。

第9回 校正作業(4)

指示された箇所や不備な箇所を加筆・訂正する。

第10回 第2稿の完成

論文の第2稿を提出する。

第11回 最終確認(1)

第2稿に対して最終的な加筆・訂正を行う。

第12回 最終確認(2)

第2稿に対して最終的な加筆・訂正を行う。

第13回 最終確認(3)

第2稿に対して最終的な加筆・訂正を行う。

第14回 最終確認(4)

第2稿に対して最終的な加筆・訂正を行う。

第15回 卒論の完成

卒業論文の提出と形式チェックを行う。

2022年度 後期

2.0単位

卒業論文指導

大濱 慶子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この授業では、ディプロマポリシーの中でも、特に「3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」に主眼をおいている。

卒業論文指導では、個別指導のもと、課題解明への過程をまとめあげ、卒業論文に結実させます。具体的には、学習者がテーマの選択、先行研究の確認、資料の収集、整理、分析や考察、創造などを自発的に行い、指導教官が研究・論文の内容に直接かわかり、所定の手続きや、決められた書式など、従わなくてはならない決まり、約束事について指導を行います。

卒業研究を書くということは、4年間の大学生活や学習成果の集大成という意味を持ちます。

< 到達目標 >

次のような基準を目標とする。

- ・深い専門知識と中国語力に裏づけられた問題発見能力、分析能力を身につけることができる。
- ・専門的な技能を活用した調査能力を身につけることが

できる。

・客観的かつ科学的根拠に基づいた思考力を身につけることができる。

・資料の引用が正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約させることができる。

・説得力のある主張や自己の考えを論理的に記述する力を養うことができる。

< 授業のキーワード >

卒業論文

< 授業の進め方 >

個々の研究テーマに沿って個別指導を行います。

中間報告の時間も設けます。

< 履修するにあたって >

将来、大学院進学や留学して専門的な研究を目指す学生を対象としています。

指定された期限内に計画的に「卒業論文」を書き上げるという、主体的な研究への熱意が求められます。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、論文執筆の文献調査、論説・分析・推敲などに十分な学習、準備時間が必要となります。

< 提出課題など >

卒業論文執筆の進捗状況を確認する中間発表と成果発表、論文審査を課す予定である。また、そのフィードバックに関しては、授業内や研究室等で随時実施する。

< 成績評価方法・基準 >

卒業論文の取り組み状況、完成度、等を総合的に評価します(100%)

評価基準:

- ・テーマに新奇性(オリジナリティ)があるか
- ・議論に理論的一貫性があるか
- ・検証・考察が科学的根拠にもとづいて行われているか
- ・文献資料の明示が十分になされているか
- ・研究課題に関して幅広い教養と専門的知識で解明しているか

< テキスト >

論文テーマに沿って、授業時に適宜指示します。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

ガイダンス

第2回 卒業論文のテーマの決定

卒業論文のテーマを決定し、章立てを考える。先行研究をリサーチする。

第3回~第6回 研究の展開

テーマに沿った調査とデータの整理。分析結果を表やグラフ、図などを用いてまとめる。

第7回 中間発表

中間発表と質疑応答

第8回~第10回 論文作成

卒論原稿作成(書式・形式・内容)についての個別指導。

第11回、12回 原稿の確認

原稿のチェック。

第13回、第14回 最終確認

原稿の最終確認、卒論提出、口頭試問についての説明

第15回 成果発表、論文審査

完成した卒業論文の内容に関してその成果を発表する。

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

2022年度 前期

2.0単位

卒業論文指導 (前期)

大濱 慶子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この授業では、ディプロマポリシーの中でも、特に「3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」に主眼をおいている。

卒業論文指導では、個別指導のもと、課題解明への過程をまとめあげ、卒業論文に結実させます。具体的には、学習者がテーマの選択、先行研究の確認、資料の収集、整理、分析や考察、創造などを自発的に行い、指導教官が研究・論文の内容に直接かわかり、所定の手続きや、決められた書式など、従わなくてはならない決まり、約束事について指導を行います。

卒業研究を書くということは、4年間の大学生活や学習成果の集大成という意味を持ちます。

< 到達目標 >

次のような基準を目標とする。

・深い専門知識と中国語力に裏づけられた問題発見能力、分析能力を身につけることができる。

・専門的な技能を活用した調査能力を身につけることができる。

・客観的かつ科学的根拠に基づいた思考力を身につけることができる。

・資料の引用が正確、かつ的確になされ、知識を十分に集約させることができる。

・説得力のある主張や自己の考えを論理的に記述する力を養うことができる。

< 授業のキーワード >

卒業論文

< 授業の進め方 >

個々の研究テーマに沿って個別指導を行います。

中間報告の時間も設けます。

< 履修するにあたって >

将来、大学院進学や留学して専門的な研究を目指す学生を対象としています。

指定された期限内に計画的に「卒業論文」を書き上げるという、主体的な研究への熱意が求められます。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、論文執筆の文献調査、論説・分析・推敲などに十分な学習、準備時間が必要となります。

< 提出課題など >

卒業論文執筆の進捗状況を確認する中間発表と成果発表、論文審査を課す予定である。また、そのフィードバックに関しては、授業内や研究室等で随時実施する。

< 成績評価方法・基準 >

卒業論文の取り組み状況、完成度,等を総合的に評価します(100%)

評価基準:

- ・テーマに新奇性(オリジナリティ)があるか
- ・議論に理論的一貫性があるか
- ・検証・考察が科学的根拠にもとづいて行われているか
- ・文献資料の明示が十分になされているか
- ・研究課題に関して幅広い教養と専門的知識で解明しているか

< テキスト >

論文テーマに沿って、授業時に適宜指示します。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

ガイダンス

第2回 卒業論文のテーマの決定

卒業論文のテーマを決定し、章立てを考える。先行研究をリサーチする。

第3回~第6回 研究の展開

テーマに沿った調査とデータの整理。分析結果を表やグラフ、図などを用いてまとめる。

第7回 中間発表

中間発表と質疑応答

第8回~第10回 論文作成

卒論原稿作成(書式・形式・内容)についての個別指導。

第11回、12回 原稿の確認

原稿のチェック。

第13回、第14回 最終確認

原稿の最終確認、卒論提出、口頭試問についての説明

第15回 成果発表、論文審査

完成した卒業論文の内容に関してその成果を発表する。

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

2022年度 後期

2.0単位

卒業論文指導

香月 裕介

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目はディプロマポリシーの「実践的で高度な外国語の運用ができる」ということを、卒業論文を執筆することによって実現することを目的としています。

< 到達目標 >

日本語で卒業論文を作成することができる。

< 授業の進め方 >

演習形式で進めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間だけでは卒業論文は作成できませんので、授業外の時間を利用して、情報収集や整理、執筆を行ってください。

< 成績評価方法・基準 >

先行研究の参照、取り込み、論述方法、卒業論文としての完成度等を踏まえ、総合的に評価します。

< 授業計画 >

第1回 論文執筆の準備。

章立てを検討する。各章の概要をまとめる。

第2回 論文執筆の準備。

章立てを検討し、各章の概要をまとめる。

第3回 論文執筆の準備。

収集したデータをグラフや表に示す。1回目

第4回 論文執筆の準備。

収集したデータをグラフや表に示す。2回目

第5回 論文執筆の準備。

収集したデータをグラフや表に示す。3回目

第6回 論文執筆の準備。

グラフや表を読み記述する。1回目

第7回 論文執筆の準備。

グラフや表を読み記述する。2回目

第8回 論文執筆の準備。

グラフや表を読み記述する。3回目

第9回 論文執筆の準備。

先行研究から引用する部分を抽出しデータ化する。1回目

第10回 論文執筆の準備。

先行研究から引用する部分を抽出しデータ化する。2回目

第11回 論文執筆の準備。

先行研究から引用する部分を抽出しデータ化する。3回目

第12回 論文を執筆する。

論述できる章から執筆を始める。

第13回 論文を執筆する。

論述を進める。

第14回 論文を執筆する。

論述をまとめる。

第15回 論文を執筆する。

論述の整合性、論旨の一貫性などをチェックする。

2022年度 前期

2.0単位

地域文化理解

為村 啓二

< 授業の方法 >

パワーポイントを使った講義形式で授業を進める。

毎回の授業の終わりに、理解度を把握するために小レポートを課す。

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて 授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

< 授業の目的 >

本講義科目は、ディプロマポリシーの中でも「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的としている。また、「地域文化理解」では英語圏以外のアフリカ、南アメリカなどの文化など様々側面を学ぶ事により、異文化間コミュニケーションに必要な基礎知識を提供する事を目的とする。人類発祥の地アフリカの歴史的にや、その後ヨーロッパ文化との交流、植民地政策による他国への文化的影響などを理解する事により異文化のコミュニケーションを円滑にする。

< 到達目標 >

1) 主に英語圏以外の文化を理解するための基本的な歴史的背景を理解することが出来るようにする。

2) 英語圏以外の文化、宗教、政治を通じて現代社会への理解を深め、異文化理解のアプローチが出来るようになる。

3) 異質な文化を深く理解することにより、コミュニケーションに必要な寛容力と対応力を身につける事が出来る。

< 授業のキーワード >

アフリカ文化圏、帝国主義、植民地政策、インカ帝国、ヨーロッパ文化圏

< 授業の進め方 >

インタラクティブな講義形式の授業を行います。その為

には予習・復習は勿論の事、自身の考えをまとめ発表する事が必要とされます。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で学習した内容を必ず1時間ほど復習して下さい。また、課題を出した際には必ず予習として事前学習が必要となります。

< 成績評価方法・基準 >

授業への積極的参加や取り組み、提出課題などを総合して評価します。

授業への参加、課題、感想など60% レポート 40%
< テキスト >

授業中に適宜指示します。講義はパワーポイントを使用。

< 参考図書 >

新・現代アメリカ入門 勝俣 誠著

アフリカ・レポート 松本 仁一著

日本人のためのアフリカ入門 白戸 圭一著

アフリカ 諸本主義のフロンティア NHK

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

イントロダクション、講義内容、講義方法、目標設定。

第2回 アフリカ大陸

人類の起源と言われるアフリカ大陸を正しく理解するためにその歴史と文化について触れ、政治、経済も合わせて学習する。北アフリカ、中部アフリカの諸国。

第3回 アフリカ大陸

中部、東、南部アフリカ諸国の文化、遺産ならびに現在の産業などを検証する。

第4回 南アメリカ大陸

スペイン、ポルトガルを始めとしてイギリス、フランスなどの植民地となった南アメリカ諸国にはかつて高度な文明が発展していた。インカ帝国を中心としてアンデス文明を学習する。

第5回 南アメリカ大陸

BRICsのブラジルを始めこれから経済成長が見込まれる多くの諸国が存在している。それぞれの国の特徴と文化的遺産、観光名所ならびに国が抱える諸問題について学習する。

第6回 中央アメリカ諸国

先コロンブス時代のマヤ文明を始め中央アメリカには古くから文明が発達していた。メキシコを含む中央アメリカの歴史と文化、現在の社会、経済を詳しく検証する。

第7回 南ヨーロッパ諸国

国際連合によるヨーロッパの地域区分の南ヨーロッパに属する諸国

スペイン、ポルトガル、サンマリノ、イタリア、バチカン市国、マルタ、ギリシアなどを

文化的、民族的に検証するとともに現在の文化、遺産を詳しく調べる。

第8回 バルカン諸国

アルバニア、ギリシャ、クロアチア、コソボ、マケドニ

ア、セルビア、モンテネグロ、ブルガリア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、およびトルコのバルカン諸国を詳しく学習する。

この地域はヨーロッパの中では観光名所としてはメジャーではないが魅力溢れる街が多く点在する。この地域の魅力について歴史とともに検証する。

第9回 中央ヨーロッパ

二大政党制が政治システムの中でどのような役割を果たしてきたのか、また議会政治が民主化につながった過程を観察する。

第10回 西ヨーロッパ諸国

ヨーロッパの中心的役割を果たしてきたこの地域の国々は歴史の中で多くの争いを演じてきた。二つの大戦を経てこれらの諸国がヨーロッパの中で進むべき道は何だろうか。また、多くの世界遺産を有した国々の観光名所も同時に検証する。

第11回 北ヨーロッパ諸国

主としてノルマン人が建国した北ヨーロッパ、スカンジナビア半島とバルト海沿岸地方の国々は歴史上大国が存在していた。北ヨーロッパ独特の風土の中、教育程度、社会福祉などが進んでいる。これらを支えるのはどのような社会制度であろうか。

第12回 東ヨーロッパ諸国

大国ロシア(ソ連)と西ヨーロッパ諸国に挟まれたこの地域は歴史の中で多くの犠牲をともなった。また、スラブ特有の文化を有するこの地域の文化と歴史を検証する。

第13回 「不法移民」問題とヨーロッパ社会のジレンマ

シリアを始め多くの難民問題を抱えたEU諸国。これらの諸問題を抱えながらEU内ではポピュリズム、EU離脱問題で揺れている。これからどのようにこれらの問題に対処して行くべきかを考察する。

第14回 EU その理想と現実

ジョン・ブルとはいかなるものか、その擬人化された国家像を多方面から検証する。また、イギリス発の庶民文化などを幅広く研究する。

第15回 総括

世界の非英語圏の成り立ち、社会、経済、文化を総合的に分析し新しい時代のこれらの地域がどのように我々と関わって行くかを考察する。

2022年度 後期

2.0単位

地域文化理解

為村 啓二

< 授業の方法 >

パワーポイントを使った講義形式で授業を進める。毎回の授業の終わりに、

理解度を把握するために小レポートを課す。

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて 授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

< 授業の目的 >

本講義科目は、ディプロマポリシーの中でも「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的としている。また、「地域文化理解」ではアジア圏の文化など様々な側面を学ぶ事により、異文化間コミュニケーションに必要な基礎知識を提供する事を目指す。また、この講義では異文化を学習すると同時に日本の文化を理解することにより、異文化理解をより深めることを目的としている。異文化を理解するためには自国の文化をその対比によって理解する方法がより効果的である。また、欧米中心の文化を学ぶ機会が多いがそれ以外の文化を日本文化と比較し、歴史的に異文化文化交流を理解する事である。

なお、この授業の担当者は、外資系航空会社で営業、マーケティング業務を30年以上経験している、実務経験のある教員であるので、より実践的な観点からアジアの現状などを詳しく解説出来る。

< 到達目標 >

- 1) 日本の文化の成り立ち、外国からの影響を歴史的に観察し異文化の中の日本文化を理解出来るようになる。
- 2) アジアの文化を理解するための基本的な歴史的背景を理解することが出来るようになる。
- 3) アジア諸国の文化、宗教、政治を通じて異文化社会への理解を深め、異文化理解のアプローチが出来るようになる。
- 4) 異質な文化を深く理解することにより、コミュニケーションに必要な寛容力と対応力を身につけることが出来る。

< 授業のキーワード >

異文化理解 アジア 植民地政策 帝国主義 世界文化遺産 宗教

< 授業の進め方 >

インタラクティブな講義形式の授業を行います。その為には予習・復習は勿論の事、自身の考えをまとめ発表する事が必要とされます。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で学習した内容を必ず1時間ほど復習して下さい。また、課題を出した際には必ず予習として事前学習が必要となります。

< 成績評価方法・基準 >

授業への積極的参加や取り組み、提出課題などを総合して評価します。

授業での参加、毎回出席カードへの感想など60% レ

ポート試験 40%

最終授業日にレポート試験を実施する。

< テキスト >

授業中に適宜指示します。講義はパワーポイントを使用。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

イントロダクション、講義内容、講義方法、目標設定。

第2回 日本の成り立ち

日本国の成り立ち、地政学上の特徴、気候による影響、民族、文化交流などを歴史的に分析し今日の日本の姿を浮き彫りにする。また、諸外国のとの交流の歴史、その後の影響についても検証する。

第3回 近代化日本への道のり

明治維新を迎えた日本は一気に近代化へ進んでいった。その間多くの先進国との交流により多くのものを学び、独自に発展させていった歴史を振り返る。西洋諸国との交流は近代日本には欠かすことが出来なかった大きな転換期でもあった。この時代に大きな影響を受けた西洋文化について考察を行う。

第4回 日本人と宗教 神道、仏教と儒教

多くの文化の伝承とともに宗教が主に中国より伝えられ、日本独自の神道と如何に両立していったのか。また、古代中国の儒教の教えが日本で独自の成長を遂げた。独自の日本文化を作り上げた背景を宗教の歴史と共に検証してゆく。

第5回 東南アジアの特徴

東南アジアの生活文化様式、民族、宗教などを検証する。海上貿易により諸外国の文明の影響を強く受けた。

第6回 東南アジアの国家の歴史

海のシクルロードと言われる東南アジアではそれぞれの交易の中で多様化した文化が生まれる。

第7回 交易の時代 繁栄と諸外国の影響

航海技術の発達により東南アジア域内だけではなく、中近東、ヨーロッパ諸国との交易が始まり繁栄の時期を迎える。

第8回 18 - 19世紀の東南アジア国家の成立

海上交易で繁栄した東南アジアの諸国は陸上を中心に様々な王朝が生まれ、新たな時代を迎える。

第9回 ヨーロッパ諸国の植民地支配と経済再編成

帝国主義下の時代の植民地としてそれぞれ国家が形成され、本格的に支配を受ける。イギリス帝国の覇権の下、輸出供給源の役割を演じる。

第10回 アジア・太平洋地域文化

アジア・太平洋地域の文化は時代の流れの中で他国の影響を受けながら今日の姿となっている。多くの国家、民族、宗教が混ざり合い複雑な関係にある。また、今日では世界で最も経済的に発展を続けている地域でもある。同地域の文化を知ることにより、今後この地域がどのような役割を果たすかの考察する。

第11回 アジアの中の日本 アジア諸国との交流の歴史

戦前日本が唱えた「大東亜共栄圏」構想の下、日本が占領したアジア諸国。文化的にも大きな影響をアジア諸国に与えた。また、戦後日本は経済協力、援助を中心に多くの関わりを同地域に持ち続けている。アジアの先進国として、今後これら地域との関係はますます重要になってくる。日本にとってのアジア諸国の重要性に考察を加える。

第12回 アジアの国家と宗教

交易の中継地点として発達したアジアの諸国は様々な宗教が存在し、特色ある文化を形成している。

第13回 アジアの文化的遺産1

中近東・東アジア・南アジアにある世界文化遺産を解説する。

第14回 アジアの文化的遺産2

東南アジア・東アジアの世界文化遺産を学ぶ。

第15回 総括

グローバル化が進む中、文化、宗教、言語が異なる様々な国々との交流の機会は今後益々増大し異文化への理解とその対応が必要となる。世界中の異文化の存在を認識し、その違いの本質を理解することが重要である。日本人として如何に異文化と接すれば良いかを考察する。

2022年度 前期

2.0単位

地域文化理解

為村 啓二

< 授業の方法 >

パワーポイントを使った講義形式で授業を進める。
毎回の授業の終わりに、理解度を把握するために小レポートを課す。

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて 授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

< 授業の目的 >

本講義科目は、ディプロマポリシーの中でも「3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的としている。また、「地域文化理解」では英語圏の文化など様々側面を学ぶ事により、異文化間コミュニケーションに必要な基礎知識を提供する事を目的とする。英語発祥の地イギリスの成り立ちを歴史的に検証し、その後ヨーロッパ文化との交流、植民地政策による

他国への文化的影響などを理解する事により英語でのコミュニケーションを円滑にする。

なお、この授業の担当者は、外資系航空会社で営業、マーケティング業務を30年以上経験している、実務経験のある教員であるので、より実践的な観点からイギリスの歴史・社会・文化を解説出来る。

< 到達目標 >

1) 英語圏文化を理解するための基本的な歴史的背景を理解することが出来るようにする。

2) 英国文化、宗教、政治を通じて英国社会への理解を深め、異文化理解のアプローチが出来るようになる。

3) 異質な文化を深く理解することにより、コミュニケーションに必要な寛容力と対応力を身につけることが出来る。

< 授業のキーワード >

英語圏文化 英国史 英国人 英国王室

< 授業の進め方 >

インタラクティブな講義形式の授業を行います。その為には予習・復習は勿論の事、自身の考えをまとめ発表する事が必要とされます。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で学習した内容を必ず1時間ほど復習して下さい。また、課題を出した際には必ず予習として事前学習が必要となります。

< 成績評価方法・基準 >

授業への積極的参加や取り組み、提出課題などを総合して評価します。

授業への参加、課題、感想など60% レポート 40%

< テキスト >

授業中に適宜指示します。講義はパワーポイントを使用。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

イントロダクション、講義内容、講義方法、目標設定。

第2回 イギリス誕生の歴史

イギリス先住民ケルト人の「ケルト文化」、ローマ帝国、大陸より渡ってきたアングロ・サクソン人のなど様々な民族、文化に影響を受けたイギリスの歴史を学ぶ。

第3回 イギリス中世・現代史

イギリス帝国誕生の歴史と世界の四分の一を支配したこの帝国が世界に及ぼした影響力を検証する。また帝国樹立から衰退に至る歴史の中からイギリスが世界に残した足跡を分析する。

第4回 イギリス文化（文学・芸能）

イギリス文学がそれぞれの時代で生まれた背景とそれらの文学・芸能が今日に与えた影響を検証する。シェイクスピアをはじめイギリス文学を代表する作品を紹介し、解説する。

第5回 イギリス文化（芸術・音楽）

イギリスの芸術、音楽はヨーロッパ諸国とは違った道を歩んでいる。イギリスの芸術の原点は何なのか、その特

徴と世界観を感じ取る。

第6回 イギリス王室の歴史1

約1000年の歴史を有するイギリス王室は日本の皇室とは異なる継承を続けてきた。歴史の中でイギリス王室が如何に生まれ受け継がれたのか、またそれぞれの時代の王室が果たした役割を検証する。この回では1066年誕生から薔薇戦争終結ののち誕生したチューダー王朝までの歴史を学ぶ。また、イギリス国教、清教徒革命に至る背景とそれらが及ぼした影響をも合わせて検証する。

第7回 イギリス王室の歴史2

スコットランド王ジェームズ6世がイングランド王として即位した後、ピューリタン革命により波乱の王室の歴史が始まる。その後イギリス植民地政策、産業革命と新たな時代に王室はどのような役割果たしたかを検証する。

第8回 イギリスの政治 中世

中世における議会の役割は国王に助言を与える機関であったが、その後その形を時代とともに変えてゆく。また現代の二院制の原点は庶民と貴族にある。議会が中世社会にいかなる役割をなしてきたのか、近代の政治の原点を考察する。

第9回 イギリスの政治 近代

二大政党制が政治システムの中でどのような役割を果たしてきたのか、また議会政治が民主化につながった過程を観察する。

第10回 イギリスの教育制度

宗教、社会階層、階級等に深い繋がりがあるイギリス教育制度の歴史と現在の制度改革後の教育について学ぶ。大学が如何に教育、研究機関としての質を維持し、世界に門戸を開いているかの現状についても検証する。

第11回 イギリスの外交

イギリスが世界帝国を築き上げた背景には資源に恵まれずヨーロッパ大陸から隔離された島国であったことが考えられる。帝国が世界に対して影響力を持ち続けることが出来た背景にはイギリス外交戦略がその大きな役割を果たしたと考えられる。イギリス外交史を学ぶことによりイギリスの本質を理解することが出来る。

第12回 イギリスとヨーロッパ諸国

2016年国民投票の結果、EUからの離脱を宣言した。第二次世界大戦後進めてきた欧州統合の一大プロジェクトの転換期を迎える事となった。離脱に至った背景とこれからのイギリスならびに欧州各国との関係について考察する。

第13回 イギリスとアメリカ

世界の超大国アメリカの誕生にはイギリスからの「プリグリムファーザーズ」、その後のイギリスなどの植民地政策が大きく関わっている。この回ではイギリスがアメリカ建国にどのように関わったのかを検証するとともに、現在の両国の関係性について考察を加える。

第14回 イギリス人気質とサブカルチャー

ジョン・ブルとはいかなるものか、その擬人化された国家像を多方面から検証する。また、イギリス発の庶民文化などを幅広く研究する。

第15回 イギリス 展望と課題

イギリスの地勢学的見地から生まれた多くの思想、政治哲学、文化、言語、体制を総合的に評価して、現在のイギリスが抱える課題と将来への展望を検証する。

2022年度 後期

2.0単位

地域文化理解

為村 啓二

<授業の方法>

パワーポイントを使った講義形式で授業を進める。毎回の授業の終わりに、理解度を把握するために小レポートを課す。

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて 授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

<授業の目的>

本講義科目は、ディプロマポリシーの中でも「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的としている。また、「地域文化理解」では英語圏の文化など様々な側面を学ぶ事により、異文化間コミュニケーションに必要な基礎知識を提供する事を目指す。江戸時代開国を迫ったアメリカと文化交流が始まり、戦後特にアメリカ文化に大きく影響を受けた日本。そのアメリカ文化の原点を分析する事によりアメリカの本質を理解し円滑なコミュニケーションを目指す。

なお、この授業の担当者は、外資系航空会社で営業、マーケティング業務を30年以上経験している、実務経験のある教員であるので、より実践的な観点からアメリカ社会の現状や経済的側面からを解説出来る。

<到達目標>

1) 英語圏文化を理解するための基本的な歴史的背景を理解することが出来るようにする。

2) 米国文化、宗教、政治を通じて米国社会への理解を深め、異文化理解のアプローチが出来るようになる。

3) 異質な文化を深く理解することにより、コミュニケーションに必要な寛容力と対応力を身につけることが出来る。

<授業のキーワード>

清教徒 北米文化 英語圏歴史 宗教 政治

< 授業の進め方 >

インタラクティブな講義形式の授業を行います。その為には予習・復習は勿論の事、自身の考えをまとめ発表する事が必要とされます。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で学習した内容を必ず1時間ほど復習して下さい。また、課題を出した際には必ず予習として事前学習が必要となります。

< 成績評価方法・基準 >

授業への積極的参加や取り組み、提出課題などを総合して評価します。

授業での参加、毎回出席カードへの感想など60% レポート試験 40%

期末テストは行いませんが、最終授業日にレポート試験を実施する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

イントロダクション、講義内容、講義方法、目標設定。

第2回 アメリカ合衆国の歴史1

イギリスから入植した清教徒達がアメリカ合衆国を建国し、その後如何に大国への道を開いたかを検証する。

第3回 アメリカ合衆国の歴史2

20世紀を迎えたアメリカは徐々に世界との関わりを強めて、超大国への道を歩んでゆく。その背景にある、民族と宗教、その複雑な環境を生んだ移民の国アメリカが抱える問題を彼らが唱える理念とともに検証してゆく。

第4回 現代のアメリカの姿

アメリカの国土、風土、自然環境、経済力、交通網などアメリカ合衆国の国力を検証する。

第5回 アメリカ文学と芸術

アメリカ文学は独立以前の植民地時代に始まり、多くの著名な作家が生まれた。この授業ではそれぞれの時代の代表作を検証し、文学を通じて宗教、人種、社会問題などの問題を考察する。

第6回 アメリカ音楽と映画

アメリカが生んだ多様な音楽は移民、奴隷などから大きく影響を受けている。カントリー、ジャズ、ゴスペルなど幅広い音楽は世界に発信を続けている。また、映画の世界で「ハリウッド」が代表する一大映画大国へと成長した。これらの音楽、映画文化が「エンタテインメント産業」として世界にどのように影響し、アメリカに何をもたらしたのかを検証する。

第7回 アメリカの宗教と民族

イギリスより大陸に渡ったプロテスタントが合衆国建国の基礎を築いたが、多民族国家であるアメリカには多くの宗教が存在している。アイルランド、イタリア移民のカトリック教、ユダヤ人のユダヤ教、その他イスラム、仏教、ヒンドゥーなど多種多様である。アメリカの人種問題とともに宗教が与える影響について考察する。

第8回 アメリカのスポーツ

近代スポーツの多くはイギリスで誕生したが、その後アメリカでは野球、バスケットボール、アメリカン・フットボールなど独自のスポーツが発展した。また、プロスポーツとしてゴルフ、アイスホッケー、テニスなどアメリカではこれらのスポーツが盛んである。アメリカにおけるスポーツの歴史とスポーツビジネスなどを学ぶ。

第9回 アメリカの政治、大統領制

アメリカの大統領選は世界の注目を集め、その動向が世界の政治・経済に多大な影響を与えている。大統領を頂点としたアメリカの政治の構造を分析し、その特徴を明らかにする。

第10回 ウォールストリート 経済大国への道

アメリカ経済の中心、ニューヨーク・ウォール街。今や世界一の国際金融市場の主導権を握っている。アメリカの持つ経済的影響力とその力の本質を分析する。またアメリカの主要産業であるIT分野の現状とその将来を検証する。

第11回 アメリカ人とは アメリカ人氣質

建国精神、宗教、風土などの歴史の中で培われたアメリカ人を多方面より分析することにより、アメリカ人とは、アメリカ人氣質を分析する。

第12回 アメリカの教育制度

独立当時はイギリスの影響を受けていたが、時代とともに独自の発展を遂げてきたアメリカの教育制度。今日ではあらゆる分野で世界最高峰の教育を提供しているアメリカの教育制度の実態を検証する。

第13回 アメリカ映像文化とメディア

アメリカを代表する産業となった映画界。ハリウッド映画界を作り上げた栄光の歴史を紐解くとともに政治、社会、宗教、人種問題を取り上げる映画が持つ力とその魅力を掘り下げる。また、アメリカのメディア産業は世界に情報を発信し、その影響力は計り知れない。これら一大産業の現状とその課題に考察を加える。

第14回 アメリカの光と影 差別、犯罪、銃規制

アメリカ社会が抱える社会問題。その歴史は大陸に移住した頃に端を発する。アメリカが抱える現代社会の諸問題を歴史とともに理解する。

第15回 世界の中のアメリカ これから進むべき道

栄光と挫折、希望と失望、人種と宗教、先住民と移民、貧困と大富豪 あらゆる側面を同時に持ち合わせた巨大国家アメリカがこれから進んで行く道には様々な試練が待ち構える。アメリカのリーダー達はこの局面に対して打開策を打ち出せるのだろうか。

2022年度 後期
2.0単位
中国の古典と伝統
胡 土雲

< 授業の方法 >

講義、実技

< 授業の目的 >

この科目は、G C 学部の D P に示す、実践的で高度な外国語の運用ができることを目指す。

この科目は中国語コース講義（選択）科目に位置付けられる。授業は、中国の古典の基礎知識を学び、中国語で古典を読み、中国の伝統文化を理解し、現代中国と現代中国語を深く理解できることを最も重要な目的とする。

< 到達目標 >

1) 中国の古典の基礎知識を知り、中国語で古典を読むことができる。（知識・技能）

2) 古典を通して、中国の伝統文化を理解できる。（態度・習慣）

3) 古典と現代中国語との関係を深く理解することができる。（態度・習慣）

< 授業のキーワード >

伝統文化、中国語の古典、中国語の過去と現在

< 授業の進め方 >

1) 中国古典に関する知識を説明し、中国でよく知られている漢文を読む。

2) 古典を通して、中国伝統文化を説明する。

< 履修するにあたって >

1) 既習した古典を復習し、古典と現代語との異同を常に注意すること。

2) 初級レベル以上の中国語能力を持つこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画の各回で指示された内容を繰り返し練習すること。

事前学習として、授業の対象となる教科書の箇所を読み込んでおくこと。（1時間程度）

事後学習として、授業内容を再確認し、また、高校時代に学習した漢文を復習すること。（1時間程度）

< 提出課題など >

毎回の授業終了時に受講カードを提出する。提出された受講カードは次の授業でコメント、解説を行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業の取り組み状況60%、期末試験40%

< テキスト >

自主教材

授業中に配布する

< 授業計画 >

第1回 中国の古典について（1）

中国の古典について

第2回 中国の古典について（2）

現代中国語と古代中国語の異同について（1）

第3回 中国の古典について（3）

現代中国語と古代中国語の異同について（2）

第4回 中国の古典について（4）

古典を読む（1）：詩経

第5回 中国の古典について（5）

古典を読む（2）：老子と莊子

第6回 中国の古典について（6）

古典を読む（3）：論語

第7回 中国の古典について（7）

古典を読む（4）：春秋左氏伝

第8回 中国の古典について（8）

古典を読む（5）：孟子

第9回 中国の古典について（9）

古典を読む（6）：戦国策

第10回 中国の古典について（10）

古典を読む（7）：史記

第11回 中国の古典について（11）

古典を読む（8）：建安文学

第12回 中国の古典について（12）

古典を読む（9）：唐詩

第13回 中国の古典について（13）

古典を読む（10）：宋詞

第14回 中国の古典について（14）

古典を読む（11）：三国演義（1）

第15回 中国の古典について（15）

古典を読む（12）：三国演義（2）

2022年度 後期

2.0単位

中国の社会と教育

大濱 慶子

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業は、学部のDPに掲げる言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることを目的とする。

3年生前期の留学を経て、中国の大学生の学習意欲、外国語運用能力に驚いたという感想が寄せられています。中国の大学生たちはいったいどのような教育を受けてきたのか？彼らは何をめざしているのか？日本の大学生とどのように違うのか？留学ブーム、日本観光ブームの背景にあるものは？このような素朴な疑問から出発し、中国の深層の諸事象を明らかにしていきたいと思えます。日中英の教育を比較し、グローバル時代にふさわしい多文化教育のあり方について考えます。

また大国化する中国の実像に迫ることを目的とし、政治、

経済、社会、文化、ツーリズム、ジェンダー、都市と農村、若者文化、日中の国民意識など身近でタイムリーなトピックやデータを取り上げ、現代中国と教育の諸問題について探究します。

<到達目標>

21世紀の中国の現況やグローバル化と中国社会の趨勢について考察し、自分の言葉で説明することができる。

現代中国社会や教育の問題について、多角的な視座から考察することができる。

中国、イギリス、日本の教育を比較し、それぞれの特徴や課題を探究し、グローバル化時代にふさわしい教育とはどのようなものか、自分の考えを述べることができる。中国現代社会の直面する諸問題についての洞察力や問題発見力を身につけ、広く自分にもつながっている事象としてとらえることができる。

<授業のキーワード>

現代中国社会と教育 日中英の教育比較 グローバル化と留学教育 若者文化

<授業の進め方>

毎回の講義で、受講生が身近に感じるトピックを一つ設定し、問いかけながら、知識を広げ、時にグループワークやディスカッションを取り入れ、進めていく予定です。BBCが作成した映像教材を視聴し、中国語圏や英語圏の日本紹介雑誌、メディア、SNSをグループでリサーチし、発表する機会を設けます。

各回で紹介する情報やデータ、映像は最新のものを使用し、PPTや配布資料で知識の定着をはかると同時に、統計データや図表を解説したり、分析したりする力を身につけてもらいます。

<履修するにあたって>

他コースからの受講も歓迎します。楽しく議論しましょう。

各回の授業内容をシラバスに明示しています。充実した時間になるよう、受講生は事前に授業内容を確認し関連の図書を読んで調べ、準備をしてください。

レポートと課題の使用言語は日本語もしくは中国語とします。

<授業時間外に必要な学修>

授業に関連する文献を読み、図書館などで調べ、1時間程度予習・復習をすること。

<提出課題など>

授業時、コメントやミニレポートを複数回課します。書かれた内容について次の授業の時に講述します。

中間レポートと学期末論文を提出してもらいます。レポートや期末論文は提出締め切り後、研究室にて総評を行います。

<成績評価方法・基準>

授業への取組状況（授業時のコメントシート提出、発表を含む）55%

中間ミニレポート 15%

学期末論文 30%

<テキスト>

担当教員が適宜指示します。毎回の授業時に講義のレジュメを配布します。

<参考図書>

大塚豊訳、ロバート・F・アーノブ他『21世紀の比較教育学 グローバルとローカルの弁証法』福村出版 2014年

<授業計画>

第1回 ガイダンス zoomによるリアルタイム授業

21世紀の中国というフィールド 本講義で求める知識

第2回 グローバル化と「一帯一路」政策と「中国の夢」

21世紀中国で何が起きているのか、習近平政権の掲げるスローガン、アジア・ヨーロッパを結ぶ「一帯一路」について（「シルクロード経済ベルト」と「21世紀海上シルクロード」など）、中国の政治経済構想から現代中国社会、米中関係や世界とのつながりについて理解する。

第3回 加熱する「高考」から読み解く現代中国の社会問題

グローバル化と格差拡大の中で最も平等を保障するといわれている「高考」（大学統一入学試験）、その実態とは？格差社会の熾烈な競争を生き抜く中国の若者に焦点を当てる。

第4回 グローバル化の中の中国の大学と留学教育

高等教育のボーダレス時代、どこの国に留学に行くのが理想？最新の「世界大学ランキング」を読み解き、留学教育について考える。

第5回 中国の初等・中等教育と日本を比較してみよう
小学校で覚える漢字の数はいくつ？小学生の「奥数」ブームとは？中国の高校生の一日のスケジュールは？近年中国の高校に増設される「国際部」とは？日本とは異なる中国の教育の事象や疑問を解き明かします。

第6回 中国とイギリス、日本の教育を比較しよう（1）

話題作BBC制作「中国式教育の導入実験」（1巻）を視聴し、日中英の教育を比較し、それぞれの特徴や課題について考える。

第7回 中国とイギリス、日本の教育を比較しよう（2）
話題作BBC制作「中国式教育の導入実験」（2巻）を視聴し、日中英の教育を比較し、それぞれの特徴や課題について考える。

第8回 中国とイギリス、日本の教育を比較しよう（3）
話題作BBC制作「中国式教育の導入実験」（3巻）を視聴し、日中英の教育を比較し、それぞれの特徴や課題について考える。 中間レポート提出

第9回 変わり始めた中国の対日観

中国人の爆買いブームが収束し、日本観光ブームへ。2017年「中国人が行きたい国1位」に日本が選ばれた。コロナ禍でどう変わったのか？最新の「日中世論調査」が

ら対日観、対中観の変化を読み解きます。

第10回 若者に広がる「知日」ブームについて考える(1)

日本が好きな中国の若者急増中、その理由は？日本のどこに魅力を感じるのか？中国で人気急上昇中の『知日』雑誌についてグループワークを通じて分析。

第11回 若者に広がる「知日」ブームについて考える(2)

日本が好きな海外の若者急増中、その理由は？日本のどこに魅力を感じるのか？中国語圏、英語圏の新聞雑誌メディア、SNSをリサーチ。

第12回 若者に広がる「知日」ブームについて考える(3)

分析結果の発表。

第13回 映画やドラマからみる中国の恋愛観、結婚観
現代中国の若者の結婚観や結婚観について、中国の現代ドラマや映画を通して解説します。

第14回 「二人っ子政策」の行方

中国は35年間持続させてきた「一人っ子政策」を廃止。その背景として日本と同様の高齢化社会問題があります。社会システムを転換させる「二人っ子政策」の行方、ジェンダー問題について考えます。

第15回 総括

授業の振り返りを行う 学期末論文提出

2022年度 前期

2.0単位

中国の政治

団 陽子

< 授業の方法 >

講義 (対面授業)

< 授業の目的 >

この授業は、GD学部のDPIにある言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などの幅広い知識や教養を身に付けることを目的とし、また、この目的の到達を通じて、思考力や判断力を養うことで、学部DPの一つである他者と協働、協調できるコミュニケーション力を持つことも期待できる。

中国は急速な経済成長を実現し「世界の工場」から「世界の市場」へと変容しました。世界経済を牽引するその経済力を背景に、中国は国際社会での発言力や影響力を強めてきました。それに伴い、中国をめぐる様々な問題に世界の関心が集まっています。日本でも新聞、ネット、テレビなどの様々なメディアにおいて、中国に関連する問題が頻繁に取り上げられています。授業では、中国に関連する問題の「なぜ」を取り上げ、それらの問題となる背景を中国の政治・外交の歴史から考えていきます。なお、この授業の担当者は、中国での勤務や日本の大学

での国際教育関連業務を経験している、実務経験のある教員です。講義では実際の経験を交えながら、受講生の理解を深める授業を行います。

< 到達目標 >

1) 中国をめぐる諸問題について、多角的な視点から考察し、それらの問題について自分の言葉で意見を述べる事ができる。

2) グローバル化による各国の相互依存性を理解し、隣国である中国に関わる問題についても広く自分にかかわる問題として捉えることができる。

3) 中国の政治・外交の歴史を学ぶことで、中国をめぐる諸問題について中国側の立場に即して理解し、その上で、自分の考えをもってそれらの問題をより客観的に分析することができる。

< 授業のキーワード >

中国政治、中国外交、日中関係、米中関係

< 授業の進め方 >

今日の中国をめぐる諸問題を理解するためには、近年の中国の政治・外交だけではなく、中華人民共和国成立以前にさかのぼり、近現代中国の政治・外交を通史的に把握することが必要です。授業では、受講生が疑問に感じる「中国のなぜ」を取り上げ、中国をめぐる諸問題を身近な問題として捉えられるようわかりやすく講義を進めていきます。PPTや配布資料の他、映像、画像、図表を用いて知識と理解の定着をはかります。

< 履修するにあたって >

受講生は今後、海外留学や就職などで中国と何らかのかかわりを持つことでしょうか。時には、歴史認識や価値観の違いなどからくる難しい問題にも直面することもあるかと思えます。中国の政治や歴史について理解し、自ら考えることを通じて、よりよいコミュニケーション力を養いましょう。

< 授業時間外に必要な学修 >

中国に関連する新聞記事を読むよう心がけること。授業に関連する文献を読み、配布したレジュメと講義の内容を復習すること。目安として1時間程度の予習・復習を行うこと。

< 提出課題など >

授業後にコメントシートを提出してもらいます。書かれた内容について、次の授業時に講評や説明を行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業への取組状況(コメントシート提出) : 45%

中間レポート : 20%

期末レポート : 35%

試験として、中間・期末レポートがありますが、必ず両方を受けてください。片方だけではその他の成績が合格ラインに達していても、不可になります。

<テキスト>

担当教員が適宜指示します。授業毎に講義のレジユメを配布します。

<参考図書>

川島真・小嶋華津子編著『よくわかる現代中国政治』ミネルヴァ書房、2020年。

石原亨一『習近平の中国経済』ちくま文庫、2019年。

家近亮子・唐亮・松田康博編著『5分野から読み解く現代中国』晃洋書房、2016年。

毛利和子著『第3版・現代中国政治 グローバル・パワーの肖像』名古屋大学出版会、2012年。

国分良成編『中国は、いま』岩波新書、2011年。

池上彰『そうだったのか！中国』集英社、2010年。

川島真・服部龍二編『東アジア国際政治史』名古屋大学出版会、2007年。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業概要、予習復習の注意点、課題や成績評価などの説明

最近の中国をめぐるトピックス

第2回 「西洋の衝撃」と中国

清朝末期の時代に焦点を当て、中国の歴代王朝に培われてきた統治理念や対外認識、列強各国による圧力とその影響について取り上げる。

第3回 中華民国成立から日中戦争・第二次世界大戦へ
中華民国の近代国家建設への道のりと、中華民国政府と
中国共産党との関係について学ぶ。また、日中戦争・第
二次世界大戦と向かう経緯を当時の国際政治・経済など
の視点から理解する。

第4回 第二次世界大戦終結直後の国際情勢と国共内戦
終戦直後の国際政治が中国に与えた影響を踏まえながら、
国共内戦と中華人民共和国成立までの過程について学ぶ。

第5回 中華人民共和国の政治体制

中華人民共和国を構成する党、国家、軍の組織機構や法
制度について学ぶ。

第6回 毛沢東時代の政治と外交 (1)

米ソ冷戦下の中国をめぐる国際政治を踏まえながら、中
国が社会主義化を推進していく過程について学ぶ。

第7回 毛沢東時代の政治と外交 (2)

文化大革命の展開から収束までの過程とこの時期の中国
の対外政策について学ぶ。

第8回 「改革開放」の始まり

文化大革命後の経済を立て直すため、市場経済化へと舵
を切った鄧小平時代の「改革開放」政策とその初期段階
における諸問題について学ぶ。

第9回 「社会主義市場経済」の推進

江沢民が総書記を務めた10年を取り上げる。市場経済化
を推進するために実施された中国の政治・社会における
改革について学び、経済発展によりアジアでの存在感を
高めていく時期の中国外交の展開を概観する。

第10回 「和諧社会」と大国外交の始まり

胡錦涛政権下の10年を取り上げる。市場経済の導入によ
って拡大した格差是正への取り組み、国際的な影響力の
高まりを背景に大国として変容していく中国外交につい
て学ぶ。

第11回 「中国の夢」のゆくえ

2012年に発足した習近平政権下における政治、外交につ
いて、時事的な事象を取り上げながら学び、同政権の国
内外政策の傾向や課題について考える。

第12回 改革開放に関する映像資料の視聴

映像を通して、改革開放政策の初段階における社会状況
について理解し、同政策が中国経済と社会にもたらした
影響について考える。

第13回 改革開放に関する映像資料の視聴

映像を通して、中国の急速な経済成長の展開と現在に至
る政治や社会の変容について理解を深める。

第14回 日中関係・米中関係

これまでの日中関係、米中関係の展開を概観し、今後の
中国をめぐる国際関係の展望を考える。

第15回 総括

授業の振り返りを行う 期末レポート提出

2022年度 後期

2.0単位

中国の文学

中山 文

<授業の方法>

講義(対面授業および遠隔授業併用)

<授業の目的>

主題：「現代中国の女性文学を読む」

この科目は、人文学科のDPに示す、幅広い知識と教養
を身につけ、異なった価値観を尊重して将来にわたる知
的好奇心を涵養することを目的とする。具体的には、現
代中国文学についての専門知識を集中的、体系的に理解
し、現代中国への理解と興味をはぐくむことを目的とし
ている。

19世紀末、欧米諸国の侵略により近代化への道を歩まざ
るを得なくなった清朝は1911年に辛亥革命で倒壊し、翌
年中華民国が誕生する。だがその後も袁世凱による帝政
復古や軍閥割拠など政治的混乱が続く。一方陳独秀らの
日本・アメリカ留学組は文学革命を提唱、口語の文学に
より民衆に国民国家共同体を想像させようとした。魯迅
はこのような時代の大転換期の中で、伝統と現代の矛盾
を考え、新しい社会における人間のあり方を考えた。魯
迅の処女作「狂人日記」が中国における現代文学のはじ
まりとされる。

この授業では、1910年代から10年ごとの代表作を読みつ

つ、その背景にある中国の近現代史を学ぶ。アヘン戦争以来の100年間、常に身近に戦争や内戦を経験しながら近代化してきた中国において、その文学は政治や社会状況から超然としてはおられなかった。たとえば同じ1940年代、上海では蘇青や張愛玲のようなフェミニズム文学が生まれ、延安では毛沢東の文芸講話の指導する人民文学が生まれていた。地域の隔たりは人々の生活環境を大きく変え、人々の行動も大きく異なった。中国の広さは、おのずと文学の多様性を内包する。文学作品を通して、現在もっているイメージとは異なる姿の中国に、出会うことができる。

<到達目標>

中国近代史を知り、中国の歴史と民俗に対する深い知識をもつことができる。

19世紀から20世紀にかけて、中国と日本の交流史を理解することができる。

多様な中国作家の作品を通して、当時の知識人、農民、女性の置かれた状況を理解することができる。

世界文学としても著名な作品に触れることで、文学的教養を広げることができる。

<授業のキーワード>

近代中国史、日中関係、女性、孤島、淪陷区、解放区

<授業の進め方>

作品を読解し、その理解に資する映像を鑑賞する。毎回の授業について、小テストを行う。

<履修するにあたって>

その日に読む作品を、かならず前もって読んでから授業に臨むこと。

<授業時間外に必要な学修>

中国に興味を持ってほしいので、テレビやネットで中国情報をまめに集めておくこと。

指定された作品を読んだ上で授業に臨む。そのため予習復習に2時間以上必要。

<提出課題など>

(1) 毎回、課題に沿って講義内容に関する小レポートを書く。優秀作は翌週に配布する。

(2) 理解度確認のためのワークを1回おこなう。模範解答を掲示する。

<成績評価方法・基準>

毎回のコメントシート 60%、確認ワーク 40%
翌週優秀コメントを提示、確認ワークは模擬答案を提示する。

<テキスト>

ドットキャンパスを通じて配布

<参考図書>

徐嘉澤作『次の夜明けに』書肆侃侃房
張愛玲作『中国が愛を知ったころ』岩波出版
『中国ジェンダー史研究入門』京都大学学術出版会 20

18年

<授業計画>

1 中国近代の夜明け 清朝末期から民国の社会状況
遠隔授業で後期授業の進め方について説明を行う。

日中交流歴史を抑えたうえで、中国の近代について考える。

2

1910年代 女性作家 謝冰心

謝冰心「二つの家庭」を読む

魯迅が旧社会で苦しむ女性を書いたとき、五四文化運動から生まれた女性作家たちはどのような理想をもち、どのような生活をしていただろうか。

3

1910年代 映画「紅夢」

「紅夢」から過渡期中国における女子の生き方を読む。中国で初めて大学に女学生が入学した時代。女子の高等教育は実家の経済状況が左右する。先進的な考えをした父親が亡くなり、女子教育に理解のない継母が経済力を握ったとたん、学問への道は閉ざされる。行きつく先は、お嫁入り。しかも金持ちの第4夫人。理想と現実の、このギャップ！

4

1920年代 女性作家・沈櫻

沈櫻「祝宴の後」を読む

せっかく恋愛結婚したのに、夫は仕事ばかりで倦怠期の夫婦。

パーティで元カレと遭遇した妻は、久しぶりにワクワク。さて、どうなる？

1920年代の上海には、こんなモダンガールがいたのです。

5

1920年代

女性左翼作家・馮鏗

馮鏗「子を売る女」を読む

自由恋愛の果ての倦怠期に悶々とするセレブがいた一方で、夫に先立たれた貧しい女は仕事を得るために子供を売るしかなかった。子供はどこで売るのがいいからで、だれが買うの？ 作者は国民党により処刑された左翼作家の一人。

6

1930年代

東北作家・蕭紅を読む

蕭紅「手」を読む。

これからの社会、女が一人前に生きていくためには教育が必要だ！そう言って

貧しい父は私を女学校に入れてくれた。でも、田舎者に都会のお嬢様学校は

ひどく冷たい。新時代を象徴する女学校にも、階級社会は生きていた。

7

1930年代 解放区作家・丁玲を読む

丁玲「夜」を読む。

40年代、中国の文学状況は共産党根拠地となった延安に生まれた解放区、

日本に占領された淪陷区、国民党が支配する地域の国統区とはっきり

分断された。ここでは、20年代に女性の性欲をテーマにした「ソフィ女史の日記」の

作者丁玲が、延安生活を経て、どのように変化したかに焦点を当てる。

8

1930年代 延安について

映画「黄色い大地」で延安を学ぶ。

解放区延安とはどのような自然環境の土地なのか。さらに辺境に住む人々にとって、延安からやってくる解放軍兵士はどんな人物に映ったのか。彼は何のために民謡を集めているのか？映像に沿って当時の社会背景を説明する。

9 1940年代 女性作家 梅娘

梅娘「異郷の人」を読む

1940年代は日本が太平洋戦争に突進していった時代である。この時代、

植民地韓国から働きに来た韓国人と留学生を送る中国人女性が阪急電車の神戸線で出会う物語。

10

1940年代 淪陷区作家・張愛玲

張愛玲「心経」を読む。

丁玲が共産党の会議に悩む農民を描いた頃、日本侵略下の上海では

政治的な作品が禁止され、その結果家庭や恋愛をテーマにした作品が流行する。中でも二大女性作家が張愛玲と蘇青である。張愛玲は「中国が愛を知ったころ」で、裕福な生活と引き換えに自由を売り男性に囲われる女学生の葛藤を描いた。

授業では父親に性的な執着をもつ女子高生を描いた「心経」を読む。

11

1940年代 淪陷区作家・蘇青

蘇青「結婚10年」を読む

張愛玲と人気を二分した蘇青は、働く女性を描いた。あからさまな男女不平等な社会で、家庭と仕事を両立させるために奮闘する彼女の姿は、今も決して古びていない。

12

1950年代 解放後の一般大衆 1

1 映画「生きる」を観る

945年の日中戦争後、中国共産党と国民党の間で3年間にわたる内戦が続いた。

1949年に共産党政権の中華人民共和国が設立。

1950年代には朝鮮戦争に参加、大躍進運動によって多数の餓死者がでた。

1960年代、中国指導部の闘争が激化し、10年間にわたり文化大革命が続く。

1972年に日中国交回復が実現し、1976年に毛沢東が逝去すると、

鄧小平は経済改革開放路線を展開した。

このめまぐるしく変化する政治運動の中出、一般大衆はどのように生きてきたのか。

映画を見ながら、建国以後の中国社会の背景を学ぶ。

第1回目は、民国期に大金持ちだった主人公が賭博で無一文になり、趣味の影絵

を生活のたつきとして、人生を立て直す。国民党に徴用され、共産党の捕虜となり

無事に故郷に帰国するまでを描く。

13

1960年代 解放後の一般大衆2

映画「生きる」を観る2

50年代、主人公富貴は大躍進政策の求める大衆行動のために日々くたくたに

なりながらも、家族4人楽しい生活を送っていた。が、政治運動の余波で

息子、娘に次々不幸がおそいかかる。

14

1980年代 解放後の一般大衆3

映画「生きる」を観る3

孫と老夫婦3人の生活に婿が加わり、貧しいながらも平和な食卓がラストシーン

となる。この作品を見て、人間の幸福について討論する。

15まとめ ふりかえり

確認ワーク。

2022年度 後期

2.0単位

中国の歴史

千田 豊

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目では、学部のディプロマ・ポリシーが掲げる「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済

などについて幅広い知識や教養を身に付けること」を旨とし、古代? 近世に至る中国の歴史を概観する。その際、単に重要な用語を解説するだけでなく、中国の皇帝制度、特に皇太子に焦点を当てる。近年、日本において新たに天皇が即位したことで、女性天皇を含め、後継者問題が議論になっているが、これらは中国の後継者(皇太子)問題と深く結びついている。

中国の皇太子を中心として、中国史を多角的に考察することで、中国と日本の歴史や社会についての教養や知識を身につけて欲しい。

<到達目標>

古代? 近世の中国史に関する基礎知識を習得することができる(知識)。

中国の後継者問題について幅広く習得することができる(知識)。

中国の皇帝制度についての知識を獲得し、中国社会の理解を深めることができる(思考力・判断力)。

中国の皇帝制度から、日本の天皇制の問題について自ら考えることができる(主体性・協働性)。

<授業のキーワード>

歴史学 中国史 後継者 皇帝制 天皇制

<授業の進め方>

授業では基本的にパワーポイントを使って講義をおこなう。

毎回の授業について、小テストを行う。

<履修するにあたって>

高校世界史の教科書や概説レベルの中国史関連の本を事前に読んでおくこと。

<授業時間外に必要な学修>

授業では高校世界史レベルの中国史の知識が必要なため、高校世界史の教科書や概説レベルの中国史関連の本を事前に読んでおく必要がある(一時間程度)。

<提出課題など>

毎回、課題に沿って講義内容に関する小レポートを書く。翌週に、提出された小レポートの優秀コメントの紹介や質問への回答、解説、講評をおこなう。

<成績評価方法・基準>

毎回の小レポート(60点)と期末レポート(40点)の合計100点で評価する。

<テキスト>

特になし。

<参考図書>

適宜指示する。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業内容について説明し、歴史に対する視点や中国史に関する基礎知識を確認する。

第2回 時代区分について

中国史を中心として、日本史・西洋史の時代区分につい

ても整理する。

第3回 中国史における継承者の出現

秦以前の基礎知識を整理しつつ、中国史において、皇太子のもとになる継承者がどのように出現したのか検討する。

第4回 秦・前漢の皇太子

秦・前漢の基礎知識を整理したのち、皇太子の出現とその背景について、秦漢の成立過程から説明する。

第5回 後漢・三国の皇太子

後漢から三国時代への移り変わりの時代背景と、後漢の皇太子と皇太后や三国時代における魏・呉・蜀のそれぞれの皇太子の違いについて解説する。

第6回 西晋・東晋の皇太子

西晋から南朝への変化についての基礎知識の整理と、西晋の皇太子と東晋の皇位継承者の仕方について検討する。

第7回 南朝の皇太子

南朝についての概説と、南朝での皇帝と皇太子の位置づけについて考察する。

第8回 北朝の皇太子

北朝についての概説と、南朝とは異なる北方系の皇位継承について解説する。

第9回 隋の皇太子

中国統一後の皇太子と、北朝との関連について解説する。

第10回 唐前期の皇太子

唐代全体の時代背景の整理した後、唐朝初めの皇太子への皇位継承から、則天武后までの流れを解説する。

第11回 唐中期の皇太子

則天武后と韋後の武韋の禍を中心として安史の乱までを解説する。

第12回 唐後期の皇太子

安史の乱以後、唐朝滅亡までの唐朝で、皇太子はどのように存在していたか説明する。

第13回 唐以後の皇太子

唐代から宋代へと移る時代背景と基礎知識を整理した後、主に北宋を中心として、宋代の皇太子とそれ以前の皇太子を比較して、その特徴を検討する。

第14回 皇太子の儀礼と役割

皇太子が担った国家儀礼とはどのようなものだったのか、解説する。

第15回 中国における皇太子の意義

中国の古代・中世・近世を通じて皇太子はどのような存在意義を持ったのか説明する。

2022年度 後期

2.0単位

中国の歴史 【2020~】

菊地 俊介

<授業の方法>

講義

< 授業の目的 >

歴史に関する知識を増やすだけでなく、歴史が投げかけることの重みを考えながら学ぶ授業です。

この科目では、学部のディプロマ・ポリシーが掲げる「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けること」を目指し、中国の歴史、特に現代中国や日中関係を考える上で重要な近現代の歴史について学びます。加えて、外国の歴史を学ぶことは他者理解を深めることでもありますので、同じく学部のディプロマ・ポリシーが掲げる「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つこと」にもつながるはずです。

< 到達目標 >

1. 基礎知識として、中国近現代史の全体像を説明できる。
2. 歴史を見る目を養い、歴史を通して物事を考えることの重要性について、自分の考えを述べることができる。
3. 中国の歴史について関心を持てるテーマを見つけ、自ら調べ、考える力を身につける。

< 授業のキーワード >

中国近現代史 歴史学 歴史認識 日中関係 現代中国

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めます。学期中に数回、受講生同士で意見交換をする機会を設けます。

< 履修するにあたって >

予備知識は問いませんが、授業を通して疑問に思ったことや関心を持ったことについて、自ら調べる習慣をつけることが必要です。

< 授業時間外に必要な学修 >

特に学期の前半「中国近現代史概論」までを学習する間は、「参考図書」に挙げている図書を授業の予習と復習に活用して下さい。授業前に学習する内容の全体像を大まかにつかみ、授業後には授業で習った内容への理解を深めるために読んで下さい（目安として毎回の予習、復習それぞれ1時間程度）。

学期の後半は、授業を参考にしながら、自分で関心の持てるテーマを見つけて関連する図書を読むことを習慣にして下さい（目安として週に2時間程度）。

< 提出課題など >

学期中に数回、レポートの提出を求めます。皆さんがレポートに書いた内容は、要約した上で次回以降の授業で紹介します。講義から得る知識だけでなく、他の受講生の考えにも触れることで、皆さんの視野を広げられるようにします。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験（50％）：授業で取り上げた基礎知識を問います。

中間レポート（40％）：授業の内容を整理し、参考文献を読んで理解を深めて文章にまとめたレポートの提出を学期中に数回求めます。

小レポート（10％）：授業に関連する問題に対する意見や、授業の感想を書いて提出することを学期中に数回求めます。

< テキスト >

指定しません。必要に応じて教室で補助資料を配布することがあります。

< 参考図書 >

田中仁・菊池一隆・加藤弘之・日野みどり・岡本隆司『新図説中国近現代史：日中新時代の見取図』、法律文化社、2012年

富谷至・森田憲司編『概説中国史 下：近世 - 近現代』昭和堂、2016年

吉澤誠一郎『シリーズ中国近現代史 清朝と近代世界：19世紀』、岩波新書、2010年

川島真『シリーズ中国近現代史 近代国家への模索：1894-1925』、岩波新書、2010年

石川禎浩『シリーズ中国近現代史 革命とナショナリズム：1925-1945』、岩波新書、2010年

久保亨『シリーズ中国近現代史 社会主義への挑戦：1945-1971』、岩波新書、2011年

高原明生・前田宏子『シリーズ中国近現代史 開発主義の時代へ：1972-2014』、岩波新書、2014年

菊池秀明『中国の歴史10 ラストエンペラーと近代中国』、講談社学術文庫、2021年

天児慧『中国の歴史11 巨龍の胎動』、講談社学術文庫、2021年

横山宏章『中華民国』、中公新書、1997年

岸本美緒『中国の歴史』、ちくま学芸文庫、2015年

< 授業計画 >

第1回 歴史学の基礎・歴史認識をめぐる今日的課題
「本を読んで歴史に関する知識を得ること」とは違い、「学問として歴史を研究すること」について知ることから始めます。

第2回 歴史を学ぶ意義とは
受講生同士で意見交換をしながら、これから歴史を学ぶ上での問題意識を養います。

第3回 中国近現代史概論（1）
まずは中国近現代史の全体像について学習します。ただし、高校世界史の復習や事項の暗記ではありません。歴史について考える上で大事なポイント、歴史を見る目を養うためのトピックを取り上げながら授業を進めていきます。まずは清末の時代を対象とします。

第4回 中国近現代史概論（2）
続き。およそ中華民国前期を対象とします。

第5回 中国近現代史概論（3）
続き。日中戦争から中華人民共和国建国頃までを対象とします。

第6回 中国近現代史概論（4）
続き。中華人民共和国建国以降を対象とします。

第7回 中国における歴史認識

中国では自国の歴史がどのように研究され、伝えられているのでしょうか。

第8回 近代中国が目指した国家像

現代中国を相対的に捉える視点を養います。

第9回 中国と西洋

中国の歴史の中で、西洋はどのように位置づけられるのか、西洋が中国にもたらした影響について考えます。

第10回 社会史へのアプローチ

歴史とは表舞台に登場する政治家、知識人、英雄だけのものではありません。ここでは、言わば「普通の人」が生きた姿と社会のあり方に焦点を当てます。

第11回 近現代日中関係史概論

特に日本との関係に重点を置き、中国近現代史をもう一度振り返ります。

第12回 日中戦争をめぐる諸問題

日中関係に今日的課題として横たわる戦争をめぐる歴史認識問題について、基本的な知識を学びます。

第13回 日中交流と相互認識

日本人と中国人は互いのことをどのように見ていたか、互いにどのように関わってきたかを考えます。

第14回 台湾の歴史

今日の台湾について理解を深めながら、そこに至るまでの歴史を振り返り、現代中国が持つ複雑性について考えます。

第15回 歴史を記憶すること・伝えること

この授業を通して考えたことについて、受講生同士で意見交換をします。

2022年度 前期

2.0単位

中国現地講義

胡 士雲

< 授業の方法 >

講義（遠隔授業）

< 授業の目的 >

この授業は、G C 学部の D P に示す、実践的で高度な外国語の運用を目指す。

この科目はG C 学部共通科目群現地研修関連科目（必修）に位置付けられる。授業は三年次の学生を対象とし、本学の教育方針に基づき、留学先と共同で編成したカリキュラムにしがたい授業を行う。授業は、中国文化を主な内容とする。受講生は講義を受講し、2 年次までの講義科目で学んだ知識を発展させながら、実際に海外で生活をする中で、現地教員の指導の下、中国社会について多角的理解を深める。

< 到達目標 >

- 1) 中国の社会や政治・文化を深く理解することができる。（知識）
- 2) 中国語でのコミュニケーション能力を向上させる。

（技能）

< 授業のキーワード >

中国文化 中国社会の理解 語学運用力の向上

< 授業の進め方 >

担当者の説明や指導に従うこと

< 履修するにあたって >

時間割の変則に注意すること

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、授業の対象となる教科書の箇所を読み込んでおくこと。

事後学習として、授業内容を再確認し、現地での生活、生身の経験と関連づけ、確実に自分の知識として定着させること（1時間程度）

< 提出課題など >

授業中に適宜指示する

< 成績評価方法・基準 >

留学先大学から送られてきた成績、授業取り組み状況のデータに基づき、中国語コースで総合的に判断し、評価する。本学部教授会において単位を認定する。

< テキスト >

プリント配布

< 参考図書 >

授業中に適宜指示する

< 授業計画 >

第 1 回 中国文化（ 1 ）

中国文化（ 1 ）

第 2 回 中国文化（ 2 ）

中国文化（ 2 ）

第 3 回 中国文化（ 3 ）

中国文化（ 3 ）

第 4 回 中国文化（ 4 ）

中国文化（ 4 ）

第 5 回 中国文化（ 5 ）

课外作業

第 6 回 中国文化（ 6 ）

课外作業

第 7 回 中国文化（ 7 ）

课外作業

第 8 回 中国文化（ 8 ）

课外作業

第 9 回 中国文化（ 9 ）

课外作業

第 1 0 回 中国文化（ 1 0 ）

课外作業

第 1 1 回 中国文化（ 1 1 ）

课外作業

第 1 2 回 中国文化（ 1 2 ）

课外作業

第 1 3 回 中国文化（ 1 3 ）

课外作業

第14回 中国文化(14)

課外作業

第15回 中国文化(15)

課外作業

2022年度 前期

2.0単位

中国語コース入門

大濱 慶子、胡 士雲、眞島 淳

< 授業の方法 >

講義(オムニバス)

< 授業の目的 >

この科目は、GC学部のDPに示す、言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができることを目指す。

この科目は中国語コース講義(選択)科目に位置付けられる。授業は中国語を学ぶ1年生を対象とし、中国語コースで学ぶ目的や意義を理解し、これからさまざまな専門教育を履修していくうえでその前提となる、中国語の基礎にある幅広い知識や教養を身につけるための導入科目である。

授業では言語、地理、歴史、民族、人口、政治、経済、社会制度、文化、教育、芸術、生活と風習、家族、ジェンダー、宗教など幅広いトピックを取りあげ、多様な角度から受講生の知的好奇心を刺激する。この授業を通して中国語を学ぶおもしろさを感じ取ってもらうとともに、実際の中国とはどのような社会なのか、中国語圏への広がりも含め自ら考える力を養い、中国語専門科目の学習が充実した、実り多いものとなることを目的とする。

< 到達目標 >

- 1) 中国語コースで学ぶ目的を理解し、その意義について説明することができる。(知識)
- 2) 中国生活文化についての知識を獲得し、言語、歴史、政治経済、教育文化、民族、生活など多角的な視座から考察することができる。(知識)
- 3) 中国語圏に関する基礎的な知識を幅広く習得することができる。(知識)
- 4) 様々な情報の中から実際の中国社会や中国語圏との関わりについて自ら考える力を養う。(態度・習慣、技能)

< 授業のキーワード >

中国語コース導入科目 基礎知識

< 授業の進め方 >

- 1) この授業は中国語コースの教員によるオムニバス形式で実施する。
- 2) 授業で取り上げた分野に関する基本文献を読んでレポートを提出すること。
- 3) スライドや映像資料を活用し、中国文化を体感したり、皆さんと同世代の中国語圏の若者に対する理解を深

める機会を多く設けたいと考えている。

< 履修するにあたって >

1) この授業を通じて、今後4年間、中国語コースにおいて学ぶ意義や動機、目標、将来の進路などを考えながら各回の主題に関する文献を探して知識を得たり、主体的な学習に取り組むこと。

2) 他コースの学生の受講も歓迎する。

< 授業時間外に必要な学修 >

目安として一時間程度予習・復習をすること。

< 提出課題など >

1) 各担当教員がそれぞれ指示する。

2) 課題の提出はメールやdotCampusやOffice365のOneDriveを通じて行なう。

3) 授業中に提出した課題については、授業時に各教員が講述する。

4) 最終レポートについては、締切後にテーマに基づいて各教員が総評を行う機会を設ける。

< 成績評価方法・基準 >

授業の取り組み状況(課題提出を含む) 75点(胡25点 大濱25点 眞島25点)

期末レポート25点(第1回目の授業で担当教員より説明します)

< テキスト >

各担当教員が適宜指示する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス(胡士雲)

中国語コースでの学習内容を説明した上、中国語はどのような言語であることを説明する。

第2回 現代中国を知る(胡士雲)

中国は日本と一衣帯水の隣国である。中日間には共通点があるが、相違点はもっと多い。スケッチの形で、中国の全体像を描き、受講者に中日間の各事情を考えさせる。

第3回 中国の政治制度と社会制度(胡士雲)

中国と日本の政治制度と社会制度は異なる。中国の政治制度と政権構造、社会制度を紹介する。

第4回 現代中国の主な出来事(胡士雲)

1912年、中華民国の成立により、中国は大きく変わった。中華民国特に中華人民共和国成立以来の主要な出来事を紹介する。

第5回 中国の年中行事(胡士雲)

年中行事はある民族或いはある国のさまざまな文化を反映しています。講義では、中国における新暦と旧暦の年中行事を紹介し、その上、中国人の生活様子も紹介します。

第6回 改革開放後の中国社会—フィールドワークから—

(大濱慶子)

改革開放後、特に1990年代の社会主義市場経済政策の実施とグローバル化の中の中国社会の変化を、担当教員の長期フィールドワークおよび現地生活者の視点から概説

する。

第7回 中国の歴史と世界遺産

(大濱慶子)

世界遺産「万里の長城」の長さほどのくらいあるのか。その建築史から中国の悠久の歴史をひもとく、王朝の興亡、農耕・遊牧民族の交差と対立、融合、その国づくりについて探究する。

第8回 中国の少数民族とジェンダー (大濱慶子)

中国は多民族国家であり、56の民族と多彩な文化が存在する。この授業では雲南省シャングリラ県に住むチベットの少女を取り上げ、社会的・文化的性差をあらわすジェンダーという視座から少数民族女性の過去、現在を解き明かし、中国社会の変化や発展について掘り下げて考える。

第9回 中国の若者とサブカルチャー (大濱慶子)

世界を席巻している日本のアニメやマンガは中国でも大ブームとなっている。越境する日本の若者文化と日本に逆輸入される中国のサブカルチャーの最前線を紹介し、新しい形の日中文化交流について皆で考える。

第10回 中国の中の日本人コミュニティー (大濱慶子)

<講演会> 中国の日本人コミュニティーや現地で活躍する日本人をゲストスピーカーに招き、異なる角度から中国の社会を多面的に理解する。

第11回 中国語圏の多様性 (眞島)

台湾について、その社会、言語、生活、日本との結びつきなどの点から紹介します。

第12回 中国語圏の多様性 (眞島)

香港・マカオについて、その社会、言語、生活などの点から紹介します。

第13回 中国語圏の多様性 (眞島)

シンガポール(マレーシア)について、その社会、言語、生活などの点から紹介します。

第14回 C-POP (眞島)

90年代から現在に至るまでの中国語圏の流行音楽(C-POP)について、代表曲の紹介を交えながら概観します。

第15回 台湾ドラマ(眞島)

台湾のドラマのトレンドの変遷を説明したうえで、社会問題を題材としたドラマを紹介します。

2022年度 前期

2.0単位

中国語プレゼンテーション

胡 土雲

< 授業の方法 >

演習、実技

< 授業の目的 >

この科目は、GC学部のDPに示す、実践的で高度な外国語の運用ができることを目指す。

この科目は中国語コース実践中国語(選択)科目に位置付けられる。パソコンでの中国語の処理能力や中国語での作文能力とスピーチ能力の向上を最も重要な目的とする。授業では、ワードやパワーポイントを用い、中国語の文字入力を練習し、既習した知識を活用して中国語の作文を練習する。また、作文したもののプレゼンテーションをし、高いスピーチ能力を養う。その上で、中国語スピーチコンテスト大会への出場を目指す。

<到達目標>

1) パソコンでの中国語の文字を入力することができる。(技能)

2) 中国語で初級レベルの応用文を書けることができる。(技能)

3) 高いスピーチ能力を養い、中国語スピーチコンテスト大会への出場ができる。(態度・習慣、技能)

<授業のキーワード>

中国語の文字入力、中国語での作文、プレゼンテーション、スピーチ能力の向上

<授業の進め方>

1) パソコンでの中国語の文字入力方法を学習しながら、ワードやパワーポイントを用い、中国語の作文を練習する。

2) 書いた文章をプレゼンテーション用にする。

3) 中国語でのプレゼンテーションをし、高いスピーチ能力を養う。

4) 模擬スピーチコンテストを行う。

<履修するにあたって>

1) ノートパソコンを用意し、Microsoft Officeあるいはそれに類するソフトをノートパソコンにインストールすることが望ましい。

2) パソコンを使用する能力を備えること。

<授業時間外に必要な学修>

授業計画の各回で指示された内容を繰り返し練習すること。

事前学習として、中国語での文字入力を練習すること。(1時間程度)

事後学習として、授業内容を再確認し、その上インターネットで中国のサイトを常に関連すること。(1時間程度)

<提出課題など>

毎回の授業終了時に、授業中に入力したものをプリントアウトして提出する。提出されたものは次の授業でコメントをする。

<成績評価方法・基準>

授業の取り組み状況と作文の発表100%

<テキスト>

授業中に配布したプリント

<授業計画>

第1回

4月9日 中国語での情報処理(1)
中国語での情報処理と日本語との異同を説明する
第2回
4月16日 中国語での情報処理(2)
中国語での文字入力を練習する
第3回
4月23日 文章の作成と発表(1)
文章の作成と修正
第4回
4月30日 文章の作成と発表(2)
文章の作成と修正
第5回
5月7日 文章の作成と発表(3)
作文の発表(1)
第6回
5月14日 文章の作成と発表(4)
文章の作成と修正
第7回
5月21日 文章の作成と発表(5)
文章の作成と修正
第8回
5月28日 文章の作成と発表(6)
作文の発表(2)
第9回
6月4日 文章の作成と発表(7)
文章の作成と修正
第10回
6月11日 文章の作成と発表(8)
作文の発表(3)
第11回
6月18日 文章の作成と発表(9)
文章の作成と修正
第12回
6月25日 文章の作成と発表(10)
作文の発表(4)
第13回
7月2日 文章の作成と発表(11)
文章の作成と修正
第14回
7月9日 文章の作成と発表(12)
作文の発表(5)
第15回
7月16日 授業のまとめ
授業のまとめ

2022年度 後期

2.0単位

中国語プレゼンテーション

村田 順一

< 授業の方法 >

実習授業(対面授業)

< 授業の目的 >

この授業はディプロマ・ポリシーの中の、言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる、と関係する科目である。

中国の伝統的音楽世界を概観し、また中国を代表する楽器「二胡」の演奏を体験することで中国音楽ひいては中国文化全般に対する理解を深め、併せて中国語による表現力の向上を目指す。

この授業の担当者は、中国楽器講師歴約20年の実務経験のある教員であるので、中国音楽、楽器に関するより深い解説をおこなうものとする。

< 到達目標 >

学生は普段接することの少ない中国伝統音楽に接することで音楽文化の多様性を理解し、文化的考察により相互理解を図ることができる。

また中国留学時のプレゼンテーション能力の向上の一助となることができる。

< 授業のキーワード >

音楽、民族音楽、中国伝統音楽、中国楽器、二胡、中国文化、中国歴史

< 授業の進め方 >

楽器を実際に触れ、基礎知識を習得し、少しでも演奏できるようになることが目標であるため、対面授業を基本とする。

遠隔授業を希望する学生は事前に必ず相談の上、受講できる準備(楽器の購入、楽器を演奏できる環境などを確認のうえ)をして受講の登録をすること。

< 履修するにあたって >

楽器の経験や中国音楽の知識の有無は問わない。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業に関するテーマを事前にインターネット等で閲覧して簡単な予備知識を持つことが望ましい。

< 提出課題など >

適宜、レポート課題を課す場合がある。

< 成績評価方法・基準 >

出席、学習姿勢など（50%）、リアクションペーパー（25%）、授業内容の理解度（25%）

<テキスト>

授業中に配布する。

<参考図書>

赤松紀彦編『中国の伝統文芸・演劇・音楽』 幻冬舎 2014年

孫玄齡 編著『中国の音楽世界』 岩波新書 1990年

趙寒陽 編著『二胡基礎教程』 北京・同心出版社 2000年

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業開始にあたってガイダンスとして授業に対する心構えと二胡演奏実習についての内容を説明します。

第2回 二胡の話し

これから勉強する「二胡」という楽器について、その歴史と構造、演奏方法について講義します。

第3回 二胡の実習

音出し

実際に二胡という楽器を触れ、構造を説明して簡単な音出しを行います。

第4回 二胡の実習

演奏姿勢

二胡の演奏姿勢、弓の持ち方、腕の使い方などを解説します。

第5回 二胡実習

楽譜を読む

楽譜は「数字譜」を利用します。その読み方を解説しリズム練習を行います。

第6回 二胡実習

弓を動かす

弓を「長弓」で操作して、きれいな音を出すことを目指します。

第7回 二胡実習

弓を動かす

弓を軽やかに操作して、リズムと一体化することを目指します。

第8回 二胡実習

弓を動かす

内外弦の換弦にチャレンジしてより複雑なリズムを演奏します（第1回）

第9回 二胡実習

弓を動かす

内外弦の換弦にチャレンジしてより複雑なリズムを演奏します（第2回）

第10回 二胡実習

音階練習

弦の押さえ方、正しい音階の出し方を学びます。

第11回 二胡実習

音階練習

「弓を弾く」「音階を出す」「リズムに合わせる」の一体化を目指します。

第12回 二胡実習

曲の演奏

簡単な曲の演奏にチャレンジします（第1回）

第13回 二胡実習

曲の演奏

簡単な曲の演奏にチャレンジします（第2回）

第14回 二胡実習

曲の演奏

簡単な曲の演奏にチャレンジします（第3回）

第15回 曲の演奏と発表会

仕上げの練習をしてから演奏してきた曲の「個人発表」をします。

2022年度 前期

2.0単位

中国語会話 (ア)

衛 榕群

<授業の方法>

実技

<授業の目的>

この科目は、G C 学部のDPに示す、実践的で高度な外国語の運用ができることを目指す。

この科目は中国語コース基本中国語（履修必修）科目に位置付けられる。中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、正確な発音を身につけることを最も重要な目的とする。授業では、中国語の音声を徹底的に学習し、その上で教科書の本文を通して、正確な発音の定着をはかる。また、習得した単語を活用し、場面を設定して、応用的な会話を練習する。

<到達目標>

- 1) 中国語の音声系統を理解することができる。（知識）
- 2) 中国語の音声表記であるピンインを正しく読み、聞

き取れることができる。(技能)

3) 初級レベルの中国語会話ができる。(態度・習慣、技能)

<授業のキーワード>

ピンインの学習、発音練習、会話練習

<授業の進め方>

1) 初めて中国語を学ぶ学生を対象としているので、「中国語読解」と「中国語表現」との関連性を重視し、重複した内容の説明をできるだけ避け、発音練習と会話練習を重点とする。

2) 新しい発音を勉強してから、即時に発音練習をし、発音の正しさを確認する。

3) 2回目から、授業の最初に前回の授業内容を復習する。

4) 単語と会話文を暗記させ、授業期間中に計5回の小テストを行う。

5) 会話練習のため12回目の授業まで、教科書に書いてある内容を順番に変更することがある。

<履修するにあたって>

1) 授業中に、大声で明瞭な発音をすること。

2) 教科書付属のCDを常に聞くこと。

3) 単語や会話文の暗記の習慣を定着させることが望ましい。

<授業時間外に必要な学修>

授業計画の各回で指示された内容を繰り返し練習すること。

事前学習として、授業の対象となる教科書の箇所を読み込んでおくこと。(1時間程度)

事後学習として、授業内容を再確認し、教科書付属のCDを聴き、自分の発音が正しいかどうかをチェックする。(1時間程度)

<提出課題など>

授業中に小テストをする。小テストの内容と回答をその場でコメント、解説を行う。

<成績評価方法・基準>

授業の取り組み状況60%、期末テスト40%

<テキスト>

胡士雲 矢羽野隆男 呂順長 著『初級中国語課本』(改訂版)(中国・世界図書出版公司/日本・駿河台出版社), 2500円+税

<授業計画>

第1回 はじめに

中国語のスケッチと中国語の勉強について

第2回 第1課(1)

声調と単母音の発音練習

第3回 第1課(2)

本文の発音練習と会話練習

第4回 第2課(1)

声母と変調(1)の発音練習

第5回 第2課(2)

本文の発音練習と会話練習

第6回 第3課(1)

複合母音の発音練習

第7回 第3課(2)

本文の発音練習と会話練習

第8回 第4課(1)

鼻音韻母の発音練習

第9回 第4課(2)

本文の発音練習と会話練習

第10回 復習と小テスト(1)

発音の総復習と小テスト

第11回 第5課(1)

中国語基礎文法の説明と文例の発音練習

第12回 第5課(2)

本文の発音練習と会話練習

第13回 第6課(1)

中国語基礎文法の説明と文例の発音練習

第14回 第6課(2)

本文の発音練習と会話練習

第15回 第7課(1)

中国語基礎文法の説明と文例の発音練習

第16回 第7課(2)

本文の発音練習と会話練習

第17回 第8課(1)

中国語基礎文法の説明と文例の発音練習

第18回 第8課(2)

本文の発音練習と会話練習

第19回 復習と小テスト(2)

場面設定の会話練習と小テスト(1)

第20回 第9課(1)

中国語基礎文法の説明と発音練習

第21回 第9課(2)

本文の発音練習と会話練習

第22回 第10課(1)

中国語基礎文法の説明と発音練習

第23回 第10課(2)

本文の発音練習と会話練習

第24回 第11課(1)

中国語基礎文法の説明と発音練習

第25回 第11課(2)

本文の発音練習と会話練習

第26回 第12課(1)

中国語基礎文法の説明と発音練習

第27回 第12課(2)

本文の発音練習と会話練習

第28回 復習と小テスト(3)

場面設定の会話練習と小テスト(2)

第29回 復習と小テスト(4)

場面設定の会話練習と小テスト(3)

第30回 復習と小テスト(5)

場面設定の会話練習と小テスト(4)

2022年度 前期

2.0単位

中国語会話 (イ)

衛 榕群

< 授業の方法 >

実技

< 授業の目的 >

この科目は、GC学部のDPに示す、実践的で高度な外国語の運用ができることを目指す。

この科目は中国語コース基本中国語(履修必修)科目に位置付けられる。中国語の学習歴がある学生を対象とし、すでに身に付けていた中国語能力を固め、更なる能力アップを最も重要な目的とする。授業では、教科書の本文を熟読した上、場面に応じた会話ができるようになる。

< 到達目標 >

1) 中国語に関する知識を更に深く理解することができる。(知識)

2) 教科書の本文を流暢に読める。(技能)

3) 場面に応じた比較的流暢な中国語会話ができる。(態度・習慣、技能)

< 授業のキーワード >

深い中国語の知識、正確な発音、場面に応じた会話練習
< 授業の進め方 >

1) 「中国語読解」と「中国語表現」との関連性を重視し、すでに身に付けていた中国語の能力をチェックし、その知識を更なる深くする。

2) 教科書の本文を熟読し、できる限りその本文を暗記させる。

3) 場面に応じる応用的な会話を繰り返し練習する。

4) 履修者全員の中国語に能力に応じて、授業内容を調整することがある。

< 履修するにあたって >

1) 授業中に、大声で明瞭な発音をすること。

2) 積極的に会話練習をすること。

3) マスコミに報道された中国に関する情報を常に留意することが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画の各回で指示された内容を繰り返し練習すること。

事前学習として、授業の対象となる教科書の箇所を読み込んでおくこと。(1時間程度)

事後学習として、授業内容を再確認し、学習した内容を活用練習をする。(1時間程度)

< 提出課題など >

授業期間中に小テストをする。小テストの内容と回答をその場でコメント、解説を行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業の取り組み状況60%、期末テスト40%

< テキスト >

戴桂英・劉立新・李海燕 編著『初級漢語口語(提高篇)』(中国・北京大学出版社), 2015年

授業中に販売する。初回の授業に教材代2300円を用意すること

< 授業計画 >

第1回 第一課(1)

会話文の発音練習

第2回 第一課(2)

会話文の発音の再確認とその一部の暗唱

第3回 第一課(3)

本文内容に関する応用会話練習

第4回 第二課(1)

会話文の発音練習

第5回 第二課(2)

会話文の発音の再確認とその一部の暗唱

第6回 第二課(3)

本文内容に関する応用会話練習

第7回 第三課(1)

会話文の発音練習

第8回 第三課(2)

会話文の発音の再確認とその一部の暗唱

第9回 第三課(3)

本文内容に関する応用会話練習

第10回 第四課(1)

会話文の発音練習

第11回 第四課(2)

会話文の発音の再確認とその一部の暗唱

第12回 第四課(3)

本文内容に関する応用会話練習

第13回 総合復習と小テスト(1)

勉強した内容の総合復習と小テスト(1)

第14回 総合復習と小テスト(2)

勉強した内容の総合復習と小テスト(2)

第15回 総合復習と小テスト(3)

勉強した内容の総合復習と小テスト(3)

第16回 第五課(1)

会話文の発音練習

第17回 第五課(2)

会話文の発音の再確認とその一部の暗唱

第18回 第五課(3)

本文内容に関する応用会話練習

第19回 第六課(1)

会話文の発音練習

第20回 第六課(2)

会話文の発音の再確認とその一部の暗唱

第21回 第六課(3)

本文内容に関する応用会話練習

- 第22回 第七課(1)
会話文の発音練習
- 第23回 第七課(2)
会話文の発音の再確認とその一部の暗唱
- 第24回 第七課(3)
本文内容に関する応用会話練習
- 第25回 第八課(1)
会話文の発音練習
- 第26回 第八課(2)
会話文の発音の再確認とその一部の暗唱
- 第27回 第八課(3)
本文内容に関する応用会話練習
- 第28回 総合復習と小テスト(4)
勉強した内容の総合復習と小テスト(4)
- 第29回 総合復習と小テスト(5)
勉強した内容の総合復習と小テスト(5)
- 第30回 総合復習と小テスト(6)
勉強した内容の総合復習と小テスト(6)

2022年度 後期

2.0単位

中国語会話 (ア)

衛 榕群

< 授業の方法 >

実技

< 授業の目的 >

この科目は、GC学部のDPに示す、実践的で高度な外国語の運用ができることを目指す。

この科目は中国語会話 (ア)の継続授業であり、中国語コース基本中国語(履修必修)科目に位置付けられる。中国語会話 (ア)で学習した内容を復習しながら、新しい内容を加え、正確な発音を身につけることを最も重要な目的とする。授業では、中国語の音声を徹底的に学習し、その上で、習得した単語を活用し、場面を設定して、応用的な会話を練習する。

< 到達目標 >

1) 中国語の音声系統を深く理解することができる。(知識)

2) 中国語の音声表記であるピンインを正しく読み、聞き取れることができる。(技能)

3) 初級レベルの中国語会話ができる。(態度・習慣、技能)

< 授業のキーワード >

発音、会話

< 授業の進め方 >

1) 「中国語読解」と「中国語表現」と関連性を重視し、重複した内容の説明をできるだけ避け、発音練習と会話練習を重点とする。

2) 新しい発音を勉強してから、即時に発音練習をし、

発音の正しさを確認する。

3) 授業の最初に、前回の授業内容を復習する。

4) 単語と会話文を暗記させ、授業期間中に小テストを行う。

5) 補充教材を活用する。

< 履修するにあたって >

1) 授業中に、大声で明瞭な発音をすること。

2) 教科書付属のCDを常に聞くこと。

3) 単語や会話文の暗記の習慣を定着させることが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画の各回で指示された内容を繰り返し練習すること。

事前学習として、授業の対象となる教科書の箇所を読み込んでおくこと。(1時間程度)

事後学習として、授業内容を再確認し、教科書付属のCDを聴き、自分の発音が正しいかどうかをチェックする。(1時間程度)

< 提出課題など >

授業期間中に小テストをする。小テストの内容と回答をその場でコメント、解説を行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業の取り組み状況は80%、期末試験は(単独質問)20%

< テキスト >

胡士雲 矢羽野隆男 呂順長 著『初級中国語課本』(改訂版)(中国・世界図書出版公司/日本・駿河台出版社), 2500円+税

< 授業計画 >

第1回 課題発表と第12課(1)

夏休みの課題について発表・第12課中国語基礎文法の説明と発音練習

第2回 第12課(2)

本文の発音練習と会話練習

第3回 第13課(1)

中国語基礎文法の説明と発音練習

第4回 第13課(2)

本文の発音練習と会話練習

第5回 第14課(1)

中国語基礎文法の説明と発音練習

第6回 第14課(2)

本文の発音練習と会話練習

第7回 第15課(1)

中国語基礎文法の説明と発音練習

第8回 第15課(2)

本文の発音練習と会話練習

第9回 第16課(1)

中国語基礎文法の説明と発音練習

第10回 第16課(2)

本文の発音練習と会話練習

第11回 第17課(1)
中国語基礎文法の説明と発音練習
第12回 第17課(2)
本文の発音練習と会話練習
第13回 復習と小テスト(3)
場面設定の会話練習と小テスト(1)
第14回 第18課(1)
中国語基礎文法の説明と発音練習
第15回 第18課(2)
本文の発音練習と会話練習(1)
第16回 第18課(3)
本文の発音練習と会話練習(2)
第17回 第19課(1)
中国語基礎文法の説明と発音練習
第18回 第19課(2)
本文の発音練習と会話練習(1)
第19回 第19課(3)
本文の発音練習と会話練習(2)
第20回 第20課(1)
中国語基礎文法の説明と発音練習
第21回 第20課(2)
本文の発音練習と会話練習(1)
第22回 第20課(3)
本文の発音練習と会話練習(2)
第23回 第21課(1)
中国語基礎文法の説明と発音練習
第24回 第21課(2)
本文の発音練習と会話練習(1)
第25回 第21課(3)
本文の発音練習と会話練習(2)
第26回 第22課(1)
中国語基礎文法の説明と発音練習
第27回 第22課(2)
本文の発音練習と会話練習(1)
第28回 第22課(3)
本文の発音練習と会話練習(2)
第29回 復習と小テスト(4)
場面設定の会話練習と小テスト(2)
第30回 復習と小テスト(5)
場面設定の会話練習と小テスト(3)

2022年度 後期

2.0単位

中国語会話 (イ)

衛 榕群

< 授業の方法 >

実技

< 授業の目的 >

この科目は、G C学部のD Pに示す、実践的で高度な外

国語の運用ができることを目指す。

この科目は中国語会話 (イ)の継続授業であり、中国語コース基本中国語(履修必修)科目に位置付けられる。中国語会話 (イ)で学習した内容を復習しながら、新しい内容を加え、すでに身に付けていた中国語能力を固め、更なる能力アップを最も重要な目的とする。授業では、教科書の本文を熟読した上、場面に応じた会話ができるようになる。

< 到達目標 >

- 1) 中国語に関する知識を更に深く理解することができる。(知識)
- 2) 教科書の本文を流暢に読める。(技能)
- 3) 場面に応じた比較的流暢な中国語会話ができる。(態度・習慣、技能)

< 授業のキーワード >

深い中国語の知識、正確な発音、場面に応じた会話練習

< 授業の進め方 >

- 1) 「中国語読解」と「中国語表現」との関連性を重視し、すでに身に付けていた中国語の能力をチェックし、その知識を更なる深くする。
- 2) 教科書の本文を熟読し、できる限りその本文を暗記させる。
- 3) 場面に応じる応用的な会話を繰り返し練習する。
- 4) 履修者全員の中国語に能力に応じて、授業計画を調整することがある。

< 履修するにあたって >

- 1) 授業中に、大声で明瞭な発音をすること。
- 2) 積極的に会話練習をすること。
- 3) マスコミに報道された中国に関する情報を常に留意することが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画の各回で指示された内容を繰り返し練習すること。

事前学習として、授業の対象となる教科書の箇所を読み込んでおくこと。(1時間程度)

事後学習として、授業内容を再確認し、学習した内容を活用練習をする。(1時間程度)

< 提出課題など >

授業期間中に小テストをする。小テストの内容と回答をその場でコメント、解説を行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業の取り組み状況は80%、期末試験は(単独質問)20%

< テキスト >

戴桂英・劉立新・李海燕 編著『初級漢語口語(提高篇)』(中国・北京大学出版社), 2015年

< 授業計画 >

第1回 第九課(1)

会話文の発音練習

第2回 第九課(2)

会話文の発音の再確認とその一部の暗唱
第3回 第九課(3)
本文内容に関する応用会話練習
第4回 第十課(1)
会話文の発音練習
第5回 第十課(2)
会話文の発音の再確認とその一部の暗唱
第6回 第十課(3)
本文内容に関する応用会話練習
第7回 第十一課(1)
会話文の発音練習
第8回 第十一課(2)
会話文の発音の再確認とその一部の暗唱
第9回 第十一課(3)
本文内容に関する応用会話練習
第10回 第十二課(1)
会話文の発音練習
第11回 第十二課(2)
会話文の発音の再確認とその一部の暗唱
第12回 第十二課(3)
本文内容に関する応用会話練習
第13回 総合復習と小テスト(1)
勉強した内容の総合復習と小テスト(1)
第14回 総合復習と小テスト(2)
勉強した内容の総合復習と小テスト(2)
第15回 総合復習と小テスト(3)
勉強した内容の総合復習と小テスト(3)
第16回 第十三課(1)
会話文の発音練習
第17回 第十三課(2)
会話文の発音の再確認とその一部の暗唱
第18回 第十三課(3)
本文内容に関する応用会話練習
第19回 第十四課(1)
会話文の発音練習
第20回 第十四課(2)
会話文の発音の再確認とその一部の暗唱
第21回 第十四課(3)
本文内容に関する応用会話練習
第22回 第十五課(1)
会話文の発音練習
第23回 第十五課(2)
会話文の発音の再確認とその一部の暗唱
第24回 第十五課(3)
本文内容に関する応用会話練習
第25回 第十六課(1)
会話文の発音練習
第26回 第十六課(2)
会話文の発音の再確認とその一部の暗唱
第27回 第十六課(3)

本文内容に関する応用会話練習
第28回 総合復習と小テスト(4)
勉強した内容の総合復習と小テスト(4)
第29回 総合復習と小テスト(5)
勉強した内容の総合復習と小テスト(5)
第30回 総合復習と小テスト(6)
勉強した内容の総合復習と小テスト(6)

2022年度 前期

2.0単位

中国語会話 (ア)

劉 威

<授業の方法>

実技

<授業の目的>

この科目は、G C学部のDPに示す、実践的で高度な外国語の運用ができることを目指す。

この科目は中国語コース基本中国語(履修必修)科目に位置付けられる。この科目と並行して履修する「中国語読解」と「中国語表現」との関連性を重視し、「聴く」と「話す」能力の修得と向上を重点とし、中国語会話能力を高めることを最も重要な目的とする。

<到達目標>

1) 中国語に関する知識を深く理解することができる。

(知識)

2) 発音訓練を強化した上で、正しい発音、特に声調の正しさを重視する。(技能)

3) 会話文を熟読した上で、教科書の内容を活用することができる。(態度・習慣、技能)

<授業のキーワード>

発音強化訓練、本文の熟読、実用会話

<授業の進め方>

1) 「中国語読解」と「中国語表現」との関連性を重視し、重複した内容の説明をできるだけ避け、「聴く」と「話す」を重点とする。

2) 発音訓練を強化するため、随時に間違っている発音を正しくする。

3) 新しい内容を学習する前に、既修した内容を確認する。

4) 学習した会話内容を活用し、場面に応じた実用会話を練習し、会話能力を高める。

5) 履修者の個人差に対応する特別訓練を行う。

<履修するにあたって>

1) ことばの授業なので、「聴く」と「話す」の能力を身につけることが大切である。履修者はすべての機会を捉えて、その能力を常にみがくこと。

2) 教科書の本文を熟読すること。

3) 勉強した内容を活用し、場面に応じた実用会話を常に練習すること。

4) 授業中に辞書を持参すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画の各回で指示された内容を繰り返し練習すること。

事前学習として、授業の対象となる教科書の箇所を読み込んでおくこと。(1時間程度)

事後学習として、授業内容を再確認し、また、マスコミに報道された中国に関する情報を留意すること。(1時間程度)

< 提出課題など >

授業期間中に小テストをする。小テストの内容と回答は次の授業でコメント、解説を行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業の取り組み状況 60%、期末テスト 40%

< テキスト >

劉徳聯・劉曉雨 編著 『中級漢語口語(第三版)提高篇』(中国・北京大学出版社)

授業中に販売する。初回の授業に教材代1800円を用意すること

< 授業計画 >

第1回 第一課 假期过得怎么样(1)

会話文の発音練習と意味の説明(1)

第2回 第一課 假期过得怎么样(2)

会話文の発音練習と意味の説明(2)

第3回 第一課 假期过得怎么样(3)

会話文の活用と応用会話の練習

第4回 第二課 我常常跟维修部打交道(1)

会話文の発音練習と意味の説明(1)

第5回 第二課 我常常跟维修部打交道(2)

会話文の発音練習と意味の説明(2)

第6回 第二課 我常常跟维修部打交道(3)

会話文の活用と応用会話の練習

第7回 授業進度の調整(1)

授業進度の調整と応用会話の練習(1)

第8回 第三課 我想在你们这儿订几个菜(1)

会話文の発音練習と意味の説明(1)

第9回 第三課 我想在你们这儿订几个菜(2)

会話文の発音練習と意味の説明(2)

第10回 第三課 我想在你们这儿订几个菜(3)

会話文の活用と応用会話の練習

第11回 第四課 附近那儿有修车的(1)

会話文の発音練習と意味の説明(1)

第12回 第四課 附近那儿有修车的(2)

会話文の発音練習と意味の説明(2)

第13回 第四課 附近那儿有修车的(3)

会話文の活用と応用会話の練習

第14回 授業進度の調整(2)

授業進度の調整と応用会話の練習(2)

第15回 総合復習と小テスト(1)

既習した内容の総合復習と小テスト(1)

第16回 第五課 我喜欢上网(1)

会話文の発音練習と意味の説明(1)

第17回 第五課 我喜欢上网(2)

会話文の発音練習と意味の説明(2)

第18回 第五課 我喜欢上网(3)

会話文の活用と応用会話の練習

第19回 第六課 我也有考历史系研究生的打算(1)

会話文の発音練習と意味の説明(1)

第20回 第六課 我也有考历史系研究生的打算(2)

会話文の発音練習と意味の説明(2)

第21回 第六課 我也有考历史系研究生的打算(3)

会話文の活用と応用会話の練習

第22回 授業進度の調整(3)

授業進度の調整と応用会話の練習(3)

第23回 第七課 今天是青年节(1)

会話文の発音練習と意味の説明(1)

第24回 第七課 今天是青年节(2)

会話文の発音練習と意味の説明(2)

第25回 第七課 今天是青年节(3)

会話文の活用と応用会話の練習

第26回 第八課 谁不想让自己的孩子上大学呀(1)

会話文の発音練習と意味の説明(1)

第27回 第八課 谁不想让自己的孩子上大学呀(2)

会話文の発音練習と意味の説明(2)

第28回 第八課 谁不想让自己的孩子上大学呀(3)

会話文の活用と応用会話の練習

第29回 授業進度の調整(4)

授業進度の調整と応用会話の練習(4)

第30回 総合復習と小テスト(2)

既習した内容の総合復習と小テスト(2)

2022年度 前期

2.0単位

中国語会話 (ア)

劉 威

< 授業の方法 >

実技

< 授業の目的 >

この科目は、G C 学部の D P に示す、実践的で高度な外国語の運用ができることを目指す。

この科目は中国語コース基本中国語(履修必修)科目に位置付けられる。この科目と並行して履修する「中国語読解」と「中国語表現」との関連性を重視し、「聴く」と「話す」能力の修得と向上を重点とし、中国語会話能力を高めることを最も重要な目的とする。

< 到達目標 >

1) 中国語に関する知識を深く理解することができる。

(知識)

2) 発音訓練を強化した上で、正しい発音、特に声調の

正しさを重視する。(技能)

3) 会話文を熟読した上で、教科書の内容を活用することができる。(態度・習慣、技能)

<授業のキーワード>

発音強化訓練、本文の熟読、実用会話

<授業の進め方>

1) 「中国語読解」と「中国語表現」との関連性を重視し、重複した内容の説明をできるだけ避け、「聴く」と「話す」を重点とする。

2) 発音訓練を強化するため、随時に間違っている発音を正しくする。

3) 新しい内容を学習する前に、既修した内容を確認する。

4) 学習した会話文を活用し、場面に応じた実用会話を練習し、会話能力を高める。

5) 履修者の個人差に対応する特別訓練を行う。

<履修するにあたって>

1) ことばの授業なので、「聴く」と「話す」の能力を身につけることが大切である。履修者はすべての機会を捉えて、その能力を常にみがくこと。

2) 教科書の本文を熟読すること。

3) 勉強した内容を活用し、場面に応じた実用会話を常に練習すること。

4) 授業中に辞書を持参すること。

<授業時間外に必要な学修>

授業計画の各回で指示された内容を繰り返し練習すること。

事前学習として、授業の対象となる教科書の箇所を読み込んでおくこと。(1時間程度)

事後学習として、授業内容を再確認し、また、マスコミに報道された中国に関する情報を留意すること。(1時間程度)

<提出課題など>

授業期間中に小テストをする。小テストの内容と回答は次の授業でコメント、解説を行う。

<成績評価方法・基準>

授業の取り組み状況60%、期末テスト40%

<テキスト>

劉徳聯・劉曉雨 編著『中級漢語口語(第三版)提高篇』(中国・北京大学出版社)

授業中に販売する。初回の授業に教材代1800を用意すること

<授業計画>

第1回 第一課 假期过得怎么样(1)

会話文の発音練習と意味の説明(1)

第2回 第一課 假期过得怎么样(2)

会話文の発音練習と意味の説明(2)

第3回 第一課 假期过得怎么样(3)

会話文の活用と応用会話の練習

第4回 第二課 我常常跟维修部打交道(1)

会話文の発音練習と意味の説明(1)

第5回 第二課 我常常跟维修部打交道(2)

会話文の発音練習と意味の説明(2)

第6回 第二課 我常常跟维修部打交道(3)

会話文の活用と応用会話の練習

第7回 授業進度の調整(1)

授業進度の調整と応用会話の練習(1)

第8回 第三課 我想在你们这儿订几个菜(1)

会話文の発音練習と意味の説明(1)

第9回 第三課 我想在你们这儿订几个菜(2)

会話文の発音練習と意味の説明(2)

第10回 第三課 我想在你们这儿订几个菜(3)

会話文の活用と応用会話の練習

第11回 第四課 附近那儿有修车的(1)

会話文の発音練習と意味の説明(1)

第12回 第四課 附近那儿有修车的(2)

会話文の発音練習と意味の説明(2)

第13回 第四課 附近那儿有修车的(3)

会話文の活用と応用会話の練習

第14回 授業進度の調整(2)

授業進度の調整と応用会話の練習(2)

第15回 総合復習と小テスト(1)

既習した内容の総合復習と小テスト(1)

第16回 第五課 我喜欢上网(1)

会話文の発音練習と意味の説明(1)

第17回 第五課 我喜欢上网(2)

会話文の発音練習と意味の説明(2)

第18回 第五課 我喜欢上网(3)

会話文の活用と応用会話の練習

第19回 第六課 我也有考历史系研究生的打算(1)

会話文の発音練習と意味の説明(1)

第20回 第六課 我也有考历史系研究生的打算(2)

会話文の発音練習と意味の説明(2)

第21回 第六課 我也有考历史系研究生的打算(3)

会話文の活用と応用会話の練習

第22回 授業進度の調整(3)

授業進度の調整と応用会話の練習(3)

第23回 第七課 今天是青年节(1)

会話文の発音練習と意味の説明(1)

第24回 第七課 今天是青年节(2)

会話文の発音練習と意味の説明(2)

第25回 第七課 今天是青年节(3)

会話文の活用と応用会話の練習

第26回 第八課 谁不想让自己的孩子上大学呀(1)

会話文の発音練習と意味の説明(1)

第27回 第八課 谁不想让自己的孩子上大学呀(2)

会話文の発音練習と意味の説明(2)

第28回 第八課 谁不想让自己的孩子上大学呀(3)

会話文の活用と応用会話の練習

第29回 授業進度の調整(4)

授業進度の調整と応用会話の練習(4)
第30回 総合復習と小テスト(2)
既習した内容の総合復習と小テスト(2)

2022年度 前期

2.0単位

中国語会話 (イ)

胡 士雲

<授業の方法>

実技

<授業の目的>

この科目は、GC学部のDPに示す、実践的で高度な外国語の運用ができることを目指す。

この科目は中国語コース基本中国語(履修必修)科目に位置付けられる。この科目と並行して履修する「中国語読解」と「中国語表現」との関連性を重視し、「聴く」と「話す」能力の向上を重点とし、中国語会話能力を高めることを最も重要な目的とする。

<到達目標>

1) 中国語に関する知識を深く理解することができる。

(知識)

2) 発音訓練を強化した上で、正しい発音、特に声調の正しさを重視する。(技能)

3) 会話文を熟読した上で、教科書の内容を活用することができる。(態度・習慣、技能)

<授業のキーワード>

発音強化訓練、本文の熟読、実用会話

<授業の進め方>

1) 「中国語読解」と「中国語表現」との関連性を重視し、重複した内容の説明をできるだけ避け、「聴く」と「話す」を重点とする。

2) 発音訓練を強化するため、随時に間違っている発音を正しくする。

3) 新しい内容を学習する前に、既修した内容を確認する。

4) 学習した会話内容を活用し、場面に応じた実用会話を練習し、会話能力を高める。

<履修するにあたって>

1) 語学授業であるため、「聴く」と「話す」の能力を身につけることが大切である。履修者はすべての機会を捉えて、その能力を常にみがくこと。

2) 教科書の本文を熟読した上で、 possible の限りその本文を暗記する。

3) 勉強した内容を活用し、場面に応じた実用会話を常に練習すること。

4) 授業中に辞書を持参すること。

<授業時間外に必要な学修>

授業計画の各回で指示された内容を繰り返し練習すること。

事前学習として、授業の対象となる教科書の箇所を読み込んでおくこと。(1時間程度)

事後学習として、授業内容を再確認し、また、マスコミに報道された中国に関する情報を留意すること。(1時間程度)

<提出課題など>

授業期間中に小テストをする。小テストの内容と回答は次の授業でコメント、解説を行う。

<成績評価方法・基準>

授業の取り組み状況60%、期末テスト40%

<テキスト>

胡士雲 編著『文化・漢語・会話』(中国・世界図書出版公司/日本・駿河台出版社), 2600円+税

<授業計画>

第1回 第一課 结识新朋友(1)

会話文 の発音練習と意味の説明

第2回 第一課 结识新朋友(2)

会話文 の発音練習と意味の説明

第3回 第一課 结识新朋友(3)

会話文 の暗唱と実用会話の練習

第4回 第一課 结识新朋友(4)

会話文 の暗唱と実用会話の練習

第5回 第二課 热情的主人(1)

会話文 の発音練習と意味の説明

第6回 第二課 热情的主人(2)

会話文 の発音練習と意味の説明

第7回 第二課 热情的主人(3)

会話文 の暗唱と実用会話の練習

第8回 第二課 热情的主人(4)

会話文 の暗唱と実用会話の練習

第9回 第三課 远亲不如近邻(1)

会話文 の発音練習と意味の説明

第10回 第三課 远亲不如近邻(2)

会話文 の発音練習と意味の説明

第11回 第三課 远亲不如近邻(3)

会話文 の暗唱と実用会話の練習

第12回 第三課 远亲不如近邻(4)

会話文 の暗唱と実用会話の練習

第13回 第四課 男大当婚, 女大当嫁(1)

会話文 の発音練習と意味の説明

第14回 第四課 男大当婚, 女大当嫁(2)

会話文 の発音練習と意味の説明

第15回 第四課 男大当婚, 女大当嫁(3)

会話文 の暗唱と実用会話の練習

第16回 第四課 男大当婚, 女大当嫁(4)

会話文 の暗唱と実用会話の練習

第17回 総合復習と小テスト(1)

既習した内容の総合復習と小テスト(1)

第18回 第五課 赤橙黄绿青蓝紫(1)

会話文 の発音練習と意味の説明

第19回 第五課 赤橙黄绿青蓝紫(2)
会話文の発音練習と意味の説明
第20回 第五課 赤橙黄绿青蓝紫(3)
会話文の暗唱と実用会話の練習
第21回 第五課 赤橙黄绿青蓝紫(4)
会話文の暗唱と実用会話の練習
第22回 第六課 食在中华(1)
会話文の発音練習と意味の説明
第23回 第六課 食在中华(2)
会話文の発音練習と意味の説明
第24回 第六課 食在中华(3)
会話文の暗唱と実用会話の練習
第25回 第六課 食在中华(4)
会話文の暗唱と実用会話の練習
第26回 第七課 一三四五六七(1)
会話文の発音練習と意味の説明
第27回 第七課 一三四五六七(2)
会話文の発音練習と意味の説明
第28回 第七課 一三四五六七(3)
会話文の暗唱と実用会話の練習
第29回 第七課 一三四五六七(4)
会話文の暗唱と実用会話の練習
第30回 総合復習と小テスト(2)
既習した内容の総合復習と小テスト(2)

2022年度 後期

2.0単位

中国語会話 (ア)

劉 威

<授業の方法>

実技

<授業の目的>

この科目は、GC学部のDPに示す、実践的で高度な外国語の運用ができることを目指す。

この科目は中国語会話(ア)の継続授業であり、中国語コース基本中国語(履修必修)科目に位置付けられる。この科目と並行して履修する「中国語読解」と「中国語表現」との関連性を重視し、「聴く」と「話す」能力の修得と向上を重点とし、中国語会話能力を高めることを最も重要な目的とする。

<到達目標>

- 1) 中国語に関する知識を深く理解することができる。(知識)
- 2) 発音訓練を強化した上で、正しい発音、特に声調の正しさを重視する。(技能)
- 3) 会話文を熟読した上で、教科書の内容を活用することができる。(態度・習慣、技能)

<授業のキーワード>

発音強化訓練、本文の熟読、実用会話

<授業の進め方>

- 1) 「中国語読解」と「中国語表現」との関連性を重視し、重複した内容の説明をできるだけ避け、「聴く」と「話す」を重点とする。
- 2) 発音訓練を強化するため、随時に間違っている発音を正しくする。
- 3) 新しい内容を学習する前に、既修した内容を確認する。
- 4) 学習した会話内容を活用し、場面に応じた実用会話を練習し、会話能力を高める。
- 5) 履修者の個人差に対応する特別訓練を行う。

<履修するにあたって>

- 1) ことばの授業なので、「聴く」と「話す」の能力を身につけることが大切である。履修者はすべての機会を捉えて、その能力を常にみがくこと。
- 2) 教科書の本文を熟読すること。
- 3) 勉強した内容を活用し、場面に応じた実用会話を常に練習すること。
- 4) 授業中に辞書を持参すること。

<授業時間外に必要な学修>

授業計画の各回で指示された内容を繰り返し練習すること。

事前学習として、授業の対象となる教科書の箇所を読み込んでおくこと。(1時間程度)

事後学習として、授業内容を再確認し、また、マスコミに報道された中国に関する情報を留意すること。(1時間程度)

<提出課題など>

授業期間中に小テストをする。小テストの内容と回答をその場でコメント、解説を行う。

<成績評価方法・基準>

授業の取り組み状況は80%、期末試験は(単独質問)20%

<テキスト>

劉德聯・劉曉雨 編著『中級漢語口語(第二版)提高篇』(中国・北京大学出版社)

<授業計画>

- 第1回 第九課 买车不如租车(1)
会話文の発音練習と意味の説明(1)
- 第2回 第九課 买车不如租车(2)
会話文の発音練習と意味の説明(2)
- 第3回 第九課 买车不如租车(3)
会話文の活用と応用会話の練習
- 第4回 第十課 你想要个孩子吗(1)
会話文の発音練習と意味の説明(1)
- 第5回 第十課 你想要个孩子吗(2)
会話文の発音練習と意味の説明(2)
- 第6回 第十課 你想要个孩子吗(3)
会話文の活用と応用会話の練習
- 第7回 授業進度の調整(1)

授業進度の調整と応用会話の練習（１）
第 8 回 第十一課 我们的城市生活还缺少点儿什么呢（
1）
会話文の発音練習と意味の説明（１）
第 9 回 第十一課 我们的城市生活还缺少点儿什么呢（
2）
会話文の発音練習と意味の説明（２）
第 10 回 第十一課 我们的城市生活还缺少点儿什么呢
（３）
会話文の活用と応用会話の練習
第 11 回 第十二課 你们自己找工作容易吗（１）
会話文の発音練習と意味の説明（１）
第 12 回 第十二課 你们自己找工作容易吗（２）
会話文の発音練習と意味の説明（２）
第 13 回 第十二課 你们自己找工作容易吗（３）
会話文の活用と応用会話の練習
第 14 回 授業進度の調整（２）
授業進度の調整と応用会話の練習（２）
第 15 回 総合復習と小テスト（１）
既習した内容の総合復習と小テスト（１）
第 16 回 第十三課 大西北的印象（１）
会話文の発音練習と意味の説明（１）
第 17 回 第十三課 大西北的印象（２）
会話文の発音練習と意味の説明（２）
第 18 回 第十三課 大西北的印象（３）
会話文の活用と応用会話の練習
第 19 回 第十四課 “好人老李”的故事（１）
会話文の発音練習と意味の説明（１）
第 20 回 第十四課 “好人老李”的故事（２）
会話文の発音練習と意味の説明（２）
第 21 回 第十四課 “好人老李”的故事（３）
会話文の活用と応用会話の練習
第 22 回 授業進度の調整（３）
授業進度の調整と応用会話の練習（３）
第 23 回 第十五課 长寿指南（相声）（１）
会話文の発音練習と意味の説明（１）
第 24 回 第十五課 长寿指南（相声）（２）
会話文の発音練習と意味の説明（２）
第 25 回 第十五課 长寿指南（相声）（３）
会話文の活用と応用会話の練習
第 26 回 第十六課 祝你一路顺风（１）
会話文の発音練習と意味の説明（１）
第 27 回 第十六課 祝你一路顺风（２）
会話文の発音練習と意味の説明（２）
第 28 回 第十六課 祝你一路顺风（３）
会話文の活用と応用会話の練習
第 29 回 授業進度の調整（４）
授業進度の調整と応用会話の練習（４）
第 30 回 総合復習と小テスト（２）
既習した内容の総合復習と小テスト（２）

2022年度 後期

2.0単位

中国語会話（ア）

劉 威

< 授業の方法 >

実技

< 授業の目的 >

この科目は、G C 学部の D P に示す、実践的で高度な外国語の運用ができることを目指す。

この科目は中国語会話（ア）の継続授業であり、中国語コース基本中国語（履修必修）科目に位置付けられる。この科目と並行して履修する「中国語読解」と「中国語表現」との関連性を重視し、「聴く」と「話す」能力の修得と向上を重点とし、中国語会話能力を高めることを最も重要な目的とする。

< 到達目標 >

- 1) 中国語に関する知識を深く理解することができる。（知識）
- 2) 発音訓練を強化した上で、正しい発音、特に声調の正しさを重視する。（技能）
- 3) 会話文を熟読した上で、教科書の内容を活用することができる。（態度・習慣、技能）

< 授業のキーワード >

発音強化訓練、本文の熟読、実用会話

< 授業の進め方 >

- 1) 「中国語読解」と「中国語表現」との関連性を重視し、重複した内容の説明をできるだけ避け、「聴く」と「話す」を重点とする。
- 2) 発音訓練を強化するため、随時に間違っている発音を正しくする。
- 3) 新しい内容を学習する前に、既修した内容を確認する。
- 4) 学習した会話内容を活用し、場面に応じた実用会話を練習し、会話能力を高める。
- 5) 履修者の個人差に対応する特別訓練を行う。

< 履修するにあたって >

- 1) ことばの授業なので、「聴く」と「話す」の能力を身につけることが大切である。履修者はすべての機会を捉えて、その能力を常にみがくこと。
- 2) 教科書の本文を熟読すること。
- 3) 勉強した内容を活用し、場面に応じた実用会話を常に練習すること。
- 4) 授業中に辞書を持参すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画の各回で指示された内容を繰り返し練習すること。

事前学習として、授業の対象となる教科書の箇所を読み込んでおくこと。（1時間程度）

事後学習として、授業内容を再確認し、また、マスコミに報道された中国に関する情報を留意すること。(1時間程度)

<提出課題など>

授業期間中に小テストをする。小テストの内容と回答をその場でコメント、解説を行う。

<成績評価方法・基準>

授業の取り組み状況は80%、期末試験は(単独質問)20%

<テキスト>

劉徳聯・劉曉雨 編著『中級漢語口語(第二版)提高篇』(中国・北京大学出版社)

<授業計画>

第1回 第九課 买车不如租车(1)
会話文の発音練習と意味の説明(1)
第2回 第九課 买车不如租车(2)
会話文の発音練習と意味の説明(2)
第3回 第九課 买车不如租车(3)
会話文の活用と応用会話の練習
第4回 第十課 你想要个孩子吗(1)
会話文の発音練習と意味の説明(1)
第5回 第十課 你想要个孩子吗(2)
会話文の発音練習と意味の説明(2)
第6回 第十課 你想要个孩子吗(3)
会話文の活用と応用会話の練習
第7回 授業進度の調整(1)
授業進度の調整と応用会話の練習(1)
第8回 第十一課 我们的城市生活还缺少点儿什么呢(1)
会話文の発音練習と意味の説明(1)
第9回 第十一課 我们的城市生活还缺少点儿什么呢(2)
会話文の発音練習と意味の説明(2)
第10回 第十一課 我们的城市生活还缺少点儿什么呢(3)
会話文の活用と応用会話の練習
第11回 第十二課 你们自己找工作容易吗(1)
会話文の発音練習と意味の説明(1)
第12回 第十二課 你们自己找工作容易吗(2)
会話文の発音練習と意味の説明(2)
第13回 第十二課 你们自己找工作容易吗(3)
会話文の活用と応用会話の練習
第14回 授業進度の調整(2)
授業進度の調整と応用会話の練習(2)
第15回 総合復習と小テスト(1)
既習した内容の総合復習と小テスト(1)
第16回 第十三課 大西北的印象(1)
会話文の発音練習と意味の説明(1)
第17回 第十三課 大西北的印象(2)
会話文の発音練習と意味の説明(2)

第18回 第十三課 大西北的印象(3)
会話文の活用と応用会話の練習
第19回 第十四課 “好人老李”的故事(1)
会話文の発音練習と意味の説明(1)
第20回 第十四課 “好人老李”的故事(2)
会話文の発音練習と意味の説明(2)
第21回 第十四課 “好人老李”的故事(3)
会話文の活用と応用会話の練習
第22回 授業進度の調整(3)
授業進度の調整と応用会話の練習(3)
第23回 第十五課 长寿指南(相声)(1)
会話文の発音練習と意味の説明(1)
第24回 第十五課 长寿指南(相声)(2)
会話文の発音練習と意味の説明(2)
第25回 第十五課 长寿指南(相声)(3)
会話文の活用と応用会話の練習
第26回 第十六課 祝你一路顺风(1)
会話文の発音練習と意味の説明(1)
第27回 第十六課 祝你一路顺风(2)
会話文の発音練習と意味の説明(2)
第28回 第十六課 祝你一路顺风(3)
会話文の活用と応用会話の練習
第29回 授業進度の調整(4)
授業進度の調整と応用会話の練習(4)
第30回 総合復習と小テスト(2)
既習した内容の総合復習と小テスト(2)

2022年度 後期

2.0単位

中国語会話 (イ)

胡 士雲

<授業の方法>

実技

<授業の目的>

この科目は、GC学部のDPに示す、実践的で高度な外国語の運用ができることを目指す。

この科目は中国語会話(イ)の継続授業であり、中国語コース基本中国語(履修必修)科目に位置付けられる。この科目と並行して履修する「中国語読解」と「中国語表現」との関連性を重視し、「聴く」と「話す」能力の向上を重点とし、中国語会話能力を高めることを最も重要な目的とする。

<到達目標>

1) 中国語に関する知識を深く理解することができる。(知識)
2) 発音訓練を強化した上で、正しい発音、特に声調の正しさを重視する。(技能)
3) 会話文を熟読した上で、教科書の内容を活用することができる。(態度・習慣、技能)

< 授業のキーワード >

発音強化訓練、本文の熟読、実用会話

< 授業の進め方 >

1) 「中国語読解」と「中国語表現」との関連性を重視し、重複した内容の説明をできるだけ避け、「聴く」と「話す」を重点とする。

2) 発音訓練を強化するため、随時に間違っている発音を正しくする。

3) 新しい内容を学習する前に、既修した内容を確認する。

4) 学習した会話内容を活用し、場面に応じた実用会話を練習し、会話能力を高める。

< 履修するにあたって >

1) 語学の授業であるため、「聴く」と「話す」の能力を身につけることが大切である。履修者はすべての機会を捉えて、その能力を常にみがくこと。

2) 教科書の本文を熟読した上で、できるだけその本文を暗記すること。

3) 勉強した内容を活用し、場面に応じた実用会話を常に練習すること。

4) 授業中に辞書を持参すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画の各回で指示された内容を繰り返し練習すること。

事前学習として、授業の対象となる教科書の箇所を読み込んでおくこと。(1時間程度)

事後学習として、授業内容を再確認し、また、マスコミに報道された中国に関する情報を留意すること。(1時間程度)

< 提出課題など >

授業期間中に小テストをする。小テストの内容と回答をその場でコメント、解説を行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業の取り組み状況は80%、期末試験は(単独質問)20%

< テキスト >

胡士雲 編著『文化・漢語・会話』(中国・世界図書出版公司/日本・駿河台出版社), 2600円+税

< 授業計画 >

第1回 第八課 満招損, 謙受益(1)

会話文 の発音練習と意味の説明

第2回 第八課 満招損, 謙受益(2)

会話文 の発音練習と意味の説明

第3回 第八課 満招損, 謙受益(3)

会話文 の暗唱と実用会話の練習

第4回 第八課 満招損, 謙受益(4)

会話文 の暗唱と実用会話の練習

第5回 第九課 和为贵, 忍为高(1)

会話文 の発音練習と意味の説明

第6回 第九課 和为贵, 忍为高(2)

会話文 の発音練習と意味の説明

第7回 第九課 和为贵, 忍为高(3)

会話文 の暗唱と実用会話の練習

第8回 第九課 和为贵, 忍为高(4)

会話文 の暗唱と実用会話の練習

第9回 第十課 笑一笑, 十年少(1)

会話文 の発音練習と意味の説明

第10回 第十課 笑一笑, 十年少(2)

会話文 の発音練習と意味の説明

第11回 第十課 笑一笑, 十年少(3)

会話文 の暗唱と実用会話の練習

第12回 第十課 笑一笑, 十年少(4)

会話文 の暗唱と実用会話の練習

第13回 第十一課 长辈为先(1)

会話文 の発音練習と意味の説明

第14回 第十一課 长辈为先(2)

会話文 の発音練習と意味の説明

第15回 第十一課 长辈为先(3)

会話文 の暗唱と実用会話の練習

第16回 第十一課 长辈为先(4)

会話文 の暗唱と実用会話の練習

第17回 総合復習と小テスト(1)

既習した内容の総合復習と小テスト(1)

第18回 第十二課 花朵与小皇帝(1)

会話文 の発音練習と意味の説明

第19回 第十二課 花朵与小皇帝(2)

会話文 の発音練習と意味の説明

第20回 第十二課 花朵与小皇帝(3)

会話文 の暗唱と実用会話の練習

第21回 第十二課 花朵与小皇帝(4)

会話文 の暗唱と実用会話の練習

第22回 第十三課 名副其实(1)

会話文 の発音練習と意味の説明

第23回 第十三課 名副其实(2)

会話文 の発音練習と意味の説明

第24回 第十三課 名副其实(3)

会話文 の暗唱と実用会話の練習

第25回 第十三課 名副其实(4)

会話文 の暗唱と実用会話の練習

第26回 第十四課 千年帝都(1)

会話文 の発音練習と意味の説明

第27回 第十四課 千年帝都(2)

会話文 の発音練習と意味の説明

第28回 第十四課 千年帝都(3)

会話文 の暗唱と実用会話の練習

第29回 第十四課 千年帝都(4)

会話文 の暗唱と実用会話の練習

第30回 総合復習と小テスト(2)

既習した内容の総合復習と小テスト(2)

2022年度 後期

2.0単位

中国語検定対策演習

張 麗静

< 授業の方法 >

講義 / 演習

< 授業の目的 >

この科目では、グローバル・コミュニケーション学部のDPに掲げられている「実践的で高度な外国語の運用ができる」ようになることを目指す。

具体的には、日本中国語検定協会の実施する中国語検定試験4級に合格できるだけの中国語力を養成することを目的とする。

< 到達目標 >

1. 常用語500～1000を身につけ、使うことができる。(知識)
2. 自分の力で中国語を発音し、読取り、表現できる。(態度・習慣)
3. 基本的な文章を読み、書くことができる。また、簡単な日常会話ができる。(技能)
4. 中国語基本文の日本語訳と日本語の中国語訳ができる。(技能)
5. 日本中国語検定協会の実施する中国語検定試験4級に合格することができる。(技能)

< 授業のキーワード >

中国語検定試験，4級，ディクテーション，シンクロ・リーディング，シャドーイング

< 授業の進め方 >

中国語検定試験の過去問を元に作成した教材を使い、筆記問題対策とリスニング問題対策を行う。

1. 筆記問題対策

- (1) 中国語基本文例を理解した上に熟読して応用できるようにしておく。
- (2) 基本文例を語順整序または日文中訳の形式で再現する。
- (3) 空欄補充の形式で副詞・前置詞・量詞などの品詞の運用を把握する。

2. リスニング問題対策では、次のように授業を進める。

- (1) 単語・文や文章をディクテーションにする。漢字で書かれた単語・文や文章を発音し、漢字・発音・意味の三者を結びつける。
- (2) 漢字で書かれた単語・文や文章についての解説を聴きながら発音し、漢字・発音・意味の三者を結びつける。
- (3) 漢字で書かれた文や文章をシンクロ・リーディング(音声聴きながら文や文章を音読する)したり、シャドーイング(文字を見ずに音声を聴きながら、できるだけ正確に原文を再現する)し、音声を通して中国語の定着

を図る。

なお、第107回(2022年11月27日)中国語検定試験が終了したあとは、3級対策の授業を行う。

< 履修するにあたって >

・この科目の履修者は第107回 2022年11月27日(日)実施の中国語検定試験を必ず受けなければならない。

・漫然と過去問を解いていても実力は身に付かない。実力を身に付けるためには能動的な学習が必要であり、また、予習・復習が必須である。

・授業の目的は検定試験に合格できるだけの中国語力を養成することであるが、学習の目的は検定試験に合格することではない。検定試験を当面の学習目標と捉えて学習に励んで欲しい。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で勉強した内容の復習を十分に行うこと。配布資料の練習・復習にはそれぞれ1時間程度が必要である。

< 提出課題など >

課題や小テストなどは成績評価の対象となる。提出されたものは評価を記した上で次回授業時に返却する。

< 成績評価方法・基準 >

1. 提出課題・小テスト・出席状況に対する評価を20%、期末試験での得点を80%の割合で評価する。
2. 第107回中国語検定試験4級に合格している場合は、期末試験での得点を満点と見做して評価する。
3. 期末試験の難易度は中国語検定試験4級相当とする。

< テキスト >

授業中、配布する。

< 参考図書 >

相原茂・石田知子・戸沼市子 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』 同学社 2016年 2500円

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

1. ガイダンス
2. 中国語検定について
3. 確認テスト(オンライン授業の場合、中止)

第2回 中国語検定試験4級対策演習(1)

1. リスニング対策
2. 筆記試験対策

第3回 中国語検定試験4級対策演習(2)

1. リスニング対策
2. 筆記試験対策

第4回 中国語検定試験4級対策演習(3)

1. リスニング対策
2. 筆記試験対策

第5回 中国語検定試験4級対策演習(4)

1. リスニング対策

2. 筆記試験対策

第6回 中国語検定試験4級対策演習(5)

1. リスニング対策

2. 筆記試験対策

第7回 中国語検定試験4級対策演習(6)

中国語検定試験4級模擬試験一筆記試験

第8回 中国語検定試験4級対策演習(7)

中国語検定試験4級模擬試験一リスニング

第9回 中国語音声授業(1)

動画視聴 その後、グループによる発表

第10回 中国語音声授業(2)

動画視聴 その後、グループによる発表

第11回 中国語検定試験3級対策演習(1)

1. リスニング対策

2. 筆記試験対策

第12回 中国語検定試験3級対策演習(2)

1. リスニング対策

2. 筆記試験対策

第13回 中国語検定試験3級対策演習(3)

1. リスニング対策

2. 筆記試験対策

第14回 総合復習

中国語検定試験4級一筆記試験問題

第15回 期末試験

中国語検定試験4級レベルに相当する

2022年度 前期

2.0単位

中国語検定対策演習

張 麗静

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

この科目では、グローバル・コミュニケーション学部のDPに掲げられている「実践的で高度な外国語の運用ができる」ようになることを目指す。

具体的には、日本中国語検定協会の実施する中国語検定試験3級に合格できるだけの中国語力を養成することを目的とする。

< 到達目標 >

1. 常用語1000～2000を身につけ、活用できる。(知識)
2. 自分の力で中国語を発音し、読取り、表現できる。(態度・習慣)
3. 基本的な文章を読み、書くことができる。また、簡単な日常会話ができる。(技能)
4. 常用される中国語複文の日本語訳と日本語の中国語訳

ができる。(技能)

5. 日本中国語検定協会の実施する中国語検定試験3級に合格することができる。(技能)

< 授業のキーワード >

中国語検定試験、3級、ディクテーション、シンクロ・リーディング、シャドーイング

< 授業の進め方 >

中国語検定試験の過去問を元に作成した教材を使い、筆記問題対策とリスニング問題対策を行う。

1. 筆記問題対策

(1) 中国語基本文例を理解した上に熟読して応用できるようにしておく。

(2) 基本文例を語順整序または日文中訳の形式で再現する。

(3) 空欄補充の形式で副詞・前置詞・量詞などの品詞の運用を把握する。

2. リスニング問題対策では、次のように授業を進める。

(1) 単語・文や文章をディクテーションにする。漢字で書かれた単語・文や文章を発音し、漢字・発音・意味の三者を結びつける。

(2) 漢字で書かれた単語・文や文章についての解説を聴きながら発音し、漢字・発音・意味の三者を結びつける。

(3) 漢字で書かれた文や文章をシンクロ・リーディング(音声聴きながら文や文章を音読する)したり、シャドーイング(文字を見ずに音声を聴きながら、できるだけ正確に原文を再現する)し、音声を通して中国語の定着を図る。

なお、第106回中国語検定試験が終了したあとは、2級対策の授業を行う。

< 履修するにあたって >

この科目の履修者は第106回 2022年6月26日(日)実施の中国語検定試験を必ず受けなければならない。

漫然と過去問を解いていても実力は身に付かない。実力を身に付けるためには能動的な学習が必要であり、また、予習・復習が必須である。

授業の目的は検定試験に合格できるだけ中国語力を養成することであるが、学習の目的は検定試験に合格することではない。検定試験を当面の学習目標と捉えて学習に励んで欲しい。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で勉強した内容の復習を十分に行うこと。配布資料の練習・復習にはそれぞれ1時間程度が必要である。

< 提出課題など >

課題や小テストなどは成績評価の対象となる。提出されたものは評価を記した上で次回授業時に返却する。

< 成績評価方法・基準 >

1. 提出課題・小テスト・出席状況に対する評価を20%、期末試験での得点を80%の割合で評価する。

2. 第106回中国語検定試験4級に合格している場合は、期

末試験での得点を満点と見做して評価する。

3. 期末試験の難易度は中国語検定試験3級相当とする。

< テキスト >

授業中、配布する。

< 参考図書 >

相原茂・石田知子・戸沼市子 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』 同学社 2016年 2500円

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

1. ガイダンス

2. 確認テスト

第2回 中国語検定試験3級対策演習(1)

1. リスニング対策

2. 筆記試験対策

第3回 中国語検定試験3級対策演習(2)

1. リスニング対策

2. 筆記試験対策

第4回 中国語検定試験3級対策演習(3)

1. リスニング対策

2. 筆記試験対策

第5回 中国語検定試験3級対策演習(4)

1. リスニング対策

2. 筆記試験対策

第6回 中国語検定試験3級対策演習(5)

1. リスニング対策

2. 筆記試験対策

第7回 中国語検定試験3級対策演習(6)

1. リスニング対策

2. 筆記試験対策

第8回 中国語検定試験3級対策演習(7)

1. 中国語検定試験3級模擬練習ーリスニング

第9回 中国語検定試験3級対策演習(8)

1. 中国語検定試験3級模擬練習ー筆記試験

第10回 中国語音声授業(1)

動画視聴ーグループで発表

第11回 中国語音声授業(2)

動画視聴ーグループで発表

第12回 中国語検定試験2級対策演習(1)

1. リスニング対策

2. 筆記試験対策

第13回 中国語検定試験2級対策演習(2)

1. リスニング対策

2. 筆記試験対策

第14回 中国語検定試験2級対策演習(3)

1. リスニング対策

2. 筆記試験対策

第15回 期末試験

中国語検定試験3級レベルに相当する。

2022年度 後期

2.0単位

中国語検定対策演習

眞島 淳

< 授業の方法 >

対面授業

講義

< 授業の目的 >

この授業は、学部DPIに掲げる「実践的で高度な外国語の運用ができる」、「言語の基礎にある多様な社会、文化、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目指す。

この授業では3年次前期までに習得した単語や文法事項の復習・整理を行いながら、中国語検定2級を取得することのできる中国語力を養成することを目的とする。

さらに、中国語学習を通して、中国語圏の文化の多様性を認識し、異文化に対する興味・関心を深めることもこの授業の目的である。

< 到達目標 >

2000語程度の常用中国語単語をみにつけ、使用することができる。特に、常用される熟語や慣用句の意味を理解し、常用される語句の解釈ができる。(知識)

複文を含むやや高度な中国語の文章を読むことができる。(技能)

中国語検定試験3級程度の文章を書くことができる。

(技能)

日常的な話題での会話を行うことができる。(技能)

500字程度の中国語の文章の部分訳を行うことができる。(技能)

30字程度の単文の中国語訳を行うことができる。(技能)

中国語検定2級に合格することができる(技能)

< 授業のキーワード >

中国語検定試験、2級、リスニング、読解、作文、会話

< 授業の進め方 >

授業の進め方

小テストを行う。

配布されたスクリプトを参考に予習した内容のチェックを行う。

全体で音源を聴く(リスニング問題)。

解説を行いながら、全体で発音練習を行う。

< 履修するにあたって >

予習 授業 復習の学習サイクルを徹底すること。授業に欠席、遅刻をしないこと。

講義中は受講ルール、マナーを遵守すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画で示された内容に沿って、以下の事前・事後学習を行うこと。

【事前学習】（目安：最低1時間）

リスニング：

次回の学習範囲の音源を聴いて、ディクテーションを行い、ピンインを付しておく。

次回の学習範囲の問題を解いておく。

筆記問題：

次回の学習範囲の問題を解いておく。

意味の分からない語句意味を調べる。

筆記問題の1・4については、文章をノートに書きだして、ピンインをつけておく。

【事後学習】（目安：最低1時間）

リスニング問題：

ディクテーションを行い、音声を聞いて漢字・ピンインで書きとれるように練習する。

音源につけて音読する。

筆記問題：

自分が覚えていない語句を書いて覚える。

筆記問題の2・3・5については例文を暗記する。

<提出課題など>

毎回、予習や復習の内容を課題として提出してもらう。

授業の最後にミニツカードに記入してもらう。カードに記入されたことについて、次回の授業においてフィードバックを行う。

<成績評価方法・基準>

成績評価の前提として前授業回数の3分の2以上の出席を必要とする。出席が3分の2に達しない場合は単位を認めないので注意すること。

以下の割合で総合的に評価する。

定期試験40%

小テスト20%

課題20%

授業での発表10%

中国語検定試験受験結果への評価10%

学期中に中国語検定試験2級を取得した場合、または既に取得している場合は満点(10%)を与え、3級についてはその半分(5%)を与える。

<テキスト>

プリント教材を配布する。

<参考図書>

「Why?にこたえるはじめての中国語の文法書」（相原茂・石田知子・戸沼市子著、1996年、同学社、2500円税別）

「完全マスター 中国語の文法 改訂版」（瀬戸口律子著、2003年、語研、2400円税別）

「どう違う？例文で覚える中国語類義語1000」（北京大学出版社『留学生常用词语辨析500组』日本語版 平

山邦彦監修、2010年、アスク出版、2500円税別）

他の参考図書については授業において適時紹介する。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

中検第99回2級

オリエンテーション

リスニング問題【1】

筆記問題【5】

第2回 中検第99回2級

リスニング問題【2】

筆記問題【5】

第3回 中検第99回2級

筆記問題【1・2】

第4回 中検第99回2級

筆記問題【3・4】

第5回 中検第100回2級

リスニング問題【1】

筆記問題【5】

第6回 中検第100回2級

リスニング問題【2】

筆記問題【5】

第7回 中検第100回2級

筆記問題【1・2】

第8回 中検第100回2級

筆記問題【3・4】

第9回 中検第101回2級

リスニング問題【1】

筆記問題【5】

第10回 中検第101回2級

リスニング問題【2】

筆記問題【5】

第11回 中検第101回2級

筆記問題【1・2】

第12回 中検第101回2級

筆記問題【3・4】

第13回 中検第102回2級

リスニング問題【1】

筆記問題【5】

第14回 中検第102回2級

リスニング問題【2】

筆記問題【5】

第15回 中検第102回2級

筆記問題【1・2・3・4】

2022年度 後期

2.0単位

中国語検定対策演習

池田 磨左文

< 授業の方法 >

対面授業

講義

< 授業の目的 >

この授業は、学部DPに掲げる「実践的で高度な外国語の運用ができる」、「言語の基礎にある多様な社会、文化、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目指す。

この授業では3年次前期までに習得した単語や文法事項の復習・整理を行いながら、中国語検定2級を取得することのできる中国語力を養成することを目的とする。さらに、中国語学習を通して、中国語圏の文化の多様性を認識し、異文化に対する興味・関心を深めることもこの授業の目的である。

< 到達目標 >

2000語程度の常用中国語単語をみにつけ、使用することができる。特に、常用される熟語や慣用句の意味を理解し、常用される語句の解釈ができる。(知識)

複文を含むやや高度な中国語の文章を読むことができる。(技能)

中国語検定試験3級程度の文章を書くことができる。

(技能)

日常的な話題での会話を行うことができる。(技能)

500字程度の中国語の文章の部分訳を行うことができる。

(技能)

30字程度の単文の中国語訳を行うことができる。(技能)

中国語検定2級に合格することができる(技能)

< 授業のキーワード >

中国語検定試験、2級、リスニング、読解、作文、会話

< 授業の進め方 >

授業の進め方

小テストを行う。

配布されたスクリプトを参考に予習した内容のチェックを行う。

全体で音源を聴く(リスニング問題)。

解説を行いながら、全体で発音練習を行う。

< 履修するにあたって >

予習 授業 復習の学習サイクルを徹底すること。授業に欠席、遅刻をしないこと。

講義中は受講ルール、マナーを遵守すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画で示された内容に沿って、以下の事前・事後学習を行うこと。

【事前学習】(目安:最低1時間)

リスニング:

次回の学習範囲の音源を聴いて、ディクテーションを行い、ピンインを付しておく。

次回の学習範囲の問題を解いておく。

筆記問題:

次回の学習範囲の問題を解いておく。

意味の分からない語句意味を調べる。

筆記問題の1・4については、文章をノートに書きだして、ピンインをつけておく。

【事後学習】(目安:最低1時間)

リスニング問題:

ディクテーションを行い、音声を聞いて漢字・ピンインで書きとれるように練習する。

音源につけて音読する。

筆記問題:

自分が覚えていない語句を書いて覚える。

筆記問題の2・3・5については例文を暗記する。

< 提出課題など >

毎回、予習や復習の内容を課題として提出してもらう。

授業の最後にミニツカードに記入してもらう。カードに記入されたことについて、次回の授業においてフィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >

成績評価の前提として前授業回数の3分の2以上の出席を必要とする。出席が3分の2に達しない場合は単位を認めないので注意すること。

以下の割合で総合的に評価する。

定期試験40%

小テスト20%

課題20%

授業での発表10%

中国語検定試験受験結果への評価10%

学期中に中国語検定試験2級を取得した場合、または既に取得している場合は満点(10%)を与え、3級についてはその半分(5%)を与える。

< テキスト >

プリント教材を配布する。

< 参考図書 >

「Why?にこたえるはじめての中国語の文法書」(相原茂・石田知子・戸沼市子著、1996年、同学社、2500円税別)

「完全マスター 中国語の文法 改訂版」(瀬戸口律子著、2003年、語研、2400円税別)

「どう違う? 例文で覚える中国語類義語1000」(北京大学出版社『留学生常用词语辨析500组』日本語版 平

他の参考図書については授業において適時紹介する。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

中検第99回2級

オリエンテーション

リスニング問題【1】

筆記問題【5】

第2回 中検第99回2級

リスニング問題【2】

筆記問題【5】

第3回 中検第99回2級

筆記問題【1・2】

第4回 中検第99回2級

筆記問題【3・4】

第5回 中検第100回2級

リスニング問題【1】

筆記問題【5】

第6回 中検第100回2級

リスニング問題【2】

筆記問題【5】

第7回 中検第100回2級

筆記問題【1・2】

第8回 中検第100回2級

筆記問題【3・4】

第9回 中検第101回2級

リスニング問題【1】

筆記問題【5】

第10回 中検第101回2級

リスニング問題【2】

筆記問題【5】

第11回 中検第101回2級

筆記問題【1・2】

第12回 中検第101回2級

筆記問題【3・4】

第13回 中検第102回2級

リスニング問題【1】

筆記問題【5】

第14回 中検第102回2級

リスニング問題【2】

筆記問題【5】

第15回 中検第102回2級

筆記問題【1・2・3・4】

2022年度 前期

2.0単位

中国語研究

胡 士雲

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この科目は、G C 学部の D P に示す、実践的で高度な外国語の運用ができることを目指す。

この科目は大学院への受験や中国語の研究を想定し、学習者の高い語学力を養うことを重点とする。具体的には、すでに学習した内容をまとめ、文字・語音・語彙・語法などの分野を分け、中国語の歴史や共通語と方言、言語と文化などの内容を含む研究論文を講読し、系統的な中国語の知識を学習し把握する。その上で、学習者個人の興味に応じて、語学研究を指導する。

< 到達目標 >

- 1) 中国語学の全体像を身に付ける。(知識)
- 2) 興味がある研究分野を考えて、語学研究の方法を身に付ける。(技能)
- 3) 関係分野の研究論文を読み、研究的な短文を書ける。(技能)

< 授業のキーワード >

中国語研究、中国語の小論文

< 授業の進め方 >

- 1) 中国語研究における各分野の論文を精読し、研究方法について説明する。
- 2) 身に付けた研究方法を活用し、研究的な短文の書く練習をする。

< 履修するにあたって >

- 1) 語学研究の精神を常に持ち、興味ある研究分野を見つける。
- 2) 中国語の語学力を継続にアップし、研究文章を精読する能力を養う。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画の各回で指示された内容を繰り返し練習すること。

事前学習として、授業の対象となる論文を精読すること。(1時間程度)

事後学習として、授業内容を再確認し、可能限り多くの中国語の語学論文を読み、自分が興味のある研究テーマを深く考えること。(1時間程度)

< 提出課題など >

指示に従って課題を提出する。提出されたものは次の授業でコメント、解説を行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業の取り組み状況 50%、小論文 50%

< テキスト >

授業中に配布したプリント

< 授業計画 >

- 第1回 中国語の研究について(1)
中国語の研究について説明する
- 第2回 中国語の研究について(2)
中国語の研究について説明し、研究テーマを選ぶ
- 第3回 中国語語学論文を読む(1)
中国語の音声に関する研究論文を読む(1)
- 第4回 中国語語学論文を読む(2)
中国語の音声に関する研究論文を読む(2)
- 第5回 中国語語学論文を読む(3)
中国語の語彙に関する研究論文を読む(1)
- 第6回 中国語語学論文を読む(4)
中国語の語彙に関する研究論文を読む(2)
- 第7回 中国語語学論文を読む(5)
中国語の文法に関する研究論文を読む(1)
- 第8回 中国語語学論文を読む(6)
中国語の文法に関する研究論文を読む(2)
- 第9回 中国語語学論文を読む(7)
中国語の歴史に関する研究論文を読む
- 第10回 中国語語学論文を読む(8)
漢字に関する研究論文を読む
- 第11回 小論文の作成(1)
研究テーマを確定し、資料収集方法などについて、個別指導を行う。
- 第12回 小論文の作成(2)
中国語で研究小論文を作成する(1)
- 第13回 小論文の作成(3)
中国語で研究小論文を作成する(2)
- 第14回 小論文の発表(1)
作成した小論文を発表する(1)
- 第15回 小論文の発表(2)
作成した小論文を発表する(2)

2022年度 後期

2.0単位

中国語専攻演習

胡 土雲

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この科目は、GC学部のDPに示す、実践的で高度な外国語の運用ができることを目指す。

この科目は中国語コース演習(履修必修)科目に位置付けられる。授業は中国語に関する基本的な知識を深めることを最も重要な目的とする。授業では、言語学の基本知識、中国語の音声とその表記であるピンイン、中国語と日本語との異同等を説明する。また授業では、言語学に対する興味を育み、研究者の育ちを狙う。

< 到達目標 >

- 1) 言語学の基礎知識を習得することができる。(知識)
- 2) 中国語と日本語との異同点を深く理解することができる。(知識)
- 3) 中国語学に対する興味を引き出すことができる。(態度・習慣、技能)

< 授業のキーワード >

言語学基礎、中国語の音声・文法、漢字、中国語と日本語の異同

< 授業の進め方 >

- 1) 言語学の基礎知識の説明を重点とし、分かりやすく説明する。
- 2) 授業効果を確認するため、授業内容をまとめた受講カードを回収する。
- 3) 次回の授業の最初に、前回の授業内容を復習する。

< 履修するにあたって >

語学の専門的な授業なので、授業内容を理解したかどうかを常に確認すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画の各回で指示された内容を繰り返し練習すること。

事前学習として、授業の対象となる教科書の箇所を読み込んでおくこと。(1時間程度)

事後学習として、授業内容を再確認し、それに関する知識を深く学習し、また、日本語の音声・文法・漢字に関する知識に留意すること。(1時間程度)

< 提出課題など >

毎回の授業終了時に、受講カードを提出する。提出された授業カードは次の授業でコメント、解説を行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業の取り組み状況は90%、期末レポートは10%

< テキスト >

配布したプリント

< 授業計画 >

- 第1回 中国語の音声(1)
音声と音声学について
- 第2回 中国語の音声(2)
中国語の音声系統(1)
- 第3回 中国語の音声(3)
中国語の音声系統(2)
- 第4回 中国語の音声(4)
中国語の音声系統(3)
- 第5回 中国語の音声(5)
漢語ピンイン方案
- 第6回 中国語の音声(6)
中国語の表音文字の歩み
- 第7回 中国語の音声(7)
中国語の標準語と方言
- 第8回 中国語の音声(8)

中国語の音声の歴史的な変化

第9回 中国語の文法(1)

中国語の文法の基礎(1)

第10回 中国語の文法(2)

中国語の文法の基礎(2)

第11回 中国語の文法(3)

中国語の文法の基礎(3)

第12回 中国語の文法(4)

中国語の文法の基礎(4)

第13回 中国語の文字(1)

漢字の歩み(1)

第14回 中国語の文字(2)

漢字の歩み(1)

第15回 中国語の文字(3)

中国の文字改革と中日の漢字

2022年度 後期

2.0単位

中国語専攻演習

大濱 慶子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本演習は、学部のDPに掲げる以下の内容と関わる授業である。

1. 実践的で高度な外国語の運用ができる。
2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる。
3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる。

中国語を専攻する学生は将来さまざまなシーンで国際交流の架け橋としての能力が求められます。この授業では、日中の文化教育交流、特に神戸の中の国際交流について探究します。さまざまな異文化を受け入れてきた国際港湾都市神戸の歴史や多元的魅力を掘り起こし、文献調査、量的・質的調査、フィールドワーク、国際比較研究など社会学、教育学、文化史の初歩的な方法論を学び、かつこれらの方法を用いて調査分析を行うことにより、4年次の卒業研究の基礎づくりを行うことを目的としています。

< 到達目標 >

- 1) 神戸の中の国際交流や日中文化教育諸活動についてリサーチし、自分の考えを論理立てて述べるができる。
- 2) 国際文化交流の実態を明らかにするための調査方法を身につけることができる。
- 3) 地元の身近な異文化交流に関心を持ち、日本語や中

国語で書かれた資料を調べ、世界とのつながりや課題を発見し、掘り下げていくことができる。

4) データを収集分析、要約、整理し、その成果を発表、発信することができる。

< 授業のキーワード >

日中文化交流 神戸 国際比較 質的・量的調査 フィールドワーク

< 授業の進め方 >

1) 担当教員やゼミ生と議論をしたり、フィードバックを受けながら進めます。

2) 神戸の国際交流、異文化理解を深めるため、ゲストスピーカーを招いた講演や博物館、地元商店街振興組合訪問、フィールドワークの機会などを設けたいと思います。

3) 受講生は神戸と国際交流に関する文献資料を読み、基礎的情報を調べ、研究概要を作成し、PPTによる課題を提出します。

< 履修するにあたって >

1) 授業時間は、受講生の自主的な学習、調査、課題の取り組みの成果の報告・発表の場でもあり、このような取り組みや実践を通して専門的な知識を習得し、論理的な思考や創造性を開発していくことを目標としています。

2) 演習の運営もゼミ生が自主的にを行います。

3) 発表の日時や課題提出期限は必ず守ること。

4) 進捗状況やその他の事情により、予定は変更になる場合もあります。

< 授業時間外に必要な学修 >

指定の課題について事前によく調べ、しっかり準備して授業に参加すること。授業時間外学習は目安として1時間程度とする。

< 提出課題など >

主題ごとに課題の提出を求める。

PPTによる最終の成果物の提出。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度、報告、質疑応答、課題の取り組み状況 (45% 3% × 15)

文献調査の報告 (20%)

PPTによる発表 (10%)

最終成果物の完成度、提出 (25%) を総合して評価します。

< テキスト >

そのつど指示し、資料を配付する。

< 授業計画 >

第1回 インTRODクシヨソ

教員の専門分野、研究の説明、授業の進め方についてのオリエンテーション

第2回 日中文化教育交流、神戸の異文化交流の歴史

日中文化教育交流、神戸の外国文化、歴史に関する概説

第3回～第5回 文献調査

日中文化教育交流、神戸の国際交流を題材とした研究テーマの設定、文献調査の報告

第6回 研究方法、調査方法について

文献調査、量的・質的調査、フィールドワーク、国際比較研究など社会学、教育学、文化史の研究手法、調査方法について学ぶ

第7回 国際文化交流

専門家による講演会

第8回 フィールドワーク

博物館、南京町商店街振興組合訪問など

第9回～第11回 リサーチ

調査実施、資料・データ収集と分析、整理

第12回～第14回 調査研究の報告会

各自、各グループ、パワーポイントによる研究発表

第15回 研究課題の完成

各自、各グループの研究課題の完成と提出 総評

卒業研究の説明

第13回

第14回

第15回

2022年度 後期

2.0単位

中国語専攻演習

大濱 慶子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

語学を専門に志す人は将来さまざまなシーンで国際交流の架け橋としての能力が求められます。本演習では、中国の文化教育交流をテーマとして設定します。学部のDPIに掲げる言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識やよりアカデミックなスキルを身につけることを目的とし、国際比較の方法、量的・質的調査など教育学、社会学の初歩的な方法論や知識を学びます。

本年度のテーマとして、神戸の中の国際交流について研究します。

< 到達目標 >

1) 神戸の中の国際交流や日中文化教育諸活動について理解を深め、自分の考えや意見を論理立てて述べる事ができる。

2) 国際文化交流の実態を明らかにするための調査方法について理解できるようになる。

3) 身近な国際文化交流に関心を持ち、日本語もしくは中国語で書かれた資料を調べたり、自ら課題を発見する

事ができる。

4) データを収集分析、要約、整理し、その成果を発表、発信することができる。

< 授業のキーワード >

日中文化交流 国際比較 質的・量的調査 神戸

< 授業の進め方 >

1) 担当教員やゼミ生で議論をしたり、フィードバックを受けながら進めます。

2) 国際文化交流への理解を深めるためのリサーチの機会を設けたいと思います。

3) 受講生は神戸と国際交流に関する文献資料を読み、基礎的情報を調べ、研究概要を作成し、PPTによる課題を提出します。

< 履修するにあたって >

1) 授業時間は、受講生の自主的な学習、調査、課題の取り組みの成果の報告・発表の場でもあり、このような取り組みや実践を通して専門的な知識を習得し、論理的な思考や創造性を開発していくことを目標としています。

2) 演習の運営もゼミ生が自主的にを行います。

3) 発表の日時や課題提出期限は必ず守ること。

4) 進捗状況やその他の事情により、予定は変更になる場合もあります。

< 授業時間外に必要な学修 >

指定の課題について事前によく調べ、しっかり準備して授業に参加すること。授業時間外学習は目安として1時間程度とする。

< 提出課題など >

主題ごとに課題の提出を求める。

PPTによる最終の成果物の提出。

課題の提出はdotCampusなどを通じて行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度、報告、質疑応答、課題の取り組み状況 (30%)

研究テーマ・内容の報告 (20%)

PPTによる最終成果物の完成度、提出 (50%) を総合して評価します。

< テキスト >

そのつど指示し、資料を配付する。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

教員の専門分野、研究の説明、授業の進め方についてのオリエンテーション

第2回 国際比較の方法 (1)

比較の方法、量的・質的調査の方法、オンラインディスカッションの方法について学ぶ

第3回 国際比較の方法 (2)

神戸の国際交流を題材とした研究テーマの設定、報告

第4回～第7回 神戸の日中文化教育交流の歴史を知る

神戸の中の国際交流 各自研究テーマの報告 教員のフィードバック、研究概要の提出

第9回 国際文化交流

専門家による講演会

第9回、第10回 リサーチ

資料・データ収集と分析、整理

諸問題、諸事象について幅広く議論を行う パワーポイントの作成

第11回～第13回 研究報告会

神戸の中の国際交流成果報告

各自、各グループ、パワーポイントによる研究発表

第14回、第15回 研究課題の完成

パワーポイントによる各自、各グループの研究課題の完成と提出 総評

2022年度 後期

2.0単位

中国語専攻演習

大濱 慶子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本演習は、学部のDPに掲げる以下の内容と関わる授業である。

1. 実践的で高度な外国語の運用ができる。
2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる。
3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる。

この授業では受講生がセメスター留学代替授業で得た知識や体験を定着させ、4年次の卒業研究へつなげるためのより専門的なアカデミックスキルを養います。卒業後のキャリア見据え、就職活動の準備の一環として、将来中国語を生かし、日中の架け橋となってどのような社会貢献ができるか、具体的な将来像を考えてもらいます。

< 到達目標 >

- 1) セメスター留学の知識や経験を定着させ、生身の経験を研究に応用することができる。
- 2) 公文書、統計資料、史資料、新聞雑誌の検索、扱い方、引用の仕方、論文の書き方など4年次の卒業研究に必要なスキルを身に付けることができる。
- 3) OPACやより専門的な各種データベースの検索・収集・分析方法を学び、これらを利用して報告書やレポートを書くことができる。
- 4) 中国語を生かした受講生各自の将来のキャリアや社会貢献について真剣に考える場とする。
- 5) プレゼンテーションスキルを磨くことができる。

6) 多様な業界を理解し、4年次の卒業研究や就活につなげることができる。

< 授業のキーワード >

留学経験 中国語 アカデミックスキル 卒業研究 将来のキャリア

< 授業の進め方 >

- 1) 前半はセメスター留学代替授業の成長記や中国の大学について報告してもらいます。
- 2) 4年次卒業研究の準備として、より専門的な情報検索の方法やデータベースの扱い方を学びます。
- 3) 就活の準備の一環として、中国語を生かした将来のキャリアや業界リサーチ、日中の架け橋となってどのような社会貢献ができるか各自真剣に考え、プレゼンテーションをしてもらいます。
- 4) 中国を舞台に活躍しているゲストスピーカーをお招きしてお話いただく機会を設けます。

< 履修するにあたって >

- 1) 授業時間は、受講生の自主的な学習、調査、課題の取り組みの成果の報告・発表の場でもあり、このような取り組みや実践を通して専門的な知識を習得し、論理的な思考や創造性を開発していくことを目標としています。
- 2) 演習の運営もゼミ生が自主的に行います。
- 3) 他の受講生に迷惑がかからないよう、発表日は必ず守ること。欠席や遅刻をしないことが前提となります。
- 4) 自分の発表ばかりでなく、他の受講生の発表にも耳を傾け、建設的な質問をし、全員で知識や情報共有をすることが大切です。
- 5) 進捗状況やその他の事情により、予定は変更になる場合もあります。

< 授業時間外に必要な学修 >

指定の課題を事前に調べ、しっかり準備して授業に参加すること。

目安として1時間程度の準備をしてください。発表後の事後学習も大事な作業となります。

< 提出課題など >

1. 主題ごとに課題の提出を求める。課題については授業で講評を行う。
2. 最終のプレゼンテーション・報告の提出。最終報告についても総評を行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度、課題の取り組み状況 (45% 3×15回)

セメスター代替授業、中国の高等教育、大学についての報告 (20%)

最終プレゼンテーション、成果物の完成度 (35%) を総合して評価します。

< テキスト >

そのつど指示し、資料を配付する。

< 授業計画 >

第1回 イン트로ダクション

授業の進め方についてのオリエンテーション
セメスター留学代替授業の経験の共有、受講者の関心の
所在の発表、確認

第2回 リサーチの方法(1)

書館での情報探索講座(OPAC、各種データベースの検索
方法、論文の作成、準備などについて、専門的な情報収
集・分析方法について学ぶ)

第3回 中国の高等教育、大学について(1)

中国の大学、教育と社会の諸相や実態について受講生が
報告し、ディスカッションを行う。

第4回 中国の高等教育、大学について(2)

中国の言語教育の状況、日本との類似点、相違点、諸問
題、諸事象について受講生が報告し、幅広く議論を行う。

第5回 中国の高等教育、大学について(3)

中国と社会諸事象や異文化体験について受講生が報告し、
ディスカッションを行う。

第6回 将来のキャリアについて

将来のキャリアについて社会人やゲストスピーカーにお
話しいただく。

第7回 リサーチ(1)

グローバル化における業界リサーチ 各自のテーマ設定

第8回~10回 リサーチ(2)

資料・データ収集と分析、整理

第11回 プレゼンテーションの準備

口頭発表のための資料作成。

第12回~第14回 ゼミ発表会(1)、(2)、(3)

テーマごとに課題の成果のプレゼンテーション

発表後、全体討論を行い、報告書作成

第15回 総評と振り返り

総括 報告書の提出 卒業研究、就活へつなげる

第13回

第14回

第15回

2022年度 前期

2.0単位

中国語専攻演習

胡 土雲

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、GC学部のDPに示す、言語の基礎にある
多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広
い知識や教養を身に付けることができる、と関連科目で
す。

中国語コースの学生として、中国のことを多めに知っ
た上に理解することが重要である。授業では、中国に関
する多方面の知識を習得し、現代中国社会を理解し、語
学力やコミュニケーション能力のアップすることを目指
す。

< 到達目標 >

1) 中国に関する知識を広げ、現代中国社会を中心にし
て中国のことを正しく理解することができる。(知識、
態度・習慣)

2) 中国人とのコミュニケーションをとる際に、できる
限り誤解が出ないようにする。(態度・習慣)

3) 異文化の尊重と理解の意識を常に持つことになる。
(態度・習慣)

< 授業のキーワード >

中国社会、理解、コミュニケーションに役に立つ

< 授業の進め方 >

1) マスコミの報道を利用し、中国に関する政治や経済、
文化などの記事を読み、現代中国事情を紹介し、特に中
日の相違点を重視する。

2) 授業効果を確認するため、毎回授業内容に関する議
論をし、授業終了時にまとめた受講カードを提出する。

3) 理解しやすくするため、動画や写真なども活用する。

< 履修するにあたって >

1、授業中に、授業内容を理解したかどうかを常に確認
すること。

2、マスコミの報道を常に興味を持つこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画の各回で指示された内容を繰り返し確認するこ
と。

事前学習として、授業の対象となる内容を予習するこ
と。(1時間程度)

事後学習として、授業内容を再確認し、日本のマスコ
ミに報道された中国に関する情報に留意すること。(1
時間程度)

< 提出課題など >

毎回の授業終了後に、受講レポートを提出する

< 成績評価方法・基準 >

授業の取り組み状況90%、期末レポート10%

< テキスト >

授業中に資料を配布する

< 授業計画 >

第1回 現代中国社会(1)

授業の直前に決める

第2回 現代中国社会(2)

授業の直前に決める

第3回 現代中国社会(3)

授業の直前に決める

第4回 現代中国社会(4)

授業の直前に決める

第5回 現代中国社会(5)

授業の直前に決める

第6回 現代中国語(6)

授業の直前に決める

第7回 現代中国語(7)

授業の直前に決める

第8回 現代中国語(8)

授業の直前に決める

第9回 現代中国語(9)

授業の直前に決める

第10回 現代中国語(10)

授業の直前に決める

第11回 現代中国語(11)

授業の直前に決める

第12回 現代中国語(12)

授業の直前に決める

第13回 現代中国語(13)

授業の直前に決める

第14回 現代中国語(14)

授業の直前に決める

第15回 現代中国語(15)

授業の直前に決める

2022年度 前期

2.0単位

中国語専攻演習

大濱 慶子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本演習は、学部のDPに掲げる以下の内容と関わる授業である。

1. 実践的で高度な外国語の運用ができる。
2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる。
3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる。

3年間で身につけた語学力を運用して4年次の卒業論文、卒業研究作成へ向けたより専門的なアカデミックスキルやアカデミックライティングの修得をめざすことを目的とする。

< 到達目標 >

- 1) 受講生一人一人が問題意識を持ち、中国語を活かした研究テーマを設定することができる。
- 2) 公文書、統計資料、史資料、新聞雑誌の検索、扱い方、引用の仕方、論文の書き方など4年次の卒業研究に必要なスキルを身につけることができる。
- 3) OPACやより専門的な各種データベースの検索・収集

・分析方法を学び、これらを使用して報告書を作成することができる。

4) 受講生の研究テーマに関連する文献を精読し、分析する力を養うことができる。

5) 卒業論文の書き方を学ぶことができる。

< 授業のキーワード >

中国語 アカデミックスキル アカデミックライティング 文献精読 卒業研究 卒業論文

< 授業の進め方 >

- 1) 履修者の関心に沿った研究テーマを設定し、文献・資料収集に取り組む。
- 2) 研究テーマの先行研究をリサーチし、文献リストを作成する。
- 3) 文献リストの中から日本語・中国語の文献を精読する。
- 4) 4年次卒業研究作成に向け、専門的な情報検索の方法やデータベースの扱い方を学ぶ。
- 5) アカデミックライティングの方法を学ぶ。
- 6) 研究テーマに基づく調査を実施し、データを収集、分析する。
- 7) 調査結果を発表する。

< 履修するにあたって >

- 1) 授業時間は、受講生の自主的な学習、調査、課題の取り組みの成果の報告・発表の場でもあり、このような取り組みや実践を通して専門的な知識を習得し、論理的な思考や創造性を開発していくことを目標としています。
- 2) 他の受講生に迷惑がかからないよう、発表日は必ず守ること。欠席や遅刻をしないことが前提となります。
- 3) 自分の発表ばかりでなく、他の受講生の発表にも耳を傾け、建設的な質問をし、全員で知識や情報共有をすることが大切です。

< 授業時間外に必要な学修 >

指定のワークや課題を事前に調べ、しっかり準備して授業に参加すること。

目安として1時間程度の準備をしてください。

< 提出課題など >

1. 主題ごとに課題の提出を求める。課題については授業で講評を行う。
2. 最終報告についても総評を行う。

< 成績評価方法・基準 >

1. 授業への参加度、課題の取り組み状況 (45% 3×15回)
2. 研究テーマに沿った文献リストの作成 (10%)
3. 文献調査の報告 (20%)
4. 調査分析結果の発表 (最終プレゼンテーション)、報告書成果物の完成度 (25%) を総合して評価します。

< テキスト >

そのつど指示し、資料を配付する。

< 授業計画 >

第1回 インTRODクシヨン

授業の進め方についてのオリエンテーション

受講者の関心の所在の発表、確認

第2回 アカデミックライティング

アカデミックライティング、論文の書き方についての解説

第3回 研究テーマの設定

受講生の問題関心に沿った研究テーマの設定

第4回 文献資料収集、分析について

OPAC、各種データベースの検索方法、論文の作成、準備などについて、専門的な情報収集・分析方法について学ぶ

第5回 先行研究の調査(1)

受講生各自のテーマに沿った先行研究調査、文献リサーチ

第6回 先行研究の調査(2)

受講生各自のテーマに沿った先行研究調査、分析

第7回 文献リスト作成

文献リストの作成

第8回～第10回 文献の精読、発表

先行研究の精読と発表

第11回 研究方法について

量的調査、質的調査、資料調査、インタビュー調査、フィールドワークなど様々な研究方法について学ぶ

第12回、第13回 調査の実施、分析

受講生の研究テーマに基づいた調査の実施、資料・データ分析、整理

第14回 調査分析結果の発表

調査の分析結果の報告、全体討論、報告書作成

第15回 総評と振り返り

総括 報告書の提出

2022年度 前期

2.0単位

中国語読解 (ア)

大濱 慶子、山田 晃三

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業は学部のDPに掲げる実践的で高度な外国語の運用力習得を目的とする中国語コース基本外国語(履修必修)科目に位置付けられる。

「中国語読解」では、中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、発音やピンイン(ローマ字による中国語表記法)、基本文法を身につける。特に「読む」、「書く」の能力

の向上に重点を置き、中国語で表現し、コミュニケーションをはかるための基礎力の習得をめざす。日常会話など実用的な場面と結びつけ、中国語に慣れ親しみながら、中国語の発想法の背後にある中国の社会や文化への理解を深めることができるようにする。

なお、この科目の担当者大濱は翻訳研究機関で十年以上にわたり日中翻訳業務に従事してきた実務経験のある教員である。山田講師も中国で長年メディア関係の仕事や崑劇の交流活動に従事してきた実務経験者である。中国語を専門に学んでいく受講生が将来像をイメージできるように、経験談や解説を加えながら授業を進めたい。

< 到達目標 >

中国語の発音とピンインをマスターし、自分で正確に発音ができるようになる。

中国語の基本文法を理解し、簡単な置き換えができるようになる。

日常的な事柄が中国語で表現できるようになる。

自己紹介など、実践に即した中国語運用能力を身につける。

< 授業のキーワード >

中国語 発音とピンイン 基本文法

< 授業の進め方 >

「中国語読解」では、簡体字とピンインを併用した北京語言大学編纂の教材を用い、「中国語会話」、「中国語表現」と並行して継続した学習を行うことにより、中国語の基本文法、基本表現、語彙力の定着と向上をめざします。

1) 中国語の発音とピンインを正確にマスターする。

2) 日本語の漢字との相似点・相違点を確認しながら、中国語独自の漢字表記(簡体字)を学ぶ。

3) 文法事項を段階を追って学び、短文を読む練習や作文力を身につける練習を行う。

4) 随時小テストを行い、習得状況の確認を行う。

5) 中間試験と期末試験を行い、到達度を測る。

6) 『中国語基本単語帳』を使って語彙力を高めます。

7) 適宜視聴覚教材を使用し、中国の文化や社会への理解を深める。

8) 「中国語読解」は大濱教員と山田講師が交互に担当します。

< 履修するにあたって >

特に中国語の初修者が基礎固めをするために毎回の授業の予習復習は不可欠です。教科書の本文や例文を何度も声に出して読んだり、書いたりして覚える学習を習慣化し、確実に自分のものにしてください。

毎回遅刻をせず、必ず出席すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎週、授業の中で小テストを行います。

受講前、「新出単語」の意味と発音を辞書で調べ、「練習」問題を自分の力でやっておくこと。受講後、できな

かった問題をよく見なおすこと。
シラバスの授業計画の各回にテキストの予習・復習箇所を明示します。

少なくとも1時間程度は予習・復習をすること。

< 提出課題など >

提出課題は、授業の中で解説します。

< 成績評価方法・基準 >

授業への取り組み状況 40点 (大濱20点 山田20点)

発音テスト(10点)

中間試験 20点(大濱10点 山田10点)

期末試験 30点(大濱15点 山田15点)

< テキスト >

康玉華 来思平著『新訳第3版 中国語会話301』上・下 語文研究社 各1300円

早稲田大学商学部中国語教室『中国語基本単語帳』朝日出版社 2021年 1600円

< 参考図書 >

『中日辞典 第3版』北京商務印書館・小学館共同編集 (小学館)

相原茂 石田知子 戸沼市子著『Why?にこたえる はじめての 中国語の文法書』(同学社)

< 授業計画 >

第1回(大濱) ガイダンス

授業の進め方についてのオリエンテーションを行う。

第2回(山田) 第1課 问候(一) 你好

発音 表記の説明(1)

第3回(大濱) 第2課 问候(二) 你身体好吗

発音 表記の説明(2)

第4回(山田) 第3課 问候(三) 你工作忙吗

発音 表記の説明(3)

第5回(大濱) 発音テスト

復習

第6回(山田) 第4課 相识(一) 您贵姓?

「吗」疑問文 疑問代名詞を用いる疑問文 形容詞述語文

第7回(大濱) 第5課 相识(二) 我介绍一下

動詞述語文 所属・所有関係を表す連体修飾語 「是」文

第8回(山田) 第6課 询问(一) 你的生日是几月几号

名詞述語文 年・月・日・曜日の表し方

第9回(大濱) 第7課 询问(二) 你家有几口人

「有」文 前置詞構造

第10回(山田) 第8課 询问(三) 现在几点

時間の読み方 時間詞

第11回(大濱) 第9課 询问(四) 你住在哪儿

連動文 連用修飾語

第12回(山田) 第10課 询问(五) 邮局在哪儿
方向詞 反復疑問文

第13回(大濱) 復習

復習2

第14回(山田) 中間試験

復習 第1課~第10課

第15回(大濱) 中間試験

復習 第1課~第10課

第16回(山田) 第11課 需要(一) 我要买橘子

語気助詞「了」 重ね型動詞

第17回(大濱) 第12課 需要(二) 我想买毛衣

主述述語文 能願動詞

第18回(山田) 第13課 需要(三) 要换车

二重目的語文 能願動詞「会」 連体修飾語としての数量詞

第19回(大濱) 第14課 需要(四) 我要去换钱

謙語文 語気助詞「了」(2)

第20回(山田) 第15課 需要(五) 我要照张相

「是」文(2) 結果補語 前置詞「给」

第21回(大濱) 復習

復習3

第22回(山田) 第16課 相约(一) 你看过京剧吗

動能助詞「过」 無主語文

第23回(大濱) 第17課 相约(二) 去动物园

選択疑問文 動作の手段を表す連動文 方向補語

第24回(山田) 第18課 迎接(一) 路上辛苦了

文型「要...了」 文型「是...的」

第25回(大濱) 第19課 迎接(二) 欢迎你

「从」、「在」の目的語と「这儿」、「那儿」 動量補語

連体修飾語としての動詞・動詞構造・主述構造

第26回(山田) 第20課 招待 为我们的友谊干杯

程度補語 程度補語と目的語

第27回(大濱) 復習

復習4

第28回(山田) 期末試験

第11課~第20課までの復習

第29回(大濱) 期末試験

第1課~第20課までの復習

第30回(山田) 総復習

練習問題4

2022年度 前期

2.0単位

中国語読解 (イ)

大濱 慶子、山田 晃三

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業は学部のDPに掲げる実践的で高度な外国語の運用力習得を目的とする中国語コース基本外国語（履修必修）科目に位置付けられる。

「中国語読解」（イ）では、「読む」、「書く」の能力の習得を重点とし、中国語で表現し、コミュニケーションをはかるための基礎力の習得をめざす。中国語の基本文法を体系的にマスターし、学習した内容と結びつけ、文化的な背景や日本語との差異を感じ取りながら中国語を読み解く力を身につける。

なお、この科目の担当者（大濱）は、翻訳研究機関で十年以上にわたり日中翻訳業務に従事してきた実務経験のある教員である。山田講師も中国で長年メディア関係の仕事や崑劇の交流活動に従事してきた実務経験者である。これから中国語を専門に学んでいく受講生が将来像をイメージできるように経験談や解説を加えながら授業を進めたい。

<到達目標>

中国語の基本文法を理解し、簡単な置き換えができる。
日常的な事柄を中国語で表現することができる。
実践に即した中国語運用能力を身につけることができる。
初級の文法事項を習得する。

<授業のキーワード>

中国語 読解 基本文法

<授業の進め方>

1) 『中国語会話301』下のテキストを用い、「中国語会話」と「中国語表現」を並行して学習することにより、中国語の基本文法、基本表現、語彙力の定着と向上をめざします。

2) 随時小テストや課題を行い、習得状況の確認を行います。

3) 中間試験と期末試験を行い、到達度を測ります。

4) 『中国語基本単語帳』を使って語彙力を高めます。

5) 適宜視聴覚教材を使用し、中国の文化や社会への理解を深める。

6) 「中国語読解」は大濱教員と山田講師が交互に担当します。

<履修するにあたって>

中国語の基礎固めをするために毎回の授業の予習復習は不可欠です。教科書の本文や例文を何度も声に出して読んだり、書いたりして覚える学習を習慣化し、確実に自分のものにしてください。

毎回遅刻をせず、必ず出席すること。

<授業時間外に必要な学修>

毎週、授業の中で小テスト、課題を行います。

受講前、「新出単語」の意味と発音を辞書で調べ、「練習」問題を自分の力でやっておくこと。受講後、できなかった問題をよく見なおすこと。

必ず受講前にテキストの内容をよく調べ、中国語で朗読できるようにしてきてください。

シラバスの授業計画の各回にテキストの予習・復習箇所を明示します。

毎回少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。

<提出課題など>

提出課題は、授業の中で解説します。

<成績評価方法・基準>

授業への取り組み状況 40点（大濱20点 山田20点）

中間試験 20点（大濱10点 山田10点）

期末試験 40点（大濱20点 山田20点）

<テキスト>

早稲田大学商学部中国語教室『中国語基本単語帳』朝日出版社 2021年 1600円

読解の教材は授業で配布します。

<参考図書>

『中国語会話301』下 北京語言大学出版社

『中日辞典 第3版』北京商務印書館・小学館共同編集（小学館）

相原茂 石田知子 戸沼市子著『Why?にこたえる はじめての 中国語の文法書』（同学社）

<授業計画>

第1回（大濱） ガイダンス

授業の進め方についてのオリエンテーションを行う。

第2回（山田） 第21課 邀請

動作の進行

第3回（大濱） 第22課 婉拒

動態助詞「了」

第4回（山田） 第23課 道歉

結果補語としての「好」 副詞「就」、「才」 方向補語

第5回（大濱） 第24課 遺憾

動詞「让」を用いた謙語文 「是不是」を用いた反復疑問文

第6回（山田） 第25課 称赞

文型「又・・・又・・・」 複文「要是・・・就・・・」

第7回（大濱） 復習（五）

第21課から第25課までの復習

第8回（山田） 第26課 祝贺

結果補語としての「开」、「下」 可能補語 可能補語としての「了」

第9回（大濱） 第27課 劝告

連用修飾語としての「有点儿」 存現文

第10回（山田） 第28課 比较

「比」を用いる比較文 数量補語 「多」を用いて概数を表す

第11回（大濱） 第29課 爱好

比較文 時量補語 「吧」を用いる疑問文

第12回（山田） 第30課 语言

時量補語 「除了・・・以外」構造

第13回（大濱） 復習（六）

第26課から第30課までの復習 中間試験

第14回（山田） 前半復習

範囲 第21課～第30課 中間試験

第15回（大濱） 第31課 旅游（一）

方向補語 「不是・・・吗？」を用いる反語文

第16回（山田） 第32課 旅游（二）

動作の持続 結果補語としての「見」

第17回（大濱） 第33課 旅游（三）

形容詞の重ね型と構造助詞「地」 可能補語

第18回（山田） 第34課 看病

「把」文 「一・・・就・・・」構造

第19回（大濱） 第35課 探望

受動文

第20回（山田） 復習（七）

第31課から第35課までの復習

第21回（大濱） 第36課 告別

時量補語 句型「有的・・・有的・・・」

第22回（山田） 第37課 饞行

複文「虽然・・・但是・・・」 「把」文

第23回（大濱） 第38課 托送

複文「不但・・・而且・・・」 可能補語としての動詞

「动」 「把」文の中の能願動詞の位置

第24回（山田） 第39課 送行（一）

動作の持続と進行 「不如」を用いた比較文

第25回（大濱） 第40課 送行（二）

「把」文 慣用句「・・・了・・・就・・・」

第26回（山田） 復習（八）

第36課から第40課までの復習

第27回（大濱） 総復習

第21課～第40課までの復習

第28回（山田） 総復習

前期の復習（1）期末試験

第29回（大濱） 総復習

前期の復習（2）期末試験

第30回（山田） 総復習

文化講座

2022年度 後期

2.0単位

中国語読解 （ア）

大濱 慶子、山田 晃三

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業は学部のDPに掲げる実践的で高度な外国語の運用力習得を目的とする中国語コース基本外国語（履修必修）科目に位置付けられる。

「中国語読解」では、「読む」、「書く」の能力の習得を重点とし、中国語で表現し、コミュニケーションをはかるための基礎力の習得をめざす。前期に続き中国語の基本文法を体系的にマスターし、学習した内容と結びつけ、文化的な背景や日本語との差異を感じ取りながら中国語を読み解く力を身につける。

なお、この科目の担当者（大濱）は、翻訳研究機関で十年以上にわたり日中翻訳業務に従事してきた実務経験のある教員である。山田講師も中国で長年メディア関係の仕事や崑劇の交流活動に従事してきた実務経験者である。これから中国語を専門に学んでいく受講生が将来像をイメージできるように経験談や解説を加えながら授業を進めたい。

< 到達目標 >

中国語の基本文法を理解し、簡単な置き換えができる。

日常的な事柄を中国語で表現することができる。

実践に即した中国語運用能力を身につけることができる。

初級の文法事項を一通り習得する。

< 授業のキーワード >

中国語 読解 基本文法

< 授業の進め方 >

1) 『中国語会話301』下のテキストを用い、「中国語会話」と「中国語表現」を並行して学習することにより、中国語の基本文法、基本表現、語彙力の定着と向上をめざします。

2) 随時小テストを行い、習得状況の確認を行います。

3) 中間試験と期末テストを実施して到達度を測ります。

4) 『中国語基本単語帳』を使って語彙力を高めます。

5) 適宜視聴覚教材を使用し、中国の文化と社会への理解を深めます。

6) 「中国語読解」は大濱教員と山田講師が交互に担当します。

< 履修するにあたって >

特に中国語の初修者が基礎固めをするために毎回の授業の予習復習は不可欠です。教科書の本文や例文を何度も声に出して読んだり、書いたりして覚える学習を習慣化し、確実に自分のものにしてください。

毎回遅刻をせず、必ず出席すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎週、授業の冒頭で小テストを行います。

受講前、「新出単語」の意味と発音を辞書で調べ、「練習」問題を自分の力でやっておくこと。受講後、できなかった問題をよく見なおすこと。

必ず受講前にテキストの内容をよく調べ、中国語で朗読できるようにしてきてください。

シラバスの授業計画の各回にテキストの予習・復習箇所を明示します。

毎回少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。

< 提出課題など >

小テストは採点し、次の授業時に返却します。

中間試験、期末試験は正解を提示し、解説を行います。
<成績評価方法・基準>
授業への取り組み状況、小テストを含む 40点（大濱20点 山田20点）
中間課題 20点（大濱10点 山田10点）
期末課題 40点（大濱20点 山田20点）
<テキスト>
康玉華 来思平著『新訳第3版 中国語会話301』
下 語文研究社 1300円
早稲田大学商学部中国語教室『中国語基本単語帳』朝日出版社 2021年 1600円
<参考図書>
『中日辞典 第3版』 北京商務印書館・小学館共同編集（小学館）
相原茂 石田知子 戸沼市子著『Why?にこたえる はじめての 中国語の文法書』（同学社）
<授業計画>
第1回（大濱） ガイダンス
前期の復習を行う。
第2回（山田） 第21課 邀請
動作の進行
第3回（大濱） 第22課 婉拒
動態助詞「了」
第4回（山田） 第23課 道歉
結果補語としての「好」 副詞「就」、「才」 方向補語
第5回（大濱） 第24課 遺憾
動詞「让」を用いた謙語文 「是不是」を用いた反復疑問文
第6回（山田） 第25課 称赞
文型「又・・・又・・・」 複文「要是・・・就・・・」
第7回（大濱） 復習（五）
第21課から第25課までの復習
第8回（山田） 第26課 祝贺
結果補語としての「开」、「下」 可能補語 可能補語としての「了」
第9回（大濱） 第27課 劝告
連用修飾語としての「有点儿」 存現文
第10回（山田） 第28課 比较
「比」を用いる比較文 数量補語 「多」を用いて概数を表す
第11回（大濱） 第29課 爱好
比較文 時量補語 「吧」を用いる疑問文
第12回（山田） 第30課 语言
時量補語 「除了・・・以外」構造
第13回（大濱） 復習（六）

第26課から第30課までの復習
第14回（大濱） 中間試験

範囲 第21課～第30課
第15回（山田） 中間試験
範囲 第21課～第30課
第16回（大濱） 第31課 旅游（一）
方向補語 「不是・・・吗？」を用いる反語文
第17回（山田） 第32課 旅游（二）
動作の持続 結果補語としての「见」
第18回（大濱） 第33課 旅游（三）
形容詞の重ね型と構造助詞「地」 可能補語
第19回（山田） 第34課 看病
「把」文 「一・・・就・・・」構造
第20回（大濱） 第35課 探望
受動文
第21回（山田） 復習（七）
第31課から第35課までの復習
第22回（大濱） 第36課 告别
時量補語 文型「有的・・・有的・・・」
第23回（山田） 第37課 饯行
複文「虽然・・・但是・・・」 「把」文
第24回（大濱）
第38課 托运
複文「不但・・・而且・・・」 可能補語としての動詞
「动」 「把」文の中の能願動詞の位置
第25回（山田） 第39課 送行（一）
動作の持続と進行 「不如」を用いた比較文
第26回（大濱） 第40課 送行（二）
「把」文 慣用句「・・・了・・・就・・・」
第27回（山田） 復習（八）
第36課から第40課までの復習
第28回（山田） 期末試験
範囲 第21課～第40課
第29回（大濱） 期末試験
範囲 第21課～第40課
第30回（山田） 文化講座
中国の文化や社会に触れる機会を設ける。

2022年度 後期

2.0単位

中国語読解 （イ）

大濱 慶子、山田 晃三

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

ここの授業は学部のDPに掲げる実践的で高度な外国語の運用力習得を目的とする中国語コース基本外国語（履修必修）科目に位置付けられる。

「読む」、「書く」の能力の習得を重点とし、中国語で表現し、コミュニケーションをはかるための基礎力の習得をめざす。「中国語読解」に続き、初級レベルが

ら中級レベルに至る中国語の文法を体系的にマスターし、学習した内容と結びつけ、文化的な背景や日本語との差異を感じ取りながら中国語を読み解く能力、文章を組み立てる力を身につける。

なお、この科目の担当者（大濱）は、翻訳研究機関で十年以上にわたり日中翻訳業務に従事してきた実務経験のある教員である。山田講師も中国で長年メディア関係の仕事や崑劇の交流活動に従事してきた実務経験者である。これから中国語を専門に学んでいく受講生が将来像をイメージできるように経験談や解説を加えながら授業を進めたい。

<到達目標>

中国語の基本文法を理解し、簡単な置き換えができる。日常的な事柄を中国語で表現することができる。辞書を使って中国語で書かれた平易なエッセイを独力で読解し、中国語のリズムをつかんで朗読することができる。

<授業のキーワード>

中国語 読解 基本文法

<授業の進め方>

- 1) 中国語の基本文法、基本表現、語彙力の定着と向上をめざします。
- 2) 読解と会話ペアになったテキストを交互に用い、中国語の中級テキストを使い、短文や会話文を読み解くトレーニングを行います。
- 3) 随時小テストを行い、習得状況の確認を行います。
- 4) 担当教員がそれぞれ中間試験、期末試験を行います。
- 5) 『中国語基本単語帳』を使って語彙力を高めます。
- 6) 適宜視聴覚教材を使用し、中国の文化と社会への理解を深めます。
- 7) 火曜は大濱教員、木曜は山田講師が担当します。

<履修するにあたって>

特に中国語の初修者が基礎固めをするために毎回の授業の予習復習は不可欠です。教科書の本文や例文を何度も声に出して読んだり、書いたりして覚える学習を習慣化し、確実に自分のものにしてください。

毎回遅刻をせず、必ず出席すること。

<授業時間外に必要な学修>

毎週、授業の冒頭で小テストを行います。

受講前、「新出単語」の意味と発音を辞書で調べ、「練習」問題を自分の力でやっておくこと。受講後、できなかった問題をよく見なおすこと。

必ず受講前にテキストの内容をよく調べ、中国語で朗読できるようにしてきてください。

シラバスの授業計画の各回にテキストの予習・復習箇所を明示します。

毎回少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。

<提出課題など>

小テストは採点し、次の授業時に返却します。

中間試験、期末試験は正解を提示し、解説を行います。

<成績評価方法・基準>

授業への取り組み状況、小テストを含む 40点（大濱20点 山田20点）

中間課題 20点（大濱10点 山田10点）

期末課題 40点（大濱20点 山田20点）

<テキスト>

康玉華 来思平著『新訳第3版 中国語会話301』
下 語文研究社 1300円

早稲田大学商学部中国語教室『中国語基本単語帳』朝日出版社 2021年 1600円

<参考図書>

『中日辞典 第3版』北京商務印書館・小学館共同編集（小学館）

相原茂 石田知子 戸沼市子著『Why?にこたえる はじめての 中国語の文法書』（同学社）

<授業計画>

第1回（大濱） ガイダンス

前期の復習を行う。

第2回（山田

） 第21課 邀请

動作の進行

第3回（大濱） 第22課 婉拒

動態助詞「了」

第4回（山田） 第23課 道歉

結果補語としての「好」 副詞「就」、「才」 方向補語

第5回（大濱） 第24課 遺憾

動詞「让」を用いた謙語文 「是不是」を用いた反復疑問文

第6回（山田） 第25課 称赞

句型「又・・・又・・・」 複文「要是・・・就・・・」

第7回（大濱） 復習（五）

第21課から第25課までの復習

第8回（山田） 第26課 祝贺

結果補語としての「开」、「下」 可能補語 可能補語としての「了」

第9回（大濱） 第27課 劝告

連用修飾語としての「有点儿」 存現文

第10回（山田） 第28課 比较

「比」を用いる比較文 数量補語 「多」を用いて概数を表す

第11回（大濱） 第29課 爱好

比較文 時量補語 「吧」を用いる疑問文

第12回（山田） 第30課 语言

時量補語 「除了・・・以外」構造

第13回（大濱） 復習（六）

第26課から第30課までの復習

第14回（大濱） 中間試験

範囲 第21課～第30課
第15回(山田) 中間試験
方向補語 「不是・・・吗？」を用いる反語文
第16回(大濱) 第31課 旅游(一)
方向補語 「不是・・・吗？」を用いる反語文
第17回(山田) 第32課 旅游(二)
動作の持続 結果補語としての「見」
第18回(大濱) 第33課 旅游(三)
形容詞の重ね型と構造助詞「地」 可能補語
第19回(山田) 第34課 看病
「把」文 「一・・・就・・・」構造
第20回(大濱) 第35課 探望
受動文
第21回(山田) 復習(七)
第31課から第35課までの復習
第22回(大濱) 第36課 告別
時量補語 句型「有的・・・有的・・・」
第23回(山田) 第37課 棧行
複文「虽然・・・但是・・・」 「把」文
第24回(大濱)
第38課 托运
複文「不但・・・而且・・・」 可能補語としての動詞
「动」 「把」文の中の能願動詞の位置
第25回(山田) 第39課 送行(一)
動作の持続と進行 「不如」を用いた比較文
第26回(大濱) 第40課 送行(二)
「把」文 慣用句「・・・了・・・就・・・」
第27回(山田) 復習(八)
第36課から第40課までの復習
第28回(山田) 期末試験
範囲 第21課～第40課
第29回(大濱) 期末試験
範囲 第21課～第40課
第30回(山田) 期末試験
中国の文化や社会に触れる機会を設ける。

2022年度 前期

2.0単位

中国語読解 (ア)

大西 紀

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業は、中国語コースの基本外国語(履修必修)科目に位置付けられる。中国語の読解能力養成を重点とし、学部のDPIに掲げる実践的で高度な外国語の運用能力向上をめざす。

中・高級レベルの中国語の文法を体系的にマスターし、主に時事中国語を中心に読み解く能力、原文の講読にチ

ャレンジする。

< 到達目標 >

中国語の中・高級レベルの文法を習得する。

中国の文化や歴史、社会的背景を理解し、独力で幅広い中国語の読み物(時事中国語やエッセイ)を読むことができる。

辞書を使いながら新聞記事などの中国語原文を読解することができる。

< 授業のキーワード >

総合読解 中・高級文法 時事中国語 原書講読

< 授業の進め方 >

1) 中・高級レベルの中国語の文法、表現、語彙力の定着と向上をめざします。

2) 授業では、読解に重点をおいた中国語の中級テキストを使い、時事中国語を精読するトレーニングを行います。

使用テキスト

○火曜、三浦正道 陳祖蓓 古屋順子『2022年度版 時事中国語の教科書』

○木曜 松村恵子・前田光子・董紅俊著『中国之窗- 认识真实的邻国-』

3) 適宜中国語の新聞やコラムを補助教材として使用します。

4) 随時小テストや課題を出し、習得状況の確認を行います。

5) 中間試験と期末試験を実施し、到達度を測ります。

6) 適宜視聴覚教材を使用し、中国の文化と社会への理解を深めます。

< 履修するにあたって >

中国語の基礎固めをするために毎回の授業の予習復習は不可欠です。必ず授業の前に新出単語を調べ、中国の社会文化背景や関連の知識と結びつけて一通り内容を確認し、授業に備えてください。

毎回遅刻をせず、必ず出席すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎週、授業で小テストや課題を行います。

受講前に必ず「新出単語」の意味と発音を辞書で調べ、内容を確認しておくこと。

教材の内容に関連する中国の時事問題や社会文化背景にも関心を持ち、関連の文献を読んで知識を広げてください。

シラバスの授業計画の各回にテキストの予習・復習箇所を明示します。

授業前に少なくとも1時間以上予習復習を行うこと。

< 提出課題など >

提出課題は、授業の中で解説します。

< 成績評価方法・基準 >

授業への取り組み状況 40点

中間試験 20点

期末試験 40点

<テキスト>

三瀧正道 陳祖蔭 古屋順子『2022年度版 時事中国語の教科書』朝日出版社 2022年 1900円

松村恵子・前田光子・董紅俊著『中国之窗-认识真实的邻国-』白帝社 2017年

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の進め方、読解力を養う方法等のオリエンテーションを行います。

第2回 阅读 第1課

北京

第3回 時事中国語 第1課

中国生育政策之变迁

第4回 阅读 第2課

上海

第5回 時事中国語 第2課

74年后，内山书店回到中国

第6回 阅读 第3課

西安

第7回

時事中国語 第3課

医院营养餐为什么不受欢迎

第8回 阅读 第4課

广州

第9回 時事中国語 第4課

高铁推出“静音车厢”

第10回 阅读 第5課

让一部分人先富起来

第11回 時事中国語 第5課

帮老人融入智能时代

第12回 復習(1)

前半解説、復習

第13回 期中考試

前半の解説

第14回 期中考試

前半の総括

第15回 時事中国語 第6課

人生选择呈多元化

第16回 阅读 第6課

骄傲的GDP的背后

第17回 時事中国語 第7課

人脸识别第一案 终审判決

第18回 阅读 第7課

互联网在改变中国

第19回 時事中国語 第8課

三星堆背后的故事

第20回 阅读 第8課

房奴、车奴和卡奴

第21回 時事中国語 第9課

90后的新消费生活

第22回 阅读 第9課

万里长城

第23回 時事中国語 第10課

无烟中国，任重而道远

第24回 阅读 第10課

泰山

第25回 時事中国語 第11課

贵安新区，最贫困地区的奇迹

第26回 阅读 第11課

秦始皇陵及兵马俑

第27回 時事中国語 第12課

宠物在今天的中国

第28回 期末考试

前期の読解の復習

第29回 期末考试

総復習

第30回 総評・文化講座

総評・中国の文化や社会に触れる機会を設ける。

2022年度 前期

2.0単位

中国語読解 (ア)

山田 晃三、大西 紀

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この授業は、中国語コースの基本外国語(履修必修)科目に位置付けられる。中国語の読解能力養成を重点とし、学部のDPに掲げる実践的で高度な外国語の運用能力向上をめざす。

中・高級レベルの中国語の文法を体系的にマスターし、主に時事中国語を中心に読み解く能力、原文の講読にチャレンジする。

この科目の担当者は、新聞社現地支社にて報道関係の仕事をサポートした実務経験のある教員である。中国の時事問題、社会問題の読解の方法について、現地での豊富な経験をもとに解説していきたい。

<到達目標>

中国語の中・高級レベルの文法を習得する。

中国の文化や歴史、社会的背景を理解し、独力で幅広い中国語の読み物(時事中国語やエッセイ)を読むことができる。

辞書を使いながら新聞記事などの中国語原文を読解する

ことができる。

< 授業のキーワード >

総合読解 中・高級文法 時事中国語 原書講読

< 授業の進め方 >

1) 中・高級レベルの中国語の文法、表現、語彙力の定着と向上をめざします。

2) 授業では、読解に重点をおいた中国語の中級テキストを使い、時事中国語を精読するトレーニングを行います。

使用テキスト

○火曜、三瀨正道 陳祖蓓 古屋順子『2022年度版 時事中国語の教科書』

○木曜 松村恵子・前田光子・董紅俊著『中国之窗- 认识真实的邻国-』

3) 適宜中国語の新聞やコラムを補助教材として使用します。

4) 随時小テストや課題を出し、習得状況の確認を行います。

5) 中間試験と期末試験を実施し、到達度を測ります。

6) 適宜視聴覚教材を使用し、中国の文化と社会への理解を深めます。

7) この授業は、大西講師（火曜）と山田講師（木曜）が担当します。

< 履修するにあたって >

中国語の基礎固めをするために毎回の授業の予習復習は不可欠です。必ず授業の前に新出単語を調べ、中国の社会文化背景や関連の知識と結びつけて一通り内容を確認し、授業に備えてください。

毎回遅刻をせず、必ず出席すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎週、授業で小テストや課題を行います。

受講前に必ず「新出単語」の意味と発音を辞書で調べ、内容を確認しておくこと。

教材の内容に関連する中国の時事問題や社会文化背景にも関心を持ち、関連の文献を読んで知識を広げてください。

シラバスの授業計画の各回にテキストの予習・復習箇所を明示します。

授業前に少なくとも1時間以上予習復習を行うこと。

< 提出課題など >

提出課題は、授業の中で解説します。

< 成績評価方法・基準 >

授業への取り組み状況 40点（大西20点 山田20点）

中間試験 20点（大西10点 山田10点）

期末試験 40点（大西20点 山田20点）

< テキスト >

三瀨正道 陳祖蓓 古屋順子『2022年度版 時事中国語

の教科書』 朝日出版社 2022年 1900円

松村恵子・前田光子・董紅俊著『中国之窗- 认识真实的邻国-』 白帝社 2017年

< 授業計画 >

第1回（大西） ガイダンス

授業の進め方、読解力を養う方法等のオリエンテーションを行います。

第2回（山田） 阅读 第1課

北京

第3回（大西） 時事中国語 第1課

中国生育政策之变迁

第4回（山田） 阅读 第2課

上海

第5回（大西） 時事中国語 第2課

74年后，内山书店回到中国

第6回（山田） 阅读 第3課

西安

第7回（大西）

時事中国語 第3課

医院营养餐为什么不受欢迎

第8回（山田） 阅读 第4課

广州

第9回（大西） 時事中国語 第4課

高铁推出“静音车厢”

第10回（山田） 阅读 第5課

让一部分人先富起来

第11回（大西） 時事中国語 第5課

帮老人融入智能时代

第12回（山田） 復習（1）

前半解説、復習

第13回（大西） 期中考试

前半の解説

第14回（山田） 期中考试

前半の総括

第15回（大西） 時事中国語 第6課

人生选择呈多元化

第16回（山田） 阅读 第6課

骄傲的GDP的背后

第17回（大西） 時事中国語 第7課

人脸识别第一案 终审判决

第18回（山田） 阅读 第7課

互联网在改变中国

第19回（大西） 時事中国語 第8課

三星堆背后的故事

第20回（山田） 阅读 第8課

房奴、车奴和卡奴

第21回（大西） 時事中国語 第9課

90後の新消費生活

第22回(山田) 阅读 第9課

万里长城

第23回(大西) 時事中国語 第10課

无烟中国, 任重而道远

第24回(山田) 阅读 第10課

泰山

第25回(大西) 時事中国語 第11課

贵安新区, 最贫困地区的奇迹

第26回(山田) 阅读 第11課

秦始皇陵及兵马俑

第27回(大西) 時事中国語 第12課

宠物在今天的中国

第28回(山田) 期末考试

前期の読解の復習

第29回(大西) 期末考试

総復習

第30回(山田) 総評・文化講座

総評・中国の文化や社会に触れる機会を設ける。

2022年度 前期

2.0単位

中国語読解 (イ)

張 猛

< 授業の方法 >

演習、実技

< 授業の目的 >

この授業はG C学部のDPIに掲げる実践的で高度な外国語の運用力習得を目的とする中国語コース基本外国語(履修必修)科目に位置付けられる。

「読む」、「書く」の能力の習得を重点とし、中国語で表現し、コミュニケーションをはかるための中・高級レベル語学力の習得をめざす。また、「中国語読解」に続き、中・高級レベルに至る中国語の文法を体系的にマスターし、学習した内容と結びつけ、文化的な背景や日本語との差異を感じ取りながら中国語を読み解く能力、文章を組み立てる力を身につける。

< 到達目標 >

1) 中国語の中・高級レベルの原文を読み、独力で読解することができ、関連する文法点を習得する。

2) 中国語の文法を理解することができ、長文の作成ができるようにする。

3) 中国の文化や歴史、社会的背景を良く理解することができる。

< 授業のキーワード >

総合読解、中・高級文法、長文の作成

< 授業の進め方 >

1) 中・高級レベルの中国語の文法、表現、語彙力の定着と向上を目指す。

2) 中国語の中・高級テキストを使い、画像や動画も活用する。

3) 随時小テストや課題を出し、習得状況の確認を行います。

< 履修するにあたって >

1) 予習と復習を徹底し、授業の前に新出単語を調べ、中国の社会文化背景や関連の知識と結びつけて一通り内容を確認すること。

2) 他の授業の内容を含み、習得した知識の関連性を常に考え続けること。

3) 毎回遅刻をせず、必ず出席すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画の各回で指示された内容を繰り返し練習すること。

事前学習として、授業の対象となる教科書の「新出単語」の意味と発音を調べ、内容を確認しておくこと。(1時間程度)

事後学習として、授業内容を再確認し、また、インターネットで中国の情報を常に確認すること。(1時間程度)

< 提出課題など >

毎回の授業終了時に課題を出し、次回の授業までに提出する。提出された課題を授業中にコメントや解説を行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業への取り組み状況80%、期末試験20%

< テキスト >

ブレンとを配布する

< 参考図書 >

授業中に適宜に指示する

< 授業計画 >

第1回 原文の読みと解説(1)

汉语名篇讲读(1)

第2回 原文の読みと解説(2)

汉语名篇讲读(2)

第3回 原文の読みと解説(3)

汉语名篇讲读(3)

第4回 授業内容の纏めとプレゼンテーション(1)

学习内容概述与感想(1)

第5回 原文の読みと解説(4)

汉语名篇讲读(4)

第6回 原文の読みと解説(5)

汉语名篇讲读(5)

第7回 原文の読みと解説(6)

汉语名篇讲读(6)

第8回 授業内容の纏めとプレゼンテーション(2)

学习内容概述与感想(2)

第9回 原文の読みと解説(7)

汉语名篇讲读(7)

第10回 原文の読みと解説(8)

汉语名篇讲读(8)

- 第11回 原文の読みと解説(9)
- 汉语名篇讲读(9)
- 第12回 授業内容の纏めとプレゼンテーション(3)
- 学习内容概述与感想(3)
- 第13回 原文の読みと解説(10)
- 汉语名篇讲读(10)
- 第14回 原文の読みと解説(11)
- 汉语名篇讲读(11)
- 第15回 原文の読みと解説(12)
- 汉语名篇讲读(12)
- 第16回 授業内容の纏めとプレゼンテーション(4)
- 学习内容概述与感想(4)
- 第17回 授業内容の纏めとプレゼンテーション(5)
- 学习内容概述与感想(5)
- 第18回 総合復習(1)
- 综合复习和期中考试
- 第19回 原文の読みと解説(13)
- 汉语名篇讲读(13)
- 第20回 原文の読みと解説(14)
- 汉语名篇讲读(14)
- 第21回 原文の読みと解説(15)
- 汉语名篇讲读(15)
- 第22回 授業内容の纏めとプレゼンテーション(6)
- 学习内容概述与感想(6)
- 第23回 原文の読みと解説(16)
- 汉语名篇讲读(16)
- 第24回 原文の読みと解説(17)
- 汉语名篇讲读(17)
- 第25回 原文の読みと解説(18)
- 汉语名篇讲读(18)
- 第26回 授業内容の纏めとプレゼンテーション(7)
- 学习内容概述与感想(7)
- 第27回 原文の読みと解説(19)
- 汉语名篇讲读(19)
- 第28回 原文の読みと解説(20)
- 汉语名篇讲读(20)
- 第29回 原文の読みと解説(21)
- 汉语名篇讲读(21)
- 第30回 授業内容の纏めとプレゼンテーション(8)
- 学习内容概述与感想(8)

 2022年度 後期
 2.0単位
 中国語読解 (ア)
 大西 紀

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業は、中国語コースの基本外国語(履修必修)科

目に位置付けられる。学部のDPに掲げる高度な外国語(中国語)の運用力習得、主として中・高級以上の中国語の読解能力の養成と向上をめざし、原文の講読にチャレンジする。

また3年次semester留学を想定した読解や現地でコミュニケーションをはかるためのトレーニングを行う。

< 到達目標 >

中国の文化や歴史、社会的背景を理解し、独力で幅広い中国語の読み物(時事中国語やエッセイ)を読むことができる。

辞書を使いながら新聞記事などの中国語原文を読解することができる。

中国の留学生活に必要な読解力を身につけることができる。

< 授業のキーワード >

時事中国語 総合読解 原文講読 留学生活

< 授業の進め方 >

1) 「中国語会話」と「中国語表現」を並行して交互に学習することにより、中・高級レベル以上の中国語の文法、語彙力、読解力、表現力の向上をめざします。

2) 前半の授業では時事中国語、エッセイなどを読みます。

○中国語の新聞記事やコラムを補助教材として配付します。

3) 後半では3年次semester留学に備え、留学生活に必要な読解のトレーニングを行います。

4) 随時小テストを行い、習得状況の確認を行います。

5) 中間試験と期末試験を実施し、到達度を測ります。

< 履修するにあたって >

中国語の高度な語学力を運用できるようにするためには毎回の授業の予習復習が不可欠です。辞書を引いて必ず毎回の授業の予習をしてきてください。本文を何度も声に出して読んだり、書いたりして覚える学習を習慣化し、確実に自分のものにしてください。分からないこと、理解できないことがあれば積極的に質問をし、3年次の留学がより充実した、有意義なものにするために事前の準備をしっかり行ってください。

毎回遅刻をせず、必ず出席すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎週、授業の冒頭で小テストを行います。

受講前に必ず「新出単語」の意味と発音を辞書で調べ、内容を確認し、中国語のリズムをつかんで朗読できるようにしておくこと。シラバスの授業計画の各回にテキストの予習・復習箇所を明示します。

授業の前に予習復習を少なくとも1時間は行うこと。

教材の内容に関連する中国の社会文化背景にも関心を持ち、関連の文献を読んで知識を広げてください。

< 提出課題など >

授業時に適宜指示する。
小テストは採点し、次の授業時に返却する。
中間試験、期末試験については、模範解答の解説を行う。
<成績評価方法・基準>
授業への取り組み状況、小テストを含む 40点
中間課題 20点
期末課題 40点
<テキスト>
前期購入
三瀧正道 陳祖蓓 古屋順子『2022年度版 時事中国語の教科書』朝日出版社 2022年 1900円
松村恵子・前田光子・董紅俊著『中国之窗-认识真实的邻国-』白帝社 2017年
<参考図書>
『中日辞典 第3版』北京商務印書館・小学館共同編集（小学館）
<授業計画>
第1回 ガイダンス
前期の復習
授業の授業の進め方、読解力を養う方法等のオリエンテーションを行います。
第2回 阅读 第12課
客家与福建土楼建筑群
第3回 時事中国語 第13課
灾后郑州
第4回 阅读 第13課
孔子
第5回 時事中国語 第14課
唐卡艺术，仍在传承
第6回 阅读 第14課
屈原
第7回 時事中国語 第15課
算算我家民宿的幸福帐
第8回 阅读 第15課
泰桧
第9回 時事中国語 実践（1）
中国語新聞記事の読解（1）
第10回 阅读 第16課
鲁迅
第11回 時事中国語 実践（2）
中国語新聞記事の読解（2）
第12回 期中考試
復習・中間試験の解説
第13回 中間試験
前期の復習
第14回 時事中国語 実践（3）
中国語新聞記事の読解（3）
第15回 阅读 第17課
卧薪尝胆
第16回 時事中国語 実践（4）

中国語新聞記事の読解（4）
第17回 阅读 第18課
破釜沉船
第18回 時事中国語 実践（5）
中国語新聞記事の読解（5）
第19回 阅读 第19課
班门弄斧
第20回 時事中国語 実践（6）
中国語新聞記事の読解（6）
第21回 阅读 第20課
塞翁失马
第22回 時事中国語 実践（7）
中国語新聞記事の読解（7）
第23回 阅读 第21課
遣隋使与遣唐使
第24回 時事中国語 実践（8）
中国語新聞記事の読解（8）
第25回 阅读 第22課
鉴真和尚与荣叡、普照
第26回 時事中国語 実践（9）
中国語新聞記事の読解（9）
第27回 阅读 第23課
清末到民主时期的来日中国留学生
第28回 期末考试
後期の復習
第29回 期末試験
総復習
第30回 文化講座
中国の文化や社会に触れる機会を設ける。

2022年度 後期
2.0単位
中国語読解（ア）
山田 晃三、大西 紀

<授業の方法>
講義
<授業の目的>
この授業は、中国語コースの基本外国語（履修必修）科目に位置付けられる。学部のDPに掲げる高度な外国語（中国語）の運用力習得、主として中・高級以上の中国語の読解能力の養成と向上をめざし、原文の講読にチャレンジする。
また3年次セメスター留学を想定した読解や現地でコミュニケーションをはかるためのトレーニングを行う。
なお、この科目の担当者は、新聞社現地支社にて報道関係の仕事をサポートした実務経験のある教員である。中国の時事問題、社会問題の読解の方法について、現地での豊富な経験をもとに解説していきたい。
<到達目標>

中国の文化や歴史、社会的背景を理解し、独力で幅広い中国語の読み物（時事中国語やエッセイ）を読むことができる。

辞書を使いながら新聞記事などの中国語原文を読解することができる。

中国の留學生活に必要な読解力を身につけることができる。

< 授業のキーワード >

時事中国語 総合読解 原文講読 留學生活

< 授業の進め方 >

1) 「中国語会話」と「中国語表現」を並行して交互に学習することにより、中・高級レベル以上の中国語の文法、語彙力、読解力、表現力の向上をめざします。

2) 前半の授業では時事中国語、エッセイなどを読みます。

○中国語の新聞記事やコラムを補助教材として配付します。

3) 後半では3年次 Semester 留學に備え、留學生活に必要な読解のトレーニングを行います。

4) 随時小テストを行い、習得状況の確認を行います。

5) 中間試験と期末試験を実施し、到達度を測ります。

6) この授業は、大西講師（火曜）と山田講師（木曜）が担当します。

< 履修するにあたって >

中国語の高度な語学力を運用できるようにするためには毎回の授業の予習復習が不可欠です。辞書を引いて必ず毎回の授業の予習をしてきてください。本文を何度も声に出して読んだり、書いたりして覚える学習を習慣化し、確実に自分のものにしてください。分からないこと、理解できないことがあれば積極的に質問をし、3年次の留學がより充実した、有意義なものにするために事前の準備をしっかりと行ってください。

毎回遅刻をせず、必ず出席すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎週、授業の冒頭で小テストを行います。

受講前に必ず「新出単語」の意味と発音を辞書で調べ、内容を確認し、中国語のリズムをつかんで朗読できるようにしておくこと。シラバスの授業計画の各回にテキストの予習・復習箇所を明示します。

授業の前に予習復習を少なくとも1時間は行うこと。

教材の内容に関連する中国の社会文化背景にも関心を持ち、関連の文献を読んで知識を広げてください。

< 提出課題など >

授業時に適宜指示する。

小テストは採点し、次の授業時に返却する。

中間試験、期末試験については、模範解答の解説を行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業への取り組み状況、小テストを含む 40点（大西20点 山田20点）

中間課題 20点（大西10点 山田10点）

期末課題 40点（大西20点 山田20点）

< テキスト >

前期購入

三瀨正道 陳祖蓓 古屋順子『2022年度版 時事中国語の教科書』朝日出版社 2022年 1900円

松村恵子・前田光子・董紅俊著『中国之窗-认识真实的邻国-』白帝社 2017年

< 参考図書 >

『中日辞典 第3版』北京商務印書館・小学館共同編集（小学館）

< 授業計画 >

第1回（大西） ガイダンス

前期の復習

授業の授業の進め方、読解力を養う方法等のオリエンテーションを行います。

第2回（山田） 阅读 第12課

客家与福建土楼建筑群

第3回（大西） 時事中国語 第13課

灾后郑州

第4回（山田） 阅读 第13課

孔子

第5回（大西） 時事中国語 第14課

唐卡艺术，仍在传承

第6回（山田） 阅读 第14課

屈原

第7回（大西） 時事中国語 第15課

算算我家民宿的幸福帐

第8回（山田） 阅读 第15課

泰桧

第9回（大西） 時事中国語 实践（1）

中国語新聞記事の読解（1）

第10回（山田） 阅读 第16課

鲁迅

第11回（大西） 時事中国語 实践（2）

中国語新聞記事の読解（2）

第12回（山田） 期中考试

復習・中間試験の解説

第13回（大西） 中間試験

前期の復習

第14回（大西） 時事中国語 实践（3）

中国語新聞記事の読解（3）

第15回（山田） 阅读 第17課

卧薪尝胆

第16回（大西） 時事中国語 实践（4）

中国語新聞記事の読解（4）

第17回（山田） 阅读 第18課

破釜沉船

第18回（大西） 時事中国語 实践（5）

中国語新聞記事の読解（5）

第19回（山田） 阅读 第19課

班门弄斧

第20回(大西) 時事中国語 実践(6)

中国語新聞記事の読解(6)

第21回(山田) 阅读 第20課

塞翁失馬

第22回(大西) 時事中国語 実践(7)

中国語新聞記事の読解(7)

第23回(山田) 阅读 第21課

遣隋使与遣唐使

第24回(大西) 時事中国語 実践(8)

中国語新聞記事の読解(8)

第25回(山田) 阅读 第22課

鉴真和尚与荣叡、普照

第26回(大西) 時事中国語 実践(9)

中国語新聞記事の読解(9)

第27回(山田) 阅读 第23課

清末到民主时期的来日中国留学生

第28回(山田) 期末考试

後期の復習

第29回(大西) 期末試験

総復習

第30回(山田) 文化講座

中国の文化や社会に触れる機会を設ける。

2022年度 後期

2.0単位

中国語読解 (イ)

張 猛

< 授業の方法 >

演習、実技

< 授業の目的 >

この授業はG C学部のDPIに掲げる実践的で高度な外国語の運用力習得を目的とする中国語コース基本外国語(履修必修)科目に位置付けられる。

「読む」、「書く」の能力の習得を重点とし、中国語で表現し、コミュニケーションをはかるための中・高級レベル語学力の習得をめざす。また、「中国語読解」に続き、中・高級レベルに至る中国語の文法を体系的にマスターし、学習した内容と結びつけ、文化的な背景や日本語との差異を感じ取りながら中国語を読み解く能力、文章を組み立てる力を身につける。

< 到達目標 >

1) 中国語の中・高級レベルの原文を読み、独力で読解することができ、関連する文法点を習得する。

2) 中国語の文法を理解することができ、長文の作成ができるようにする。

3) 中国の文化や歴史、社会的背景を良く理解することができる。

< 授業のキーワード >

総合読解、中・高級文法、長文の作成

< 授業の進め方 >

1) 中・高級レベルの中国語の文法、表現、語彙力の定着と向上を目指す。

2) 中国語の中・高級テキストを使い、画像や動画も活用する。

3) 随時小テストや課題を出し、習得状況の確認を行います。

< 履修するにあたって >

1) 予習と復習を徹底し、授業の前に新出単語を調べ、中国の社会文化背景や関連の知識と結びつけて一通り内容を確認すること。

2) 他の授業の内容を含み、習得した知識の関連性を常に考え続けること。

3) 毎回遅刻をせず、必ず出席すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画の各回で指示された内容を繰り返し練習すること。

事前学習として、授業の対象となる教科書の「新出単語」の意味と発音を調べ、内容を確認しておくこと。(1時間程度)

事後学習として、授業内容を再確認し、また、インターネットで中国の情報を常に確認すること。(1時間程度)

< 提出課題など >

毎回の授業終了時に課題を出し、次回の授業までに提出する。提出された課題を授業中にコメントや解説を行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業への取り組み状況80%、期末試験20%

< テキスト >

ブレントを配布する

< 参考図書 >

授業中に適宜に指示する

< 授業計画 >

第1回 原文の読みと解説(1)

汉语名篇讲读(1)

第2回 原文の読みと解説(2)

汉语名篇讲读(2)

第3回 原文の読みと解説(3)

汉语名篇讲读(3)

第4回 授業内容の纏めとプレゼンテーション(1)

学习内容概述与感想(1)

第5回 原文の読みと解説(4)

汉语名篇讲读(4)

第6回 原文の読みと解説(5)

汉语名篇讲读(5)

第7回 原文の読みと解説(6)

汉语名篇讲读(6)

第8回 授業内容の纏めとプレゼンテーション(2)

学习内容概述与感想(2)

第9回 原文の読みと解説（7）
汉语名篇讲读（7）
第10回 原文の読みと解説（8）
汉语名篇讲读（8）
第11回 原文の読みと解説（9）
汉语名篇讲读（9）
第12回 授業内容の纏めとプレゼンテーション（3）
学习内容概述与感想（3）
第13回 原文の読みと解説（10）
汉语名篇讲读（10）
第14回 原文の読みと解説（11）
汉语名篇讲读（11）
第15回 原文の読みと解説（12）
汉语名篇讲读（12）
第16回 授業内容の纏めとプレゼンテーション（4）
学习内容概述与感想（4）
第17回 授業内容の纏めとプレゼンテーション（5）
学习内容概述与感想（5）
第18回 総合復習（1）
综合复习和期中考试
第19回 原文の読みと解説（13）
汉语名篇讲读（13）
第20回 原文の読みと解説（14）
汉语名篇讲读（14）
第21回 原文の読みと解説（15）
汉语名篇讲读（15）
第22回 授業内容の纏めとプレゼンテーション（6）
学习内容概述与感想（6）
第23回 原文の読みと解説（16）
汉语名篇讲读（16）
第24回 原文の読みと解説（17）
汉语名篇讲读（17）
第25回 原文の読みと解説（18）
汉语名篇讲读（18）
第26回 授業内容の纏めとプレゼンテーション（7）
学习内容概述与感想（7）
第27回 原文の読みと解説（19）
汉语名篇讲读（19）
第28回 原文の読みと解説（20）
汉语名篇讲读（20）
第29回 原文の読みと解説（21）
汉语名篇讲读（21）
第30回 授業内容の纏めとプレゼンテーション（8）
学习内容概述与感想（8）

2022年度 前期

2.0単位

中国語表現（ア）

眞島 淳、大西 紀

< 授業の方法 >

対面授業

講義

< 授業の目的 >

この科目は、学部のDPに掲げる「実践的で高度な外国語の運用ができる」、「言語の基礎にある多様な社会、文化、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目指す。専門教育科目コース科目群の基本外国語科目に属し、「聞く・話す・読む・書く」の4技能を徹底的に鍛える科目として位置づけられる。

中国語の発音表記（ピンイン）を習得し、正確な発音ができるようになることを目的とする。また、中国語の基本単語、文法事項を習得し、日常生活の身近な話題について表現できるようになることを目的とする。

さらに、中国語学習を通して、中国語圏の文化の多様性を認識し、異文化に対する興味・関心を深めることもこの科目の目的である。

なお、この科目の担当者（眞島）は、航空業界のサービスの第一線で中国語を運用してきた実務経験のある教員である。学生が実際に学習言語を運用する場面を想像しながら中国語学習に取り組めるよう講義を行ってきたい。

< 到達目標 >

400語程度の常用中国語単語を身に付け、使用することができる。（知識）

中国語の発音（ピンイン表記）を習得し、正確に発音することができる。（知識、技能）

教科書の例文、会話に倣ってあいさつや簡単な日常会話ができる。（技能）

短い中国語会話を聞いて内容を理解することができる。（技能）

50字程度の短い文章の解釈ができる。（技能）

教科書の例文、会話に倣って簡単な文を作ることができる。（技能）

< 授業のキーワード >

中国語、発音（ピンイン表記）、簡体字、「聞く・話す・読む・書く」4技能

< 授業の進め方 >

授業は、前回の復習を兼ねた小テストから始める。その後、全体での発音練習を行いながら、新出語句と文法項目の説明を行う。会話本文については、全体での発音練習及び解釈の確認を行った上で、ペアで練習を行う。その際に、ペアごとに発音チェックとフィードバックを行

う。最後に練習問題を使ってまとめを行う。

<履修するにあたって>

予習 授業 復習の学習サイクルを徹底すること。授業に欠席、遅刻をしないこと。

講義中は受講ルール、マナーを遵守すること。

<授業時間外に必要な学修>

授業計画で示された内容に沿って、以下の事前・事後学習を行うこと。

【事前学習】(目安：1時間)

次回の学習範囲について

新出語句の音源を聴いて発音練習を行い、書いて覚えること。

文法例文と本文の音源を聴いて発音練習をしたうえで、解釈を行うこと。

【事後学習】(目安：1時間)

前回の学習範囲について

文法例文と本文のディクテーションを行うこと。

音源につけて暗唱できるまで発音練習を行うこと。

<提出課題など>

毎回、教科書の練習問題などを指定し、課題として提出してもらう。

授業の最後にミニツカードを記入してもらう。カードに記入されたことについて、次回の授業においてフィードバックを行う。

<成績評価方法・基準>

成績評価の前提として前授業回数の3分の2以上の出席を必要とする。出席が3分の2に達しない場合は単位を認めないので注意すること。

以下の割合で総合的に評価する。

定期試験50%(中間試験25%、期末試験25%)

小テスト30%

課題10%

発音チェック及び授業での発表10%

<テキスト>

「大学生のための初級中国語40回」(杉野元子・黄漢青著、2010年、白帝社、2750円税込)

このテキストは中国語表現でも引き続き使用する。

<参考図書>

「Why?にこたえるはじめての中国語の文法書」(相原茂・石田知子・戸沼市子著、1996年、同学社、2500円税別)

「完全マスター 中国語の文法 改訂版」(瀬戸口律子著、2003年、語研、2400円税別)

他の参考図書については授業において適時紹介する。

<授業計画>

第1回(真島) オリエンテーション

中国語圏、中国語について

第2回(大西) 第1課

声調、単母音

第3回(真島) 第2課

複母音、声調記号のつけ方

第4回(大西) 第3課

子音(1)、軽声、第3声の声調変化、声調の組み合わせ(1)

第5回(真島) 第4課

子音(2)、“不”の声調変化、親族名称

第6回(大西)

第5課

鼻母音、“一”の声調変化、数字(0-10)

第7回(真島) 第6課

r化、間違えやすい発音、隔音記号、人称代詞、声調の組み合わせ(2)

第8回(真島) 第7課

まぎらわしい発音、数字11-99、あいさつ言葉、名前の聞き方と答え方

第9回(大西) 第8課

動詞“是”、“吗”疑問文、補充語句

第10回(真島) 第9課

動詞述語文、副詞“也”と“都”、語気助詞“吧”

第11回(大西) 第10課

“呢”疑問文、指示代詞(1)、“的”

第12回(真島) 第11課

疑問詞疑問文、助動詞“想”、時点(1)

第13回(大西) 第12課

形容詞述語文、反復疑問文、補充語句

第14回(真島) 第13課

連動文、所有を表す動詞“有”、量詞

第15回(大西) 第14課

“几”と“多少”、数字100-、金額の言い方

第16回(真島) 会話練習

第8課～第14課の会話練習

第17回(大西) 復習

第8課～第11課の復習

第18回(真島) 復習

第12課～第14課の復習

第19回(大西) 中間テスト

第8課～第14課のテスト及び解答・解説

第20回(真島) 第15課

指示代詞(2)、方位詞、存在を表す“在”と“有”

第21回(大西) 第16課

文末の“了”(1)、年齢の尋ね方、時点(2)

第22回(真島) 第17課

前置詞“在”、時点(3)、名詞の修飾

第23回(大西) 第18課

時間量、前置詞"从" "到" "离"、選択疑問文
第24回(真島) 第19課
動詞の後の"了"(1)と文末の"了"(2)、動詞の重ね型、前置詞"跟"

第25回(大西) 第20課
動詞の後の"了"(2)、主述述語文、前置詞"给"

第26回(真島) 第21課
経験の"过"、疑問詞"怎么"、疑問詞のまとめ

第27回(大西) 第22課
助動詞"要"、助動詞"得"、助動詞"应该"

第28回(真島) 会話練習
第15課～第22課の会話練習

第29回(大西) 復習

第15課～第18課の復習

第30回(大西) 復習

第19課～第22課の復習

2022年度 前期

2.0単位

中国語表現 (イ)

真島 淳、大西 紀

< 授業の方法 >

対面授業

講義

< 授業の目的 >

この科目は、学部のDPに掲げる「実践的で高度な外国語の運用ができる」、「言語の基礎にある多様な社会、文化、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目指す。専門教育科目コース科目群の基本外国語科目に属し、「聞く・話す・読む・書く」の4技能を徹底的に鍛える科目として位置づけられる。

中国語の発音表記(ピンイン)を習得し、正確な発音ができるようになることを目的とする。また、中国語の基本単語、文法事項を習得し、日常生活の身近な話題について表現できるようになることを目的とする。

さらに、中国語学習を通して、中国語圏の文化の多様性を認識し、異文化に対する興味・関心を深めることもこの科目の目的である。

なお、この科目の担当者(真島)は、航空業界のサービスの第一線で中国語を運用してきた実務経験のある教員である。学生が実際に学習言語を運用する場面を想像しながら中国語学習に取り組めるよう講義を行っていきたい。

< 到達目標 >

400語程度の常用中国語単語を身に付け、使用することができる。(知識)

中国語の発音(ピンイン表記)を習得し、正確に発音

することができる。(知識、技能)

教科書の例文、会話に倣ってあいさつや簡単な日常会話ができる。(技能)

短い中国語会話を聞いて内容を理解することができる。(技能)

50字程度の短い文章の解釈ができる。(技能)

教科書の例文、会話に倣って簡単な文を作ることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

中国語、発音(ピンイン表記)、簡体字、「聞く・話す・読む・書く」4技能

< 授業の進め方 >

授業は、前回の復習を兼ねた小テストから始める。その後、全体での発音練習を行いながら、新出語句と文法項目の説明を行う。会話本文については、全体での発音練習及び解釈の確認を行った上で、ペアで練習を行う。その際に、ペアごとに発音チェックとフィードバックを行う。最後に練習問題を使ってまとめを行う。

< 履修するにあたって >

予習 授業 復習の学習サイクルを徹底すること。授業に欠席、遅刻をしないこと。

講義中は受講ルール、マナーを遵守すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画で示された内容に沿って、以下の事前・事後学習を行うこと。

【事前学習】(目安：1時間)

次回の学習範囲について

新出語句の音源を聴いて発音練習を行い、書いて覚えること。

文法例文と本文の音源を聴いて発音練習をしたうえで、解釈を行うこと。

【事後学習】(目安：1時間)

前回の学習範囲について

文法例文と本文のディクテーションを行うこと。

音源につけて暗唱できるまで発音練習を行うこと。

< 提出課題など >

毎回、教科書の練習問題などを指定し、課題として提出してもらう。

授業の最後にミニッツカードを記入してもらう。カードに記入されたことについて、次回の授業においてフィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >

成績評価の前提として前授業回数の3分の2以上の出席を必要とする。出席が3分の2に達さない場合は単位を認めないので注意すること。

以下の割合で総合的に評価する。

定期試験50%(中間試験25%、期末試験25%)

小テスト30%

課題10%

発音チェック及び授業での発表10%

<テキスト>

「大学生のための初級中国語40回」(杉野元子・黄漢青著、2010年、白帝社、2750円税込)

このテキストは中国語表現でも引き続き使用する。

<参考図書>

「Why?にこたえるはじめての中国語の文法書」(相原茂・石田知子・戸沼市子著、1996年、同学社、2500円税別)

「完全マスター 中国語の文法 改訂版」(瀬戸口律子著、2003年、語研、2400円税別)

他の参考図書については授業において適時紹介する。

<授業計画>

第1回(真島) オリエンテーション

中国語圏、中国語について

第2回(大西) 第1課

声調、単母音

第3回(真島) 第2課

複母音、声調記号のつけ方

第4回(大西) 第3課

子音(1)、軽声、第3声の声調変化、声調の組み合わせ(1)

第5回(真島) 第4課

子音(2)、“不”の声調変化、親族名称

第6回(大西) 第5課

鼻母音、“一”の声調変化、数字(0-10)

第7回(真島) 第6課

r化、間違えやすい発音、隔音記号、人称代詞、声調の組み合わせ(2)

第8回(真島) 第7課

まぎらわしい発音、数字11-99、あいさつ言葉、名前の聞き方と答え方

第9回(大西) 第8課

動詞“是”、“吗”疑問文、補充語句

第10回(真島) 第9課

動詞述語文、副詞“也”“と”“都”、語気助詞“吧”

第11回(大西) 第10課

“呢”疑問文、指示代詞(1)、“的”

第12回(真島) 第11課

疑問詞疑問文、助動詞“想”、時点(1)

第13回(大西) 第12課

形容詞述語文、反復疑問文、補充語句

第14回(真島) 第13課

連動文、所有を表す動詞“有”、量詞

第15回(大西) 第14課

“几”“多少”、数字100-、金額の言い方

第16回(真島) 会話練習

第8課～第14課の会話練習

第17回(大西) 復習

第8課～第11課の復習

第18回(真島) 復習

第12課～第14課の復習

第19回(大西) 中間テスト

第8課～第14課のテスト及び解答・解説

第20回(真島) 第15課

指示代詞(2)、方位詞、存在を表す“在”“と”“有”

第21回(大西) 第16課

文末の“了”(1)、年齢の尋ね方、時点(2)

第22回(真島) 第17課

前置詞“在”、時点(3)、名詞の修飾

第23回(大西) 第18課

時間量、前置詞“从”“到”“离”、選択疑問文

第24回(真島) 第19課

動詞の後の“了”(1)と文末の“了”(2)、動詞の重ね型、前置詞“跟”

第25回(大西) 第20課

動詞の後の“了”(2)、主述述語文、前置詞“给”

第26回(真島) 第21課

経験の“过”、疑問詞“怎么”、疑問詞のまとめ

第27回(大西) 第22課

助動詞“要”、助動詞“得”、助動詞“应该”

第28回(真島) 会話練習

第15課～第22課の会話練習

第29回(大西) 復習

第15課～第18課の復習

第30回(大西) 復習

第19課～第22課の復習

2022年度 後期

2.0単位

中国語表現 (ア)

真島 淳、大西 紀

<授業の方法>

対面授業

講義

<授業の目的>

この科目は、学部のDPに掲げる「実践的で高度な外国語の運用ができる」、「言語の基礎にある多様な社会、文化、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目指す。専門教育科目コース科目群の基本外国語科目に属し、「聞く・話す・読む・書く」の4技能を徹底的に鍛える科目として位置づけられる。

中国語の発音表記(ピンイン)を習得し、正確な発音ができるようになることを目的とする。また、中国語の基

本単語、文法事項を習得し、日常生活の身近な話題について表現できるようになることを目的とする。

さらに、中国語学習を通して、中国語圏の文化の多様性を認識し、異文化に対する興味・関心を深めることもこの科目の目的である。

なお、この科目の担当者（眞島）は、航空業界のサービスの第一線で中国語を運用してきた実務経験のある教員である。学生が実際に学習言語を運用する場面を想像しながら中国語学習に取り組めるよう講義を行っていきたい。

<到達目標>

400語程度(中国語表現Iと合わせて800語程度)の常用中国語単語を身に着け、使用することができる。(知識)

中国語の発音(ピンイン表記)を習得し、正確に発音することができる。(知識、技能)

教科書の例文、会話に倣ってあいさつや簡単な日常会話ができる。(技能)

短い中国語会話を聞いて内容を理解することができる。(技能)

50字程度の短い文章の解釈ができる。(技能)

教科書の例文、会話に倣って簡単な文を作ることができる。(技能)

<授業のキーワード>

中国語、発音(ピンイン表記)、簡体字、「聞く・話す・読む・書く」4技能

<授業の進め方>

授業は、前回の復習を兼ねた小テストから始める。その後、全体での発音練習を行いながら、新出語句と文法項目の説明を行う。会話本文については、全体での発音練習及び解釈の確認を行った上で、ペアで練習を行う。その際に、ペアごとに発音チェックとフィードバックを行う。最後に練習問題を使ってまとめを行う。

<履修するにあたって>

前期に「中国語表現」を履修済みであること。

予習 授業 復習の学習サイクルを徹底すること。授業に欠席、遅刻をしないこと。

講義中は受講ルール、マナーを遵守すること。

<授業時間外に必要な学修>

授業計画で示された内容に沿って、以下の事前・事後学習を行うこと。

【事前学習】(目安：1時間)

次回の学習範囲について

新出語句の音源を聴いて発音練習を行い、書いて覚えること。

文法例文と本文の音源を聴いて発音練習をしたうえで、解釈を行うこと。

【事後学習】(目安：1時間)

前回の学習範囲について

文法例文と本文のディクテーションを行うこと。

音源につけて暗唱できるまで発音練習を行うこと。

<提出課題など>

毎回、教科書の練習問題などを指定し、課題として提出してもらう。

授業の最後にミニッツカードを記入してもらう。カードに記入されたことについて、次回の授業においてフィードバックを行う。

<成績評価方法・基準>

成績評価の前提として前授業回数の3分の2以上の出席を必要とする。出席が3分の2に達しない場合は単位を認めないので注意すること。

以下の割合で総合的に評価する。

定期試験60%(到達度テスト、期末テスト各20%)

小テスト20%

課題10%

発音チェック及び授業での発表10%

<テキスト>

「大学生のための初級中国語40回」(杉野元子・黄漢青著、2010年、白帝社、2750円税込)

このテキストは中国語表現 から継続して使用する。

<参考図書>

「Why?にこたえるはじめての中国語の文法書」(相原茂・石田知子・戸沼市子著、1996年、同学社、2500円税別)

「完全マスター 中国語の文法 改訂版」(瀬戸口律子著、2003年、語研、2400円税別)

他の参考図書については授業において適時紹介する。

<授業計画>

第1回(大西) 復習

前期の復習(第8課~第14課)

第2回(大西) 復習

前期の復習(第15課~第22課)

第3回(眞島) 第23課

助動詞"会"(1)、助動詞"能"、助動詞"可以"

第4回(大西) 第24課

助動詞"会"(2)、禁止、名詞述語文

第5回(眞島) 第25課

時間量補語、離合動詞、補充語句

第6回(大西) 第26課

動作量補語、"不"のまとめ、"没"のまとめ

第7回(眞島) 第27課

状態補語、二重目的語、人の場所化

第8回(大西) 第28課

単純方向補語、複合方向補語、補充語句

第9回(眞島) 会話練習

第23課~第28課の会話練習

第10回(大西) 復習
 第23課～第25課の復習
 第11回(眞島) 復習
 第26課～第28課の復習
 第12回(大西) 到達度テスト
 第23課～第28課のテスト及び解答・解説
 第13回(大西) 第29課
 結果補語、副詞"就"と"才"、補充語句
 第14回(眞島) 第30課
 可能補語、方向補語の派生的用法、"一～就..."

第15回(大西) 第31課
 比較(1)、比較(2)、"多"+形容詞
 第16回(眞島) 第32課
 "是～的"構文、譲歩と逆接、補充語句
 第17回(大西) 第33課
 進行の"正""在""正在"、"在"のまとめ、前置詞のまとめ
 第18回(眞島) 第34課
 持続の"着"、疑問詞の不定用法、補充語句
 第19回(大西) 復習
 第29課～第31課の復習
 第20回(眞島) 復習
 第32課～第34課の復習
 第21回(大西) 到達度テスト
 第29課～第34課のテスト及び解答・解説
 第22回(眞島) 第35課
 存現文、副詞"再"と"又"、自然現象
 第23回(大西) 第36課
 近い未来、"一点儿"、"有点儿"
 第24回(眞島) 第37課
 処置文、疑問詞の呼応用法、"连～都/也..."
 第25回(大西) 第38課
 受け身文、疑問詞+"都/也"、補語のまとめ

第26回(眞島) 第39課
 使役文、仮定、"越～越..."
 第27回(眞島) 第40課
 複文(1)、複文(2)、"地"
 第28回(眞島) 復習
 第35課～第37課の復習
 第29回(大西) 復習
 第38課～第40課の復習
 第30回(眞島) 総合復習
 総合復習を行う

 2022年度 後期
 2.0単位
 中国語表現 (イ)
 眞島 淳、大西 紀

< 授業の方法 >

対面授業

講義

< 授業の目的 >

この科目は、学部のDPに掲げる「実践的で高度な外国語の運用ができる」、「言語の基礎にある多様な社会、文化、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目指す。専門教育科目コース科目群の基本外国語科目に属し、「聞く・話す・読む・書く」の4技能を徹底的に鍛える科目として位置づけられる。

中国語の発音表記(ピンイン)を習得し、正確な発音ができるようになることを目的とする。また、中国語の基本単語、文法事項を習得し、日常生活の身近な話題について表現できるようになることを目的とする。

さらに、中国語学習を通して、中国語圏の文化の多様性を認識し、異文化に対する興味・関心を深めることもこの科目の目的である。

なお、この科目の担当者(眞島)は、航空業界のサービスの第一線で中国語を運用してきた実務経験のある教員である。学生が実際に学習言語を運用する場面を想像しながら中国語学習に取り組めるよう講義を行ってきたい。

< 到達目標 >

400語程度(中国語表現Iと合わせて800語程度)の常用中国語単語を身に付け、使用することができる。(知識)

中国語の発音(ピンイン表記)を習得し、正確に発音することができる。(知識、技能)

教科書の例文、会話に倣ってあいさつや簡単な日常会話ができる。(技能)

短い中国語会話を聞いて内容を理解することができる。(技能)

50字程度の短い文章の解釈ができる。(技能)

教科書の例文、会話に倣って簡単な文を作ることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

中国語、発音(ピンイン表記)、簡体字、「聞く・話す・読む・書く」4技能

< 授業の進め方 >

授業は、前回の復習を兼ねた小テストから始める。その後、全体での発音練習を行いながら、新出語句と文法項目の説明を行う。会話本文については、全体での発音練習及び解釈の確認を行った上で、ペアで練習を行う。そ

の際に、ペアごとに発音チェックとフィードバックを行う。最後に練習問題を使ってまとめを行う。

<履修するにあたって>

前期に「中国語表現」を履修済みであること。

予習 授業 復習の学習サイクルを徹底すること。授業に欠席、遅刻をしないこと。

講義中は受講ルール、マナーを遵守すること。

<授業時間外に必要な学修>

授業計画で示された内容に沿って、以下の事前・事後学習を行うこと。

【事前学習】(目安：1時間)

次回の学習範囲について

新出語句の音源を聴いて発音練習を行い、書いて覚えること。

文法例文と本文の音源を聴いて発音練習をしたうえで、解釈を行うこと。

【事後学習】(目安：1時間)

前回の学習範囲について

文法例文と本文のディクテーションを行うこと。

音源につけて暗唱できるまで発音練習を行うこと。

<提出課題など>

毎回、教科書の練習問題などを指定し、課題として提出してもらう。

授業の最後にミニツカードを記入してもらう。カードに記入されたことについて、次回の授業においてフィードバックを行う。

<成績評価方法・基準>

成績評価の前提として前授業回数の3分の2以上の出席を必要とする。出席が3分の2に達しない場合は単位を認めないので注意すること。

以下の割合で総合的に評価する。

定期試験60%(到達度テスト、期末テスト各20%)

小テスト20%

課題10%

発音チェック及び授業での発表10%

<テキスト>

「大学生のための初級中国語40回」(杉野元子・黄漢青著、2010年、白帝社、2750円税込)

このテキストは中国語表現 から継続して使用する。

<参考図書>

「Why?にこたえるはじめての中国語の文法書」(相原茂・石田知子・戸沼市子著、1996年、同学社、2500円税別)

「完全マスター 中国語の文法 改訂版」(瀬戸口律子著、2003年、語研、2400円税別)

他の参考図書については授業において適時紹介する。

<授業計画>

第1回(大西) 復習

前期の復習(第8課~第14課)

第2回(大西) 復習

前期の復習(第15課~第22課)

第3回(真島) 第23課

助動詞"会"(1)、助動詞"能"、助動詞"可以"

第4回(大西) 第24課

助動詞"会"(2)、禁止、名詞述語文

第5回(真島) 第25課

時間量補語、離合動詞、補充語句

第6回(大西) 第26課

動作量補語、"不"のまとめ、"没"のまとめ

第7回(真島) 第27課

状態補語、二重目的語、人の場所化

第8回(大西) 第28課

単純方向補語、複合方向補語、補充語句

第9回(真島) 会話練習

第23課~第28課の会話練習

第10回(大西) 復習

第23課~第25課の復習

第11回(真島) 復習

第26課~第28課の復習

第12回(大西) 到達度テスト

第23課~第28課のテスト及び解答・解説

第13回(大西) 第29課

結果補語、副詞"就"と"才"、補充語句

第14回(真島) 第30課

可能補語、方向補語の派生的用法、"一~就..."

第15回(大西) 第31課

比較(1)、比較(2)、"多"+形容詞

第16回(真島) 第32課

"是~的"構文、譲歩と逆接、補充語句

第17回(大西) 第33課

進行の"正"在"正在"、"在"のまとめ、前置詞のまとめ

第18回(真島) 第34課

持続の"着"、疑問詞の不定用法、補充語句

第19回(大西) 復習

第29課~第31課の復習

第20回(真島) 復習

第32課~第34課の復習

第21回(大西) 到達度テスト

第29課~第34課のテスト及び解答・解説

第22回(真島) 第35課

存現文、副詞"再"と"又"、自然現象

第23回(大西) 第36課

近い未来、"一点儿"、"有点儿"

第24回(真島) 第37課

処置文、疑問詞の呼応用法、"连~都/也..."

第25回（大西） 第38課
受け身文、疑問詞 + "都/也"、補語のまとめ

第26回（眞島） 第39課
使役文、仮定、"越～越..."
第27回（眞島） 第40課
複文(1)、複文(2)、"地"
第28回（眞島） 復習
第35課～第37課の復習
第29回（大西） 復習
第38課～第40課の復習
第30回（眞島） 総合復習
総合復習を行う

2022年度 前期
2.0単位
中国語表現 (ア)
眞島 淳、張 麗静

< 授業の方法 >

対面授業

講義

< 授業の目的 >

この科目は、学部DPに掲げる「実践的で高度な外国語の運用ができる」、「言語の基礎にある多様な社会、文化、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目指す。専門教育科目コース科目群の基本外国語科目に属し、特に中国語を「聞く、書く」技能を徹底的に鍛える科目として位置付けられる。この科目では1年次に習得した単語や基本文型の復習・整理を行いながら、中国語の短い会話・文章を理解できるリスニング力を身に付けることを目的とする。また、正確に日本語と中国語の間で相互に訳をすることができ、まとまった長さの作文ができる表現力を身に付けることも目的とする。

さらに、中国語学習を通して、中国語圏の文化の多様性を認識し、異文化に対する興味・関心を深めることもこの科目の目的である。

なお、この科目の担当者（眞島）は、航空業界のサービスの第一線で中国語を運用してきた実務経験のある教員である。学生が実際に学習言語を運用する場面を想像しながら中国語学習に取り組めるよう講義を行っていきたい。

< 到達目標 >

1000-2000語程度の常用中国語単語をみにつけ、使用することができる。（知識）

短い中国語会話、もしくは文章を聞いて内容を理解することができる。（技能）

1年次に学習した単語、文型を使って正確に日本語を中国語に、中国語を日本語に訳することができる。（知識、

技能）

与えられたテーマに沿って、400字程度の中国語作文をすることができる。（技能）

< 授業のキーワード >

中国語、リスニング、作文

< 授業の進め方 >

授業の進め方

【リスニング】

前回の復習を兼ねた小テストから始める。その後、ディクテーション（書き取り）を行う。スクリプトを配布し、全体で発音練習を行いながら語句や重要文型の確認・説明を行う。

【書く】

前回の復習を兼ねた小テストから始める。小テスト後、1年次で学習した文法・文型を簡単に復習する。そして、日本語を中国語に訳す練習を行い、適時解説の時間を設ける。

< 履修するにあたって >

予習 授業 復習の学習サイクルを徹底すること。授業に欠席、遅刻をしないこと。

講義中は受講ルール、マナーを遵守すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画で示された内容に沿って、以下の事前・事後学習を行うこと。

【事前学習】（目安：1時間）

次回の学習範囲について、教科書の練習問題に取り組み、わからない箇所を明確にしておくこと（作文）。

【事後学習】（目安：1時間）

前回の学習範囲について

ディクテーションを行い、音声を聞いて漢字・ピンインで書きとれるように練習すること（リスニング）。

音源につけて発音練習を行うこと（リスニング）。

語句や例文を書いて覚えること（作文）。

< 提出課題など >

毎回、教科書の練習問題などを指定し、課題として提出してもらう。

授業の最後にミニツカードに記入してもらう。カードに記入されたことについて、次回の授業においてフィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >

成績評価の前提として前授業回数の3分の2以上の出席を必要とする。出席が3分の2に達さない場合は単位を認めないので注意すること。

以下の割合で総合的に評価する。

定期試験50%(中間テスト・期末テスト各25%)

小テスト20%

課題20%

授業での発表10%

<テキスト>

「中国語基本単語帳」(早稲田大学商学部中国語教室、2021年、朝日出版社、1600円税別)

「中国語作文 初級から中級へ(改訂版)」(郭春貴・徳永淳子・高橋海生著、2000年、白帝社、1760円税込)

これらのテキストは中国語表現でも引き続き使用する。

リスニングについてはプリントを配布する。

<参考図書>

参考図書については授業において適時紹介する。

<授業計画>

第1回(張) オリエンテーション

シラバスの確認、到達度チェック

第2回(眞島) オリエンテーション

シラバスの確認、到達度チェック

第3回(張) 作文(1)

第一課 "是"

第4回(眞島) リスニング(1)

プリントによるリスニング練習

第5回(張) 作文(2)

第二課 "有"

第6回(眞島) リスニング(2)

プリントによるリスニング練習

第7回(張) 作文(3)

第三課 "在"

第8回(張) 作文(4)

第四課 形容詞を述語とする文

第9回(眞島) リスニング(3)

プリントによるリスニング練習

第10回(張) 作文(5)

第五課 動詞を述語とする文

第11回(眞島) リスニング(4)

プリントによるリスニング練習

第12回(張) 作文(6)

第六課 "来+動詞"、"去+動詞"

第13回(眞島) リスニング(5)

プリントによるリスニング練習

第14回(張) 作文(7)

第七課 名詞を述語とする文

第15回(眞島) 中間テスト

既習内容の到達度テストを行う。

第16回(張) 作文(8)

第八課 疑問文

第17回(眞島) リスニング(6)

プリントによるリスニング練習

第18回(張) 作文(9)

第九課 疑問代詞を使った疑問文

第19回(眞島) リスニング(7)

プリントによるリスニング練習

第20回(張) 作文(10)

第十課 数量を尋ねる疑問文

第21回(眞島) リスニング(8)

プリントによるリスニング練習

第22回(張) 作文(11)

第十一課 反復疑問文

第23回(眞島) リスニング(9)

プリントによるリスニング練習

第24回(張) 作文(12)

第十二課 "動詞+了"

第25回(眞島) リスニング(10)

プリントによるリスニング練習

第26回(張) 作文(13)

第十三課 文末の"了"

第27回(眞島) リスニング(11)

プリントによるリスニング練習

第28回(張) 作文(14)

第十四課 "動詞+着"

第29回(眞島) リスニング(12)

プリントによるリスニング練習

第30回(眞島) リスニング(13)

プリントによるリスニング練習

2022年度 前期

2.0単位

中国語表現 (ア)

眞島 淳、張 麗静

<授業の方法>

対面授業

講義

<授業の目的>

この科目は、学部DPIに掲げる「実践的で高度な外国語の運用ができる」、「言語の基礎にある多様な社会、文化、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目指す。専門教育科目コース科目群の基本外国語科目に属し、特に中国語を「聞く、書く」技能を徹底的に鍛える科目として位置付けられる。

この科目では1年次に習得した単語や基本文型の復習・整理を行いながら、中国語の短い会話・文章を理解できるリスニング力を身に付けることを目的とする。また、正確に日本語と中国語の間で相互に訳をすることができ、まとまった長さの作文ができる表現力を身に付けることも目的とする。

さらに、中国語学習を通して、中国語圏の文化の多様性を認識し、異文化に対する興味・関心を深めることもこの科目の目的である。

なお、この科目の担当者（眞島）は、航空業界のサービスの第一線で中国語を運用してきた実務経験のある教員である。学生が実際に学習言語を運用する場面を想像しながら中国語学習に取り組めるよう講義を行っていきたい。

<到達目標>

1000-2000語程度の常用中国語単語をみにつけ、使用することができる。（知識）

短い中国語会話、もしくは文章を聞いて内容を理解することができる。（技能）

1年次に学習した単語、文型を使って正確に日本語を中国語に、中国語を日本語に訳することができる。（知識、技能）

与えられたテーマに沿って、400字程度の中国語作文をすることができる。（技能）

<授業のキーワード>

中国語、リスニング、作文

<授業の進め方>

授業の進め方

【リスニング】

前回の復習を兼ねた小テストから始める。その後、ディクテーション（書き取り）を行う。スクリプトを配布し、全体で発音練習を行いながら語句や重要文型の確認・説明を行う。

【書く】

前回の復習を兼ねた小テストから始める。小テスト後、1年次で学習した文法・文型を簡単に復習する。そして、日本語を中国語に訳す練習を行い、適時解説の時間を設ける。

<履修するにあたって>

予習 授業 復習の学習サイクルを徹底すること。授業に欠席、遅刻をしないこと。

講義中は受講ルール、マナーを遵守すること。

<授業時間外に必要な学修>

授業計画で示された内容に沿って、以下の事前・事後学習を行うこと。

【事前学習】（目安：1時間）

次回の学習範囲について、教科書の練習問題に取り組み、わからない箇所を明確にしておくこと（作文）。

【事後学習】（目安：1時間）

前回の学習範囲について

ディクテーションを行い、音声を聞いて漢字・ピンインで書きとれるように練習すること（リスニング）。

音源につけて発音練習を行うこと（リスニング）。

語句や例文を書いて覚えること（作文）。

<提出課題など>

毎回、教科書の練習問題などを指定し、課題として提

出してもらう。

授業の最後にミニッツカードに記入してもらう。カードに記入されたことについて、次回の授業においてフィードバックを行う。

<成績評価方法・基準>

成績評価の前提として前授業回数の3分の2以上の出席を必要とする。出席が3分の2に達さない場合は単位を認めないので注意すること。

以下の割合で総合的に評価する。

定期試験50%（中間テスト・期末テスト各25%）

小テスト20%

課題20%

授業での発表10%

<テキスト>

「中国語基本単語帳」（早稲田大学商学部中国語教室、2021年、朝日出版社、1600円税別）

「中国語作文 初級から中級へ（改訂版）」（郭春貴・徳永淳子・高橋海生著、2000年、白帝社、1760円税込）

これらのテキストは中国語表現でも引き続き使用する。

リスニングについてはプリントを配布する。

<参考図書>

参考図書については授業において適時紹介する。

<授業計画>

第1回（張） オリエンテーション

シラバスの確認、到達度チェック

第2回（眞島） オリエンテーション

シラバスの確認、到達度チェック

第3回（張） 作文(1)

第一課 "是"

第4回（眞島） リスニング(1)

プリントによるリスニング練習

第5回（張） 作文(2)

第二課 "有"

第6回（眞島） リスニング(2)

プリントによるリスニング練習

第7回（張） 作文(3)

第三課 "在"

第8回（張） 作文(4)

第四課 形容詞を述語とする文

第9回（眞島） リスニング(3)

プリントによるリスニング練習

第10回（張） 作文(5)

第五課 動詞を述語とする文

第11回（眞島） リスニング(4)

プリントによるリスニング練習

第12回（張） 作文(6)

第六課 "来+動詞"、"去+動詞"
第13回(真島) リスニング(5)
プリントによるリスニング練習
第14回(張) 作文(7)
第七課 名詞を述語とする文
第15回(真島) 中間テスト
既習内容の到達度テストを行う。
第16回(張) 作文(8)
第八課 疑問文
第17回(真島) リスニング(6)
プリントによるリスニング練習
第18回(張) 作文(9)
第九課 疑問代詞を使った疑問文
第19回(真島) リスニング(7)
プリントによるリスニング練習
第20回(張) 作文(10)
第十課 数量を尋ねる疑問文
第21回(真島) リスニング(8)
プリントによるリスニング練習
第22回(張) 作文(11)
第十一課 反復疑問文
第23回(真島) リスニング(9)
プリントによるリスニング練習
第24回(張) 作文(12)
第十二課 "動詞+了"
第25回(真島) リスニング(10)
プリントによるリスニング練習
第26回(張) 作文(13)
第十三課 文末の"了"
第27回(真島) リスニング(11)
プリントによるリスニング練習
第28回(張) 作文(14)
第十四課 "動詞+着"
第29回(真島) リスニング(12)
プリントによるリスニング練習
第30回(真島) リスニング(13)
プリントによるリスニング練習

2022年度 前期

2.0単位

中国語表現 (イ)

金 昌吉

< 授業の方法 >

対面授業

講義

< 授業の目的 >

この授業はディプロマ・ポリシーの中の、実践的で高度な外国語の運用ができる、と関係する科目で、中国語コースの基本外国語(履修必修)科目に位置付けられる。

中国語を学んで2年目の学生を対象とし、中国語で表現し、コミュニケーションをはかるための基礎力の習得をめざす。特に「聞く」、「書く」の能力の向上に重点を置き、パフォーマンスを含めた中国語による多様な表現方法を身につけられるようにする。

< 到達目標 >

中国語の基本文法を理解し、HSK4級合格程度の能力を習得できる。

日常的な事柄が中国語で表現できるようになる。

中国語による多様な表現方法を身につけることができる。

< 授業のキーワード >

中国語 作文 リスニング パフォーマンス

< 授業の進め方 >

1) 1年次に学んだ中国語文法を基に、作文力の向上させる練習を行う。

2) 多様な中国語によるパフォーマンスを学び、表現力を高める。

3) HSK4級合格のための試験対策指導を行う。

4) 随時小テストを行い、習得状況の確認を行う。

< 履修するにあたって >

毎回の授業の予習復習は不可欠です。例文を何度も声に出して読んだり、書いたりして覚える学習を習慣化し、確実に自分のものにしてください。毎回遅刻をせず、必ず出席すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

リスニングの授業はすべて中国語で行うため、授業時に聞き取れなかった単語やフレーズをよく復習すること。受講前、「新出単語」の意味と発音を辞書で調べ、「練習」問題を自分の力でやっておくこと。受講後、できなかった問題をよく見なおすこと。

予習復習を1時間は行うこと。

< 提出課題など >

授業時に適宜指示する。小テストは採点し、次の授業時に返却する。

中間、期末試験に関しては正答の解説を行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加状況、小テスト(50点)期末試験等(50点)

< テキスト >

授業中に配付のプリント

< 参考図書 >

授業時に適宜指示

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

ガイダンス。能力テスト。

第2回 HSK4級対策(1)

ヒアリング(1)

第3回 HSK4級対策(2)

読解、作文(1)

第4回 HSK4級対策(3)

ヒアリング(2)
第5回 HSK4級対策(4)
読解、作文(2)
第6回 HSK4級対策(5)
ヒアリング(3)
第7回 HSK4級対策(6)
読解、作文(3)
第8回 HSK4級対策(7)
ヒアリング(4)
第9回 HSK4級対策(8)
読解、作文(4)
第10回 HSK4級対策(9)
ヒアリング(5)
第11回 HSK4級対策(10)
読解、作文(5)
第12回 HSK4級対策(11)
ヒアリング(6)
第13回 HSK4級対策(12)
読解、作文(6)
第14回 HSK4級対策(13)
ヒアリング(7)
第15回 HSK4級対策(14)
読解、作文(7)
第16回 HSK4級対策(15)
ヒアリング(8)
第17回 HSK4級対策(16)
読解、作文(8)
第18回 HSK4級対策(17)
ヒアリング(9)
第19回 HSK4級対策(18)
読解、作文(9)
第20回 HSK4級対策(19)
ヒアリング(10)
第21回 HSK4級対策(20)
読解、作文(10)
第22回 小テスト
HSK4級模擬テスト(1)
第23回 HSK4級対策(21)
ヒアリング(11)
第24回 HSK4級対策(22)
読解、作文(11)
第25回 HSK4級対策(23)
ヒアリング(12)
第26回 HSK4級対策(24)
読解、作文(12)
第27回 HSK4級対策(25)
ヒアリング(13)
第28回 HSK4級対策(26)
読解、作文(13)
第29回 総復習

HSK4級総復習
第30回 期末試験
HSK4級模擬テスト(2)

2022年度 後期

2.0単位

中国語表現 (ア)

眞島 淳、張 麗静

<授業の方法>

対面授業

講義

<授業の目的>

この科目は、学部DPに掲げる「実践的で高度な外国語の運用ができる」、「言語の基礎にある多様な社会、文化、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目指す。専門教育科目コース科目群の基本外国語科目に属し、特に中国語を「聞く、書く」技能を徹底的に鍛える科目として位置付けられる。

この科目では1年次に習得した単語や基本文型の復習・整理を行いながら、中国語のやや長めの会話・文章を理解できるリスニング力を身に付けることを目的とする。また、正確に日本語と中国語の間で相互に訳をすることができ、まとまった長さの作文ができる表現力を身に付けることも目的とする。

さらに、中国語学習を通して、中国語圏の文化の多様性を認識し、異文化に対する興味・関心を深めることもこの科目の目的である。

なお、この科目の担当者(眞島)は、航空業界のサービスの第一線で中国語を運用してきた実務経験のある教員である。学生が実際に学習言語を運用する場面を想像しながら中国語学習に取り組めるよう講義を行っていきたい。

<到達目標>

1000-2000語程度の常用中国語単語を身に付け、使用することができる。(知識)

やや長めの中国語会話、もしくは文章を聞いて内容を理解することができる。(技能)

1年次に学習した単語、文型を使って正確に日本語を中国語に、中国語を日本語に訳することができる。(技能)

与えられたテーマに沿って、400字程度の中国語作文をすることができる。(技能)

<授業のキーワード>

中国語、リスニング、作文

<授業の進め方>

授業の進め方

【リスニング】

前回の復習を兼ねた小テストから始める。その後、ディクテーション(書き取り)を行う。スクリプトを配布し、

全体で発音練習を行いながら語句や重要文型の確認・説明を行う。

【書く】

前回の復習を兼ねた小テストから始める。小テスト後、1年次で学習した文法・文型を簡単に復習する。そして、日本語を中国語に訳す練習を行い、適時解説の時間を設ける。

<履修するにあたって>

予習 授業 復習の学習サイクルを徹底すること。授業に欠席、遅刻をしないこと。

講義中は受講ルール、マナーを遵守すること。

<授業時間外に必要な学修>

授業計画で示された内容に沿って、以下の事前・事後学習を行うこと。

【事前学習】(目安：1時間)

次回の学習範囲について、教科書の練習問題に取り組み、わからない箇所を明確にしておくこと(作文)。

【事後学習】(目安：1時間)

前回の学習範囲について

ディクテーションを行い、音声を聞いて漢字・ピンインで書きとれるように練習すること(リスニング)。

音源につけて発音練習を行うこと(リスニング)。

語句や例文を書いて覚えること(作文)。

<提出課題など>

毎回、教科書の練習問題などを指定し、課題として提出してもらう。

授業の最後にミニッツカードに記入してもらう。カードに記入されたことについて、次回の授業においてフィードバックを行う。

<成績評価方法・基準>

成績評価の前提として前授業回数の3分の2以上の出席を必要とする。出席が3分の2に達しない場合は単位を認めないので注意すること。

以下の割合で総合的に評価する。

定期試験50%(中間テスト、期末テスト各25%)

小テスト20%

課題20%

授業での発表10%

<テキスト>

「中国語基本単語帳」(早稲田大学商学部中国語教室、2021年、朝日出版社、1600円税別)

「中国語作文 初級から中級へ(改訂版)」(郭春貴・徳永淳子・高橋海生著、2000年、白帝社、1760円税込)

これらのテキストは中国語表現 から引き続き使用する。

リスニングについてはプリントを配布する。

<参考図書>

参考図書については授業において適時紹介する。

<授業計画>

第1回(真島) オリエンテーション、リスニング(1)
シラバスの確認、プリントによるリスニング練習

第2回(真島) リスニング(2)

プリントによるリスニング練習

第3回(張) オリエンテーション、作文(1)

シラバスの確認、第十五課 "動詞+过"

第4回(真島) リスニング(3)

プリントによるリスニング練習

第5回(張) 作文(2)

第十六課 "是...的"(過去の強調)

第6回(真島) リスニング(4)

プリントによるリスニング練習

第7回(張) 作文(3)

第十七課 "的"、"地"、"得"

第8回(真島) リスニング(5)

プリントによるリスニング練習

第9回(張) 作文(4)

第十八課 助動詞 "想"、"要"

第10回(真島) リスニング(6)

プリントによるリスニング練習

第11回(張) 作文(5)

第十九課 助動詞 "会"

第12回(真島) リスニング(7)

プリントによるリスニング練習

第13回(真島) リスニング(8)

プリントによるリスニング練習

第14回(張) 作文(6)

第二十課 助動詞 "能"

第15回(真島) リスニング(9)

プリントによるリスニング練習

第16回(張) 作文(7)

第二十一課 助動詞 "可以"

第17回(真島) 中間テスト

既習内容の到達度テストを行う。

第18回(張) 作文(8)

第二十二課 前置詞 "从"

第19回(真島) リスニング(10)

プリントによるリスニング練習

第20回(張) 作文(9)

第二十三課 前置詞 "离"

第21回(真島) リスニング(11)

プリントによるリスニング練習

第22回(張) 作文(10)

第二十四課 前置詞 "朝"、"向"、"往"

第23回(真島) リスニング(12)

プリントによるリスニング練習

第24回(張) 作文(11)
第二十五課 前置詞 "对"、"跟"
第25回(眞島) リスニング(13)
プリントによるリスニング練習
第26回(張) 作文(12)
第二十六課 "虽然...但是..."
第27回(張) 作文(13)
第二十七課 "因为...所以..."
第28回(張) 作文(14)
第二十八課 "要是...就..."
第29回(眞島) リスニング(14)
プリントによるリスニング練習
第30回(張) 作文(15)
第二十九課 "再"、"又"

2022年度 後期

2.0単位

中国語表現 (ア)

眞島 淳、張 麗静

< 授業の方法 >

対面授業

講義

< 授業の目的 >

この科目は、学部DPに掲げる「実践的で高度な外国語の運用ができる」、「言語の基礎にある多様な社会、文化、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目指す。専門教育科目コース科目群の基本外国語科目に属し、特に中国語を「聞く、書く」技能を徹底的に鍛える科目として位置付けられる。

この科目では1年次に習得した単語や基本文型の復習・整理を行いながら、中国語のやや長めの会話・文章を理解できるリスニング力を身に付けることを目的とする。

また、正確に日本語と中国語の間で相互に訳をすることができ、まとまった長さの作文ができる表現力を身に付けることも目的とする。

さらに、中国語学習を通して、中国語圏の文化の多様性を認識し、異文化に対する興味・関心を深めることもこの科目の目的である。

なお、この科目の担当者(眞島)は、航空業界のサービスの第一線で中国語を運用してきた実務経験のある教員である。学生が実際に学習言語を運用する場面を想像しながら中国語学習に取り組めるよう講義を行っていきたい。

< 到達目標 >

1000-2000語程度の常用中国語単語を身に付け、使用することができる。(知識)

やや長めの中国語会話、もしくは文章を聞いて内容を理解することができる。(技能)

1年次に学習した単語、文型を使って正確に日本語を

中国語に、中国語を日本語に訳することができる。(技能)

与えられたテーマに沿って、400字程度の中国語作文をすることができる。(技能)

< 授業のキーワード >

中国語、リスニング、作文

< 授業の進め方 >

授業の進め方

【リスニング】

前回の復習を兼ねた小テストから始める。その後、ディクテーション(書き取り)を行う。スクリプトを配布し、全体で発音練習を行いながら語句や重要文型の確認・説明を行う。

【書く】

前回の復習を兼ねた小テストから始める。小テスト後、1年次に学習した文法・文型を簡単に復習する。そして、日本語を中国語に訳す練習を行い、適時解説の時間を設ける。

< 履修するにあたって >

予習 授業 復習の学習サイクルを徹底すること。授業に欠席、遅刻をしないこと。

講義中は受講ルール、マナーを遵守すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業計画で示された内容に沿って、以下の事前・事後学習を行うこと。

【事前学習】(目安: 1時間)

次回の学習範囲について、教科書の練習問題に取り組み、わからない箇所を明確にしておくこと(作文)。

【事後学習】(目安: 1時間)

前回の学習範囲について

ディクテーションを行い、音声を聞いて漢字・ピンインで書きとれるように練習すること(リスニング)。

音源につけて発音練習を行うこと(リスニング)。

語句や例文を書いて覚えること(作文)。

< 提出課題など >

毎回、教科書の練習問題などを指定し、課題として提出してもらう。

授業の最後にミニッツカードに記入してもらう。カードに記入されたことについて、次回の授業においてフィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >

成績評価の前提として前授業回数の3分の2以上の出席を必要とする。出席が3分の2に達さない場合は単位を認めないので注意すること。

以下の割合で総合的に評価する。

定期試験50%(中間テスト、期末テスト各25%)

小テスト20%

課題20%

授業での発表10%

<テキスト>

「中国語基本単語帳」(早稲田大学商学部中国語教室、2021年、朝日出版社、1600円税別)

「中国語作文 初級から中級へ(改訂版)」(郭春貴・徳永淳子・高橋海生著、2000年、白帝社、1760円税込)

これらのテキストは中国語表現 から引き続き使用する。

リスニングについてはプリントを配布する。

<参考図書>

参考図書については授業において適時紹介する。

<授業計画>

第1回(真島) オリエンテーション、リスニング(1)
シラバスの確認、プリントによるリスニング練習

第2回(真島) リスニング(2)

プリントによるリスニング練習

第3回(張) オリエンテーション、作文(1)

シラバスの確認、第十五課 "動詞+过"

第4回(真島) リスニング(3)

プリントによるリスニング練習

第5回(張) 作文(2)

第十六課 "是...的"(過去の強調)

第6回(真島) リスニング(4)

プリントによるリスニング練習

第7回(張) 作文(3)

第十七課 "的"、"地"、"得"

第8回(真島) リスニング(5)

プリントによるリスニング練習

第9回(張) 作文(4)

第十八課 助動詞 "想"、"要"

第10回(真島) リスニング(6)

プリントによるリスニング練習

第11回(張) 作文(5)

第十九課 助動詞 "会"

第12回(真島) リスニング(7)

プリントによるリスニング練習

第13回(真島) リスニング(8)

プリントによるリスニング練習

第14回(張) 作文(6)

第二十課 助動詞 "能"

第15回(真島) リスニング(9)

プリントによるリスニング練習

第16回(張) 作文(7)

第二十一課 助動詞 "可以"

第17回(真島) 中間テスト

既習内容の到達度テストを行う。

第18回(張) 作文(8)

第二十二課 前置詞 "从"

第19回(真島) リスニング(10)

プリントによるリスニング練習

第20回(張) 作文(9)

第二十三課 前置詞 "离"

第21回(真島) リスニング(11)

プリントによるリスニング練習

第22回(張) 作文(10)

第二十四課 前置詞 "朝"、"向"、"往"

第23回(真島) リスニング(12)

プリントによるリスニング練習

第24回(張) 作文(11)

第二十五課 前置詞 "对"、"跟"

第25回(真島) リスニング(13)

プリントによるリスニング練習

第26回(張) 作文(12)

第二十六課 "虽然...但是..."

第27回(張) 作文(13)

第二十七課 "因为...所以..."

第28回(張) 作文(14)

第二十八課 "要是...就..."

第29回(真島) リスニング(14)

プリントによるリスニング練習

第30回(張) 作文(15)

第二十九課 "再"、"又"

2022年度 後期

2.0単位

中国語表現 (イ)

金 昌吉

<授業の方法>

対面講義

講義

<授業の目的>

この授業はディプロマ・ポリシーの中の、実践的で高度な外国語の運用ができる、と関係する科目で、中国語コースの基本外国語(履修必修)科目に位置付けられる。中国語を学んで2年目の学生を対象とし、中国語で表現し、コミュニケーションをはかるための基礎力の習得をめざす。特に「聞く」、「書く」の能力の向上に重点を置き、パフォーマンスを含めた中国語による多様な表現方法を身につけられるようにする。

<到達目標>

中国語の基本文法を理解し、HSK5級合格程度の能力を習得できる。

日常的な事柄が中国語で表現できるようになる。

中国語による多様な表現方法を身につけることができる。

<授業のキーワード>

中国語 作文 リスニング パフォーマンス
 < 授業の進め方 >
 1) 2年次前期までに学んだ中国語文法を基に、作文力の向上させる練習を行う。
 2) 多様な中国語によるパフォーマンスを学び、表現力を高める。
 3) HSK5級合格のための試験対策指導を行う。
 4) 随時小テストを行い、習得状況の確認を行う。
 < 履修するにあたって >
 毎回の授業の予習復習は不可欠です。例文を何度も声に出して読んだり、書いたりして覚える学習を習慣化し、確実に自分のものにしてください。毎回遅刻をせず、必ず出席すること。
 < 授業時間外に必要な学修 >
 リスニングの授業はすべて中国語で行うため、授業時に聞き取れなかった単語やフレーズをよく復習すること。受講前、「新出単語」の意味と発音を辞書で調べ、「練習」問題を自分の力でやっておくこと。受講後、できなかった問題をよく見なおすこと。
 予習復習を1時間は行うこと。
 < 提出課題など >
 授業時に適宜指示する。小テストは採点し、次の授業時に返却する。
 中間、期末試験に関しては正答の解説を行う。
 < 成績評価方法・基準 >
 授業への参加状況、小テスト(50点) 期末試験等(50点)
 < テキスト >
 授業中に配付のプリント
 < 参考図書 >
 授業時に適宜指示
 < 授業計画 >
 第1回 ガイダンス
 ガイダンス。能力テスト。
 第2回 HSK5級対策(1)
 ヒアリング(1)
 第3回 HSK5級対策(2)
 読解、作文(1)
 第4回 HSK5級対策(3)
 ヒアリング(2)
 第5回 HSK5級対策(4)
 読解、作文(2)
 第6回 HSK5級対策(5)
 ヒアリング(3)
 第7回 HSK5級対策(6)
 読解、作文(3)
 第8回 HSK5級対策(7)
 ヒアリング(4)
 第9回 HSK5級対策(8)
 読解、作文(4)

第10回 HSK5級対策(9)
 ヒアリング(5)
 第11回 HSK5級対策(10)
 読解、作文(5)
 第12回 HSK5級対策(11)
 ヒアリング(6)
 第13回 HSK5級対策(12)
 読解、作文(6)
 第14回 HSK5級対策(13)
 ヒアリング(7)
 第15回 HSK5級対策(14)
 読解、作文(7)
 第16回 HSK5級対策(15)
 ヒアリング(8)
 第17回 HSK5級対策(16)
 読解、作文(8)
 第18回 HSK5級対策(17)
 ヒアリング(9)
 第19回 HSK5級対策(18)
 読解、作文(9)
 第20回 HSK5級対策(19)
 ヒアリング(10)
 第21回 HSK5級対策(20)
 読解、作文(10)
 第22回 小テスト
 HSK5級模擬テスト(1)
 第23回 HSK5級対策(21)
 ヒアリング(11)
 第24回 HSK5級対策(22)
 読解、作文(11)
 第25回 HSK5級対策(23)
 ヒアリング(12)
 第26回 HSK5級対策(24)
 読解、作文(12)
 第27回 HSK5級対策(25)
 ヒアリング(13)
 第28回 HSK5級対策(26)
 読解、作文(13)
 第29回 総復習
 HSK5級総復習
 第30回 期末試験
 HSK5級模擬テスト(2)

 2022年度 前期
 2.0単位
 中国社会 (政治)
 胡 士雲

< 授業の方法 >
 講義(遠隔授業)

< 授業の目的 >

この授業は、G C 学部の D P に示す、実践的で高度な外国語の運用を目指す。

この科目は G C 学部共通科目群現地研修関連科目（必修）に位置付けられる。授業は三年次の学生を対象とし、本学の教育方針に基づき、留学先と共同で編成したカリキュラムにしがたい授業を行う。受講生は、中国政治に関する講義を受講し、2 年次までの講義科目で学んだ知識を発展させながら、実際に海外で生活をする中で、現地教員の指導の下、中国社会について多角的理解を深める。

< 到達目標 >

1) 中国の社会や政治・文化を深く理解することができる。（知識）

2) 中国語でのコミュニケーション能力を向上させる。（技能）

< 授業のキーワード >

中国の政治 中国社会と文化の理解 語学運用力の向上

< 授業の進め方 >

担当者の説明や指導に従うこと

< 履修するにあたって >

1) 留学先大学の時間割や出欠管理などが本学と異なることに注意し、留学先大学の指示に従うこと。

2) 学習した内容を日常で活用し、留学先の現地の人々と積極的に中国語でコミュニケーションすること。

3) 詳細な授業内容は留学先の大学により、クラスにより異なるため、関連の説明を十分に留意すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、授業の対象となる教科書の箇所を読み込んでおくこと。

事後学習として、授業内容を再確認し、現地での生活、生身の経験と関連づけ、確実に自分の知識として定着させること（1 時間程度）

< 提出課題など >

授業中に適宜指示する

< 成績評価方法・基準 >

留学先大学から送られてきた成績、授業取り組み状況のデータに基づき、中国語コースで総合的に判断し、評価する。本学部教授会において単位を認定する。

< テキスト >

プリント配布

< 参考図書 >

授業中に適宜指示する

< 授業計画 >

第 1 回 中国政治（1）

中国的政治制度与行政体制

第 2 回 中国政治（2）

多民族国家 - 中国

第 3 回 中国政治（3）

儒释道与中国人的宗教信仰

第 4 回 中国政治（4）

华侨华人

第 5 回 中国政治（5）

课外作业

第 6 回 中国政治（6）

课外作业

第 7 回 中国政治（7）

课外作业

第 8 回 中国政治（8）

课外作业

第 9 回 中国政治（9）

课外作业

第 10 回 中国政治（10）

课外作业

第 11 回 中国政治（11）

课外作业

第 12 回 中国政治（12）

课外作业

第 13 回 中国政治（13）

课外作业

第 14 回 中国政治（14）

课外作业

第 15 回 中国政治（15）

课外作业

2022年度 前期

2.0 単位

中国社会 （経済）

胡 士雲

< 授業の方法 >

講義（遠隔授業）

< 授業の目的 >

この授業は、G C 学部の D P に示す、実践的で高度な外国語の運用を目指す。

この科目は G C 学部共通科目群現地研修関連科目（必修）に位置付けられる。授業は三年次の学生を対象とし、本学の教育方針に基づき、留学先と共同で編成したカリキュラムにしがたい授業を行う。受講生は、中国経済に関する講義を受講し、2 年次までの講義科目で学んだ知識を発展させながら、実際に海外で生活をする中で、現地教員の指導の下、中国社会について多角的理解を深める。

< 到達目標 >

1) 中国の社会や経済、現地文化を深く理解することができる。（知識）

2) 中国に滞在する際、現地の人とのコミュニケーションに支障がない程度の語学力を習得することができる。

（技能）

< 授業のキーワード >

中国の社会と経済 中国社会と文化の理解 語学運用力の向上

< 授業の進め方 >

担当者の説明や指導に従うこと。

< 履修するにあたって >

1) 留学先大学の時間割や出欠管理などが本学と異なることに注意し、留学先大学の指示に従うこと。

2) 学習した内容を日常で活用し、留学先の現地の人々と積極的に中国語でコミュニケーションすること。

3) 詳細な授業内容は留学先の大学により、クラスにより異なるため、関連の説明を十分に留意すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、授業の対象となる教科書の箇所を読み込んでおくこと。

事後学習として、授業内容を再確認し、現地での生活、生身の経験と関連づけ、確実に自分の知識として定着させること(1時間程度)

< 提出課題など >

授業中に適宜指示する

< 成績評価方法・基準 >

留学先大学から送られてきた成績、授業取り組み状況のデータに基づき、中国語コースで総合的に判断し、評価する。本学部教授会において単位を認定する。

< テキスト >

プリント配布

< 参考図書 >

授業中に適宜指示する

< 授業計画 >

第1回 中国経済(1)

中国重要吗?中国有多重要?中国队对谁重要?

全面审视世界经济的发展与中国的关系。

第2回 中国経済(2)

中国是资本主义还是社会主义?

市场经济的中国实践与世界的主要经济模式的比较。

第3回 中国経済(3)

中国是追赶型经济还是创新型经济?

从产业结构分析看中国经济的发展特点及其持续性。

第4回 中国経済(4)

东南西北中,发财到广东?

中国经济地带的沿海与内陆之分的经济学含义。

第5回 中国経済(5)

中国人?华侨?华人?

从企业家分类看中国经济的里三层和外三层。

第6回 中国経済(6)

中国第一?日本第一?

亚太经济一体化的新格局与日中的经贸关系整合。

第7回 中国経済(7)

课外作业

第8回 中国経済(8)

课外作业

第9回 中国経済(9)

课外作业

第10回 中国経済(10)

课外作业

第11回 中国経済(11)

课外作业

第12回 中国経済(12)

课外作业

第13回 中国経済(13)

课外作业

第14回 中国経済(14)

课外作业

第15回 中国経済(15)

课外作业

2022年度 前期

2.0単位

通訳・翻訳の方法 (A)

中嶋 アンディ 史人

< 授業の方法 >

講義、演習、実習(対面授業 及び リアルタイム/オンデマンド授業併用)

中嶋 アンディ 史人<andynakajima@gc.kobegakuin.ac.jp>

特別警報(すべての特別警報)または暴風警報発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目の取扱いについて 授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

< 授業の目的 >

通訳・翻訳の基本的な理論と方法を学ぶための授業である。以下のディプロマポリシーに深く関連する科目である。

1. 実践的で高度な外国語の運用ができる。
2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる。
3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる。

< 到達目標 >

- ・通訳や翻訳とは何か、理論的・実践的に理解することができる。
- ・字幕翻訳の基本を理解し、制限文字数内で効果的な訳を産出することができる。
- ・文学翻訳の基本を理解し、ナレーションやジェンダーなどを勘案し、適切に訳することができる。
- ・推敲の重要性に気づくことができる。
- ・通訳トレーニングを通して、聴解力・読解力・表現力

を高めることができる。

・実務家経験のある教員の指導により、初歩の通訳技術を身につけることができる。

<授業のキーワード>

逐次通訳、同時通訳、字幕翻訳、文学翻訳

<授業の進め方>

レクチャー及び演習方式

<履修するにあたって>

通訳と翻訳に深い興味がある者、また、自習に毎週最低1時間を使うことができる者のみ履修が可能

<授業時間外に必要な学修>

授業内容を深めるためにも、予習と復習に関して、それぞれ最低1時間を必要とする。

<提出課題など>

教員が示す提出締切期限を必ず守ること。提出課題に対するフィードバックは授業内で実施する。

<成績評価方法・基準>

授業内の積極的な参加(30%) 課題・テストなど(70%)。

<テキスト>

「通訳とコミュニケーションの総合演習」[改訂版](南雲堂、2017年) 斎藤彩子ほか著(1,900円+税)

<授業計画>

第1回 授業について

授業のイントロダクション

第2回 Unit 1

家族

第3回 Unit 2

大学生生活

第4回 Unit 3

趣味(スポーツ、音楽、読書)

第5回 Unit 4

海外文化

第6回 Unit 5

日本の文化(和食、温泉、回転寿司)

第7回 Unit 6

数字で説明する私たちの世界

第8回 Unit 7

観光

第9回 翻訳とは何か?

翻訳(学)とは何か? 文化的記号、言語間・言語内・記号間翻訳に関して説明する。

第10回 実践英日字幕翻訳

洋画を題材に、制限文字数を遵守しながら、効果的な翻訳の産出方法を学ぶ(1)

第11回 実践英日字幕翻訳

洋画を題材に、制限文字数を遵守しながら、効果的な翻訳の産出方法を学ぶ(2)

第12回 実践英日字幕翻訳

洋画を題材に、制限文字数を遵守しながら、効果的な翻訳の産出方法を学ぶ(3)

第13回 実践英日文学翻訳

洋書のペーパーバックを翻訳してみる(1)

第14回 実践英日文学翻訳

洋書のペーパーバックを翻訳してみる(2)

第15回 実践英日文学翻訳

洋書のペーパーバックを翻訳してみる(3)

2022年度 前期

2.0単位

通訳・翻訳の方法 (B)

仁科 恭徳

<授業の方法>

対面授業 コロナ感染者増加に伴いオンライン授業(講義、演習)

仁科恭徳 <ynishina@gc.kobegakuin.ac.jp>

中嶋 アンディ 史人<andynakajima@gc.kobegakuin.ac.jp>

特別警報(すべての特別警報)または暴風警報発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目の取扱いについて 授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

<授業の目的>

通訳・翻訳の基本的な理論と方法を学ぶための授業である。以下のディプロマポリシーに深く関連する科目である。

1. 実践的で高度な外国語の運用ができる
2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる
3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる

<到達目標>

・通訳や翻訳とは何か、理論的・実践的に理解することができる。

・字幕翻訳の基本を理解し、制限文字数内で効果的な訳を産出することができる。

・文学翻訳の基本を理解し、ナレーションやジェンダーなどを勘案し、適切に訳することができる。

・推敲の重要性に気づくことができる。

・通訳トレーニングを通して、聴解力・読解力・表現力を高めることができる。

・実務家経験のある教員の指導により、初歩の通訳技術を身につけることができる。

<授業のキーワード>

逐次通訳、同時通訳、字幕翻訳、文学翻訳

< 授業の進め方 >

オムニバスによるレクチャー、演習方式。

< 履修するにあたって >

毎回、予習していることを前提に授業を進める。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回の担当教員によって、学習内容が異なるので随時確認すること。授業内容を深めるためにも、予習と復習に関して、それぞれ最低1時間を必要とする。

< 提出課題など >

各教員が課す課題等を提出する。教員が示す提出締切期限を必ず守ること。提出課題に対するフィードバックは、授業内外で実施する（各教員の指示に従う）。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度（30%）、各教員が課す課題・テストなど（70%）。

< テキスト >

第1回～10回：通訳とコミュニケーションの総合演習 [改訂版]（南雲堂、2017年）斎藤彩子ほか著（1,900円＋税）

< 授業計画 >

第1回 通訳とは何か？

さまざまな通訳の紹介とその手法やトレーニング方法について説明する。

第2回 Unit 1

家族

第3回 Unit 2

大学生生活

第4回 Unit 3

趣味（スポーツ、音楽、読書）

第5回 Unit 4

海外文化

第6回 Unit 5

日本の文化（和食、温泉、回転寿司）

第7回 Unit 6

数字で説明する私たちの世界

第8回 Unit 7

観光

第9回 Unit 8

社会事情1（少子化問題）

第10回 Unit 9

社会事情2（都市化と過疎化）

第11回 翻訳とは何か？

翻訳(学)とは何か？文化的記号、言語間・言語内・記号間翻訳に関して説明する。

第12回 実践英日字幕翻訳1

洋画を題材に、制限文字数を遵守しながら、効果的な翻訳の産出方法を学ぶ。

第13回 実践英日字幕翻訳2

洋画を題材に、制限文字数を遵守しながら、効果的な翻

訳の産出方法を学ぶ。

第14回 実践英日文学翻訳1

洋書のペーパーバックを翻訳してみる。

第15回 実践英日文学翻訳2

洋書のペーパーバックを翻訳してみる。

2022年度 後期

2.0単位

通訳・翻訳の方法

森下 美和

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

通訳・翻訳の基本的な理論と方法を学ぶための授業である。以下のディプロマポリシーに深く関連する科目である。

1. 実践的で高度な外国語の運用ができる

2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる

3. 言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる

< 到達目標 >

・通訳や翻訳とは何か、理論的・実践的に理解することができる。

・実務家経験のある教員の指導により、初歩の通訳・翻訳技術を身につけることができる。

・通訳トレーニングを通して、聴解力・読解力・表現力を高めることができる。

< 授業のキーワード >

逐次通訳、同時通訳、実務翻訳

< 授業の進め方 >

レクチャー、演習方式。

< 履修するにあたって >

毎回、予習していることを前提に授業を進める。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習と復習に関して、それぞれ最低1時間を必要とする。

< 提出課題など >

提出課題に対するフィードバックは、授業内外で実施する。

< 成績評価方法・基準 >

授業への参加度（30%）、課題・テストなど（70%）。

< テキスト >

第1回～10回：通訳とコミュニケーションの総合演習 [改訂版]（南雲堂、2017年）斎藤彩子ほか著（1,900円＋税）

< 授業計画 >

第1回 通訳とは何か？

さまざまな通訳の紹介とその手法やトレーニング方法に

ついて説明する。

第2回 Unit 1

家族

第3回 Unit 2

大学生生活

第4回 Unit 3

趣味（スポーツ、音楽、読書）

第5回 Unit 4

海外文化

第6回 Unit 5

日本の文化（和食、温泉、回転寿司）

第7回 Unit 6

数字で説明する私たちの世界

第8回 Unit 7

観光

第9回 Unit 8

社会事情1（少子化問題）

第10回 Unit 9

社会事情2（都市化と過疎化）

第11回 翻訳とは何か？

さまざまな翻訳の紹介とその手法について説明する。

第12回 実務翻訳1

効果的な翻訳の方法を学ぶ。

第13回 実務翻訳2

効果的な翻訳の方法を学ぶ。

第14回 実務翻訳3

効果的な翻訳の方法を学ぶ。

第15回 実務翻訳4

効果的な翻訳の方法を学ぶ。

2022年度 後期

2.0単位

日本のことばと歴史

下岡 邦子

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業では、グローバル・コミュニケーション学部のDPの一つである「実践的で高度な外国語の運用ができる」ことの基盤となる、日本語の基礎的な知識の修得を目的としています。具体的には、日本語の文字・表記、音声・音韻、語彙、文法、敬語、方言などの基礎的な知識を体系的な観点から学び、自身の日本語運用力がより充実したものとなることを目指します。

< 到達目標 >

1. 日本語の基礎的な知識（日本語の文字・表記、音声・音韻、語彙、文法、敬語、方言）について、自身の表現を用いて他者に説明したり言及したりすることができる。

2. 様々な日本語運用の場面において、日本語の基礎的な知識を振り返り、実践的に応用することができる。

< 授業のキーワード >

文字・表記、音声・音韻、語彙、文法、敬語、方言

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めますが、対話型の授業方式を重視し、学生からの意見や疑問点について自発的な発言を求めます。また、授業内容の復習を兼ねた小テストを行います。

< 履修するにあたって >

扱うトピックは、学生の興味・関心に応じて適宜変更します。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習・復習も合わせて、1時間程度の学修を行ってください。

[予習] 扱うトピックについて、事前に情報を収集する。

[復習] 授業で配付されたプリントや自身のノートを見直し、不明な点がある場合は次回授業時に担当教員に質問できるように、疑問点を整理しておく。

< 提出課題など >

授業中に課題や小テストを実施します。課題や小テストのフィードバックは授業内で行います。

また、この授業では講義ノートの提出を求めます。

< 成績評価方法・基準 >

授業への取り組み・発言（10%）、課題（40%）、小テスト（30%）、講義ノート（20%）によって成績を評価します。

3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

< テキスト >

適宜プリントを配付します。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

日本語学とは

第2回 文字・表記（1）

日本語の文字体系、日本語の文字の使い分けと役割
課題

第3回 文字・表記（2）

日本語の文字・表記の歴史

課題

第4回 音声・音韻（1）

パロールとしての音声、ラングとしての音声（音素）

課題

第5回 音声・音韻（2）

ローマ字表記から見た音声と音素、日本語のリズム、日本語のアクセント・イントネーション・プロミネンス

第6回 語彙

日本語の類語、位相語

小テスト

第7回 文法（1）

文法概念、品詞論、形態論

課題
第8回 文法(2)
文の基本構造、文法カテゴリー (ボイス)
課題
第9回 文法(3)
文法カテゴリー (アスペクト、テンス、ムード・モダリティ)
第10回 文法(4)
複文、「が」と「は」
小テスト
第11回 文章・談話
テキストとディスコース、指示詞(コソア)
課題
第12回 敬語
日本語の敬語の機能、[新]敬語の分類、相対敬語と絶対敬語
課題
第13回 方言(1)
ことばの地域差、伝統方言の現在
課題
第14回 方言(2)
言語行動の地域差
小テスト
第15回 まとめ
現代社会に見られる日本語とその使用、これからの日本語

2022年度 後期
2.0単位
日本の経済とビジネス
三好 宏治

< 授業の方法 >
講義(対面授業)
< 授業の目的 >
この科目は、GC学部がDPIに掲げる「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ようになることを目的としている。

さて、金融取引や株式会社という制度なしに現代経済は成り立たない。ところが、経済学部や経営学部以外の学生は、それらが何物かを理解していないことが多い。そこで、本講義は、我々にとって身近なお金の流れから出発し、働く場所である会社について説明し、そして、徐々に日本経済の歩みと現状について説明していく。

学生が「日本経済全体」を具体的な制度やデータに基づいてイメージできるようになることが本講義の最終目的である。

< 到達目標 >
フロー循環図を用い、経済の全体像について説明できるようになる。
日本語で書かれた経済ニュースを理解できるようになる。
日本の労働、企業、金融に関する制度的特徴について説明できるようになる。
< 授業のキーワード >
金融市場、株式会社、非正規雇用、資金調達と運用、資金需要、国債、財政赤字
< 授業の進め方 >
学生の興味関心や、時事問題と結びつけるために、講義順番を入れ替える場合がある。
本講義は集中講義であるが、水曜日の6限を予定している。
< 授業時間外に必要な学修 >
毎日30分はニュース番組を見ること。また、毎日、新聞の経済面を読むこと。
講義の予習/復習として、プリント、ノート、参考文献の該当箇所を見直すこと。【合計約45時間】
< 成績評価方法・基準 >
小テスト100%
ただし、出席回数が3分の2に満たない場合は小テストの結果に関係なく不可とする。
< 参考図書 >
小島隆夫/村田啓子『最新 日本経済入門(第6版)』(日本経済評論社、2020年)。
西野 智彦『平成金融史 バブル崩壊からアベノミクスまで』(中央公論社、2019年)
< 授業計画 >
第1回 経済の全体像
フロー循環図と生産要素市場、家計と企業の結びつきについて説明する。
第2回 経済の全体像
家計の活動について説明する。
第3回 経済の全体像
商業やB to B、企業間分業について説明する。
第4回 経済の全体像
会社の制度的側面、とくに、合同会社と株式会社について説明する。
第5回 経済の全体像
親会社と子会社、中小企業について説明する。
第6回 経済の全体像
GDPおよび、物価と物価指数の推移について説明していく。
第7回 経済の全体像
政府の経済活動について説明する。
第8回 経済の全体像
ISバランス式を用い、民間部門・政府部門・外国部門を一体的に説明する。

第9回 金融市場

貨幣についての経済学独特の考え方を説明する。

第10回 金融市場

金融取引や金融機関について説明する。

第11回 金融市場

金融機関と日本版ビッグバンという政策方針による金融機関の再編について説明する。

第12回 金融市場

中央銀行と非伝統的金融政策（異次元の金融緩和とマイナス金利政策）について説明する。

第13回 労働市場

社会保障制度改革について説明する。

第14回 労働市場

人口減少社会が経済に与える影響について説明する。

第15回 労働市場

日本型雇用と非正規労働について説明する。

2022年度 後期

2.0単位

日本の文化

下岡 邦子

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業では、グローバル・コミュニケーション学部のDPの一つである「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて、幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的としています。具体的には、日本の文化として、主に1990年代の文化と現代とを比較し、それらの類似点や相違点を考察します。また、日本の文化に関する知識を自身の表現を用いて他者に説明したり言及したりできる技能の修得を目指します。

< 到達目標 >

1. 1990年代の日本の文化について理解し、それらが現代の日本の文化とどのような類似点・相違点を持つかを考え、自身の見解を述べることができる。
2. 授業で学んだ知識を自身の表現を用いて他者に説明したり言及したりすることができる。

< 授業のキーワード >

日本の文化、1990年代の文化、現代との比較

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めますが、対話型の授業方式を重視し、学生からの意見や疑問点について自発的な発言を求めます。また、授業内容の復習を兼ねたテスト（復習テスト）を行います。

< 履修するにあたって >

扱うトピックは、学生の興味・関心に応じて適宜変更します。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習・復習も合わせて、1時間程度の学修を行ってください。

< 提出課題など >

授業中に課題や復習テストを実施します。課題や復習テストのフィードバックは授業内で行います。また、この授業では講義ノートの提出を求めます。

< 成績評価方法・基準 >

課題（50%）、復習テスト（30%）、講義ノート（20%）によって成績を評価します。

3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

< 参考図書 >

『現代文化への社会学 90年代と「いま」を比較する』
高野光平・加島卓・飯田豊 [編著] 北樹出版

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

日本の現代文化とは、自己相対化、インターネットとデジタル化

第2回 メディア（1）

モバイルメディア：公衆電話が架橋した<声の文化>と<文字の文化>

課題

第3回 メディア（2）

カメラ：小型化するカメラ・端末化するカメラ

課題

第4回 メディア（3）

テレビと動画：ネットがテレビを乗り越えるまで

課題

第5回 趣味（1）

音楽：CDを売る時代から体験を売る時代へ

課題

第6回 趣味（2）

ファッション：リアルな身体表現からバーチャルな身体表現へ

課題

第7回 趣味（3）

マンガ：媒体と作品の多様化

課題

第8回 趣味（4）

ゲーム：「バーチャル」から「日常」へ

復習テスト

第9回 趣味（5）

アート：美術館から日常へ

課題

第10回 趣味（6）

スポーツ観戦：グローバル化・ローカル化・物語化

課題

第11回 現場（1）

夏フェス：参加者の「成熟」とは何か

課題

第12回 現場(2)
書店：邪道書店の平成史
課題

第13回 現場(3)
ショッピング：商業ビルが媒介する文化の変容
課題

第14回 現場(4)
外食：セルフサービスの空間と時間
課題

第15回 まとめ
これまでの授業内容を総括する
復習テスト

2022年度 前期

2.0単位
日本の文化
下岡 邦子

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この授業では、グローバル・コミュニケーション学部のDPの一つである「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて、幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目的としています。具体的には、日本の文化として、特に江戸文化と上方文化に着目し、それらの類似点や相違点を考察します。また、日本の文化に関する知識を自身の表現を用いて他者に説明したり言及したりできる技能の修得を目指します。

< 到達目標 >

1. 江戸文化と上方文化の類似点や相違点を理解し、それらの文化が現代の日本社会にどのように息づいているかを考え、自身の見解を述べるができる。
2. 授業で学んだ知識を自身の表現を用いて他者に説明したり言及したりすることができる。

< 授業のキーワード >

日本の文化、江戸文化、上方文化、現代社会への継承

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めますが、対話型の授業方式を重視し、学生からの意見や疑問点について自発的な発言を求めます。また、授業内容の復習を兼ねたテスト(復習テスト)を行います。

< 履修するにあたって >

扱うトピックは、学生の興味・関心に応じて適宜変更します。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習・復習も合わせて、1時間程度の学修を行ってください。

< 提出課題など >

授業中に課題や復習テストを実施します。課題や復習テ

ストのフィードバックは授業内で行います。また、この授業では講義ノートの提出を求めます。

< 成績評価方法・基準 >

課題(50%)、復習テスト(30%)、講義ノート(20%)によって成績を評価します。

3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

日本の文化とは

第2回 文化の基盤(1)

東と西の境界線、源氏と平氏、東西を代表するリーダー
課題

第3回 文化の基盤(2)

自然、気質と金銭感覚

課題

第4回 衣食住(1)

装いに対する美意識、江戸時代の化粧、江戸時代のファッションリーダー

課題

第5回 衣食住(2)

魚の文化、東西の味付け、江戸時代の屋台

課題

第6回 衣食住(3)

江戸と上方の鬼門、市街図に見る江戸と上方、庶民の住まい

課題

第7回 衣食住(4)

江戸時代の水事情、船と航路、温泉

課題

第8回 文学

出版のはじまり、江戸文学と上方文学

復習テスト

第9回 美術

上方の絵師と作品、浮世絵と美人画、江戸の絵師と作品

課題

第10回 娯楽(1)

歌舞伎のはじまり、荒事と和事

課題

第11回 娯楽(2)

相撲の歴史、江戸時代の相撲

課題

第12回 年中行事(1)

花見の名所、江戸時代の花火

課題

第13回 年中行事(2)

日本の三大祭り、盆と正月

課題

第14回 宗教観

江戸時代のお伊勢詣り、菅原道真と天満宮信仰、ケとハ

レ
課題
第15回 まとめ

これまでの授業内容を総括する

復習テスト

2022年度 後期

2.0単位

日本の法と政策

BAE JUNSUB

< 授業の方法 >

対面授業（講義）

< 授業の目的 >

本講義は、政策過程に関する知識の習得を通じて、様々な政策の分析視角、評価方法を理解できるようになることを目的とする。全学のディプロマ・ポリシーにある思考力・判断力・表現力の能力の育成及び本学部のディプロマ・ポリシーにある多様な社会、文化、歴史、政治についての幅広い知識や教養を身につけることを目的とする。なお、本授業担当者は、市役所での実務経験があり、より実践的な観点から政策過程を解説するものとする。

< 到達目標 >

1. 政策がいかに決定されるのかを説明できる。
2. 政策がどのように実施されるのかを説明できる。
3. 実施された政策について正しく評価できる。
4. 日常生活における様々な政策に関心をもつ姿勢を身につける。

< 授業のキーワード >

公共政策、政策過程、政治過程、政策決定、政策評価

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めますが、少人数のグループワークを取り入れます。なお、授業の最後にコメントペーパーを記入し、その次の時間の初めに共有します。

< 履修するにあたって >

私語など、授業の進行および他の履修者の学習の妨げになる行為は厳禁。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、ニュースや新聞などで国内外の時事問題に触れる（目安として1時間）。事後学習として、講義内容の復習をメモ書きする（目安として1時間）。

< 提出課題など >

最終レポートに関しては、授業中に説明する。

< 成績評価方法・基準 >

コメントペーパーの提出内容40%、最終レポート60%

< テキスト >

秋吉貴雄、伊藤 修一郎、北山俊哉 『公共政策学の基礎 第3版』 有斐閣 2020年 2860円

< 参考図書 >

秋吉貴雄 『入門公共政策学：社会問題を解決する「新しい知」』 中央公論新社 2017年 864円

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス、公共政策（学）とは何か
講義の進め方や評価方法について説明する。講義内容全般について紹介する。（テキスト第1章、第2章）

第1回目の授業はオンデマンド授業となります。

ドットキャンパスに講義資料をアップロードしますので確認をお願いします。

第2回 アジェンダの設定

政策過程においてアジェンダ設定が持つ意味について学ぶ。（テキスト第3章、第4章）

第3回 政策問題の構造化

政策過程における、言説とフレーミングの役割について学ぶ。（テキスト第3章、第4章）

第4回 公共政策の手段

政策を実行するための様々な手段について学ぶ。（テキスト第5章、第6章）

第5回 規範的判断

政策の対立における価値判断の意味について学ぶ。（テキスト第5章、第6章）

第6回 政策決定と合理性

合理的意思決定の試みとその限界について学ぶ。（テキスト第7章、第8章）

第7回 政策決定と利益

利益調整としての政策決定過程について学ぶ。（テキスト第7章、第8章）

第8回 政策決定と制度

制度論による政策決定過程分析について学ぶ。（テキスト第9章、第10章）

第9回 政策決定とアイディア

政策決定におけるアイディアの役割について学ぶ。（テキスト第9章、第10章）

第10回 公共政策のガバナンス

政策実施に局面について学ぶ。（テキスト第11章、第12章）

第11回 公共政策の評価

政策評価をめぐる様々な議論について学ぶ。（テキスト第11章、第12章）

第12回 公共政策管理のシステム

政策を提供する仕組みや制度について学ぶ。（テキスト第13章）

第13回 政策過程分析の手法

理論レベルにおける様々なモデルを理解する。（テキスト第13章）

第14回 政策過程分析の手法

実際の政策過程分析をするにあたって、具体的にどのような分析手法を用いるのか理解する。

第15回 講義の総括

これまでの講義の重要事項について復習する。

2022年度 後期

2.0単位

日本語基礎演習 (ア)

香月 裕介

< 授業の方法 >

演習 (対面授業)

< 授業の目的 >

この授業は、日本語コース科目の演習に属し、ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになるための授業です。課題達成の方法を学ぶことで、大学で学ぶ知識や技能を自分自身のキャリアにつなげる手法や考え方を身につけることを目的とします。

< 到達目標 >

1. 適切な手法で課題達成ができる
2. 今、どのような作業をどこまで進めているかについて簡潔に報告、発表できる

< 授業のキーワード >

課題達成、調査、分析、考察

< 授業の進め方 >

受講生の主体的な活動を重視する演習形式です。活発に議論したり、資料を作成したり、発表したりします。

< 授業時間外に必要な学修 >

アンケート実施や課題作成などの時間が必要です。

< 提出課題など >

ディスカッション結果のリスト、アンケート結果、データの集計結果、考察内容の提出を求めます。

提出課題のフィードバックは、授業内で行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の取り組み50%、調査報告資料50%

< テキスト >

プリントを配布します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

まず、演習形式の授業についてガイダンスを行います。次に、課題について考えるときの手順について理解します。

第2回 課題を明確にする

物事を考える際に、目的を明確にする必要性を理解します。

第3回 調査の計画を立てる

課題に対する調査計画の立て方を学びます。

第4回 アンケートを作る

アンケート用紙の質問項目の作り方について学びます。

第5回 アンケートを作る

アンケートの質問項目の精査の方法について学びます。

第6回 アンケートを作る

アンケート用紙を完成させます。

第7回 アンケート実施計画を立てる

アンケートを行うときの計画の立て方を学びます。

第8回 調査手順を文書化する

調査を行うときの行動を手順化する方法を学びます。

第9回 調査を実施する

複数で調査を行うときの方法を学び、実際に調査を行います。

第10回 調査結果をまとめる

調査によって集めたデータをまとめる方法を学びます。

第11回 調査結果をまとめる

調査結果をグラフ化する方法を学びます。

第12回 調査結果をまとめる

まとめたデータを検証する方法について学びます。

第13回 調査結果の分析をする

データから傾向を読み取る練習を行います。

第14回 調査結果の分析をもとに考察する

考察とは何かを理解し、実際にデータから考察を行う練習をします。

第15回 まとめ

これまでに学んだことを振り返り、課題を明確にして調査を行うことの意義を再確認します。

2022年度 後期

2.0単位

日本語基礎演習 (イ)

栗原 由加

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この授業は、日本語コース科目の演習に属し、ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになるための授業です。課題達成の方法を学ぶことで、大学で学ぶ知識や技能を自分自身のキャリアにつなげる手法や考え方を身につけることを目的とします。

< 到達目標 >

1. 適切な手法で課題達成ができる
2. 今、どのような作業をどこまで進めているかについて簡潔に報告、発表できる

< 授業のキーワード >

課題達成、調査、分析、考察

< 授業の進め方 >

受講生の主体的な活動を重視する演習形式です。活発に

議論したり、資料を作成したり、発表したりします。

< 授業時間外に必要な学修 >

アンケート実施や課題作成などの時間が必要です。

< 提出課題など >

ディスカッション結果のリスト、アンケート結果、データの集計結果、考察内容の提出を求めます。

提出課題のフィードバックは、授業内で行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の取り組み50%、提出資料、レポート50%

< テキスト >

プリントを配布します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

まず、演習形式の授業についてガイダンスを行います。次に、課題について考えるときの手順について理解します。

第2回 課題を明確にする

物事を考える際に、目的を明確にする必要性を理解します。

第3回 調査の計画を立てる

課題に対する調査計画の立て方を学びます。

第4回 アンケートを作る

アンケート用紙の質問項目の作り方について学びます。

第5回 アンケートを作る

アンケートの質問項目の精査の方法について学びます。

第6回 アンケートを作る

アンケート用紙を完成させます。

第7回 アンケート実施計画を立てる

アンケートを行うときの計画の立て方を学びます。

第8回 調査手順を文書化する

調査を行うときの行動を手順化する方法を学びます。

第9回 調査を実施する

複数で調査を行うときの方法を学び、実際に調査を行います。

第10回 調査結果をまとめる

調査によって集めたデータをまとめる方法を学びます。

第11回 調査結果をまとめる

調査結果をグラフ化する方法を学びます。

第12回 調査結果をまとめる

まとめたデータを検証する方法について学びます。

第13回 調査結果の分析をする

データから傾向を読み取る練習を行います。

第14回 調査結果の分析をもとに考察する

考察とは何かを理解し、実際にデータから考察を行う練習をします。

第15回 まとめ

これまでに学んだことを振り返り、課題を明確にして調査を行うことの意義を再確認します。

2022年度 後期

2.0単位

日本語基礎演習 (クラス未定)

担当者未定 (GC)

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この授業は、日本語コース科目の演習に属し、ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになるための授業です。課題達成の方法を学ぶことで、大学で学ぶ知識や技能を自分自身のキャリアにつなげる手法や考え方を身につけることを目的とします。

< 到達目標 >

1. 適切な手法で課題達成ができる

2. 今、どのような作業をどこまで進めているかについて簡潔に報告、発表できる

< 授業のキーワード >

課題達成、調査、分析、考察

< 授業の進め方 >

受講生の主体的な活動を重視する演習形式です。活発に議論したり、資料を作成したり、発表したりします。

< 授業時間外に必要な学修 >

アンケート実施や課題作成などの時間が必要です。

< 提出課題など >

ディスカッション結果のリスト、アンケート結果、データの集計結果、考察内容の提出を求めます。

提出課題のフィードバックは、授業内で行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の取り組み50%、提出資料、レポート50%

< テキスト >

プリントを配布します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

まず、演習形式の授業についてガイダンスを行います。次に、課題について考えるときの手順について理解します。

第2回 課題を明確にする

物事を考える際に、目的を明確にする必要性を理解します。

第3回 調査の計画を立てる

課題に対する調査計画の立て方を学びます。

第4回 アンケートを作る

アンケート用紙の質問項目の作り方について学びます。

第5回 アンケートを作る

アンケートの質問項目の精査の方法について学びます。
第6回 アンケートを作る
アンケート用紙を完成させます。
第7回 アンケート実施計画を立てる
アンケートを行うときの計画の立て方を学びます。
第8回 調査手順を文書化する
調査を行うときの行動を手順化する方法を学びます。
第9回 調査を実施する
複数で調査を行うときの方法を学び、実際に調査を行います。
第10回 調査結果をまとめる
調査によって集めたデータをまとめる方法を学びます。
第11回 調査結果をまとめる
調査結果をグラフ化する方法を学びます。
第12回 調査結果をまとめる
まとめたデータを検証する方法について学びます。
第13回 調査結果の分析をする
データから傾向を読み取る練習を行います。
第14回 調査結果の分析をもとに考察する
考察とは何かを理解し、実際にデータから考察を行う練習をします。
第15回 まとめ
これまでに学んだことを振り返り、課題を明確にして調査を行うことの意義を再確認します。

2022年度 前期

2.0単位

日本語基礎演習

香月 裕介、栗原 由加、吉兼 奈津子

< 授業の方法 >

演習（対面授業）

< 授業の目的 >

この授業は、日本語コース講義科目に属し、ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになるための授業です。日本語コースでの学び方や、習得する事柄の全体像が分かるようになることを目的とします。

< 到達目標 >

以下のことがらについて理解し、受講生が大学で主体的に学ぶことができるようになる。

1. 自律的に学修できるようになるために、どのような技能、姿勢を身に付ければよいか

2. 自律的に学ぶための技能、姿勢をどのようにプロジェクト学修に応用すればよいか

< 授業の進め方 >

日本語コース教員によるオムニバス授業です。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回の授業について、予習・復習とも1時間程度行ってください。

< 成績評価方法・基準 >

課題の取り組み30%、提出課題70%。

< 授業計画 >

第1回 ファイルの作り方

大学の授業で配布される資料を整理する方法を学びます。資料をファイルするための文房具の使い方やファイルの方法を具体的に学びます。（栗原）

第2回 ノートの取り方

板書や話の内容をノートに取る方法を学びます。後から見て分かりやすいノートのレイアウトの工夫について学びます。（栗原）

第3回 コメントシートの書き方

授業で提出するコメントシートの書き方を学びます。コメントシートの構成や日本語表現の注意点について学びます。（栗原）

第4回 課題の取り組み方（1）

授業で出される課題について、学習効果を上げるためには、どのような点に注意して課題に取り組みればよいかを学びます。（栗原）

第5回 課題の取り組み方（2）

日本語学習の効果を上げるための課題の取り組み方について、「計画」に重点を置いて練習します。（栗原）

第6回 課題の取り組み方（3）

日本語学習の効果を上げるための課題の取り組み方について、「実行」に重点を置いて練習します。（香月）

第7回 課題の取り組み方（4）

日本語学習の効果を上げるための課題の取り組み方について、「検証」に重点を置いて練習します。（香月）

第8回 プロジェクトの取り組み方（1）

第4回～第7回で学んだことを生かして、実際のプロジェクト活動に取り組みます。（香月）

第9回 プロジェクトの取り組み方（2）

第4回～第7回で学んだことを生かして、実際のプロジェクト活動に取り組みます。（香月）

第10回 プロジェクトの取り組み方（3）

第4回～第7回で学んだことを生かして、実際のプロジェクト活動に取り組みます。（香月）

第11回 日本語を話す

日本語の発音について、どのような点に注意すればよいか、自分の苦手とする発音は何かを理解します。（吉兼）

第12回 日本語を書く

日本語の文字（特にひらがな・カタカナ）の書き方について、どのような点に注意すればよいか、自分の苦手とする文字は何かを理解します。（吉兼）

第13回 日本語を聞く

日本語能力試験の聴解問題に挑戦します。(吉兼)

第14回 日本語を読む

日本語能力試験の読解問題に挑戦します。(吉兼)

第15回 自己分析と課題設定

第11～14回の内容をふまえて、自身の課題を分析し、今後の目標を設定します。(吉兼)

2022年度 前期

2.0単位

日本語プレゼンテーション

吉兼 奈津子

< 授業の方法 >

演習(対面授業)

< 授業の目的 >

この授業は「実践日本語」の中の一つで、高度な日本語能力の獲得と、それを実社会で実践的に運用する方法を学ぶことを目的としています。

< 到達目標 >

- 1.日本語のアクセント・イントネーションについて正しく理解し、自分が注意すべき点を把握する。
- 2.日本語のアクセント・イントネーションを身につける方法を学び、それらを向上させるために授業内外で継続的に努力できる。
- 3.相手に伝わるように、わかりやすく話すことができる。

< 授業のキーワード >

日本語のアクセント・イントネーション、わかりやすく話す

< 授業の進め方 >

演習形式で行います。課題を実際にやってみることで、自分の発音の注意点を把握し、相手にわかりやすく話す方法を身につけます。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で練習したことを、普段の生活でも積極的に活用してください。

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

< 提出課題など >

毎回課題があります。授業期間中にプレゼンテーションを実施します。

課題・プレゼンテーションのフィードバックは、授業内で行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業への取り組み20%、授業内課題40%、プレゼンテーション40%

3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

< テキスト >

赤木浩文・内田紀子・古市由美子(2010)『毎日練習!リズムで身につく日本語の発音』スリーエーネットワ

ーク ¥1,600

< 授業計画 >

第1回 音声の重要性について(1)

発音練習

大学の授業で求められる正しい発音(特に、アクセント・イントネーション)について学ぶ

第2回 音声の重要性について(2)

発音練習

大学の授業で求められる正しい発音(特に、アクセント・イントネーション)について学ぶ

第3回 プレゼンテーションの準備(1)

発音練習

プレゼンテーションのための練習をする。わかりやすい内容、話の順番、話し方などを学ぶ

第4回 プレゼンテーションの準備(2)

発音練習

プレゼンテーションのための練習をする。わかりやすい内容、話の順番、話し方などを学ぶ

第5回 プレゼンテーションの準備(3)

発音練習

プレゼンテーションのための練習をする。わかりやすい内容、話の順番、話し方などを学ぶ

第6回 プレゼンテーションの準備(4)

発音練習

プレゼンテーションのための練習をする。わかりやすい内容、話の順番、話し方などを学ぶ

第7回 プレゼンテーションの準備(5)

発音練習

プレゼンテーションのための練習をする。わかりやすい内容、話の順番、話し方などを学ぶ

第8回 プレゼンテーション1(1)

発音練習

テーマに基づいて発表内容の情報を整理し、わかりやすいプレゼンテーションをするための準備をする

第9回 プレゼンテーション1(2)

発音練習

テーマに基づいて発表内容の情報を整理し、わかりやすいプレゼンテーションをするための準備をする

第10回 プレゼンテーション1(3)

発音練習

テーマに基づいて発表内容の情報を整理し、わかりやすいプレゼンテーションをするための準備をする

第11回 プレゼンテーション1(4)

発音練習

テーマに基づいて発表内容の情報を整理し、わかりやすいプレゼンテーションをするための準備をする

第12回 プレゼンテーション1(5)

発音練習

自テーマに基づいて発表内容の情報を整理し、わかりやすいプレゼンテーションをするための準備をする

第13回 プレゼンテーション1(6)

発音練習

テーマに基づいて発表内容の情報を整理し、わかりやすいプレゼンテーションをするための準備をする

第14回 プレゼンテーション2(1)

発音練習

わかりやすいプレゼンテーションを行う

第15回 プレゼンテーション2(2)、授業全体の振り返り
発音練習

わかりやすいプレゼンテーションを行う。授業で学習した内容、自分のプレゼンテーションを振り返る

2022年度 後期

2.0単位

日本語プレゼンテーション

茶園 直人

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

実践的で高度な日本語運用の一環として、プレゼンテーションを行うために必要な文章表現、およびプレゼンテーションの基本的な口頭表現の知識を身につけることを目的とします。またスライドに適切な情報を入れること、グラフやイラストなどの図解表現を適切に作成し、効果的に使用できるようになることを目指します。またプレゼンテーションの準備と実際の発表を経験することにより、将来的に他者と協調・協働できるコミュニケーション能力の育成を図ります。

< 到達目標 >

1. イベント企画書に必要なハンドアウトとPPT(パワーポイント)の資料内容を推敲し、編集する方法を身につける
2. イベント企画書を作成するための文章表現ができるようになる
3. プレゼンテーションに必要な日本語表現が使えるようになる

< 授業のキーワード >

イベント企画書、資料作成

< 授業の進め方 >

イベント企画書をテーマとして、プレゼンテーションを行うためのハンドアウトやPPT、原稿を作成します。自分の資料を作る作業が中心になりますが、資料の目的や構成、内容についてグループで話し合ったり検討したりする時間も取ります。また、資料を作成した後に実際にプレゼンテーションを行います。

< 履修するにあたって >

PPTスライドやWORDハンドアウトを作成するため、授業中にPCを操作できる環境が必要です。授業中は日本語のみ使用して下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

各授業内に終わらなかった課題の作成

< 提出課題など >

毎回、タスクシートの提出を求めます(次回授業時にフィードバック)。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の取り組み20%、課題20%、プレゼンテーション資料(PPT、ハンドアウト)30%、発表30%3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回

< テキスト >

プリントを配布します。

< 授業計画 >

第1回 企画書とは

「企画書」とは何か、何のために作成する資料なのかを理解する

第2回 企画書とは

「企画書」とは何か、何のために作成する資料なのかを理解する

第3回 プレゼン(1) ハンドアウト作成(Word)

イベント企画書のハンドアウトに記入する内容を決める

第4回 資料の違い

ハンドアウト資料とPPT資料の目的・内容の違いについて理解する

第5回 プレゼン(1) PPTスライド資料作成

資料作成 PPTスライドに記入する内容を決める

第6回 プレゼン(1) 発表

PPTを使用してプレゼンテーションを行う

第7回 プレゼン(2) イベント企画

オリジナルのイベントを考え、目的や効果について話し合う

第8回 プレゼン(2) ハンドアウト作成(Word)

イベントの目的や効果について話し合い、Wordでハンドアウトを書く

第9回 プレゼン(2) ハンドアウト作成(Word)

ハンドアウトを完成させる

第10回 プレゼン(2) PPTスライド作成

PPTスライドを作成する

第11回 プレゼン(2) PPTスライド作成

PPTスライドを完成させる

第12回 プレゼン(2) 原稿作成

プレゼンテーションで使われる基本的な表現を学ぶ

第13回 プレゼン(2) 原稿作成

プレゼンテーションで使われる基本的な表現を使って原稿を完成させる

第14回 プレゼン(2) 発表練習

資料、スライドと合わせて動作やタイミングなどを確認し、プレゼンテーション練習を行う。

第15回 プレゼン(2) 発表

PPTを使用してプレゼンテーションを行う授業内容を振り返り、目的達成度を自己評価する

2022年度 前期

2.0単位

日本語プレゼンテーション

茶園 直人

< 授業の方法 >

講義・演習（対面授業）

< 授業の目的 >

この授業は、「実践日本語」科目のひとつで、大学生活および企業就職後にも生かせるような日本語でのプレゼンテーションの技術を身につけることを目的とする。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」ことに相当する。

優れたプレゼンテーションは、以下の4つが充実していなければならない。

(1)態度・話し方

(2)適切な日本語表現とその運用の仕方

(3)内容の整理・提示の仕方、わかりやすく効果的な構成

(4)質疑応答などの意思疎通

プレゼンテーションとは、聴き手とのコミュニケーションと位置付けられる。聴き手を重視し、いかに聴き手を納得させ、スムーズに結論まで導けるかが、プレゼンテーションを行う上で最も重要なことである。

この授業では(1)・(4)を実践的に行いながら身につけることを目的とするが、特に(1)、(4)に重点を置く。

また、発表の聞き方、質問の仕方なども学ぶ。

< 到達目標 >

(1)プレゼンテーションの目的を理解し、実践することができる。

(2)説得力のあるプレゼンテーションのための態度・表情・話し方のポイントを理解・実践することができる。

(3)プレゼンテーションを円滑に進めるための正確な日本語を運用することができる。

(4)限られた時間内で言いたいことを的確に伝え、聴き手を説得できるように内容を整理し、順序よく提示することができる。

(5)パワーポイント、レジュメ（発表資料）を使って、効果的にプレゼンテーションを進めることができる。

(6)発表後の質問に答える/適切な質問をすることができる。

< 授業のキーワード >

効果的な情報提示、聴き手への配慮、説得力

< 授業の進め方 >

プレゼンテーションで使う日本語表現、効果的な構成の仕方、求められる態度・動作・話し方などについて学ん

でいく。教科書は使用せず、プリントを配布する。

プレゼンテーションの実践は録画する。それを見ながら学生自らが自分の優れているところや欠点を発見し、学んだことを実践に活かせるようになるまで練習する。また、質疑応答の練習、聞き方・質問の仕方も実践しながら学ぶ。

1人5分程度プレゼンテーションを3回行う。（質疑応答は10分、計15分）

発表ごとにフィードバックを行い、次の発表に活かす。また、複数回発表を行うことで方法の定着を目指す。

< 履修するにあたって >

発表資料やパワーポイントのスライドの作成の仕方（日本語プレゼンテーションの内容）は既に理解し、実践できるものとする。ただし、日本語プレゼンテーションの受講を履修の条件とはしない。

< 授業時間外に必要な学修 >

・集中講義なので原稿やスライド、レジュメ作成が追いつかない受講生が出るのが予想される。授業の進行について来られるよう、授業外の時間を使って自分で進めておくこと。

・説得力のある話し方とはどのようなものか、普段から他人の観察をしておくこと。

< 提出課題など >

授業中に配布したプリントなどの提出を求める。

< 成績評価方法・基準 >

授業への取り組み20%、提出物40%、スライド・レジュメの出来10%、最終発表30%。

< テキスト >

なし。プリントを配布する。

< 参考図書 >

なし

< 授業計画 >

第1回 プレゼンテーションの目的

優れたプレゼンテーションとはどのようなものかを考える。

第2回 プレゼンテーション 1

作成

PPTスライド、レジュメ（発表資料）の作成

第3回 プレゼンテーション 1

作成

PPTスライド、レジュメ（発表資料）の作成

第4回 プレゼンテーション 1

発表

15分程度（質疑応答含む）のプレゼンテーション/振り返り

第5回 プレゼンテーション 1

発表

15分程度（質疑応答含む）のプレゼンテーション/振り返り

第6回 プレゼンテーション 2

作成
PPTスライド、レジュメ（発表資料）の作成
第7回 プレゼンテーション2
作成
PPTスライド、レジュメ（発表資料）の作成
第8回 プレゼンテーション2
作成
PPTスライド、レジュメ（発表資料）の作成
第9回 プレゼンテーション2
発表
15分程度（質疑応答含む）のプレゼンテーション/振り返り
第10回 プレゼンテーション2
発表
15分程度（質疑応答含む）のプレゼンテーション/振り返り
第11回 プレゼンテーション3
作成
PPTスライド、レジュメ（発表資料）の作成
第12回 プレゼンテーション3
作成

PPTスライド、レジュメ（発表資料）の作成
第13回 プレゼンテーション3
作成
PPTスライド、レジュメ（発表資料）の作成
第14回 プレゼンテーション3
発表
15分程度（質疑応答含む）のプレゼンテーション/振り返り
第15回 プレゼンテーション3
発表
15分程度（質疑応答含む）のプレゼンテーション/振り返り

2022年度 前期
2.0単位
日本語会話 （ア）
下岡 邦子、担当者未定（GC）

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この授業は、「基本日本語」科目の中の1つで、大学の授業や日常生活に必要な会話の能力を身につけることを目的としています。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」ようになるための授業です。

この授業では、特に、身の回りのことや自分が興味があることをテーマに話をして、「相手に合わせた話し方ができるようになること」「相手の話に対して、適切にあいづちや質問が入れられるようになること」を目指します。

また、発音やアクセントの練習を取り入れ、自分の発音やアクセントを意識しながら話す姿勢を身につけます。

< 到達目標 >

1. 自分の体験や興味のあることについて、日本語でやりとりすることができる
2. 相手の立場や知識に合わせた話し方ができる
3. 相手の話に対して、適切にあいづちや質問を入れることができる
4. 自分の発音やアクセントを意識しながら話すことができる

< 授業のキーワード >

体験を話す、興味を話す、あいづちをする、質問をする

< 授業の進め方 >

ペアワークを中心に、受講生のみなさんが「話す」ことが中心の授業です。

< 履修するにあたって >

授業中は、日本語のみ使用してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で練習したことを、普段の生活でも積極的に活用してください。

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

< 提出課題など >

授業期間中に、6回の小テスト（会話テスト4回、発音テスト2回）を実施します。

小テストのフィードバックは、授業内で行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の発話30%、課題10%、小テスト60%

3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

< テキスト >

『毎日練習！リズムで身につく日本語の発音』スリーエーネットワーク

< 授業計画 >

第1回 発音練習（1）

拍・リズム

第2回 発音練習（2）

長音・促音・撥音

第3回 会話の基本（1）

相手が知らないことを話す、あいづちをする

第4回 会話の基本（2）

共感を示す、質問をする

第5回 発音テスト

発音の確認テスト、フィードバック

第6回 会話の基本（3）

その場のものや相手の持ち物を話題にする
第7回 会話の基本(4)
その場の話題をきっかけに自分たちについて話す
第8回 観光地・出身地(1)
観光地紹介のテレビ番組などを見て、映像やテロップなどを頼りに、名所や名物など主要な情報を理解する
出身地のお勧めの名所や名物などの詳しい情報を質問したり、答えたりする
第9回 観光地・出身地(2)
観光地紹介のテレビ番組などを見て、映像やテロップなどを頼りに、名所や名物など主要な情報を理解する
出身地のお勧めの名所や名物などの詳しい情報を質問したり、答えたりする
第10回 観光地・出身地(3)
観光地紹介のテレビ番組などを見て、映像やテロップなどを頼りに、名所や名物など主要な情報を理解する
出身地のお勧めの名所や名物などの詳しい情報を質問したり、答えたりする
第11回 小テスト
「出身地」の確認テスト、フィードバック
第12回 お店(1)
近くのお勧めの店の立地や評判について、質問したり、答えたりする
第13回 お店(2)
近くのお勧めの店の立地や評判について、質問したり、答えたりする
第14回 お店(3)
近くのお勧めの店の立地や評判について、質問したり、答えたりする
第15回 小テスト
「お店」の確認テスト、フィードバック
第16回 前半の振り返り
前半の授業内容を振り返り、復習する
第17回 会話の基本(5)
相手が前に話した内容の続きを聞く
第18回 会話の基本(6)
前に相手にどこまで話したか確認しながら話す
第19回 発音テスト
発音の確認テスト、フィードバック
第20回 最近の出来事(1)
最近の出来事について、自分の気持ちも交えて話す
第21回 最近の出来事(2)
最近の出来事について、自分の気持ちも交えて話す
第22回 最近の出来事(3)
最近の出来事について、自分の気持ちも交えて話す
第23回 小テスト
「最近の出来事」の確認テスト、フィードバック
第24回 映画・ドラマ(2)
好きな映画・ドラマのあらすじや感想を聞いたり、説明したりする

第25回 映画・ドラマ(3)
好きな映画・ドラマのあらすじや感想を聞いたり、説明したりする
第26回 映画・ドラマ(4)
好きな映画・ドラマのあらすじや感想を聞いたり、説明したりする
第27回 小テスト
「映画・ドラマ」の確認テスト、フィードバック
第28回 時事問題(1)
最近の時事問題に関するテレビニュースなどを見て、映像やテロップなどを頼りに、問題の主要な点を理解する
第29回 時事問題(2)
最近の時事問題に関するテレビニュースなどを見て、映像やテロップなどを頼りに、問題の主要な点を理解する
第30回 後半の振り返り
後半の授業内容を振り返り、復習する

2022年度 前期

2.0単位

日本語会話 (イ)

下岡 邦子、担当者未定(GC)

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

この授業は、「基本日本語」科目の中の1つで、大学の授業や日常生活に必要な会話の能力を身につけることを目的としています。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」ようになるための授業です。

この授業では、特に、身の回りのことや自分が興味があることをテーマに話をして、「相手に合わせた話し方ができるようになること」「相手の話に対して、適切にあいづちや質問が入られるようになること」を目指します。

また、発音やアクセントの練習を取り入れ、自分の発音やアクセントを意識しながら話す姿勢を身につけます。

<到達目標>

1. 自分の体験や興味のあることについて、日本語でやりとりすることができる
2. 相手の立場や知識に合わせた話し方ができる
3. 相手の話に対して、適切にあいづちや質問を入れることができる
4. 自分の発音やアクセントを意識しながら話すことができる

<授業のキーワード>

体験を話す、興味を話す、あいづちをする、質問をする

<授業の進め方>

ペアワークを中心に、受講生のみなさんが「話す」こと

が中心の授業です。

<履修するにあたって>

授業中は、日本語のみ使用してください。

<授業時間外に必要な学修>

授業で練習したことを、普段の生活でも積極的に活用してください。

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

<提出課題など>

授業期間中に、6回の小テスト(会話テスト4回、発音テスト2回)を実施します。

小テストのフィードバックは、授業内で行います。

<成績評価方法・基準>

授業中の発話30%、課題10%、小テスト60%

3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

<テキスト>

『毎日練習!リズムで身につく日本語の発音』スリーエーネットワーク

<授業計画>

第1回 発音練習(1)

拍・リズム

第2回 発音練習(2)

長音・促音・撥音

第3回 会話の基本(1)

相手が知らないことを話す、あいづちをする

第4回 会話の基本(2)

共感を示す、質問をする

第5回 発音テスト

発音の確認テスト、フィードバック

第6回 会話の基本(3)

その場のものや相手の持ち物を話題にする

第7回 会話の基本(4)

その場の話題をきっかけに自分たちについて話す

第8回 観光地・出身地(1)

観光地紹介のテレビ番組などを見て、映像やテロップなどを頼りに、名所や名物など主要な情報を理解する
出身地のお勧めの名所や名物などの詳しい情報を質問したり、答えたりする

第9回 観光地・出身地(2)

観光地紹介のテレビ番組などを見て、映像やテロップなどを頼りに、名所や名物など主要な情報を理解する
出身地のお勧めの名所や名物などの詳しい情報を質問したり、答えたりする

第10回 観光地・出身地(3)

観光地紹介のテレビ番組などを見て、映像やテロップなどを頼りに、名所や名物など主要な情報を理解する
出身地のお勧めの名所や名物などの詳しい情報を質問したり、答えたりする

第11回 小テスト

「出身地」の確認テスト、フィードバック

第12回 お店(1)

近くのお勧めの店の立地や評判について、質問したり、答えたりする

第13回 お店(2)

近くのお勧めの店の立地や評判について、質問したり、答えたりする

第14回 お店(3)

近くのお勧めの店の立地や評判について、質問したり、答えたりする

第15回 小テスト

「お店」の確認テスト、フィードバック

第16回 前半の振り返り

前半の授業内容を振り返り、復習する

第17回 会話の基本(5)

相手が前に話した内容の続きを聞く

第18回 会話の基本(6)

前に相手にどこまで話したか確認しながら話す

第19回 発音テスト

発音の確認テスト、フィードバック

第20回 最近の出来事(1)

最近の出来事について、自分の気持ちも交えて話す

第21回 最近の出来事(2)

最近の出来事について、自分の気持ちも交えて話す

第22回 最近の出来事(3)

最近の出来事について、自分の気持ちも交えて話す

第23回 小テスト

「最近の出来事」の確認テスト、フィードバック

第24回 映画・ドラマ(2)

好きな映画・ドラマのあらすじや感想を聞いたり、説明したりする

第25回 映画・ドラマ(3)

好きな映画・ドラマのあらすじや感想を聞いたり、説明したりする

第26回 映画・ドラマ(4)

好きな映画・ドラマのあらすじや感想を聞いたり、説明したりする

第27回 小テスト

「映画・ドラマ」の確認テスト、フィードバック

第28回 時事問題(1)

最近の時事問題に関するテレビニュースなどを見て、映像やテロップなどを頼りに、問題の主要な点を理解する

第29回 時事問題(2)

最近の時事問題に関するテレビニュースなどを見て、映像やテロップなどを頼りに、問題の主要な点を理解する

第30回 後半の振り返り

後半の授業内容を振り返り、復習する

2022年度 前期

2.0単位

日本語会話 (ア)

吉兼 奈津子、下岡 邦子

< 授業の方法 >

演習(対面授業)

< 授業の目的 >

この授業は、「基本日本語」科目の中の1つで、大学の授業や日常生活に必要な会話の能力を身につけることを目的としています。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」ようになるための授業です。

この授業では、特に、身近な話題についてディスカッションを行い、適切に結論が導けるようになることを目指します。

< 到達目標 >

1. 身近な話題について、根拠を示して説得力のある意見を述べることができる

2. 身近な問題について、自分とは異なる意見であっても尊重し、適切に理解することができる。また、必要に応じて質問をして、理解を補うことができる

3. 身近な話題について、グループで協力して、論点を整理し、適切に結論を導くことができる

4. ディスカッションの方法や姿勢、マナーを身につける

< 授業のキーワード >

身近な話題、ディスカッション

< 授業の進め方 >

グループでのディスカッションを中心に、受講生のみなさんが「話す」ことが中心の授業です。

< 履修するにあたって >

授業中は、日本語のみ使用してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で練習したことを、普段の生活でも積極的に活用してください。

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

< 提出課題など >

授業中に小テスト、ディスカッションを実施します。

小テスト、ディスカッションのフィードバックは授業内で行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の発話30%、課題10%、小テスト30%、ディスカッション30%

3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

< 授業計画 >

第1回 ディスカッションの基本(1)

ディスカッションで重要なポイントを理解する
話しながらメモを取る

第2回 ディスカッションの基本(2)

意見と根拠を言う

第3回 ディスカッションの基本(3)

質問する

第4回 ディスカッション - 1

テーマについて意見と根拠を述べる

第5回 ディスカッション - 2

意見をグループに分ける

第6回 ディスカッション - 3

意見を整理して報告する

第7回 ディスカッション - 4

ディスカッションの練習をする

第8回 ディスカッション - 5

ディスカッションの練習をする

第9回 ディスカッション - 6

ディスカッションのテストをする

第10回 ディスカッション - 7

ディスカッションの振り返りをする

第11回 ディスカッション - 1

テーマについてメリット・デメリットを挙げる

テーマについて意見と根拠をまとめる

第12回 ディスカッションの基本(4)

反論する

第13回 ディスカッション - 2

意見と根拠に対して質問する/質問に答える

意見と根拠に対して反論する/再反論する

第14回 ディスカッション - 3

リレーディスカッションを行う

第15回 ディスカッションの基本(5)

結論を出す

第16回 ディスカッションの基本(6)

役割を決めてディスカッションする

第17回 ディスカッション - 4

ディスカッションの練習をする

第18回 ディスカッション - 5

ディスカッションの練習をする

第19回 ディスカッション - 6

ディスカッションのテストをする

第20回 ディスカッション - 7

ディスカッションの振り返りをする

第21回 ディスカッションの基本(7)

テーマを具体的にする

第22回 ディスカッション - 1

テーマについて具体的な条件を決める

アイデアを共有して整理する

第23回 ディスカッションの基本(8)

評価の基準を共有する

第24回 ディスカッション - 2
アイデアを評価して最終候補を決める
第25回 ディスカッション - 3
結論をまとめ、説明する
第26回 ディスカッション - 4
ディスカッションの練習をする
第27回 ディスカッション - 5
ディスカッションの練習をする
第28回 ディスカッション - 6
ディスカッションのテストをする
第29回 ディスカッション - 7
ディスカッションの振り返りをする
第30回 全体の振り返り
授業内容を振り返り、復習する

2022年度 前期

2.0単位

日本語会話 (イ)

吉兼 奈津子、下岡 邦子

< 授業の方法 >

演習 (対面授業)

< 授業の目的 >

この授業は、「基本日本語」科目の中の1つで、大学の授業や日常生活に必要な会話の能力を身につけることを目的としています。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」ようになるための授業です。

この授業では、特に、身近な話題についてディスカッションを行い、適切に結論が導けるようになることを目指します。

< 到達目標 >

1. 身近な話題について、根拠を示して説得力のある意見を述べることができる
2. 身近な問題について、自分とは異なる意見であっても尊重し、適切に理解することができる。また、必要に応じて質問をして、理解を補うことができる
3. 身近な話題について、グループで協力して、論点を整理し、適切に結論を導くことができる
4. ディスカッションの方法や姿勢、マナーを身につける

< 授業のキーワード >

身近な話題、ディスカッション

< 授業の進め方 >

グループでのディスカッションを中心に、受講生のみなさんが「話す」ことが中心の授業です。

< 履修するにあたって >

授業中は、日本語のみ使用してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で練習したことを、普段の生活でも積極的に活用してください。

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

< 提出課題など >

授業中に小テスト、ディスカッションを実施します。

小テスト、ディスカッションのフィードバックは授業内で行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の発話30%、課題10%、小テスト30%、ディスカッション30%

3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

< 授業計画 >

第1回 ディスカッションの基本 (1)

ディスカッションで重要なポイントを理解する
話しながらメモを取る

第2回 ディスカッションの基本 (2)

意見と根拠を言う

第3回 ディスカッションの基本 (3)

質問する

第4回 ディスカッション - 1

テーマについて意見と根拠を述べる

第5回 ディスカッション - 2

意見をグループに分ける

第6回 ディスカッション - 3

意見を整理して報告する

第7回 ディスカッション - 4

ディスカッションの練習をする

第8回 ディスカッション - 5

ディスカッションの練習をする

第9回 ディスカッション - 6

ディスカッションのテストをする

第10回 ディスカッション - 7

ディスカッションの振り返りをする

第11回 ディスカッション - 1

テーマについてメリット・デメリットを挙げる

テーマについて意見と根拠をまとめる

第12回 ディスカッションの基本 (4)

反論する

第13回 ディスカッション - 2

意見と根拠に対して質問する / 質問に答える

意見と根拠に対して反論する / 再反論する

第14回 ディスカッション - 3

リレーディスカッションを行う

第15回 ディスカッションの基本 (5)

結論を出す

第16回 ディスカッションの基本 (6)

役割を決めてディスカッションする

第17回 ディスカッション - 4

ディスカッションの練習をする
 第18回 ディスカッション - 5
 ディスカッションの練習をする
 第19回 ディスカッション - 6
 ディスカッションのテストをする
 第20回 ディスカッション - 7
 ディスカッションの振り返りをする
 第21回 ディスカッションの基本(7)
 テーマを具体的に
 第22回 ディスカッション - 1
 テーマについて具体的な条件を決める
 アイディアを共有して整理する
 第23回 ディスカッションの基本(8)
 評価の基準を共有する
 第24回 ディスカッション - 2
 アイディアを評価して最終候補を決める
 第25回 ディスカッション - 3
 結論をまとめ、説明する
 第26回 ディスカッション - 4
 ディスカッションの練習をする
 第27回 ディスカッション - 5
 ディスカッションの練習をする
 第28回 ディスカッション - 6
 ディスカッションのテストをする
 第29回 ディスカッション - 7
 ディスカッションの振り返りをする
 第30回 全体の振り返り
 授業内容を振り返り、復習する

 2022年度 後期

2.0単位

日本語会話 (ア)

吉兼 奈津子、茶園 直人

< 授業の方法 >

演習(対面授業)

< 授業の目的 >

この授業は、「基本日本語」科目の中の1つで、大学の授業や日常生活に必要な会話の能力を身につけることを目的としています。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになるための授業です。

この授業では、特に、時事問題についてディスカッションを行い、適切に結論が導けるようになることを目指します。

< 到達目標 >

1. 時事問題について、根拠となる資料を示して説得力

のある意見を述べることができる

2. 時事問題について、自分とは異なる意見であっても尊重し、適切に理解することができる。また、必要に応じて質問をして、理解を補うことができる

3. 時事問題について、グループで協力して、論点を整理し、適切に結論を導くことができる

4. 時事問題のキーワードや論点について、それを知らない相手にも分かるように説明することができる

< 授業のキーワード >

資料の活用、時事問題、ディスカッション

< 授業の進め方 >

グループでのディスカッションを中心に、受講生のみなさんが「話す」ことが中心の授業です。

< 履修するにあたって >

授業中は、日本語のみ使用してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で練習したことを、普段の生活でも積極的に活用してください。

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

< 提出課題など >

授業中に小テスト、ディスカッションを実施します。

小テスト、ディスカッションのフィードバックは授業内で行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の発話30%、課題20%、小テスト20%、ディスカッション30%

3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

< 授業計画 >

第1回 日本の時事問題

日本の時事問題にはどのようなものがあるかを知る

第2回 キーワードの説明

キーワードを自分の言葉で説明する

第3回 時事問題 - 1

時事問題のキーワードを説明する

第4回 時事問題 - 2

時事問題のメリット・デメリットを整理する

第5回 時事問題 - 3

時事問題について、メリット・デメリットの根拠となる資料を整理する

第6回 時事問題 - 4

時事問題について、メリット・デメリットの根拠となる資料を共有する

第7回 時事問題 - 5

時事問題について、資料をもとに論点を整理する

第8回 ディスカッション - 1

ディスカッションの練習をする

第9回 ディスカッション - 2

ディスカッションの練習をする

第10回 ディスカッション - 3
ディスカッションのテストをする
第11回 ディスカッション - 4
ディスカッションの振り返りをする
第12回 時事問題 - 1
時事問題の概要を説明する
第13回 時事問題 - 2
時事問題について、アイデアを整理する
第14回 時事問題 - 3
時事問題について、アイデアの根拠となる資料を整理する
第15回 時事問題 - 4
時事問題について、アイデアの根拠となる資料を共有する
第16回 時事問題 - 5
時事問題について、資料をもとにアイデアを検討する
第17回 ディスカッション - 1
ディスカッションの練習をする
第18回 ディスカッション - 2
ディスカッションの練習をする
第19回 ディスカッション - 3
ディスカッションのテストをする
第20回 ディスカッション - 4
ディスカッションの振り返りをする
第21回 時事問題 - 1
時事問題に関するアイデアについて、さらに必要な検討項目を整理する
第22回 時事問題 - 2
さらに必要な検討項目に関する資料を整理する
第23回 時事問題 - 3
さらに必要な検討項目に関する資料を共有する
第24回 時事問題 - 4
資料から分かることを整理する
第25回 時事問題 - 5
資料をもとにしてアイデアの妥当性を説明する
第26回 ディスカッション - 1
ディスカッションの練習をする
第27回 ディスカッション - 2
ディスカッションの練習をする
第28回 ディスカッション - 3
ディスカッションのテストをする
第29回 ディスカッション - 4
ディスカッションの振り返りをする
第30回 全体の振り返り
授業内容を振り返り、復習する

2022年度 後期

2.0単位

日本語会話 (イ)

吉兼 奈津子、茶園 直人

<授業の方法>

演習(対面授業)

<授業の目的>

この授業は、「基本日本語」科目の中の1つで、大学の授業や日常生活に必要な会話の能力を身につけることを目的としています。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになるための授業です。

この授業では、特に、時事問題についてディスカッションを行い、適切に結論が導けるようになることを目指します。

<到達目標>

1. 時事問題について、根拠となる資料を示して説得力のある意見を述べることができる

2. 時事問題について、自分とは異なる意見であっても尊重し、適切に理解することができる。また、必要に応じて質問をして、理解を補うことができる

3. 時事問題について、グループで協力して、論点を整理し、適切に結論を導くことができる

4. 時事問題のキーワードや論点について、それを知らない相手にも分かるように説明することができる

<授業のキーワード>

資料の活用、時事問題、ディスカッション

<授業の進め方>

グループでのディスカッションを中心に、受講生のみなさんが「話す」ことが中心の授業です。

<履修するにあたって>

授業中は、日本語のみ使用してください。

<授業時間外に必要な学修>

授業で練習したことを、普段の生活でも積極的に活用してください。

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

<提出課題など>

授業中に小テスト、ディスカッションを実施します。小テスト、ディスカッションのフィードバックは授業内で行います。

<成績評価方法・基準>

授業中の発話30%、課題20%、小テスト20%、ディスカッション30%

3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で

欠席1回とみなします。

< 授業計画 >

第1回 日本の時事問題

日本の時事問題にはどのようなものがあるかを知る

第2回 キーワードの説明

キーワードを自分の言葉で説明する

第3回 時事問題 - 1

時事問題のキーワードを説明する

第4回 時事問題 - 2

時事問題のメリット・デメリットを整理する

第5回 時事問題 - 3

時事問題について、メリット・デメリットの根拠となる資料を整理する

第6回 時事問題 - 4

時事問題について、メリット・デメリットの根拠となる資料を共有する

第7回 時事問題 - 5

時事問題について、資料をもとに論点を整理する

第8回 ディスカッション - 1

ディスカッションの練習をする

第9回 ディスカッション - 2

ディスカッションの練習をする

第10回 ディスカッション - 3

ディスカッションのテストをする

第11回 ディスカッション - 4

ディスカッションの振り返りをする

第12回 時事問題 - 1

時事問題の概要を説明する

第13回 時事問題 - 2

時事問題について、アイデアを整理する

第14回 時事問題 - 3

時事問題について、アイデアの根拠となる資料を整理する

第15回 時事問題 - 4

時事問題について、アイデアの根拠となる資料を共有する

第16回 時事問題 - 5

時事問題について、資料をもとにアイデアを検討する

第17回 ディスカッション - 1

ディスカッションの練習をする

第18回 ディスカッション - 2

ディスカッションの練習をする

第19回 ディスカッション - 3

ディスカッションのテストをする

第20回 ディスカッション - 4

ディスカッションの振り返りをする

第21回 時事問題 - 1

時事問題に関するアイデアについて、さらに必要な検討項目を整理する

第22回 時事問題 - 2

さらに必要な検討項目に関する資料を整理する

第23回 時事問題 - 3

さらに必要な検討項目に関する資料を共有する

第24回 時事問題 - 4

資料から分かることを整理する

第25回 時事問題 - 5

資料をもとにしてアイデアの妥当性を説明する

第26回 ディスカッション - 1

ディスカッションの練習をする

第27回 ディスカッション - 2

ディスカッションの練習をする

第28回 ディスカッション - 3

ディスカッションのテストをする

第29回 ディスカッション - 4

ディスカッションの振り返りをする

第30回 全体の振り返り

授業内容を振り返り、復習する

2022年度 後期

2.0単位

日本語検定対策演習

担当者未定 (G C)

< 授業の方法 >

対面授業

< 授業の目的 >

・日本での就職に必要な資格の日本語能力試験N1取得を目指します。

・日本語能力試験N1取得に必要な語彙や文法等の基礎知識を身につけます。

・模擬試験を通し、自身の日本語能力を客観的に測ります。

・基本問題を多くこなし、問題に慣れ、分からない部分を解決します。

・自身で分析し学習する自律学習の方法を身につけます。

< 到達目標 >

・学生は決められた時間内に解答でき、日本語能力試験N1に合格できる力を身につけます。

・学生は上級レベルの語彙・文法の知識を深めます。

・N1レベルの語彙力・文法力を身につけます。

・N1レベルの語彙力・文法力が使える力を身につけます。

< 授業のキーワード >

日本語能力試験N1合格、N1文字語彙、N1文法

< 授業の進め方 >

・予習前提で、N1の傾向と対策が理解できるように進めます。

・復習クイズの後、練習問題をし、解答・解説を行います。

・模擬試験を実施し、現在の自分の能力を見極めます。

・学生が事前課題で分からなかったところを中心に進め

ます。

・学生自身が自分の弱点を知り、分析し、補強していく力を育成します。

・学生同士が学びあいながら授業を進めることがあります。

・自己学習課題でN2の文字・語彙・文法の内容をブラッシュアップします。

<履修するにあたって>

・限られた時間内で合格を目指すため、全ての問題を解説する時間的余裕がありません。学生は授業内で紹介される参考書などで、必ず自己学習を進めてください。

・日本語能力試験までに模擬試験とフィードバックが終えられるよう、スケジュールを調整する場合があります。

・自己学習課題から復習テストを実施することがあります。

<授業時間外に必要な学修>

・予習前提の授業です。予習は必ず1時間以上してください。

・出された課題を必ず行ってから、授業に参加してください。

・授業内で行う復習クイズの準備をしておいてください。

・間違えた箇所は必ず確認しておいてください。

・自己学習課題は必ず期日までに自身で進めてください。

<提出課題など>

・毎回宿題を出しますので、期日までに提出してください。

・自己学習課題は決められた期日までに自身で学習してください(復習テストを実施することがあります)。

<成績評価方法・基準>

授業への取り組み50%、復習クイズ30%、模擬試験20%
<テキスト>

書名：日本語能力試験問題集N1語彙スピードマスター
著者：中島智子、高橋尚子、

松本知恵 出版年：2011年 出版社：J
リサーチ 価格：1,200円(税抜)

書名：日本語能力試験問題集N1文法スピードマスター
著者：有田聡子、大久保理恵

北村優子、高橋尚子 出版年：2011年

出版社：Jリサーチ

価格：1,200円(税抜)

書名：はじめての日本語能力試験合格模試 N1 著者
：アスク出版日本語編集部

出版年：2020年 出版社：アスク出版 価
格：1,800円(税抜)

【自己学習課題用テキスト】

書名：日本語能力試験問題集 N2語彙スピードマスタ
ー 著者：中島智子、高橋尚子、

松本知恵 出版年：2010年 出版社：Jリ
サーチ出版 価格：1,200円(税抜)

書名：TRY! 日本語能力試験N2 文法から伸ばす日本語

著者：アジア学生文化協会

出版年：2014年 出版社：アスク出版 価

格：1,900円(税抜)

持っている場合は購入の必要はありません。

<参考図書>

適宜、授業内で紹介

<授業計画>

第1回 日本語能力試験

(語彙、文法)について

模擬試験

N1の読解聴解試験構成・時間・学習法+模擬試験 (文
字・語彙・文法)

第2回 語彙

復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第3回 文法

復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第4回 語彙

復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第5回 文法

中間クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第6回 語彙

復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第7回 文法

復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第8回 語彙

復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第9回 文法

中間クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第10回 語彙

復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第11回 文法

復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第12回 模擬試験

模擬試験 (文字・語彙・文法)

第13回 語彙

中間クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第14回 文法

復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第15回 模擬試験

模擬試験 (文字・語彙・文法)

2022年度 後期

2.0単位

日本語検定対策演習

担当者未定(GC)

<授業の方法>

対面授業

<授業の目的>

- ・日本語能力試験N1取得の足固めとしてN2合格を目指します。
- ・日本語能力試験N2取得に必要な語彙や文法等の基礎知識を身につけます。
- ・模擬試験を通し、自身の日本語能力を客観的に測ります。
- ・多くの基本問題を多くこなし、問題に慣れ、分からない部分を解決します。
- ・自身で分析し学習する自律学習の方法を身につけます。
- <到達目標>
- ・学生は決められた時間内に解答でき、日本語能力試験N2に合格できる力をつけます。
- ・学生は中級レベルの文字語彙と文法の知識を深めます。
- ・N2レベルの文字語彙力と文法力を身につけます。
- ・N2レベルの語彙や文法を使うことができる力を身につけます。
- <授業のキーワード>
- 日本語能力試験N2合格、N2文法、N2文字語彙
- <授業の進め方>
- ・予習前提で、N2の傾向と対策が理解できるように進めます。
- ・復習クイズの後、練習問題をし、解答・解説を行います。
- ・模擬試験を実施し、現在の自分の能力を見極めます。
- ・学生が事前課題で分からなかったところを中心に進めます。
- ・学生自身が自分の弱点を知り、分析し、補強していく力を育成します。
- ・学生同士が学びあいながら授業を進めることがあります。
- ・自己学習課題でN3の文字・語彙・文法の内容をブラッシュアップします。
- <履修するにあたって>
- ・限られた時間内で合格を目指すため、全ての問題を解説する時間的余裕がありません。
- 学生は授業内で紹介される参考書などで、必ず自己学習を進めてください。
- ・日本語能力試験までに模擬試験とフィードバックが終えられるよう、スケジュールを調整する場合があります。
- ・自己学習課題から復習テストを実施することがあります。
- <授業時間外に必要な学修>
- ・予習前提の授業です。予習は必ず1時間以上してください。
- ・出された課題を必ず行ってから、授業に参加してください。
- ・授業内で行う復習クイズの準備をしておいてください。
- ・間違えた箇所は必ず確認しておいてください。
- ・自己学習課題は必ず期日までに自身で進めてください。
- <提出課題など>

- ・毎回宿題を出しますので、期日までに提出してください。
- ・自己学習課題は決められた期日までに自身で学習してください（復習テストを実施することがあります）。
- <成績評価方法・基準>
- 授業への取り組み50%、復習クイズ30%、模擬試験20%
- <テキスト>
- 書名：日本語能力試験問題集 N2語彙スピードマスター 著者：中島智子、高橋尚子、松本知恵 出版年：2010年 出版社：Jリサーチ出版 価格：1,200円（税抜）
- 書名：TRY! 日本語能力試験N2 文法から伸ばす日本語 著者：アジア学生文化協会 出版年：2014年 出版社：アスク出版 価格：1,900円（税抜）
- 書名：はじめての日本語能力試験合格模試 N2 著者：アスク出版日本語編集部 出版年：2020年 出版社：アスク出版 価格：1,800円（税抜）

【自己学習課題用テキスト】

- 書名：日本語能力試験対策日本語総まとめN3語彙 著者：佐々木仁子、松本紀子 出版年：2010年 出版社：アスク出版 価格：1,200円（税抜）
- * 英語・中国語・韓国語版または、英語・ベトナム語版を購入してください。
- 書名：日本語能力試験対策日本語総まとめN3文法 著者：佐々木仁子、松本紀子 出版年：2010年 出版社：アスク出版 価格：1,200円（税抜）
- * 英語・中国語・韓国語版または、英語・ベトナム語版を購入してください。
- <参考図書>
- 適宜、授業内で紹介します。
- <授業計画>
- 第1回 日本語能力試験について
模擬試験
(文字・語彙・文法)
- N2の試験構成・時間・学習法+模擬試験 (文字・語彙・文法)
- 第2回 語彙
復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題
- 第3回 文法
復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題
- 第4回 語彙
復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題
- 第5回 文法
中間クイズ+宿題フィードバック+講義内課題
- 第6回 語彙

復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第7回 文法

復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第8回 語彙

復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第9回 文法

中間クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第10回 語彙

復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第11回 文法

復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第12回 模擬試験

模擬試験 (文字・語彙・文法)+フィードバック

第13回 語彙

中間クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第14回 文法

復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第15回 模擬試験

模擬試験 (文字・語彙・文法)+フィードバック

2022年度 前期

2.0単位

日本語検定対策演習 【2020~】

担当者未定 (GC)

< 授業の方法 >

対面授業

< 授業の目的 >

- ・日本での就職に必要となる資格の日本語能力試験N1取得を目指します。
- ・日本語能力試験N1取得に必要なN1レベルの読解力と聴解力を向上させます。
- ・模擬試験を通して学習者の日本語能力を客観的に測ります。
- ・読解・聴解問題を多くこなし、問題に慣れ、分からない部分を解決します。
- ・自身で分析し学習する自律学習の方法を身につけます。

< 到達目標 >

- ・学生は決められた時間内に解答でき、日本語能力試験N1に合格できる力を身につけます。
- ・学生は上級レベルの読解・聴解から得た知識をもとに日本語で多くの話題についていける力を身につけます。
- ・N1レベルの読解力・聴解力を身につけます。

< 授業のキーワード >

日本語能力試験N1合格、N1読解、N1聴解

< 授業の進め方 >

- ・予習前提で、N1の傾向と対策が理解できるように進めます。
- ・復習クイズの後、練習問題をし、解答・解説を行います。

- ・模擬試験を実施し、現在の自分の能力を見極めます。
- ・学生が事前課題で分からなかったところを中心に進めます。
- ・学生自身が自分の弱点を知り、分析し、補強していく力を育成します。

・学生同士が学びあいながら授業を進めることがあります。

・自己学習課題でN1の語彙・文法の内容をブラッシュアップします。

< 履修するにあたって >

・限られた時間内で合格を目指すため、全ての問題を解説する時間的余裕がありません。学生は授業内で紹介される参考書などで、必ず自習を進めてください。

・日本語能力試験までに模擬試験とフィードバックが終わられるよう、スケジュールを調整する場合があります。

・自己学習課題から復習テストを実施することがあります。

< 授業時間外に必要な学修 >

・予習前提の授業です。予習は必ず1時間以上してください。

・出された課題を必ず行ってから、授業に参加してください。

・授業内で行う復習クイズの準備をしておいてください。

・間違えた箇所は必ず確認しておいてください。

・自己学習課題は必ず期日までに自身で進めてください。

< 提出課題など >

・毎回宿題を出しますので、期日までに提出してください。

・自己学習課題は決められた期日までに自身で学習してください(復習テストを実施することがあります)。

< 成績評価方法・基準 >

授業への取り組み50%、復習クイズ30%、模擬試験20%
< テキスト >

書名：日本語能力試験N1読解必修パターン 著者：氏原庸子、岡本牧子、清島千春

福嶋香理、岡本 牧子 出版年：2015年 出版社：Jリサーチ

価格：1,600円(税抜)

書名：日本語能力試験N1聴解必修パターン 著者：氏原庸子、岡本牧子

出版年：2015年 出版社：Jリサーチ 価格：1,800円(税抜)

書名：あなたの弱点がわかる!日本語能力試験 N1模試x2 著者：日本語テスト研究会

出版年：2013年 出版社：ユニコム 価格：1,600円(税抜)

書名：日本語能力試験N1模擬テスト 2 著者：千駄ヶ谷日本語教育研究所

出版年：2011年 出版社：スリーエーネットワーク 価格：900円(税抜)

【自己学習課題用テキスト】

書名：日本語能力試験問題集N1語彙スピードマスター
著者：中島智子、高橋尚子、
松本知恵 出版年：2011年 出版社：J
リサーチ 価格：1,200円（税抜）

書名：日本語能力試験問題集N1文法スピードマスター
著者：有田聡子、大久保理恵

北村優子、高橋尚子 出版年：2011年
出版社：Jリサーチ

価格：1,200円（税抜）

持っている場合は購入の必要はありません。

<参考図書>

適宜、授業内で紹介

<授業計画>

第1回 日本語能力試験

（聴解、読解）について

模擬試験（読解）

N1の読解聴解試験構成・時間・学習法＋模擬試験（読解）

第2回 模擬試験（聴解）

模擬試験（読解）フィードバック＋模擬試験（聴解）

第3回 聴解

復習クイズ＋宿題フィードバック＋講義内課題

第4回 読解

復習クイズ＋宿題フィードバック＋講義内課題

第5回 聴解

中間クイズ＋宿題フィードバック＋講義内課題

第6回 読解

復習クイズ＋宿題フィードバック＋講義内課題

第7回 聴解

復習クイズ＋宿題フィードバック＋講義内課題

第8回 読解

復習クイズ＋宿題フィードバック＋講義内課題

第9回 聴解

中間クイズ＋宿題フィードバック＋講義内課題

第10回 読解

模擬試験＋フィードバック

第11回 模擬試験（読解）

復習クイズ＋模擬試験（読解）

第12回 模擬試験（聴解）

模擬試験（読解）フィードバック＋模擬試験（聴解）

第13回 聴解

復習クイズ＋宿題フィードバック＋講義内課題

第14回 読解

中間クイズ＋宿題フィードバック＋講義内課題

第15回 模擬試験（聴解・読解）

模擬試験（聴解・読解）

2022年度 前期

2.0単位

日本語検定対策演習 【2020～】

担当者未定（GC）

<授業の方法>

対面授業

<授業の目的>

- ・日本語能力試験N1取得の足固めとしてN2合格を目指します。
- ・日本語能力試験N2取得に必要な読解力と聴解力を向上させます。
- ・模擬試験を通して学習者の日本語能力を客観的に測ります。
- ・読解・聴解問題を多くこなし、問題に慣れ、分からない部分を解決します。
- ・自身で分析し学習する自律学習の方法を身につけます。

<到達目標>

- ・学生は決められた時間内に解答でき、日本語能力試験N2に合格できる力をつけます。
- ・学生は中級レベルの読解・聴解から得た知識をもとに日本語で多くの話題についていける力を身につけます。
- ・N2レベルの読解力・聴解力を身につけます。

<授業のキーワード>

日本語能力試験N2合格、N2読解、N2聴解

<授業の進め方>

- ・予習前提で、N2の傾向と対策が理解できるように進めます。
- ・復習クイズの後、練習問題をし、解答・解説を行います。
- ・模擬試験を実施し、現在の自分の能力を見極めます。
- ・学生が事前課題で分からなかったところを中心に進めます。
- ・学生自身が自分の弱点を知り、分析し、補強していく力を育成します。
- ・学生同士が学びあいながら授業を進めることがあります。
- ・自己学習課題でN2の語彙・文法の内容をブラッシュアップします。

<履修するにあたって>

- ・限られた時間内で合格を目指すため、全ての問題を解説する時間的余裕がありません。学生は授業内で紹介される参考書などで、必ず自習を進めてください。
- ・日本語能力試験までに模擬試験とフィードバックがえられるよう、スケジュールを調整する場合があります。
- ・自己学習課題から復習テストを実施することがあります。

<授業時間外に必要な学修>

- ・予習前提の授業です。予習は必ず1時間以上してください。

さい。
・出された課題を必ず行ってから、授業に参加してください。
さい。
・授業内で行う復習クイズの準備をしておいてください。
・間違えた箇所は必ず確認しておいてください。
・自己学習課題は必ず期日までに自身で進めてください。

<提出課題など>

・毎回宿題を出しますので、期日までに提出してください。

・自己学習課題は決められた期日までに自身で学習してください(復習テストを実施することがあります)。

<成績評価方法・基準>

授業への取り組み50%、復習クイズ30%、模擬試験20%

<テキスト>

書名：ドリル&ドリル日本語能力試験N2聴解・読解

著者：星野恵子、辻和子

出版年：2010年 出版社：ユニコム 価格

：2,600円(税抜)

書名：日本語能力試験N2模擬テスト 2 著者：

千駄ヶ谷日本語教育研究所

出版年：2011年 出版社：スリーエーネットワーク 価格：900円(税抜)

書名：日本語能力試験N2模擬テスト 3 著者：

千駄ヶ谷日本語教育研究所

出版年：2011年 出版社：スリーエーネットワーク 価格：900円(税抜)

書名：日本語能力試験N2模擬テスト 4 著者：

千駄ヶ谷日本語教育研究所

出版年：2013年 出版社：スリーエーネットワーク 価格：900円(税抜)

【自己学習課題用テキスト】

書名：日本語能力試験問題集 N2語彙スピードマスタ

一 著者：中島智子、高橋尚子、

松本知恵 出版年：2010年 出版社：Jリサーチ出版 価格：1,200円(税抜)

書名：TRY! 日本語能力試験N2 文法から伸ばす日本語

著者：アジア学生文化協会

出版年：2014年 出版社：アスク出版 価格：1,900円(税抜)

持っている場合は購入の必要はありません。

<参考図書>

適宜、授業内で紹介

<授業計画>

第1回 日本語能力試験

(聴解、読解)について

模擬試験 (読解)

N2の読解聴解試験構成・時間・学習法+模擬試験 (読解)

第2回 模擬試験 (聴解)

模擬試験 (読解)フィードバック+模擬試験 (聴解)

第3回 聴解

復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第4回 読解

復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第5回 聴解

中間クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第6回 読解

復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第7回 聴解

復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第8回 読解

復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第9回 聴解

中間クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第10回 読解

模擬試験 +フィードバック

第11回 模擬試験 (読解)

復習クイズ+模擬試験 (読解)

第12回 模擬試験 (聴解)

模擬試験 (読解)フィードバック+模擬試験 (聴解)

第13回 聴解

復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第14回 読解

中間クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第15回 模擬試験 (聴解・読解)

模擬試験 (聴解・読解)

2022年度 後期

2.0単位

日本語検定対策演習

担当者未定(GC)

<授業の方法>

対面授業

<授業の目的>

・日本での就職に必要な資格の日本語能力試験N1取得を目指します。

・日本語能力試験N1取得に必要なN1レベルの読解力と聴解力を向上させます。

・模擬試験を通して学習者の日本語能力を客観的に測ります。

・読解・聴解問題を多くこなし、問題に慣れ、分からない部分を解決します。

・自身で分析し学習する自律学習の方法を身につけます。

<到達目標>

・学生は決められた時間内に解答でき、日本語能力試験N1に合格できる力を身につけます。

・学生は上級レベルの読解・聴解から得た知識をもとに日本語で多くの話題についていける力を身につけます。

・N1レベルの読解力・聴解力を身につけます。

<授業のキーワード>

日本語能力試験N1合格、N1読解、N1聴解

<授業の進め方>

・予習前提で、N1の傾向と対策が理解できるように進めます。

・復習クイズの後、練習問題をし、解答・解説を行います。

・模擬試験を実施し、現在の自分の能力を見極めます。

・学生が事前課題で分からなかったところを中心に進めます。

・学生自身が自分の弱点を知り、分析し、補強していく力を育成します。

・学生同士が学びあいながら授業を進めることがあります。

・自己学習課題でN1の語彙・文法の内容をブラッシュアップします。

<履修するにあたって>

・限られた時間内で合格を目指すため、全ての問題を解説する時間的余裕がありません。学生は授業内で紹介される参考書などで、必ず自習を進めてください。

・日本語能力試験までに模擬試験とフィードバックがえられるよう、スケジュールを調整する場合があります。

・自己学習課題から復習テストを実施することがあります。

<授業時間外に必要な学修>

・予習前提の授業です。予習は必ず1時間以上してください。

・出された課題を必ず行ってから、授業に参加してください。

・授業内で行う復習クイズの準備をしておいてください。

・間違えた箇所は必ず確認しておいてください。

・自己学習課題は必ず期日までに自身で進めてください。

<提出課題など>

・毎回宿題を出しますので、期日までに提出してください。

・自己学習課題は決められた期日までに自身で学習してください(復習テストを実施することがあります)。

<成績評価方法・基準>

授業への取り組み50%、復習クイズ30%、模擬試験20%

<テキスト>

書名：ドリル&ドリル日本語能力試験N1聴解・読解

著者：星野恵子、辻和子

出版年：2011年 出版社：ユニコム 価格

：2,600円(税抜)

書名：日本語能力試験完全模試N1 著者：藤田朋

世、菊池富美子、日置陽子、渡部

真由美、青木幸子、水野沙江香、塩川絵里子、淵上

真由美、久芳里奈、久木元恵

出版年：2012年 出版社：Jリサーチ 価格

：2,000円(税抜)

【自己学習課題用テキスト】

書名：日本語能力試験問題集N1語彙スピードマスター

著者：中島智子、高橋尚子、

松本知恵 出版年：2011年 出版社：J

リサーチ 価格：1,200円(税抜)

書名：日本語能力試験問題集N1文法スピードマスター

著者：有田聡子、大久保理恵

北村優子、高橋尚子 出版年：2011年

出版社：Jリサーチ

価格：1,200円(税抜)

持っている場合は購入の必要はありません。

<参考図書>

適宜、授業内で紹介

<授業計画>

第1回 日本語能力試験

(聴解、読解)について

模擬試験 (読解)

N1の読解聴解試験構成・時間・学習法+模擬試験 (読解)

第2回 模擬試験 (聴解)

模擬試験 (読解)フィードバック+模擬試験 (聴解)

第3回 聴解

復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第4回 読解

復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第5回 聴解

中間クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第6回 読解

復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第7回 聴解

復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第8回 読解

復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第9回 聴解

中間クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第10回 読解

模擬試験 +フィードバック

第11回 模擬試験 (読解)

復習クイズ+模擬試験 (読解)

第12回 模擬試験 (聴解)

模擬試験 (読解)フィードバック+模擬試験 (聴解)

第13回 聴解

復習クイズ+宿題フィードバック+講義内課題

第14回 読解

2022年度 前期

2.0単位

日本語研究

福原 香織

<授業の方法>

【対面】講義形式

コロナ感染状況によりオンラインに切り替えとなった場合は、ZOOMによるリアルタイム授業を行います。詳細は下の遠隔授業情報欄で確認してください。

<授業の目的>

- ・この授業は日本語コース講義科目の一つです。
- ・本学部DP（ディプロマ・ポリシー）の「実践的で高度な外国語の運用ができる」、および全学DPの「専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている」ことを目指します。
- ・「日本語学」「言語学」（特に統語論）という二つの枠組みを使いながら、現代日本語の事象について考察し、説明する基礎的な力をつけることを目標とします。
- ・なお、担当講師は貿易関連企業で5年以上、日本語教師として20年以上の実務経験があり、日本語を母語としない人への日本語の説明の仕方、考え方などについて、実践的観点から考察できるよう解説します。

<到達目標>

大きくは「日本語を客観的に分析する観点を持つことができ、言葉に対して積極的に考える態度を身につける」ことです。具体的には以下の3点です。

日本語学と言語学の違いを理解し、例を使って説明できる。

統語論の基本的考え方を理解し、説明ができる。

日本語学と統語論の基礎知識を生かし、日本語と他の言語を比較して基本的考察ができる。

<授業のキーワード>

日本語学、言語学、統語論、統語構造

<授業の進め方>

各回は教師による説明だけでなく、練習問題やクイズなどを入れながら、学生が無理なく理解できるよう進めます。

<履修するにあたって>

日本語学、言語学、統語論の知識が全くなくても受講可能ですが、日ごろから、自分や周囲の人が使っている日本語、テレビやインターネットに出てくる日本語の実態について、意識的に観察するようにしてください。

<授業時間外に必要な学修>

専門的な用語が多くなりますので、毎回予習・復習とも

30分程度行ってください。

<提出課題など>

適宜、課題を出します。

提出課題のフィードバックは、原則的に授業中に? います

<成績評価方法・基準>

- ・出席、授業に関する質問・意見の提出（30%）
- ・提出課題（30% 理解確認用のワークシートです。小テストではありません）
- ・まとめテスト（40%）

<テキスト>

無し。毎回プリントを配布します。

<参考図書>

『構造から見る日本語文法』三原健一、2008年、開拓社。
『日本語文法ファイル』鈴木孝明、2015年、くろしお出版

<授業計画>

第1回 日本語学と言語学

日本語学、言語学、統語論について説明する。また、他の言語分析理論も紹介する。

第2回 日本語の構造

「奇跡のリンゴのタルト」は、二通りの意味に解釈できる。これを例に、統語論の立場から日本語の構造について説明する。

第3回 日本語の構造

統語論の立場から、「文の構成要素」について説明する。

第4回 日本語の構造

統語論の立場から、「品詞分類」について説明する。

第5回 日本語の構造

統語論の立場から、動詞の「項構造」、語の「意味役割」について説明する

第6回 日本語の構造

統語論の立場から、日本語の「助詞」について考える。

第7回 日本語の構造

日本語学と統語論の立場から、助詞「は」と「が」について考える。

第8回 動詞分類

どのような言語でも動詞は文の中心的役割を果たす。日本語の動詞を分類するには、どのような観点があるのかを説明する。

第9回 動詞分類

第8回に続いて、日本語の動詞分類について説明する。

第10回 日本語の時制（テンス）

「明日はテストだった！」は未来のことなのに「だった」となっている。なぜなのか、日本語の時制について考える。

第11回 日本語の時制（テンス）

「電車に乗るときに財布を落とした」「電車に乗った時に財布を落とした」は両方とも過去を表すが、「乗る」

「乗った」では事態が異なる。なぜなのか、日本語の時制について考える。

第12回 日本語のアスペクト

「イチローは3000本のヒットを打った」「イチローは3000本のヒットを打っている」では、どのような違いがあるだろうか。日本語の時制、アスペクトについて考える。

第13回 日本語のアスペクト

日本人が普通に使う「-ている・である・ておく・ていく・てくる」などの文法的アスペクトは、日本語を母語としない人々には使い分けが難しい。どのようなルールがあるのだろうか。

第14回 まとめ

ここまでで学んだ日本語の構造、動詞の意味的な分類、時制とアスペクトについて復習し、まとめる。

第15回 まとめ

第14回に続いてこれまでの授業内容を確認し、簡単な確認テストを行う（50分程度）。解答・解説も授業内で行う。

2022年度 後期

2.0単位

日本語研究

福原 香織

< 授業の方法 >

【対面】講義

< 授業の目的 >

- ・この授業は？ 本語コース講義科？ の？ つです。
- ・本学DPにある「共通教育等を通じて広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養している」「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで良好なコミュニケーションをとることができる」ことを目指します。
- ・日本人受講生には「日本語」=「国語」という観点を離れて一言語として日本語を見つめなおしてもらうこと、そして留学生には、日本語教科書では分からない日本語の使用実体を捉えてもらうことが目的です。具体的には、「好ましい言語行動とはどういうものか？」という疑問に対して、受講者が自分なりに答えを出すために必要な日本語の基本事項を学び、考察できるようになることです。前半で「敬語」「若者言葉、ら抜き言葉・さ入れ言葉」「豊かな日本語表現」を、後半で自分の考えを論理的・効果的に相手に伝えるために欠かせない「接続詞」を扱います。担当講師は貿易関連企業で5年以上、日本語教師として20年以上の実務経験があり、実社会での実践的観点から考察できるよう解説します。

< 到達目標 >

大きくは「言葉によるコミュニケーションについて深く考え、場面や状況に応じた言語行動ができるようになる

」ことです。具体的には、以下の3点です。

敬語の基礎知識と運用の原則を知り、自信をもって敬語が使えるようになる。

「好ましい言語行動」とは何か、自分なりに考えて行動することができる。

様々なパターンの接続詞を学び、自分の言いたいことを能動的かつ適切に相手に伝えることができる。

< 授業のキーワード >

言語行動、敬語、日本社会、コミュニケーション、接続詞、伝える技術

< 授業の進め方 >

練習問題やクイズなどを通じて、学生同士あるいは教師と学生が対話しながら進めます。また、授業中にグループワークも行うこともあります。テストはありません。学期末に、授業で学んだことに即した短いレポートを課します。詳しくは授業中に説明します。

< 履修するにあたって >

日ごろから自分や周囲の人が使っている日本語（会話、LINEやメールのやり取りなど）、テレビ、インターネットなどで触れる日本語を意識的に観察することが、授業理解に大いに役立ちます。

< 授業時間外に必要な学修 >

次の講義テーマに関する言語事実を見つけておくことが予習になります。専門用語が多いので復習も30分程度？ ってください。

< 提出課題など >

適宜、意見や感想を書いて提出してもらいます。

< 成績評価方法・基準 >

- ・出席、質疑、グループワーク参加などの受講態度（30%）
- ・提出課題（30%）
- ・小論文（40%）学期末に小論文を書いてもらいます。テーマなどの詳細は授業中に説明します。

< テキスト >

無し。プリントを配布します。

< 参考図書 >

- 『敬語』菊池康人，1997年，講談社学術文庫
- 『接続詞の技術』石黒圭，2016年，実務教育出版
- 『正しい日本語の使い方 新装版』吉田裕子，2019年，柘出版社

< 授業計画 >

第1回 日本人と日本語（1）

日本語の起源は？ 現代日本人にとって日本語の問題点とは？ 世界の言語のなかで日本語のもつパワーは？ など、日本語に関する基本的データを紹介、説明する。

第2回 日本人と日本語（2）

現代日本社会においてどのような言語行動が求められているのか。資料を参考に考察する。

第3回 敬語（1）尊敬語

・敬語の分類と形式、仕組みを理解し、敬語使用のハードルを下げる。

・尊敬語の形式、使用実態・場面などについて詳しく学ぶ。

第4回 敬語(2) 尊敬語

第3回に続いて、尊敬語について詳しく学ぶ。

第5回 敬語(3) 謙譲語

謙譲語の形式、使用実態・場面などについて詳しく学ぶ。

第6回 敬語(4) 謙譲語

第5回に続いて、謙譲語について詳しく学ぶ。

第7回 敬語(5) まとめ

・これまで学んだ敬語について練習問題で確認。さらに、敬語使用において特に留意しておきたいことや、その他適切な敬意表現などについても学ぶ。

第8回 若者言葉

若者言葉の使用実態・特徴を挙げ、肯定的な面と否定的な面について考察する。

第9回 豊かな表現(1)

豊かな日本語表現とは何か、具体例を挙げながら考察する。また、「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」など文法的な間違いと使用実態の隔たりについても説明する。

第10回 豊かな表現(2)

第9回に続いて、豊かな日本語表現について考える。

第11回 論理的表現 接続詞(1)

相手に自分の思いや考えを伝えるために、どのような言葉が必要なのかを考える。ここでは論理的表現に欠かせない「接続詞」の重要性について理解する。

第12回 論理的表現 接続詞(2)

接続詞の文法的基礎知識を学び、使用のために必要な考え方を身につける。

第13回 論理的表現 接続詞(3)

練習問題を通じて、接続詞の効果について考える。

第14回 論理的表現 接続詞(4)

接続詞の役割を理解し、会話・文章など文体レベルに合った使用方法を考える。

第15回 まとめ

日本社会における「好ましい言語行動」とはどのようなものか? 多角的観点を紹介し、その妥当性について考察する。

2022年度 前期

2.0単位

日本語研究

福原 香織

< 授業の方法 >

【対面】講義形式

教室における対面授業です。(講義資料は授業当日に教室で配布します。事前のOneDriveへのアップロードはありません。)

< 授業の目的 >

・この授業は、? 本語コース講義科? の? つです。

・本学部DPにある「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ことを目指します。

・日本語を母語とする人では気が付かない「日本語らしさ」とは何か、何がそのファクターとなっているのかを考え、説明できるようになることを目的とします。

・なお、担当講師は貿易関連企業で5年以上、日本語教師として20年以上の実務経験があり、日本語を母語としない人に対する日本語の説明の仕方、日本語的な考え方などについても、実践的観点から考察できるよう解説します。

< 到達目標 >

日本語の特徴を、「視点」というキーワードを使って理解し、説明することができる。

日本語と他の言語との表現方法の違いに気づき、その背景にある文化的違いについて考察できる。

日本語を通じてみえてくる日本人の発想方法、日本文化の影響について考え、自分なりの意見を持つことができる。

< 授業のキーワード >

日本語文法、日本人の発想、視点

< 授業の進め方 >

・日本語文法の基本事項、および日本語の特徴といえる様々な事項について講義します

・皆さんの意見や質問などを受け付けながら進めます。

グループワークも適宜、行う予定です。

・皆さん自身が、自分なりに理解できた・できなかったことを授業内で発言し、「示す」ことがこの授業の評価の焦点となります。

< 履修するにあたって >

日ごろから、自分や周囲の人々が使っている日本語、テレビやインターネットなどで触れる日本語について、意識的に観察するようにしてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

専門的な用語が頻出しますので、必ず一時間程度の復習を行ってください。

< 提出課題など >

授業後、必要に応じて内容を確認する簡単なクイズを課します。

< 成績評価方法・基準 >

・授業参加態度(出席、授業に関する質問・意見等の提出) 30%

・提出課題 10%

・学期末確認テスト(講義内容を確認する簡単なテスト) 20%

・学期末小レポート 40%

< テキスト >

無し。プリントを配布します。

<参考図書>

『日本語文法の発想』森田良行、2002年、ひつじ書房

<授業計画>

第1回 日本語文法の発想 概要

・日本語とはどのような言語なのか?をテーマにその特徴や位置づけについて概観する。例)道に迷ったら英語では "Where are we now?" と言うが、日本語では「ここ、どこ?」と主語は省略される。このような主語の省略を通じて日本語の発想法を考える。

第2回 表現目的と表現形式

・日本語文法を理解するために欠かせない「視点」という概念について説明。

・対相手意識があるかないか、をテーマに感動詞と終助詞について解説する。

第3回 語性の変化

名詞は物事の把握の仕方を反映している。日本語はある語を性質でヒト・モノ・トコロ・トキ・コトなどに分けることがよくある。「お茶を飲む」(モノ)、「お茶を習う」(コト)などを例に考察する。

第4回 「～ていく」と「～てくる」

「寒気がしてきた」「慣れていく」など、日本語にはモノの移動が無いのに「いく・くる」がよく使われる。その背景にある発想法について考える。

第5回 「する」と「なる」

同じ現象でも、日本語は自動詞・他動詞を使い分けて表現する。その背景にある発想法について考える。

第6回 格助詞

基本的な文法事項として、日本語の助詞について説明する。なかでも重要な働きをする格助詞について解説する。

第7回 「は」と「が」

「父は厳しいから友達がいない」「父が厳しいから友達がいない」の違いは何か?まず、「は」と「が」の文法上の違いを理解する。

第8回 「は」と「が」

第7回で学んだことを踏まえて、「は」と「が」にみられる日本語の発想について考察する。

第9回 態(ヴォイス)

受身文「雨に降られた」、使役文「仕事を終わらせる」を使うのはなぜか。受身・使役の文法的原則を概観し、その背景にある発想と効果について考える。

第10回 現状認識表現

「窓は開いている」「窓は開けてある」の使い分けはどのような発想に基づいているのか。文法的原則を概観した後、その意味と効果について考える。

第11回 日本語の音声

まず音声に関する基本事項について解説する。そのうえで日本語の音声・アクセントや拍の働きを説明し、日本語の音声の特徴を捉える。

第12回 敬語

・日本語の敬語体系について説明する。

・「尊敬語」の分類と使い方、働きについて解説する。

第13回 敬語

「謙譲語」の分類と使い方、役割について解説する。

第14回 敬語

第12回、第13回の内容を総括する。

第15回 総括

これまでの講義内容を総括し、「日本語らしさ」について考える。

2022年度 前期

2.0単位

日本語専攻演習 a

栗原 由加

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

この授業は、日本語コース科目の演習に属し、ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ようになるための授業です。学生が、与えられたデータを使用して、レポートを作成できるようにすることを目的とします。

<到達目標>

1. 手に入れた情報を適切に整理し、レポートの形にまとめることができる。

2. 適切な日本語表現を使って、レポートを作成することができる。

<授業のキーワード>

データ、レポート、日本語表現

<授業の進め方>

受講生の主体的な活動を重視する演習形式です。ディスカッションや実践練習をしながら授業を進めます。

<授業時間外に必要な学修>

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

<提出課題など>

まとめとして、タイプしたレポートの提出を求めます。

<成績評価方法・基準>

課題の取り組み50%、レポート50%

<テキスト>

プリントを配布します。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

レポートとは何かを学びます。

第2回 レポートで使う日本語表現

レポートでよく使われる日本語表現、間違いやすい日本

語表現について学びます。

第3回 レポートの全体像

レポートの構成と、各部分の役割について学びます。

第4回 問題意識とは

問題意識とは何か、また、問題意識をどのように文章で表現するかを学びます。

第5回 データの使い方

レポートの中でのデータの役割について学びます。

第6回 調査方法の説明

調査を行った場合、その手順を文章で書く方法を学びます。

第7回 データのまとめ方

調査結果をデータとしてまとめる方法を学びます。

第8回 考察

考察とは何かを学びます。

第9回 考察

各学生が、自分のレポートの考察部分について考えます。

第10回 考察

各学生が考えた考察の内容を文章で表現する方法を学びます。

第11回 結論とは

結論とは何か、問題意識との関係をどのように考えればよいかを学びます。

第12回 参考文献

参考文献の使い方を学びます。

第13回 参考文献

参考文献の書き方を学びます。

第14回 レポートの書式

レポートをタイプ打ちする場合の書式について学びます。

第15回 まとめ

各学生が書いたレポートの内容をもとに、これまでに学んだことを振り返ります。

2022年度 前期

2.0単位

日本語専攻演習 b

香月 裕介

< 授業の方法 >

演習（対面授業）

< 授業の目的 >

この授業は、日本語コース科目の演習に位置づけられます。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」ようになることを目的とする授業です。

授業では、「多読」つまり多くの本を読む、読んだ内容について話す、多読用の読み物を作るといった作業を通して、日本語の文章に触れる習慣を身につけ、日本語能力の向上を目指します。

< 到達目標 >

1. 自律的に日本語の本を読み進めることができる
2. 読んだ本の内容について整理し、読んでいない相手に説明することができる

3. 語彙や表現をコントロールして日本語の読み物を作ることができる

< 授業のキーワード >

多読

< 授業の進め方 >

受講生が主体的に読書を行う授業形式です。「ひとりで静かに本を読むことができる」ことが受講の条件です。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業外でも、多くの本を読んでください。少なくとも、毎時間の授業について、授業前後ともに1時間程度の読書時間を確保してください。

< 提出課題など >

毎回読書の記録の提出を求めます。また、授業内で、読み物の作成を課します。

読書の記録・課題のフィードバックは、授業内で行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の取り組み30%、多読の記録20%、読み聞かせ10%、読んだ本の紹介20%、読み物の作成20%

< テキスト >

プリントを配布します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業内容についてガイダンスを行います。

「多読」とは何をすることか、なぜするのかについて考えます。

多読を体験してみます。

第2回 多読の練習

読書経験の振り返り

多読を行います。

今までに読んだ本について振り返ります。

第3回 多読の練習

読書経験の話し合い

多読を行います。

今までに読んだ本について話し合います。

第4回 多読の実践

読み聞かせる本の決定

多読を行います。

読み聞かせる本を決めます。

第5回 多読の実践

読み聞かせの練習

多読を行います。

読み聞かせの練習をします。

第6回 多読の実践

読み聞かせ会 1回目

多読を行います。

読み聞かせ会の1回目を行います。

第7回 多読の実践

読み聞かせ会 2 回目

多読を行います。

読み聞かせ会の 2 回目を行います。

第8回 多読の実践

読み聞かせ会 3 回目

多読を行います。

読み聞かせ会の 3 回目を行います。

第9回 多読の実践

読み物のあらすじ作成

多読を行います。

読み物のあらすじを作成します。

第10回 多読の実践

読み物のあらすじ修正

多読を行います。

読み物のあらすじを修正します。

第11回 多読の実践

読み物の原稿作成

多読を行います。

読み物の原稿を作成します。

第12回 多読の実践

読み物の原稿修正

多読を行います。

読み物の原稿を修正します。

第13回 読み物の挿絵作成

ビブリオバトルの準備

読み物の挿絵を作成します。

ビブリオバトルで紹介する本を選び、話す内容を考えます。

第14回 読み物の完成

ビブリオバトルの練習

読み物をタイピングして完成させます。

本を紹介する練習をします。

第15回 ビブリオバトル

まとめ

ビブリオバトルを行います。

多読の記録を整理し、授業のまとめを行います。

2022年度 後期

2.0単位

日本語専攻演習 a

香月 裕介

< 授業の方法 >

演習（対面授業）

< 授業の目的 >

この授業は、日本語コース科目の演習に位置づけられます。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識

や教養を身につけることができる」ようになるための授業です。大学卒業後に企業に就職することを目指す学生が、必要な情報を自ら調べ、まとめ、発表できるようになることを目指します。具体的には、自分の関心のある業界について調べ、業界研究としてまとめたものを発表します。

< 到達目標 >

1．自分にとって必要な情報を自ら考え、探し、手に入れることができる

2．手に入れた情報を適切に整理し、レポートの形にまとめることができる

3．まとめた情報を簡潔に発表することができる

< 授業のキーワード >

業界研究、業種、職種

< 授業の進め方 >

受講生の主体的な活動を重視する演習形式です。活発に議論したり、資料を作成したり、発表したりします。

< 授業時間外に必要な学修 >

業界研究のために必要な資料の収集、レポートの作成を行います。

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

< 提出課題など >

毎回課題の提出を求めます。また、まとめとして業界研究のレポートを提出してもらいます。

提出課題・レポートのフィードバックは、授業内で行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の取り組み30%、課題20%、発表15%、レポート25%、小テスト10%

< テキスト >

プリントを配布します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

まず、演習形式の授業についてガイダンスを行います。次に、「業界研究」とは何をすることか、なぜするのかについて考えます。

第2回 業種

業種にはどのようなものがあるかを学び、それらの業種がどのように関わって経済活動が成立しているのかを理解します。

第3回 職種

職種にはどのようなものがあるかを学び、それぞれの職種がどのような仕事を担当しているかを理解します。

第4回 業界研究の概要

業界研究としてどのようなことを調べなければならないかを理解します。

第5回 業界研究を書く練習（1）

ひとつの業界を例に、全員で業界研究のレポートをまとめる練習をします。

第6回 業界研究を書く練習（2）

ひとつの業界を例に、全員で業界研究のレポートをまとめる練習をします。

第7回 業界研究を読む練習

まとめた業界研究のレポートをどのように読めばいいかを学びます。

第8回 業界研究（1）資料収集

自分が関心のある業界について、図書館で資料を収集します。

第9回 業界研究（2）会社の種類

自分が関心のある業界にはどのような会社があるかについてまとめ、発表します。

第10回 業界研究（3）業界の動向

自分が関心のある業界の現在の状況についてまとめ、発表します。

第11回 業界研究（4）仕事の種類

自分が関心のある業界の業種についてまとめ、発表します。

第12回 業界研究（5）労働環境・待遇

自分が関心のある業界の労働環境や待遇、福利厚生についてまとめ、発表します。

第13回 業界研究（6）採用

自分が関心のある業界の採用状況、求められる人物像についてまとめ、発表します。

第14回 業界研究（7）最新情報

自分が関心のある業界について、新聞から最新の情報を得てまとめ、発表します。

第15回 まとめ

これまでに学んだことを振り返り、「自分が関心のある業界」について、自分自身の考えをまとめます。

2022年度 後期

2.0単位

日本語専攻演習 b

吉兼 奈津子

< 授業の方法 >

演習（対面授業）

< 授業の目的 >

この科目は、ディプロマポリシーの「実践的で高度な外国語の運用ができる」ようになることを目的としています。今後日本語を教える機会があったときに役立つように、日本語を教える過程を学びます。具体的には、少人数を対象に、日本語学習教材を使って、直接法という方法で初級日本語（前半）をわかりやすく教えるという体験を通して学びます。

< 到達目標 >

1. 初級日本語（前半）の教え方の基礎知識を身につける。
2. 他者と協働して、初級日本語（前半）のわかりやす

い教え方について考え、計画・準備を進めることができる。

3. 少人数を対象に教えるという体験を通して、初級日本語（前半）をわかりやすく教える際の注意点が理解できる。

< 授業のキーワード >

初級日本語（前半）のわかりやすい教え方、計画・準備、体験

< 授業の進め方 >

受講生の主体的な活動を重視する演習形式です。受講生同士、協働で教える計画を立てたり、受講生が教師や学習者になったりして、初級日本語（前半）のわかりやすい教え方について、ともに考えながら授業を進めます。

< 履修するにあたって >

初級日本語（前半）を教える回数は、受講生の人数に応じて適宜変更します。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

< 提出課題など >

毎回課題の提出を求めます。

提出課題のフィードバックは、授業内で行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の取り組み30%、課題40%、教える体験30%。

3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

< テキスト >

寺田和子・三上京子・山形美保子・和栗雅子（2001）『「どうやって教える？」にお答えします 日本語の教え方ABC』アルク ￥2,090

< 参考図書 >

スリーエーネットワーク（編）（2012）『みんなの日本語 初級 第2版 本冊』 ￥2,750

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス、「日本語を教えること」について本授業のガイダンスを行います。その後、「日本語を教える」とは何をすることかについて学びます。

第2回 直接法

直接法で、どのように初級日本語（前半）を教えるかを学びます。

第3回 言葉を教える計画

言葉を教える計画を立てます。どのように教えるか、他者と協働で進めます。

第4回 言葉を教える準備

言葉を教える準備をします。何を使って教えるか、他者と協働で進めます。

第5回 言葉を教える体験（1）

言葉を教える体験をします。その後、振り返ります。

第6回 言葉を教える体験（2）

言葉を教える体験をします。その後、振り返ります。

第7回 直接法による初級日本語の教え方

総合日本語学習教材を使って、直接法でどのようにわかりやすく初級日本語（前半）を教えるかを学びます。

第8回 直接法による初級日本語の教え方

総合日本語学習教材を使って、直接法でどのようにわかりやすく初級日本語（前半）を教えるかを学びます。

第9回 模擬授業の計画・報告（1）

他者と協働で、初級日本語（前半）の模擬授業（少人数を対象に数十分実際に教えること）の計画を立てます。

第10回 模擬授業の計画・報告（2）

他者と協働で、初級日本語（前半）の模擬授業（少人数を対象に数十分実際に教えること）の計画を立てます。

第11回 模擬授業の準備（1）

他者と協働で、模擬授業の準備をします。

第12回 模擬授業の準備（2）

他者と協働で、模擬授業の準備をします。

第13回 模擬授業の準備（3）

他者と協働で、模擬授業の準備をします。

第14回 模擬授業（1）

模擬授業を行います。その後、全員で振り返ります。

第15回 模擬授業（2）

授業全体の振り返り・まとめ

模擬授業を行います。その後、全員で振り返ります。

授業全体を振り返ります。学習内容・体験を振り返り、日本語を教える際に注意すべきことを考えます。その後、まとめとしてレポートを書きます。

2022年度 前期

2.0単位

日本語専攻演習

栗原 由加

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この授業は、学部共通科目の現地研修関連科目に属し、ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ようになるための授業です。この授業では、文書作成方法を中心に、職場で必要とされる技能を伸ばすことを目的とします。

なお、この授業の担当者は、一般財団法人での業務管理の実務経験がある教員です。実践的な観点から、職場で必要とされる技能のトレーニングを行います。

< 到達目標 >

・インターンシップ応募時や職場で必要とされる基本的な文書作成技術を身に付ける。

・日本企業や社会についての知識を深める。

< 授業のキーワード >

インターンシップ、職場、文書作成

< 授業の進め方 >

受講生の主体的な活動を重視する演習形式です。チームワークをメインに、ディスカッションや実践練習をしながら授業を進めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で練習したことを、授業外でも積極的に活用してください。

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

< 成績評価方法・基準 >

課題の取り組み50%、提出課題50%

< テキスト >

プリントを配布します。

< 授業計画 >

第1回 ビジネス文書の書き方

履歴書の書き方を復習します。

第2回 ビジネス文書の書き方

インターンシップ先に提出する履歴書の志望動機の書き方を学びます。

第3回 ビジネス文書の書き方

インターンシップ先に提出する履歴書を仕上げます。

第4回 ビジネス文書の書き方

インターンシップ先に提出する手書きの履歴書を完成させます。

第5回 ビジネス文書の書き方

メールの書き方を復習します。

第6回 ビジネス文書の書き方

あいさつのメールの書き方を学びます。

第7回 ビジネス文書の書き方

あいさつのメールの下書きを作成します。

第8回 ビジネス文書の書き方

あいさつのメール文面を完成させます。また、メール送信のマナーを学びます。

第9回 仕事の進め方

面談のマナーについて学びます。

第10回 仕事の進め方

面談で使用する書類の準備方法を学びます。

第11回 仕事の進め方

インターンシップ先との面談で使用する書類を準備します。

第12回 仕事の進め方

仕事を進めるための書類のファイリング方法を学びます。

第13回 仕事の進め方

インターンシップで使用する書類をファイリングします。

第14回 仕事の進め方

口頭で指示を聞き、作業を行う練習をします。

第15回 仕事の進め方

口頭で指示を聞き、複雑な作業を行います。

2022年度 前期

2.0単位

日本語専攻演習 b

香月 裕介

< 授業の方法 >

演習（対面授業）

< 授業の目的 >

この授業は、日本語コース科目の演習に位置づけられます。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになるための授業です。日本語専攻演習 に続き、大学卒業後に企業に就職することを目指す学生が、日本の企業やインターンシップについて調べた知識や自分の経験を整理し、日本語で記録したり発表したりする技術を身につけることを目的とします。

< 到達目標 >

1. 企業研究、インターンシップを通して得た知識・経験を整理して文書に記録することができる
2. 整理し記録した情報を、正確に日本語で発表することができる
3. 発表で聞いた内容を理解し、日本語で正確にメモに取ることができる。

< 授業のキーワード >

企業研究、インターンシップ、情報・経験の記録と整理

< 授業の進め方 >

受講生の主体的な活動を重視する演習形式です。資料を作成したり、発表したり、活発に議論したりします。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

< 提出課題など >

毎回、情報を整理した資料の提出を求めます。

提出した資料のフィードバックは、授業中に行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業への取り組み30%、企業研究35%、インターンシップに関する課題35%

< テキスト >

プリントを配布します

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

演習形式の授業についてガイダンスを行います。次に企業研究とは何をすることか、なぜするのかについて考えます。

第2回 情報を記録する

企業について調べた情報をどのように記録すればよいか

を学びます。

第3回 情報を記録する

インターンシップ先の企業について調べ、情報を記録します。

第4回 情報を記録する

インターンシップ先の企業について調べ、情報を記録します。

第5回 情報を記録する

それぞれの学生がまとめた記録を共有し、改善点について考えます。

第6回 記録を整理する

インターンシップ先の企業についての記録を、業界別に整理します。

第7回 記録を整理する

インターンシップ先以外の企業の情報を調べ、各業界の情報を増やします。

第8回 記録を整理する

増やした情報をまとめ、業界別の記録として文書にまとめます。

第9回 記録を整理する

記録した内容を共有します。共有した内容をメモします。

第10回 インターンシップ経験を共有する

1社目のインターンシップについて、1週目の経験を報告し、共有します。

第11回 インターンシップ経験を共有する

1社目のインターンシップについて、2週目の経験を報告し、共有します。

第12回 インターンシップ経験を共有する

2社目のインターンシップについて、1週目の経験を報告し、共有します。

第13回 インターンシップ経験を共有する

2社目のインターンシップについて、2週目の経験を報告し、共有します。

第14回 インターンシップの記録を整理する

インターンシップで経験したことを整理して、文書に記録します。

第15回 まとめ

企業研究、インターンシップを通して各々の学生が整理した記録を見直し、授業での学修について振り返ります。

2022年度 後期

2.0単位

日本語専攻演習

栗原 由加

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この授業は、日本語コース科目の演習に属し、ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の

運用ができる」「他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」ようになるための授業です。学生自身の活動内容にもとづいて、資料を作り、ビジネススタイルで発表できるようになることを目的とします。

なお、この授業の担当者は、一般財団法人での業務管理の実務経験がある教員です。資料作成や発表を通じて、日本企業で働くための仕事の進め方について教育を行います。

<到達目標>

1. 学生自身がインターンシップで作成した成果物を実際に耐えるレベルに仕上げることができる。
2. 学生が、自分の成果物や体験について、ビジネスレベルの発表を行うことができる。

<授業のキーワード>

ビジネスレベル、資料作成、発表

<授業の進め方>

受講生の主体的な活動を重視する演習形式です。チームで相談したり、資料をまとめたり、発表したりします。

<授業時間外に必要な学修>

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

<提出課題など>

毎回の授業で、課題の提出を求めます。

<成績評価方法・基準>

授業中の取り組み50%、レポート50%

<テキスト>

プリントを配布します。

<授業計画>

第1回 修正作業の進め方とポイント

他の学生が作成した資料のチェックを通して、修正作業の方法とポイントを学びます。

第2回 修正作業の進め方とポイント

他の学生が作成した資料のチェックを通して、修正作業の方法とポイントを学びます。

第3回 修正作業の進め方とポイント

他の学生が作成した資料のチェックを通して、修正作業の方法とポイントを学びます。

第4回 資料を修正する

他の学生の指摘をもとに、チームで協力して、作成した資料の修正を行います。

第5回 資料を修正する

他の学生の指摘をもとに、チームで協力して、作成した資料の修正を行います。

第6回 資料を修正する

他の学生の指摘をもとに、チームで協力して、作成した資料の修正を行います。

第7回 資料を修正する

他の学生の指摘をもとに、チームで協力して、作成した資料の修正を行います。

第8回 ビジネスプレゼンテーション

作成した資料を使って、ビジネススタイルでプレゼンテーションを行います。

第9回 ビジネスプレゼンテーション

作成した資料を使って、ビジネススタイルでプレゼンテーションを行います。

第10回 ビジネスプレゼンテーション

作成した資料を使って、ビジネススタイルでプレゼンテーションを行います。

第11回 プレゼンテーションフィードバック

フィードバックをもとに、プレゼンテーションをブラッシュアップする方法を学びます。

第12回 プレゼンテーションフィードバック

フィードバックをもとに、プレゼンテーションをブラッシュアップする方法を学びます。

第13回 プレゼンテーションフィードバック

フィードバックをもとに、プレゼンテーションをブラッシュアップする方法を学びます。

第14回 ふりかえり

これまでの成果物と発表について、個別のフィードバックと指導を行います。

第15回 ふりかえり

これまでの成果物と発表について、個別のフィードバックと指導を行います。

2022年度 後期

2.0単位

日本語専攻演習 b

吉兼 奈津子

<授業の方法>

演習（対面授業）

<授業の目的>

この科目は、ディプロマポリシーの「実践的で高度な外国語の運用ができる」ようになることを目的としています。今後日本語を教える機会があったときに役立つように、日本語を教える過程を学びます。具体的には、少人数を対象に、日本語学習教材を使って、直接法という方法で初級日本語（後半）、中級日本語文型をわかりやすく教えるという体験を通して学びます。

<到達目標>

1. 初級日本語（後半）、中級日本語文型の教え方の基礎知識を身につける。
2. 他者と協働して、初級日本語（後半）、中級日本語文型のわかりやすい教え方について考え、計画・準備を進めることができる。
3. 少人数を対象に教えるという体験を通して、初級日本語（後半）、中級日本語文型をわかりやすく教える際

の注意点が理解できる。

< 授業のキーワード >

初級日本語（後半）・中級日本語文型のわかりやすい教え方、計画・準備、体験

< 授業の進め方 >

受講生の主体的な活動を重視する演習形式です。受講生同士、協働で教える計画を立てたり、受講生が教師や学習者になったりして、初級日本語（後半）、中級日本語文型のわかりやすい教え方について、ともに考えながら授業を進めます。

< 履修するにあたって >

初級日本語（後半）・中級日本語文型を教える回数は、受講生の人数に応じて適宜変更します。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

< 提出課題など >

毎回課題の提出を求めます。

提出課題のフィードバックは、授業内で行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の取り組み30%、課題40%、教える体験30%

3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

< テキスト >

アスク出版編集部（2008）『 “ 生きた ” 例文で学ぶ！日本語表現文型辞典』¥2,640

< 参考図書 >

スリーエーネットワーク（編）（2012）『みんなの日本語 初級 第2版 本冊』¥2,750

寺田和子・三上京子・山形美保子・和栗雅子（2001）『 “ どうやって教える？” にお答えします 日本語の教え方ABC』アルク¥2,090

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス、「日本語を教えること」について本授業のガイダンスを行います。その後、初級日本語（後半）、中級日本語文型で、どのようなことを、どのような方法で教えるかを学びます。

第2回 直接法による教え方

直接法で、どのように初級日本語（後半）、中級日本語文型を教えるかを学びます。

第3回 教える計画

初級日本語（後半）・中級日本語文型を教える計画を立てます。どのように教えるか、他者と協働で進めます。

第4回 模擬授業準備報告（1）

初級日本語（後半）・中級日本語文型を教える準備・報告をします。どのように教えるか、他者と協働で進めます。

第5回 模擬授業準備報告（2）

初級日本語（後半）・中級日本語文型を教える準備・報告をします。どのように教えるか、他者と協働で進めま

す。

第6回 模擬授業準備報告（3）

初級日本語（後半）・中級日本語文型を教える準備・報告をします。どのように教えるか、他者と協働で進めます。

第7回 模擬授業準備（1）

中級日本語文型を教えます。

初級日本語（後半）の模擬授業に向けて教案を作成し、準備をします。

第8回 模擬授業準備（2）

中級日本語文型を教えます。

初級日本語（後半）の模擬授業に向けて教案を作成し、準備をします。

第9回 模擬授業準備（3）

中級日本語文型を教えます。

初級日本語（後半）の模擬授業に向けて教案を作成し、準備をします。

第10回 模擬授業（1）

中級日本語文型を教えます。

初級日本語（後半）の模擬授業を行います。その後、全員で振り返ります。

第11回 模擬授業（2）

中級日本語文型を教えます。

初級日本語（後半）の模擬授業を行います。その後、全員で振り返ります。

第12回 模擬授業（3）

中級日本語文型を教えます。

初級日本語（後半）の模擬授業を行います。その後、全員で振り返ります。

第13回 模擬授業（4）

中級日本語文型を教えます。

初級日本語（後半）の模擬授業を行います。その後、全員で振り返ります。

第14回 模擬授業（5）

中級日本語文型を教えます。

初級日本語（後半）の模擬授業を行います。その後、全員で振り返ります。

第15回 授業全体の振り返り・まとめ

授業全体を振り返ります。学習内容・体験を振り返り、日本語を教える際に注意すべきことを考えます。その後、まとめとしてレポートを書きます。

2022年度 前期

2.0単位

日本語読解 （ア）

香月 裕介、吉兼 奈津子

< 授業の方法 >

演習（対面授業）

< 授業の目的 >

この授業は、「基本日本語」科目の中の1つで、大学の授業や日常生活に必要な読解の能力を身につけることを目的としています。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになるための授業です。

この授業では、特に、身近なテーマに関する文章や簡単なエッセイ・小説を読み、「内容を適切に理解すること」「必要十分な情報を得ること」「心情や意図を理解すること」を目指します。

<到達目標>

1. 自分に身近なことや関心のあることについての文章を適切に読み解くことができる
2. 観光地やお店、求人情報などから、必要な情報を正確に読み取ることができる
3. エッセイ、小説などを読み、書き手や登場人物の心情、意図を理解することができる

<授業のキーワード>

身近な文章、エッセイ、小説

<授業の進め方>

ペアワークやグループワークを中心とした「読む」作業を行います。「読む」作業だけでなく、必要に応じて、話し合ったり、書いたり、発表したりもします。

<履修するにあたって>

授業中は、日本語のみ使用してください。

<授業時間外に必要な学修>

授業で練習したことを、普段の生活でも積極的に活用してください。

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

<提出課題など>

各テーマごとに2つの課題（テーマに関するタスク、語彙リスト）の提出を求めます。

また、語彙リストを学んだ語彙の小テストを実施します。課題・小テストのフィードバックは、授業内で行います。

<成績評価方法・基準>

授業中の取り組み30%、課題（タスク）30%、課題（語彙リスト）20%、小テスト20%

3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

<授業計画>

第1回 授業シラバス（1）

授業シラバスなどの、ある程度長い文章に目を通して、授業内容や評価方法など、授業を選ぶために必要な情報を探し出す

第2回 授業シラバス（2）

授業シラバスなどの、ある程度長い文章に目を通して、授業内容や評価方法など、授業を選ぶために必要な情報を探し出す

第3回 授業シラバス（3）

授業シラバスなどの、ある程度長い文章に目を通して、授業内容や評価方法など、授業を選ぶために必要な情報を探し出す

第4回 観光地・旅行（1）

観光地の名所や名物を紹介するウェブサイトやガイドブックを読んで、主要な情報を読み取り、旅行の行程を考える

第5回 観光地・旅行（2）

観光地の名所や名物を紹介するウェブサイトやガイドブックを読んで、主要な情報を読み取り、旅行の行程を考える

第6回 観光地・旅行（3）

観光地の名所や名物を紹介するウェブサイトやガイドブックを読んで、主要な情報を読み取り、旅行の行程を考える

第7回 観光地・旅行（4）

観光地の名所や名物を紹介するウェブサイトやガイドブックを読んで、主要な情報を読み取り、旅行の行程を考える

第8回 お店（1）

お店のレビューサイトなどに目を通して、お店の長所・短所を理解し、行きたい店を選ぶ

第9回 お店（2）

お店のレビューサイトなどに目を通して、お店の長所・短所を理解し、行きたい店を選ぶ

第10回 お店（3）

お店のレビューサイトなどに目を通して、お店の長所・短所を理解し、行きたい店を選ぶ

第11回 求人情報（1）

求人情報に書かれている内容を理解し、複数の求人情報を比較して、どれが自分に合っているかを定める

第12回 求人情報（2）

求人情報に書かれている内容を理解し、複数の求人情報を比較して、どれが自分に合っているかを定める

第13回 求人情報（3）

求人情報に書かれている内容を理解し、複数の求人情報を比較して、どれが自分に合っているかを定める

第14回 前半の振り返り

前半の授業内容を振り返り、復習する

第15回 映画・ドラマ（1）

映画・ドラマのあらすじを読んで、内容を理解する

第16回 映画・ドラマ（2）

映画・ドラマのあらすじを読んで、内容を理解する

第17回 映画・ドラマ（3）

映画・ドラマのあらすじを読んで、内容を理解する

第18回 エッセイ（1）

エッセイを読んで、出来事の展開や書き手の心情、意図を理解する

第19回 エッセイ（2）

エッセイを読んで、出来事の展開や書き手の心情、意図を理解する

第20回 エッセイ(3)

エッセイを読んで、出来事の展開や書き手の心情、意図を理解する

第21回 エッセイ(4)

エッセイを読んで、出来事の展開や書き手の心情、意図を理解する

第22回 小説(1)

小説を読んで、ストーリーの展開や登場人物の心情、意図を理解する

第23回 小説(2)

小説を読んで、ストーリーの展開や登場人物の心情、意図を理解する

第24回 小説(3)

小説を読んで、ストーリーの展開や登場人物の心情、意図を理解する

第25回 小説(4)

小説を読んで、ストーリーの展開や登場人物の心情、意図を理解する

第26回 新聞の読み方

新聞記事の構成や読み方を理解する

第27回 新聞記事(1)

最近の時事問題に関する新聞記事などを読んで、主要な情報を理解する

第28回 新聞記事(2)

最近の時事問題に関する新聞記事などを読んで、主要な情報を理解する

第29回 新聞記事(3)

最近の時事問題に関する新聞記事などを読んで、主要な情報を理解する

第30回 後半の振り返り

後半の授業内容を振り返り、復習する

2022年度 前期

2.0単位

日本語読解 (イ)

香月 裕介、吉兼 奈津子

< 授業の方法 >

演習(対面授業)

< 授業の目的 >

この授業は、「基本日本語」科目の中の1つで、大学の授業や日常生活に必要な読解の能力を身につけることを目的としています。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになるための授業です。

この授業では、特に、身近なテーマに関する文章や簡単

なエッセイ・小説を読み、「内容を適切に理解すること」「必要十分な情報を得ること」「心情や意図を理解すること」を目指します。

< 到達目標 >

1. 自分に身近なことや関心のあることについての文章を適切に読み解くことができる

2. 観光地やお店、求人情報などから、必要な情報を正確に読み取ることができる

3. エッセイ、小説などを読み、書き手や登場人物の心情、意図を理解することができる

< 授業のキーワード >

身近な文章、エッセイ、小説

< 授業の進め方 >

ペアワークやグループワークを中心とした「読む」作業を行います。「読む」作業だけでなく、必要に応じて、話し合ったり、書いたり、発表したりもします。

< 履修するにあたって >

授業中は、日本語のみ使用してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で練習したことを、普段の生活でも積極的に活用してください。

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

< 提出課題など >

各テーマごとに2つの課題(テーマに関するタスク、語彙リスト)の提出を求めます。

また、語彙リストを学んだ語彙の小テストを実施します。課題・小テストのフィードバックは、授業内で行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の取り組み30%、課題(タスク)30%、課題(語彙リスト)20%、小テスト20%

3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

< 授業計画 >

第1回 授業シラバス(1)

授業シラバスなどの、ある程度長い文章に目を通して、授業内容や評価方法など、授業を選ぶために必要な情報を探し出す

第2回 授業シラバス(2)

授業シラバスなどの、ある程度長い文章に目を通して、授業内容や評価方法など、授業を選ぶために必要な情報を探し出す

第3回 授業シラバス(3)

授業シラバスなどの、ある程度長い文章に目を通して、授業内容や評価方法など、授業を選ぶために必要な情報を探し出す

第4回 観光地・旅行(1)

観光地の名所や名物を紹介するウェブサイトやガイドブックを読んで、主要な情報を読み取り、旅行の行程を考える

第5回 観光地・旅行(2)
観光地の名所や名物を紹介するウェブサイトやガイドブックを読んで、主要な情報を読み取り、旅行の行程を考える

第6回 観光地・旅行(3)
観光地の名所や名物を紹介するウェブサイトやガイドブックを読んで、主要な情報を読み取り、旅行の行程を考える

第7回 観光地・旅行(4)
観光地の名所や名物を紹介するウェブサイトやガイドブックを読んで、主要な情報を読み取り、旅行の行程を考える

第8回 お店(1)
お店のレビューサイトなどに目を通して、お店の長所・短所を理解し、行きたい店を選ぶ

第9回 お店(2)
お店のレビューサイトなどに目を通して、お店の長所・短所を理解し、行きたい店を選ぶ

第10回 お店(3)
お店のレビューサイトなどに目を通して、お店の長所・短所を理解し、行きたい店を選ぶ

第11回 求人情報(1)
求人情報に書かれている内容を理解し、複数の求人情報を比較して、どれが自分に合っているかを定める

第12回 求人情報(2)
求人情報に書かれている内容を理解し、複数の求人情報を比較して、どれが自分に合っているかを定める

第13回 求人情報(3)
求人情報に書かれている内容を理解し、複数の求人情報を比較して、どれが自分に合っているかを定める

第14回 前半の振り返り
前半の授業内容を振り返り、復習する

第15回 映画・ドラマ(1)
映画・ドラマのあらすじを読んで、内容を理解する

第16回 映画・ドラマ(2)
映画・ドラマのあらすじを読んで、内容を理解する

第17回 映画・ドラマ(3)
映画・ドラマのあらすじを読んで、内容を理解する

第18回 エッセイ(1)
エッセイを読んで、出来事の展開や書き手の心情、意図を理解する

第19回 エッセイ(2)
エッセイを読んで、出来事の展開や書き手の心情、意図を理解する

第20回 エッセイ(3)
エッセイを読んで、出来事の展開や書き手の心情、意図を理解する

第21回 エッセイ(4)
エッセイを読んで、出来事の展開や書き手の心情、意図を理解する

第22回 小説(1)
小説を読んで、ストーリーの展開や登場人物の心情、意図を理解する

第23回 小説(2)
小説を読んで、ストーリーの展開や登場人物の心情、意図を理解する

第24回 小説(3)
小説を読んで、ストーリーの展開や登場人物の心情、意図を理解する

第25回 小説(4)
小説を読んで、ストーリーの展開や登場人物の心情、意図を理解する

第26回 新聞の読み方
新聞記事の構成や読み方を理解する

第27回 新聞記事(1)
最近の時事問題に関する新聞記事などを読んで、主要な情報を理解する

第28回 新聞記事(2)
最近の時事問題に関する新聞記事などを読んで、主要な情報を理解する

第29回 新聞記事(3)
最近の時事問題に関する新聞記事などを読んで、主要な情報を理解する

第30回 後半の振り返り
後半の授業内容を振り返り、復習する

2022年度 後期

2.0単位

日本語読解 (ア)

古賀 静香、担当者未定(GC)

<授業の方法>

演習(対面授業)

<授業の目的>

この授業は、「基本日本語」科目の中の1つで、大学の授業や日常生活に必要な読解の能力を身につけることを目的としています。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになるための授業です。

この授業では、特に、「いくつかの文章やデータを読み解いて、そこから結論をまとめることができるようになる」ことを目指します。

<到達目標>

1. あるテーマに関する複数の文章を読み、テーマについて統合的に理解することができる

2. 複数の文章から得た情報を取捨選択し、整理することができる

<授業のキーワード>

読解ストラテジー、複数の文章、ピアリーディング

< 授業の進め方 >

ペアワークやグループワークを中心とした「読む」作業を行います。「読む」作業だけでなく、必要に応じて、話し合ったり、書いたり、発表したりもします。

< 履修するにあたって >

授業中は、日本語のみ使用してください。

事前に配布した文章は、前もって読んできていることを前提に授業を行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で練習したことを、大学の授業や普段の生活でも積極的に活用してください。

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

< 提出課題など >

毎回、2つの課題（テーマに関するタスク、語彙リスト）の提出を求めます。

また、語彙リストを学んだ語彙の小テストを実施します。

提出課題・小テストのフィードバックは授業内で行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の取り組み30%、課題（タスク）30%、課題（語彙リスト）20%、小テスト20%

3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

< 授業計画 >

第1回 読解の基礎（1）

中心文を見つける

第2回 読解の基礎（2）

段落の構成を理解する

第3回 読解の基礎（3）

定義を説明する文章を理解する

第4回 読解の基礎（4）

原因と結果の関係を理解する

第5回 読解の基礎（5）

意見と根拠の関係を理解する

第6回 読解の基礎（6）

意見と事実を区別する

第7回 読解の基礎（7）

意見を表す様々な表現を理解する

第8回 読解の基礎（8）

譲歩と反論の関係を理解する

第9回 文法

名詞修飾

第10回 読解練習 - 2

あるテーマに関する資料を読み、テーマに対する理解を深める

第11回 読解練習 - 2

グループに分かれて、異なる文章を読む

第12回 読解練習 - 3

異なる文章を読んだ受講生とグループを組み、情報を共有・統合する

第13回 文法

わたしからの発信 1

第14回 読解練習 - 1

あるテーマに関する資料を読み、テーマに対する理解を深める

第15回 読解練習 - 2

グループに分かれて、異なる文章を読む

第16回 読解練習 - 3

異なる文章を読んだ受講生とグループを組み、情報を共有・統合する

第17回 文法

わたしからの発信 2

第18回 読解練習 - 1

あるテーマに関する資料を読み、テーマに対する理解を深める

第19回 読解練習 - 2

グループに分かれて、異なる文章を読む

第20回 読解練習 - 3

異なる文章を読んだ受講生とグループを組み、情報を共有・統合する

第21回 文法

決まった使い方の副詞

第22回 読解練習 - 1

あるテーマに関する資料を読み、テーマに対する理解を深める

第23回 読解練習 - 2

グループに分かれて、異なる文章を読む

第24回 読解練習 - 3

異なる文章を読んだ受講生とグループを組み、情報を共有・統合する

第25回 文法

語彙を広げる

第26回 読解練習 - 1

あるテーマに関する資料を読み、テーマに対する理解を深める

第27回 読解練習 - 2

グループに分かれて、異なる文章を読む

第28回 読解練習 - 3

異なる文章を読んだ受講生とグループを組み、情報を共有・統合する

第29回 文法

会話・文章のまとめ

第30回 全体の振り返り

授業内容を振り返り、復習する

2022年度 後期

2.0単位

日本語読解 (イ)

古賀 静香、担当者未定 (GC)

< 授業の方法 >

演習 (対面授業)

< 授業の目的 >

この授業は、「基本日本語」科目の中の1つで、大学の授業や日常生活に必要な読解の能力を身につけることを目的としています。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになるための授業です。

この授業では、特に、「いくつかの文章やデータを読み解いて、そこから結論をまとめることができるようになる」ことを目指します。

< 到達目標 >

1. あるテーマに関する複数の文章を読み、テーマについて統合的に理解することができる

2. 複数の文章から得た情報を取捨選択し、整理することができる

< 授業のキーワード >

読解ストラテジー、複数の文章、ピアリーディング

< 授業の進め方 >

ペアワークやグループワークを中心とした「読む」作業を行います。「読む」作業だけでなく、必要に応じて、話し合ったり、書いたり、発表したりもします。

< 履修するにあたって >

授業中は、日本語のみ使用してください。

事前に配布した文章は、前もって読んできていることを前提に授業を行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で練習したことを、大学の授業や普段の生活でも積極的に活用してください。

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

< 提出課題など >

毎回、2つの課題(テーマに関するタスク、語彙リスト)の提出を求めます。

また、語彙リストを学んだ語彙の小テストを実施します。提出課題・小テストのフィードバックは授業内で行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の取り組み30%、課題 (タスク) 30%、課題 (語彙リスト) 20%、小テスト20%

3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

< 授業計画 >

第1回 読解の基礎(1)

中心文を見つける

第2回 読解の基礎(2)

段落の構成を理解する

第3回 読解の基礎(3)

定義を説明する文章を理解する

第4回 読解の基礎(4)

原因と結果の関係を理解する

第5回 読解の基礎(5)

意見と根拠の関係を理解する

第6回 読解の基礎(6)

意見と事実を区別する

第7回 読解の基礎(7)

意見を表す様々な表現を理解する

第8回 読解の基礎(8)

譲歩と反論の関係を理解する

第9回 文法

名詞修飾

第10回 読解練習 - 2

あるテーマに関する資料を読み、テーマに対する理解を深める

第11回 読解練習 - 2

グループに分かれて、異なる文章を読む

第12回 読解練習 - 3

異なる文章を読んだ受講生とグループを組み、情報を共有・統合する

第13回 文法

わたしからの発信1

第14回 読解練習 - 1

あるテーマに関する資料を読み、テーマに対する理解を深める

第15回 読解練習 - 2

グループに分かれて、異なる文章を読む

第16回 読解練習 - 3

異なる文章を読んだ受講生とグループを組み、情報を共有・統合する

第17回 文法

わたしからの発信2

第18回 読解練習 - 1

あるテーマに関する資料を読み、テーマに対する理解を深める

第19回 読解練習 - 2

グループに分かれて、異なる文章を読む

第20回 読解練習 - 3

異なる文章を読んだ受講生とグループを組み、情報を共有・統合する

第21回 文法

決まった使い方の副詞

第22回 読解練習 - 1

あるテーマに関する資料を読み、テーマに対する理解を深める

第23回 読解練習 - 2

グループに分かれて、異なる文章を読む

第24回 読解練習 - 3

異なる文章を読んだ受講生とグループを組み、情報を共有・統合する

第25回 文法

語彙を広げる

第26回 読解練習 - 1

あるテーマに関する資料を読み、テーマに対する理解を深める

第27回 読解練習 - 2

グループに分かれて、異なる文章を読む

第28回 読解練習 - 3

異なる文章を読んだ受講生とグループを組み、情報を共有・統合する

第29回 文法

会話・文章のまとめ

第30回 全体の振り返り

授業内容を振り返り、復習する

2022年度 前期

2.0単位

日本語読解 (ア)

福原 香織

< 授業の方法 >

演習 (対面授業)

< 授業の目的 >

この授業は、「基本日本語」科目の中の1つで、大学の授業や日常生活に必要な読解の能力を身につけることを目的としています。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになるための授業です。

この授業では、特に、「文章を批判的に読むことができるようになる」ことを目指します。

< 到達目標 >

1. 文章を読み、論の展開がどのようになされているかを的確に理解することができる

2. 読んだ文章の意義と限界についての的確に理解し、説明することができる

< 授業のキーワード >

批判的に読む、論の展開、意義、限界

< 授業の進め方 >

ペアワークやグループワークを中心とした「読む」作業を行います。「読む」作業だけでなく、必要に応じて、話し合ったり、書いたり、発表したりもします。

< 履修するにあたって >

授業中は、日本語のみ使用してください。

事前に配布した文章は、前もって読んできていることを前提に授業を行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で練習したことを、大学の授業や普段の生活でも積極的に活用してください。

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

< 提出課題など >

毎回、ワークシートの提出を求めます。

また、語彙の小テストを実施します。

ワークシート・小テストのフィードバックは授業内で行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の取り組み30%、ワークシート50%、小テスト20%
3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

< 授業計画 >

第1回 「批判的に読む」とは

「批判的に読む」とはどういうことかを理解する

第2回 論理関係を理解する

文と文の論理関係を理解する

第3回 論の展開をまとめる

文章の論理展開をまとめる

第4回 意義と限界を考える

文章の意義と限界を考える

第5回 批判的に読む練習 (1)

文章の論理展開をまとめる

第6回 批判的に読む練習 (2)

文章の意義と限界を考える

第7回 文章読解 1 -

本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す

第8回 文章読解 1 -

本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す

第9回 文章読解 1 -

本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す

第10回 文章読解 1 -

本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す

第11回 文章読解 1 -

本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す

第12回 文章読解 1 - まとめ

読んだ内容全体をまとめ、論理展開を整理した上で意義と限界を示す

第13回 文章読解 2 -

本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第14回 文章読解 2 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第15回 文章読解 3 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第16回 文章読解 3 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第17回 文章読解 3 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第18回 文章読解 3 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第19回 文章読解 3 - まとめ
読んだ内容全体をまとめ、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第20回 文章読解 4 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第21回 文章読解 4 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第22回 文章読解 4 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第23回 文章読解 4 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第24回 文章読解 4 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第25回 文章読解 4 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第26回 文章読解 4 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第27回 文章読解 4 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第28回 文章読解 4 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第29回 文章読解 4 - まとめ
読んだ内容全体をまとめ、論理展開を整理した上で意義と限界を示す

第30回 全体の振り返り
授業内容を振り返り、復習する

2022年度 前期

2.0単位

日本語読解 (イ)

福原 香織

<授業の方法>

演習(対面授業)

<授業の目的>

この授業は、「基本日本語」科目の中の1つで、大学の授業や日常生活に必要な読解の能力を身につけることを目的としています。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになるための授業です。

この授業では、特に、「文章を批判的に読むことができるようになる」ことを目指します。

<到達目標>

1.文章を読み、論の展開がどのようになされているかを的確に理解することができる

2.読んだ文章の意義と限界についての的確に理解し、説明することができる

<授業のキーワード>

批判的に読む、論の展開、意義、限界

<授業の進め方>

ペアワークやグループワークを中心とした「読む」作業を行います。「読む」作業だけでなく、必要に応じて、話し合ったり、書いたり、発表したりもします。

<履修するにあたって>

授業中は、日本語のみ使用してください。

事前に配布した文章は、前もって読んできていることを前提に授業を行います。

<授業時間外に必要な学修>

授業で練習したことを、大学の授業や普段の生活でも積極的に活用してください。

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

<提出課題など>

毎回、ワークシートの提出を求めます。

また、語彙の小テストを実施します。

ワークシート・小テストのフィードバックは授業内で行います。

<成績評価方法・基準>

授業中の取り組み30%、ワークシート50%、小テスト20%
3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

<授業計画>

第1回 「批判的に読む」とは
「批判的に読む」とはどういうことかを理解する
第2回 論理関係を理解する
文と文の論理関係を理解する
第3回 論の展開をまとめる
文章の論理展開をまとめる
第4回 意義と限界を考える
文章の意義と限界を考える
第5回 批判的に読む練習（1）
文章の論理展開をまとめる
第6回 批判的に読む練習（2）
文章の意義と限界を考える
第7回 文章読解 1 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第8回 文章読解 1 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第9回 文章読解 1 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第10回 文章読解 1 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第11回 文章読解 1 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第12回 文章読解 1 - まとめ
読んだ内容全体をまとめ、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第13回 文章読解 2 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第14回 文章読解 2 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第15回 文章読解 3 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第16回 文章読解 3 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第17回 文章読解 3 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第18回 文章読解 3 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第19回 文章読解 3 - まとめ
読んだ内容全体をまとめ、論理展開を整理した上で意義

と限界を示す
第20回 文章読解 4 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第21回 文章読解 4 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第22回 文章読解 4 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第23回 文章読解 4 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第24回 文章読解 4 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第25回 文章読解 4 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第26回 文章読解 4 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第27回 文章読解 4 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第28回 文章読解 4 -
本の一節を読み、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第29回 文章読解 4 - まとめ
読んだ内容全体をまとめ、論理展開を整理した上で意義と限界を示す
第30回 全体の振り返り
授業内容を振り返り、復習する

2022年度 後期

2.0単位

日本語読解 （ア）

下岡 邦子、担当者未定（GC）

< 授業の方法 >

演習（対面授業）

< 授業の目的 >

この授業は、「基本日本語」科目の中の1つで、大学の授業や日常生活に必要な読解の能力を身につけることを目的としています。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになるための授業です。

この授業では、特に、「文章を主体的に読むことができ

るようになる」ことを目指します。

<到達目標>

1. 自分の知らないような専門的・抽象的な語彙・内容であっても、様々なストラテジーを用いて読み進めることができる

2. 自分の目的に合わせて、読む箇所や読み方を自律的に選択できる

<授業のキーワード>

主体的に読む、専門的・抽象的な語彙、専門的・抽象的な内容

<授業の進め方>

ペアワークやグループワークを中心とした「読む」作業を行います。「読む」作業だけでなく、必要に応じて、話し合ったり、書いたり、発表したりもします。

<履修するにあたって>

授業中は、日本語のみ使用してください。

事前に配布した文章は、前もって読んできていることを前提に授業を行います。

<授業時間外に必要な学修>

授業で練習したことを、大学の授業や普段の生活でも積極的に活用してください。

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

<提出課題など>

毎回、ワークシートの提出を求めます。

また、語彙の小テストを実施します。

ワークシート・小テストのフィードバックは、授業内で行います。

<成績評価方法・基準>

授業中の取り組み30%、ワークシート30%、読解内容についての発表20%、小テスト20%

3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

<授業計画>

第1回 主体的に読む練習(1)

自分の目的に合わせて読む箇所を選ぶ

第2回 時事問題読解1 -

時事問題の背景について書かれた文章を理解する

第3回 主体的に読む練習(2)

自分が読んだ内容をまとめる

第4回 時事問題読解1 -

時事問題の概要について書かれた文章を理解する

第5回 主体的に読む練習(3)

読んだ内容からレポートに引用できそうな箇所を探す

第6回 時事問題読解1 -

時事問題に関する新聞記事を理解する

第7回 時事問題読解1 -

今まで読んだ内容がディスカッション・レポートにどのように使えるかを整理する

第8回 時事問題読解1 -

時事問題に関する本を分担して読む

第9回 時事問題読解1 -

時事問題に関する本で自分が担当した内容をまとめる

第10回 時事問題読解1 -

時事問題に関する本で読んだ内容を共有する

第11回 時事問題読解1 -

時事問題に関する本の全体像を確認する

第12回 時事問題読解1 -

今まで読んだ内容がディスカッション・レポートにどのように使えるかを整理する

第13回 時事問題読解1 -

時事問題に関する本を分担して読む

第14回 時事問題読解1 -

時事問題に関する本で自分が担当した内容をまとめる

第15回 時事問題読解1 -

時事問題に関する本で読んだ内容を共有する

第16回 時事問題読解1 -

時事問題に関する本の全体像を確認する

第17回 時事問題読解1 -

今まで読んだ内容がディスカッション・レポートにどのように使えるかを整理する

第18回 時事問題読解2 -

時事問題の背景について書かれた文章を理解する

第19回 時事問題読解2 -

時事問題の概要について書かれた文章を理解する

第20回 時事問題読解2 -

時事問題に関する新聞記事を読む

第21回 時事問題読解2 -

今まで読んだ内容がディスカッションにどのように使えるかを整理する

第22回 時事問題読解2 -

時事問題に関する本を分担して読む

第23回 時事問題読解2 -

時事問題に関する本で自分が担当した内容をまとめる

第24回 時事問題読解2 -

時事問題に関する本で読んだ内容を共有する

第25回 時事問題読解2 -

時事問題に関する本の全体像を確認する

第26回 時事問題読解2 -

今まで読んだ内容がディスカッションにどのように使えるかを整理する

第27回 批評文を書く(1)

レポートを要約し、自分の意見と根拠をまとめる

第28回 批評文を書く(2)

批評文のアウトラインを作成する

第29回 批評文を書く(3)

批評文を完成させる

第30回 全体の振り返り

授業内容を振り返り、復習する

2022年度 後期

2.0単位

日本語読解 (イ)

下岡 邦子、担当者未定(GC)

< 授業の方法 >

演習(対面授業)

< 授業の目的 >

この授業は、「基本日本語」科目の中の1つで、大学の授業や日常生活に必要な読解の能力を身につけることを目的としています。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになるための授業です。

この授業では、特に、「文章を主体的に読むことができるようになる」ことを目指します。

< 到達目標 >

1. 自分の知らないような専門的・抽象的な語彙・内容であっても、様々なストラテジーを用いて読み進めることができる

2. 自分の目的に合わせて、読む箇所や読み方を自律的に選択できる

< 授業のキーワード >

主体的に読む、専門的・抽象的な語彙、専門的・抽象的な内容

< 授業の進め方 >

ペアワークやグループワークを中心とした「読む」作業を行います。「読む」作業だけでなく、必要に応じて、話し合ったり、書いたり、発表したりもします。

< 履修するにあたって >

授業中は、日本語のみ使用してください。

事前に配布した文章は、前もって読んできていることを前提に授業を行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で練習したことを、大学の授業や普段の生活でも積極的に活用してください。

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

< 提出課題など >

毎回、ワークシートの提出を求めます。

また、語彙の小テストを実施します。

ワークシート・小テストのフィードバックは、授業内で行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の取り組み30%、ワークシート30%、読解内容についての発表20%、小テスト20%

3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

< 授業計画 >

第1回 主体的に読む練習(1)

自分の目的に合わせて読む箇所を選ぶ

第2回 時事問題読解1 -

時事問題の背景について書かれた文章を理解する

第3回 主体的に読む練習(2)

自分が読んだ内容をまとめる

第4回 時事問題読解1 -

時事問題の概要について書かれた文章を理解する

第5回 主体的に読む練習(3)

読んだ内容からレポートに引用できそうな箇所を探す

第6回 時事問題読解1 -

時事問題に関する新聞記事を理解する

第7回 時事問題読解1 -

今まで読んだ内容がディスカッション・レポートにどのように使えるかを整理する

第8回 時事問題読解1 -

時事問題に関する本を分担して読む

第9回 時事問題読解1 -

時事問題に関する本で自分が担当した内容をまとめる

第10回 時事問題読解1 -

時事問題に関する本で読んだ内容を共有する

第11回 時事問題読解1 -

時事問題に関する本の全体像を確認する

第12回 時事問題読解1 -

今まで読んだ内容がディスカッション・レポートにどのように使えるかを整理する

第13回 時事問題読解1 -

時事問題に関する本を分担して読む

第14回 時事問題読解1 -

時事問題に関する本で自分が担当した内容をまとめる

第15回 時事問題読解1 -

時事問題に関する本で読んだ内容を共有する

第16回 時事問題読解1 -

時事問題に関する本の全体像を確認する

第17回 時事問題読解1 -

今まで読んだ内容がディスカッション・レポートにどのように使えるかを整理する

第18回 時事問題読解2 -

時事問題の背景について書かれた文章を理解する

第19回 時事問題読解2 -

時事問題の概要について書かれた文章を理解する

第20回 時事問題読解2 -

時事問題に関する新聞記事を読む

第21回 時事問題読解2 -

今まで読んだ内容がディスカッションにどのように使えるかを整理する

第22回 時事問題読解2 -

時事問題に関する本を分担して読む

第23回 時事問題読解2 -

時事問題に関する本で自分が担当した内容をまとめる
第24回 時事問題読解2 -
時事問題に関する本で読んだ内容を共有する
第25回 時事問題読解2 -
時事問題に関する本の全体像を確認する
第26回 時事問題読解2 -
今まで読んだ内容がディスカッションにどのように使えるかを整理する
第27回 批評文を書く(1)
レポートを要約し、自分の意見と根拠をまとめる
第28回 批評文を書く(2)
批評文のアウトラインを作成する
第29回 批評文を書く(3)
批評文を完成させる
第30回 全体の振り返り
授業内容を振り返り、復習する

2022年度 前期

2.0単位

日本語表現 (ア)

古賀 静香、担当者未定(GC)

< 授業の方法 >

演習(対面授業)

< 授業の目的 >

この授業は、「基本日本語」科目の中の1つで、大学の授業や日常生活に必要な作文の能力を身につけることを目的としています。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになるための授業です。

この授業では、特に、「身近なテーマについて文章を書くこと」「簡単なメールを書くこと」を目指します。また、文法にも意識を向け、正確に文章を書こうとする姿勢を身につけます。

< 到達目標 >

1. 自分の体験や関心のあることについて、ある程度の長さの文章を書くことができる

2. メールの基本的な構成に基づいてメールを書くことができる

3. 文法を理解し、正確さを意識しながら文章を書くことができる

< 授業のキーワード >

身近なテーマの文章、メール、文法

< 授業の進め方 >

「書く」作業が中心となりますが、その前の準備にも十分な時間を割きます。具体的には、テーマについて語彙を整理したり、考えを深めたり、構成を組み立てたりします。

< 履修するにあたって >

授業中は、日本語のみ使用してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で練習したことを、普段の生活でも積極的に活用してください。

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

< 提出課題など >

毎回、課題の提出を求めます。

また、文法の理解を確認する小テストを行います。

提出課題・小テストのフィードバックは、授業内で行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の取り組み30%、小テスト20%、課題50%

3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

< テキスト >

『短期集中初級日本語文法総まとめポイント20』スリーエーネットワーク

『中級日本語文法要点整理ポイント20』スリーエーネットワーク

< 授業計画 >

第1回 自己紹介(1)

自分の人となりや経歴などを紹介する自己PR文を書く

第2回 タイピングの練習

タイピングを練習する

第3回 自己紹介(2)

自分の人となりや経歴などを紹介する自己PR文を書く

第4回 メールの基本

メールの基本的な構成を理解する

第5回 出身地(1)

自分の出身地の名所や名物の紹介を書く

第6回 メール：宿題を提出する

先生に宿題を提出するときのメールを書く

第7回 出身地(2)

自分の出身地の名所や名物の紹介を書く

第8回 メール：授業を休む

先生に授業を休む/休んだことについて謝るメールを書く

第9回 文法(1)

動詞の活用と文型

第10回 好きなもの(1)

自分の好きなものとその理由を説明する

第11回 文法(2)

自動詞と他動詞

第12回 好きなもの(2)

自分の好きなものとその理由を説明する

第13回 お店(1)

近所のおすすめのお店の特徴や行き方などを書く

第14回 文法(3)

助詞
 第15回 お店（2）
 近所のおすすめのお店の特徴や行き方などを書く
 第16回 文法（4）
 助詞
 第17回 前半の振り返り
 前半の授業内容を振り返り、復習する
 第18回 ストーリー説明（1）
 4コマ漫画の展開を説明する
 第19回 最近の出来事（1）
 最近の出来事やそのときの気持ちを詳しく書く
 第20回 ストーリー説明（2）
 イラストを見てストーリーを説明する
 第21回 最近の出来事（2）
 最近の出来事やそのときの気持ちを詳しく書く
 第22回 映画・ドラマ（1）
 好きな映画やドラマのレビューを書く
 第23回 文法（5）
 授受表現
 第24回 映画・ドラマ（2）
 好きな映画やドラマのレビューを書く
 第25回 文法（6）
 受身・使役
 第26回 メール：アポイントをとる
 先生との面会のためにアポイントをとるメールを書く
 第27回 文法（7）
 形式名詞
 第28回 メール：依頼する
 先生や友達に依頼するメールを送る
 第29回 文法（8）
 接続表現
 第30回 後半の振り返り
 後半の授業内容を振り返り、復習する

 2022年度 前期
 2.0単位
 日本語表現（イ）
 古賀 静香、担当者未定（GC）

 < 授業の方法 >
 演習（対面授業）
 < 授業の目的 >
 この授業は、「基本日本語」科目の中の1つで、大学の授業や日常生活に必要な作文の能力を身につけることを目的としています。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになるための授業です。
 この授業では、特に、「身近なテーマについて文章を書

くこと」「簡単なメールを書くこと」を目指します。また、文法にも意識を向け、正確に文章を書こうとする姿勢を身につけます。
 < 到達目標 >
 1. 自分の体験や関心のあることについて、ある程度の長さの文章を書くことができる
 2. メールの基本的な構成に基づいてメールを書くことができる
 3. 文法を理解し、正確さを意識しながら文章を書くことができる
 < 授業のキーワード >
 身近なテーマの文章、メール、文法
 < 授業の進め方 >
 「書く」作業が中心となりますが、その前の準備にも十分な時間を割きます。具体的には、テーマについて語彙を整理したり、考えを深めたり、構成を組み立てたりします。
 < 履修するにあたって >
 授業中は、日本語のみ使用してください。
 < 授業時間外に必要な学修 >
 授業で練習したことを、普段の生活でも積極的に活用してください。
 毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。
 < 提出課題など >
 毎回、課題の提出を求めます。
 また、文法の理解を確認する小テストを行います。
 提出課題・小テストのフィードバックは、授業内で行います。
 < 成績評価方法・基準 >
 授業中の取り組み30%、小テスト20%、課題50%
 3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。
 < テキスト >
 『短期集中初級日本語文法総まとめポイント20』スリーエーネットワーク
 『中級日本語文法要点整理ポイント20』スリーエーネットワーク
 < 授業計画 >
 第1回 自己紹介（1）
 自分の人となりや経歴などを紹介する自己PR文を書く
 第2回 タイピングの練習
 タイピングを練習する
 第3回 自己紹介（2）
 自分の人となりや経歴などを紹介する自己PR文を書く
 第4回 メールの基本
 メールの基本的な構成を理解する
 第5回 出身地（1）
 自分の出身地の名所や名物の紹介を書く
 第6回 メール：宿題を提出する

先生に宿題を提出するときのメールを書く
第7回 出身地(2)
自分の出身地の名所や名物の紹介書く
第8回 メール:授業を休む
先生に授業を休む/休んだことについて謝るメールを書く
第9回 文法(1)
動詞の活用と句型
第10回 好きなもの(1)
自分の好きなものとその理由を説明する
第11回 文法(2)
自動詞と他動詞
第12回 好きなもの(2)
自分の好きなものとその理由を説明する
第13回 お店(1)
近所のおすすめのお店の特徴や行き方などを書く
第14回 文法(3)
助詞
第15回 お店(2)
近所のおすすめのお店の特徴や行き方などを書く
第16回 文法(4)
助詞
第17回 前半の振り返り
前半の授業内容を振り返り、復習する
第18回 ストーリー説明(1)
4コマ漫画の展開を説明する
第19回 最近の出来事(1)
最近の出来事やそのときの気持ちを詳しく書く
第20回 ストーリー説明(2)
イラストを見てストーリーを説明する
第21回 最近の出来事(2)
最近の出来事やそのときの気持ちを詳しく書く
第22回 映画・ドラマ(1)
好きな映画やドラマのレビューを書く
第23回 文法(5)
授受表現
第24回 映画・ドラマ(2)
好きな映画やドラマのレビューを書く
第25回 文法(6)
受身・使役
第26回 メール:アポイントをとる
先生との面会のためにアポイントをとるメールを書く
第27回 文法(7)
形式名詞
第28回 メール:依頼する
先生や友達に依頼するメールを送る
第29回 文法(8)
接続表現
第30回 後半の振り返り
後半の授業内容を振り返り、復習する

2022年度 後期

2.0単位

日本語表現 (ア)

下岡 邦子、担当者未定(GC)

<授業の方法>

演習(対面授業)

<授業の目的>

この授業は、「基本日本語」科目の中の1つで、大学の授業や日常生活に必要な作文の能力を身につけることを目的としています。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになるための授業です。

この授業では、特に、「複数の情報を整理して要約したり引用したりできるようにする」「剽窃ではなく、自分の文章で意見文を書くことができるようになる」ことを目指します。

<到達目標>

1.文章を読んで、適切な形で要約したり引用したりすることができる

2.基本的な構成に則って意見文を書くことができる

<授業のキーワード>

書き言葉、要約、引用、意見文

<授業の進め方>

「書く」作業が中心となりますが、その前の準備にも十分な時間を割きます。具体的には、テーマについて語彙を整理したり、考えを深めたり、構成を組み立てたりします。

<履修するにあたって>

授業中は、日本語のみ使用してください。

<授業時間外に必要な学修>

授業で練習したことを、他の授業の文章作成にも積極的に活用してください。

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

<提出課題など>

毎回、課題の提出を求めます。

また、文法の理解を確認する小テストを行います。

課題・小テストのフィードバックは、授業内で行います。

<成績評価方法・基準>

授業中の取り組み30%、提出課題20%、意見文練習20%、最終意見文15%、小テスト15%

3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

<授業計画>

第1回 文法

硬い文章

第2回 文法
助詞の働きをする言葉 1
第3回 文法
助詞の働きをする言葉 2
第4回 文法
助詞の働きをする言葉 3
第5回 文法
複文構造
第6回 文法
複文を作る言葉 1 時間
第7回 文法
複文を作る言葉 2 仮定・逆接
第8回 文法
複文を作る言葉 3 原因理由
第9回 段落(1)
中心文をもとに段落を構成し、論理的にまとまった文章
を作る
第10回 段落(2)
中心文をもとに段落を構成し、論理的にまとまった文章
を作る
第11回 要約の方法(1)
情報を取捨選択し、組みなおして要約する
第12回 要約の方法(2)
情報を取捨選択し、組みなおして要約する
第13回 要約の方法(3)
情報を取捨選択し、組みなおして要約する
第14回 引用の方法(1)
グラフやデータから得た情報を文章で示す
剽窃にならないように、適切な形で引用する
第15回 引用の方法(2)
グラフやデータから得た情報を文章で示す
剽窃にならないように、適切な形で引用する
第16回 意見と根拠
適切に意見と根拠を示す
第17回 意見文の構成
意見文の構成を理解する
第18回 意見文練習 -1
日本語読解 で扱ったテーマについて、考えをまとめる
第19回 意見文練習 -2
テーマについてアウトラインを作成する
第20回 意見文練習 -3
中心文をふくらませて作文を書く
第21回 意見文練習 -4
作文を清書する
第22回 意見文練習 -1
日本語読解 で扱ったテーマについて、考えをまとめる
第23回 意見文練習 -2
テーマについてアウトラインを作成する
第24回 意見文練習 -3
中心文をふくらませて作文を書く

第25回 意見文練習 -4
作文を清書する
第26回 最終意見文 1
日本語読解 で扱ったテーマについて、考えをまとめる
第27回 最終意見文 2
テーマについてアウトラインを作成する
第28回 最終意見文 3
中心文をふくらませて作文を書く
第29回 最終意見文 4
作文を清書する
第30回 全体の振り返り
授業内容を振り返り、復習する

2022年度 後期

2.0単位

日本語表現 (イ)

下岡 邦子、担当者未定(GC)

<授業の方法>

演習(対面授業)

<授業の目的>

この授業は、「基本日本語」科目の中の1つで、大学の
授業や日常生活に必要な作文の能力を身につけることを
目的としています。ディプロマポリシーで定められてい
る「実践的で高度な外国語の運用ができる」「言語の基
礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などにつ
いて幅広い知識や教養を身につけることができる」よう
になるための授業です。

この授業では、特に、「複数の情報を整理して要約した
り引用したりできるようになる」「剽窃ではなく、自分
の文章で意見文を書くことができるようになる」ことを
目指します。

<到達目標>

1. 文章を読んで、適切な形で要約したり引用したりす
ることができる

2. 基本的な構成に則って意見文を書くことができる

<授業のキーワード>

書き言葉、要約、引用、意見文

<授業の進め方>

「書く」作業が中心となりますが、その前の準備にも十
分な時間を割きます。具体的には、テーマについて語彙
を整理したり、考えを深めたり、構成を組み立てたりし
ます。

<履修するにあたって>

授業中は、日本語のみ使用してください。

<授業時間外に必要な学修>

授業で練習したことを、他の授業の文章作成にも積極的
に活用してください。

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行
ってください。

< 提出課題など >

毎回、課題の提出を求めます。

また、文法の理解を確認する小テストを行います。

課題・小テストのフィードバックは、授業内で行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の取り組み30%、提出課題20%、意見文練習20%、

最終意見文15%、小テスト15%

3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で

欠席1回とみなします。

< 授業計画 >

第1回 文法

硬い文章

第2回 文法

助詞の働きをする言葉 1

第3回 文法

助詞の働きをする言葉 2

第4回 文法

助詞の働きをする言葉 3

第5回 文法

複文構造

第6回 文法

複文を作る言葉 1 時間

第7回 文法

複文を作る言葉 2 仮定・逆接

第8回 文法

複文を作る言葉 3 原因理由

第9回 段落 (1)

中心文をもとに段落を構成し、論理的にまとまった文章を作る

第10回 段落 (2)

中心文をもとに段落を構成し、論理的にまとまった文章を作る

第11回 要約の方法 (1)

情報を取捨選択し、組みなおして要約する

第12回 要約の方法 (2)

情報を取捨選択し、組みなおして要約する

第13回 要約の方法 (3)

情報を取捨選択し、組みなおして要約する

第14回 引用の方法 (1)

グラフやデータから得た情報を文章で示す
剽窃にならないように、適切な形で引用する

第15回 引用の方法 (2)

グラフやデータから得た情報を文章で示す
剽窃にならないように、適切な形で引用する

第16回 意見と根拠

適切に意見と根拠を示す

第17回 意見文の構成

意見文の構成を理解する

第18回 意見文練習 - 1

日本語読解 で扱ったテーマについて、考えをまとめる

第19回 意見文練習 - 2

テーマについてアウトラインを作成する

第20回 意見文練習 - 3

中心文をふくらませて作文を書く

第21回 意見文練習 - 4

作文を清書する

第22回 意見文練習 - 1

日本語読解 で扱ったテーマについて、考えをまとめる

第23回 意見文練習 - 2

テーマについてアウトラインを作成する

第24回 意見文練習 - 3

中心文をふくらませて作文を書く

第25回 意見文練習 - 4

作文を清書する

第26回 最終意見文 1

日本語読解 で扱ったテーマについて、考えをまとめる

第27回 最終意見文 2

テーマについてアウトラインを作成する

第28回 最終意見文 3

中心文をふくらませて作文を書く

第29回 最終意見文 4

作文を清書する

第30回 全体の振り返り

授業内容を振り返り、復習する

2022年度 前期

2.0単位

日本語表現 (ア)

茶園 直人、担当者未定 (G C)

< 授業の方法 >

演習 (対面授業)

< 授業の目的 >

この授業は、「基本日本語」科目の中の1つで、大学の授業や日常生活に必要な作文の能力を身につけることを目的としています。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになるための授業です。

この授業では、特に、「説得力のある批評文が書けるようになる」「その批評に基づいて自分の考えが明示できるようになる」ことを目指します。

< 到達目標 >

1. ある文章の批評すべき点を根拠とともに提示することができる

2. その批評に基づいて自分の考えを明示することができる

< 授業のキーワード >

批評文

< 授業の進め方 >

「書く」作業が中心となりますが、その前の準備にも十分な時間を割きます。具体的には、テーマについて語彙を整理したり、考えを深めたり、構成を組み立てたりします。

< 履修するにあたって >

授業中は、日本語のみ使用してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で練習したことを、他の授業のレポート作成にも積極的に活用してください。

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

< 提出課題など >

毎回、課題の提出を求めます。

また、文法の小テストを実施します。

提出課題、小テストのフィードバックは、授業内で行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の取り組み30%、小テスト20%、課題20%、批評文30%

3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

< テキスト >

『レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版

< 授業計画 >

第1回 批評文で使われる文末表現

批評文で使われる文末表現を理解する

第2回 論理関係を説明する(1)

論理関係を説明する文章を書く

第3回 論理関係を説明する(2)

論理関係を説明する文章を書く

第4回 批評文の練習(1)

読んだ文章を論の展開に沿って要約する

第5回 批評文の練習(2)

読んだ文章の意義を文章にする

第6回 批評文の練習(3)

読んだ文章の限界を文章にする

第7回 批評文の練習(4)

読んだ文章に対する自分の考えを示す

第8回 文法

書き言葉に統一する

第9回 文法

文の意味を明確にする

第10回 批評文作成1 -

読んだ文章を要約して意義を書く

第11回 批評文作成1 -

読んだ文章の限界と自分の考えを書く

第12回 文法

「こと」と「の」を使い分ける

第13回 文法

文をシンプルにする

第14回 批評文作成2 -

読んだ文章を要約して意義を書く

第15回 批評文作成2 -

読んだ文章の限界と自分の考えを書く

第16回 文法

語彙を適切に選択する

第17回 文法

文を首尾一貫させる

第18回 批評文作成3 -

読んだ文章を要約して意義を書く

第19回 批評文作成3 -

読んだ文章の限界と自分の考えを書く

第20回 文法

形が似ている表現を使い分ける

第21回 文法

「は」と「が」を使い分ける

第22回 批評文作成4 -

読んだ文章を要約して意義を書く

第23回 批評文作成4 -

読んだ文章の限界と自分の考えを書く

第24回 文法

書き手の視点を示す

第25回 文法

過去と現在のつながりを示す

第26回 批評文作成5 -

読んだ文章を要約して意義を書く

第27回 批評文作成5 -

読んだ文章の限界と自分の考えを書く

第28回 批評文作成まとめ(1)

今までに書いた批評文をまとめる(要約)

第29回 批評文作成まとめ(2)

今までに書いた批評文をまとめる(意義・限界)

第30回 批評文作成まとめ(3)

全体の振り返り

今までに書いた批評文をまとめる(自分の考え)

授業内容を振り返り、復習する

2022年度 前期

2.0単位

日本語表現 (イ)

茶園 直人、担当者未定(GC)

< 授業の方法 >

演習(対面授業)

< 授業の目的 >

この授業は、「基本日本語」科目の中の1つで、大学の授業や日常生活に必要な作文の能力を身につけることを目的としています。ディプロマポリシーで定められてい

る「実践的で高度な外国語の運用ができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになるための授業です。

この授業では、特に、「説得力のある批評文が書けるようになる」「その批評に基づいて自分の考えが明示できるようにする」ことを目指します。

<到達目標>

1. ある文章の批評すべき点を根拠とともに提示することができる
2. その批評に基づいて自分の考えを明示することができる

<授業のキーワード>

批評文

<授業の進め方>

「書く」作業が中心となりますが、その前の準備にも十分な時間を割きます。具体的には、テーマについて語彙を整理したり、考えを深めたり、構成を組み立てたりします。

<履修するにあたって>

授業中は、日本語のみ使用してください。

<授業時間外に必要な学修>

授業で練習したことを、他の授業のレポート作成にも積極的に活用してください。

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

<提出課題など>

毎回、課題の提出を求めます。

また、文法の小テストを実施します。

提出課題、小テストのフィードバックは、授業内で行います。

<成績評価方法・基準>

授業中の取り組み30%、小テスト20%、課題20%、批評文30%

3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

<テキスト>

『レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版

<授業計画>

第1回 批評文で使われる文末表現

批評文で使われる文末表現を理解する

第2回 論理関係を説明する(1)

論理関係を説明する文章を書く

第3回 論理関係を説明する(2)

論理関係を説明する文章を書く

第4回 批評文の練習(1)

読んだ文章を論の展開に沿って要約する

第5回 批評文の練習(2)

読んだ文章の意義を文章にする

第6回 批評文の練習(3)

読んだ文章の限界を文章にする

第7回 批評文の練習(4)

読んだ文章に対する自分の考えを示す

第8回 文法

書き言葉に統一する

第9回 文法

文の意味を明確にする

第10回 批評文作成1-

読んだ文章を要約して意義を書く

第11回 批評文作成1-

読んだ文章の限界と自分の考えを書く

第12回 文法

「こと」と「の」を使い分ける

第13回 文法

文をシンプルにする

第14回 批評文作成2-

読んだ文章を要約して意義を書く

第15回 批評文作成2-

読んだ文章の限界と自分の考えを書く

第16回 文法

語彙を適切に選択する

第17回 文法

文を首尾一貫させる

第18回 批評文作成3-

読んだ文章を要約して意義を書く

第19回 批評文作成3-

読んだ文章の限界と自分の考えを書く

第20回 文法

形が似ている表現を使い分ける

第21回 文法

「は」と「が」を使い分ける

第22回 批評文作成4-

読んだ文章を要約して意義を書く

第23回 批評文作成4-

読んだ文章の限界と自分の考えを書く

第24回 文法

書き手の視点を示す

第25回 文法

過去と現在のつながりを示す

第26回 批評文作成5-

読んだ文章を要約して意義を書く

第27回 批評文作成5-

読んだ文章の限界と自分の考えを書く

第28回 批評文作成まとめ(1)

今までに書いた批評文をまとめる(要約)

第29回 批評文作成まとめ(2)

今までに書いた批評文をまとめる(意義・限界)

第30回 批評文作成まとめ(3)

全体の振り返り

今までに書いた批評文をまとめる（自分の考え）
授業内容を振り返り、復習する

2022年度 後期

2.0単位

日本語表現 （ア）

福原 香織

< 授業の方法 >

演習（対面）

< 授業の目的 >

この授業は、「基本日本語」科目の中の1つで、大学の授業や日常生活に必要な作文の能力を身につけることを目的としています。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになるための授業です。

この授業では、特に、「資料を活用し、説得力のある意見を提示できるようになること」「それをレポートの形式に則って書けるようになること」を目指します。最終的に、レポートを3本書き上げることを目標としています。

< 到達目標 >

1. 自らの意見を説得力のある根拠とともに提示することができる
2. 適切かつ効果的な表現・内容・構成でレポートを書くことができる

< 授業のキーワード >

資料の活用、説得力のある根拠、レポート

< 授業の進め方 >

「書く」作業が中心となりますが、その前の準備にも十分な時間を割きます。具体的には、テーマについて語彙を整理したり、考えを深めたり、構成を組み立てたりします。

< 履修するにあたって >

授業中は、日本語のみ使用してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で練習したことを、他の授業のレポート作成にも積極的に活用してください。

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

< 提出課題など >

毎回、課題の提出を求め、レポートを3回作成します。

また、文法の小テストも行います。

課題・レポート・小テストのフィードバックは、授業内で行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の取り組み30%、小テスト10%、課題15%、レポート45%

3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

< 授業計画 >

第1回 ブレインストーミング

テーマについてブレインストーミングをする

第2回 資料の要約（1）

日本語読解 で読んだ資料を要約する

第3回 資料の要約（2）

日本語読解 で読んだ資料を要約する

第4回 資料の要約（3）

日本語読解 で読んだ資料を要約する

第5回 本論アウトライン（1）

自分の意見と根拠を考える

第6回 本論アウトライン（2）

譲歩と反論を考える

第7回 本論の作成

論の展開を整理し、本論を作成する

第8回 序論の作成

背景説明と問題提起を考え、序論を作成する

第9回 結論の作成

まとめを考え、結論を作成する

第10回 タイトルと章立て

全体の推敲

タイトルと章立てを決め、レポート全体を推敲する

第11回 文法

文章中の言葉を指し示す

第12回 文法

前後の関係を示す

第13回 ブレインストーミング

テーマについてブレインストーミングをする

第14回 本論アウトライン（1）

自分の意見と根拠を考える

第15回 本論アウトライン（2）

譲歩と反論を考える

第16回 本論の作成

論の展開を整理し、本論を作成する

第17回 引用資料の整理

引用する資料を整理する

第18回 序論の作成

背景説明と問題提起を考え、序論を作成する

第19回 結論の作成

まとめを考え、結論を作成する

第20回 タイトルと章立て

全体の推敲

タイトルと章立てを決め、レポート全体を推敲する

第21回 文法

前の文に関係づける

第22回 文法

効果的に意見を述べる

第23回 ブレインストーミング

テーマについてブレインストーミングをする

第24回 本論アウトライン(1)

自分の意見と根拠を考える

第25回 本論アウトライン(2)

譲歩と反論を考える

第26回 本論の作成

論の展開を整理し、本論を作成する

第27回 引用資料の整理

引用する資料を整理する

第28回 序論の作成

背景説明と問題提起を考え、序論を作成する

第29回 結論の作成

まとめを考え、結論を作成する

第30回 タイトルと章立て

全体の推敲

全体の振り返り

タイトルと章立てを決め、レポート全体を推敲する

授業内容を振り返り、復習する

2022年度 後期

2.0単位

日本語表現 (イ)

福原 香織

< 授業の方法 >

演習(対面)

< 授業の目的 >

この授業は、「基本日本語」科目の中の1つで、大学の授業や日常生活に必要な作文の能力を身につけることを目的としています。ディプロマポリシーで定められている「実践的で高度な外国語の運用ができる」「言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身につけることができる」ようになるための授業です。

この授業では、特に、「資料を活用し、説得力のある意見を提示できるようになること」「それをレポートの形式に則って書けるようになること」を目指します。最終的に、レポートを3本書き上げることを目標としています。

< 到達目標 >

1. 自らの意見を説得力のある根拠とともに提示することができる

2. 適切かつ効果的な表現・内容・構成でレポートを書くことができる

< 授業のキーワード >

資料の活用、説得力のある根拠、レポート

< 授業の進め方 >

「書く」作業が中心となりますが、その前の準備にも十分な時間を割きます。具体的には、テーマについて語彙を整理したり、考えを深めたり、構成を組み立てたりし

ます。

< 履修するにあたって >

授業中は、日本語のみ使用してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で練習したことを、他の授業のレポート作成にも積極的に活用してください。

毎時間の授業について、予習・復習ともに1時間程度行ってください。

< 提出課題など >

毎回、課題の提出を求め、レポートを3回作成します。

また、文法の小テストも行います。

課題・レポート・小テストのフィードバックは、授業内で行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の取り組み30%、小テスト10%、課題15%、レポート45%

3分の1以上の欠席は評価の対象外とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

< 授業計画 >

第1回 ブレインストーミング

テーマについてブレインストーミングをする

第2回 資料の要約(1)

日本語読解 で読んだ資料を要約する

第3回 資料の要約(2)

日本語読解 で読んだ資料を要約する

第4回 資料の要約(3)

日本語読解 で読んだ資料を要約する

第5回 本論アウトライン(1)

自分の意見と根拠を考える

第6回 本論アウトライン(2)

譲歩と反論を考える

第7回 本論の作成

論の展開を整理し、本論を作成する

第8回 序論の作成

背景説明と問題提起を考え、序論を作成する

第9回 結論の作成

まとめを考え、結論を作成する

第10回 タイトルと章立て

全体の推敲

タイトルと章立てを決め、レポート全体を推敲する

第11回 文法

文章中の言葉を指し示す

第12回 文法

前後の関係を示す

第13回 ブレインストーミング

テーマについてブレインストーミングをする

第14回 本論アウトライン(1)

自分の意見と根拠を考える

第15回 本論アウトライン(2)

譲歩と反論を考える

第16回 本論の作成
論の展開を整理し、本論を作成する
第17回 引用資料の整理
引用する資料を整理する
第18回 序論の作成
背景説明と問題提起を考え、序論を作成する
第19回 結論の作成
まとめを考え、結論を作成する
第20回 タイトルと章立て
全体の推敲
タイトルと章立てを決め、レポート全体を推敲する
第21回 文法
前の文に関係づける
第22回 文法
効果的に意見を述べる
第23回 プレインストーミング
テーマについてプレインストーミングをする
第24回 本論アウトライン(1)
自分の意見と根拠を考える
第25回 本論アウトライン(2)
譲歩と反論を考える
第26回 本論の作成
論の展開を整理し、本論を作成する
第27回 引用資料の整理
引用する資料を整理する
第28回 序論の作成
背景説明と問題提起を考え、序論を作成する
第29回 結論の作成
まとめを考え、結論を作成する
第30回 タイトルと章立て
全体の推敲
全体の振り返り
タイトルと章立てを決め、レポート全体を推敲する
授業内容を振り返り、復習する

2022年度 前期

2.0単位

入門ゼミナール

中西 のりこ

< 授業の方法 >

講義、演習

詳細はGCSquareの「入門ゼミナール」ページで確認のこと。

< 授業の目的 >

この授業科目は以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持

つことができる

このゼミナールは学部基礎科目に属し、神戸学院大学の教育目標や歴史を共有するとともに、新入生が大学での生活や学修に必要な事項を理解し、充実したキャンパスライフを送るための入門科目として位置づけられる。3コースの学生を混在させた少人数クラスにより、他者と協調、協働できるコミュニケーション力を修得することを目的とする。多様な言語文化背景をもつゼミ生とのコミュニケーションを通じて知見を広げ、それぞれが主体的に関心のあるテーマを見つけ、英語、中国語、日本語のいずれかの言語を用いた基礎的なプレゼンテーションを行うことができる能力の修得をめざす。

授業時間外に必要な学修時間の目安は週1時間である。

< 到達目標 >

1. 神戸学院大学の建学の精神や教育理念、大学と学部の教育目標を理解し、説明ができる。

2. 学校法人神戸学院と神戸学院大学の歴史について説明することができる。

3. 大学生としての生活と学修をスタートさせるにあたってのマナーやルールを学び、自らの将来像について考え、ライフプランやキャリアプランを描く初歩的な方法を学ぶことができる。

4. ノートのとり方、図書館の利用方法、情報の収集方法やディスカッション、プレゼンテーション等、大学生にとって必要な学習技法を修得することができる。

5. 3コースのゼミ生と協力し、お互いを尊重しながら文化や言語の枠を超えて対人関係を構築し、協働作業をしていくうえで必要となるコミュニケーション力を身につけることができる。

6. テーマを決め、関連の素材を収集し、これらをまとめ、人前で英語、中国語、日本語のいずれかの言語を使って基礎的なプレゼンテーションができたり、レポートを書くことができる。

< 授業のキーワード >

大学生活入門、アカデミックスキル、異文化コミュニケーション、プレゼンテーション

< 授業の進め方 >

少人数ゼミナール形式で、活発な意見交換、教員の積極的なフィードバックの下で進めます。

ゼミナールの前半は大学の教育理念や歴史、健康講演や学習スキルの修得に関わる講義が中心となり、後半は体験型の実践的な授業が主となります。

最終的な達成目標として、スライドやポスターを用いたプレゼンテーション実施やアカデミックレポートの作成などを行います。

< 履修するにあたって >

大学における学修は高校までとは異なり、自ら問題意識を持ち、学習の目的を考え、図書館を利用して必要な資料を収集すること、学習の成果をまとめて報告することなど、積極的、能動的な姿勢で取り組むことが求められ

ます。課題や活動については、事前にしっかり準備をして臨むことが必要です。

このゼミナールでは新しい仲間や教員、学生間の交流を図り、大学生活の楽しさ、可能性を知り、これからのグローバル・コミュニケーション学部での学びを有意義なものにするとともに、円滑に進めていく基礎づくりをします。

< 授業時間外に必要な学修 >

目安となる時間として無理のない範囲で、1時間程度予習・復習をすること。

< 提出課題など >

各授業の振返り、プレゼンテーションの成果物をGCSquareから提出する。提出された成果物については、プレゼンテーションの評価と併せて担当教員が総評を行う。主題ごとの課題については担当教員がそのつど説明し、解説、講評を行う。

< 成績評価方法・基準 >

1) 授業への発言、準備、発表等の参加度 (30%=2% × 15回)

2) 最終成果としてのプレゼンテーション (40%)

3) スライド、発表資料、レポート、振返りなどの提出課題 (30%)

< テキスト >

特に指定なし。それぞれの補助教材については担当教員が指示する。

< 参考図書 >

野口ジュディー・照井雅子・藤田清士著 『Judy先生の成功する理系英語プレゼンテーション』KS語学専門書 2014

佐藤望 湯川武 横山千晶 近藤明彦著 『アカデミック・スキルズ- 大学生のための知的技法入門』(第2版) 慶應大学出版会 2012年

大島弥生 大場理恵子 岩田夏穂 池田玲子著 『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション- プレゼンテーションとライティング』ひつじ書房 2012年

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション? 神戸学院大学へようこそ?

DVDや資料を用いて大学の建学の精神や歴史について学ぶ。大学生としての生活や学修の心構えを考える。お互いを知るための自己紹介や入門ゼミナールの目的、授業の進め方についてのオリエンテーションを行う。

第2回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(大学や学部の教育目標について等)

第3回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(安全で快適なキャンパスライフについて等)

第4回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(健康について等)

第5回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(アセスメントについて等)

第6回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(図書館について等)

第7回 教員レクチャー 1

教員レクチャー 1 (クリーグ先生) 学生相談室訪問 & プレゼン準備。

第8回 教員レクチャー 2

教員レクチャー 2 (表谷先生) 学生相談室訪問 & プレゼン準備

第9回 教員レクチャー 3

教員レクチャー 3 (仁科先生) 学生相談室訪問 & プレゼン準備

第10回 教員レクチャー 4

教員レクチャー 4 (中嶋先生) 学生相談室訪問 & プレゼン準備

第11回 教員レクチャー 5

教員レクチャー 5 (荒島先生) 学生相談室訪問 & プレゼン準備

第12回 教員レクチャー 6

教員レクチャー 6 (深田先生) 学生相談室訪問 & プレゼン準備

第13回 教員レクチャー 7

教員レクチャー 7 (中西先生) 学生相談室訪問 & プレゼン準備

第14回 教員レクチャー 8

教員レクチャー 8 (シャーロー先生) 学生相談室訪問

第15回 発表会

振返り & Feedback 各ゼミの優秀プレゼンを視聴

2022年度 前期

2.0単位

入門ゼミナール

中嶋 アンディ 史人

< 授業の方法 >

講義、演習

詳細はGCSquareの「入門ゼミナール」ページで確認のこと。

< 授業の目的 >

この授業科目は以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる このゼミナールは学部基礎科目に属し、神戸学院大学の教育目標や歴史を共有するとともに、新入生が大学での生活や学修に必要な事項を理解し、充実したキャンパスライフを送るための入門科目として

位置づけられる。3コースの学生を混在させた少人数クラスにより、他者と協調、協働できるコミュニケーション力を修得することを目的とする。多様な言語文化背景をもつゼミ生とのコミュニケーションを通じて知見を広げ、それぞれが主体的に関心のあるテーマを見つけ、英語、中国語、日本語のいずれかの言語を用い基礎的なプレゼンテーションを行うことができる能力の修得をめざす。

授業時間外に必要な学修時間の目安は週1時間である。

<到達目標>

1. 神戸学院大学の建学の精神や教育理念、大学と学部の教育目標を理解し、説明ができる。
2. 学校法人神戸学院と神戸学院大学の歴史について説明することができる。
3. 大学生としての生活と学修をスタートさせるにあたってのマナーやルールを学び、自らの将来像について考え、ライフプランやキャリアプランを描く初歩的な方法を学ぶことができる。
4. ノートのとり方、図書館の利用方法、情報の収集方法やディスカッション、プレゼンテーション等、大学生にとって必要な学習技法を修得することができる。
5. 3コースのゼミ生と協力し、お互いを尊重しながら文化や言語の枠を超えて対人関係を構築し、協働作業をしていくうえで必要となるコミュニケーション力を身につけることができる。
6. テーマを決め、関連の素材を収集し、これらをまとめ、人前で英語、中国語、日本語のいずれかの言語を使って基礎的なプレゼンテーションができたり、レポートを書くことができる。

<授業のキーワード>

大学生生活入門、アカデミックスキル、異文化コミュニケーション、プレゼンテーション

<授業の進め方>

少人数ゼミナール形式で、活発な意見交換、教員の積極的なフィードバックの下で進めます。

ゼミナールの前半は大学の教育理念や歴史、健康講演や学習スキルの修得に関わる講義が中心となり、後半は体験型の実践的な授業が主となります。最終的な達成目標として、スライドやポスターを用いたプレゼンテーション実施やアカデミックレポートの作成などを行います。

<履修するにあたって>

大学における学修は高校までとは異なり、自ら問題意識を持ち、学習の目的を考え、図書館を利用して必要な資料を収集すること、学習の成果をまとめて報告することなど、積極的、能動的な姿勢で取り組むことが求められます。課題や活動については、事前にしっかり準備をして臨むことが必

要です。

このゼミナールでは新しい仲間や教員、学生間の交流を図り、大学生生活の楽しさ、可能性を知り、これからのグローバル・コミュニケーション学部での学びを有意義なものにするとともに、円滑に進めていく基礎づくりをします。

<授業時間外に必要な学修>

目安となる時間として、1時間程度予習・復習をすること。

<提出課題など>

各授業の振返り、プレゼンテーションの成果物をGCSquareから提出する。提出された成果物については、プレゼンテーションの評価と併せて担当教員が総評を行う。

主題ごとの課題については担当教員がそのつど説明し、解説、講評を行う。

<成績評価方法・基準>

- 1) 授業への発言、準備、発表等の参加度(30%=2%×15回)
- 2) 最終成果としてのプレゼンテーション(40%)
- 3) スライド、発表資料、レポート、振返りなどの提出課題(30%)

<テキスト>

特に指定なし。それぞれの補助教材については担当教員が指示する。

<参考図書>

野口ジュディー・照井雅子・藤田清士著『Judy先生の成功する理系英語プレゼンテーション』KS 語学専門書 2014

佐藤望 湯川武 横山千晶 近藤明彦著『アカデミック・スキルズ- 大学生のための知的技法入門』(第2版)慶應大学出版会 2012年

大島弥生 大場理恵子 岩田夏穂 池田玲子著『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション- プレゼンテーションとライティング』ひつじ書房 2012年

<授業計画>

第1回 イントロダクション? 神戸学院大学へようこそ?

DVDや資料を用いて大学の建学の精神や歴史について学ぶ。大学生としての生活や学修の心構えを考える。お互いを知るための自己紹介や入門ゼミナールの目的、授業の進め方についてのオリエンテーションを行う。

第2回 合同授業 1

大学生活に必要な知識を学ぶ。(大学や学部の教育目標について等)

第3回 合同授業 2

大学生活に必要な知識を学ぶ。(安全で快適なキャンパスライフについて等)

第4回 合同授業 3

大学生活に必要な知識を学ぶ。(健康について等)

第5回 合同授業 4

大学生活に必要な知識を学ぶ。(アセスメントについて等)

第6回 合同授業 5

大学生活に必要な知識を学ぶ。(図書館について等)

第7回 教員レクチャー 1

教員レクチャー1(クリーグ先生)学生相談室訪問 & プレゼン準備。

第8回 教員レクチャー 2

教員レクチャー2(表谷先生)学生相談室訪問 & プレゼン準備

第9回 教員レクチャー 3

教員レクチャー3(仁科先生)学生相談室訪問 & プレゼン準備

第10回 教員レクチャー 4

教員レクチャー4(中嶋先生)学生相談室訪問 & プレゼン準備

第11回 教員レクチャー 5

教員レクチャー5(荒島先生)学生相談室訪問 & プレゼン準備

第12回 教員レクチャー 6

教員レクチャー6(深田先生)学生相談室訪問 & プレゼン準備

第13回 教員レクチャー 7

教員レクチャー7(中?先生)学生相談室訪問 & プレゼン準備

第14回 教員レクチャー 8

教員レクチャー8(シャーロー先生)学生相談室訪問

第15回 発表会

振り返り&Feedback 各ゼミの優秀プレゼンを視聴

2022年度 前期

2.0単位

入門ゼミナール

表谷 純子

< 授業の方法 >

講義、演習(毎回授業開始時はD101に集合してください)

詳細はGCSquareの「入門ゼミナール」ページで確認のこと。

{入門ゼミナール_2021, <https://gcsquare.kobegakuin.ac.jp/course/view.php?id=435>}

< 授業の目的 >

この授業科目は以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる

このゼミナールは学部基礎科目に属し、神戸学院大学の教育目標や歴史を共有するとともに、新入生が大学での生活や学修に必要な事項を理解し、充実したキャンパスライフを送るための入門科目として位置づけられる。3コースの学生を混在させた少人数クラスにより、他者と協調、協働できるコミュニケーション力を修得することを目的とする。多様な言語文化背景をもつゼミ生とのコミュニケーションを通じて知見を広げ、それぞれが主体的に関心のあるテーマを見つけ、英語、中国語、日本語のいずれかの言語を用い基礎的なプレゼンテーションを行うことができる能力の修得をめざす。授業時間外に必要な学修時間の目安は週1時間である。

< 到達目標 >

1. 神戸学院大学の建学の精神や教育理念、大学と学部の教育目標を理解し、説明ができる。
2. 学校法人神戸学院と神戸学院大学の歴史について説明することができる。
3. 大学生としての生活と学修をスタートさせるにあたってのマナーやルールを学び、自らの将来像について考え、ライフプランやキャリアプランを描く初歩的な方法を学ぶことができる。
4. ノートのとり方、図書館の利用方法、情報の収集方法やディスカッション、プレゼンテーション等、大学生にとって必要な学習技法を修得することができる。
5. 3コースのゼミ生と協力し、お互いを尊重しながら文化や言語の枠を超えて対人関係を構築し、協働作業をしていくうえで必要となるコミュニケーション力を身につけることができる。
6. テーマを決め、関連の素材を収集し、これらをまとめ、人前で英語、中国語、日本語のいずれかの言語を使って基礎的なプレゼンテーションができたり、レポートを書くことができる。

< 授業のキーワード >

大学生活入門、アカデミックスキル、異文化コミュニケーション、プレゼンテーション

< 授業の進め方 >

少人数ゼミナール形式で、活発な意見交換、教員の積極的なフィードバックの下で進めます。

ゼミナールの前半は大学の教育理念や歴史、健康講演や学習スキルの修得に関わる講義が中心となり、後半は体験型の実践的な授業が主となります。

最終的な達成目標として、スライドやポスターを用いたプレゼンテーション実施やアカデミックレポートの作成などを行います。

< 履修するにあたって >

大学における学修は高校までとは異なり、自ら問題意識を持ち、学習の目的を考え、図書館を利用して必要な資料を収集すること、学習の成果をまとめて報告することなど、積極的、能動的な姿勢で取り組むことが求められます。課題や活動については、事前にしっかり準備をし

て臨むことが必要です。

このゼミナールでは新しい仲間や教員、学生間の交流を図り、大学生活の楽しさ、可能性を知り、これからのグローバル・コミュニケーション学部での学びを有意義なものにするとともに、円滑に進めていく基礎づくりをします。

< 授業時間外に必要な学修 >

目安となる時間として無理のない範囲で、1時間程度予習・復習をすること。

< 提出課題など >

各授業の振返り、プレゼンテーションの成果物をGCSquareから提出する。提出された成果物については、プレゼンテーションの評価と併せて担当教員が総評を行う。主題ごとの課題については担当教員がそのつど説明し、解説、講評を行う。

< 成績評価方法・基準 >

1) 授業への発言、準備、発表等の参加度 (30%=2% × 15回)

2) 最終成果としてのプレゼンテーション (40%)

3) スライド、発表資料、レポート、振返りなどの提出課題 (30%)

< テキスト >

特に指定なし。それぞれの補助教材については担当教員が指示する。

< 参考図書 >

野口ジュディー・照井雅子・藤田清士著 『Judy先生の成功する理系英語プレゼンテーション』KS語学専門書 2014

佐藤望 湯川武 横山千晶 近藤明彦著 『アカデミック・スキルズ- 大学生のための知的技法入門』(第2版) 慶應大学出版会 2012年

大島弥生 大場理恵子 岩田夏穂 池田玲子著 『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション-プレゼンテーションとライティング』ひつじ書房 2012年

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション? 神戸学院大学へようこそ?

DVDや資料を用いて大学の建学の精神や歴史について学ぶ。大学生としての生活や学修の心構えを考える。お互いを知るための自己紹介や入門ゼミナールの目的、授業の進め方についてのオリエンテーションを行う。

第2回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(大学や学部の教育目標について等)

第3回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(安全で快適なキャンパスライフについて等)

第4回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(健康について等)

第5回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(アセスメントについて等)

第6回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(図書館について等)

第7回 教員レクチャー1

教員レクチャー1(クリーグ先生)学生相談室訪問 & プレゼン準備。

第8回 教員レクチャー2

教員レクチャー2(表谷先生)学生相談室訪問 & プレゼン準備

第9回 教員レクチャー3

教員レクチャー3(仁科先生)学生相談室訪問 & プレゼン準備

第10回 教員レクチャー4

教員レクチャー4(中嶋先生)学生相談室訪問 & プレゼン準備

第11回 教員レクチャー5

教員レクチャー5(荒島先生)学生相談室訪問 & プレゼン準備

第12回 教員レクチャー6

教員レクチャー6(深田先生)学生相談室訪問 & プレゼン準備

第13回 教員レクチャー7

教員レクチャー7(中西先生)学生相談室訪問 & プレゼン準備

第14回 教員レクチャー8

教員レクチャー8(シャーロー先生)学生相談室訪問

第15回 発表会

振返り & Feedback 各ゼミの優秀プレゼンを視聴

2022年度 前期

2.0単位

入門ゼミナール

シャーロー トーマス

< 授業の方法 >

オンライン授業を行います。

(演習および講義)

< 授業の目的 >

この授業科目は以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる

このゼミナールは学部基礎科目に属し、神戸学院大学の教育目標や歴史を共有するとともに、新入生が大学での生活や学修に必要な事項を理解し、充実したキャンパスライフを送るための入門科目として位置づけられる。3コースの学生を混在させた少人数クラスにより、他者と

協調、協働できるコミュニケーション力を修得することを目的とする。多様な言語文化背景をもつゼミ生とのコミュニケーションを通じて知見を広げ、それぞれが主体的に関心のあるテーマを見つけ、英語、中国語、日本語のいずれかの言語を用い基礎的なプレゼンテーションを行うことができる能力の修得をめざす。

授業時間外に必要な学修時間の目安は週1時間である。

<到達目標>

1. 神戸学院大学の建学の精神や教育理念、大学と学部
の教育目標を理解し、説明ができる。
2. 学校法人神戸学院と神戸学院大学の歴史について説
明することができる。
3. 大学生としての生活と学修をスタートさせるにあた
ってのマナーやルールを学び、自らの将来像について考
え、ライフプランやキャリアプランを描く初歩的な方法
を学ぶことができる。
4. ノートのとり方、図書館の利用方法、情報の収集方
法やディスカッション、プレゼンテーション等、大学生
にとって必要な学習技法を修得することができる。
5. 3コースのゼミ生と協力し、お互いを尊重しながら
文化や言語の枠を超えて対人関係を構築し、協働作業を
していくうえで必要となるコミュニケーション力を身に
つけることができる。
6. テーマを決め、関連の素材を収集し、これらをまと
め、人前で英語、中国語、日本語のいずれかの言語を使
って基礎的なプレゼンテーションができたり、レポート
を書くことができる。

<授業のキーワード>

大学生生活入門、アカデミックスキル、異文化コミュニ
ケーション、プレゼンテーション

<授業の進め方>

3コースの学生を混在させた少人数ゼミナール形式で、
活発な意見交換、教員の積極的なフィードバックの下で
進めます。

ゼミナールの前半は大学の教育理念や歴史、健康講演や
学習スキルの修得に関わる講義が中心となり、後半は体
験型の実践的な授業が主となります。

最終的な達成目標として、スライドやポスターを用いた
プレゼンテーション実施やアカデミックレポートの作成
などを行います。

<履修するにあたって>

大学における学修は高校までとは異なり、自ら問題意識
を持ち、学習の目的を考え、図書館を利用して必要な資
料を収集すること、学習の成果をまとめて報告すること
など、積極的、能動的な姿勢で取り組むことが求められ
ます。課題や活動については、事前にしっかり準備をし
て臨むことが必要です。

このゼミナールでは新しい仲間や教員、学生間の交流を
図り、大学生活の楽しさ、可能性を知り、これからのグ
ローバル・コミュニケーション学部での学びを有意義な

ものにするとともに、円滑に進めていく基礎づくりをし
ます。

<授業時間外に必要な学修>

目安となる時間として無理のない範囲で、1時間程度予
習・復習をすること。

<提出課題など>

プレゼンテーションの成果物(スライド、資料、ポスタ
ー、レポートなど)を提出する。提出された成果物につ
いては、プレゼンテーションの評価と併せて担当教員が
総評を行う。

主題ごとの課題については担当教員がそのつど説明し、
解説、講評を行う。

<成績評価方法・基準>

オンラインでの授業に変更となりましたので評価方法は
GCsquare等で発表いたします。

以下の内容はこれまでの評価方法です。(参考まで)

- 1) 授業への発言、準備、発表等の参加度(30%=2%×
15回)
- 2) 最終成果としてのプレゼンテーション(40%)
- 3) スライド、発表資料、ポスター、レポートなどの成
果物(30%)

<テキスト>

特に指定なし。それぞれの補助教材については担当教員
が指示する。

<授業計画>

第1回 イントロダクション? 神戸学院大学へようこそ
?

DVDや資料を用いて大学の建学の精神や歴史について学
ぶ。大学生としての生活や学修の心構えを考える。お互
いを知るための自己紹介や入門ゼミナールの目的、授業
の進め方についてのオリエンテーションを行う。

第2回 大学生生活入門? 学長講演会?(全クラス合同:D
301)

神戸学院大学およびグローバル・コミュニケーション学
部の教育目標に対する理解を深め、学びの基礎づくりを
する。

第3回 学外アセスメント(全クラス合同:B302)

学部で学外アセスメントを実施する。

第4回 健康講演会(全クラス合同:D301)

講演の内容をもとに、薬物の乱用、飲酒、喫煙が自分自
身や周囲の人々の心と身体に及ぼす影響について考える。

第5回 ハラスメント講演会(全クラス合同:D301)

学生一人ひとりが心理的、身体的に安全かつ快適な環境
で学修に専念し、充実したキャンパス・ライフを送る
ための講演会を開催する。

第6回 ライブラリー・ツアー

大学での学修において重要となる図書館を見学し、図書
館の利用方法、情報検索の仕方などの説明を受け、体験
学習をする。

第7回 アカデミックスキル1? 学習技法?

ノートの取り方、文献の探し方や本の読み方、テキストの要約、レポートの書き方、レジュメの作成方法など大学での学修に必要な基本的スキルを身につける。

第8回 アカデミックスキル2? ディスカッションについて?

グループディスカッションやディベートの方法などディスカッションの基本を身につけ、指定されたトピックについて討論を行う。

第9回 アカデミックスキル3? プレゼンテーションについて?

明確な論理の組み立てやアイデアにより、メッセージを聞き手に効果的に伝えるスピーチの仕方などを学ぶ。実例を通してスライドやポスターを用いたプレゼンテーションとは何かを理解し、具体的なイメージをもつ。

第10回 アカデミックスキル4? PowerPointの作成方法について?

PowerPointなどを用いてプレゼンテーション資料の作成方法を学ぶ。スライドやポスターのデザイン、配置、フォントの選択などの実習を行う。

第11回 プレゼンテーション1

自分の関心に沿ってテーマを選定し、これまでに学んできた学習技法を応用し、プレゼンテーションの準備をする。

第12回 プレゼンテーション2

関心のテーマに沿って素材を集め、グループワーク、ディスカッションを通じて情報を整理し、どの言語を使うかグループで相談、ポスターを作成する。

第13回 プレゼンテーション3

プレゼンテーションで用いるスライドやポスターなどを作成し、打ち合わせを行う。

第14回 プレゼンテーション4

プレゼンテーションのリハーサルや最終チェックをし、これまでのゼミナールでの学びについてふりかえりを行う。

第15回 発表会

個人、ペア、あるいはグループごとにプレゼンテーションを実施し、報告会を行う。発表者以外は評価、コメントをする。

2022年度 前期

2.0単位

入門ゼミナール

荒島 千鶴

< 授業の方法 >

演習、講義

< 授業の目的 >

この授業科目は以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる

このゼミナールは学部基礎科目に属し、神戸学院大学の教育目標や歴史を共有するとともに、新入生が大学での生活や学修に必要な事項を理解し、充実したキャンパスライフを送るための入門科目として位置づけられる。3コースの学生を混在させた少人数クラスにより、他者と協調、協働できるコミュニケーション力を修得することを目的とする。多様な言語文化背景をもつゼミ生とのコミュニケーションを通じて知見を広げ、それぞれが主体的に関心のあるテーマを見つけ、英語、中国語、日本語のいずれかの言語を用いた基礎的なプレゼンテーションを行うことができる能力の修得をめざす。

授業時間外に必要な学修時間の目安は週1時間である。

< 到達目標 >

1. 神戸学院大学の建学の精神や教育理念、大学と学部の教育目標を理解し、説明ができる。

2. 学校法人神戸学院と神戸学院大学の歴史について説明することができる。

3. 大学生としての生活と学修をスタートさせるにあたってのマナーやルールを学び、自らの将来像について考え、ライフプランやキャリアプランを描く初歩的な方法を学ぶことができる。

4. ノートのとり方、図書館の利用方法、情報の収集方法やディスカッション、プレゼンテーション等、大学生にとって必要な学習技法を修得することができる。

5. 3コースのゼミ生と協力し、お互いを尊重しながら文化や言語の枠を超えて対人関係を構築し、協働作業をしていくうえで必要となるコミュニケーション力を身につけることができる。

6. テーマを決め、関連の素材を収集し、これらをまとめ、人前で英語、中国語、日本語のいずれかの言語を使って基礎的なプレゼンテーションができたり、レポートを書くことができる。

< 授業のキーワード >

大学生活入門、アカデミックスキル、異文化コミュニケーション、プレゼンテーション

< 授業の進め方 >

少人数ゼミナール形式で、活発な意見交換、教員の積極的なフィードバックの下で進めます。

ゼミナールの前半は大学の教育理念や歴史、健康講演や学習スキルの修得に関わる講義が中心となり、後半は体験型の実践的な授業が主となります。

最終的な達成目標として、スライドやポスターを用いたプレゼンテーション実施やアカデミックレポートの作成などを行います。

< 履修するにあたって >

大学における学修は高校までとは異なり、自ら問題意識を持ち、学習の目的を考え、図書館を利用して必要な資料を収集すること、学習の成果をまとめて報告することなど、積極的、能動的な姿勢で取り組むことが求められます。課題や活動については、事前にしっかり準備をして臨むことが必要です。

このゼミナールでは新しい仲間や教員、学生間の交流を図り、大学生活の楽しさ、可能性を知り、これからのグローバル・コミュニケーション学部での学びを有意義なものにするとともに、円滑に進めていく基礎づくりをします。

< 授業時間外に必要な学修 >

目安となる時間として無理のない範囲で、1時間程度予習・復習をすること。

< 提出課題など >

各授業の振返り、プレゼンテーションの成果物をGCSquareから提出する。提出された成果物については、プレゼンテーションの評価と併せて担当教員が総評を行う。

主題ごとの課題については担当教員がそのつど説明し、解説、講評を行う。

< 成績評価方法・基準 >

1) 授業への発言、準備、発表等の参加度 (30%=2% × 15回)

2) 最終成果としてのプレゼンテーション (40%)

3) スライド、発表資料、レポート、振返りなどの提出課題 (30%)

< テキスト >

特に指定なし。それぞれの補助教材については担当教員が指示する。

< 参考図書 >

野口ジュディー・照井雅子・藤田清士著『Judy先生の成功する理系英語プレゼンテーション』KS語学専門書 2014

佐藤望 湯川武 横山千晶 近藤明彦著『アカデミック・スキルズ- 大学生のための知的技法入門』(第2版) 慶應大学出版会 2012年

大島弥生 大場理恵子 岩田夏穂 池田玲子著『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション- プレゼンテーションとライティング』ひつじ書房 2012年

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション? 神戸学院大学へようこそ?

DVDや資料を用いて大学の建学の精神や歴史について学ぶ。大学生としての生活や学修の心構えを考える。お互いを知るための自己紹介や入門ゼミナールの目的、授業の進め方についてのオリエンテーションを行う。

第2回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(大学や学部の教育目標について等)

第3回 合同授業

大学生生活に必要な知識を学ぶ。(安全で快適なキャンパスライフについて等)

第4回 合同授業

大学生生活に必要な知識を学ぶ。(健康について等)

第5回 合同授業

大学生生活に必要な知識を学ぶ。(アセスメントについて等)

第6回 合同授業

大学生生活に必要な知識を学ぶ。(図書館について等)

第7回 教員レクチャー 1

教員レクチャー 1 学生相談室訪問 & プレゼン準備。

第8回 教員レクチャー 2

教員レクチャー 2 学生相談室訪問 & プレゼン準備

第9回 教員レクチャー 3

教員レクチャー 3 学生相談室訪問 & プレゼン準備

第10回 教員レクチャー 4

教員レクチャー 4 学生相談室訪問 & プレゼン準備

第11回 教員レクチャー 5

教員レクチャー 5 学生相談室訪問 & プレゼン準備

第12回 教員レクチャー 6

教員レクチャー 6 学生相談室訪問 & プレゼン準備

第13回 教員レクチャー 7

教員レクチャー 7 学生相談室訪問 & プレゼン準備

第14回 教員レクチャー 8

教員レクチャー 8 学生相談室訪問

第15回 発表会

振返り & Feedback 各ゼミの優秀プレゼンを視聴

2022年度 前期

2.0単位

入門ゼミナール

深田 将揮

< 授業の方法 >

講義、演習

詳細はGCSquareの「入門ゼミナール」ページで確認のこと。

< 授業の目的 >

この授業科目は以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる

このゼミナールは学部基礎科目に属し、神戸学院大学の教育目標や歴史を共有するとともに、新入生が大学での生活や学修に必要な事項を理解し、充実したキャンパスライフを送るための入門科目として位置づけられる。3コースの学生を混在させた少人数クラスにより、他者と

協調、協働できるコミュニケーション力を修得することを目的とする。多様な言語文化背景をもつゼミ生とのコミュニケーションを通じて知見を広げ、それぞれが主体的に関心のあるテーマを見つけ、英語、中国語、日本語のいずれかの言語を用い基礎的なプレゼンテーションを行うことができる能力の修得をめざす。

授業時間外に必要な学修時間の目安は週1時間である。

<到達目標>

1. 神戸学院大学の建学の精神や教育理念、大学と学部の教育目標を理解し、説明ができる。
2. 学校法人神戸学院と神戸学院大学の歴史について説明することができる。
3. 大学生としての生活と学修をスタートさせるにあたってのマナーやルールを学び、自らの将来像について考え、ライフプランやキャリアプランを描く初歩的な方法を学ぶことができる。
4. ノートのとり方、図書館の利用方法、情報の収集方法やディスカッション、プレゼンテーション等、大学生にとって必要な学習技法を修得することができる。
5. 3コースのゼミ生と協力し、お互いを尊重しながら文化や言語の枠を超えて対人関係を構築し、協働作業をしていくうえで必要となるコミュニケーション力を身につけることができる。
6. テーマを決め、関連の素材を収集し、これらをまとめ、人前で英語、中国語、日本語のいずれかの言語を使って基礎的なプレゼンテーションができたり、レポートを書くことができる。

<授業のキーワード>

大学生生活入門、アカデミックスキル、異文化コミュニケーション、プレゼンテーション

<授業の進め方>

少人数ゼミナール形式で、活発な意見交換、教員の積極的なフィードバックの下で進めます。

ゼミナールの前半は大学の教育理念や歴史、健康講演や学習スキルの修得に関わる講義が中心となり、後半は体験型の実践的な授業が主となります。

最終的な達成目標として、スライドやポスターを用いたプレゼンテーション実施やアカデミックレポートの作成などを行います。

<履修するにあたって>

大学における学修は高校までとは異なり、自ら問題意識を持ち、学習の目的を考え、図書館を利用して必要な資料を収集すること、学習の成果をまとめて報告することなど、積極的、能動的な姿勢で取り組むことが求められます。課題や活動については、事前にしっかり準備をして臨むことが必要です。

このゼミナールでは新しい仲間や教員、学生間の交流を図り、大学生生活の楽しさ、可能性を知り、これからのグローバル・コミュニケーション学部での学びを有意義なものにするとともに、円滑に進めていく基礎づくりをし

ます。

<授業時間外に必要な学修>

目安となる時間として無理のない範囲で、1時間程度予習・復習をすること。

<提出課題など>

各授業の振返り、プレゼンテーションの成果物をGCSquareから提出する。提出された成果物については、プレゼンテーションの評価と併せて担当教員が総評を行う。主題ごとの課題については担当教員がそのつど説明し、解説、講評を行う。

<成績評価方法・基準>

- 1) 授業への発言、準備、発表等の参加度 (30%=2% × 15回)
- 2) 最終成果としてのプレゼンテーション (40%)
- 3) スライド、発表資料、レポート、振返りなどの提出課題 (30%)

<テキスト>

特に指定なし。それぞれの補助教材については担当教員が指示する。

<参考図書>

野口ジュディー・照井雅子・藤田清士著『Judy先生の成功する理系英語プレゼンテーション』KS語学専門書 2014

佐藤望 湯川武 横山千晶 近藤明彦著『アカデミック・スキルズ- 大学生のための知的技法入門』(第2版) 慶應大学出版会 2012年

大島弥生 大場理恵子 岩田夏穂 池田玲子著『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション- プレゼンテーションとライティング』ひつじ書房 2012年

<授業計画>

第1回 イントロダクション? 神戸学院大学へようこそ?

DVDや資料を用いて大学の建学の精神や歴史について学ぶ。大学生としての生活や学修の心構えを考える。お互いを知るための自己紹介や入門ゼミナールの目的、授業の進め方についてのオリエンテーションを行う。

第2回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(大学や学部の教育目標について等)

第3回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(安全で快適なキャンパスライフについて等)

第4回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(健康について等)

第5回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(アセスメントについて等)

第6回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(図書館について等)

第7回 教員レクチャー1

教員レクチャー 1 (クリーグ先生) 学生相談室訪問 & プレゼン準備。

第8回 教員レクチャー 2

教員レクチャー 2 (表谷先生) 学生相談室訪問 & プレゼン準備

第9回 教員レクチャー 3

教員レクチャー 3 (仁科先生) 学生相談室訪問 & プレゼン準備

第10回 教員レクチャー 4

教員レクチャー 4 (中嶋先生) 学生相談室訪問 & プレゼン準備

第11回 教員レクチャー 5

教員レクチャー 5 (荒島先生) 学生相談室訪問 & プレゼン準備

第12回 教員レクチャー 6

教員レクチャー 6 (深田先生) 学生相談室訪問 & プレゼン準備

第13回 教員レクチャー 7

教員レクチャー 7 (中西先生) 学生相談室訪問 & プレゼン準備

第14回 教員レクチャー 8

教員レクチャー 8 (シャーロー先生) 学生相談室訪問

第15回 発表会

振り返り & Feedback 各ゼミの優秀プレゼンを視聴

2022年度 前期

2.0単位

入門ゼミナール

Krieg, Alexander William

< 授業の方法 >

講義、演習、実技

< 授業の目的 >

この授業科目は以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる

このゼミナールは学部基礎科目に属し、神戸学院大学の教育目標や歴史を共有するとともに、新入生が大学生活や学修に必要な事項を理解し、充実したキャンパスライフを送るための入門科目として位置づけられる。3コースの学生を混在させた少人数クラスにより、他者と協調、協働できるコミュニケーション力を修得することを目的とする。多様な言語文化背景をもつゼミ生とのコミュニケーションを通じて知見を広げ、それぞれが主体的に関心のあるテーマを見つけ、英語、中国語、日本語のいずれかの言語を用い基礎的なプレゼンテーションを行うことができる能力の修得をめざす。

授業時間外に必要な学修時間の目安は週1時間である。

< 到達目標 >

1. 神戸学院大学の建学の精神や教育理念、大学と学部の教育目標を理解し、説明ができる。

2. 学校法人神戸学院と神戸学院大学の歴史について説明することができる。

3. 大学生としての生活と学修をスタートさせるにあたってのマナーやルールを学び、自らの将来像について考え、ライフプランやキャリアプランを描く初歩的な方法を学ぶことができる。

4. ノートのとり方、図書館の利用方法、情報の収集方法やディスカッション、プレゼンテーション等、大学生にとって必要な学習技法を修得することができる。

5. 3コースのゼミ生と協力し、お互いを尊重しながら文化や言語の枠を超えて対人関係を構築し、協働作業をしていくうえで必要となるコミュニケーション力を身につけることができる。

6. テーマを決め、関連の素材を収集し、これらをまとめ、人前で英語、中国語、日本語のいずれかの言語を使って基礎的なプレゼンテーションができたり、レポートを書くことができる。

< 授業のキーワード >

大学生活入門、アカデミックスキル、異文化コミュニケーション、プレゼンテーション

< 授業の進め方 >

3コースの学生を混在させた少人数ゼミナール形式で、活発な意見交換、教員の積極的なフィードバックの下で進めます。

ゼミナールの前半は大学の教育理念や歴史、健康講演や学習スキルの修得に関わる講義が中心となり、後半は体験型の実践的な授業が主となります。

最終的な達成目標として、スライドやポスターを用いたプレゼンテーション実施やアカデミックレポートの作成などを行います。

< 履修するにあたって >

大学における学修は高校までとは異なり、自ら問題意識を持ち、学習の目的を考え、図書館を利用して必要な資料を収集すること、学習の成果をまとめて報告することなど、積極的、能動的な姿勢で取り組むことが求められます。課題や活動については、事前にしっかり準備をして臨むことが必要です。

このゼミナールでは新しい仲間や教員、学生間の交流を図り、大学生活の楽しさ、可能性を知り、これからのグローバル・コミュニケーション学部での学びを有意義なものにするとともに、円滑に進めていく基礎づくりをします。

< 授業時間外に必要な学修 >

目安となる時間として無理のない範囲で、1時間程度予習・復習をすること。

< 提出課題など >

プレゼンテーションの成果物(スライド、資料、ポスター、レポートなど)を提出する。提出された成果物については、プレゼンテーションの評価と併せて担当教員が総評を行う。

主題ごとの課題については担当教員がそのつど説明し、解説、講評を行う。

<成績評価方法・基準>

1) 授業への発言、準備、発表等の参加度(30%=2%×15回)

2) 最終成果としてのプレゼンテーション(40%)

3) スライド、発表資料、ポスター、レポートなどの成果物(30%)

<テキスト>

特に指定なし。それぞれの補助教材については担当教員が指示する。

<授業計画>

第1回 イントロダクション? 神戸学院大学へようこそ?

DVDや資料を用いて大学の建学の精神や歴史について学ぶ。大学生としての生活や学修の心構えを考える。お互いを知るための自己紹介や入門ゼミナールの目的、授業の進め方についてのオリエンテーションを行う。

第2回 大学生生活入門? 学長講演会?(全クラス合同:D301)

神戸学院大学およびグローバル・コミュニケーション学部の教育目標に対する理解を深め、学びの基礎づくりをする。

第3回 学外アセスメント(全クラス合同:D301)

学部で学外アセスメントを実施する。

第4回 健康講演会(全クラス合同:D301)

講演の内容をもとに、薬物の乱用、飲酒、喫煙が自分自身や周囲の人々の心と身体に及ぼす影響について考える。

第5回 ハラスメント講演会(全クラス合同:D301)

学生一人ひとりが心理的、身体的に安全かつ快適な環境で学修に専念し、充実したキャンパス・ライフを送るための講演会を開催する。

第6回 アカデミックスキル1? 学習技法?

ノートの取り方、文献の探し方や本の読み方、テキストの要約、レポートの書き方、レジユメの作成方法など大学での学修に必要な基本的スキルを身につける。

第7回 ライブラリー・ツアー

大学での学修において重要となる図書館を見学し、図書館の利用方法、情報検索の仕方などの説明を受け、体験学習をする。

第8回 アカデミックスキル2? ディスカッションについて?

グループディスカッションやディベートの方法などディ

スカッションの基本を身につけ、指定されたトピックについて討論を行う。

第9回 アカデミックスキル3? プレゼンテーションについて?

明確な論理の組み立てやアイデアにより、メッセージを聞き手に効果的に伝えるスピーチの仕方などを学ぶ。実例を通してスライドやポスターを用いたプレゼンテーションとは何かを理解し、具体的なイメージをもつ。

第10回 アカデミックスキル4? PowerPointの作成方法について?

PowerPointなどを用いてプレゼンテーション資料の作成方法を学ぶ。スライドやポスターのデザイン、配置、フォントの選択などの実習を行う。

第11回 プレゼンテーション1

自分の関心に沿ってテーマを選定し、これまでに学んできた学習技法を応用し、プレゼンテーションの準備をする。

第12回 プレゼンテーション2

関心のテーマに沿って素材を集め、グループワーク、ディスカッションを通じて情報を整理し、どの言語を使うかグループで相談する。

第13回 プレゼンテーション3

プレゼンテーションで用いるスライドやポスターなどを作成し、打ち合わせを行う。

第14回 プレゼンテーション4

プレゼンテーションのリハーサルや最終チェックをし、これまでのゼミナールでの学びについてふりかえりを行う。

第15回 発表会

個人、ペア、あるいはグループごとにプレゼンテーションを実施し、報告会を行う。発表者以外は評価、コメントをする。

2022年度 前期

2.0単位

入門ゼミナール

仁科 恭徳

<授業の方法>

講義、演習

<授業の目的>

この授業科目は以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる

このゼミナールは学部基礎科目に属し、神戸学院大学の教育目標や歴史を共有するとともに、新入生が大学での生活や学修に必要な事項を理解し、充実したキャンパスライフを送るための入門科目として位置づけられる。3

コースの学生を混在させた少人数クラスにより、他者と協調、協働できるコミュニケーション力を修得することを目的とする。多様な言語文化背景をもつゼミ生とのコミュニケーションを通じて知見を広げ、それぞれが主体的に関心のあるテーマを見つけ、英語、中国語、日本語のいずれかの言語を用い基礎的なプレゼンテーションを行うことができる能力の修得をめざす。

授業時間外に必要な学修時間の目安は週1時間である。

<到達目標>

1. 神戸学院大学の建学の精神や教育理念、大学と学部の教育目標を理解し、説明ができる。
2. 学校法人神戸学院と神戸学院大学の歴史について説明することができる。
3. 大学生としての生活と学修をスタートさせるにあたってのマナーやルールを学び、自らの将来像について考え、ライフプランやキャリアプランを描く初歩的な方法を学ぶことができる。
4. ノートのとり方、図書館の利用方法、情報の収集方法やディスカッション、プレゼンテーション等、大学生にとって必要な学習技法を修得することができる。
5. 3コースのゼミ生と協力し、お互いを尊重しながら文化や言語の枠を超えて対人関係を構築し、協働作業をしていくうえで必要となるコミュニケーション力を身につけることができる。
6. テーマを決め、関連の素材を収集し、これらをまとめ、人前で英語、中国語、日本語のいずれかの言語を使って基礎的なプレゼンテーションができたり、レポートを書くことができる。

<授業のキーワード>

大学生活入門、アカデミックスキル、異文化コミュニケーション、プレゼンテーション

<授業の進め方>

少人数ゼミナール形式で、活発な意見交換、教員の積極的なフィードバックの下で進めます。

ゼミナールの前半は大学の教育理念や歴史、健康講演や学習スキルの修得に関わる講義が中心となり、後半は体験型の実践的な授業が主となります。

最終的な達成目標として、スライドやポスターを用いたプレゼンテーション実施やアカデミックレポートの作成などを行います。

<履修するにあたって>

大学における学修は高校までとは異なり、自ら問題意識を持ち、学習の目的を考え、図書館を利用して必要な資料を収集すること、学習の成果をまとめて報告することなど、積極的、能動的な姿勢で取り組むことが求められます。課題や活動については、事前にしっかり準備をして臨むことが必要です。

このゼミナールでは新しい仲間や教員、学生間の交流を図り、大学生活の楽しさ、可能性を知り、これからのグローバル・コミュニケーション学部での学びを有意義な

ものにするとともに、円滑に進めていく基礎づくりをします。

<授業時間外に必要な学修>

目安となる時間として無理のない範囲で、1時間程度予習・復習をすること。

<提出課題など>

プレゼンテーションの成果物(スライド、資料、ポスター、レポートなど)を提出する。提出された成果物については、プレゼンテーションの評価と併せて担当教員が総評を行う。

主題ごとの課題については担当教員がそのつど説明し、解説、講評を行う。

<成績評価方法・基準>

- 1) 授業への発言、準備、発表等の参加度(30%=2%×15回)
- 2) 最終成果としてのプレゼンテーション(40%)
- 3) スライド、発表資料、ポスター、レポートなどの成果物(30%)

<テキスト>

特に指定なし。それぞれの補助教材については担当教員が指示する。

<参考図書>

野口ジュディー・照井雅子・藤田清士著『Judy先生の成功する理系英語プレゼンテーション』KS語学専門書 2014

佐藤望 湯川武 横山千晶 近藤明彦著『アカデミック・スキルズ-大学生のための知的技法入門』(第2版)慶應大学出版会 2012年

大島弥生 大場理恵子 岩田夏穂 池田玲子著『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション-プレゼンテーションとライティング』ひつじ書房 2012年

<授業計画>

第1回 イントロダクション? 神戸学院大学へようこそ?

DVDや資料を用いて大学の建学の精神や歴史について学ぶ。大学生としての生活や学修の心構えを考える。お互いを知るための自己紹介や入門ゼミナールの目的、授業の進め方についてのオリエンテーションを行う。

第2回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(大学や学部の教育目標について等)

第3回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(安全で快適なキャンパスライフについて等)

第4回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(健康について等)

第5回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(アセスメントについて等)

第6回 合同授業

大学生生活に必要な知識を学ぶ。(図書館について等)

第7回 アカデミックスキル1? 学習技法?

ノートの取り方、文献の探し方や本の読み方、テキストの要約、レポートの書き方、レジュメの作成方法など大学での学修に必要な基本的スキルを身につける。

第8回 アカデミックスキル2? ディスカッションについて?

グループディスカッションやディベートの方法などディスカッションの基本を身につけ、指定されたトピックについて討論を行う。

第9回 アカデミックスキル3? プレゼンテーションについて?

明確な論理の組み立てやアイデアにより、メッセージを聞き手に効果的に伝えるスピーチの仕方などを学ぶ。実例を通してスライドやポスターを用いたプレゼンテーションとは何かを理解し、具体的なイメージをもつ。

第10回 アカデミックスキル4? PowerPointの作成方法について?

PowerPointなどを用いてプレゼンテーション資料の作成方法を学ぶ。スライドやポスターのデザイン、配置、フォントの選択などの実習を行う。

第11回 プレゼンテーション1

自分の関心に沿ってテーマを選定し、これまでに学んできた学習技法を応用し、プレゼンテーションの準備をする。

第12回 プレゼンテーション2

関心のテーマに沿って素材を集め、グループワーク、ディスカッションを通じて情報を整理し、どの言語を使うかグループで相談する。

第13回 プレゼンテーション3

プレゼンテーションで用いるスライドやポスターなどを作成し、打ち合わせを行う。

第14回 プレゼンテーション4

プレゼンテーションのリハーサルや最終チェックをし、これまでのゼミナールでの学びについてふりかえりを行う。

第15回 発表会

個人、ペア、あるいはグループごとにプレゼンテーションを実施し、報告会を行う。発表者以外は評価、コメントをする。

2022年度 前期

2.0単位

入門ゼミナール

大濱 慶子

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業科目は以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる

このゼミナールは学部基礎科目に属し、神戸学院大学の教育目標や歴史を共有するとともに、新入生が大学での生活や学修に必要な事項を理解し、充実したキャンパスライフを送るための入門科目として位置づけられる。3コースの学生を混在させた少人数クラスにより、他者と協調、協働できるコミュニケーション力を修得することを目的とする。多様な言語文化背景をもつゼミ生とのコミュニケーションを通じて知見を広げ、それぞれが主体的に関心のあるテーマを見つけ、英語、中国語、日本語のいずれかの言語を用いた基礎的なプレゼンテーションを行うことができる能力の修得をめざす。

授業時間外に必要な学修時間の目安は週1時間である。

< 到達目標 >

1. 神戸学院大学の建学の精神や教育理念、大学と学部の教育目標を理解し、説明ができる。

2. 学校法人神戸学院と神戸学院大学の歴史について説明することができる。

3. 大学生としての生活と学修をスタートさせるにあたってのマナーやルールを学び、自らの将来像について考え、ライフプランやキャリアプランを描く初歩的な方法を学ぶことができる。

4. ノートのとり方、図書館の利用方法、情報の収集方法やディスカッション、プレゼンテーション等、大学生にとって必要な学習技法を修得することができる。

5. 3コースのゼミ生と協力し、お互いを尊重しながら文化や言語の枠を超えて対人関係を構築し、協働作業をしていくうえで必要となるコミュニケーション力を身につけることができる。

6. テーマを決め、関連の素材を収集し、これらをまとめ、人前で英語、中国語、日本語のいずれかの言語を使って基礎的なプレゼンテーションができたり、レポートを書くことができる。

< 授業のキーワード >

大学生活入門、アカデミックスキル、異文化コミュニケーション、プレゼンテーション

< 授業の進め方 >

少人数ゼミナール形式で、活発な意見交換、教員の積極的なフィードバックの下で進めます。

ゼミナールの前半は大学の教育理念や歴史、健康講演や学習スキルの修得に関わる講義が中心となり、後半は体験型の実践的な授業が主となります。

最終的な達成目標として、スライドやポスターを用いたプレゼンテーション実施やアカデミックレポートの作成などを行います。

< 履修するにあたって >

大学における学修は高校までとは異なり、自ら問題意識

を持ち、学習の目的を考え、図書館を利用して必要な資料を収集すること、学習の成果をまとめて報告することなど、積極的、能動的な姿勢で取り組むことが求められます。課題や活動については、事前にしっかり準備をして臨むことが必要です。

このゼミナールでは新しい仲間や教員、学生間の交流を図り、大学生活の楽しさ、可能性を知り、これからのグローバル・コミュニケーション学部での学びを有意義なものにするとともに、円滑に進めていく基礎づくりをします。

< 授業時間外に必要な学修 >

目安となる時間として無理のない範囲で、1時間程度予習・復習をすること。

< 提出課題など >

プレゼンテーションの成果物(スライド、資料、ポスター、レポートなど)を提出する。提出された成果物については、プレゼンテーションの評価と併せて担当教員が総評を行う。

主題ごとの課題については担当教員がそのつど説明し、解説、講評を行う。

< 成績評価方法・基準 >

1) 授業への発言、準備、発表等の参加度 (30%=2% × 15回)

2) 最終成果としてのプレゼンテーション (40%)

3) スライド、発表資料、ポスター、レポートなどの成果物 (30%)

< テキスト >

特に指定なし。それぞれの補助教材については担当教員が指示する。

< 参考図書 >

野口ジュディー・照井雅子・藤田清士著『Judy先生の成功する理系英語プレゼンテーション』KS語学専門書 2014

佐藤望 湯川武 横山千晶 近藤明彦著『アカデミック・スキルズ- 大学生のための知的技法入門』(第2版) 慶應大学出版会 2012年

大島弥生 大場理恵子 岩田夏穂 池田玲子著『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション- プレゼンテーションとライティング』ひつじ書房 2012年

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション? 神戸学院大学へようこそ?

DVDや資料を用いて大学の建学の精神や歴史について学ぶ。大学生としての生活や学修の心構えを考える。お互いを知るための自己紹介や入門ゼミナールの目的、授業の進め方についてのオリエンテーションを行う。

第2回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(大学や学部の教育目標について等)

第3回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(安全で快適なキャンパスライフについて等)

第4回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(健康について等)

第5回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(アセスメントについて等)

第6回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(図書館について等)

第7回 アカデミックスキル1? 学習技法?

ノートの取り方、文献の探し方や本の読み方、テキストの要約、レポートの書き方、レジュメの作成方法など大学での学修に必要な基本的スキルを身につける。

第8回 アカデミックスキル2? ディスカッションについて?

グループディスカッションやディベートの方法などディスカッションの基本を身につけ、指定されたトピックについて討論を行う。

第9回 アカデミックスキル3? プレゼンテーションについて?

明確な論理の組み立てやアイデアにより、メッセージを聞き手に効果的に伝えるスピーチの仕方などを学ぶ。実例を通してスライドやポスターを用いたプレゼンテーションとは何かを理解し、具体的なイメージをもつ。

第10回 アカデミックスキル4? PowerPointの作成方法について?

PowerPointなどを用いてプレゼンテーション資料の作成方法を学ぶ。スライドやポスターのデザイン、配置、フォントの選択などの実習を行う。

第11回 プレゼンテーション1

自分の関心に沿ってテーマを選定し、これまでに学んできた学習技法を応用し、プレゼンテーションの準備をする。

第12回 プレゼンテーション2

関心のテーマに沿って素材を集め、グループワーク、ディスカッションを通じて情報を整理し、どの言語を使うかグループで相談する。

第13回 プレゼンテーション3

プレゼンテーションで用いるスライドやポスターなどを作成し、打ち合わせを行う。

第14回 プレゼンテーション4

プレゼンテーションのリハーサルや最終チェックをし、これまでのゼミナールでの学びについてふりかえりを行う。

第15回 発表会

個人、ペア、あるいはグループごとにプレゼンテーションを実施し、報告会を行う。発表者以外は評価、コメントをする。

2022年度 前期

2.0単位

入門ゼミナール

眞島 淳

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この授業科目は以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

2. 他者と協調、協働できるコミュニケーション力を持つことができる

このゼミナールは学部基礎科目に属し、神戸学院大学の教育目標や歴史を共有するとともに、新入生が大学生活や学修に必要な事項を理解し、充実したキャンパスライフを送るための入門科目として位置づけられる。3コースの学生を混在させた少人数クラスにより、他者と協調、協働できるコミュニケーション力を修得することを目的とする。多様な言語文化背景をもつゼミ生とのコミュニケーションを通じて知見を広げ、それぞれが主体的に関心のあるテーマを見つけ、英語、中国語、日本語のいずれかの言語を用い基礎的なプレゼンテーションを行うことができる能力の修得をめざす。

授業時間外に必要な学修時間の目安は週1時間である。

< 到達目標 >

1. 神戸学院大学の建学の精神や教育理念、大学と学部の教育目標を理解し、説明ができる。

2. 学校法人神戸学院と神戸学院大学の歴史について説明することができる。

3. 大学生としての生活と学修をスタートさせるにあたってのマナーやルールを学び、自らの将来像について考え、ライフプランやキャリアプランを描く初歩的な方法を学ぶことができる。

4. ノートのとり方、図書館の利用方法、情報の収集方法やディスカッション、プレゼンテーション等、大学生にとって必要な学習技法を修得することができる。

5. 3コースのゼミ生と協力し、お互いを尊重しながら文化や言語の枠を超えて対人関係を構築し、協働作業をしていくうえで必要となるコミュニケーション力を身につけることができる。

6. テーマを決め、関連の素材を収集し、これらをまとめ、人前で英語、中国語、日本語のいずれかの言語を使って基礎的なプレゼンテーションができたり、レポートを書くことができる。

< 授業のキーワード >

大学生生活入門、アカデミックスキル、異文化コミュニケーション、プレゼンテーション

< 授業の進め方 >

少人数ゼミナール形式で、活発な意見交換、教員の積極

的なフィードバックの下で進めます。

ゼミナールの前半は大学の教育理念や歴史、健康講演や学習スキルの修得に関わる講義が中心となり、後半は体験型の実践的な授業が主となります。

最終的な達成目標として、スライドやポスターを用いたプレゼンテーション実施やアカデミックレポートの作成などを行います。

< 履修するにあたって >

大学における学修は高校までとは異なり、自ら問題意識を持ち、学習の目的を考え、図書館を利用して必要な資料を収集すること、学習の成果をまとめて報告することなど、積極的、能動的な姿勢で取り組むことが求められます。課題や活動については、事前にしっかり準備をして臨むことが必要です。

このゼミナールでは新しい仲間や教員、学生間の交流を図り、大学生活の楽しさ、可能性を知り、これからのグローバル・コミュニケーション学部での学びを有意義なものにするとともに、円滑に進めていく基礎づくりをします。

< 授業時間外に必要な学修 >

目安となる時間として無理のない範囲で、1時間程度予習・復習をすること。

< 提出課題など >

プレゼンテーションの成果物(スライド、資料、ポスター、レポートなど)を提出する。提出された成果物については、プレゼンテーションの評価と併せて担当教員が総評を行う。

主題ごとの課題については担当教員がそのつど説明し、解説、講評を行う。

< 成績評価方法・基準 >

1) 授業への発言、準備、発表等の参加度(30%=2%×15回)

2) 最終成果としてのプレゼンテーション(40%)

3) スライド、発表資料、ポスター、レポートなどの成果物(30%)

< テキスト >

特に指定なし。それぞれの補助教材については担当教員が指示する。

< 参考図書 >

野口ジュディー・照井雅子・藤田清士著『Judy先生の成功する理系英語プレゼンテーション』KS語学専門書 2014

佐藤望 湯川武 横山千晶 近藤明彦著『アカデミック・スキルズ- 大学生のための知的技法入門』(第2版) 慶應大学出版会 2012年

大島弥生 大場理恵子 岩田夏穂 池田玲子著『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション-プレゼンテーションとライティング』ひつじ書房 2012年

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション? 神戸学院大学へようこそ

?

DVDや資料を用いて大学の建学の精神や歴史について学ぶ。大学生としての生活や学修の心構えを考える。お互いを知るための自己紹介や入門ゼミナールの目的、授業の進め方についてのオリエンテーションを行う。

第2回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(大学や学部の教育目標について等)

第3回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(安全で快適なキャンパスライフについて等)

第4回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(健康について等)

第5回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(アセスメントについて等)

第6回 合同授業

大学生活に必要な知識を学ぶ。(図書館について等)

第7回 アカデミックスキル1? 学習技法?

ノートの取り方、文献の探し方や本の読み方、テキストの要約、レポートの書き方、レジュメの作成方法など大学での学修に必要な基本的スキルを身につける。

第8回 アカデミックスキル2? ディスカッションについて?

グループディスカッションやディベートの方法などディスカッションの基本を身につけ、指定されたトピックについて討論を行う。

第9回 アカデミックスキル3? プレゼンテーションについて?

明確な論理の組み立てやアイデアにより、メッセージを聞き手に効果的に伝えるスピーチの仕方などを学ぶ。実例を通してスライドやポスターを用いたプレゼンテーションとは何かを理解し、具体的なイメージをもつ。

第10回 アカデミックスキル4? PowerPointの作成方法について?

PowerPointなどを用いてプレゼンテーション資料の作成方法を学ぶ。スライドやポスターのデザイン、配置、フォントの選択などの実習を行う。

第11回 プレゼンテーション1

自分の関心に沿ってテーマを選定し、これまでに学んできた学習技法を応用し、プレゼンテーションの準備をする。

第12回 プレゼンテーション2

関心のテーマに沿って素材を集め、グループワーク、ディスカッションを通じて情報を整理し、どの言語を使うかグループで相談する。

第13回 プレゼンテーション3

プレゼンテーションで用いるスライドやポスターなどを作成し、打ち合わせを行う。

第14回 プレゼンテーション4

プレゼンテーションのリハーサルや最終チェックをし、これまでのゼミナールでの学びについてふりかえりを行う。

第15回 発表会

個人、ペア、あるいはグループごとにプレゼンテーションを実施し、報告会を行う。発表者以外は評価、コメントをする。

2022年度 後期

2.0単位

発音クリニック

中西 のりこ

< 授業の方法 >

資料配布の場所は： {GCsquare, <http://gcsquare.kobegakuin.ac.jp/>}

< 授業の目的 >

英語音声学の基礎を身につけると同時に、英語らしい発音を習得することを目的とする。この科目はディプロマポリシーの「1.実践的で高度な外国語の運用ができる」、「3.言語の基礎にある多様な社会、文化、歴史、政治、経済などについて幅広い知識や教養を身に付けることができる」、「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」と関連している。

< 到達目標 >

受講生は英語音声学の基本的概念を説明できるようになる。

受講生は英語らしい発音で発話をするようになる。

< 授業のキーワード >

英語音声学・英語発音・コミュニケーション

< 授業の進め方 >

すべての授業回において、授業内と授業外の提出課題があります。

第14, 15回目の最終発表は、第1回～第10回の授業で提出した自分自身の課題の内容が元になります。やむを得ず欠席した授業回の課題については各自の責任で挽回してください。

< 履修するにあたって >

非常に多くの課題が課されます。

初回授業時で全体の授業方針についての説明をしますの
で必ず出席してください。

配布資料や提出課題についての指示はすべてGCsquare上で行います。

各自のPCで以下のサイトにアクセスすることが必須です。

* {GCsquare, <http://gcsquare.kobegakuin.ac.jp/>}

* {Phoneme Counter, <https://noriko-nakanishi.com/phoneme/>}

* {Speech Saver, <https://noriko-nakanishi.com/speech/>}

* {Praat, <https://www.fon.hum.uva.nl/praat/>}

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外に必要な学修時間の目安は週1時間です。

< 提出課題など >

授業内外での提出課題はすべてGCsquare上の指示に従うこと。(メール添付での提出は受理しません。)

提出課題に対するフィードバックはすべてGCsquare上で行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業内での活動 30%、提出課題 40%、最終発表 20%、Verisantテスト 10%

< テキスト >

中西のりこ. (2022). 『カタカナ語からはじめる英語の発音』 ひつじ書房.

ISBN: 978-4894769915

< 参考図書 >

北原真冬, 田嶋圭一 他 (2017). 『音声学を学ぶ人のためのPraat入門』 ひつじ書房.

ISBN: 978-4894768710

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

科目の概要・課題提出の方法について理解する。自分自身の英語発音の状態を把握する。

第2回 p. 13-37

辞書の発音表記

IPA と 英和辞書・英英辞書で用いられている発音記号の違いを理解する。

第3回 p. 38-40, 49-65

母音

母音の発音記号と母音四角形上の位置関係を理解し、Phoneme Counterで発音練習をする。

第4回 p. 41-43, 66-75

二重母音

二重母音・R音性母音の発音記号と母音四角形上の位置関係を理解し、Phoneme Counterで発音練習をする。

第5回 p. 44-45, 76-89

阻害音

閉鎖音・摩擦音の発音記号と子音表での位置関係を理解し、Phoneme Counterで発音練習をする。

第6回 p. 44-45, 90-105

共鳴音

鼻音・側音・半母音の発音記号と子音表での位置関係を理解し、Phoneme Counterで発音練習をする。

第7回 p. 46-48, 102-105

子音クラスター

子音クラスターをなす音素配列について理解し、Phonem

e Counterで発音練習をする。

第8回 p. 106-112

連続音声

連結・脱落・同化がどのような環境で起こるのか理解し、Phoneme Counterで発音練習をする。

第9回 p. 113-118

語強勢・文強勢

語強勢の置き方・内容語/機能語の概念を理解し、Praatで自分の発音を確認する。

第10回 p. 119-124

イントネーション

ピッチとイントネーションに注意して発話し、Praatで自分の発音を確認する。

第11回 p. 125-135

発表準備 1

特定の音素もしくは分節音に注意して発話し、Phoneme Counter で自分の発音を分析する。

第12回 p. 136-145

発表準備 2

連続音声に注意して発話し、Phoneme Counter で自分の発音を分析する。

第13回 p. 146-155

発表準備 3

プロソディに注意して発話し、Praat で自分の発音を分析する。

第14回 発表 1

受講生の発表動画を観てフィードバック活動を行う。

第15回 発表 2

受講生の発表動画を観てフィードバック活動を行う。

2022年度 後期

2.0単位

翻訳の方法

大濱 慶子

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は学部のDPに掲げる、高度な外国語の運用力習得をめざす実践中国語の授業です。社会に出て中国語を活かして仕事をする上で、翻訳はどの分野、どの業界においても必要不可欠な技能といえます。この授業は将来翻訳者を志す人のみならず、受講生の将来の幅広いキャリアを想定し、翻訳の基礎的事柄について幅広く講義し、様々なジャンルの短文の翻訳に段階を追ってチャレンジすることで、受講生の興味を養い、スキルアップをめざします。

適宜、通訳の知識についても触れます。基礎知識に裏付

けられた翻訳の技術を身につけることは、将来専門能力、実務能力、即戦力の発揮にもつながることでしょう。

なお、この科目の担当者は、翻訳研究機関で十年以上にわたり日中翻訳業務に従事してきた実務経験のある教員である。現場での豊富な経験に基づき解説し、異文化をつなぐ翻訳者の役割や仕事のイメージをつかんでもらいます。

<到達目標>

1) 翻訳の基礎的な事柄(翻訳・通訳の歴史、文化、役割、倫理、翻訳の仕事、作業のプロセス、種類、翻訳と通訳の違い)について説明することができる。

2) メディア、産業、行政、映像、文学、コミュニティー翻訳の特徴や違いについて理解し、それぞれの特徴に応じて訳し分けることができる。

3) 様々な種類の辞書やデータベース、インタ-ネットなどのツールを活用して訳出することができる。

<授業のキーワード>

翻訳の基礎的事柄 将来のキャリア 日中翻訳のスキル

<授業の進め方>

情報処理実習室で授業を行い、中国語入力ソフトやインターネットを適宜使用します。

前半は講義や発表、討論が主となりますが、後半は実際にさまざまなジャンルの翻訳に挑戦する実践的なワークが主となります。

ロールモデルとなるような翻訳、通訳の実務家の方にお話しいただく機会も設けたいと思います。

<履修するにあたって>

将来の進路や、社会に出た際のキャリアと結びつけながら各授業の主題に関する学習に主体的に取り組み、さまざまな現場で役立つ実践的なスキルを磨いてください。

<授業時間外に必要な学修>

シラバスの授業計画の各回に翻訳課題と実践練習の課題を課す箇所を明示します。

この授業では翻訳のワークや提出物が課されます。1時間程度はしっかり準備して授業に臨んでください。

<提出課題など>

実践練習の課題を提出してもらいます。

提出課題は添削して返却し、講評を行います。

<成績評価方法・基準>

授業の取組状況(30点)、前半の課題、発表(20点)と後半の翻訳実践練習の提出(50点)によって評価します。

<テキスト>

授業時に配布します。

<参考図書>

鶴飼玖美子編著『よくわかる翻訳・通訳学』ミネルヴァ書店、2013年

辻由美『翻訳史のプロムナード』みすず書房、1993年

<授業計画>

第1回 ガイダンス 翻訳とは？

翻訳を学ぶにあたって

異文化コミュニケーション、日中翻訳の事情、翻訳と通訳(逐次、同時通訳)の違いなど基礎知識について概説する

第2回 翻訳・通訳の歴史

古代から現代までの世界や日本、中国の翻訳・通訳史を概観し、翻訳者や通訳者が果たした役割や意義について考える。

第3回 グローバリゼーションと翻訳

グローバリゼーションと多言語翻訳の発展状況について理解する。その際、国内の少数言語、国外の多様な言語にアクセスする中国のメディア、多言語翻訳事情を取り上げて分析する。日中検索エンジンの種類、使い方、翻訳のリサーチ方法を学ぶ。

第4回 翻訳の文化(1)

近代明治・大正期につくられた訳語、その和製漢語の中国への大量逆輸入、現代の翻訳テキスト・訳語、例えば村上春樹の小説、ハリー・ポッター、ディズニー映画の翻訳版など、翻訳が果たす役割について幅広く探究し、21世紀グローバル化社会に求められる翻訳像について皆で考える。

第5回 翻訳の文化(2)

受講者がこれまでに影響を受けた翻訳作品の一つを選び、翻訳の背景、翻訳者、訳語、影響力などについて幅広く探究し、21世紀多言語多文化共生社会に求められる翻訳像や諸問題について掘り下げて探究する。

第6回 仮想翻訳家になろう(1)

仮想翻訳者になり、日本の読者に紹介してみたいと思う外国語の作品の一つを選び、原作者、原書の背景の情報収集、既訳の有無などの下調べし、自身が使う翻訳のツール、翻訳の文体、特徴などを考えてみる。

第7回 仮想翻訳家になろう(2)

仮想翻訳者として選んだ作品、調べたこと、独自の翻訳の特徴についての考えを各自発表。

第8回 社会における翻訳・通訳の仕事

現役の翻訳実務家のお話を聞き、翻訳のキャリアや現場についての理解を深め、将来に生かす。

第9回 翻訳の役割、ジャンルとテクノロジー

翻訳・通訳の役割、倫理、心構え、翻訳・通訳を取り巻く環境、翻訳者・通訳者の養成、将来のキャリア、作業のプロセス、共同翻訳・編集の運営、組織化などについて理解する。

翻訳の種類(メディア、産業、行政、法務、特許、医学、映像、文学、観光)及び翻訳のテクノロジー(翻訳支援ツール、データベース、コーパス、機械翻訳)、情報ソースの有効的な検索、活用の仕方など学ぶ。

第10回 文学・演劇翻訳

文学翻訳(小説、戯曲、ファンタジー、ミステリー、児童文学)というジャンルや文学翻訳者の仕事について理解する。

実践練習：文学、演劇の中日翻訳

第11回 メディア翻訳

ジャーナリズムとニュース翻訳（ネットを含む）の実情、動向について解説する。

実践練習：ニュース原稿をもしくはコラムの中日翻訳

第12回 産業翻訳

ニーズの多い産業翻訳、翻訳会社の役割や業務について理解する。

実践練習：ビジネスライター、観光案内やパンフレットの中日翻訳

第13回 映像翻訳

映像翻訳、字幕制作、吹き替え、歌詞の翻訳、それにもなう翻訳の制約や工夫などについて学ぶ。

実践練習：映画、流行歌の中日翻訳。

第14回 行政翻訳

中政府の翻訳・通訳の事情や行政関連の日中翻訳、訳語の変遷などについて、解説する。

実践練習：行政用語やキーワードの中日翻訳

第15回 総括

授業の振り返りと総評を行う。「翻訳の方法」の説明を行う。

2022年度 前期

2.0単位

翻訳の方法

大濱 慶子

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は学部のDPに掲げる、高度な外国語の運用力習得をめざす実践中国語の科目です。社会に出て中国語を活かして仕事をする上で、翻訳はどの分野、どの業界においても必要不可欠な技能といえます。この授業では、「翻訳の方法」で学んだメディア、産業、文芸、映像、行政各翻訳の基礎知識を踏まえ、受講生の将来のキャリアを想定し、各業界や専門領域について必要となる翻訳スキルを磨き、翻訳作品の創作に取り組みます。

なお、この科目の担当者は、中国の翻訳研究機関で十年以上にわたり翻訳業務に従事してきた実務経験のある教員である。現場での豊富な経験に基づき、受講生それぞれの関心やレベルに合わせたトレーニングを行い、翻訳者のクリエイティブな仕事を体験してもらいます。

< 到達目標 >

1) 受講生の関心のある業界や専門領域に必要な翻訳の知識、作業のプロセス、翻訳の方法や特徴について理解することができる。

2) 受講生の関心のある業界のキーワードや専門用語を

収集し、基礎的な日中対訳もしくは多言語対訳を作成することができる。

3) 基礎的な対訳から訳語の特徴や業界の動向を分析することができる。

4) 様々な種類の辞書やデータベース、インタ-ネットなどのツールを使いこなして訳出することができる。

5) 受講生の関心のある業界の翻訳実践を通して一つの作品を制作することができる。

< 授業のキーワード >

各業界の翻訳の実践 将来のキャリア 日中対訳 多言語対訳 翻訳作品の制作

< 授業の進め方 >

1. テーマに沿って課題を出し、議論したり教員によるフィードバックを行います。

2. 前半は受講生の関心のある業界の翻訳事情について理解し、専門用語のキーワードの収集、対訳の作成が主となります。受講生が作成した各業界対訳を編集し、皆で情報を共有します。

3. 後半では、各分野の翻訳作品の制作という専門的、実践的なワークが主となります。

4. ロールモデルとなる実務家や専門家の紹介も行いたいと思います。

< 履修するにあたって >

将来の進路や、社会に出た際のキャリアと結びつけながら学習に主体的に取り組み、さまざまな現場で役立つ専門的、実践的なスキルを磨いてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の前に下調べをし、しっかり準備をして授業に臨んでください。

翻訳作品の取り組みについては、各自授業時間外で時間を取って（1時間以上）完成させることが必要です。

< 提出課題など >

各自作成、編集した対訳と翻訳作品を提出してもらいます。

課題はメールやdotCampusやOffice365のOneDriveを通して提出してもらいます。

< 成績評価方法・基準 >

1. 授業の取組状況（30点）

2. 日中対訳（20点）

3. 翻訳作品（50点）

を総合的に評価します。

< テキスト >

授業時に個別のテーマに沿った教材やプリントを配付します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス 実践翻訳とは？

各業界の翻訳実践とは？各自の領域の翻訳テーマ、題材の設定

第2回 業界の翻訳リサーチ

日本語と中国語の様々なデータベース、インターネットなどのツールを活用して業界や専門領域の研究を行う

第3回 業界用語の研究

関心のある業界や専門領域のキーワード、専門用語、フレーズを収集し、編集する

第4回 日中対訳作成

各業界のキーワードや専門用語、フレーズの日中対訳を作成し、翻訳の特徴や動向を分析する。

第5回、第6回 各業界の日中対訳報告

各自が作成した業界の対訳、翻訳の動向、特徴について分析し、考察を加え、報告する。受講生が作成した各業界対訳を編集し、一つにまとめ皆で訳語を共有する。

第7回 実務翻訳講座

翻訳者やクリエイターの講演を聞き、プロの経験に学び、将来のキャリアに生かす。

第8回～第10回 翻訳実践ワーク(1)(2)(3)

翻訳作品の編集、制作 例えば「関西の特産物紹介多言語動画作成」「神戸市観光案内の中国語版」、「〇〇中国映画の日本語パンフレットの作成」、「中国〇〇アニメ番組の日本語字幕」、「日本のアパレルメーカーの中国語版HPの作成」、「〇〇短編小説の日本語訳」等

第11回～第13回 翻訳制作、作品の発表

制作した翻訳作品の発表会

第14回、第15回 翻訳作品の総仕上げ

発表会におけるフィードバックを受け、作品の完成度を高め、提出